Syllabus

社会科学部
経営社会学科

2022 年度入学生

授業科目名	きびこく学 経社			担当者	藤井　伊津子、栗田　喜勝、中野　明子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SR-1-001		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１１．住み続けられるまちづくりを／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材の養成」を達成するための導入的教育として位置づけられる科目である。テーマとしては、順正学園及び大学が、立地する地元地域社会の中で発展を遂げてきた歴史、ならびに地域の歴史や文化、人々の生活等について理解を深めるとともに、地域社会の現状を理解し、地域創成に向けて取り組むべき課題について学ぶことがあげられる。 到達目標としては次の2点があげられる。 ①順正学園及び大学の歴史ならびに地域社会の歴史的特性や現状を理解し、地域創成のための取り組むべき課題を理解できる。 ②地域創成に向けて、学生としてどのような貢献ができるか考え、チャレンジする態度を涵養できる。
授業概要	順正学園及び大学が、立地する地域の中で発展を遂げてきた歩み(歴史)を概観するとともに、地元地域で様々な活動を展開されている方々を講師に招き、地域の歴史や文化、人々の生活ならびに地域社会の現状や課題等についてご講演いただき、地域の特性や課題について理解を深める。また、毎回の講義の中で、学生の立場で地域の課題解決や発展にどのような貢献ができるのか考え、生活の主体者として地域創生に向けて取り組む姿勢を涵養することができるよう、レポート課題に取り組む。
アクティブラーニングの内容	PBL／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	毎回授業時提出のレポート評価(70%)、第8回目に行う学修成果確認レポート作成の評価(30%)により、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業でレポート提出を課すし、内容を評価し返却する。
履修条件・注意事項	地域の様々な立場にある外部講師による有益な講義を多く導入しているので、受講態度に十分留意して毎回必ず出席すること。 受講内容に関するレポート課題には、単に感想を述べるのではなく、真摯に、積極的に取り組むこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：授業を担当する複数の講師は、いずれも学園や大学の創設に中心的役割を担い尽力した講師や、地域社会の中で様々な活動を展開している実務経験の豊富な講師である。
事前学習・事後学習とその時間	１）事前にユニパを通じて配布する資料に十分目を通すとともに、インターネット等を通じて授業内容に関する情報を収集するなど、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 ２）授業後には、学修内容を振り返り、不明な点や確認したいことなどを各自で調べるなど、毎回2時間以上の事後学修を行うこと。
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間を調整して随時対応する。

授業計画	担当者

第１回	オリエンテーション 地域創成と何かー吉備国際大学の学生として「きびこく学」を学ぶ意義と授業計画について	大西正泰(経営社会学科) (各学科担当教員)
第２回	順正学園及び吉備国際大学の歴史について	加計美也子 順正学園副総長
第３回	高梁市の歴史と文化及び政策課題と今後の方向性について	近藤隆則 高梁市長
第４回	高梁基督教会堂(岡山県指定史跡)をめぐる歴史と人物	高梁基督教会牧師　八木橋康広
第５回	日本遺産「備中吹屋」	吹屋ふるさと村村長　戸田誠
第６回	「未来につなぐ図書館」としての活動	高梁市図書館統括マネージャー　宮地 康志
第７回	宇治地域住民総働のまちづくり	宇治地域市民センター長 中曽 まゆみ
第８回	「山田方谷紹介用DVD視聴」によるレポート作成、ならびに全授業の学修成果振り返りレポート作成	各学科担当教員
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	毎回授業用資料をTeamsで配信する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	「備中高梁」に学ぶ	参・出版社名１	吉備人出版
参・著者名１	吉備国際大学「備中高梁学」研究会	参・ＩＳＢＮ１	9784860691967
参・書籍名２	留岡幸助と備中高梁	参・出版社名2	吉備人出版
参・著者名2	倉田 和四生	参・ＩＳＢＮ2	9784860690991

授業科目名	SDGs概論 経社			担当者	井勝　久喜、稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SR-1-002		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGsの必要性と意義の理解」をテーマとし、SDGsの概要について学びます。 到達目標は下記の通りです。 ・地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の背景が理解できる ・SDGsについて全体像を把握し、その概要を説明できる ・SDGsの各目標を自分事として捉えることができる ・SDGsの達成に向けて必要な取り組みを実行することができる
授業概要	2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的を学ぶと共に、SDGsの17の目標について概要を学ぶ。また、SDGs達成に向けて実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何ができるか、また何をしなければならないかを考え、実行しようとする能力を身につける。 　授業は全学科の学生が受講する合同授業と各学科の授業で構成されている。合同授業は、地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の経緯およびSDGsの概要について講義形式で教授する。各学科の授業ではグループに分かれてSDGs達成に向けた施策をまとめ、グループ毎に発表をおこない課題解決能力を養う。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	グループでの活動及び発表を評価する（50%）。最後に筆記試験を行いSDGsの理解度を評価する（50%）。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	振り返りレポートを評価して次回授業で返却する。
履修条件・注意事項	１）初回の授業には、必ず出席すること ２）学科別授業ではグループワークを行うことから、授業を欠席しないこと ３）合同授業日と各学科授業日があるので注意すること
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ユニバーサルパスポートで配付する資料を基に事前学習をすること。また、授業終了後は必ず復習を行うこと。予習及び復習は各2時間程度行うこと。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて、木曜日5限に実施

授業計画		担当者
第１回	SDGsとは何か－なぜ学ぶのか（オリエンテーションを含む	井勝久喜、稲元洋輔
第２回	2030アジェンダ採択までの経緯	井勝久喜、稲元洋輔

第３回	SDGsが目指している世界	井勝久喜、稲元洋輔
第４回	SDGsの17の目標	井勝久喜、稲元洋輔
第５回	グループ分けと検討課題の設定	稲元洋輔
第６回	グループ別発表1回目	稲元洋輔
第７回	グループ別発表2回目	稲元洋輔
第８回	試験	稲元洋輔
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	SDGsとは何か？	参・出版社名１	三和書籍
参・著者名１	安藤顯	参・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4-86251-398-4
参・書籍名２	SDGsワークブック	参・出版社名2	日経ＢＰ
参・著者名2	山崎　紅	参・ＩＳＢＮ2	978-4-296-07020-6

授業科目名	グローバルスタディーズ入門 保健医療福祉学部以外			担当者	吉備国際大学未定教員、畝　伊智朗		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SR-1-003		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ： Think Globally Act Locally.グローバルに物事を見る、グローバルに考える。実践はローカルに。 到達目標： ヒト、モノ、カネ、情報が自由に世界を飛び回る時代。グローバル化、国際化が進展する現代では、グローバルな視点で、日本を見直す必要がある。日本の事情・都合だけで、政治・外交、経済、企業経営などを行なうことはできない。そのため、グローバルな視点で事象を観察、評価、判断できる能力が求められる。社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、グローバルな視点を学び、世界の常識を学びながら、グローバル人材としての基本的思考を確立することを目指す。学生は、グローバルな視点で物事を判断できるようになる。
授業概要	将来、社会で活躍する学生は、国際関係、国際経済、難民問題、その他多くのグローバル事象を複眼的に検討し、日本の事情を理解した上で、自分の意見が言える必要がある。そして、それを踏まえつつ、地域社会で実践する。それがグローバル人材。そのため、社会科学の多くの視点、手法を学びつつ、それを通じて世界の常識を認識できるようになる。グローバル人材として当然知っておくべき基本的な内容を学べる授業である。 具体的なイッシューを題材として、講義を行なう。その際、経験的方法、量的論証、批判的思考方法の手法・視点を取り入れる。自己教育力を身につけてもらうため、問題解決型学習の実践も取り入れる。グループに課題を与え、実態を調査し解決策を検討する。その成果は、授業で発表を行なってもらう。 この科目が、他の教養科目の学修深化の一助となると共に、海外留学での学びや専門科目を履修する上での基礎を築くものとしたい。 なお、履修者の興味、関心などに基づき、ディスカッションのやり方、テーマなどは適宜調整する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業への参加度・コメント（40%）、グループ・プレゼンテーション（20%）、最終レポートの成績（40%）により、総合評価をおこなう。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	グループ・プレゼンテーションの結果は、各プレゼンテーションの後で、それぞれ講評を行う。最終レポートに関しては、コメントを付し、授業または事務室を経由して、返却する。
履修条件・注意事項	ワールドニュースを必ず観ること。チェックすること。世界で起こっていることに関して、興味関心を持つこと。

実務経験のある教員	該当する	内容	本講義の担当教員は、米国に通算2ヶ年留学し、国際協力機構JICAで長年勤務し、その間、コートジボアール日本大使館、JICAケニア事務所、フランスにある国際機関経済協力開発機構（OECD）に勤務した経験があるほか、多くの外国要人の接遇経験もある。 それらの実務経験で学んだ暗黙知（本、論文、ネット記事などになっていないもの）を、授業の節目節目で共有し、講義にリアリティを持たせる。
事前学習・事後学習とその時間	毎日、新聞を読む。ネットニュースなどをチェックする。参考図書などを読んで特定テーマに関し調べることなど、授業1回当たり、事前学習90分、復習90分の自己学修を必要とする。		
オフィスアワー	2号館附属図書館内で、毎週月曜日3限目、5限目をオフィス・アワーとします。		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　グローバル・スタディーズで学ぶこと	畝
第２回	国境とは何か？	畝
第３回	人はなぜ移動するのか？	畝
第４回	なぜ、自衛隊を軍隊と呼ばないのか？	畝
第５回	国連憲章と日本国憲法	畝
第６回	ジェンダー、LBGT、少数民族	畝
第７回	グループ・プレゼンテーション	畝
第８回	価値、価格はどのように決まるのか？	畝
第９回	自由貿易は本当に世界を豊かにするのか？	畝
第１０回	産業の空洞化、技術流出とは何か？何が問題なのか？	畝
第１１回	多国籍企業とは何だろうか？	畝
第１２回	高齢化社会の課題	畝
第１３回	世界の教育問題、日本の教育問題。	畝
第１４回	なぜ、Liberal Artsを学ぶのか？	畝
第１５回	グループ・プレゼンテーションと総括	畝
第１６回	最終試験（レポート）	畝

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	国際関係論　同時代史への羅針盤	参・出版社名１	中公新書
参・著者名１	中島嶺雄	参・ＩＳＢＮ１	4-12-101106-6
参・書籍名２	経済学を味わう　東大1、2年生に大人気の授業	参・出版社名2	日本評論社
参・著者名2	市村英彦ほか	参・ＩＳＢＮ2	978-4-535-55955-4

授業科目名	グローバルスタディーズ入門 留学生(１クラス)			担当者	日笠　恵美子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SR-1-003		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかかげ、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、ノートやレポート課題の提出を５０点、そして単位認定試験を３０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。本科目は、プレイスメントテストの結果で、２クラスに編成する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	日笠
第２回	世界の中の日本、岡山、高梁	日笠
第３回	日本人の行動様式	日笠
第４回	日本の食文化	日笠
第５回	日本の伝統文化	日笠

第６回	健康法	日笠
第７回	教育と学び	日笠
第８回	余暇と娯楽	日笠
第９回	現代の社会	日笠
第１０回	報道とマスコミ	日笠
第１１回	ITと情報社会	日笠
第１２回	科学と技術	日笠
第１３回	日本の歴史	日笠
第１４回	岡山の祭り	日笠
第１５回	異文化理解	日笠
第１６回	単位認定試験	日笠

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	漢字マスターN2	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	アークアカデミー	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05632-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	グローバルスタディーズ入門 留学生（２クラス）			担当者				井上　光恵	
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング				GE-SR-1-003	
必修・選択	必修		単位数	2単位		時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年		開講期	2022年度春学期		曜日・時限	月曜4限		
ディプロマポリシー対応項目									
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎		
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目			
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう								
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。								
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。								
アクティブラーニングの内容									
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを３０点、そして単位認定試験５０点とし、これらを１００点満点で評価する。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。								
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。								
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて								
授業計画								担当者	

第１回	１．オリエンテーション　自己紹介	井上光恵
第２回	２．トピック２（食文化）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第３回	３．トピック２（食文化）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第４回	４．トピック２（食文化）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第５回	５．トピック３（観光）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第６回	６．トピック３（観光）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第７回	７．トピック３（観光）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第８回	８．トピック５（行事）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第９回	９．トピック５（行事）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第１０回	１０．トピック５（行事）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第１１回	１１．トピック７（歴史）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第１２回	１２．トピック７（歴史）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第１３回	１３．トピック７（歴史）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第１４回	１４．振り返り	井上光恵
第１５回	１５．総括	井上光恵
第１６回	単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	まるごと　ことばと文化　初級２　A2　りかい	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	来嶋洋美　柴原智代　八田直美　今井寿枝　木谷直之	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05757-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	漢字たまご 初中級	参・出版社名１	凡人社
参・著者名１	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-832-6
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	グローバルスタディーズ入門 （秋入学生）（１クラス）	担当者	日笠　恵美子
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-SR-1-003

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかかげ、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、ノートやレポート課題の提出を５０点、そして単位認定試験を３０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。本科目は、プレイスメントテストの結果で、２クラスに編成する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	日笠
第２回	世界の中の日本、岡山、高梁	日笠
第３回	日本人の行動様式	日笠
第４回	日本の食文化	日笠

第５回	日本の伝統文化	日笠
第６回	健康法	日笠
第７回	教育と学び	日笠
第８回	余暇と娯楽	日笠
第９回	現代の社会	日笠
第１０回	報道とマスコミ	日笠
第１１回	ITと情報社会	日笠
第１２回	科学と技術	日笠
第１３回	日本の歴史	日笠
第１４回	岡山の祭り	日笠
第１５回	異文化理解	日笠
第１６回	単位認定試験	日笠

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	漢字マスターN2	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	アークアカデミー	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05632-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	グローバルスタディーズ入門 （秋入学生）（２クラス）			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SR-1-003		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを３０点、そして単位認定試験５０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

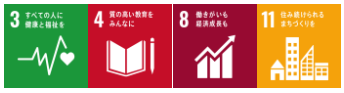
授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション　自己紹介	井上光恵
第２回	２．トピック２（食文化）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第３回	３．トピック２（食文化）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第４回	４．トピック２（食文化）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第５回	５．トピック３（観光）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第６回	６．トピック３（観光）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第７回	７．トピック３（観光）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第８回	８．トピック５（行事）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第９回	９．トピック５（行事）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第１０回	１０．トピック５（行事）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第１１回	１１．トピック７（歴史）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第１２回	１２．トピック７（歴史）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第１３回	１３．トピック７（歴史）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第１４回	１４．振り返り	井上光恵
第１５回	１５．総括	井上光恵
第１６回	単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	まるごと　ことばと文化　初級２　A2　りかい	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	来嶋洋美　柴原智代　八田直美　今井寿枝　木谷直之	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05757-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	漢字たまご 初中級	参・出版社名１	凡人社
参・著者名１	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-832-6
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	課題解決演習 経社			担当者	雲津　英子、黒宮　亜希子、秀　真一郎、大西　正泰、竹岡　志朗、稲元　洋		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SR-1-004		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを 
到達目標	【2月15日暫定版】 テーマ：多様な社会課題に関する知識を習得し、その課題解決のプロセスを経験する。 到達目標： ①現代社会が抱える多様な課題を、経営学・社会学・教育学的な視点から分析出来るようになる。 ②課題解決に必要な理論・手法を習得する。 ③地域課題やSDGs目標との接点から、社会が抱える多様な課題を「我がこと」として捉えることが出来るようになる。 ④グループでの演習活動を通じ、多様な考え方やそれぞれの価値観の違いを知る。 ⑤学習成果の発表機会を通じ、プレゼンテーション力が身につく。
授業概要	【2月15日暫定版】 既習の他の必修科目(人間力育成科目：きびこく学、SDGs概論、グローバルスタディーズ入門)で学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。 具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような方法であれば課題に対する解決が可能か検討を行う。 以上の能動的学習経験を通じて、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	【2月15日暫定版】 プレゼンテーション（60%）・ポートフォリオ内容（40%）　→　評価については検討中
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出されたポートフォリオにはそれぞれフィードバックを行う。 ポートフォリオは保管し、復習のために活用すること。
履修条件・注意事項	留学生（N2合格者以外）については、原則、2年次以降に履修とする。理由としては、グループでのディスカッションや発表機会が多くあるためである。

実務経験のある教員	該当する	内容	企業ならびに、保育・社会福祉分野における勤務、実務経験を有する教員らが担当を行う。

事前学習・事後学習とその時間	毎回発表機会が多くある。その準備のために2時間程度の予習・復習時間を要する。
オフィスアワー	○曜日○限（　　研究室）

授業計画		担当者
第１回	授業オリエンテーション	全教員
第２回	演習グループ、チームビルディング	黒宮・稲元
第３回	課題解決フレームワーク	大西・竹岡
第４回	データで知る社会 課題1　○○	黒宮・稲元
第５回	データで知る社会 課題２　○○	黒宮・稲元
第６回	データで知る社会 課題解決ワーク	黒宮・稲元
第７回	データで知る社会 成果発表	黒宮・稲元
第８回	ビジネス・ソーシャルビジネス分野 課題1　○○	大西・竹岡
第９回	ビジネス・ソーシャルビジネス分野 課題2　○○	大西・竹岡
第１０回	ビジネス・ソーシャルビジネス分野 課題解決ワーク	大西・竹岡
第１１回	ビジネス・ソーシャルビジネス分野 成果発表	大西・竹岡
第１２回	子ども・教育分野 課題1　○○	秀・雲津
第１３回	子ども・教育分野 課題2　○○	秀・雲津
第１４回	子ども・教育分野 課題解決ワーク	秀・雲津
第１５回	子ども・教育分野 成果発表	秀・雲津
第１６回	学習成果ポートフォリオまとめ	秀・雲津

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	検討中	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	キャリアデザインⅠ 経社			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-CE-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	8．働きがいも経済成長も
到達目標	【テーマ】 キャリアとは、生涯にわたる様々な立場や役割における自己と働くこととの関係づけや価値づけで、人生そのものである。そして、キャリアデザインとは、卒業後の将来を見据えて自らの生き方・働き方を考え、計画することである。大学生活を充実させ、社会で生きていくためには、自立的・主体的に考えて行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。そのためには、社会が求める人間像（自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力）について考え、自分自身を知り目標をもって実行していくことが必要である。 この科目では、社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画（キャリアデザイン）し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につける。 【到達目標】 ①自分自身を知り、社会を知ることで、自らの将来をイメージしながら、社会に出て働く意味や自分の目標を明確化できる。 ②その目標や社会的自立に向けて、自身のキャリアをデザインし、大学生活をどのように過ごすか考え、実践できる。 ③社会人としての基礎力であるコミュニケーション能力、社会人意識、職業選択能力を向上させる。
授業概要	授業は、合同授業と学科別授業で構成されている。 合同授業では、キャリアとは何か、キャリアをデザインするとはどのようなことか、大学生活における心身の健康やキャリア実践活動、一般的学力（自己理解）について講義や演習を行う。 また、マイステップを使用する「キャリアデザインノート」の意義や作成方法についても説明し、個人の記録として卒業まで活用していく。 授業全体を通して、「自分を知る」「社会を知る」「社会とつながる」「生き方を考える（大学生活を含む）」「働き方を考える」という5つのテーマで構成し、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入、グループワークやディスカッションといった演習活動を行って自分の人生を考えることができるようにする。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業時間内の活動や発言（30%）、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入（30%）、基礎学習（kiuiドリル）実施状況（20%）、最終試験あるいはレポート（20%）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	ワークシートやキャリアデザインノートの記入内容については、授業内でフィードバックする。

履修条件・注意事項	毎回、資料やプリントを配布する。 配付されたファイルを持参して保管すること。		
実務経験のある教員	該当する	内容	第2回、5回、14回は、キャリア形成や就職支援の実務経験のある外部講師を招き、キャリアデザインの基礎となる自己理解の演習を行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、授業内で配布された資料や参考図書を読んでおく。 事後学習として、授業内で配布された資料を読み、次回までの課題が提示された回はその課題に取り組む。 随時、自身のキャリア実践やプランについて「キャリアデザインノート」に記載していく。 各２時間の学修時間を目安とする。		
オフィスアワー	・月曜日4限　個人研究室（14615） ・月曜日2限　キャリアサポートセンターにおいてキャリアに関する相談に応じる		

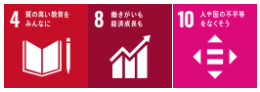
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・キャリアとは何か	黒宮・（藤原）
第２回	自分を知る・社会を知る：興味検査（VPI）or適正検査（GATB）	外部講師：マイナビ
第３回	自分を知る・生き方を考える：メンタルヘルス	森信
第４回	生き方を考える：キャリアデザインとは何か、大学生活の意義	藤原
第５回	自分を知る：基礎学力（1回目）、大学生活の基礎	外部講師（ラインズ・マイナビ）
第６回	社会とつながる：対人コミュニケーション	黒宮
第７回	社会を知る・つながる：キャリア実践となる課外活動	藤原・外部講師（ボランティアセンター）
第８回	自分を知る・社会を知る：社会人基礎力	黒宮
第９回	自分を知る：自分の強みと弱み	黒宮
第１０回	社会とつながる：対人関係力	黒宮
第１１回	生き方を考える：これまでの振り返りとライフプラン	黒宮
第１２回	社会を知る・働き方を考える：学科の専門性や資格を活かす仕事	黒宮
第１３回	社会を知る・働き方を考える：興味関心や能力を活かす仕事	黒宮
第１４回	自分を知る：基礎学力（２回目）、将来に向けて	外部講師：ラインズ・マイナビ
第１５回	まとめ：キャリアデザインノートの作成	黒宮
第１６回	試験（レポート：キャリアデザインノートの提出）	黒宮

教科書			
教・書籍名１	教科書は指定しない。毎回、資料やワークシートを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	マイキャリアノートⅠベーシック	参・出版社名１	ベネッセiキャリア
参・著者名１	ベネッセiキャリア	参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	キャリアデザインⅠ 留学生（経社）			担当者	小田　淳子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-CE-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう 
到達目標	【テーマ】社会的自立と職業的自立にむけて、自らの生き方・働き方を計画（キャリアデザイン）し実行できるようになるため、日本での生活や大学生活に必要な知識やスキルを身につける。 【到達目標】キャリアとは、生涯にわたる様々な立場や役割における自己と働くこととの関係づけや価値づけで、人生そのものである。そして、キャリアデザインとは、卒業後の将来を見据えて自らの生き方・働き方を考え、計画することである。留学生が大学生活を充実させ、日本の社会で生きていくためには、自立的・主体的に考えて行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。そのためには、社会が求める人間像（自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力）を学びながら、自分自身を知り具体的な目標をもって実行していくことが必要である。到達目標として、以下の3点を設定する。 ①日本の社会や地域で生活するために必要な知識やマナーを身につけるとともに、日本の法制度等を理解できる ②自分自身を知り、社会を知ることで自らの将来をイメージし、自身のキャリアをデザインして、大学生活をどのように過ごすか考え実践できる。 ③社会人としての基礎力であるコミュニケーション能力、文章理解力を向上させる。
授業概要	授業は、合同授業と学科別授業で構成されている。 　合同授業では、キャリアとは何か、日本の法律や生活習慣、地域で円滑に生活するために必要な基礎知識について講義を行う。また、マイステップを使用する「キャリアデザインノート」の意義や作成方法についても説明し、個人の記録として卒業まで活用していく。 　学科別授業では，「自分を知る」「社会を知る」「社会とつながる」「生き方を考える（大学生活を含む）」「働き方を考える」という5つのテーマで構成し、ワークシートや課題プリントへの記入、グループワークやディスカッションによる演習活動を行い，コミュニケーション能力や社会人基礎力を高めることができるようにする。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業時間内の活動（20%）、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入（30%）、課題プリント（30%）、レポート（20%）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	ワークシートやキャリアデザインノートの記入内容、課題プリントについては、授業内でフィードバックする。講義後に，毎回内容を見直すこと。
履修条件・注意事項	大幅な遅刻や無断欠席は講義の進行や評価に影響するので，注意すること。病気等不調でやむを得ない場合，必ず事前に連絡を入れること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，キャリアデザインの実務に携わる外部講師を招いて，必要な知識と能力について解説し，学制の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	予習：合同授業後のテーマは，学科担当の初回講義で説明する。授業は事前学習等を行って臨むこと。 復習：毎回講義資料（プリント等）を作成・配布するので，事後学習を行って復習で必ず完結すること。 　予習、復習には各2時間程度が必要である。

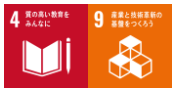
オフィスアワー	講義後の時間に適宜，受付ける。 Teamsのチャット機能を利用して，疑問点を提出すること。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション：キャリアとは何か，授業の進め方	CSC，外部講師
第２回	社会を知る１：日本の法律に関する基礎知識、地域での生活や大学生活で気をつけること等	CSC，外部講師
第３回	社会を知る２：地域における生活ルール、日本での生活に必要な知識とマナー	CSC，外部講師
第４回	社会を知る３：キャリアデザインの進め方，キャリアデザインノートの作成	CSC，外部講師
第５回	日本語を知る：日本の挨拶，生活習慣，食べ物	小田
第６回	日本語能力：コミュニケーション（挨拶・会話・マナー）の向上	小田
第７回	日本語能力：自己紹介シートの作成と発表（ワーク，ディスカッション）	小田
第８回	キャリア実践（ボランティア・アルバイト等）の紹介・注意点、キャリアデザインノートの確認	CSC
第９回	日本語能力：日常生活における会話力と聴解力をみがく（ワーク）	小田
第１０回	日本語能力：短文～長文の読み取りと問題理解	小田
第１１回	日本語能力：対人関係と会話力のチェック（ワーク）	小田
第１２回	自己理解力：自分の強みと弱みを知る、強みの活かし方	小田
第１３回	自己理解力：自分の興味（好きなもの）、いろいろな生き方	小田
第１４回	社会を知る：色々な働き方について（就職事情）	小田
第１５回	まとめ：キャリアデザインノートの作成、次年度の目標設定	小田
第１６回	レポート（キャリアデザインノートの提出）	小田

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	ストーリーと活動で自然に学ぶ日本語　いつかどこかで	参・出版社名１	(株)スリーエーネットワーク
参・著者名１	萩原一彦	参・ＩＳＢＮ１	9784883194629
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	情報活用 経社A			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-AI-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう 
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30％の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30％、試験の成績を40％として最終的に総合評価が行われる。これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること（受講者数はパソコン教室の定員以内とする）。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。
オフィスアワー	月曜日3限

授業計画	担当者

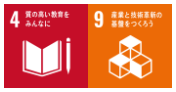
第１回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）	竹岡
第２回	パソコンのハードウェアと周辺機器	竹岡
第３回	デジタルデータのしくみ（ビット/バイト・標本化・コード）	竹岡
第４回	OSとアプリケーション	竹岡
第５回	ファイルシステム操作	竹岡
第６回	文書作成（ワープロソフト）操作	竹岡
第７回	文書作成（ワープロソフト）課題	竹岡
第８回	表計算ソフト操作	竹岡
第９回	表計算ソフト課題	竹岡
第１０回	プレゼンテーションソフト操作	竹岡
第１１回	プレゼンテーションソフト課題	竹岡
第１２回	ネットワークとインターネット	竹岡
第１３回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ	竹岡
第１４回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決	竹岡
第１５回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑	竹岡
第１６回	単位認定試験	竹岡

教科書			
教・書籍名１	情報リテラシー 入門編 Windows 11 / Office 2021対応（FPT2117）	教・出版社名１	FOM出版
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	978-4-938927-54-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報活用 経社B			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-AI-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう 
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30％の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30％、試験の成績を40％として最終的に総合評価が行われる。これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること（受講者数はパソコン教室の定員以内とする）。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：担当教員は、前職で企業のIT部門（システム管理部門）に従事し、パソコンと汎用コンピュータと電話回線を組み合わせた比較的規模の大きい基幹システムから、パソコンによる段ボール箱設計と段ボール箱へのデザインを作るDTPシステムまでを開発運用した経験を持つ。その他データウェアハウスによるOLAPの運用経験を持つほか、労働省（当時）が全国で運営するコンピュータカレッジの中の一校においてCGコースを２年間担当した経験を持つ。
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。

	予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。
オフィスアワー	春学期： 月曜日２時限目

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）	秀
第２回	パソコンのハードウェアと周辺機器	秀
第３回	デジタルデータのしくみ（ビット/バイト・標本化・コード）	秀
第４回	OSとアプリケーション	秀
第５回	ファイルシステム操作	秀
第６回	文書作成（ワープロソフト）操作	秀
第７回	文書作成（ワープロソフト）課題	秀
第８回	表計算ソフト操作	秀
第９回	表計算ソフト課題	秀
第１０回	プレゼンテーションソフト操作	秀
第１１回	プレゼンテーションソフト課題	秀
第１２回	ネットワークとインターネット	秀
第１３回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ	秀
第１４回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決	秀
第１５回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑	秀
第１６回	単位認定試験	秀

教科書			
教・書籍名１	情報リテラシー　入門編　Windows 11／Office 2021対応	教・出版社名１	FOM出版
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	978-4-938927-54-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報活用 経社C			担当者	大谷　卓史		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-AI-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30%、試験の成績を40%として最終的に総合評価が行われる。これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。
ルーブリック評価	ダミー /uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。

実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、前職で企業のIT部門（システム管理部門）に従事し、パソコンと汎用コンピュータと電話回線を組み合わせた比較的規模の大きい基幹システムから、パソコンによる段ボール箱設計と段ボール箱へのデザインを作るDTPシステムまでを開発運用した経験を持つ。その他データウェアハウスによるOLAPの運用経験を持つほか、労働省（当時）が全国で運営するコンピュータカレッジの中の一校においてCGコースを２年間担当した経験を持つ。

事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。
オフィスアワー	春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室） 秋学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室） 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）	大谷卓史
第２回	パソコンのハードウェアと周辺機器	大谷卓史
第３回	デジタルデータのしくみ（ビット/バイト・標本化・コード）	大谷卓史
第４回	OSとアプリケーション	大谷卓史
第５回	ファイルシステム操作	大谷卓史
第６回	文書作成（ワープロソフト）操作	大谷卓史
第７回	文書作成（ワープロソフト）課題	大谷卓史
第８回	表計算ソフト操作	大谷卓史
第９回	表計算ソフト課題	大谷卓史
第１０回	プレゼンテーションソフト操作	大谷卓史
第１１回	プレゼンテーションソフト課題	大谷卓史
第１２回	ネットワークとインターネット	大谷卓史
第１３回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ	大谷卓史
第１４回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決	大谷卓史
第１５回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑	大谷卓史
第１６回	単位認定試験	大谷卓史

教科書			
教・書籍名１	情報リテラシー　入門編＜改訂版＞FPT1716	教・出版社名１	FOM出版
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	978-4-86510-345-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	数理・データサイエンス・AI基礎			担当者	佐藤　匡		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-AI-1-010		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものである。 到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。 （数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム ～ データ思考の涵養～ 2020年４月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 2枚目）
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50%、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20%として最終的に総合評価が行われる。　これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	受講者数は、30人以内とする。そのため抽選となることがある。 抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第１回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。
	担当教員が理事を務めているNPO全国要約筆記問題研究会（会員数約1,300人）では、全国の自治体に対して要約筆記者養成の現状調査を行っている。また、パソコン要約筆記全体投

実務経験のある教員	該当する	内容	影の読みやすさについて、首都圏の聴覚障がい者にアンケートや読みやすさの調査を行っている。その分析では本講義のデータサイエンスの知識が活用されている。
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。		
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日３時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日４時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日２時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日３時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	佐藤 匡
第２回	ビッグデータと社会の変化	佐藤 匡
第３回	社会で活用されているデータ	佐藤 匡
第４回	データ・AIの活用領域の広がり	佐藤 匡
第５回	データ・AIの技術	佐藤 匡
第６回	データサイエンス	佐藤 匡
第７回	データ・AIを活用するときの負の側面	佐藤 匡
第８回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（考え方）	佐藤 匡
第９回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（事例）	佐藤 匡
第１０回	AIとアルゴリズム	佐藤 匡
第１１回	データの構造とプログラミング	佐藤 匡
第１２回	データの利活用方法	佐藤 匡
第１３回	時系列データと文章データの分析例	佐藤 匡
第１４回	教師あり学習と教師なし学習	佐藤 匡
第１５回	データ・AI利活用における留意事項	佐藤 匡
第１６回	まとめと筆記試験・評価	佐藤 匡

教科書			
教・書籍名１	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名１	技術評論社
教・著者名１	岡嶋裕史、吉田雅裕 著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-297-12038-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	数理・データサイエンス・AI基礎			担当者	大谷　卓史		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-AI-1-010		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものである。 到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。 （数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム ～ データ思考の涵養～ 2020年４月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 2枚目）
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50%、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20%として最終的に総合評価が行われる。　これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	受講者数は、30人以内とする。そのため抽選となることがある。 抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第１回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。
	担当教員が理事を務めているNPO全国要約筆記問題研究会（会員数約1,300人）では、全国の自治体に対して要約筆記者養成の現状調査を行っている。また、パソコン要約筆記全体投

実務経験のある教員	該当する	内容	影の読みやすさについて、首都圏の聴覚障がい者にアンケートや読みやすさの調査を行っている。その分析では本講義のデータサイエンスの知識が活用されている。
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。		
オフィスアワー	春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室） 春学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室） 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	佐藤 匡
第２回	ビッグデータと社会の変化	佐藤 匡
第３回	社会で活用されているデータ	佐藤 匡
第４回	データ・AIの活用領域の広がり	佐藤 匡
第５回	データ・AIの技術	佐藤 匡
第６回	データサイエンス	佐藤 匡
第７回	データ・AIを活用するときの負の側面	佐藤 匡
第８回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（考え方）	佐藤 匡
第９回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（事例）	佐藤 匡
第１０回	AIとアルゴリズム	佐藤 匡
第１１回	データの構造とプログラミング	佐藤 匡
第１２回	データの利活用方法	佐藤 匡
第１３回	時系列データと文章データの分析例	佐藤 匡
第１４回	教師あり学習と教師なし学習	佐藤 匡
第１５回	データ・AI利活用における留意事項	佐藤 匡
第１６回	まとめと筆記試験・評価	佐藤 匡

教科書			
教・書籍名１	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名１	技術評論社
教・著者名１	岡嶋裕史、吉田雅裕 著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-297-12038-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	数理・データサイエンス・AI基礎			担当者	今村　俊介		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-AI-1-010		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	膨大なデータを適切に処理することが様々な分野で求められていることを理解し、基本的なデータに対する知識、および、データの扱い方を学習する。 ・なぜデータサイエンスを学ぶのか、社会でどのように活用されているのかを知る。 ・データの処理、集計、可視化、分析を行うためのデータサイエンスの基礎的事項を学習する。 ・社会における事象を適切に捉え、分析・説明できる力を修得する。 ・データが重要視されるようになった社会背景を理解する。 ・データとは何かを説明できる。 ・データの基本的な分析手法を理解する。 ・データサイエンティストに求められるスキルを理解する。
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。 この時代においては、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することがこれからをよりよく生きる上で求められている。 さらに、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見、および、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。 この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶことを目的とする。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。 後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」リテラシーレベルの導入・基礎・心得分野
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習・復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。 それに対する返答、 あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が「30%」の重みづけで評価される。 また、課題等の提出物「50%」、 データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を「20%」として最終的に総合評価が行われる。 これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定(到達目標)の判断基準となる。

ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	【受講者数】 ・学部で30人以内とする。そのため抽選となることがある。 ・抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 【持参物】 ・指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 ・ 第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト【これは、学科によって実施・非実施をきめられますか？】未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがある ので十分注意すること。 【授業計画】 進捗の状況に応じて変更することがある。

実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、情報系科目の講義担当経験、ならびに、研究活動への使用経験を有している。

事前学習・事後学習とその時間	【予習】 ・各回の講義に先立ち、予習として教科書の該当箇所を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。 【復習】 ・復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 【全体】 ・授業の進度と同程度の予習量・復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 ・予習・復習の確認については、課題やタスクにおいて知識・技術の使用が求められ、その達成度ならびに積極的な参加態度が成績評価として考慮される。
オフィスアワー	・講義終了時間の直後 ・事前に学生と教員で相談して決めた時間帯

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	今村
第２回	ビッグデータと社会の変化	今村
第３回	社会で活用されているデータ1	今村
第４回	社会で活用されているデータ2	今村
第５回	データ・AIの技術	今村
第６回	データサイエンス	今村
第７回	データ・AIを活用するときの負の側面	今村
第８回	データ・AIにまつわるセキュリティ1	今村
第９回	データ・AIにまつわるセキュリティ2	今村
第１０回	AIとアルゴリズム	今村
第１１回	データの構造とプログラミング	今村
第１２回	データの利活用方法	今村
第１３回	時系列データと文章データの分析例	今村
第１４回	教師あり学習と教師なし学習	今村
第１５回	データ・AI利活用における留意事項	今村
第１６回	まとめと試験・評価	今村

教科書			
教・書籍名１	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名１	技術評論社
教・著者名１	岡嶋裕史，吉田雅裕　著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-297-12038-2
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語基礎Ⅰ 経社			担当者	嶋村　優枝		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LE-1-012		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えるようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の５０％で査定し評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて１６回行いますが、１５回目に試験を行い、最後の１６回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかり行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従って下さい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日１０分でもよいので次の週までに合計６０～９０分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないとのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日１０分でよいので毎日自分で声に出して英文を読む習慣をつけてください。
オフィスアワー	金曜日１限の授業前と授業後

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　春学期の授業に関しての大雑把な説明と２回目の授業のさわり	嶋村優枝
第２回	Profile　自分を知ろう　BE動詞	嶋村優枝
第３回	Sports　多彩だね、スポーツの世界　一般動詞：自動詞・他動詞	嶋村優枝
第４回	Special Occasions　特別な日は誰に何をしてあげる？　二重目的語、目的語をとる動詞	嶋村優枝
第５回	Families　家族を知ろう　人称代名詞	嶋村優枝
第６回	Japan Quiz　日本クイズに挑戦　WH疑問文	嶋村優枝
第７回	Love and Marriage　恋愛はいつの時代も人々の関心事？　過去形	嶋村優枝
第８回	Life History　今までの自分を語ろう　現在完了形　継続	嶋村優枝

第９回	Leisure　自分の経験を語ろう　現在完了形　経験・完了		嶋村優枝
第１０回	College Life　学生生活を楽しもう　進行形		嶋村優枝
第１１回	On Vacation　休暇の計画をたてよう　未来表現		嶋村優枝
第１２回	Out and About　自分の気持ちを上手に伝えるには　助動詞　CAN,MAY		嶋村優枝
第１３回	春学期の総復習（１）　BE動詞　一般動詞　人称代名詞　疑問		嶋村優枝
第１４回	春学期の総復習（２）　現在完了形　進行形　助動詞		嶋村優枝
第１５回	春学期の試験		嶋村優枝
第１６回	春学期の総復習、フィードバック		嶋村優枝
教科書			
教・書籍名１	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー　Living Grammar	教・出版社名１	成美堂　SEIBIDO
教・著者名１	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語基礎Ⅱ 経営社会			担当者	嶋村　優枝		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LE-1-013		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えるようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の５０％で査定し評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて１６回行いますが、１５回目に試験を行い、最後の１６回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかり行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従って下さい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日１０分でもよいので次の週までに合計６０～９０分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないとのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日１０分でよいので毎日自分で声に出して英文を読む習慣をつけてください。
オフィスアワー	金曜日２限の授業前と授業後

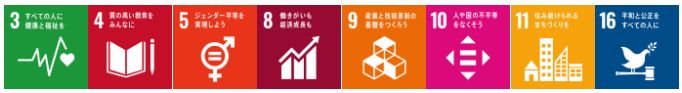
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　秋学期の授業に関しての大雑把な説明と２回目の授業のさわり	嶋村優枝
第２回	Rules　しきたりは難しい　助動詞 must should	嶋村優枝
第３回	Folk Tales　昔話に思わぬ教訓を発見　　接続詞　and but or so	嶋村優枝
第４回	News & Events　ニュースに敏感になろう　受動態	嶋村優枝
第５回	Amazing Animals 動物の世界は驚きでいっぱい　頻度を表す副詞	嶋村優枝
第６回	Feelings 人間は感情の生き物だね　　ing edで終わる形容詞	嶋村優枝
第７回	World Quiz 世界クイズに挑戦　　原級　比較級　最上級	嶋村優枝
第８回	Business この大企業の創始者は？　　基本的な前置詞 at on in	嶋村優枝

第９回	Environment 環境問題を解決するには？　接続詞(2) when because although if	嶋村優枝
第１０回	Old Sayings ことわざは面白い　　不定詞と動名詞	嶋村優枝
第１１回	Professions 将来の職業について考えよう　関係詞　who which where	嶋村優枝
第１２回	What If？ 仮定の話は途方もない　　仮定法	嶋村優枝
第１３回	秋学期の総復習（１）　接続詞　受動態　比較級　基本的な前置詞	嶋村優枝
第１４回	秋学期の総復習（２）　不定詞と動名詞　関係詞　仮定法	嶋村優枝
第１５回	秋学期の試験	嶋村優枝
第１６回	秋学期の総復習、フィードバック	嶋村優枝

教科書			
教・書籍名１	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー　Living Grammar	教・出版社名１	成美堂　SEIBIDO
教・著者名１	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	アクティブ英語Ⅰ 経営社会			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2020～2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LE-1-014		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	この授業を受ければ、簡単な日常会話の（いくつかの）基本的なパターンをマスターすることができます。 At the end of this course, you will be familiar with numerous conversational expressions in English and be more confident about speaking English.
授業概要	Throughout each weekly lesson, students will do activities and receive instruction, training and advice intended to assist and guide them in their efforts to expand and enhance their English language speaking skills and articulateness. Students will have opportunity to i) practice and thereby improve existing key skills; ii) learn various new key and / or important skills; and iii) expand vocabulary knowledge in order to raise their overall ability to understand, enter into and maintain authentic, real-life, everyday English language conversation. Students will necessarily study numerous topics including pronunciation, intonation and diction etc and be encouraged and advised at every stage about how best to express themselves clearly, efficiently and confidently. Whenever necessary therefore, major emphasis will be placed on overcoming shyness, reticence and any other presently constraining deficiencies / shortcomings that presently impede or prevent oral communication competency.
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being

	taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime.
履修条件・注意事項	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.

実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments, students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.		

オフィスアワー	Students can e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp

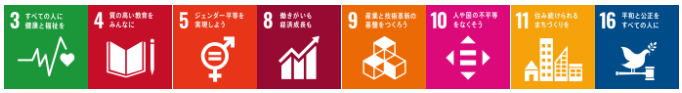
授業計画		担当者
第１回	01) Asking and answering questions. 02) Who is Ian Warner? Listen, then ask (him) questions.	Warner
第２回	03) Introduce yourself. Talk about yourself.	Warner
第３回	04) Say about your hobby / hobbies and interest(s).	Warner
第４回	05) Talk about a place (that) you like.	Warner
第５回	06) Talk about your _____. [1 - 5 things = items]	Warner
第６回	07) Talk about a person AND / OR 08) Talk about your part-time job.	Warner
第７回	09) Talk about a photo OR video OR movie.	Warner
第８回	10) Talk about things (that) you have to do.	Warner
第９回	11) Talk about a thing (that) you did (in the past).	Warner
第１０回	12) Talk about the weather.	Warner
第１１回	13) Giving, receiving and understanding (road navigation) directions.	Warner
第１２回	14) Telling the time. 15) Big numbers.	Warner
第１３回	16) Talk about a photo (that is on your phone).	Warner
第１４回	17) Your favorite shop 18) What do you want to buy?	Warner
第１５回	19) Using airports. 20) Arriving at a hotel	Warner
第１６回	Final EXAM. TEST	Warner

教科書			
教・書籍名１	English Listening and Speaking Patterns 1	教・出版社名１	Nan'un-do
教・著者名１	Andrew E. Bennett	教・ＩＳＢＮ１	ISBN-10: 4523178429 ISBN-13: 978-4523178422
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	Collins Easy Learning English Conversation: Book 1 (2015)	参・出版社名１	Harper Collins Publishers
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10: 0008101744 ISBN-13: 978-0008101749
参・書籍名２	Talk Time 2: Everyday English Conversation (2006)	参・出版社名2	Oxford University Press
参・著者名2	Susan Stempleski (Author)	参・ＩＳＢＮ2	ISBN-10: 0194392910 ISBN-13: 978-0194392914

授業科目名	アクティブ英語Ⅱ 心理・看護・経社			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LE-1-015		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	この授業を受ければ、アクティブ英語Ⅰで学んだ基本的なパターンに加え、簡単な日常会話のより多くの基本的なパターンをマスターすることができます。 By the end of this course, students will be more familiar Engish language conversational expressions, as compared to the at end of the Active English I course. Students will therefore have more confidence vis-a-vis speaking in English.
授業概要	Throughout each weekly lesson, students will do activities and receive instruction, training and advice intended to assist and guide them in their efforts to expand and enhance their English language speaking skills and articulateness. Students will have opportunity to i) practice and thereby improve existing key skills; ii) learn various new key and / or important skills; and iii) expand vocabulary knowledge in order to raise their overall ability to understand, enter into and maintain authentic, real-life, everyday English language conversation. Students will necessarily study numerous topics including pronunciation, intonation and diction etc and be encouraged and advised at every stage about how best to express themselves clearly, efficiently and confidently. Whenever necessary therefore, major emphasis will be placed on overcoming shyness, reticence and any other presently constraining deficiencies / shortcomings that presently impede or prevent oral communication competency.
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before

	during and after lessons. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime.
履修条件・注意事項	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times

	during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments, students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of-term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.		

オフィスアワー	Students can e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp

授業計画		担当者
第１回	Talk about your summer holiday / what did you do?	Warner
第２回	Talk about seasons / expressions which describe seasons and tempreture changes	Warner
第３回	Talk about Internet / media report	Warner
第４回	Talk about daily routine / club activities	Warner
第５回	Talk about your family members	Warner
第６回	Talk about your home town	Warner
第７回	Talk about your friends / pets	Warner
第８回	Talk about your favorite cultural spots (music venues, museums, movie theaters, etc)	Warner
第９回	Various topics (decided by students)	Warner
第１０回	Various topics (decided by students)	Warner
第１１回	Various topics (decided by students)	Warner
第１２回	How can you express your feelings?	Warner
第１３回	Talk about Takahashi City (your favorite spot, city planning, etc.)	Warner
第１４回	Talk about the nature	Warner
第１５回	Talk about the future	Warner
第１６回	Final EXAM. TEST	Warner

教科書			
教・書籍名１	English Listening and Speaking Patterns 1 (2017)	教・出版社名１	Nan'un-do
教・著者名１	Andrew E. Bennett	教・ＩＳＢＮ１	ISBN: 9784523178422
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語と中国文化Ⅰ			担当者	孫　基然		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LC-1-018		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（入門編）。 到達目標： 学生は中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる。
授業概要	中国語での読む・書く・話す力を伸ばすためには、まず発音を完全にマスターする必要がある。中国語には日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヶ月近く徹底的に練習を繰り返す。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習することにより、前期終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	1、中国語の声調に関する解説及び発声リズムの練習 2、単母音の発声練習	孫基然
第２回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声練習	孫基然
第３回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声復習 4、鼻音の発声練習	孫基然
	1、発音の復習	

第４回	2、そり舌音の発声練習	孫基然
第５回	1、発音の復習 2、子音の発声練習	孫基然
第６回	1、発音総合復習 2、発音小テス 3、実施した小テストをフィードバックする。	孫基然
第７回	1、声調符号をつける位置 2、声調の変化 3、よく使うフレーズ	孫基然
第８回	1、人称代名詞 2、判断文 3、普通疑問文	孫基然
第９回	1、副詞「也」 2、副詞「的」 3、普通疑問文	孫基然
第１０回	1、「喜歓」の使い方 2、形容詞述語文	孫基然
第１１回	1、省略疑問文 2、年齢の聞き方と使い分け	孫基然
第１２回	1、所有を表す「有」 2、完了を表す「了」 3、推測表現	孫基然
第１３回	1、時刻の言い方 2、量詞の使い方	孫基然
第１４回	1、省略疑問文 2、進行表現	孫基然
第１５回	1、提案や勧誘の使い方 2、二重目的語を取る動詞	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	中国への旅	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	山下輝彦、黄漢青	教・ＩＳＢＮ１	978-4-255-45332-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語と中国文化 II			担当者	孫　基然		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LC-1-019		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（基礎編）。 到達目標： 学生は前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準４級の獲得へつなげていくことができるようになる。
授業概要	中国語には、日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、２ヵ月近く徹底的に練習を繰り返す必要がある。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習し、IIの終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。基礎的な文法事項、表現等を会話や筆記練習等で理解を深め、会話力、読解力、応用力を高める。担当教員は毎回必ず課題として出された単語や基本構文の暗唱をチェックする。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準４級の獲得へつなげていくことができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文	孫基然
第２回	1、助動詞「想」 2、反復疑問文	孫基然
第３回	1、経験表現 2、連動文	孫基然
第４回	1、時量補語	孫基然

	2、存在表現	
第５回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文 3、比較表現	孫基然
第６回	1、介詞「離」、「従」と「往」の使い方 2、動作の方式を表す「着」 3、比較表現	孫基然
第７回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方 3、結果補語	孫基然
第８回	中間テスト	孫基然
第９回	中間テストをフィードバックする。	孫基然
第１０回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方	孫基然
第１１回	1、未来を表す表現 2、方法や方式を訪ねる表現	孫基然
第１２回	1、介詞「給」 2、仮定表現	孫基然
第１３回	1、「太……了」の文型 2、人民元の数え方 3、割引の言い方	孫基然
第１４回	1、動詞の重ね型 2、「一辺」と「一点」	孫基然
第１５回	1、程度補語 2、介詞「為了」 3、方向補語と兼語文	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	中国への旅	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	山下輝彦、黄漢青	教・ＩＳＢＮ１	978-4-255-45332-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	フランス語とフランス文化Ⅰ			担当者	加藤　健次		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LF-1-020		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、かんたんなフランス語を話す」 到達目標：学生はフランスの文化について教養として語れるようになる。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行したときなどに、あいさつやかんたんな会話ができるようになる。
授業概要	この講義は、一方向のレクチャーではなく、参加型双方向の授業で、フランス語のスキル習得のため、できるだけ大きな声を出して繰り返し発音することが求められる。フランス語の音節を正しく発音するための方法を知り、綴り字を正しく読むための理論と基礎文法を理解し、初歩的かつ日常的なフランス語会話に必要な語彙と例文を、フランスの歴史・地理・文化のなかから代表的なものを繰り返し発音して、暗唱できるようにする。初心者対象で、ABCと発音／つづり字の読み方から始められ、名詞・形容詞の性・数や冠詞などの基本文法が文化を学ぶなかで理解できるよう説明される。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることか ら、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（６０％）、単位認定試験（４０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容：
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各２時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各２時間の学修時間を目安とする。
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

授業計画		担当者
第１回	スポーツ①ツール・ド・フランス	加藤健次
第２回	映画①ヌーヴェル・ヴァーグから最強の二人まで	加藤健次
第３回	音楽①サガンとブラームスはお好き？	加藤健次
第４回	建築①ロマネスク様式	加藤健次

第５回	食①パン	加藤健次
第６回	旅①ブルターニュとモンサンミシェル	加藤健次
第７回	歴史①マリーアントワネット	加藤健次
第８回	スポーツ②その他の自転車ロードレースとル・マン24時間耐久レース	加藤健次
第９回	美術②ピカソ、マチス、キュビズムと現代アート	加藤健次
第１０回	音楽②ピアフとシャンソンの世界	加藤健次
第１１回	建築②ゴシック様式	加藤健次
第１２回	食②お菓子とショコラ	加藤健次
第１３回	旅②ロワール川と城	加藤健次
第１４回	文学①詩：ボードレールからコクトーまで	加藤健次
第１５回	旅③ブルゴーニュとヴェズレー教会	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	上垣 豊（編）	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4623087786 ISBN-13 ： 978-4623087785
参・書籍名２	ゼロからスタート　フランス語　会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ＩＳＢＮ2	ＩＳＢＮ１978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語とフランス文化 II			担当者	加藤　健次		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LF-1-021		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、日常的なフランス語を話すことができるようになる」 到達目標：学生はフランスの文化について理解する。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行した時などに、あいさつやその場に応じた会話ができるようになる。
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、フランス文化に関する練習問題をていねいに解いていく。フランス文化に関係した会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことでフランスに精通し、フランス語の語彙力や発話力を身につけよう。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることか ら、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（６０％）、単位認定試験（４０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各２時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各２時間の学修時間を目安とする。
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

授業計画		担当者
第１回	スポーツ③サッカー・リーグ・アン	加藤健次
第２回	美術③マグリットとシュールレアリスム	加藤健次
第３回	音楽③サティとミニマルミュージック	加藤健次
第４回	建築③ルネサンス・バロック様式	加藤健次
第５回	食③チーズ	加藤健次

第６回	旅④プロヴァンスとアルル	加藤健次
第７回	文学②文学②サンテグジュペリ『星の王子さま』	加藤健次
第８回	スポーツ④ペタンク	加藤健次
第９回	美術④スーラージュ、クラインに見る現代アート	加藤健次
第１０回	音楽④ジプシー音楽とジャズマヌーシュ	加藤健次
第１１回	食④ワイン	加藤健次
第１２回	旅⑤サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路	加藤健次
第１３回	哲学①デカルトと主体の哲学	加藤健次
第１４回	文学②文学③小説：ユゴーからル・クレジオまで	加藤健次
第１５回	食⑤Menuとコース料理	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	上垣 豊（編）	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4623087786 ISBN-13 ： 978-4623087785
参・書籍名２	ゼロからスタート　フランス語　会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ＩＳＢN2	ＩＳＢＮ１978-4-86392-103-0

授業科目名	ドイツ語とドイツ文化Ⅰ			担当者	清水　光二		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LG-1-022		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅰ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語を正しく発音するためのルールを知り、併せて動詞や名詞を中心とした基礎的な文法を段階的に習得することになる。
授業概要	この講義は、ドイツ語の初学者を対象にしている。春学期を通して学修する項目は、大体以下のような内容である。つづりと発音の関係、挨拶等の定型表現、自己紹介と他者紹介、辞書の案内と使い方、人称代名詞、規則動詞と不規則動詞の現在人称変化、名詞の性・数・格、前置詞、定冠詞、不定冠詞など。それに加え、定型的な日常口語表現を通して、コミュニケーションの初歩も学ぶ。なお、今回この授業で使うテキストはドイツ語の総合的な文法読本であり、ドイツの社会・文化・歴史などについても学ぶことができ、異質な文化や社会にたいする理解を深めることにもなる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえないことである。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　ドイツおよびドイツ語とは　アルファベット　ドイツ語の発音（母音）	清水光二
第２回	ドイツ語の発音（子音）　挨拶表現	清水光二
第３回	ドイツ語の発音（まとめ）　挨拶表現の復習	清水光二
第４回	Lektion 1　Was lernst du?　動詞の現在人称変化	清水光二
第５回	Lektion 1　Was lernst du?　定動詞第2位の原則　seinの現在人称変化	清水光二
第６回	Lektion 2　Hast du Geschwister?　名詞の性と格　定冠詞の格変化	清水光二

第７回	Lektion 2　Hast du Geschwister?　不定冠詞の格変化　habenの現在人称変化	清水光二
第８回	Lektion 3　Wann fährst du nach München?　不規則な現在人称変化	清水光二
第９回	Lektion 3　Wann fährst du nach München?　命令形	清水光二
第１０回	Lektion 4　Welche Uhr kaufst du?　定冠詞類	清水光二
第１１回	Lektion 4　Welche Uhr kaufst du?　不定冠詞類　所有冠詞	清水光二
第１２回	Lektion 5　Kaufst du diese Bücher?　複数形	清水光二
第１３回	Lektion 5　Kaufst du diese Bücher?　人称代名詞	清水光二
第１４回	Lektion 6　Was machst du an diesem Wochenende?　前置詞の格支配　2格支配／3格支配	清水光二
第１５回	Lektion 6　Was machst du an diesem Wochenende?　前置詞の格支配　4格支配／3・4格支配	清水光二
第１６回	筆記試験	清水光二

教科書			
教・書籍名１	パノラマ　初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	上野成利、本田雅也	教・ＩＳＢＮ１	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	文法からマスター!　はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10: 481635137X
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ドイツ語とドイツ文化Ⅱ			担当者	清水　光二		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LG-1-023		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、日常的な会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語の基礎的な文法を学びながら（英語との比較も行いつつ）、ドイツ語特有の語法を品詞別あるいは時制別に段階的に理解することになる。
授業概要	この講義は、「ドイツ語Ⅰ」を終了した学生を対象にしている。秋学期を通して学習する主な文法項目は、大体以下のようなものになっている。分離動詞・非分離動詞、接続詞、副文、再帰代名詞、再帰動詞、動詞の過去形と現在完了形、接続法など。文法事項については教師によって説明がなされるが、その後の練習問題や会話・読本部分については毎回学生の積極的な取り組みが求められる。そのためには、授業以外での予習や復習がどうしても必要となる。なお、今回この授業で使うテキストは総合的な文法読本であり、ドイツ語圏の習慣や日常といった文化一般、社会問題等にも触れながら楽しく初級ドイツ語を学べる内容となっている。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえないことである。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

授業計画		担当者
第１回	Lektion 7　Was liest du gren?　形容詞の格変化	清水光二
第２回	Lektion 8　Wohin willst du gehen?　話法の助動詞	清水光二
第３回	Lektion 8　Wohin willst du gehen?　未来形	清水光二
第４回	Lektion 9　Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt?　分離動詞	清水光二
第５回	Lektion 9　Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt?　接続詞と副文	清水光二
第６回	Lektion 10　Hast du vor, München zu besuchen?　zu不定詞	清水光二

第７回	Lektion 10　Hast du vor, München zu besuchen?　再帰代名詞	清水光二
第８回	Lektion 11　Als ich das Museum besuchte, …　動詞の３基本形	清水光二
第９回	Lektion 11　Als ich das Museum besuchte, …　過去形	清水光二
第１０回	Lektion 12　Hast du Weimar besucht?　現在完了形	清水光二
第１１回	Lektion 12　Hast du Weimar besucht?　非人称表現	清水光二
第１２回	Lektion 13　Es wird gesagt, dass …　受動態	清水光二
第１３回	Lektion 13　Es wird gesagt, dass …　比較表現	清水光二
第１４回	Lektion 14　Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast?　関係代名詞	清水光二
第１５回	Lektion 14　Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast?　不定関係代名詞	清水光二
第１６回	筆記試験	清水光二

教科書			
教・書籍名１	パノラマ　初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	上野成利、本田雅也	教・ＩＳＢＮ１	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	文法からマスター! はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	481635137X
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ(文法) １クラス			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-024		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	まずは日本語能力試験Ｎ３レベルの日本語力を確実なものにするため、Ｎ３レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、Ｎ２のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にＮ２レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（文法）、応用日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（読解）、日本語研究ＩＡ/日本語ＩＡ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容

事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習	磯
第２回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習　場面6①	磯
第３回	文法テキスト学習　場面6②	磯
第４回	文法テキスト学習　場面7①	磯
第５回	文法テキスト学習　場面7②	磯
第６回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習①	磯
第７回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習②	磯
第８回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習③	磯
第９回	第１回～第８回授業　総まとめテスト	磯
第１０回	文法テキスト学習　場面8①	磯
第１１回	文法テキスト学習　場面8②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習④	磯
第１２回	文法テキスト学習　場面9①	磯
第１３回	文法テキスト学習　場面9②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑤	磯
第１４回	文法テキスト学習　敬語、副詞、接続詞等①	磯
第１５回	文法テキスト学習　敬語、副詞、接続詞等②	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　Ｎ３文法　スピードマスター	教・出版社名１	Ｊリサーチ出版
教・著者名１	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-036-1
教・書籍名２	ドリル＆ドリル日本語能力試験Ｎ２　文字語彙	教・出版社名2	ＵＮＩＣＯＭ
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-478-3
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ(文法) ２クラス			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-024		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験Ｎ２の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ３レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋Aの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習

の時間	し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第25課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第３回	３．第25課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第４回	４．第28課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第５回	５．第28課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第６回	６．第31課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第７回	７．第31課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第８回	８．第34課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第９回	９．第34課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第１０回	１０．第37課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第１１回	１１．第37課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第１２回	１２．まとめ７　３３課～３７課の復習	井上光恵
第１３回	１３．第40課-１ 漢字・語彙　　文型１-導入・練習	井上光恵
第１４回	１４．第40課-２ 文型２-導入・練習　会話	井上光恵
第１５回	１５．まとめ８　３８課～４２課の復習	井上光恵
第１６回	単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語初級（2）大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-507-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子　辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-487-5
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ(読解) １クラス			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-025		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1~3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④２年次開講日本語関連科目ＩＩの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括、確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	ドリル＆ドリルＮ２文字・語彙	教・出版社名１	ユニコムUNICOM
教・著者名１	星野恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１	日本語総まとめN3　読解	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-766-4
参・書籍名２	日本語総まとめN3　語彙	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ2	978-4-87217-731-2

授業科目名	日本語ＩＡ(読解) ２クラス			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-025		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩA、応用日本語ＩA、日本語研究ＩA）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(20%)で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩA・応用日本語ＩA・日本語研究ＩAの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 ２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。

	予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. ２３課　文法１	久保田
第２回	２．２３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	３．２７課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	４．２７課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５．３０課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	６．３０課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７．３３課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	８．３３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９．３６課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	１０．３６課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	１１．３９課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	１２．３９課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	１３．４２課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	１４．４２課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	１５．　総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-507-7
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5
参考書			
参・書籍名１	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク　初級２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	中村　かおり他著	参・ＩＳＢＮ１	978-488-319-7828
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ(聴解) １クラス			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-026		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目ⅡⅡを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目ⅡⅡを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目ⅡⅡの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光恵
第３回	３．第１章（準備）-２　会話表現	井上光恵
第４回	４．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光恵
第５回	５．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光恵
第６回	６．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光恵
第７回	７．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光恵
第８回	８．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光恵
第９回	９．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光恵
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光恵
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光恵
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光恵
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光恵
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光恵
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ(聴解) ２クラス			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-026		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＢ、応用日本語ＩＢ、日本語研究ＩＢ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２０％)で評価する。この授業では、基礎の文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～3クラスに編成される。 ②日本語Ｉ・応用日本語Ｉ・日本語研究Ｉの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。(社会情勢に応じてＪＬＰＴの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。) ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することもできる。
実務経験のある教員	該当する　内容：日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間

授業計画	担当者

第１回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第２４課　文法１	久保田
第２回	2. 第２４課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	3. 第２７課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	4. 第２７課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５. 第30課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	6. 第30課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７. 第33課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	8. 第33課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９. 第３６課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	10. 第３６課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	10. 第３９課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	12. 第３９課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	13. 第41課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	14. 第41課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195077
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ（文法）クラス１			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2021～2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-027		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	まずは日本語能力試験Ｎ３レベルの日本語力を確実なものにするため、Ｎ３レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、Ｎ２のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にＮ２レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に編成される。履修登録は教務課で一括登録する。 　登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（文法）、応用日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（読解）、日本語研究ＩＡ/日本語ＩＡ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習	磯
第２回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習　場面１①	磯
第３回	文法テキスト学習　場面１②	磯
第４回	文法テキスト学習　場面２①	磯
第５回	文法テキスト学習　場面２②	磯
第６回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習①	磯
第７回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習②	磯
第８回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習③	磯
第９回	第１回～第８回授業　総まとめテスト	磯
第１０回	文法テキスト学習　場面３①	磯
第１１回	文法テキスト学習　場面３②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習④	磯
第１２回	文法テキスト学習　場面４①	磯
第１３回	文法テキスト学習　場面４②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑤	磯
第１４回	文法テキスト学習　場面５①	磯
第１５回	文法テキスト学習　場面５②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑥	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　Ｎ３文法　スピードマスター	教・出版社名１	Ｊリサーチ出版
教・著者名１	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-036-1
教・書籍名２	ドリル＆ドリル日本語能力試験Ｎ２　文字語彙	教・出版社名2	ＵＮＩＣＯＭ
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-478-3

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ（文法）クラス２			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-027		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験Ｎ２の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ３レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋Aの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習

の時間	し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第25課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第３回	３．第25課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第４回	４．第28課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第５回	５．第28課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第６回	６．第31課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第７回	７．第31課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第８回	８．第34課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第９回	９．第34課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第１０回	１０．第37課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第１１回	１１．第37課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第１２回	１２．まとめ７　３３課～３７課の復習	井上光恵
第１３回	１３．第40課-１ 漢字・語彙　　文型１-導入・練習	井上光恵
第１４回	１４．第40課-２ 文型２-導入・練習　会話	井上光恵
第１５回	１５．まとめ８　３８課～４２課の復習	井上光恵
第１６回	単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語初級（2）大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-507-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子　辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-487-5
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ（読解）クラス１			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-028		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1~3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④２年次開講日本語関連科目ＩＩの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。

オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて	
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括、確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	ドリル＆ドリルＮ２文字・語彙	教・出版社名１	ユニコムUNICOM
教・著者名１	星野恵子・辻　和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	日本語総まとめN3　読解	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-766-4
参・書籍名２	日本語総まとめN3　語彙	参・出版社名2	アスク出版

参・著者名2	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ2	978-4-87217-731-2

授業科目名	日本語ＩＢ（読解）クラス２			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2021～2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-028		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩA、応用日本語ＩA、日本語研究ＩA）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(20%)で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩA・応用日本語ＩA・日本語研究ＩAの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 ２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。

	予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. ２３課　文法１	久保田
第２回	２．２３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	３．２７課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	４．２７課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５．３０課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	６．３０課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７．３３課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	８．３３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９．３６課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	１０．３６課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	１１．３９課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	１２．３９課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	１３．４２課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	１４．４２課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	１５．　総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-507-7
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5
参考書			
参・書籍名１	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク　初級２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	中村　かおり他著	参・ＩＳＢＮ１	978-488-319-7828
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ⅠB(聴解) クラス1			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-029		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ⅰ春・応用日本語Ⅰ春・日本語研究Ⅰ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光恵
第３回	３．第１章（準備）-２　会話表現	井上光恵
第４回	４．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光恵
第５回	５．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光恵
第６回	６．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光恵
第７回	７．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光恵
第８回	８．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光恵
第９回	９．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光恵
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光恵
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光恵
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光恵
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光恵
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光恵
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ(聴解) クラス２			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-029		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＢ、応用日本語ＩＢ、日本語研究ＩＢ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２０％)で評価する。この授業では、基礎の文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～3クラスに編成される。 ②日本語Ｉ・応用日本語Ｉ・日本語研究Ｉの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。(社会情勢に応じてＪＬＰＴの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。) ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することもできる。
実務経験のある教員	該当する　内容：日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間

授業計画	担当者

第１回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第２４課　文法１	久保田
第２回	2. 第２４課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	3. 第２７課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	4. 第２７課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５. 第30課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	6. 第30課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７. 第33課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	8. 第33課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９. 第３６課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	10. 第３６課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	10. 第３９課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	12. 第３９課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	13. 第41課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	14. 第41課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195077
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本国憲法			担当者	入江　祥子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SU-1-036		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	＜到達目標＞ 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 ＜テーマ＞ 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。
授業概要	法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。 ＊実務経験のある教員による授業 　本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢３０％、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価３０％、定期試験４０％の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。 原則として、配布物の再配布は行いません。

実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士

事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。 本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させること。
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。

授業計画		担当者
第１回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江　祥子
第２回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江　祥子
第３回	法源とは何か、法の種類	入江　祥子
第４回	憲法とは何か、立憲主義	入江　祥子
第５回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江　祥子
第６回	国民主権の意味、その役割	入江　祥子
第７回	戦争の放棄、日本国憲法第９条	入江　祥子
第８回	人権とは何か、その役割	入江　祥子
第９回	人権の効果	入江　祥子
第１０回	人権の限界、公共の福祉	入江　祥子
第１１回	統治制度について、権力分立	入江　祥子
第１２回	立法権、国会の役割	入江　祥子
第１３回	行政権、内閣の役割	入江　祥子
第１４回	司法権、裁判所の役割	入江　祥子
第１５回	地方自治について	入江　祥子
第１６回	筆記試験	入江　祥子

教科書			
教・書籍名１	各回ごとに配布物を配り、それに従って授業を進める。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	六法	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本国憲法			担当者	入江　祥子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SU-1-036		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	＜到達目標＞ 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 ＜テーマ＞ 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。
授業概要	法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。 ＊実務経験のある教員による授業 　本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢３０％、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価３０％、定期試験４０％の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。 原則として、配布物の再配布は行いません。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：司法書士

事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。 本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させること。
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。

授業計画		担当者
第１回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江　祥子
第２回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江　祥子
第３回	法源とは何か、法の種類	入江　祥子
第４回	憲法とは何か、立憲主義	入江　祥子
第５回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江　祥子
第６回	国民主権の意味、その役割	入江　祥子
第７回	戦争の放棄、日本国憲法第９条	入江　祥子
第８回	人権とは何か、その役割	入江　祥子
第９回	人権の効果	入江　祥子
第１０回	人権の限界、公共の福祉	入江　祥子
第１１回	統治制度について、権力分立	入江　祥子
第１２回	立法権、国会の役割	入江　祥子
第１３回	行政権、内閣の役割	入江　祥子
第１４回	司法権、裁判所の役割	入江　祥子
第１５回	地方自治について	入江　祥子
第１６回	筆記試験	入江　祥子

教科書			
教・書籍名１	各回ごとに配布物を配り、それに従って授業を進める。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	六法	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経済学			担当者	張　秉煥		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SU-1-037		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するのかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

授業計画		担当者
第１回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル	張秉煥
第２回	経済学の主要原理（１）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等	張秉煥
第３回	経済学の主要原理（２）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）	張秉煥
第４回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場	張秉煥
第５回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）	張秉煥
第６回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト１	張秉煥
第７回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用	張秉煥
第８回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用	張秉煥
第９回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例	張秉煥
第１０回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト２	張秉煥
第１１回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１２回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１３回	経済成長と公共政策、７２の法則とその応用、景気変動	張秉煥
第１４回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト３	張秉煥
第１５回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）	張秉煥

第１６回	定期筆記試験		張秉煥
教科書			
教・書籍名１	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	マンキュー入門経済学	参・出版社名１	東洋経済新報社
参・著者名１	N・グレゴリー・マンキュー	参・ＩＳＢＮ１	978-4492315217
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	経済学			担当者	張　秉煥		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SU-1-037		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するのかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

授業計画		担当者
第１回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル	張秉煥
第２回	経済学の主要原理（１）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等	張秉煥
第３回	経済学の主要原理（２）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）	張秉煥
第４回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場	張秉煥
第５回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）	張秉煥
第６回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト１	張秉煥
第７回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用	張秉煥
第８回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用	張秉煥
第９回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例	張秉煥
第１０回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト２	張秉煥
第１１回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１２回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１３回	経済成長と公共政策、７２の法則とその応用、景気変動	張秉煥
第１４回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト３	張秉煥
第１５回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）	張秉煥

第１６回	定期筆記試験		張秉煥
教科書			
教・書籍名１	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	マンキュー入門経済学	参・出版社名１	東洋経済新報社
参・著者名１	N・グレゴリー・マンキュー	参・ＩＳＢＮ１	978-4492315217
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	社会学			担当者	黒宮　亜希子、稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SU-1-038		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	テーマ：基礎社会学を学ぶ（社会学とは何か？、労働・教育・地域・家族等の視点より） 到達目標：社会学の基本的な定義・考え方、具体的な社会問題、人口問題と環境、現代家族、教育、産業・労働の領域における現状と問題を理解し、その解決法を考えることとする。 受講生らが生きている現代社会の仕組みや出来事に関する理解を深める。 この講義を通じて、現代社会の様々な制度と問題を理解すること、また、自分の考えを文章で言語化し、記述する能力を向上することも併せて目標とする。
授業概要	この講義の目的は、社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、講義で学習した社会学的な見方、考え方を応用し、受講生の周囲で起こっている実際の出来事について考えることが出来るようにすることである。 具体的には、現代家族の変化、教育問題、非正規社員の増加と経済的格差、人口構造の変化などを取り上げる。 それによって学生たちは問題を理解し、社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中課題（40%）・定期試験（60%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題はコメントを入れ返却を行う。
履修条件・注意事項	・2名の教員がオムニバス形式で進行する。 ・毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。ファイル等で各自保管しておくこと。 ・日本語で自身の考えを記述する力が求められるため、日本語の力がまだ十分ではない留学生の受講に際してはやや注意を要する。 ・授業計画の内容は、進捗状況に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	黒宮：月曜4限（14625） 稲元：火曜3限（14611）

授業計画		担当者
第１回	授業オリエンテーション	黒宮・稲元
第２回	身近な社会学（1）地位と役割	黒宮

第３回	身近な社会学（2）ラベリング・スティグマ	黒宮
第４回	教育の社会学（1）学校とはなにか	稲元
第５回	教育の社会学（2）教育をめぐる諸問題	稲元
第６回	家族の社会学（1）家族とその変化	黒宮
第７回	家族の社会学（2）家族とジェンダー	黒宮
第８回	労働の社会学（1）学校から職場へ	稲元
第９回	労働の社会学（2）働くことの社会的な位置づけ	稲元
第１０回	地域の社会学（1）地域、コミュニティとは	黒宮
第１１回	地域の社会学（2）地域社会の今	黒宮
第１２回	自己と他者の社会学（1）他者のまなざし	稲元
第１３回	自己と他者の社会学（2）コミュニケーション	稲元
第１４回	社会問題を社会学する（講義、小括）	黒宮
第１５回	社会問題を社会学する（講義、小括）	稲元
第１６回	筆記試験	黒宮・稲元

教科書			
教・書籍名１	資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	授業内容に応じて適宜、文献を紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会学			担当者	赤坂　真人		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SU-1-038		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ 社会学入門（社会学とは何か・人口論・家族・教育・産業と労働） 到達目標 社会学の定義と考え方を学び、そのうえで現代社会の人口、現代家族、教育、産業と労働の現状について述べる。次に、明確に意識されていない現代社会の様々な制度と問題を明確に認識させ、毎回実施する小テスト（記述式）で社会問題に対する自分自身の考えをまとめ、文章で記述・説明する能力を鍛える。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
授業概要	この講義の目的は、社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、次に講義で学習した社会学的な見方、考え方を応用し、学生の周囲で起こっている日常の出来事について考えさせることである。具体的には人口減少に伴って起こる様々な問題、人口高齢化と年金・医療保険の問題、現代家族の変化、晩婚化・非婚化、教育の社会的意義、AI 化とこれからの教育、Society5.0における産業と労働、経済的格差、日本の経済不況と対策などを取り上げる。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中の小テスト（50%）・定期試験（50%）によって評価する。小テストは採点し、コメントつけて返却するので必ず復習すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義の最後20分間を使って、毎回論述式の小試験を行う。メールにより解答し教員の授業用メールボックスに返送する。教員は学生一人一人の論述に対し400～500字のコメントを書いて学生に返却する。教員からのコメントに対してさらに意見を述べた場合、それに対して再びコメント書いて返却する。
履修条件・注意事項	講義時間が減少するので学生の名前を読み上げて出席を取ることはしない。カードによる出席チェックの不正をしない。日本語が分からないと講義についてゆけないので留学生は履修の際、十分留意すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜4限（15：10～16：40）に、研究室（9309）にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	1.人間が社会を作るまで。2群れ（社会）で生きる人間。3.人間社会の大変動。	赤坂
第２回	1.社会学とは何か。2.社会のわかりにくさ。3.他の人間科学との相違。4.社会学の利用法。	赤坂
第３回	1.世界の人口動向。2.人口転換理論。3.日本の人口推移。4.少子高齢化。5.晩婚化と非婚化。	赤坂
第４回	1.生涯未婚率の推移。2.世界最速の高齢化。3.少子高齢化と経済の縮小・社会保障の危機。	赤坂

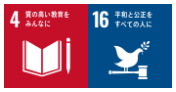
第５回	1.家族とは何か。2.家族の類型。３.世帯・親族・親戚。4.社会制度としての結婚。	赤坂
第６回	1.結婚の社会的規制。2.非婚社会：日本。3.非婚化の経済的原因。4.非婚化の生物学的原因	赤坂
第７回	1.解体する家族。２.現代家族の問題。3.下流化する中高年。4.現代家族の病理と法的問題。	赤坂
第８回	1.液状化する社会。２.避けられぬ人口減少。3.男性未婚者。4.職業と未婚。5.世代間の不平等。	赤坂
第９回	1.教育の機能。2.メリトクラシーの崩壊と階層の固定化。3.学力低下論争。4.学力の二極化	赤坂
第１０回	1.教師の多忙化と燃え尽き。２.いじめ問題。3.校内暴力。4.不登校。5.学校は魅力を失ったか？	赤坂
第１１回	1.教育と職業。2.大学教育は仕事の役に立つか？3.中間集団としての学校。4.ニートの人々	赤坂
第１２回	1.産業の分類。2.賃金と労働。3.日本人の労働時間と失業率。4.日本的経営の終わりと没落。	赤坂
第１３回	1.日本経済の矛盾。2.生産性の低さ。3.日本経済没落の原因。4.経済再生の課題	赤坂
第１４回	1.職業とジェンダー。2.職業と階層。3.階層間格差。4.AI化と労働の未来	赤坂
第１５回	1.AI の進化と社会変動　2.インフォテック。3.フードテック。4.画像認識。5.拡張現実・その他	赤坂
第１６回	筆記試験	赤坂

教科書			
教・書籍名１	基礎社会学	教・出版社名１	ふくろう出版
教・著者名１	赤坂真人	教・ＩＳＢＮ１	978-4861864278
教・書籍名２	毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。	教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	講義中に約30冊の文献を紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	哲学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-039		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。
オフィスアワー	月曜５限257研究室

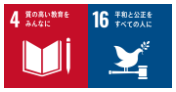
授業計画		担当者
第１回	1.「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり	山本
第２回	初期の「哲学者」たち	山本
第３回	エレア派とその影響	山本
第４回	ソクラテスとその影響	山本
第５回	プラトン	山本
第６回	アリストテレスの哲学	山本
第７回	アリストテレスの第一哲学	山本
第８回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況	山本
第９回	西欧文明の成立	山本
第１０回	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革	山本

第１１回	ルネサンスと科学革命	山本
第１２回	科学革命と政治哲学	山本
第１３回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本
第１４回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名１	岩波新書
参・著者名１	熊野純彦	参・ＩＳＢＮ１	9784004310075
参・書籍名２	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	哲学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-039		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。
オフィスアワー	月曜５限257研究室

授業計画		担当者
第１回	1.「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり	山本
第２回	初期の「哲学者」たち	山本
第３回	エレア派とその影響	山本
第４回	ソクラテスとその影響	山本
第５回	プラトン	山本
第６回	アリストテレスの哲学	山本
第７回	アリストテレスの第一哲学	山本
第８回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況	山本
第９回	西欧文明の成立	山本
第１０回	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革	山本

第１１回	ルネサンスと科学革命	山本
第１２回	科学革命と政治哲学	山本
第１３回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本
第１４回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名１	岩波新書
参・著者名１	熊野純彦	参・ＩＳＢＮ１	9784004310075
参・書籍名２	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学 （経営・スポ・心理）			担当者	津川　秀夫、藤原　直子、土居　正人、橋本　翠、村上　勝典、若森　孝彰、森井　康幸、宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-040		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。学生は，人が生活している環境からいかに情報を取り入れ，蓄積し，利用するのか，あるいは，いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して，心理学のおもしろさに触れることができる。
授業概要	心理学は知覚、認知、発達、社会、パーソナリティーなどさまざまな領域において様々な研究が行われている。本講義では，いくつかの領域における研究対象，方法，得られた知見等の解説をオムニバス形式で行う。 ☒
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	小テスト(50%) と定期テスト(50%) の成績により評価する。 ただし、受講態度の悪い学生（私語、飲食、内職等・・・）については，この限りではない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストについては、授業中にフィードバックするので、定期試験に向けて、見直すこと。
履修条件・注意事項	テキストは使用しないので，集中して講義に参加すること。 授業担当者ごとに，2回に１回くらいの割合で小テストを行うので，特に復習には力を入れること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	基本的には、講義内で配布された資料をもとに復習すること。（2時間） テキストは使用しないが、一般的な心理学の本で該当箇所を対照させながら学ぶことが重要である（2時間）。体験的に学びを深めたい学生には、心理学実験への参加・協力をお願いする。
オフィスアワー	森井：月４　津川：月4　藤原：月2　橋本：月5　宇都宮：火4　土居：月2　村上：木3　　各教員研究室

授業計画		担当者
第１回	(1) オリエンテーション	全員
第２回	(2) 外界を探るこころの働き	橋本
第３回	(3) 感覚と知覚	橋本
第４回	(4) 記憶のふしぎ	森井
第５回	(5) 本能と学習	森井
第６回	(6) 性格とは	土居
第７回	(7) 心理検査について	土居

第８回	(8) 乳幼児期～青年期の発達	宇都宮
第９回	(9) 青年期の人間関係と心理	宇都宮
第１０回	(10) 対人認知	村上
第１１回	(11) 態度変容	村上
第１２回	(12) ストレス	藤原
第１３回	(13) ストレスと考え方	藤原
第１４回	(14) カウンセリング	津川
第１５回	(15) カウンセリングの実際	津川
第１６回	(16) 定期試験(筆記)	全員

教科書			
教・書籍名１	教科書は使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	心理学 (New Liberal Arts Selection)	参・出版社名１	有斐閣
参・著者名１	無藤・遠藤・玉瀬・森	参・ＩＳＢＮ１	978-4641053694
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	多様性の理解			担当者				末吉　秀二
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング				GE-PD-1-041
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味がもてるようになる。
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60%）、授業態度/積極性（20%）、課題レポート（20%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートの返却時に講評する。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	末吉秀二
第２回	古代オリエント	末吉秀二
第３回	アラブ・イスラーム世界の形成	末吉秀二
第４回	オスマン帝国とアラブ	末吉秀二
第５回	近・現代のアラブ社会	末吉秀二
第６回	アラビア語の基礎（文字と発音）	末吉秀二
第７回	アラビア語の基礎（文法）	末吉秀二
第８回	預言者ムハンマド	末吉秀二
第９回	コーラン	末吉秀二
第１０回	イスラーム法（シャリーア）	末吉秀二
第１１回	イスラーム文化（衣・食・住）	末吉秀二
第１２回	イスラーム文化（スーク/メディナ）	末吉秀二
第１３回	パレスチナ問題	末吉秀二

第１４回	事例研究（ヨルダン）	末吉秀二
第１５回	多文化理解（論文輪読）	末吉秀二
第１６回	単位認定試験	末吉秀二

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	イスラーム文化	参・出版社名１	岩波文庫
参・著者名１	井筒俊彦	参・ＩＳＢＮ１	4-00-331851-X
参・書籍名２	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2	中央公論社
参・著者名2	池内　恵	参・ＩＳＢＮ2	978-412-003990-4

授業科目名	多様性の理解			担当者	末吉　秀二		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-041		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味がもてるようになる。
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60%）、授業態度/積極性（20%）、課題レポート（20%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートの返却時に講評する。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	課題レポートの返却時に講評する。 予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	末吉秀二
第２回	古代オリエント	末吉秀二
第３回	アラブ・イスラーム世界の形成	末吉秀二
第４回	オスマン帝国とアラブ	末吉秀二
第５回	近・現代のアラブ社会	末吉秀二
第６回	アラビア語の基礎（文字と発音）	末吉秀二
第７回	アラビア語の基礎（文法）	末吉秀二
第８回	預言者ムハンマド	末吉秀二
第９回	コーラン	末吉秀二
第１０回	イスラーム法（シャリーア）	末吉秀二

第１１回	イスラーム文化（衣・食・住）	末吉秀二
第１２回	イスラーム文化（スーク/メディナ）	末吉秀二
第１３回	パレスチナ問題	末吉秀二
第１４回	事例研究（ヨルダン）	末吉秀二
第１５回	多文化理解（論文輪読）	末吉秀二
第１６回	単位認定試験	末吉秀二

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	イスラーム文化	参・出版社名１	岩波文庫
参・著者名１	井筒俊彦	参・ＩＳＢＮ１	4-00-331851-X
参・書籍名２	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2	中央公論社
参・著者名2	池内　恵	参・ＩＳＢN2	978-412-003990-4

授業科目名	文章力の基礎			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-042		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。 大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受検に対しての指導も行う。
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の６つ領域で構成している。 学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一歩一歩着実に高めていくことができる。 毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、授業態度（15%）、小テスト・復習テスト（15%）によって総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のＮ２（２級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受検を目標にして学修に取り組むことが望ましい。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	「日本語検定３級」に挑戦	雲津 英子
第２回	はじめに	雲津 英子
第３回	敬語の種類と使い分け	雲津 英子
第４回	注意すべき敬語	雲津 英子

第５回	配慮を示す言葉		雲津 英子
第６回	品詞・活用の種類		雲津 英子
第７回	ら抜き言葉・さ入れ言葉		雲津 英子
第８回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文		雲津 英子
第９回	接続後・指示語と文章		雲津 英子
第１０回	類義語・対義語		雲津 英子
第１１回	動詞の自他・視点		雲津 英子
第１２回	文体、話し言葉・書き言葉		雲津 英子
第１３回	コロケーション		雲津 英子
第１４回	部首・音訓・熟語		雲津 英子
第１５回	仮名遣い・送り仮名		雲津 英子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）		雲津 英子
教科書			
教・書籍名１	スキルアップ！ 日本語力―大学生のための日本語練習帳―	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	名古屋大学日本語研究会ＧＫ７	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-80364-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	文章力の基礎			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-042		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。 大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受検に対しての指導も行う。
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の６つ領域で構成している。 学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一歩一歩着実に高めていくことができる。 毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、授業態度（15%）、小テスト・復習テスト（15%）によって総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のＮ２（２級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受検を目標にして学修に取り組むことが望ましい。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	「日本語検定３級」に挑戦	雲津 英子
第２回	はじめに	雲津 英子
第３回	敬語の種類と使い分け	雲津 英子
第４回	注意すべき敬語	雲津 英子

第５回	配慮を示す言葉		雲津 英子
第６回	品詞・活用の種類		雲津 英子
第７回	ら抜き言葉・さ入れ言葉		雲津 英子
第８回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文		雲津 英子
第９回	接続後・指示語と文章		雲津 英子
第１０回	類義語・対義語		雲津 英子
第１１回	動詞の自他・視点		雲津 英子
第１２回	文体、話し言葉・書き言葉		雲津 英子
第１３回	コロケーション		雲津 英子
第１４回	部首・音訓・熟語		雲津 英子
第１５回	仮名遣い・送り仮名		雲津 英子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）		雲津 英子
教科書			
教・書籍名１	スキルアップ！ 日本語力―大学生のための日本語練習帳―	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	名古屋大学日本語研究会ＧＫ７	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-80364-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	美術の見方			担当者	前嶋　英輝		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-043		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	学生は、「自分なりの美術の見方を確立する」ことをテーマとして、美術作品について広い知識を持ち、自分の言葉で語ることができる能力を身につける。美術作品の「見方」の２つの可能性を考えてみる。１つめは、美術作品について客観的に知識として学習する見方であり、２つ目は、主観的に興味を持ち疑問を投げかけてみるような見方である。前者にはある程度の答えがあり、後者には答えは無い。この授業では、２つの見方を組み合わせて対話型鑑賞を行う。学生は、美術の見方を考えることで、自分の美術の見方ができるようになることを到達目標とする。
授業概要	毎回映像資料による対話型鑑賞を行う。毎回、先行研究として示されている各時代の作品の属性や意味、時代背景などについて学問的な検討を行う。　鑑賞の仕方を学ぶことが目的であるから、とにかく多くの美術作品にふれ、授業で紹介される作品について、自分なりに調べてみることが大切である。自分で考えた疑問などについて、授業内の対話や毎回の小レポートの中で深める事が大切である。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	この科目では、芸術について理解し自分の視点で鑑賞できる能力を身につけることを目的としていることから、発言を含む毎回のレポート（６0点）、 到達目標達成度を見る期末試験（40%）の割合によって評価を行う。詳しい評価内容については、最初の授業で説明する。課題については、評価すると同時に、結果を伝えながら指導を行い、フィードバックして学習の積み重ねの資料とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の小レポートについては、代表的なものを次回取り挙げてコメントしディスカッションの題材とすることでフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	事前に次回の授業内容を指示するので、美術作品について興味を持ち検索などで予習を行うことが必要である。また積極的に討論に参加するためにノートなどをもとに復習を行うことが重要である。対話型鑑賞では、自分の視点で意見を述べることが重要である。できれば自主的に美術館を訪れることを薦める。期末試験では、到達目標の理解度を見るため十分な復習が必 要である。 初回の授業で芸術作品についての調べ方や授業の進め方について詳しく説明する。

実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。 中学校・高等学校での美術科教員および短期大学での美術担当教員、全国公募展審査員、彫刻家

事前学習・事後学習とその時間	美術に関する書籍やネットの情報を参照し、授業のテーマに沿った内容について予習復習をおこなう。美術館などに鑑賞に出かけることも重要である。　1コマ毎の授業に予習 2 時間、復習 2 時間が必要である。
オフィスアワー	２号館６階の前嶋研究室において、毎週月曜日５時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	対話型鑑賞と美術の見方	前嶋英輝
第２回	世界の美術館散歩	前嶋英輝
第３回	美術教育と人間形成・現代美術	前嶋英輝
第４回	古代オリエント	前嶋英輝
第５回	ギリシャ・ローマ・中世	前嶋英輝
第６回	ルネサンス・バロック・ロココ	前嶋英輝
第７回	新古典主義・印象派	前嶋英輝
第８回	後期印象派以降・セザンヌとキュービズム	前嶋英輝
第９回	インド美術とイスラム美術・東南アジアの美術	前嶋英輝
第１０回	仏教美術の誕生とシルクロードの美術	前嶋英輝
第１１回	飛鳥～平安・韓国美術の影響	前嶋英輝
第１２回	鎌倉～室町・仏教彫刻・絵巻物・水墨画	前嶋英輝
第１３回	安土桃山・障屏画	前嶋英輝
第１４回	江戸・浮世絵・町人の美術	前嶋英輝
第１５回	明治以降の美術・西洋美術の影響	前嶋英輝
第１６回	単位認定試験	前嶋英輝

教科書			
教・書籍名１	適宜プリントなどを配布する。予習復習も配布プリントによって行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	テキスト名：絵画をいかに味わうか	参・出版社名１	平凡社
参・著者名１	著者：ヴィクトル・I・ストイキツァ	参・ＩＳＢＮ１	978-4582206371
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	生涯スポーツ論 経社・心理・アニメ			担当者	羽野　真哉		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-044		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：年齢に応じたスポーツとの関わり方について理解する。 到達目標：学生が年齢に応じた「スポーツ」に参加することの意味を理解し、グループワークやディスカッションすることによって自らの言葉で伝えられるようになる。
授業概要	少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味は多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。具体的には、①生涯スポーツの概念や歴史、現状についての基礎的理解、②幼少年のスポーツ、新しいスポーツ、地域総合型スポーツクラブの現状と課題、スポーツと環境問題、スポーツ少年団の将来像について取り上げる。 これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通したスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。 なお、本演習は学校教員（保健体育）の実務経験者が担当し、学校現場の実態などを踏まえた討議などを行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	定期試験とレポートおよび授業態度にて評価する。定期試験を５０％とし、レポートの記述内容３０％、授業での積極的発言など授業態度を２０％とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内に行う課題については、授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	授業内で配布される資料は各自でファイルにまとめ予習復習を行うこと。 授業内容を自分なりの考察も含めノートにまとめること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、本学硬式野球部で監督経験を持つ教員が、その経験を活かし、指導現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように、テキストの指定されたページをまとめるなど予習してくること。また、配布した資料や、講義内容を踏まえて学期末の定期試験を出題するので、授業終了後にノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習復習についてはそれぞれ2時間程度行うこと。
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室において、毎週金曜日２時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	スポーツ本来の姿	羽野
第２回	スポーツ観の返還	羽野
第３回	スポーツする身体	羽野
第４回	運動・スポーツとメンタルヘルス	羽野
第５回	スポーツの技術	羽野

第６回	体力について	羽野
第７回	心とスポーツ	羽野
第８回	発育・発達とスポーツ	羽野
第９回	現代社会とスポーツ	羽野
第１０回	スポーツの上達法	羽野
第１１回	健康のためのスポーツ	羽野
第１２回	スポーツと教育	羽野
第１３回	スポーツと経済	羽野
第１４回	スポーツ動作の分析	羽野
第１５回	競技スポーツと生涯スポーツ	羽野
第１６回	試験	筆記試験

教科書			
教・書籍名１	生涯スポーツの理論と実際	教・出版社名１	大修館書店
教・著者名１	日下 裕弘（著), 加納 弘二（著）	教・ＩＳＢＮ１	978-4469266986
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	生涯スポーツ実践論	参・出版社名１	市村出版
参・著者名１	野川春夫 (著), 川西正志 (著)	参・ＩＳＢＮ１	978-4902109290
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生涯スポーツ実習 （アニメ・心理・経社）			担当者	天岡　寛		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-PD-1-045		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	学生は実習通して、スポーツの楽しさを理解し、好きになってもらう。スポーツの楽しさである、人と関わる楽しさ、極める楽しさ、協力する楽しさ、創意工夫する楽しさ、考える楽しさ、勝敗の楽しさを理解することができる。 近年、社会環境の変化による、外遊びの減少、運動経験不足、基礎運動能力の低下が挙げられる。自分自身の体を自由自在に動かすことができるように、全身のコーディネーションと体幹の安定化を高める事ができる。全身持久力を高める事ができるようにボールを使った球技の中で、たくさんのボールにさわり、たくさんプレーすることによって高めることができる。 ☒
授業概要	球技（バスケットボール、フットサル、卓球、バトミントン）を通してルールを守り、仲間と助けあうことを体感する。 気軽にできる体幹トレーニングにより、基礎筋力、全身コーディネーションを高める。 ストレッチを学び、怪我予防を学ぶことができる。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	受講態度（50%）及び理解度（50%） 全力で取り組み、技術習得に努めてたか。 仲間と協力して、目的にむかってプレーしているか。 授業のマナー・ルールを守っているか。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために競技のルール等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	体育館シューズを準備。 運動できる服装の準備（ジーンズ等は認めない） 水分（水、スポーツ飲料、お茶）の準備 競技に関する競技規則等について、復習及び指示された予習を行うこと.
実務経験のある教員	該当する　内容：健康運動指導士
事前学習・事後学習とその時間	日ごろからスポーツや健康に興味関心を持つこと.
オフィスアワー	水曜日4時限目　9号館4階研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	天岡
第２回	卓球	天岡
第３回	卓球	天岡

第４回	バスケットボール	天岡
第５回	バスケットボール	天岡
第６回	フットサル	天岡
第７回	フットサル	天岡
第８回	バトミントン	天岡
第９回	バトミントン	天岡
第１０回	器具を使用しての筋力トレーニング	天岡
第１１回	器具を使用しての筋力トレーニング　2	天岡
第１２回	自体重でできる筋力トレーニング	天岡
第１３回	自体重でできる筋力トレーニング　2	天岡
第１４回	フットサル　ゲーム１	天岡
第１５回	フットサル　ゲーム２	天岡
第１６回	単位認定試験	天岡

教科書			
教・書籍名１	実習科目につき教科書は使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	適宜指示する.	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	数的理解			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NS-1-046		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。
オフィスアワー	月曜5限

授業計画		担当者
第１回	数的推理：濃度	山本
第２回	数的推理：速さ・距離・時間	山本
第３回	数的推理：ものの値段と個数	山本
第４回	数的推理：定価・原価・利益	山本
第５回	数的推理：割合と値段	山本
第６回	数的推理：仕事算	山本
第７回	資料解釈：表の読み取り＆資料の読み取り	山本
第８回	数的推理：順列と組み合わせ	山本
第９回	数的推理：確率のとらえ方	山本
第１０回	判断推理：集合	山本
第１１回	判断推理：推論	山本

第１２回	判断推理：ものの流れと比率＆ブラックボックス	山本
第１３回	資料解釈：グラフの領域	山本
第１４回	判断推理：論証	山本
第１５回	空間把握：立体の展開図・断面	山本
第１６回	単位認定試験	山本

教科書			
教・書籍名１	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名１	永岡書店
教・著者名１	柳本新二	教・ＩＳＢＮ１	9784522460122
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	数的理解			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NS-1-046		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。
オフィスアワー	月曜5限

授業計画		担当者
第１回	数的推理：濃度	山本
第２回	数的推理：速さ・距離・時間	山本
第３回	数的推理：ものの値段と個数	山本
第４回	数的推理：定価・原価・利益	山本
第５回	数的推理：割合と値段	山本
第６回	数的推理：仕事算	山本
第７回	資料解釈：表の読み取り＆資料の読み取り	山本
第８回	数的推理：順列と組み合わせ	山本
第９回	数的推理：確率のとらえ方	山本
第１０回	判断推理：集合	山本
第１１回	判断推理：推論	山本

第１２回	判断推理：ものの流れと比率＆ブラックボックス	山本
第１３回	資料解釈：グラフの領域	山本
第１４回	判断推理：論証	山本
第１５回	空間把握：立体の展開図・断面	山本
第１６回	単位認定試験	山本

教科書			
教・書籍名１	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名１	永岡書店
教・著者名１	柳本新二	教・ＩＳＢＮ１	9784522460122
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	化学			担当者	秋山　純一		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NS-1-047		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	7．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／9．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく，現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は，物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし，それらの性質，構造，反応性などを実証的に解き明かす。１８世紀後半から学問として体系付けられ，幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら，現代化学へと発展してきた。今日では，複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど，私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ，暮らしを豊かに，快適にしてくれている。一方，分子という考えの導入により，生命現象を化学的に解釈できるようになり，また生命現象を遺伝しのレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では，地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は香粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了毎および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。

授業計画		担当者
第１回	原子・分子の構造	秋山純一
第２回	化学結合	秋山純一

第３回	同位体と放射能	秋山純一
第４回	周期律表	秋山純一
第５回	化学反応、結合	秋山純一
第６回	酸化と還元（反応物質）	秋山純一
第７回	酸化と還元（燃料電池他）	秋山純一
第８回	物質の分類（金属、非金属）	秋山純一
第９回	水の化学（特性、硬度、pH）	秋山純一
第１０回	有機化合物の構造分類	秋山純一
第１１回	有機化合物の置換基分類	秋山純一
第１２回	有機合成の反応分類	秋山純一
第１３回	高分子化合物（天然）	秋山純一
第１４回	高分子化合物（合成）	秋山純一
第１５回	界面の化学（洗剤、乳化）	秋山純一
第１６回	単位認定試験	秋山純一

教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	教養の現代化学	参・出版社名１	三共出版
参・著者名１	多賀　光彦／共著　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	化学			担当者	秋山　純一		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NS-1-047		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	7．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／9．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく，現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は，物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし，それらの性質，構造，反応性などを実証的に解き明かす。１８世紀後半から学問として体系付けられ，幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら，現代化学へと発展してきた。今日では，複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど，私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ，暮らしを豊かに，快適にしてくれている。一方，分子という考えの導入により，生命現象を化学的に解釈できるようになり，また生命現象を遺伝しのレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では，地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は香粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了毎および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。

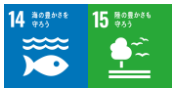
授業計画		担当者
第１回	原子・分子の構造	秋山純一
第２回	化学結合	秋山純一

第３回	同位体と放射能	秋山純一
第４回	周期律表	秋山純一
第５回	化学反応、結合	秋山純一
第６回	酸化と還元（反応物質）	秋山純一
第７回	酸化と還元（燃料電池他）	秋山純一
第８回	物質の分類（金属、非金属）	秋山純一
第９回	水の化学（特性、硬度、pH）	秋山純一
第１０回	有機化合物の構造分類	秋山純一
第１１回	有機化合物の置換基分類	秋山純一
第１２回	有機合成の反応分類	秋山純一
第１３回	高分子化合物（天然）	秋山純一
第１４回	高分子化合物（合成）	秋山純一
第１５回	界面の化学（洗剤、乳化）	秋山純一
第１６回	単位認定試験	秋山純一

教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	教養の現代化学	参・出版社名１	三共出版
参・著者名１	多賀　光彦／共著　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生物学			担当者	香田　康年		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NS-1-048		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう 
到達目標	【テーマ】 学生が、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なせそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。 【到達目標】 まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味がことなることを理解する。さらに生物のシンカがどのうような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。
授業概要	○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。 ○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容，範囲などは受講生の了解をとりながら適宜変更する。 ○ 受講生は，講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば，次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80%）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20%）で評価する。 ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。 各小テストは，論述記述式である。 講義の内容から，重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。 授業をとっていない友人に分かるような説明記述ができていることが，採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	過去の授業内容について度々Ｑ＆Ａを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。 複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。

履修条件・注意事項	受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。 教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名されてから発言すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	【復習】 授業内容は常識と異なることが多く，授業は前回までの理解を前提に進めるので，毎回必ず復習し，理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。 復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように，充分理解し，ノート整理しておくこと。 【予習】 過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。

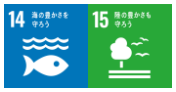
授業計画		担当者
第１回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？	香田康年
第２回	生物のシンカと一般用語としての「進化」	香田康年
第３回	生物のシンカの起こる仕組み	香田康年
第４回	なぜたくさんの生物がいるのか？　なぜ人間がいるのか？	香田康年
第５回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？	香田康年
第６回	科学とはどのような学問か？	香田康年
第７回	生物とは？	香田康年
第８回	どんな生物、どんな動物がいるのか？	香田康年
第９回	遺伝子と遺伝子の発現	香田康年
第１０回	本能と学習と理性の関係	香田康年
第１１回	利己的行動と利他的行動	香田康年
第１２回	非血縁者間の利他行動のシンカ	香田康年
第１３回	ゲーム理論とシンカ	香田康年
第１４回	様々な対人関係心理のシンカ	香田康年
第１５回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ	香田康年
第１６回	最終試験（記述式筆記試験）	香田康年

教科書			
教・書籍名１	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	「進化と人間行動」	参・出版社名１	東京大学出版会
参・著者名１	長谷川寿一、長谷川眞理子	参・ＩＳＢＮ１	4－13－012032－8
参・書籍名２	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ＩＳＢＮ2	978-4-569-76860-1

授業科目名	生物学			担当者	香田　康年		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NS-1-048		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう 
到達目標	【テーマ】 学生が、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なせそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。 【到達目標】 まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味がことなることを理解する。さらに生物のシンカがどのうような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。
授業概要	○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。 ○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容，範囲などは受講生の了解をとりながら適宜変更する。 ○ 受講生は，講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば，次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80%）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20%）で評価する。 ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。 各小テストは，論述記述式である。 講義の内容から，重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。 授業をとっていない友人に分かるような説明記述ができていることが，採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	過去の授業内容について度々Ｑ＆Ａを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。 複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。

履修条件・注意事項	受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。 教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名されてから発言すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	【復習】 授業内容は常識と異なることが多く，授業は前回までの理解を前提に進めるので，毎回必ず復習し，理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。 復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように，充分理解し，ノート整理しておくこと。 【予習】 過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。

授業計画		担当者
第１回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？	香田康年
第２回	生物のシンカと一般用語としての「進化」	香田康年
第３回	生物のシンカの起こる仕組み	香田康年
第４回	なぜたくさんの生物がいるのか？　なぜ人間がいるのか？	香田康年
第５回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？	香田康年
第６回	科学とはどのような学問か？	香田康年
第７回	生物とは？	香田康年
第８回	どんな生物、どんな動物がいるのか？	香田康年
第９回	遺伝子と遺伝子の発現	香田康年
第１０回	本能と学習と理性の関係	香田康年
第１１回	利己的行動と利他的行動	香田康年
第１２回	非血縁者間の利他行動のシンカ	香田康年
第１３回	ゲーム理論とシンカ	香田康年
第１４回	様々な対人関係心理のシンカ	香田康年
第１５回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ	香田康年
第１６回	最終試験（記述式筆記試験）	香田康年

教科書			
教・書籍名１	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	「進化と人間行動」	参・出版社名１	東京大学出版会
参・著者名１	長谷川寿一、長谷川眞理子	参・ＩＳＢＮ１	4－13－012032－8
参・書籍名２	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ＩＳＢＮ2	978-4-569-76860-1

授業科目名	環境科学			担当者	秋山　純一		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NS-1-049		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。
授業概要	ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見的な問題意識を持ちどの様に対処すべきるかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。　試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習（1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。

授業計画		担当者
第１回	環境と人間のかかわりあい	秋山純一

第２回	環境における人類危機要因	秋山純一
第３回	生態系と人間	秋山純一
第４回	食物連鎖	秋山純一
第５回	物質循環	秋山純一
第６回	紫外線（作用と分類）	秋山純一
第７回	紫外線と皮膚（臨床）	秋山純一
第８回	紫外線と皮膚（防御）	秋山純一
第９回	オゾン層の破壊（原因）	秋山純一
第１０回	オゾン層の破壊（対策）	秋山純一
第１１回	環境ホルモン（作用）	秋山純一
第１２回	環境ホルモン（分類）	秋山純一
第１３回	環境ホルモン（影響）	秋山純一
第１４回	地球温暖化（原因）	秋山純一
第１５回	地球温暖化（対策）	秋山純一
第１６回	単位認定試験	秋山純一

教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	環境科学入門	参・出版社名１	化学同人
参・著者名１	川合　真一郎　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	環境科学			担当者	秋山　純一		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2022年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NS-1-049		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。
授業概要	ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見的な問題意識を持ちどの様に対処すべきるかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。　試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習（1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。

授業計画		担当者
第１回	環境と人間のかかわりあい	秋山純一

第２回	環境における人類危機要因	秋山純一
第３回	生態系と人間	秋山純一
第４回	食物連鎖	秋山純一
第５回	物質循環	秋山純一
第６回	紫外線（作用と分類）	秋山純一
第７回	紫外線と皮膚（臨床）	秋山純一
第８回	紫外線と皮膚（防御）	秋山純一
第９回	オゾン層の破壊（原因）	秋山純一
第１０回	オゾン層の破壊（対策）	秋山純一
第１１回	環境ホルモン（作用）	秋山純一
第１２回	環境ホルモン（分類）	秋山純一
第１３回	環境ホルモン（影響）	秋山純一
第１４回	地球温暖化（原因）	秋山純一
第１５回	地球温暖化（対策）	秋山純一
第１６回	単位認定試験	秋山純一

教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	環境科学入門	参・出版社名１	化学同人
参・著者名１	川合　真一郎　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経営学総論			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	SS-BU-1-101		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「経営学の全体像の理解」がテーマである。到達目標は、この講義を通じて経営学の基礎知識、企業に関する基礎知識を習得し、それを活用して経営学の用語の説明、応用ができるようにすることが目標である。また、経営学の全体像を理解することを目標とする。さらに、次のような能力が養成されることを目標にする。教科書と資料を読み、調べることによって、読む力、調べられる力が養われる。企業経営の仕組みを調べて、それを整理し、まとめる力を涵養する。さらに、講義の内容について質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力が養われる。
授業概要	講義概要と目的は次のとおりである。経営学は社会科学の1分野であり、我々が生きていく上で関わりが深い重要な学問である。 　本講義では、経営学に関する基礎的な概念と理論を中心にとりあげ、わかりやすく解説し、それを理解することを狙いとする。講義内容は、株式会社の仕組み、日本の雇用制度、競争戦略のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ、組織構造のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄなどである。また、講義は教科書を中心に進行し、必要に応じて参考資料を配布する。皆様はこの講義を通して経営学の基礎的な知識を学び、それを活用することができる。ﾋﾞﾃﾞｵ教材も活用する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	授業態度・貢献度(40%)、単位認定試験(60%)によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	教科書購入。積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、ﾒｰﾙ、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。教科書あるいは配布した資料を事前によく読むこと。また、毎回復習をして、自分のものにしておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前には参考資料の予習(毎回2時間)と講義後には復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	姜
第２回	2.企業経営の全体像	姜
第３回	3.経営学の全体像	姜
第４回	4.株式会社の仕組み	姜
第５回	5.日本の雇用制度の仕組み	姜
第６回	6.ｹｰｽの研究	姜
第７回	7.競争戦略のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	姜
第８回	8.多角化戦略	姜
第９回	9.組織構造のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	姜
第１０回	10.組織構造のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	姜
第１１回	11.ｹｰｽの研究	姜
第１２回	12.ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	姜

第１３回	13.情報ｼｽﾃﾑと事業の仕組み		姜
第１４回	14.経営学の広がり		姜
第１５回	15.全体のまとめ		姜
第１６回	16.単位認定試験		姜
教科書			
教・書籍名１	1からの経営学(第2版)	教・出版社名１	中央経済社
教・著者名１	加護野忠男・吉村典久 編著	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	政治学			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	SS-BU-1-104		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	大学で政治の問題を学ぶ意義は、専門的な概念を用いた理論的観点を通じて学ぶことになる。しかし、政治に対する考え方は極めて多意であり、それらを説明する概念や接近の仕組みも学者によって異なる。そのために受講生は、様々な政治関連の問題について、自らの立場で自分の見解や判断力を持つことを期待する。 この講義を受講すれば、成熟した自由社会の民主政治における政治的な出来事の理解、すなわちその背景と要因、そして、こうした相互関連性について知ることができる。それは、現代社会の一市民としての教養と姿勢が修得できる。
授業概要	この講義では、様々な政治現象を分析し説明する。なお、複雑な政治現象の仕組みを理解するためには、政治学の基礎的な概念と考え方、そして理論についての説明は不可避である。講義の主な内容は、政治学の基礎知識を習得しながら、「先進民主主義国・日本の政治と社会」について、様々なトピックを取り上げて説明する。そのため、受講生は、日常の政治社会学的な出来事とその経済的関連について関心を持つことが大切である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	政治とは何か	李　分一
第３回	現代社会と政治	李　分一
第４回	政治の地位と役割	李　分一
第５回	国家論	李　分一
第６回	政治学の行動科学主義的方法	李　分一
第７回	政治学の歴史的接近方法	李　分一
第８回	政治と権力	李　分一
第９回	支配の正当性	李　分一
第１０回	権力の分立	李　分一
第１１回	政治的リーダーシップの意義	李　分一
第１２回	政治的リーダーと大衆	李　分一
第１３回	現代社会と政治的指導力	李　分一

第１４回	政治文化	李　分一
第１５回	政治参加	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	プリント使用	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本社会論			担当者	赤坂　真人		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-105		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ 現代日本社会のさまざまな問題、具体的には、女性差別、女性と労働、男女共同参画社会、LGBTQ、逸脱と犯罪、都市と農村、過疎と過密、疲弊する農村、宗教と社会、死生観等に関する現状と問題を理解させ、その解決法を考える。 到達目標 多くの学生たちは、自分たちが生きている社会の仕組みや出来事について明確に理解していない。講義においては、まず現代日本社会が直面している様々な日常的な問題と制度上の矛盾に関する問題点を理解させる。次に、毎回講義のテーマに関する小テスト（記述式）を実施し、社会問題に関する見解と問題の解決法を考えさせ、それらを適切な文章で表現する能力を鍛える。
授業概要	講義で学んだ社会学的な見方、考え方を応用し、学生の周囲で起こっている現代日本および世界の社会問題を認識、分析し、解決策を考えさせる。具体的には、日本社会における男女差別、性別役割問題、LGBTQ、逸脱と犯罪、監視と個人情報、社会統制、都市と農村、過疎と過密、疲弊する農村、日本人と宗教、世界の宗教、死生観をテーマとして講義を行う。講義の終了前20分で、講義のテーマに関する記述式小テストを実施し、メールで教員のメールボックスに解答を送る。教員は解答を採点し、400字程度のコメントを書いてフィードバックする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	講義内小テスト（50%）と定期試験（50%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義時間の終盤20分間を使って毎回、論述式の小テストを行う。小テストはメールで教員専用のメールボックスに送り、教員はそれを採点後400～500字のコメントを書いて学生に返送する。もし学生がコメントに対してさらなる意見を表明しメールを送ってきた場合、教員はそれに対して再びコメントを書き返送する。
履修条件・注意事項	記録上は出席になっていても小テストの解答がない場合、欠席とする。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜４限（15：10～16：40）に研究室で実施

授業計画		担当者
第１回	1.講義内容と評価。2.社会生活をする人間。3.人類の変化と社会変動。4.BCI・ゲノム編集・人工生命。	赤坂
第２回	1.多様性容認の時代へ。2.ジェンダーとセックス。3.フェミニズム。4.ジェンダー研究の歴史。	赤坂
第３回	1.ジェンダーと労働　2.男女の職業格差。3.男女平等のデメリット。4.進化理論から逸脱した人間。	赤坂
第４回	1.逸脱とは何か。2.逸脱論の創始者E.デュルケーム。3.自殺論。4.逸脱に関する3つの理論。	赤坂
第５回	1.逸脱の7つの理論。2.ルールの法制化。3.高度産業社会における逸脱。4.社会統制と道徳。5.日本の現状。	赤坂
第６回	1.都市に集住する人々。2.都市とは何か。3.無縁化社会。4.孤独な群衆。5.過疎と過密。	赤坂
第７回	1.都市への集中と地方の消滅。2.コンパクトシティ。3.地方生活の諸問題。4.過疎を止められる	赤坂

	か。	
第８回	1.過密。2.都市的ライフスタイル。3.地域社会の崩壊。4.未来の都市。5.地方の取り組み。	赤坂
第９回	1.消えてゆく町と村。2.地方財政の圧迫：インフラ。3.地方都市の未来。4.都市の経営戦略。	赤坂
第１０回	1.日本人と宗教。2.日本人の宗教の源流。3.宗教とは何か。4.科学・イデオロギー・哲学・宗教。	赤坂
第１１回	1.宗教と連帯。2.宗教と生きる意味。3.宗教の世俗化。4.人口知能は神になるか。	赤坂
第１２回	1.宗教の復権。2.日本仏教の衰退。3.ゾロアスター教。4.ユダヤ教。5.宗教生活の原初形態。	赤坂
第１３回	1.ヒンディー教。2.バラモン教と仏教。3.仏教の変容。4.キリスト教。5.イスラム教。	赤坂
第１４回	1.死生学とは何か。2.生きる苦しみ。3.セネカ・トルストイ・ソロー。4.日本人と死。5.安楽死の是非。	赤坂
第１５回	1.科学技術の発展と社会変動。2.自動化。3.ロボット。4.AR（拡張現実）。5.技術への期待と不安。	赤坂
第１６回	定期試験	赤坂

教科書			
教・書籍名１	基礎社会学	教・出版社名１	ふくろう出版
教・著者名１	赤坂真人	教・ＩＳＢＮ１	978-4861864278
教・書籍名２	毎回ハンドアウトを配布	教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	講義の中で20～30冊の文献を紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本経済論			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-106		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	この講義は、日本経済に関する基礎的知識とその実体的事実関係を分析して理解することに重点を置く。そして、日本経済の特徴は、日本型対アメリカ型という単純な比較ではなく、日本経済の現状をさまざまな立場や観点から客観的かつ具体的に取り上げて、多面的に捉えてゆく。この講義内容のポイントは、日本経済の捉え方と日本経済の軌跡を分析し説明する。 この講義を受講すれば、日本経済の実体に関する基本的な見方や仕組み、そして日本経済の軌跡などが理解でき、また様々な経済現象をめぐる論理的思考・理解の能力と問題の発見力、そしてその問題の解決力が修得できる。
授業概要	これまでの日本経済は、規制や協調と競争の絶妙のバランスの上で成り立って成果を上げてきたが、21世紀前後のIT革命の進歩や経済のグローバル化の進展、そして人口の少子高齢化などにより、日本型経済構造の変革を余儀なくされてきた。一方、小さいな政府や自由競争を基盤とするアメリカ型資本主義にも大きな修正が加えられた。本講義では、日本型対アメリカ型といった単純な対比で捉えずに分析し説明する。 この講義の前半部は、日本経済の捉え方をはじめ、日本経済の仕組みや日本経済の現状と課題などを取り上げて説明する。そして後半部の現実経済の分野では、日本経済の復興期、高度成長期、低成長期、バブル経済期、長期不況と日本再生への模索期、そして東日本震災とアベノミクス期などに分けて説明する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	現代経済の仕組み	李　分一
第３回	日本経済の捉え方	李　分一
第４回	日本経済の姿	李　分一
第５回	日本経済の課題	李　分一
第６回	日本経済の歩み	李　分一
第７回	経済復興期（1945－54）	李　分一
第８回	高度成長期（1955－70）	李　分一

第９回	低成長期（1971－85）	李　分一
第１０回	資産価格の高騰	李　分一
第１１回	バブルの崩壊	李　分一
第１２回	不良債権と金融システム	李　分一
第１３回	構造改革と日本経済の再生	李　分一
第１４回	東日本大震災	李　分一
第１５回	アベノミクス	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	プリント使用	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	国際関係論			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-107		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	この講義は、国際関係という学問の基礎的知識を理解することに重点を置く。国際関係論という学問の発展過程に始まり、隣接分野との関連や、既存理論とその限界などを、最近の変動の事例に念頭を置きながら説明する。 この講義を受講すれば、国際関係論（と東アジア地域）という学問の基礎知識を習得することによって、国際社会仕組みの理解とグローバル社会の中で必要な様々な価値観および生き方が模索できる。特に、多文化・異文化の理解と総括・発表力が修得できる。
授業概要	この講義では、国際関係論に関する基礎知識を踏まえて、グローバリゼーション進展下の東アジア各国の変化とその問題点、そして現実に生じているトピックを取り上げ、それらの出来事や問題を整理する。今年は、ことに国際関係論・国際比較論的な視点から、東アジアの「国家」「開発」「安全保障」などの問題について説明する。なお、この科目を学ぶことにより、地理的な見方・認識の手法を学び取り、異文化理解や国際理解を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	国際関係論の学び方	李　分一
第３回	国際関係、地域研究、国際比較	李　分一
第４回	冷戦後の東アジア地図	李　分一
第５回	東アジア国際関係の変容	李　分一
第６回	東アジアのグローバル化	李　分一
第７回	東アジアの安全保障	李　分一
第８回	東アジアの安全保障ネットワーク	李　分一
第９回	開発と地域発展	李　分一
第１０回	地球化、地域化、民族主義化	李　分一
第１１回	相互依存関係の拡大と深化	李　分一
第１２回	世界化と市場経済	李　分一
第１３回	リージョナリゼーション	李　分一

第１４回	地球主義	李　分一
第１５回	ナショナリズム	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	プリント使用	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報と社会			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-109		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	近年急速に発展している情報技術をテーマに、これらを利用する際に必要となる諸技術に関する知識の獲得を目標とする。特に、社会を革新するクラウド・コンピューティング、ブロックチェーン、ディープラーニングについての知識の獲得を目標としている。これらの知識の机上だけでは困難であり、できうる限りPCを使って実際に動作させてみることによって、より知識を深化させることも目標としている。
授業概要	本講義で学ぶ情報技術は、今後の社会基盤を形成する非常に重要なものであり、これらの理解なければ、社会を理解することは難しいと言える。しかし、これらの技術は、万人がそれを1から構築する必要があるというたぐいのものではない。 とはいえ、これらの技術がどのようなものであり、どのような技術を用いて構築されているのかの知識なしには、それら技術が埋め込まれた文脈の中での行動指針の決定も困難なものとなる。 そこで本講義ではすでにインフラとして機能してるクラウド・コンピューティングやブロックチェーン、そして近年目まぐるしい発展を見せているディープラーニングについて説明するとともに、できる限り触れてもらえるようにすることを考えている。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業内での貢献度30%、期末の成果物70%。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義時間内やオフィスアワーを利用して随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	421教室のキャパシティの限界から受講生を制限する可能性がある。 情報処理Ｉの単位を取得していることを条件とする。 留学生はN2を取得していること。 また、初回の講義の中でアプリのダウンロードとインストールを行うので、初回の講義が始まる前までに学内無線LANへの接続ができる状態にしておくこと。もし、できていない場合には履修放棄としてもらう。 毎回の講義にはPCを持参する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習についてはYouTubeでの解説動画を随時紹介するのでそれを予習資料として活用する（2時間）。 事後学習については、講義の内容をもとに、自身で復習を行う（2時間）。
オフィスアワー	月曜日3限

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション―情報と社会の関係	竹岡
第２回	クラウドコンピューティング	竹岡
第３回	ブロックチェーン	竹岡
第４回	アルゴリズム	竹岡
第５回	AIとは何か	竹岡

第６回	ディープラーニングの概要	竹岡
第７回	パーセプトロン	竹岡
第８回	オートエンコーダー	竹岡
第９回	画像認識	竹岡
第１０回	単語分散表現	竹岡
第１１回	文章分類	竹岡
第１２回	画像生成	竹岡
第１３回	ディープラーニングの数学	竹岡
第１４回	AIの応用	竹岡
第１５回	まとめ	竹岡
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	コミュニケーション論			担当者	赤坂　真人		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-112		
必修・選択	選択科目	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：コミュニケーションを科学する コミュニケーション力は現代社会で求められる最も重要な能力のひとつである。この講義ではコミュニケーションの主体・客体・過程・メディアを理解することにより、学生一人一人のコミュニケーション能力を向上させる。 到達目標 この講義を受講することによって、学生は人間関係や文化が言語的コミュニケーションによって構築されていることを理解し、コミュニケーションにおける適切な言葉の選択、論理的思考の重要性を理解する。それは学習にとって、また社会生活においてもきわめて重要な資質となる。
授業概要	人間のコミュニケーション、とりわけ言語的コミュニケーションに焦点を定め、その構成要素と機能について講義する。前半はコミュニケーションの定義とそのバリエーションについて解説する。それが終わった後、コミュニケーションのメディアである記号（シグナルとシンボル）について説明する。その後、言語記号について説明した後（意味論・統語論・実用論）、最後に文化記号論、情報化する社会について講義する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義時間における小テスト（50%）と定期試験（50%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回、講義時間の最後20分間を使って小テストを実施する。学生は解答をメールで教員の専用ボックスへ送る。教員は解答を正誤をチェックし、採点した後、コメントを書いて学生に返却する。
履修条件・注意事項	言語記号について説明する際、日本語と英語を対比させながら論じるので、英語やドイツ語の知識があることが望ましい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。配布されたハンドアウトは必ず復習し、定期試験までなくさないようにすること。
オフィスアワー	火曜日　15：10～16：40.に研究室で実施。

授業計画		担当者
第１回	1.講義の目的。2.講義の概要。3.評価について。4.コミュニケーションが社会を構築する。	赤坂
第２回	1.人間コミュニケーションの不合理。2.ウソ・間違い・データメ。3.複雑な人間関係と脳の発達。	赤坂
第３回	1.コミュニケーションの定義。2.概念の拡張。3.伝達と解釈。4.非言語的コミュニケーション。	赤坂
第４回	1.動物のコミュニケーション。2.触覚。3.視覚と聴覚。4.動物と文言のコミュニケーション。	赤坂
第５回	1.記号。2.信号と象徴。3.ソシュール：シニフィアンとシニフィエ。4.明示的意味と暗示的意味。	赤坂
第６回	1.記号の機能　2.記号の恣意性。3.記号の差異。4.コード。5.有契性と無契性。6.対立と中和。	赤坂
第７回	1.言語。2.準言語。3.言語の機能。4.新しい言語観。5.衣服とコミュニケーション。	赤坂
第８回	1.意味の曖昧さ。2.レトリック。3.コンテキスト。4.二項対立。5.文の意味と発話の意味。	赤坂
第９回	1.非言語的コミュニケーションとは。2.身体動作学。3.近接空間学。4.パラランゲッジ。	赤坂

第１０回	1.近接学。2.外観によるコミュニケーション：髪型・入れ墨・服装・化粧・ポーズ。	赤坂
第１１回	1.レトリック。2.直喩と隠喩。3.換喩。4.提喩。5.芸術とレトリック。	赤坂
第１２回	1.コミュニケーションと理解　2.わかるとは。2.行為の理解　3.ディスコミュニケーション。	赤坂
第１３回	1.ジョハリの窓と自己の理解。2.社会的被存在拘束性：社会階層・容姿と認識の歪み。	赤坂
第１４回	1.情報の定義　2.情報の分類　3.通信の歴史　4.インターネットとプライバシー。	赤坂
第１５回	言語の変化　1）尊敬語　2）方言　3）口語体と文語体　4）男言葉・女言葉　5）流行語	赤坂
第１６回	定期試験	赤坂

教科書			
教・書籍名１	コミュニケーション論序説	教・出版社名１	日本放送出版会
教・著者名１	大橋理恵　根橋玲子	教・ＩＳＢＮ１	978-4595307102
教・書籍名２	言葉とは何か	教・出版社名2	ちくま学芸文庫
教・著者名2	丸山圭三郎	教・ＩＳＢＮ2	978-4480009008

参考書			
参・書籍名１	コミュニケーション学への招待	参・出版社名１	大修館書店
参・著者名１	橋本良明	参・ＩＳＢＮ１	978-4469212143
参・書籍名２	記号論への招待	参・出版社名2	岩波書店
参・著者名2	池上嘉彦	参・ＩＳＢＮ2	978-4004202582

授業科目名	ビジネス日本語Ⅰ			担当者				雲津　英子	
配当学科・研究科	2021～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング				SS-BU-1-114	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義		
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜4限				
ディプロマポリシー対応項目									
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎		
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎		
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに								
到達目標	本講義は、日本のビジネスの現場で求められる日本語力の基礎を養うことをテーマとし、到達目標は次の３点とする。 （1）基本的なビジネスマナーについて理解することができる。 （2）ビジネスの様々な場面で、敬語を含む表現を適切に用いてコミュニケーションをとることができる。 （3）ビジネスメールの書き方を理解し、実際に書くことができる。								
授業概要	基本的なビジネスマナーについて理解するとともに、ロールプレイングを行い、実践力を身につける。 敬語についての基本的な知識を確認し、ビジネスの場面における特徴的な敬語について学ぶとともに、ロールプレイングを通して、ビジネス場面でのコミュニケーション行動にともなうさまざまな表現の運用練習を行う。さらに、ビジネスメールの書き方の基本を理解し、実際に書く練習をする。								
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）								
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、課題文書の内容（15%）、ロールプレイング時の参加態度（15%）により総合的に評価する。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	提出された課題文書は授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。								
履修条件・注意事項	ロールプレイングには積極的に参加する必要がある。								
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，ビジネス場面での日本語の運用に役立つ授業を実施する。						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 また、授業内で修得したビジネスマナーは、日々の生活の中で実践するよう努めること。								
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。								

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	雲津 英子
第２回	あいさつの基本	雲津 英子
第３回	敬語の使い方	雲津 英子
第４回	身だしなみのマナー／紹介する	雲津 英子
第５回	身だしなみのマナー／電話をかける・受ける	雲津 英子
第６回	入室・退室のマナー／注意をする・注意を受ける	雲津 英子
第７回	話し方のマナー／頼む・断る	雲津 英子
第８回	整理整頓のマナー／許可をもらう	雲津 英子
第９回	携帯電話のマナー／ビジネスメールの基本	雲津 英子
第１０回	社会人としてしてはいけないこと／ビジネスメールの作成（依頼）	雲津 英子
第１１回	社会人らしい行動と言葉遣い／ビジネスメールの作成（問い合わせ）	雲津 英子
第１２回	ビジネスメールの作成（社外・社内）	雲津 英子
第１３回	電話対応（アポイントをとる／問い合わせをする）	雲津 英子
第１４回	電話対応（相手を待たせているとき／怒っている相手に謝る）	雲津 英子

第１５回	まとめ		雲津 英子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）		雲津 英子
教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	しごとの日本語（ビジネスマナー編）	参・出版社名１	アルク
参・著者名１	釜渕優子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-1467-9
参・書籍名２	しごとの日本語（メールの書き方編）	参・出版社名2	アルク
参・著者名2	奥村真希　釜渕優子	参・ＩＳＢN2	978-4-7574-1368-9

授業科目名	ビジネス日本語Ⅱ			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-115		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本講義は、日本のビジネスの現場で求められる日本語の運用力を養うことをテーマとし、到達目標は次の3点とする。 （1）ビジネスマナーについて理解することができる。 （2）ビジネスの様々な場面で、敬語を含む表現を適切に用いてコミュニケーションをとることができる。 （3）ビジネスメール・ビジネス文書・履歴書・自己紹介文の書き方を理解し、実際に書くことができる。
授業概要	ビジネス日本語Ⅰに引き続き、ビジネスマナーについて理解するとともに、ロールプレイングを行い、実践力を身につける。 さらに、ビジネス場面で、敬語を含む表現を適切に用いてコミュニケーションをとることができるように、ビジネス場面でのコミュニケーション行動にともなうさまざまな表現の運用練習を行う。 ビジネスメール、ビジネス文書、履歴書、自己紹介文の書き方を理解し、実際に書く練習をする。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、課題文書の内容（15%）、ロールプレイング時の参加態度（15%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出された課題文書は授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	ロールプレイングには積極的に参加する必要がある。 ビジネス日本語Ⅰを履修していることが望ましい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，ビジネス場面での日本語の運用に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 また、授業内で修得したビジネスマナーは、日々の生活の中で実践するよう努めること。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	雲津 英子
第２回	ビジネスメールのマナー／ビジネスメールの作成（承諾）	雲津 英子
第３回	名刺交換のマナー／ビジネスメールの作成（お礼）	雲津 英子
第４回	接客・訪問のマナー／ビジネスメールの作成（お詫び）	雲津 英子
第５回	接待・会食のマナー／ビジネスメールの作成（断り）	雲津 英子
第６回	席次のマナー／ビジネス文書の作成（社内）	雲津 英子
第７回	指示を受けるときのマナー／ビジネス文書の作成（社外）	雲津 英子
第８回	電話対応のマナー／電話対応（担当者が電話中の時の対応）	雲津 英子
第９回	報告・連絡・相談のマナー／電話対応（担当者が離席中の時の対応）	雲津 英子
第１０回	社内でのコミュニケーション／電話対応（至急の時の対応）	雲津 英子
第１１回	日本人の仕事観／電話対応（よく聞き取れない時の対応）	雲津 英子
第１２回	自己分析／自己紹介文の書き方	雲津 英子

第１３回	履歴書の書き方	雲津 英子
第１４回	履歴書の修正	雲津 英子
第１５回	まとめ	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	しごとの日本語（ビジネスマナー編）	参・出版社名１	アルク
参・著者名１	釜渕優子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-1467-9
参・書籍名２	しごとの日本語（メールの書き方編）	参・出版社名2	アルク
参・著者名2	奥村真希　釜渕優子	参・ＩＳＢN2	978-4-7574-1368-9

授業科目名	異文化理解（英会話Ⅰ）			担当者	ジョン・フォーセット		
配当学科・研究科	2021～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-116		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	To work together to learn words that help us tell people about Japan, its culture, and its people and learn about other cultures. To go beyond 'delicious' and 'beautiful' and 'hot'. Above all to develop our ability to listen to and understand opinions expressed about Japan and other cultures.
授業概要	We will research different things about Japan and other countries. Listen to people speaking about the country and evaluate their opinions. We will learn words to talk about and respond to them. Also we will learn how to give people our original opinion.
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	Class 60%: participation 20%, effort 20%, product 20% Exam 40%
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	Most tasks will be verbal and so will feedback concerning mostly volume, enunciation, and pace.
履修条件・注意事項	There will be regular vocabulary and listening quizzes so be careful to practice daily. Sometimes there will be presentations again outside practice is necessary. The teacher will speak 100% native English!
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	Decide what you want to say and practice saying it. Exact vocabulary is vital; make your own study sets and system. Check with the teacher if your selection is good or not.
オフィスアワー	1700-1800 except Fridays

授業計画		担当者
第１回	Weather	Fawsitt
第２回	The land	Fawsitt
第３回	The sea	Fawsitt
第４回	Wildlife	Fawsitt
第５回	Jungle?	Fawsitt
第６回	Fruits and flowers	Fawsitt
第７回	People	Fawsitt
第８回	Houses	Fawsitt
第９回	Work	Fawsitt

第１０回	City life	Fawsitt
第１１回	Country life	Fawsitt
第１２回	Anime and cartoons	Fawsitt
第１３回	Religion	Fawsitt
第１４回	Fooood	Fawsitt
第１５回	In the world	Fawsitt
第１６回	Exam	Fawsitt

教科書			
教・書籍名１	We will research and create our own materials.	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	異文化理解（英会話Ⅱ）			担当者	ジョン・フォーセット		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-117		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	To learn about different cultures and ways of life especially the links between cultures.
授業概要	In the first half of the class we will revise and practice useful vocabulary. In the second we will read about and discuss aspects of life and ideas characteristic of other societites.
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	定期試験の成績（40%）、予習・レポート・プレゼン・授業姿勢（60%
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	Class and one to one feedback and explanations will be during class and on submitted work. Students with questions can contact me via email for online or in-person appointments according to personal wishes and general circumstances.
履修条件・注意事項	積極参加を重視します。The teacher will speak 100% native English!
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	語彙練習をしっかり取り込むこと。
オフィスアワー	1700~1800~ generally evenings are best, except for Friday when I sometimes go home earlier.

授業計画		担当者
第１回	Course Introduction	Fawsitt
第２回	Modernity and Globalisation	Fawsitt
第３回	Tourism and Travel	Fawsitt
第４回	National Images and Stereotyping	Fawsitt
第５回	Japan as Seen from Outside	Fawsitt
第６回	"Western" Cultures	Fawsitt
第７回	Europe and the United States	Fawsitt
第８回	Asian Areas	Fawsitt
第９回	Japan as "In-Between"	Fawsitt
第１０回	Religions Now	Fawsitt
第１１回	Japanese Religions	Fawsitt
第１２回	Poverty and Wealth	Fawsitt
第１３回	The Environment and Culture	Fawsitt
第１４回	Local Cultures	Fawsitt
第１５回	The Future of Culture	Fawsitt
第１６回	定期試験	Fawsitt

教科書			
教・書籍名１	授業中に適宜資料を配付する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	異文化理解（ハングルⅠ）			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-118		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	この講義では、韓国語の文字構成（子音・母音）と音素、音節の構成原理（子音と母音の組み合わせ）を基礎から身に付け、読み書き能力を体系的に学修する。また、韓国語と関連する社会、文化、歴史、慣習などの背景をも学修する。最終的には、基礎文法や日常生活表現による自己紹介文の作成を目標とする。 この講義を受講すれば、日本に隣接する韓国の社会や文化が理解できる。また、コミュニケーション・スキルとともに、韓国の友達がつくられる。
授業概要	日本に近接する韓国を理解するために必要な言葉を身に付けることは、最も有効な方法の一つである。特に、言語学的に類似性を持つ日本語と韓国語は、韓国語を学習する日本人にとって有利な側面が多い。この講義では韓国の理解に必要な初級レベルの会話とその背景を学習する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	ハングルの子音と母音	李　分一
第３回	子音と母音（読み書き）	李　分一
第４回	子音と母音の組み合わせ	李　分一
第５回	子音と母音の発音	李　分一
第６回	私はチャンジウンと言います。	李　分一
第７回	練習問題（挨拶）	李　分一
第８回	私は韓国人ではありません。	李　分一
第９回	練習問題（職業の単語）	李　分一
第１０回	韓国語は面白いですか。	李　分一
第１１回	練習問題（趣味の言葉）	李　分一
第１２回	週末に何をしますか。	李　分一
第１３回	練習問題（食べ物の単語）	李　分一
第１４回	授業は何時からですか。	李　分一
第１５回	練習問題（花と木の単語）	李　分一

第１６回	定期試験		李　分一
教科書			
教・書籍名１	親しくなれる韓国語	教・出版社名１	白帝社
教・著者名１	崔瑞ヒョン	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86398-123-2 C3087
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	異文化理解（ハングルⅡ）			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-119		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

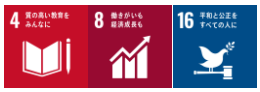
ＳＤＧｓ関連項目	５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	この講義では、異文化Ⅰで学修したハングル（子音、母音）、基礎文法、日常生活会話を中心に、各テーマに対応できる実践会話の修得とともに、最終的には中級レベル会話修得を目標とする。 この講義を受講すれば、日本に隣接する韓国の社会と文化が理解できる。また、コミュニケーション・スキルとともに、韓国の友達がつくられ、しかも韓国への一人旅もできる。
授業概要	日本と韓国は、古来より密接な関係にあったと言われている。この授業の前半部では、韓国の社会、文化、歴史、慣習などの内容と関連する初級レベルの会話を中心に学習する。また、教科書に登場する各テーマに応じた背景知識について意見交換を行う。後半部では、韓国の時事的関心事について自分の意見を自ら提示できる中級レベル会話を習得するため、必要とされる多様な背景を提供して意見交換を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	このガバンはいくらですか。	李　分一
第３回	練習問題（世界の貨幣とお金の単語）	李　分一
第４回	運転できますか。	李　分一
第５回	練習問題（外国語表記）	李　分一
第６回	韓国の食べ物が好きですか。	李　分一
第７回	練習問題（体の単語）	李　分一
第８回	南大門市場まで遠いですか。	李　分一
第９回	練習問題（形容詞の反対語）	李　分一
第１０回	写真を撮って下さい。	李　分一
第１１回	練習問題（家族の呼称）	李　分一
第１２回	どちらのご出身ですか。	李　分一
第１３回	練習問題（場所の単語）	李　分一
第１４回	夏休みに韓国へ行きました。	李　分一
第１５回	練習問題（十二支と動物の単語）	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	親しくなれる韓国語	教・出版社名１	白帝社
教・著者名１	崔瑞ヒョン	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86398-123-2 C3087
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	簿記Ⅰ			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2021～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-201		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	「簿記の全体像の理解」がテーマである。企業の経営状態を把握するためには重要な情報源のひとつが会計情報である。会計情報は日々の取引の管理と決算時の会計処理によって構築されている。これら会計処理を行うために必要なのが簿記の知識である。この授業では，簿記，とくに複式簿記の基本的な構造，手続きについて学ぶ。 この授業では簿記について知識がまったくなくても初学者が学びやすいレベルの入門講義であり、簿記の専門用語と基本的な事項を理解することが目標である。
授業概要	この授業では、簿記の原理、貸借対照表、損益計算書、取引、仕訳、小切手、現金過不足、当座預金、当座借越、小口現金、返品、付随費用、前払金と前受金、商品券、有形固定資産の取得、減価償却、有形固定資産の売却、貸付金と借入金、未収入金と未払金、仮払金と仮受金、立替金と預り金などについて講義する。 簿記は技術であるので、単に教科書を読むだけでは不十分である。実際に手を動かして、電卓を活用して、体で覚えて初めて使いこなせるようになるので、配布する問題を自分で解くなど積極的な姿勢が求められる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度・貢献度：40%、単位認定試験：60%によって総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義の中やオフィスアワーを利用して随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	簿記は通常使用している日本語とは異なる専門用語を多用します。日本語を母語とする者にも難しいものです。ある程度日本語能力を身に着けてから受講してください。 授業には積極的な姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、居眠り、ゲーム、飲食、無断退室の厳禁である。 出席も重要ですので休まないようにすること。 配布資料は事前によく読み、自分の考えを用意しておくこと、また毎回予習と復習を心かけること。 電卓持参。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習はYouTubeにあがっている簿記に関する動画を必ず見てくること（2時間）。 事後学習は教科書としてあげた教材を用いて復習すること（2時間）。
オフィスアワー	研究室、月曜日3限

授業計画		担当者
第１回	簿記とは	竹岡
第２回	商品売買、決算	竹岡
第３回	現金、預金	竹岡
第４回	売買、原価	竹岡
第５回	手形、貸付金・借入金	竹岡
第６回	固定資産、経費	竹岡
第７回	仮払金・借受金、純資産	竹岡
第８回	決算、決算整理仕訳①	竹岡
第９回	決算整理仕訳②	竹岡
第１０回	原価償却、貸倒引当金	竹岡

第１１回	在庫、消費税、法人税等		竹岡
第１２回	税金の復習		竹岡
第１３回	余剰金、帳簿		竹岡
第１４回	精算表		竹岡
第１５回	総復習		竹岡
第１６回	単位認定試験		竹岡
教科書			
教・書籍名１	スッキリわかる 日商簿記3級 第12版 [テキスト&問題集]	教・出版社名１	TAC出版
教・著者名１	滝澤 ななみ	教・ＩＳＢＮ１	978-4813296126
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	ホントにゼロからの簿記３級	参・出版社名１	Kindle電子書籍
参・著者名１	ふくしままさゆき	参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	簿記Ⅱ			担当者	崔　瑞玹		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-202		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「簿記の全体像の理解」がテーマである。簿記1で学んだ専門用語と基本的な事項を活かして実力アップ問題を解けることができるようにすることが目標である。また、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級の合格を目指すことができるように専門用語と基礎知識を身につけさせる。（簿記Ⅰを履修するのが望ましい。）
授業概要	この授業では、1学期で学んだ仕訳を使用して約束手形、手形の裏書、手形の割引、転記（補助簿）、（仕訳帳）、（総勘定元帳）、伝票会計､試算表など゛について講義する。 簿記は技術であるので、単に教科書を読むだけでは不十分である。実際に手を動かして、電卓を活用して、体で覚えて初めて使いこなせるようになるので、配布する問題を自分で解くなど積極的な姿勢が求められる。講義内容は変更も可能である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	単位認定試験(60%)、小テストと授業の取り組みなど(40%)による総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間を利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	授業には積極的な姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、居眠り、着帽、ﾒｰﾙ、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。出席も重要ですので休まないようにすること。配布資料は事前によく読み、自分の考えを用意しておくこと、また毎回予習と復習を心かけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前後に予習（2時間）と復習（2時間）をするための課題を指示する。
オフィスアワー	授業終了後に教室で実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（１学期復習）	崔　瑞玹
第２回	取引・仕訳①	崔　瑞玹
第３回	取引・仕訳②、クレジット売掛金	崔　瑞玹
第４回	小切手・現金過不足	崔　瑞玹
第５回	当座預金・当座借越	崔　瑞玹
第６回	小口現金・付随費用・立替金	崔　瑞玹
第７回	前払金・前受金・受取商品券	崔　瑞玹
第８回	固定資産の売却	崔　瑞玹
第９回	有形固定資産の売却	崔　瑞玹
第１０回	小テスト	崔　瑞玹
第１１回	資本金・固定資産税・訂正仕訳	崔　瑞玹
第１２回	電子記録債権・債務、有価証券の購入・売却	崔　瑞玹
第１３回	仕訳帳・総勘定元帳・現金出納帳	崔　瑞玹
第１４回	決算まとめ	崔　瑞玹
第１５回	総合まとめ	崔　瑞玹

第１６回	単位認定試験		崔　瑞玹
教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	講義時に参考書・資料などを予習ができるように適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	はじめての人の簿記　入門熟	参・出版社名2	かんき出版
参・著者名2	浜田　勝義　著	参・ＩＳＢＮ2	ISBN978-4-7612-6290-7

授業科目名	マーケティング入門			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-203		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１２．つくる責任・つかう責任／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	「企業におけるマーケティング重要性の理解」がテーマである。到達目標は、この講義を通じてマーケティングの基礎知識を習得し、それに基づいてﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞの基本概念を説明できるようにすること、マーケティングの全体像を理解することを目標とする。さらに、次のような能力が養成されることを目標とする。丁寧に講義のノートをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力を、教科書と資料を読み、調べることによって、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報処理力、計画力、分析力、判断力を、さらに講義の内容に質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とコミュニケーション能力を養うことも目標としている。
授業概要	講義の目的と概要は次のとおりである。マーケティングは広い意味での企業における経営活動の一部であるが、最も重要な部分でもある。なぜなら、企業は売ることの課題に取り組む必要性があり、企業の利益は、製品やサービスを消費者に売るところから生まれるからである。では企業活動の中でマーケティングとはどのように位置付けられ、どのような役割を担っているのだろうか。講義では、マーケティングの基本についての学習と問題意識を高めることを目的にする。講義では、従来のマーケティング分野に加えて近年注目されている行動経済学の諸研究も交えて、市場を作る側とそれを選択する側、両方の側面から学修していく。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度・貢献度：40%、単位認定試験：60%によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の中やオフィスアワーを利用して随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、ゲーム、飲食、無断退室は厳禁である。教科書あるいは配布した資料を事前によく読むこと。また、毎回復習をして、自分のものにしておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前に教科書を用いた予習(毎回2時間)と講義後にはノートに基づく復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室、火曜日4時限。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	竹岡
第２回	マーケティングとは	竹岡
第３回	マーケティングの基本	竹岡
第４回	製品のマネジメント	竹岡
第５回	価格のマネジメント	竹岡
第６回	広告のマネジメント	竹岡
第７回	チャネルのマネジメント	竹岡
第８回	市場の確認	竹岡
第９回	コンセプト開発	竹岡
第１０回	サプライチェーン	竹岡
第１１回	消費者の行動	竹岡
第１２回	顧客関係	竹岡
第１３回	ブランド	竹岡
第１４回	企業の社会的責任	竹岡

第１５回	全体のまとめ	竹岡	
第１６回	単位認定試験	竹岡	
教科書			
教・書籍名１	1からのマーケティング（第4版）	教・出版社名１	碩学舎
教・著者名１	石井淳蔵・廣田章光・清水信年（編著）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-502-32771-1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	経営管理論			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-205		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「企業経営において経営管理の全体像の理解」がテーマである。到達目標は、この講義を通じて経営管理論の基礎知識を習得、経営管理論の重要性を認識し、経営管理論の概念を説明、応用できる力を身につけるとともに、経営管理論の全体像を理解することを目標とする。また、次のような能力が養成されることを目標にする。丁寧に講義内容のﾉｰﾄをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力が養われる。また、教科書を読み、資料を読み、調べることによって、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報処理力、分析力、判断力が養われる。さらに、講義の内容について質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力が養われる。
授業概要	講義目的と概要は、以下の通りである。現代は経営管理の時代であり、組織の時代である。学生諸君の身近なところでは、学園祭にも、ｸﾞﾗﾌﾞやｻｰｸﾙにもﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄが存在する。受講者の皆様も就職して10,20年程度経つと管理者、経営者になる。 　講義では、科学的管理法、人間管理論、動機づけとﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ論などを講義する。また、企業経営問題のさまざまな側面について、具体的な事例を活用して経営に関する基礎的な理論をわかりやすく解説し、それを理解させる。ﾋﾞﾃﾞｵ教材も活用する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	授業態度・貢献度など(40%)、単位認定試験(60%)によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	教科書購入。積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、ﾒｰﾙ、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。教科書あるいは配布した資料を事前によく読むこと。また、毎回復習をして、自分のものにしておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前には参考資料の予習(毎回2時間)と講義後には復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	姜
第２回	2.経営管理論とはなにか	姜
第３回	3.科学的管理法	姜
第４回	4.科学的管理法の限界	姜
第５回	5.管理過程論と官僚理論	姜
第６回	6.人間関係論(1)	姜
第７回	7.人間関係論(2)	姜
第８回	8.動機づけ論	姜
第９回	9. ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ論	姜
第１０回	10.経営組織論	姜
第１１回	11. 組織構造と戦略	姜

第１２回	12. 新しい組織の流れ	姜
第１３回	13.ｹｰｽの研究(ﾄﾖﾀ)	姜
第１４回	14.ｹｰｽの研究(ﾄﾖﾀ)	姜
第１５回	15.全体のまとめ	姜
第１６回	16.単位認定試験	姜

教科書			
教・書籍名１	経営管理論の基礎	教・出版社名１	ふくろう出版
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	国際経営論			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-208		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「グローバル市場においてグローバル企業の全体像を理解」がテーマである。到達目標は、日本、米国、韓国の事情、企業の経営特徴に関する知識を習得し、それぞれの国の経営について説明と応用ができるようにすることである。また、グローバル戦略論の全体像を理解することを目標とする。さらに、次のような能力が養成されることを目標にする。丁寧に講義のﾉｰﾄをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力が養われる。また、教科書と資料を読み、調べることによって、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報力、計画力、分析力、判断力が養われる。さらに、講義の内容について質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とｺﾐﾆﾆｹｰｼｮﾝ能力が養われる。
授業概要	講義の目的と概要は次のとおりである。世界的なﾚﾍﾞﾙで、企業や社会のｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化が急速に進展している。すなわち、ﾎﾞｰﾀﾞﾚｽ時代あるいはｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ時代といわれ、国境を超えた企業の活動が盛んになっている。ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化をしている企業がどのような仕組みで管理を行っているのか、またｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化した企業がどのような問題に直面し、どのように克服しようとしているのか、といったことを学習する。また、日本企業の重要な活動地域の東南ｱｼﾞｱ、中国、米国の地域事情をわかりやすく説明する。 　本講義では、多国籍企業の経営、定義、国際経営戦略、海外子会社の経営、組織戦略、外資系企業などの課題についてわかりやすく説明する。 　また、日本企業の具体的な事例に基づきながら、基礎的な知識の理解を深めるとともに、これらについての問題意識を高めることを目的に講義する。さらに、ﾋﾞﾃﾞｵ教材も活用する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	授業態度・貢献度など(40%)、単位認定試験(60%)によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	教科書の購入。積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、ﾒｰﾙ、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。日頃から、新聞、雑誌などを読んでｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化をしている日本企業に関心を持つこと。教科書あるいは事前に配布した資料を読むこと。また、毎回・復習をして自分のものにしておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前には参考資料の予習(毎回2時間)と講義後には復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.オリエンテーション	姜
第２回	2.多国籍企業の経営	姜
第３回	3.多国籍企業の経営の特徴	姜
第４回	4.東南アジア・中国と日本の企業	姜
第５回	5.国際経営戦略	姜
第６回	6.国際マーケティングと地域(東南アジア、中国、米国)	姜
第７回	7.国際マーケティングと地域	姜

第８回	8.海外生産と技術移転(東南アジア、知友国、米国)		姜
第９回	9.国際経営組織と所有政策		姜
第１０回	10.米国と日本企業		姜
第１１回	11.海外子会社の経営		姜
第１２回	12.外資系企業		姜
第１３回	13.グローバル経営		姜
第１４回	14.グローバル経営(2)		姜
第１５回	15.全体のまとめ		姜
第１６回	16.単位認定試験		姜
教科書			
教・書籍名１	国際経営(第4版)	教・出版社名１	有斐閣アルマ
教・著者名１	吉原　英樹	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ベンチャービジネスと経済			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-211		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「経済とベンチャービジネスの全体像の理解」がテーマである。到達目標は、この講義を通じてﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の重要性をI理解するとともに、ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の概念の説明ができ、ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の創業と経営ができる知識の習得を高めることにある。また、ベンチャー企業の全体像を理解することを目標とする。さらに、次のような能力が養成されることを目標にする。丁寧に講義内容のﾉｰﾄをとることにより、聴く力、書く力、まとめる力がつく。また、教科書と資料を読み調べることによって、読む力、調べる力、考える力が身につけられるとともに、分析力、判断力を高める。さらに、講義の内容について質問をし、それに答える訓練を通じてｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力を高める。
授業概要	講義の目的と概要は次のとおりである。いま世界は新産業の創出への挑戦が不可避であり、起業家活動の重要性が一段と増している。ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の創業は経済発展のｴﾝｼﾞﾝの役割もしている。しかし、日本のﾍﾞﾝﾁｬｰ企業は、その質と量において、米国に比べて劣っている。そこで、日本のﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の実態を米国との比較を通じて、詳しく分析することが目的である。 　本講義では、まずﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の発展を必要とする産業、ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の経済的意義、これまでのﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の歴史、ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の起業戦略はどうあるべきか、成長への戦略をいかに立てていくのか、などの課題についてわかりやすく説明する。ﾋﾞﾃﾞｵ教材も活用し、松下幸之助、本田宗一郎などの経営者たちを取り上げたい。また、講義は、担当教員のみによる講義ではなく、外部から講師も招聘して講義をする。外部の特別講師の場合は都合によっては変更可能である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	授業態度・貢献度・感想文(40%)、単位認定(60%)によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、メール、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。配布した資料を事前によく読むことと共に外部講師の話しを静かに良く聞くこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前には参考資料の予習(毎回2時間)と講義後には復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.オリエンテーション	姜
第２回	2.人づくり、町づくり、仕事づくり	外部講師・姜
第３回	3.時代とともに変わるプロモーション戦略	外部講師・姜
第４回	4.洋菓子の経営と今後の展望	外部講師・姜
第５回	5.高梁市と中小企業の経営者	外部講師・姜
第６回	6.信用金庫の業務と備北信用金庫の経営方針	外部講師・姜
第７回	7.メディアを通して地域を見るーそして本業	外部講師・姜
第８回	8.電力事業の状況と中国電力ネットワーク(株)の取り組みについて	外部講師・姜
第９回	9.100年企業として・・・・地域で必要とされる存在であり続けるために	外部講師・姜

第１０回	10.リーダーシップと経営者	外部講師・姜
第１１回	11.リーダーシップと経営者	外部講師・姜
第１２回	12.好きなことをして生きる	外部講師・姜
第１３回	13.私が見てきた経営者たち	外部講師・姜
第１４回	14.リーダーシップと経営者	外部講師・姜
第１５回	15.仕事と私	外部講師・姜
第１６回	16.単位認定試験	姜

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	予習ができるように講義時に参考書・資料などを事前に適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	リーダーシップと経営者			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-212		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	経営者のリーダーシップを理解するのがテーマである。この科目の到達目標は多様な仕事内容や経営者の実像を把握できるようにすると共に将来のリーダーとして、どのように自分を育成していくかを理解すること。また、地域に愛着心を持つと共に地域産業の実態を知ってもらうことを目標とする。
授業概要	この科目は高梁市商工会議所の協力により、実務経験を持つ企業の経営者などをを外部講師に招き、経営者としてのﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟのあり方や、事業や仕事に携わった経験を活かして、講義し、学生の理解を深める。講義は、毎回外部から講師を招聘して講義をする。外部の特別講師の場合は都合によっては変更可能である。高梁商工会議所の会員の外部講師による講演を通じて、実際のﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟの理解と共に地域企業の取り組み等を紹介する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度・貢献度・感想文(40%)、単位認定試験(60%)によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、ﾒｰﾙ、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。配布した資料を事前によく読むことと共に外部講師の話を静かに良く聞くこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前には参考資料の予習(毎回2時間)と講義後には復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	姜
第２回	2.人づくり、町づくり、仕事づくり	外部講師・姜
第３回	3.時代とともに変わるプロモーション戦略	外部講師・姜
第４回	4.洋菓子の経営と今後の展望	外部講師・姜
第５回	5.高梁市と中小企業の経営者	外部講師・姜
第６回	6.信用金庫の業務と備北信用金庫の経営方針	外部講師・姜
第７回	7.ﾒﾃﾞｨｱを通して地域を見る-そして本業	外部講師・姜
第８回	8.電力事業の状況と中国電力ネットワーク(株)の取り組みについて	外部講師・姜
第９回	9.100年企業として・・・地域で必要とされる存在であり続けるために	外部講師・姜
第１０回	10.リーダーシップと経営者	外部講師・姜
第１１回	11.リーダーシップと経営者	外部講師・姜
第１２回	12.好きなことをして生きる	外部講師・姜
第１３回	13.私が見てきた、経営者たち	外部講師・姜
第１４回	14.ガリーダーシップと経営者	外部講師・姜
第１５回	15.仕事と私	外部講師・姜
第１６回	16.単位認定試験	姜

教科書

教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	予習ができるように講義時に参考書・資料などを事前に適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	社会的責任経営			担当者	井勝　久喜		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-213		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	「社会的責任経営の必要性と意義」をテーマとして、社会における諸課題と企業経営の関係性を学び、なぜ社会的責任経営が必要なのかということについて考える。社会課題と経済及び社会的責任経営の方法論を学ぶことにより、企業の社会的責任について考える。 到達目標は下記の通りです ・企業活動が社会に及ぼす影響を理解し、説明することができる ・環境問題と企業活動の関係を説明することができる ・社会的責任の国際規格（ISO26000）を説明できる ・企業経営における経営倫理の重要性を理解し、説明することができる ・社会的責任経営の方法を提案できる能力が身についている
授業概要	なぜ、企業は社会的責任経営に取り組まなければならないのか、持続可能な人類社会を築くために社会的責任経営が必要なことを、社会における諸課題の発生の原因と関連づけて理解する。さらに、持続可能な企業経営における、企業の社会的責任と経営戦略の概念と重要性について理解するとともに、社会的責任経営の具体的内容について概要を講義する。 講義、グループディスカッション、ケースメソッド、BRDなど参加型学習方法も取り入れて授業を行う。毎回、課題レポートを作成する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	試験（40%）、課題レポート（60%）で評価する。ただし、他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には、減点することもある。また、参加型学習法であることから、授業態度を重視する。詳しい評価方法は、初回の授業時に説明する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポート等は採点して授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	１）初回の講義には、必ず出席すること。 ２）評価方法でも示したとおり、出席と授業での学び重視しているので、授業を休まないようにすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）講義と参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。次の授業までに必要な予習の内容については授業時間中に指示する。 ２）指示に従って、必ずノートを作成し復習をすること。 ３）BRD（Brief Report of the Day：当日ブリーフレポート）学習法により授業を行う場合は前週に資料を配布するので、しっかり読み込んで、不明な点は調べてくること。 予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施

授業計画		担当者
第１回	ＣＳＲの定義と概要	井勝久喜

第２回	ＣＳＲ経営の概要	井勝久喜
第３回	地球環境と社会システムの現状	井勝久喜
第４回	経済理論とＣＳＲ	井勝久喜
第５回	ＣＳＲと豊かさの概念	井勝久喜
第６回	地球の限界とエコロジカル・フットプリント	井勝久喜
第７回	社会的責任の国際規格（ISO26000）	井勝久喜
第８回	ISO26000（社会的責任の原則）	井勝久喜
第９回	ISO26000（中核主題）	井勝久喜
第１０回	ＣＳＲと環境経営	井勝久喜
第１１回	ステークホルダー・エンゲージメント	井勝久喜
第１２回	経営倫理とＣＳＲ	井勝久喜
第１３回	ＣＳＲとグローバルコンパクト	井勝久喜
第１４回	ＣＳＲと社会的責任投資	井勝久喜
第１５回	ＣＳＲ実践の課題と戦略	井勝久喜
第１６回	試験	井勝久喜

教科書			
教・書籍名１	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ＣＳＲの基礎	参・出版社名１	中央経済社
参・著者名１	國部克彦	参・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4-5002-22541-3
参・書籍名２	ＣＳＲ経営要論	参・出版社名2	創成社
参・著者名2	佐久間信夫　他	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7944-2551-5

授業科目名	SDGsと経営			担当者	井勝　久喜		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-214		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	「SDGsを指向した企業経営の実践方法の理解」をテーマとする。 到達目標は以下の通りです。 ・企業がSDGsに取り組む必要性を理解する ・企業経営に関係するSDGsの本質を理解する ・SDGs時代の新しい経営モデルを理解する ・持続可能な社会の構築における企業の役割を理解し、実践できる能力を身につける
授業概要	企業はSDGsを達成する上で重要な役割を担っています。また、企業は事業を通じてSDGsの達成に貢献しなければなりません。また、企業の立場からSDGs見てみると、SDGsは、貧困や健康、教育、気候変動、環境劣化など、企業にとって関連のある広範な課題を扱うので、企業戦略を地球の優先課題につなげることに役立ちます。 授業ではSDGsの基本的考え方を理解すると共に、企業がどのようにしてSDGsを経営戦略と整合させ取り組んでいくのかについて学び、持続可能な社会の構築に寄与する企業経営を実践できる能力を身につけます。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	BRD（Brief Report of the Day）方式で授業を行い毎回の授業でレポートを作成しそのレポートを評価（70%）、試験（30%）で評価する。ただし、他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には、減点することもある。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回提出したレポートは採点して次回授業時に返却する。
履修条件・注意事項	１）BRD方式により授業を行うので、教科書を読んで予習しておくことが必須である。２）初回の講義には、必ず出席すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）BRD学習法により授業を行うので、予習が必須である。教科書を、しっかり読み込んで、不明な点は調べてくること。 ２）返却されたレポートに記載されている指示に従って学習し直すこと。 ３）予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施

授業計画		担当者
第１回	SDGsの理解	井勝久喜
第２回	SDGsと経営	井勝久喜
第３回	SDGsの背景	井勝久喜
第４回	SDGsとCSV(共通価値の創造)	井勝久喜
第５回	SDGs時代の新たな経営モデル	井勝久喜
第６回	SDGsをビジネス言語に翻訳する	井勝久喜

第７回	持続可能性を志向した政府の規制	井勝久喜
第８回	ESG投資	井勝久喜
第９回	抜本的な改革に向けての道筋	井勝久喜
第１０回	企業は何を目指して改革を進めるか	井勝久喜
第１１回	企業はどこで戦うか	井勝久喜
第１２回	企業はどう勝ち抜くか	井勝久喜
第１３回	サステナブルなサプライチェーン	井勝久喜
第１４回	ブランディング力	井勝久喜
第１５回	新たに必要なマネジメントシステム	井勝久喜
第１６回	試験	井勝久喜

教科書			
教・書籍名１	SDGsが問いかける経営の未来	教・出版社名１	日本経済新聞出版社
教・著者名１	モニターデトロイト編	教・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4-532-32236-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	SDGsの考え方と取り組みがしっかりわかる教科書	参・出版社名１	技術評論社
参・著者名１	バウンド著	参・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4-297-11629-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	地域クラブマネジメント論			担当者	高藤　順		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-215		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	スポーツ現場におけるマネジメントをテーマとして、身体活動のみならず、ビジネス活動、文化活動など社会的活動としての価値を急速に高めつつあるスポーツの過程の知識を身につける。加えて、学生がスポーツの様々な場面において、効果的なマネジメントを行なうことができる。
授業概要	現代ではスポーツに関わる様々な活動がビジネスとして行われるようになっている。そして、これらのビジネスにおいて高度なマネジメントの知識と技能が要求されつつある。本講義では、スポーツマネジメントの基礎的概念についての理解を深め、マネジメントの基礎を習得するとともに、現代においてマネジメントがどのようにスポーツの場面で応用されているのかについて解説する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	単位認定試験（40%）中間レポート（30%）毎回の小レポート（20%）受講姿勢（10%）評価の詳細については、第1回目の授業において説明する。なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので単位認定試験までに見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の講義終了後の小レポートの内容を通して、次回の講義導入時にポイントを説明する。
履修条件・注意事項	（公財）日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー受験資格必修科目 パワーポイントの資料は配布しないので、ノート・ルーズリーフ等は必ず持参すること。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、日本女子サッカーリーグ所属クラブ監督・運営責任者の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、スポーツマネジメント現場における現状や課題、必要とされる知識や能力について講義し、学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、課す小レポートの内容及び授業内容を必ず毎回2時間程度、復習するとともに次回のテーマについて予習すること。
オフィスアワー	個人研究室（９号館４階）にて、火曜日4限に実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スポーツマネジメントとは！？	高藤
第２回	スポーツとスポンサー	高藤
第３回	スポーツマーケティング	高藤
第４回	スポーツクラブにおけるマネジャーの役割（マネジャーとは）	高藤
第５回	スポーツクラブにおけるマネジャーの役割（MGの位置づけ）	高藤
第６回	アメリカのトップリーグのマネジメント	高藤
第７回	ヨーロッパのトップリーグのマネジメント	高藤
第８回	日本におけるプロ野球とプロサッカーリーグのマネジメント	高藤
第９回	みるポーツのマネジメント	高藤
第１０回	プロスポーツ選手・プロスポーツクラブのマネジメント	高藤（外部講師）
第１１回	地域スポーツクラブのマネジメント	高藤（外部講師）
第１２回	スポーツビジネスにおけるマネジメント	高藤
第１３回	日本女子サッカーリーグ所属クラブのマネジメント	高藤（外部講師）

第１４回	スポーツ施設のマネジメント	高藤
第１５回	総括・最終レポート	高藤
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	体育・スポーツ経営学講義	教・出版社名１	大修館書店
教・著者名１	八代勉・中村平　編	教・ＩＳＢＮ１	4-469-26480-6
教・書籍名２	公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	教・出版社名2	（公財）日本スポーツ協会
教・著者名2	（公財）日本スポーツ協会	教・ＩＳＢＮ2	214K1T 214K2T 214K3T
参考書			
参・書籍名１	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	プログラミング入門			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-216		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	プログラミングにおける基本的な考え方、構造化プログラミングを習得してもらうことを目標としている。本講義ではscratch、Minecraft EE、Power Automate Desktopを使ってビジュアルプログラミングを行うことで、その後のテキストベースのプログラミングへの発展の足掛かりとなる技能を習得してもらう。また、これらのアプリケーション習得を目指す中で、日常的にPCに触れ、PCセントラルな考え方も習得してらもらいたい。
授業概要	近年、小学校レベルから情報教育、なかでもプログラミング教育が行われるようになっており、社会的にプログラミング能力が必要とされるようにはなっている とはいえ、テキストベースのプログラミング言語までは必要ないと思われるが、ビジュアル・プログラミングは様々な面で企業内に取り込まれているため、必要な技能と言える。 今後の企業内では、ExcelやPowerPointに加えて、Power Automate DesktopのようなRPAツールも使用できるようになることが重要であり、本講義ではこれを目標とするよう構成している。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	講義内での貢献度30%、期末成果物70%。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義時間内やオフィスアワーなどを利用してい随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	421教室のキャパシティの限界から受講生を制限する可能性がある。 情報処理Ⅰの単位を取得していることを条件とする。 留学生はN2を取得していること。 また、初回の講義の中でアプリのダウンロードとインストールを行うので、初回の講義が始まる前までに学内無線LANへの接続ができる状態にしておくこと。もし、できていない場合には履修放棄としてもらう。 PCは必ず持参すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習としては、情報処理1の中で学んだことの復習を行っておくこと（2時間）。 また、YouTubeなどでscratchやPower Automate Desktopに関する解説動画は、常に確認しておくこと。 事後学習としては、当日の内容を、再度１から再現してみること（２時間）。
オフィスアワー	月曜日3限

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーションと環境構築	竹岡
第２回	構造化プログラミング①順次実行の基礎	竹岡
第３回	構造化プログラミング②順次実行の応用	竹岡
第４回	構造化プログラミング②条件分岐の基礎	竹岡
第５回	構造化プログラミング②条件分岐の応用	竹岡
第６回	構造化プログラミング②ループ処理の基礎	竹岡
第７回	構造化プログラミング②ループ処理の応用	竹岡
第８回	構造化プログラミングによる問題解決①基礎	竹岡
第９回	構造化プログラミングによる問題解決②応用	竹岡

第１０回	RPAの基礎と考え方について		竹岡
第１１回	RPAを用いた処理の構築		竹岡
第１２回	RPAを用いたwebクローリング		竹岡
第１３回	アプリケーション制作①仕様の検討		竹岡
第１４回	アプリケーション制作②実装		竹岡
第１５回	アプリケーション制作③デバッグ		竹岡
第１６回			
教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	10才からはじめるプログラミング Scratchでゲームをつくって楽しく学ぼう	参・出版社名１	技術評論社
参・著者名１	大角 茂之、大角 美緒	参・ＩＳＢＮ１	978-4774198163
参・書籍名２	Scratch 3.0で楽しむ レッツ! プログラミング ジュニア・プログラミング検定 公式テキスト	参・出版社名2	FOM出版(富士通エフ・オー・エム)
参・著者名2	富士通エフ・オー・エム株式会社 (FOM出版)	参・ＩＳＢＮ2	978-4865103922

授業科目名	ソーシャルデザイン論			担当者	大西　正泰		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-301		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ；自分の周りの環境をよりよくする営み（ソーシャルデザイン）の面白さと難しさをケースを通じて体感する 到達目標；①ソーシャルデザインに関する国内外の映画や事例をもとに、知識や考え方を身につけている。 ②ワークショップを通じて、課題について対話し、課題解決の結果となる ソーシャルデザインのありようへ至る合意形成の姿勢を身につけている。 ③自分の周りの環境をよりよくしようと互いに考え、行動することができる。 ＊DPで重要視している◎について DP３「主体的な学びと論理的思考」・・映画やケース分析を通じて話し合う中で、教材の面白さから誘発されたり、 対話のなかでの主体的な姿勢が尊重され、論理的思考によって通じあえる共感ができる。 DP７「自己効力感」・・ワークショップで対話を積み重ねることで、学生間の行動変容が生まれ、 関係性の深まりとともに、組織が変わっていくことによる自己効力感を得られる。
授業概要	本講義の前半では、動画におけるケース（組織行動）を用いて反転学習を行います（事前に映画を見たり、あらすじを確認する）。 動画に出てくるシーンを通じて、組織社会化などのテーマに基づいて、話し合いを進めていきます。 ケースとして使う映画は主に以下のものです。 「プラダの悪魔」（2006）「ショーシャンクの空に」（1994） 「12人の怒れる男」（1959）「マネーボール」（2011） 「ソーシャルネットワーク」（2010） ＊受講生の興味関心によって、映画やケースを変えることもあります。 本講義の後半では、実際のケースや授業のなかでのルール改正に基づく変容を分析します。 1. Kiva（世界初のperson to personマイクロファイナンス機関）など 2. 喫茶ランドリー（カフェ＋αでサードプレイスを作る）など 3. 新たな「学校」などのソーシャルデザイン 4. ユニバーサルデザインの事例 などを元に行う。 ＊ケースは、受講生の興味関心に応じて変わる場合があります。 これらの事例をもとに勉強しながら、ソーシャルデザインを考えるための基礎的な力を養う。
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	評価方法は、 ①毎回の授業における感想レポート（40%）と、②レポート試験（60%）で評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィード	１）感想レポートについては、ユニバーサルパスポートで管理し、フィードバックする。

バック方法	2）レポート試験については、Teamsで管理し、フィードバックする。		
履修条件・注意事項	1）本講義では、映画をケースに使うため、事前に予習として映画を見てもらいます（反転学習）。 2）本講義では、ルールなどの組み替えによって（＝デザインする）、外的環境を変えていくことを 学ぶので、積極的な授業姿勢、発言などが求められます。 3）欠席、遅刻する場合は前もって連絡すること。		
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、地域づくりに携わってきた実務経験のある教員が授業を行います。 実務経験としては、 ①2006年～2010年香川県高松市丸亀町商店街での地域スポーツ支援
事前学習・事後学習とその時間	1）反転学習を行うので、映画の視聴とそれらの評論など、事前に課題を調べた上で参加するのが必須である。 授業は、この課題をめぐって対話形式で行います。 2）授業後には、感想レポートを提出し、ふりかえりを行います。 ふりかえりでは、課題ごとに登場するキーワード（例　組織社会化など）に基づいて ２時間の自己学修を行うこと。 3）さらにソーシャルデザインに興味があれば、参考書を設定しているので、自己学修に利用すること。		
オフィスアワー	月曜日（２、３限）火曜日（２、３限）場所は14621研究室（14号館6階）になります。 ＊他の曜日についてはメールにて、随時受付します。m-onishi@kiui.ac.jp		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション～人生グラフとトークフォークダンス～	大西正泰
第２回	ソーシャルデザインとは何か？～ケース「プラダを着た悪魔」①～	大西正泰
第３回	ソーシャルデザインとは何か？～ケース「プラダを着た悪魔」②～	大西正泰
第４回	ソーシャルデザインを拒むもの（組織社会化）～ケース２「ショーシャンクの空へ」①～	大西正泰
第５回	ソーシャルデザインを拒むもの（組織社会化）～ケース２「ショーシャンクの空へ」②～	大西正泰
第６回	社会を動かす決め手は何か？～ファクトフルネス～	大西正泰
第７回	社会を動かす決め手は何か？（集団的意思決定）～ケース３「12人の怒れる男」①～	大西正泰
第８回	社会を動かす決め手は何か？（集団的意思決定）～ケース３「12人の怒れる男」②～	大西正泰
第９回	ソーシャルデザイン分析①「クラウドファンディング」	大西正泰
第１０回	ソーシャルデザイン分析②「居心地のいい場所」	大西正泰
第１１回	ソーシャルデザイン分析③「誰にでも使えるユニバーサルデザイン」	大西正泰
第１２回	ソーシャルデザイン分析④「新しい学校」	大西正泰
第１３回	熱狂のイノベーション～ケース４「ソーシャルネットワーク」①～	大西正泰
第１４回	熱狂のイノベーション～ケース４「ソーシャルネットワーク」②～	大西正泰
第１５回	ふりかえりワークショップ	大西正泰
第１６回	レポート試験	大西正泰

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	ソーシャルデザインー社会を作るグッドアイデア集	参・出版社名１	朝日出版社
参・著者名１	グリーンズ	参・ＩＳＢＮ１	978-4255006222
参・書籍名２	図解組織開発入門 組織づくりの基礎をイチから学びたい人のための「理論と実践」100のツボ	参・出版社名2	ディスカヴァー・トゥエンティワン
参・著者名2	坪谷邦生	参・ＩＳＢN2	978-4799328248

授業科目名	SDGsで考える社会			担当者	井勝　久喜		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-302		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：SDGsの達成に向けた施策の理解 到達目標は下記の通りです。 ・SDGsの背景について理解する ・SDGsが目指す社会について理解する ・持続可能な社会の構築に向けて政策立案能力を身につける
授業概要	現在の地球は多くの環境的課題、社会的課題、経済的課題を抱えており、このままの状況が続けば、現代文明は持続することができません。SDGsは2015年に開催された持続可能な開発サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに達成を目指す世界共通の目標です。 授業では、SDGsについて、その背景や目的を学ぶと共に、SDGsの17の目標について概要を学びます。その後、17の目標について達成に向けた取り組み施策を受講者が考え、その施策について受講者全員で討論をします。それにより、SDGsの達成に向けた政策立案能力を身につけます。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	各自が作成した討論資料と討論の振り返りレポートを評価します（50点）。また、最終試験を行います（50点）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業の振り返りレポートは採点した後、次回授業で返却します。
履修条件・注意事項	１）討論資料作成と討論を主体として授業を行うので、予習しておくことが必須である。 ２）授業は毎回討論を行うので休まないこと ３）初回の講義には、必ず出席すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）討論資料作成と討論を主体として授業を行うので、予習しておくことが必須である。 ２）返却されたレポートに記載されている指示に従って学習し直すこと。 ３）予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施

授業計画		担当者
第１回	SDGsとは何か	井勝久喜
第２回	SDGsの背景	井勝久喜
第３回	目標1　貧困をなくそう　について議論する	井勝久喜

第４回	目標2　飢餓をゼロに　について議論する	井勝久喜
第５回	目標3　すべての人に健康と福祉を　について議論する	井勝久喜
第６回	目標4　質の高い教育を皆に　について議論する	井勝久喜
第７回	目標5　ジェンダー平等を実現しよう　について議論する	井勝久喜
第８回	目標8　働きがいも経済成長も　について議論する	井勝久喜
第９回	目標10　人や国の不平等をなくそう　について議論する	井勝久喜
第１０回	目標11　住み続けられるまちづくり　について議論する	井勝久喜
第１１回	目標12　つくる責任　つかう責任　について議論する	井勝久喜
第１２回	目標13　気候変動に具体的対策を　について議論する	井勝久喜
第１３回	目標16　平和と公正をすべての人に　について議論する	井勝久喜
第１４回	目標17　パートナーシップで目標を達成しよう　について議論する	井勝久喜
第１５回	SDGsで考える社会	井勝久喜
第１６回	授業の振り返りと試験	井勝久喜

教科書			
教・書籍名１	使用しない（適宜プリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１	使用しない（適宜プリントを配布する）	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	SDGsとは何か？	参・出版社名１	三和書籍
参・著者名１	安藤顯	参・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4-86251-398-4
参・書籍名２	ADGsの実践	参・出版社名2	事業構想大学院大学出版部
参・著者名2	村上周三　他	参・ＩＳＢN2	978-4-88335-464-1

授業科目名	地域づくり論			担当者	大西　正泰		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-303		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ；生物学視点から、地域づくりのルーツを「巣づくり」とみなし、先史からいままでの地域づくりの歴史をテーマとする。 到達目標；地域づくりの歴史から地域形成過程を学び、地域の文化や歴史などからみた地域づくりに必要な知識やスキルを身につけることができることを目標とする。 ＊DPで重要視している◎について DP1知識技能　生物の生存戦略から巣作りとしての地域づくりとして解釈した見方をもとに、専門的知識を学んで、課題解決に取り組むことができる。
授業概要	この講義は、3部構成になっており、地域づくりについて、生物・経済・空間づくりそれぞれの視点で地域づくりを再定義し、次の地域づくりを考えます。 ・前半では、家や地域を「巣」として考えて、人類史を振り返って分析します。 ・中盤では、空間経済学の知見である産業クラスターやクリエイティブクラス論（リチャード・フロリダ）を用いて議論をします。 また最近注目されているプレイスメイキングの考えを用いて、実際の場づくりを体感したりします。 ・後半では、次の地域づくりのヒントを世界各国の事例（日本、アメリカ、イスラエルなど）から学んでいきます。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	評価方法は、 ①毎回の感想レポート（40%）、②レポート試験（60%）で評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	１）感想レポートについては、ユニバーサルパスポートで管理し、フィードバックする。 ２）レポート試験については、Teamsで管理し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	・毎回の授業時に配付する資料がテキストになります。 ・大幅な遅刻や無断欠席はグループワークや評価に影響するので，ご注意ください。 やむを得ない場合，必ずメールなどで連絡してください（できるだけ事前にお願いします）。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、地域づくりに携わってきた実務経験のある教員が授業を行います。 実務経験としては、 ①2006~2010年　香川県高松市丸亀町商店街での地域スポーツ支援 ②2009年　讃岐パスタ発案者（企画・開発・商品化） ③2011~2018年　徳島県上勝町における空き家再生/起業家育成など
事前学習・事後学習とその時間	・各ケース、討論テーマについては、テレビや新聞報道による地域事例に目を配り，予習復習（各２時間）を行ってください。 ・グループ活動では，積極的な問題提起や発言ができるようにしてください。

	（地域との関わりにおいては、コミュニケーションがもっとも大事なスキルとなります） ・参考文献に載せている本は、各テーマごとの背景になる考え方を指し示しているもので、読みやすいものを選んでいます。
オフィスアワー	月曜日（２、３限）　火曜日（２、３限）場所は14621研究室（14号館6階）になります。 ＊他の曜日についてはメールにて、随時受付します。m-onishi@kiui.ac.jp

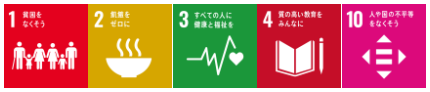
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大西正泰
第２回	＜問い１＞生物視点で地域づくりを考えてみたら？	大西正泰
第３回	＜問い２＞地域づくりとは何か？①	大西正泰
第４回	＜問い２＞地域づくりとは何か？②	大西正泰
第５回	＜目線を変える＞地域進化論①産業集積	大西正泰
第６回	＜目線を変える＞地域進化論②クリエイティブクラス	大西正泰
第７回	＜目線を変える＞地域進化論③「地域づくりの原理/資本主義」	大西正泰
第８回	＜目線を変える＞地域進化論④「地域づくりの原理/資本主義」	大西正泰
第９回	＜目線を変える＞地域進化論⑤進化の先の生きづらさ	大西正泰
第１０回	地域づくりの基礎基本①サードプレイスと対話	大西正泰
第１１回	地域づくりの基礎基本②自己紹介ワークショップとインタビュー	大西正泰
第１２回	地域づくりの基礎基本③ワールドカフェ	大西正泰
第１３回	次の地域づくりのヒントは何か？①～理想共同体の歴史～	大西正泰
第１４回	次の地域づくりのヒントは何か？②～理想共同体の歴史～	大西正泰
第１５回	次の地域づくりのヒントは何か？～企業がつくる時代へ～	大西正泰
第１６回	レポート試験	大西正泰

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	サピエンス全史(上・下)	参・出版社名１	河出書房新社（２０１６）
参・著者名１	ユヴァル・ノア・ハラリ	参・ＩＳＢＮ１	上巻978-4309226712 下巻978-4309226729
参・書籍名２	マイパブリックとグランドレベル ―今日からはじめるまちづくり	参・出版社名2	晶文社 (2017)
参・著者名2	田中元子	参・ＩＳＢＮ2	104794969821

授業科目名	福祉と地域づくり			担当者	黒宮　亜希子、藤井　伊津子、中野　明子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-304		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう 
到達目標	テーマ：福祉の視点から、地域におけるまちづくりの現状と課題について分析する。 到達目標（4つ） ① 福祉、まちづくりに関する基礎的な知識を修得する。 ② 福祉の視点に基づいたまちづくりの実践例を、事例を通じて理解する。 ③ SDGsの課題達成や、地域共生社会の実現にとって必要な要素を、受講生が分析出来るようになる。 ④ 受講生が、自らが生活する地域のまちづくりに関する事例やそこでの課題を検証する作業を通じて、能動的に学ぶ姿勢を身につける。
授業概要	本講義は、福祉の視点から地域におけるまちづくりの現状と課題について学ぶ授業である。 授業の冒頭では、福祉やまちづくりの基礎的概念を理解した上で、担当者3名が様々な社会福祉実践とそこでのまちづくり、地域の課題について考察を加える。 受講生自らも、高梁市や、出身地域など、身近な地域を事例として検討を行うため、解決に対する課題解決能力が身につく。 学外における施設見学や体験学習も予定している。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中提出課題（60%）、学習成果発表（40%）で評価を行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は随時フィードバックを行う。 返却された課題は各自保管しておくこと。
履修条件・注意事項	・授業は配布するハンドアウトに沿って進める。ファイルを準備し保管のこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：担当者は、保育所・社会福祉施設等における勤務経験を有する。
事前学習・事後学習とその時間	・毎回の授業後に、ハンドアウトをもとに必ず復習が必要である。 ・十分な予習と復習（毎回約2時間）を必要とする。
オフィスアワー	水曜5限（10313研究室：藤井） 月曜4限（14615研究室：黒宮） 火曜2限（10312研究室：中野）

授業計画		担当者
第１回	授業オリエンテーション	藤井・中野・黒宮

第２回	福祉とまちづくり、基礎的理解	黒宮
第３回	子ども・保育とまちづくり（高梁から生まれた福祉の先駆者：順正記念館の見学）	藤井
第４回	子ども・保育とまちづくり（高梁の子育て：高梁子育て支援センターの見学）	藤井
第５回	子ども・保育とまちづくり（高梁市内の保育園の見学）	藤井
第６回	子ども・保育とまちづくり（振り返り）	藤井
第７回	福祉・障害とまちづくり（絵本を通して学ぶ障害のある子どもの暮らし）	中野
第８回	福祉・障害とまちづくり（事例やビデオで学ぶ障害のある人の暮らし）	中野
第９回	福祉・障害とまちづくり（障害の疑似体験）	中野
第１０回	福祉・障害とまちづくり（振り返り）	中野
第１１回	地域の生活課題とまちづくり（地域人口と居住者の変化）	黒宮
第１２回	地域の生活課題とまちづくり（食料品アクセス）	黒宮
第１３回	地域の生活課題とまちづくり（自然災害と地域のつながり）	黒宮
第１４回	学習成果発表の準備1（発表内容の検討）	藤井・中野・黒宮
第１５回	学習成果発表の準備2（発表資料作成）	藤井・中野・黒宮
第１６回	学習成果発表（試験）	藤井・中野・黒宮

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	福祉のまちづくりの検証―その現状と明日への提案	参・出版社名１	彰国社
参・著者名１	日本福祉のまちづくり学会 (編集)	参・ＩＳＢＮ１	978-4395021086
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ファシリテーション入門			担当者	井勝　久喜		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-307		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「集団による課題解決など、知的創造活動を支援するファシリテーション技能の習得と活用」をテーマとし、ファシリテーションの理論と技能を学ぶ。 到達目標は下記の通りです。 ・合意形成におけるファシリテーションの重要性を理解している ・ファシリテーション技能を身につけ、実践で活用できる ・ワークショップのファシリテーターとして話し合いを支援できる。
授業概要	集団による課題解決、アイデア創造、合意形成などの場面では、参加者の話し合いを支援し、促進することが大切となります。話し合いを円滑に進行し、集団のメンバーが納得できる意思決定を行うためにはファシリテーションが必要不可欠です。 授業では、集団の話し合いに必要なファシリテーション技能について理論を学ぶと共に、実際にファシリテーションを体験するワークショップを行い、ファシリテーション技能を身につけます。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	講義とグループワークを組み合わせて授業を行う。毎回授業レポートを提出してもらい、レポートを評価する（70%）。最後に、試験を行い評価（30%）する。ただし、他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には、減点することもある。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回のレポートを採点し、次回授業の時に返却する。
履修条件・注意事項	１）初回の講義には、必ず出席すること。２）毎回の授業での活動が評価の対象となるので、授業を休まないこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）授業前に配付資料を読んできておくこと。２）指示に従って、必ず復習をすること。予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施

授業計画		担当者
第１回	ファシリテーションとリーダーシップ	井勝久喜
第２回	人材育成と教育ファシリテーション	井勝久喜
第３回	ファシリテーションの応用分野	井勝久喜
第４回	構造化の理論と実践	井勝久喜
第５回	合意形成の理論と実践	井勝久喜
第６回	ファシリテーターの役割と技能	井勝久喜
第７回	ファシリテーターの技能①聴く力	井勝久喜
第８回	ファシリテーターの技能②応える力	井勝久喜
第９回	ファシリテーターの技能③訊く力	井勝久喜
第１０回	ファシリテーターの心構え	井勝久喜
第１１回	ワークショップの「困ったチャン」対応	井勝久喜
第１２回	ファシリテーショントレーニング①見取りシート	井勝久喜

第１３回	ファシリテーショントレーニング②三人インタビュー	井勝久喜
第１４回	ファシリテーショントレーニング③ダイアログ	井勝久喜
第１５回	ファシリテーショントレーニング④合意形成	井勝久喜
第１６回	授業の振り返りと試験	井勝久喜

教科書			
教・書籍名１	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	ファシリテーション超技術	参・出版社名１	かんき出版
参・著者名１	園部浩司	参・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4-7612-7512-9
参・書籍名２	ファシリテーションの教科書	参・出版社名2	東洋経済新報社
参・著者名2	グロービス	参・ＩＳＢＮ2	978-4-492-53348-2

授業科目名	法学入門			担当者	生駒　正文		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-310		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

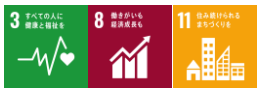
ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	本講義（法律の基礎知識、憲法の構成と基本原理、民法学の基礎知識、家族法の基礎知識、契約一般の基礎知識、訪問販売・割賦販売等の基礎知識）を通して、生活上の諸問題や社会の動向に関して興味関心を持ち、何がただしいのかという価値判断が求められる局面において、自ら考えて選ぶリーガル・マインドを獲得することを到達目標とします。
授業概要	本講義では、個人の生活、企業のビジネスで体験する身近な法的問題を取り上げることによって法の生きた現実の機能を学ぶとともに、法的なものの考え方（リーガルマインド）を学習できるようになっています。講義中に配布する簡単なレジュメ・教科書をもとに授業します。 　各講義とも、それに関係する基礎的な知識習得として、「テーマ」を出しますので、各自意見を文章にしてもらいます。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	レポート及び平常点３０％、定期試験７０％として総合評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題・小テスト等は後日添削して返却
履修条件・注意事項	新聞記事を毎日読むこと、受講に際して、ノートを取ること、考えることを原則に講義に臨むこと
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は大阪簡易裁判所民事調停委員として各案件処理等経験を持つ教員が、その経験を活かし実践的に役立つ授業を実施します
事前学習・事後学習とその時間	授業計画ごとに教科書を復習・予習しておくこと（２時間）
オフィスアワー	12:00～13：２０　14号館6階（生駒研究室）

授業計画		担当者
第１回	1．法律の基礎知識	生駒正文
第２回	2．日本国憲法の構成と基本原理	生駒正文
第３回	3・平和主義・国民主権（三権分立）	生駒正文
第４回	4．基本的人権	生駒正文
第５回	5．基本的人権	生駒正文
第６回	６．基本的人権	生駒正文
第７回	7．家族法の基礎知識（婚姻、内縁）	生駒正文
第８回	８．家族法の基礎知識（親族）	生駒正文
第９回	9．家族法の基礎知識（相続）	生駒正文
第１０回	10．家族法の基礎知識（相続）	生駒正文
第１１回	11．契約一般の基礎知識（契約上の注意点、無効、取消）	生駒正文
第１２回	12．契約一般の基礎知識（代理、契約解除に必要な条件）	生駒正文
第１３回	13．訪問販売・割賦販売の基礎知識（消費者契約法、クレジット）	生駒正文
第１４回	14．訪問販売・割賦販売の基礎知（特定商取引法）	生駒正文
第１５回	15．電子取引上の契約とホームページ	生駒正文
第１６回	16．定期試験	生駒正文

教科書			
教・書籍名１	ガイドブック法学	教・出版社名１	嵯峨野書院
教・著者名１	生駒正文・高田富男編著	教・ＩＳＢＮ１	９７８－４－７８３４－０５７０－６
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	地域分析入門			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-314		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを 
到達目標	テーマ：地域分析の基礎的知識および、データを活用した分析力を習得する。 到達目標（４つ）： ①社会学的な地域・コミュニティの見方や考え方を理解する。 ②地域の現状ならびに生活課題について各種事例から学ぶ。 ③オープンデータを活用した地域分析の基礎的手法を習得する。 ④複数の地域分析ツール（RESAS、統合型GIS、ｊSTAT MAP、ほかWeb-GIS等）を活用し、①②③を統合した学習課題に取り組み、その成果をまとめる。
授業概要	本講義は、地域社会についてデータを活用しながら地域を分析する視点を身に付ける授業である。 授業は講義と演習で構成される。 特に、演習の際には、各自がパソコンを持参することが求められる。 既存のデータを扱うのみならず、社会調査の視点から、各自が必要なデータを収集する（質的・量的）に行うことも想定している。 受講生自らも、高梁市や、出身地域など、身近な地域を事例として検討を行うため、地域・社会課題に対する解決能力を身に付けることが出来る。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中提出課題と発表60%、最終試験40%
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中の提出課題は添削の上、返却を行う（フィードバック）。
履修条件・注意事項	・各自パソコンの持参が必要な授業回が多くある。 ・グループワークにおいてディスカッション力が求められる。留学生のうち会話能力が十分ではない受講生については注意が必要である。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：研究者として各種の地域分析を行う教員が担当する（専門社会調査士）。
事前学習・事後学習とその時間	・予習・復習にそれぞれ2時間を要する（発表機会が多くある）。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	授業オリエンテーション	黒宮
第２回	地域を理解することとは	黒宮
第３回	地域を知るために必要な情報収集（基礎）	黒宮
第４回	地域を知るために必要な情報収集（実践）	黒宮
第５回	RESASで知る地域（導入）	黒宮
第６回	RESASで知る地域（グループ活動）	黒宮
第７回	RESASで知る地域（まとめ・発表）	黒宮
第８回	統合型GISで学ぶ地域（導入）	黒宮
第９回	統合型GISで学ぶ地域（グループ活動）	黒宮
第１０回	統合型GISで学ぶ地域（まとめ・発表）	黒宮
第１１回	jSTAT MAPで学ぶ地域（導入）	黒宮

第１２回	jSTAT MAPで学ぶ地域（グループ活動）	黒宮
第１３回	jSTAT MAPで学ぶ地域（まとめ・発表）	黒宮
第１４回	その他、地域分析に応用可能な手法	黒宮
第１５回	学習成果の総括（振り返り）	黒宮
第１６回	最終試験（筆記）	黒宮

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	RESASの教科書 リーサス・ガイドブック	参・出版社名１	日経ＢＰ社
参・著者名１	日経ビッグデータ（編集）	参・ＩＳＢＮ１	978-4822236601
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会調査法Ⅰ			担当者	坂口　恵莉		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-315		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する科目である。具体的に、社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、社会調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査等の公的統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的事項を学び、基本用語を使えるようになることが到達目標である。「社会調査士」資格取得を希望する学生が最初に受講するべき初歩的な科目である。資格取得に必要な標準カリキュラムのA科目にあたる。資格取得を目指していない学生も歓迎する。
授業概要	社会調査の意義やその方法に関する基本的な概念を学習することを通して、「社会を読む」ために必要な想像力と論理力を身につける。官庁統計から地域調査まで、さまざまなタイプの社会調査を取り上げ、それぞれの意義と方法について解説する。数学や統計的知識は必要ない。単なる調査技術の理解にとどまらず、社会学的思考とは何かについて、考えるきっかけとなってほしい。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	この科目の到達目標は、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的事項を学び、基本用語を使えるようになることである。そして、学生には、社会調査の意義やその方法に関する基本的な概念を学習することを通して、「社会を読む」ために必要な想像力と論理力を身につけることが求められる。したがって、この科目では、基礎的事項の理解や、論理力を確認するための小テスト（50%）と、期末試験（５０％）で評価する。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。なお、評価のために実施する小テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、次の授業でフィードバック・解説を行う。
履修条件・注意事項	本科目は社会調査士資格科目である。日本語学習者においては、一定以上の日本語運用能力が求められる。 対面授業では、毎回授業プリントを配るので、ファイルを用意することが望ましい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	学生は、単位認定試験に向けて、基礎的事項の理解を積み上げていくことが重要である。講義資料と参考文献を用いた予習および復習には、各２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎授業後（ランチタイムに該当）に、講義を行う教室にて実施。

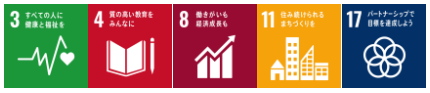
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	坂口
第２回	社会調査史	坂口
第３回	社会調査の目的と意義	坂口
第４回	社会調査の方法と選択：量的調査と質的調査	坂口
第５回	調査倫理	坂口
第６回	量的調査（１）：種類と実例	坂口
第７回	量的調査（２）：データ収集の方法	坂口
第８回	量的調査（３）：データ分析の方法	坂口
第９回	社会調査のデータと情報	坂口
第１０回	質的調査（１）：実際の質的記述の例	坂口
第１１回	質的調査（２）：データ収集の方法①	坂口
第１２回	質的調査（３）：データ収集の方法②	坂口

第１３回	質的調査（４）：データ分析の方法	坂口
第１４回	社会調査の今日的課題	坂口
第１５回	調査報告書のまとめ方	坂口
第１６回	試験	坂口

教科書			
教・書籍名１	なし	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	『社会調査の方法論』	参・出版社名１	丸善出版
参・著者名１	松本渉, 2021,	参・ＩＳＢＮ１	4621306316
参・書籍名２	『はじめて学ぶ社会調査：リサーチ・マインドを磨く８つのレクチャー』	参・出版社名2	慶應義塾大学出版会
参・著者名2	儘田徹, 2012,	参・ＩＳＢＮ2	4766419790

授業科目名	社会調査法Ⅱ			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2021～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-316		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを／１７．パートナーシップで目標を達成しよう 
到達目標	テーマ：社会調査の結果を分析できるようになるための基本的な方法を習得する。 到達目標（４つ） ①公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を身につける。 ②単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データや、グラフの読み方が身につく。 ③さまざまな質的データの読み方、基本的なまとめ方を身につける。 ④相関係数など基礎的統計概念、因果関係と相関関係の区別、擬似相関の概念が理解できるようになる。
授業概要	新聞や雑誌には多くの社会調査の情報があふれているが、その「読み方」までは教えてはくれない。この授業では、実際の社会調査に基づくデータや報告書の実例を出しながら、その意味を読み解くうえでの基本的な考え方について講義する。 社会調査法Ⅰで学んだ入門的知識を踏まえ、常識や思い込みにとらわれず、調査データに基づいて思考する能力を身につける。 社会調査分析に必要となる変数と尺度化、単純集計、クロス分析、因果関係と相関関係の区分、擬似相関、検定等の概念の理解を通し、単なる調査技術の理解にとどまらず、社会学的思考力を高めることが目的である。 本科目は、社会調査士の資格取得に必要な標準カリキュラム「C科目」にあたる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中課題提出（50%）＋定期試験（50%）で評価を行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中の提出課題については添削の上、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	・授業は配布するハンドアウトに沿って進める。ファイルを準備し保管のこと。 ・原則として、「社会調査法Ⅰ」を履修済みであることを条件とする。 ・資格取得に関わる科目のため、留学生の受講に際しては、N2合格水準レベルの日本語力が求められる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、研究者として社会調査を実践する担当教員（専門社会調査士）によるものである。社会調査の手法を具体的に学びながら学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	・毎回の授業時に、授業内容の理解度をはかる課題が出る。 ・十分な予習と復習（毎回約2時間）を必要とする。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	黒宮
第２回	社会調査における分析	黒宮
第３回	社会調査における変数・尺度	黒宮
第４回	記述統計データ ①単純集計	黒宮
第５回	記述統計データ ②度数分布	黒宮
第６回	記述統計データ ③様々な代表値	黒宮

第７回	記述統計データ ④分散	黒宮
第８回	記述統計データ ⑤因果関係と相関関係	黒宮
第９回	記述統計データ ⑥クロス集計	黒宮
第１０回	記述統計データ ⑦相関係数と疑似相関	黒宮
第１１回	様々な統計資料を読む ①各白書	黒宮
第１２回	様々な統計資料を読む ②国際比較調査	黒宮
第１３回	質的データの読み方 ①インタビュー	黒宮
第１４回	質的データの読み方 ②観察法	黒宮
第１５回	質的データの読み方 ③映像・ドキュメント分析	黒宮
第１６回	単位認定試験（筆記）	黒宮

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	社会調査の基礎―社会調査士A・B・C・D科目対応	参・出版社名１	弘文堂
参・著者名１	篠原 清夫ほか（編）	参・ＩＳＢＮ１	978-4335551338
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育デザイン論			担当者	雲津　英子、秀　真一郎、藤井　伊津子、栗田　喜勝、中野　明子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-401		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	教育デザイン論における学びのテーマは、心理学や教育学の学問的知見や教育実践に基づいて、保育・学校教育機能の理解を深めるとともに、保育・教育に関わる職員の役割と仕事内容について理解できることである。到達目標としては、保育・教育現場で求められる教材開発やIT、ICTなどの先端技術を活用した学習カリキュラム、学習支援サービスなどの教育システムをデザインするための基礎的知識を修得することである。
授業概要	本授業では、乳幼児、児童及び生徒の心身の発達特性について理解することを基礎として、子どもの成長発達を支援する保育・教育職員の職務内容と役割について具体的に学ぶとともに、今日の保育・教育実践の現状と課題について考察し、保育・教育環境上の新たなシステムや教材開発のニーズについて検討する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	受講態度(質疑・意見表明等の有無）（４０%）・期末試験（６０%）で総合的に評価する。。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中に呈示する自主学修課題については、学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	講義をしっかり聴き学ぶ意志のあること。受講態度の不適切な者には退出を求めることがある。また、各種講義資料を提示するので、整理し学習に活用すること。なお、受講に際しては必ず復習を行うとともに、次回の予告に対して予習を行うこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：授業は複数の担当者によるオムニバス形式で行うが、保育園や小学校、中学校等の教育現場における教育実践経験者である。
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に呈示する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 ３）単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーを確認すること。

授業計画		担当者
第１回	教育デザインとは―子どもの成長発達支援の観点から	栗田 喜勝
第２回	保育と教育の違いについて	秀 真一郎
第３回	保育所保育士の仕事内容について―現状と課題	秀 真一郎
第４回	幼稚園教諭の仕事内容について―現状と課題	雲津 英子
第５回	認定こども園の現状と課題について	藤井 伊津子
第６回	保育所・幼稚園・認定こども園で用いる教材アラカルト	藤井 伊津子
第７回	児童福祉施設の保育士・児童指導員の仕事内容について	中野 明子
第８回	保育・教育に関わる仕事に必要なスキルについて	雲津 英子

第９回	小学校教諭の仕事内容について―現状と課題	川上 はる江
第１０回	小学校の学習環境と教材アラカルト	川上 はる江
第１１回	中・高校教諭の仕事内容について―現状と課題	藤井 和郎
第１２回	中・高校の学習環境と教材アラカルト	藤井 和郎
第１３回	教育現場における情報教育について	雲津 英子
第１４回	子どもの育ちと教育環境について	栗田 喜勝
第１５回	学修のまとめ	栗田 喜勝
第１６回	期末試験	栗田 喜勝

教科書			
教・書籍名１	毎講義時に授業用資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	子どもがすくすく育つ幼稚園・保育園：教育・環境・安全の見方や選び方、付き合い方まで	参・出版社名１	内外出版社
参・著者名１	猪熊弘子・寺町東子	参・ＩＳＢＮ１	9.78486E+12
参・書籍名２	コンピューターがひらく豊かな教育―情報化社会の教育環境と教師	参・出版社名2	北大路書房
参・著者名2	田中俊也	参・ＩＳＢＮ2	9.78476E+12

授業科目名	ICT教育デザイン			担当者	佐藤　匡		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-402		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	今日のSociety5.0社会の中で、ICT(情報通信技術)の利用・活用が促進される状況にあって、学校教育における情報教育では、児童生徒が自ら考え、主体的に判断・表現・行動するなど、児童生徒が主体的に学ぶための「情報活用能力」の育成が求められる。そこで、本講における学びのテーマは、経営社会学科のディプロマポリシーに従って、児童生徒の情報活用能力の育成のためのICT活用の意義について理解することである。 また、到達目標としては、課題の提示や知識の確認、疑似体験(シミュレーション)、表現活動等の様々な学校教育場面において、ICTを効果的に活用する方法を修得することである。
授業概要	到達目標に従って、Eラーニングシステムの使いこなし方（課題の提示や知識の確認に使うための方法）の理解、疑似体験(シミュレーション)をExcel上で体験、平面図形を活用した資料の作成を体験、2D/3Dのモデリングによる立体感のある資料の作成方法の理解、簡単なWebページの構築やプログラミングの体験、など、様々な学校教育場面においてICTを効果的に活用する方法を、修得する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「"情報活用能力"の育成方法」の学びの予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50%、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20%として最終的に総合評価が行われる。これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	受講者数は、パソコン教室の定員以内とする。 教室の定員のため抽選となることがある。抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第１回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 教科書は用いず、毎回講義の終わりに次回の学習資料が配布される。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。

実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、前職で企業のIT部門（システム管理部門）に従事し、パソコンと汎用コンピュータと電話回線を組み合わせた比較的規模の大きい基幹システムから、パソコンによる段ボール箱設計と段ボール箱へのデザインを作るDTPシステムまでを開発運用した経験を持つ。その他データウェアハウスによるOLAPの運用経験を持つほか、労働省（当時）が全国で運営するコンピュータカレッジの中の一校においてCGコースを２年間担当した経験を持つ。

事前学習・事後学習とその時間	教科書は用いず、講義の終わりに適宜次回の学習資料が配布される。次回の講義に先立って、予習としてその資料を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。

オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日３時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日４時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日２時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日３時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スキル確認テスト	佐藤 匡
第２回	手書き略地図の制作（思考力の確認） Excelで略地図を書く（図形機能の活用）	佐藤 匡
第３回	Wordで略地図を書く（図形機能の活用）	佐藤 匡
第４回	乱数によるモンテカルロ法シミュレーションの概要	佐藤 匡
第５回	Excelによるシミュレーションで円周率を求める（シミュレーションを身近に体験する）	佐藤 匡
第６回	パワーポイントのアニメーション機能の使い方とスライドの動画化 動画と静止画について	佐藤 匡
第７回	Eラーニングシステムの概要とコンテンツの作り方 Google Classroom	佐藤 匡
第８回	Wordによる2段組抄録の作成練習（難易度の高い活用方法）	佐藤 匡
第９回	Windowsにおける拡張子の役割 WebページとHTML、JavaScriptプログラムの概要	佐藤 匡
第１０回	簡単なWebページの作成 パソコンのスペック（仕様）の読み方	佐藤 匡
第１１回	ITパスポート関連個所解説 3次元ポリゴンモデラーによる基本描画	佐藤 匡
第１２回	3次元ポリゴンモデラーによる描画とそのデータの資料としての活用方法	佐藤 匡
第１３回	2次元 ＣＡＤによる基本描画	佐藤 匡
第１４回	2次元 ＣＡＤによる幾何学図形の描画とそのデータの資料としての活用方法	佐藤 匡
第１５回	情報セキュリティの現状 ネットワークとインターネット まとめと質疑応答	佐藤 匡
第１６回	単位認定試験	佐藤 匡

教科書			
教・書籍名１	教科書は使用せず、講義内で学習資料を適宜配付する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育と社会			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-404		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	本講義は、家庭、学校そして地域社会のなかで生起する「社会現象としての教育」を、教育社会学の理論をもとに考察することをテーマとし、到達目標は次の3点とする。 ①　日本の社会と教育の歴史的変遷を理解し、多角的角度から批判的に考察する力を身につけることができる。 ②　家庭、学校、地域社会で営まれている教育、さらには、子どもの生活における現象を経済・社会・文化などと関連付け、その構造を理解することができる。 ③　近年の教育政策の動向を理解し、未来の教育と社会の在り方について自分の考えを論理的に説明することができる。
授業概要	教育社会学および社会学の基礎的概念や理論を理解するとともに、現代社会におけるさまざまな教育に関する現象（社会状況の変化とその影響を含む）について多角的角度から批判的に考察する。受講生には、これからの教育と社会の在り方に対する自らの考えを論理的に説明できる力を身につけてほしい。グループ討議等には積極的に参加し、主体的な学修をめざすことが望ましい。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	レポート試験・受講態度などによって総合的に評価する。 レポート試験（70%）、発表・討論への参加（15%）、受講態度（15%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題（提出物・レポート）は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、ファイルを用意すること。 新聞やテレビ・ラジオ、またインタネットや雑誌などで報道される教育に関する記事やニュースについて、日頃から関心をもってほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	日頃から教育や社会に関するニュースに関心をもち、グループ討議に積極的に参加できるように事前準備に努める。予習および復習は、各2時間程度行うこと。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

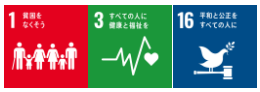
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション―「子ども」「教育」とは	雲津 英子
第２回	日本の社会と学校①―近世教育	雲津 英子
第３回	日本の社会と学校②－近代教育	雲津 英子
第４回	グループ討議①：近代教育について批判的に考える	雲津 英子
第５回	日本の社会と学校③－現代教育	雲津 英子
第６回	日本の家族と子どもの生活	雲津 英子
第７回	現代の子育てとその支援	雲津 英子
第８回	グループ討議②：家族や子育てに関する課題を考える	雲津 英子
第９回	社会の変化と幼児教育（幼稚園・保育所・認定こども園）	雲津 英子
第１０回	グループ討議③：幼児教育の多様化・市場化のメリット、デメリットを考える	雲津 英子
第１１回	教育におけるジェンダー／多文化共生の教育	雲津 英子
第１２回	消費社会・情報社会と子ども文化	雲津 英子

第１３回	グループ討議④：ジェンダー・多文化共生・消費社会・情報社会の教育について考える	雲津 英子
第１４回	世界、アジア、日本の教育改革	雲津 英子
第１５回	グループ討議⑤：社会の変化に対応する教育の在り方を考える―AI・人生100年時代（生涯学習社会）	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（レポート試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	教育と社会	参・出版社名１	学文社
参・著者名１	陣内 靖彦　穂坂 明徳　木村 敬子　編著	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7620-2257-9
参・書籍名２	教育と子どもの社会史	参・出版社名2	梓出版社
参・著者名2	小針 誠	参・ＩＳＢN2	978-4-87262-626-1

授業科目名	社会福祉 （子ども発達合同）			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-407		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	社会福祉の概要や現状と課題を理解することをテーマとし、下記を到達目標とする。 １．学生が、現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び 社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 ２．社会福祉の制度や実施体系について理解する。 ３．社会福祉の範囲や法体系について学ぶ。 ４．社会福祉の相談援助について理解する。 ５．社会福祉における利用者保護に関わる仕組みについて理解する。 ６．社会福祉の動向と課題について理解する。
授業概要	少子高齢化社会の中で、保育者は子どもの保育や子ども家庭支援の役割を担っている。それらを果たすために必要な社会福祉の知識や技術について理解する。具体的には、社会福祉の制度や実施体系、社会福祉の範囲や法体系、相談援助の方法（ソーシャルワークの技術や方法）、利用者保護に関わる仕組みなどについて学ぶ。また、社会福祉の動向と課題についても理解する。身近な事例を用いて、討論する時間なども設けていきたい。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	定期試験（評価基準６割）、課題（発表・提出物・レポート）（２割）、受講態度（２割）など総合的に判断する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題に関しては、紙面によりコメントを返却し、講義の中でもフィードバックする。単位認定試験の後は、事前に配布する講義のまとめのプリントを見て内容を確認すること。
履修条件・注意事項	欠席の場合、理由を書いた欠席届を提出してほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業計画に沿って、事前に教科書を読んで予習をしておくこと。授業中に、疑問点や気づきをメモし、受講後調べておくこと。学習したことを整理して、ノートの左側などにキーワードを書き入れ,、それを見出しとし説明ができるように復習すること。また、テレビや新聞などで報道される社会福祉に関する問題にも関連づけて考察し、ノート等にまとめておくこと。予習・復習は、毎回９０分ずつおこなうこと。
オフィスアワー	10号館3階１０３１２研究室にて、毎週火曜日２限をオフィスアワーとする。

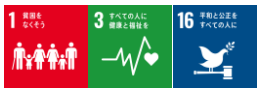
授業計画		担当者
第１回	１．社会福祉の理念と概念	中野明子
第２回	２．子ども家庭福祉と社会福祉	中野明子
第３回	３．社会福祉の道すじ	中野明子
第４回	４．社会福祉の範囲と法体系	中野明子
第５回	５．社会福祉行財政と実施機関	中野明子

第６回	６．社会福祉施設と専門職	中野明子
第７回	７．社会保障制度	中野明子
第８回	８．社会福祉における利用者保護に関わる仕組み	中野明子
第９回	９．社会福祉における相談援助 (1)相談援助の意義と原則	中野明子
第１０回	10．社会福祉における相談援助 (2)相談援助の方法と技術	中野明子
第１１回	11.社会福祉の動向と課題 (1)障害のある人の福祉	中野明子
第１２回	12.社会福祉の動向と課題 (2)高齢者の福祉	中野明子
第１３回	13.社会福祉の動向と課題 (3)在宅福祉・地域福祉の推進	中野明子
第１４回	14.社会福祉の動向と課題 (4)少子高齢化社会における子育て支援	中野明子
第１５回	15.社会福祉の動向と課題 (5)諸外国の動向	中野明子
第１６回	16.筆記試験	中野明子

教科書			
教・書籍名１	九訂『保育士をめざす人の社会福祉』	教・出版社名１	株）みらい
教・著者名１	相澤譲治他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86015-537-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子ども家庭福祉 （子ども発達合同）			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-409		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	「子ども家庭福祉の概要を理解し、これからの課題や展望について学ぶ」をテーマとする。 到達目標は以下の通りとする。 1.学生が、現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2.子ども家庭福祉の人権擁護について理解する。 3.子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4.子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5.子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。
授業概要	児童虐待や家庭内暴力（DV)、子どもの貧困、障害児問題、社会的養護など、児童家庭福祉の現状や課題を明らかにし、それに対応した制度や法体系、専門職について理解する。また、保育・教育・医療･療育などのネットワークの中で課題の解決を考察し、地域で子育て家庭を支える一員として実践できる保育士になれるよう指導したい。身近な話題を取り上げ討議する時間なども設けていきたい。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	定期試験（評価基準６割）、課題（提出物・レポート）（２割）、受講態度（２割）など総合的に判断する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題に関しては講義の中でフィードバックする。単位認定試験後は、授業の内容をまとめたプリント（授業期間に配布）にて内容を確認すること。
履修条件・注意事項	新聞やニュース、参考文献などから、児童家庭福祉の問題に関する情報を収集しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業計画に沿って、事前に教科書を読んで予習をしておくこと。授業中に、疑問点や気づきをメモしておき、受講後調べておくこと。学習したことを整理して、ノートの左側などにキーワードを書き入れ、それを見出しとし、説明ができるように復習すること。また、テレビや新聞などで報道される児童･家庭に関する問題とも関連づけて考察し、ノートにまとめておくこと。予習・復習は、 毎回９０分ずつおこなうこと。
オフィスアワー	10号館3階１０３１２研究室にて、毎週火曜日２限をオフィスアワーとする。

授業計画		担当者
第１回	１．子ども家庭福祉の理念と概念	中野明子
第２回	２．子ども家庭福祉の歴史	中野明子
第３回	３．現代社会と子ども家庭福祉	中野明子
第４回	４．子どもの人権擁護の歴史	中野明子
第５回	５．児童の権利に関する条約と子どもの人権擁護の現状と課題	中野明子
第６回	６．子ども家庭福祉の制度と法体系	中野明子

第７回	７．児童福祉施設及び子ども庭福祉の専門職	中野明子
第８回	８．子ども虐待・DVとその防止	中野明子
第９回	９．ひとり親家庭、貧困家庭等の子どもと支援	中野明子
第１０回	10.障害のある子どもの現状と支援	中野明子
第１１回	11.母子保健と子どもの健全育成	中野明子
第１２回	12.少年非行等の現状と支援	中野明子
第１３回	13.少子化と地域子育て支援	中野明子
第１４回	14.多様な保育ニーズへの対応	中野明子
第１５回	15.子ども家庭福祉の動向と展望	中野明子
第１６回	16.筆記試験	中野明子

教科書			
教・書籍名１	保育士をめざす人の子ども家庭福祉	教・出版社名１	(株) みらい
教・著者名１	波田埜　英治・辰巳 隆 編	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86015-468-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育の心理学Ⅰ（子ども発達合同）			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-411		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	発達は人と人の関わりのなかで生じていることを中心に、乳幼児の保育や幼児教育を行っていくうえで必須となる子どもの心身発達の基礎となる心理学的知見を学ぶことをテーマとする。 到達目標：子どもの生得的なすばらしい能力とその発達過程を理解し、子どもに対する興味・関心を高め、より多面的に理解できるようになる。
授業概要	保育実践における子どもの発達理解の意義について学ぶとともに、発達に関わる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。また、子どもの発達に関わる他者との関わり、社会的相互作用等についても理解する。さらに、生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育実践との関わりについて考察する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	ほぼ隔週で行う小テストまたはミニ・レポートの得点（３０％）と定期試験の得点（７０％）に、受講態度の評価点（０～１）を乗じたもので評価する。したがって、テストで満点であっても、受講態度の評価点が 0.5 の場合は100点×0.5で50点となるので注意すること。小テストは採点後、返却するので、定期試験に向けて、しっかり見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストの返却と、必要に応じて補足解説を行う。
履修条件・注意事項	上述のように、ほぼ隔週で小テストを行なうので、最低限、教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 小テストは前回の授業内容の復習テスト、あるいは当日の授業内容の理解テストを中心に行なう予定である。 保育士の資格取得には必須科目である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、あらかじめテキストに目を通しておくこと。（2時間） 復習は、配付資料とともに、再度テキストを読むこと。（2時間） 返却された小テストも確認しておくこと。
オフィスアワー	月曜4限　　教員研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	発達を考える（第1章）	森井
第３回	人との関わりの基盤	森井
第４回	子ども同士の関わりの進展	森井
第５回	身体的機能と運動機能の発達－個人差と環境－	森井
第６回	運動機能の発達と心理的発達との関連	森井
第７回	ピアジェ理論とその再検討	森井
第８回	世界づくりの開始―認知発達の基盤	森井
第９回	世界づくりの展開―身の回りの世界についての理解の構成	森井
第１０回	言語発達の基礎―人との関わりから育まれる言葉	森井
第１１回	言語を使った世界の広がり	森井
第１２回	乳幼児期の学びに関わる理論	森井

第１３回	乳幼児期の学びの過程と特性		森井
第１４回	乳幼児期の学びを支える保育		森井
第１５回	まとめ		森井
第１６回	定期試験		森井
教科書			
教・書籍名１	保育の心理学	教・出版社名１	北大路書房
教・著者名１	藤﨑 眞知代・無藤 隆	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7628-3152-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	エピソードで学ぶ　乳幼児の発達心理学	参・出版社名１	新曜社
参・著者名１	岡本依子・菅野幸恵・塚田-城みちる	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7885-0907-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	保育原理Ⅰ（子ども発達合同）			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2021～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-413		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、保育に携わる上で基礎概念となる保育の原理を理解することができると共に、より柔軟な保育理念を身に付けるための考察力を培うことができる。保育における歴史や思想を知ることで、現在の保育に至る流れをより深く理解することができる。さらに、乳幼児期の子どもにおける発達を考察し、保育内容を考慮した上での計画の意義・重要性を知ることができる。保育者とは？この疑問に対して、自らの答えを見つけ出すことができる。
授業概要	保育の基礎を構築することから、自らの保育観、子ども観、保育士観、保護者観が磨かれていく。そのためにも、概念・理念を知ることから始まり、歴史的思想を理解することで、今の保育思想を次につなぐものへ変える力をつける。毎回の講義の中で自らの保育に対する基礎作りを求める。保育士としての実務経験を活かし、保育現場について実践的な授業を行う。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度、提出物、試験から総合的に判断する。 成績評価基準：受講態度（１５％）、提出物（１５％）、試験（７０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出物などに関しては、授業内においてフィードバックするので、参考にすること。
履修条件・注意事項	保育の基盤作りという意識を持って取り組むこと。前述したように、保育の基礎・基盤を構築するために大切な授業です。予習・復習をしっかり行い、自らの保育観を作り上げください。
実務経験のある教員	該当する　内容：保育士資格
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高まること。 予習・復習においては２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目をオフィスアワーとする。（１０号館３階研究室）

授業計画		担当者
第１回	保育とは何か	秀
第２回	保育の基盤としての子ども観	秀
第３回	子ども理解から出発する保育	秀
第４回	子どもが育つ環境の理解	秀
第５回	保育内容・方法の原理：保育の基本と保育内容・方法	秀
第６回	保育内容・方法の原理：子どものための保育内容とは	秀
第７回	保育の計画と実践の原理	秀
第８回	保育における健康・安全の原理	秀
第９回	保育の歴史に何を学ぶか：歴史を振り返る	秀
第１０回	保育の歴史に何を学ぶか：西欧における集団保育施設の誕生と発展	秀
第１１回	保育の歴史に何を学ぶか：わが国における集団保育施設の誕生と発展	秀
第１２回	保育者に求められるもの	秀
第１３回	現代の子育てと子育て支援	秀
第１４回	保育の現状と課題	秀
第１５回	「保育原理」の原理を問う	秀
第１６回	試験	秀

教科書			
教・書籍名１	新しい保育講座１　保育原理	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	渡邉英則・髙嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀　編	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-08027-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	現代の保育学４　保育原理【第7版】	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	待井和江　編	参・ＩＳＢＮ１	9784623053094
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育原理Ⅱ （子ども発達合同）			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-414		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	◎

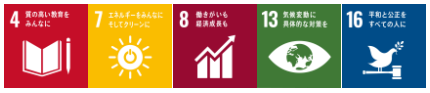
ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	現在保育現場において求められているものは多様化し、細分化されてきている。当然、保育者自身に求められるものも変わってきている。学生は、今保育者として求められているものとは何か？子どもたちにとっての保育者とは？保護者にとっての保育者とは？そのような疑問に対する答えを、役割と論理・制度的位置づけ・専門性などの面から自ら見つけだすことのできる考察力と保育者観を身につけることができる。
授業概要	幼稚園・保育所における保育者の役目や求められているものをしっかり理解することが大切となる。そのためにも理論に基づいた保育者の専門性に関する知識・基礎を理解する必要がある。そうすることで、個性のある魅力ある保育者、自分が保育者としてできることを自ら見つけだすことができるようになる。ただ単なる知識の詰め込みではなく、自らが考える講義となるよう、投げかけに対する答えを見つけ出すことを求める。保育士としての実務経験を活かし、保育現場について実践的な授業を行う。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度、提出物、試験から総合的に判断する。 成績評価基準：受講態度（１５％）、提出物（１５％）、試験（７０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出物などに関しては、授業内においてフィードバックするので、参考にすること。
履修条件・注意事項	保育者となるために必要な知識はもちろん、保育者としての心構えや保育内容を考えるために必要な基盤であることを意識し、積極的に取り組むこと。保育者として身につけておかなければならない大切な内容であることを理解し、予習復習をしっかり行うこと。
実務経験のある教員	該当する　内容：幼稚園教諭1種免許、保育士資格
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高めること。 予習・復習においては２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目をオフィスアワーとする。（１０号館３階研究室）

授業計画		担当者
第１回	「保育者になる」ということ	秀
第２回	魅力的な保育者とは	秀
第３回	保育者の一日：一日のスタート～給食	秀
第４回	保育者の一日：給食～「保育者」という仕事	秀
第５回	子どもがわかる・育つということ	秀
第６回	子どもを読み解くということ	秀
第７回	子どもと一緒に心と体を動かす仕事（幼稚園の場合）	秀
第８回	子どもと一緒に心と体を動かす（保育所の場合）	秀
第９回	絵本を通して豊かな生活を生み出す保育者	秀
第１０回	子どもと豊かに生活するための保育者の個性	秀
第１１回	保護者や家庭と一緒の歩む仕事	秀
第１２回	学び合う保育者：保育者の成長	秀
第１３回	学び合う保育者：「語り合い」・「学び合う」	秀
第１４回	保育者の専門性とは	秀

第１５回	専門性を高めるために		秀
第１６回	試験		秀
教科書			
教・書籍名１	新しい保育講座２　保育者論	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	汐見稔幸・大豆生田啓友　編	教・ＩＳＢＮ１	9784623083329
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	改訂　保育者論	参・出版社名１	建帛社
参・著者名１	民秋言　編著	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7679-3211-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	教育原論（初等教育）			担当者	藤井　和郎		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-415		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	【テーマ】教育の基本的概念や教育の理念などについての理解を深める。 【到達目標】 １　教育の基本的概念 (1)教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解することができる。 (2)子ども・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解することができる。 ２　教育に関する歴史 (1)家族と社会による教育の歴史を理解することができる。 (2)近代教育制度の成立と展開を理解することができる。 (3)現代社会における教育課程を歴史的な視点から理解することができる。 ３　教育に関する思想 (1)家庭や子どもに関わる教育の思想を理解することができる。 (2)学校や学習に関わる教育の思想を理解することができる。 (3)代表的な教育家の思想を理解することができる。
授業概要	教師には教科指導力、生徒指導力などの力量が求められる。しかしそれらの力量は教育の基本的概念や教育の理念などの理解に支えられてこそ発揮できるのである。授業では、これら教育の基本的概念や教育の理念に加え、教育の歴史や思想、そしてこれまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習１→グループ学習→全体学習→個人学習２」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	［試験］50%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する） ［提出物］20%（レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する） ［授業への参画状況］30%（予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。 授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、教育行政及び中学校校長の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	教育学の諸概念	藤井
第２回	教育の本質及び目標並びに代表的な教育家の思想	藤井

第３回	教育を成り立たせる諸要因と相互の関係	藤井
第４回	近代教育制度の成立と展開並びに代表的な教育家の思想	藤井
第５回	学校教育制度の変遷	藤井
第６回	現代社会における教育課題①（日本国憲法下の教育施策）	藤井
第７回	現代社会における教育課題②（幼稚園教育）	藤井
第８回	現代社会における教育課題③（小学校教育）	藤井
第９回	現代社会における教育課題④（特別支援教育）	藤井
第１０回	学習に関わる教育の思想	藤井
第１１回	学校と社会による教育の歴史	藤井
第１２回	家庭や子供に関わる教育の思想	藤井
第１３回	生涯学習社会と教育	藤井
第１４回	歴史的視点から見た教育課題	藤井
第１５回	学校に関わる教育の思想	藤井
第１６回	試験	藤井

教科書			
教・書籍名１	なぜからはじめる教育原理［第2版］	教・出版社名１	建帛社
教・著者名１	池田隆英、楠本恭之、中原朋生	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7679-5072-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	教育原理	参・出版社名１	中央法規
参・著者名１	矢藤誠慈郎・北野幸子編	参・ＩＳＢＮ１	978-4-8058-5202-6
参・書籍名２	小学校学習指導要領(平成29年告示)	参・出版社名2	東洋館出版社
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	978-4-491-03460-7

授業科目名	教育心理学（初等教育）（子ども発達合同）			担当者	栗田　喜勝		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-416		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	授業のテーマとしては、教育心理学の学問的知見に基づき、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、学生が基礎的知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。到達目標としては、学生が幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解でき、さらに乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、具体的な内容を理解できる。また、学生が様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解し、主体的学習を支える動機づけ・集団作り・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解するとともに、幼児、児童及び生徒の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。
授業概要	この講義は、幼児、児童及び生徒の心身の発達過程や特徴について講じるとともに、学習に関する基礎的知識や発達を踏まえた学習を支える指導について論じる。具体的には、幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する代表的理論について概説し、発達の概念及び教育における発達理解の意義、運動・言語・認知・社会性の発達等に関する具体的な内容について講じる。また、幼児、児童及び生徒の主体的学習を支える動機づけ・集団作り・学習評価のあり方等について、主体的な学習活動を支える指導の実際についても教授する。また、幼児、児童及び生徒の学習支援に役立つ臨床心理学的視点についても論じる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度(質疑・意見表明等の有無）（４０%）・期末試験（６０%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中に呈示する自主学修課題については、学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	講義をしっかり聴き学ぶ意志のあること。受講態度の不適切な者には退出を求めることがある。また、多くの講義資料をファイルデータとして提示するので、整理し学習に活用すること。なお、受講に際しては必ず復習を行うとともに、次回の予告に対して予習を行うこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前にファイル呈示する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 ３）単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。
オフィスアワー	木個人研究室にて、基本的には木曜日4限、金曜日5限にPCオンライン・電話・メール等で実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。

授業計画		担当者
第１回	教育心理学とは何か	栗田
第２回	幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する基礎理論	栗田
第３回	幼児期の心身の発達過程と特徴－運動・感情・認知・言語・社会性の発達	栗田
第４回	児童期の心身の発達過程と特徴－身体運動能力・認知・社会性・仲間関係・自己概念の発達	栗田
第５回	青年期の心身の発達と特徴－身体・認知能力・アイデンティティ・自己意識・人間関係の発達	栗田

第６回	学習のメカニズム(1)－学習理論の系譜	栗田
第７回	学習のメカニズム(2)－認知的情報処理と記憶	栗田
第８回	学習のメカニズム(3)－動機づけと学習意欲	栗田
第９回	学級集団と学習行動・学校生活	栗田
第１０回	学級集団づくりにおける教師の役割と友人関係の影響	栗田
第１１回	教育測定と評価の意義	栗田
第１２回	教育測定と評価の実際	栗田
第１３回	幼児、児童及び生徒の情緒問題・行動的問題と学習支援	栗田
第１４回	障害をもつ幼児、児童及び生徒への学習支援	栗田
第１５回	学修のまとめ	栗田
第１６回	試験	栗田

教科書			
教・書籍名１	初回講義時にファイル資料データを提示するとともに、毎講義時にも新たなファイル資料データ呈示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	やさしい教育心理学	参・出版社名１	有斐閣アルマ
参・著者名１	鎌原雅彦	参・ＩＳＢＮ１	978-641-12458-5
参・書籍名２	子どもを育む心理学	参・出版社名2	保育出版社
参・著者名2	小林芳郎他	参・ＩＳＢＮ2	978-4-938795-61-0

授業科目名	社会調査法Ⅲ			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-501		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	テーマ：社会調査における調査の設計および実施方法の基礎を習得する。 到達目標（4つ）： ①社会調査におけるサンプリングの方法を理解する ②調査票（質問紙）の設計および質問項目の作り方について学ぶ ③調査の方法（実査の方法、調査票の配布と回収法等）を理解する ④調査データの整理（コーディング・データクリーニング等）が出来るようになる なお、この科目は、社会調査士資格取得に必要な標準カリキュラムのB科目に該当する。
授業概要	社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する。 サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法等）、調査データの整理（コーディング、データクリーニング等）の理解を通して調査設計と実施方法の基礎を習得する。 授業全体を通して課題を中心としたペアワーク、グループワークを行うため、受講生のコミュニケーション能力の向上にも繋がる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	最終試験(50%)と、授業中課題(50%)により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は授業中にフィードバックを行う。単位認定試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	・毎週授業で配布する「配付資料（書き込み式のハンドアウト）」をもとに授業を進める。配布資料は各自ファイルに保管しておくこと。 ・授業の進行に合わせて、毎回、授業途中および授業の最後に「課題提出」を求める。 ・「社会調査法Ⅰ」、「社会調査法Ⅱ」を既習であることが望ましい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、研究者として社会調査を実践する担当教員（専門社会調査士）によるものである。社会調査の手法を具体的に学びながら学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	配布資料をもとに、授業内で解いた演習問題を次回授業までに復習のこと。 予習および復習には、各２時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	授業内容全体の概略（オリエンテーション）	黒宮
第２回	調査目的と調査方法	黒宮
第３回	調査方法の決め方	黒宮
第４回	調査企画と設計(1)調査企画	黒宮
第５回	調査企画と設計(2)調査設計	黒宮
第６回	質問項目の作成方法（ワーディング等）	黒宮
第７回	調査票の基本的な構成	黒宮
第８回	仮説構成	黒宮

第９回	全数調査と標本調査	黒宮
第１０回	無作為抽出	黒宮
第１１回	標本数と誤差	黒宮
第１２回	サンプリングの諸方法	黒宮
第１３回	調査の実施方法（調査票の配布・回収法等）	黒宮
第１４回	調査データの整理(1)コーディング	黒宮
第１５回	調査データの整理(2)データクリーニング	黒宮
第１６回	単位認定試験（筆記）	黒宮

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	社会調査法入門	参・出版社名１	有斐閣
参・著者名１	盛山和夫	参・ＩＳＢＮ１	4-641-18305-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会調査統計学Ⅰ			担当者	稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2021～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-502		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	テーマ：社会調査に必要な推測統計を学ぶ 到達目標：推測統計の原理を理解し、自ら分析や検定・推定ができるようになる。 本講義は、社会調査士資格取得のための標準カリキュラムＤ科目に該当する。したがって、最終的な目標は社会調査士資格の取得である。
授業概要	本講義は、社会調査における計量的分析に必要となる統計学の知識・スキルの習得を目指す。 まず全数調査を基本とする記述統計（基本統計量や相関、標準偏差、正規分布等）について理解を深める。次に標本調査をもとに推測統計の基礎的部分について学ぶ。推測統計については、確率論の基礎、確率分布、推定・検定（平均の差の検定、関連性の検定、相関係数の検定を含む）などである。 講義内容に対応し適宜演習を行う。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	演習問題や課題等の提出物（30%）と定期試験（70%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	演習問題や課題については授業内で解説をおこなう。
履修条件・注意事項	本講義は、社会調査士資格取得のための標準カリキュラムＤ科目に該当するため、厳格な講義運営を行う。また、「社会調査法Ⅰ」「社会調査法Ⅱ」を既習であることが望ましい。 授業計画の内容は、進捗状況に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、研究者として社会調査を実践する担当教員（専門社会調査士）によるものである。
事前学習・事後学習とその時間	配布資料や参考書などを読み、予習・復習（各2時間程度）をする。
オフィスアワー	火曜日3時限に研究室（14611）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	稲元洋輔
第２回	基本統計量	稲元洋輔
第３回	度数分布とヒストグラム	稲元洋輔
第４回	代表値と分散・標準偏差	稲元洋輔
第５回	相関係数・回帰直線	稲元洋輔
第６回	確率変数・確率分布	稲元洋輔
第７回	母集団と標本	稲元洋輔
第８回	離散型確率変数	稲元洋輔
第９回	連続型確率変数	稲元洋輔
第１０回	正規分布に関わる定理	稲元洋輔
第１１回	統計的仮説検定の原理	稲元洋輔
第１２回	母平均・母比率に関する検定	稲元洋輔
第１３回	統計的推定の基礎	稲元洋輔
第１４回	様々な母数の区間推定	稲元洋輔
第１５回	まとめ	稲元洋輔

第１６回	定期試験		稲元洋輔
教科書			
教・書籍名１	資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	統計学の図鑑	参・出版社名１	技術評論社
参・著者名１	涌井良幸・涌井貞美	参・ＩＳＢＮ１	978-4774173313
参・書籍名２	心理統計学の基礎	参・出版社名2	有斐閣アルマ
参・著者名2	南風原朝和	参・ＩＳＢＮ2	978-4641121607

授業科目名	社会調査統計学Ⅱ			担当者	稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2021～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-503		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	△

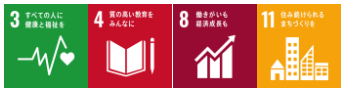
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	テーマ：社会調査における量的データの分析方法を学ぶ。 到達目標：多変量解析法について、基本的な考え方と分析方法について理解する。 本講義は、社会調査士資格取得のための標準カリキュラムE科目に該当する。
授業概要	本講義は、量的データの分析で用いられる多変量解析の手法について、知識・スキルの習得を目指す。 まず種々の解析法に関してその基本的な考え方と主要な分析手法について学ぶ。分散分析や重回帰分析を基本としながら、他の計量モデルとして主成分分析、判別分析、因子分析などをとりあげる。これらの理解と実践を通してデータ解析の方法を身に付ける。 講義内容に対応しパソコンを使用して演習を行う。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	演習問題や課題等の提出物（30%）と定期試験（70%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	演習問題や課題については授業内で解説をおこなう。
履修条件・注意事項	本講義は、社会調査士資格取得のための標準カリキュラムＥ科目に該当するため、厳格な講義運営を行う。また、社会調査士関連科目のA・B・C・D科目（本学設置科目名「社会調査法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「社会調査統計学Ⅰ」）について、すべて既習であることを履修条件とする。 授業計画の内容は、進捗状況に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、研究者として社会調査を実践する担当教員（専門社会調査士）によるものである。
事前学習・事後学習とその時間	配布資料や参考書などを読み、予習・復習（各2時間程度）をする。
オフィスアワー	火曜日3時限に研究室（14611）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	稲元洋輔
第２回	基礎知識の復習：記述統計量	稲元洋輔
第３回	基礎知識の復習：仮説検定	稲元洋輔
第４回	疑似相関	稲元洋輔
第５回	多重クロス表，偏相関分析	稲元洋輔
第６回	分散分析	稲元洋輔
第７回	交互作用効果	稲元洋輔
第８回	単回帰分析	稲元洋輔
第９回	重回帰分析の基礎	稲元洋輔
第１０回	ダミー変数・多重共線性	稲元洋輔
第１１回	重回帰分析の応用	稲元洋輔
第１２回	主成分分析	稲元洋輔
第１３回	因子分析	稲元洋輔
第１４回	クラスター分析	稲元洋輔
第１５回	まとめ	稲元洋輔

第１６回	定期試験		稲元洋輔
教科書			
教・書籍名１	資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理統計学の基礎	参・出版社名１	有斐閣アルマ
参・著者名１	南風原朝和	参・ＩＳＢＮ１	978-4641121607
参・書籍名２	多変量解析入門―線形から非線形へ	参・出版社名2	岩波書店
参・著者名2	小西貞則	参・ＩＳＢＮ2	978-4000056533

授業科目名	質的調査法			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-504		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを 
到達目標	テーマ：社会調査の手法における、質的データの収集や分析方法を習得する。 目標（3つ） ①質的調査に関する基礎的理解を深め、調査技術を習得する。 ②インタビュー法、フィールドワーク、参与観察法等を経験する。また、ライフヒストリー分析や会話分析などの分析方法を学ぶことを通じ、質的調査の技術の習得を目指す。 ③複数の質的調査を用いた研究例の紹介や解説により、多様な質的調査の研究法について理解を深める。 ④インタビュー法のトレーニングを通じ、受講生のコミュニケーション力（言語・非言語）が高まる。 なお、この科目は、社会調査士資格取得に必要な標準カリキュラムの「F科目」に該当する。
授業概要	インタビュー、参与観察法、フィールドワークなどの手法を、講義と演習形式を組みあわせた授業をもとに学ぶ。 データ分析の方法についても、コーディング作業などを実際に行いながら習得を行う。 受講生は単に質的調査法の技法を学ぶだけでなく、社会学の視点や社会調査とは何かについても併せて理解を深める。 この講義を通して学ぶ社会調査の思想や技法は、受講生がレポートや卒業論文作成等を行う際にも役立つものとなる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	毎回の提出課題(50%)、定期試験(50%)で評価を行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した提出課題（小レポート）は、授業中にフィードバックを行う（単位認定試験までに復習しておくこと）。
履修条件・注意事項	・原則として、社会調査法Ⅰ、社会調査法Ⅱ、社会調査法Ⅲを既習であること。 ・授業は毎回配布する資料をもとに、演習を基礎とした課題を行う。 ・配付資料はファイル等を作成し、必ず全て保管しておくこと。 ・留学生については、質的調査の遂行には高い日本語力が求められるため、日本語能力試験（JLPT）N2に合格していることを履修条件とする。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、研究者として社会調査を実践する担当教員（専門社会調査士）によるものである。社会調査の手法を具体的に学びながら学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	配布資料をもとに必ず復習を行うこと。 授業の予習・復習には、各２時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	授業オリエンテーション	黒宮
第２回	社会調査の目的と意義	黒宮
第３回	質的調査の考え方（質的調査研究例の紹介・解説1）	黒宮
第４回	質的調査で扱うデータの種類とその理解（質的調査研究例の紹介・解説2）	黒宮
第５回	インタビュー　基礎	黒宮
第６回	インタビュー　実践	黒宮

第７回	インタビュー　言語データの扱い方	黒宮
第８回	インタビュー　分析（コーディング）	黒宮
第９回	フィールドワーク　基礎	黒宮
第１０回	フィールドワーク　応用	黒宮
第１１回	参与観察法　基礎	黒宮
第１２回	参与観察法　応用	黒宮
第１３回	ワークショップ	黒宮
第１４回	ライフヒストリー分析	黒宮
第１５回	会話分析	黒宮
第１６回	定期試験（筆記式）	黒宮

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	よくわかる質的調査法　技法編	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	谷富雄・芦田徹郎　編著	参・ＩＳＢＮ１	978-4623052738
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	健康・医療心理学			担当者	村上　勝典		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-604		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「人の健康に対する意識、及び意識や行動(健康関連行動、生活習慣など)が健康に及ぼす影響・効果を理解する」ことが授業のテーマである。 到達目標は、健康行動に関する基礎的な理論の理解と、生活習慣病の予防やストレスマネジメントについて理解できることである。
授業概要	健康心理学についての基礎的な内容を紹介する。健康に関連する心理学的な知見、健康心理学で用いるアセスメントや、カウンセリングなどについて紹介する。また、健康心理学で用いられる心理テストの体験を取り入れておこなう。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	テーマ「人の健康に対する意識、及び意識や行動(健康関連行動、生活習慣など)が健康に及ぼす影響・効果を検討する」の到達度について、小テストおよびレポート課題の結果や定期テストの結果により総合的に評価する。具体的には、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）と試験（60%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 プリントを用いて講義を進めるので、復習しやすいようにファイリングすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	健康心理学とは	村上
第２回	健康行動に関する基礎理論	村上
第３回	動機づけ理論	村上
第４回	健康行動とその理論モデル	村上
第５回	健康問題に関する予防	村上
第６回	ストレスとは	村上
第７回	ストレスに関するモデル	村上
第８回	ストレス対処	村上
第９回	疾病とパーソナリティ	村上
第１０回	ソーシャルサポート	村上
第１１回	アセスメント	村上
第１２回	健康心理カウンセリング	村上
第１３回	チーム医療と役割	村上
第１４回	医療領域の対象疾患と支援	村上
第１５回	災害心理学	村上
第１６回	定期試験	村上

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	健康・医療心理学	参・出版社名１	医歯薬出版株式会社
参・著者名１	宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫（編）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-263-26577-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育の心理学Ⅱ			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-606		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ：子どもの発達と保育実践、生活や遊びを通した学びの課程、保育における発達援助の3つの観点から保育の心理学の理解を深める。 到達目標：①単なる座学としての知識ではなく、学んだ知識をもとに様々な現実的な問題への対応について自分で考えることができるようになる。②学んだことを要領よく他者に伝えられるようになる。
授業概要	保育の心理学Ⅰの学びをさらに深化させ、生活や遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。また、発達課題や主体性の形成、就学への支援等、保育実践における具体的な発達援助についても学ぶ。 演習形式で行う授業なので、毎回、各自が調べてきたことを発表し、それに基づいて討議を行ことで、いろいろな意見・考え方について知り理解を深めていく。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	演習への取り組み姿勢（討論への参加の程度、事前の準備状況など）４０％と各自の発表内容４０％、そしてレポート（授業中の小レポートと最終的なレポート）２０％で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	発表に関してはその都度、質疑応答の中で内容や取り組み姿勢等についてコメントする。 レポートは、その都度，フィードバックとして返却する。
履修条件・注意事項	授業内での討論に参加するためには、教科書を中心とした予習・復習はもとより、様々なメディアからの関連情報にもアンテナを張っておくことが必要になる。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	テキストの熟読は必須。不明語句等は当然のこと、それ以外の補足内容についても、発表の準備では、テキスト以外の資料を収集して行うこと。（2時間以上）
オフィスアワー	月曜４限、教員研究室。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	保育における子どもの理解の意義	森井
第３回	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり	森井
第４回	子どもの生活や遊び	森井
第５回	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	森井
第６回	子ども相互の関わりと関係づくり	森井
第７回	集団における経験と育ち	森井
第８回	葛藤やつまずき	森井
第９回	保育の環境の理解と構成	森井
第１０回	環境の変化や移行	森井
第１１回	子どもを理解する方法	森井
第１２回	省察・評価	森井
第１３回	発達の課題に応じた援助と関わり	森井
第１４回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	森井
第１５回	まとめ・保育実践について	森井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	子どもの理解と援助	教・出版社名１	北大路書房
教・著者名１	清水益治・無藤　隆	教・ＩＳＢＮ１	978-4762831386
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育原理Ⅲ （子ども発達合同）			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-608		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	保育所における保育の基盤となる保育所保育指針は、とても重要であり十分に理解されるべきものである。この講義を通して、学生は保育所保育指針における全5章を深く理解し、保育制度の現状を学ぶことができる。さらに、現代の保育課題に対しての知識を高めることができる。
授業概要	保育所保育指針を熟読し、しっかりと理解することがこの講義の内容すべてとなる。日本における保育の中心となす保育所保育指針の理解、さらにはその理解をベースとし、今後の保育観を作り上げる内容となる。保育士としての実務経験を活かし、保育現場について実践的な授業を行う。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業態度・提出物・試験の結果から総合的に評価する。 提出物などに関しては、授業内においてフィードバックするので、参考にすること。 授業態度（１５％）、提出物（１５％）、試験（７０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出物などに関しては、授業内においてフィードバックするので、参考にすること。
履修条件・注意事項	保育現場との共通知識だということを忘れずに、積極的に取り組むこと。 実際の子どもの成長を知る上でも、大切な内容となる。 そのためにも、予習・復習をしっかり行い身につけること。
実務経験のある教員	該当する　内容　保育所保育士
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高めること。 予習・復習においては２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目をオフィスアワーとする。（１０号館３階研究室）

授業計画		担当者
第１回	総則1：保育所保育に関する基本原則（保育所の役割・保育の目標・保育の方法）	秀
第２回	総則2：保育所保育に関する基本原則（保育の環境・保育所の社会的責任）・養護に関する基本的事項	秀
第３回	総則3：保育の計画及び評価	秀
第４回	総則4：幼児教育を行う施設として共有すべき事項	秀
第５回	保育の内容1：乳児保育に係るねらい及び内容	秀
第６回	保育の内容2：1歳以上3歳未満児の保育に係るねらい及び内容（基本的事項・ねらい及び内容1）	秀
第７回	保育の内容3：1歳以上3歳未満児の保育に係るねらい及び内容（ねらい及び内容2・保育の実施に係る配慮事項）	秀
第８回	保育の内容4：3歳以上児の保育に関するねらい及び内容（基本的事項）	秀
第９回	保育の内容5：3歳以上児の保育に関するねらい及び内容（ねらい及び内容）	秀
第１０回	保育の内容6：3歳以上児の保育に関するねらい及び内容（保育の実施に関わる配慮事項）	秀
第１１回	保育の内容6：保育の実施に関して留意すべき事項	秀
第１２回	健康及び安全1：子どもの健康支援・食育の推進	秀
第１３回	健康及び安全2：環境及び衛生管理並びに安全管理・災害への備え	秀
第１４回	子育て支援	秀

第１５回	職員の資質向上		秀
第１６回	試験		秀
教科書			
教・書籍名１	平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領　<原本>	教・出版社名１	チャイルド本社
教・著者名１	文部科学省、厚生労働省、内閣府	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8054-0258-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子どもの保健 （子ども発達合同）			担当者	西田　啓子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-609		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義 グループワーク
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１２．つくる責任・つかう責任／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	新生児から児童までの正常な発達と発育を理解し、乳幼児期、児童期に重要な専門家のかかわりを学修する。
授業概要	教科書「子どもの保健」をテキストとし、テキストに沿って子どもの保健の意義、子どもの理解、正常な子どもの生理的変化、感染症、ワクチン接種について、アレルギー、免疫などについて、視聴覚教材やGWなどを取り入れて、学修する。毎回講義の初めには、前回の復習と確認を行う。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業出席日数、授業態度、試験などを含め、総合的に評価判定する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回授業の初めに、前回の講義内容についての質疑応答と復習を行う。 定期的な課題レポートの提出。
履修条件・注意事項	教科書を必ず購入する。資料が多いので、ファイリングできるように準備しておく。 授業態度は積極的且つ、真摯であること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：看護師・助産師として40年以上の実務経験あり、命の現場に携わってきた。 20年以上、保育現場での子育て支援にかかわっている。
事前学習・事後学習とその時間	毎週、予習復習を行い、自ら質問ができるようにしておく。
オフィスアワー	毎週水曜日。

授業計画		担当者
第１回		
第２回		
第３回		
第４回		
第５回		
第６回		
第７回		
第８回		
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	子どもの保健　改定第3版	教・出版社名１	中山書店
教・著者名１	渡辺　博	教・ＩＳＢＮ１	978-4-521-74487-2
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子どもの健康と安全 （集中D）			担当者	西田　啓子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-610		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義・演習 実習・DVD
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１２．つくる責任・つかう責任／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	「子どもの保健ＩA」および、「子どもの保健」で学んだ基礎知識をもとに、実際の子どもたちへのかかわり方や、体調不良時への対応、応急処置など、実技や演習を中心に実際的なスキルを身につける
授業概要	子どもの健康管理、日常生活の援助方法、体調不良時や緊急時の対応など、演習を通じて実際に行う。 また、発達や応急処置に関しては動画やDVD視聴を通じてイメージできるように学修する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度を最も重視する。出席日数、実習中の態度、試験は実技試験とし、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業開始時に、前回の授業内容についての質疑応答を行う。 定期的に講義内容についての小レポートを課題として提出する。
履修条件・注意事項	教科書を購入すること。資料が多くなるので、ファイルができるよう準備しておく。 実技中心になるので、まじめな態度で臨むこと。
実務経験のある教員	該当する　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回の復習、予習を怠らない。質問ができるくらいの準備をして講義に臨むこと。
オフィスアワー	毎週水曜日

授業計画		担当者
第１回		
第２回		
第３回		
第４回		
第５回		
第６回		
第７回		
第８回		
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	これだけはおさえたい　保育者のための　子どもの健康と安全	教・出版社名１	創成社
教・著者名１	鈴木美枝子.内山有子.田中和香菜.両角理恵	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7944-8093-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	乳児保育Ⅰ（子ども発達合同）			担当者	加藤　寿美子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-613		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	保育者として職務に就いた時、社会の動きを視野に入れ、乳児期にある一人の人間の尊厳を守り育み、自分自身を磨く。
授業概要	日本の風土や子育て文化、これまでの研究の成果を踏まえ、乳児が育つ過程で保育者の豊かな人間性、緻密な観察力と想像力、そして不断の努力に支えられた確かな判断力で一人ひとりの乳児に向き合い、乳児との相互作用の中で営まれていることをまず学び乳児が育つ姿の裏側にある育ちを支える保育者のありようを学ぶ。 乳児理解にとどまらず乳児を育てている家庭と相互理解や連携を取りながら実践者として働く力、自分の実践を内省する力、そして自分自身を育てる力が備わること。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	授業への積極的参加度(40%)知識の修得度を確認するため試験(40%)自ら調べまとめる能力を確認するための課題レポー(20%)
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	皆の前で発表をしディスカッションをする。
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するので、初回授業よりファイルを用意すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：岡山市立保育所・社会福祉法人の保育園に計２５年間勤務し、その内２年間園長を経験。その後、順正短期大学へ常勤として１５年間勤務。岡山県知事より岡山県保育所巡回指導員として任命され５年間指導を行う。現在吉備国際大学非常勤として勤務。乳幼児保育に関わってきた実務経験を活かし、実践的な内容を反映する講義を行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習により授業をする。試験は、必ず行うので必ず予習復習(教科書・保育所保育指針・月刊誌も参考)を行うこと。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

授業計画		担当者
第１回	１．乳児保育の意義・目的と役割	加藤
第２回	２．乳児保育の現状と課題	加藤
第３回	３．乳児保育の実際　保育所	加藤
第４回	４．乳児院・家庭保育の実際	加藤
第５回	５．３歳未満児の発育・発達をふまえた保育３歳未満児の生活と環境	加藤
第６回	６．３歳未満児の遊びと環境	加藤
第７回	７．３歳以上児保育に移行する時期の保育	加藤
第８回	８．乳児保育における計画・記録・評価	加藤
第９回	９．乳児保育における連携・協働	加藤
第１０回	１０．身体機能の発達と保育	加藤
第１１回	１１．基本的生活習慣獲得と保育(食べる)	加藤
第１２回	１２．排泄する・眠る	加藤
第１３回	１３．言葉で人とつながる	加藤
第１４回	１４．言葉の発達を支えるもの	加藤
第１５回	１５．人とかかわる	加藤
第１６回	筆記試験	加藤

教科書			
教・書籍名１	乳児の生活と保育　　ななみ書房	教・出版社名１	
教・著者名１	松本園子　編著	教・ＩＳＢＮ１	９７８－４－９０３３５５－８２－５　C3037
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	乳児保育Ⅱ			担当者	加藤　寿美子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-614		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	３０時間	授業形態	講義　演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	子どもの生命の尊さ、命を育むことの意義を学び、豊かな人間性と諸化学の理論に裏づけられた保育実践力を身につけること。
授業概要	保育所保育指針において保育所の保育は、養護と教育を一体的に進めるものとして定義されています。児童福祉法も保育所保育を支える方向で改定され、さらに次世代育成支援計画の策定が地域に義務づけられる中で保育の児童福祉に占める位置が大きなものとなりました。虐待防止のための要保護児童対策地域協議会の大事な構成員ともなっています。保育士の業務として子どもを保育することと共に、家庭への支援がふくめられたことも大きな意味があります。 子どもの生命・命を育むこと・保育の実践力を身につける。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	授業態度２５％提出物２５％科目認定試験により評価５０％評価のために実施した課題等については、授業でフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	演習の場合教員は、勿論評価するが学生も評価反省をし、又教材研究をしっかりし、次回に活かすようにする。文章表現・動きは勿論保育の流れ子どもが主体的に動けるよう研究する。
履修条件・注意事項	１)事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習により授業をする。 ２)教材研究をすること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：岡山市立保育所・社会福祉法人の保育園に合計２５年間勤務し、その内２年間園長を経験。その後、順正短期大学へ常勤として１５年間勤務。岡山県知事より岡山県保育所巡回指導員として任命され５年間指導を行い、現在は、吉備国際大学非常勤として勤務。乳幼児保育に関わってきた実務経験を活かし、実践的な内容を反映する講義を行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前に教科書を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	加藤
第２回	２．乳児保育になぜ計画が必要か	加藤
第３回	３．乳児保育における計画の意義	加藤
第４回	４．効果的な計画に向けて	加藤
第５回	５．指導計画の作成	加藤
第６回	６．おおむね６カ月未満の計画	加藤
第７回	７．おおむね６カ月から１歳３カ月未満の計画	加藤
第８回	８．おおむね１歳の計画	加藤
第９回	９．おおむね２歳の計画	加藤
第１０回	１０．グループで計画の作成	加藤
第１１回	１１．実践発表	加藤
第１２回	１２．実践発表	加藤
第１３回	１３．実践発表	加藤
第１４回	１４．実践発表	加藤

第１５回	１５．実践発表	加藤
第１６回	１６．筆記試験	加藤

教科書			
教・書籍名１	乳児の生活と保育	教・出版社名１	
教・著者名１	ななみ書房　　松本園子　　編著	教・ＩＳＢＮ１	９７８－４－９０３３５５－８２－５
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	障害児保育Ⅰ（子ども発達合同）			担当者	池本　貞子		
配当学科・研究科	2021～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-616		
必修・選択	必須	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	障害児について、障害特性と取り巻く環境の両面から学び、保育実践の場でどのようにアプローチが必要なのか考え、実践する力を身につける。 具体的には、①障害種別と具体的な支援方法について理解する。②障害児を取り巻く環境（家族、教育、福祉等）について現状と課題を整理する。③障害児への対応につい て支援の視点から考え、判断できるようになる。
授業概要	障害の基礎知識としての種別、具体的な支援方法、保育を行う上での配慮点について学ぶ。さらに、歴史的な背景を理解したうえで、保育・教育・福祉等それぞれの視点から現状を知り、課題について考える。 具体的には、障害児をイメージし、支援の視点から子どもへの配慮の必要性を考える。また、保護者・家族に対してどのような関わりが求められるか、養護教諭の経験を基に講義し学生に理解を深める。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	この科目は、障害の基礎知識と障害を取り巻く環境の重要性の面から学び、保育実践の場でのアプローチについて考えることを目標にしていることから、知識の習得状況について試験、受講態度、グループワークへの参加状態等について総合的に評価する。 成績評価は試験６０％、授業態度２０％、課題、レポート２０％で評価する。 なお、教科書の他に配布した資料等については、授業の中でフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のための課題は、授業の中でフィードバックする。
履修条件・注意事項	到達目標、授業内容、評価方法等について、初回の授業で詳しく説明するので、必ず出席すること。 授業内容によっては、レポート等の課題提出を求めるため、予習・復習が必要になる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、保育士として障害を持つ子どもへの対応について考える内容である。養護教諭としての実務経験から、心身に問題を抱える子どもへの支援方法、家族支援について学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	日ごろから、子どもの健康問題に興味・関心を持ち、教科書・新聞・雑誌等をよく読み、疑問点や理解できない点をまとめて授業を受ける。授業後は講義内容を整理し振り返る。 予習および復習には、各2時間の学修時間を目安とする。
オフィスアワー	講義終了後、教室にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	池本
第２回	２．障害とは	池本
第３回	３．ノーマライゼーションの広がりと障害に関するWHOの分類	池本
第４回	４．障害児保育の歴史	池本
第５回	５．障害児保育の現状	池本
第６回	６．障害と発達①発達とは	池本
第７回	７．障害と発達②発達の原則	池本
第８回	８．障害と発達③脳の進化	池本
第９回	９．障害乳幼児の生活	池本
第１０回	１０．障害児保育の形態	池本
第１１回	１１．統合保育の意義	池本

第１２回	１２．統合保育の拡大		池本
第１３回	１３．幼稚園・保育所における障害児保育		池本
第１４回	１４．障害児の受け入れ		池本
第１５回	１５．障害児を知る手だてとまとめ		池本
第１６回	筆記試験		池本
教科書			
教・書籍名１	幼稚園・保育所の先生のための障害児保育テキスト	教・出版社名１	教育出版
教・著者名１	若井淳二・水野薫・酒井幸子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-316-80347-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	障害児保育Ⅱ （子ども発達合同）			担当者	池本　貞子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-617		
必修・選択	必須	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	今日、多様な障害を抱える子どもたちが、幼稚園や保育所で地域の子どもたちと一緒に生活する「統合保育」浸透している。地域の中でともに生活することは、専門機関による療育・訓練とは違った意味で障害の改善に繋がることは明らかであり、その支援は「保育」の任務である。また、障害を持つ子どもとともに保育を受けることが、障害を持たない子どもたちの発達にも大きな影響を与えている。 本講義では、①障害児保育の入り口である、障害特性、障害児保育の概念について理解して上で、「統合保育」について考える。②障害別の保育方法について理解して上で 幼稚園・保育所における保育ニーズの把握、保育者間の連携、保護者との連携、関係機関との連携など保育者としての具体的援助ののあり方を検討する。
授業概要	具体的には、 １．発達の遅れと障害種別の特性 ２．「統合保育」の仕組み ３．指導計画とケースカンファレンスについて実践的に学ぶ。 ４．関係機関との連携について学ぶ。 ５．保護者との連携について考える。 などの内容を中心に、養護教諭の経験を基に講義し、学生の理解を深める。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	この科目では、障害別の特性の理解、指導計画とケースカンファレンス意義と進め方などについての理解を目標にしていることから、知識の習得状況を確認する試験、受講態度、グループワークへの参加状態等により、総合的に評価する。 評価基準は、試験６０％、受講態度２０％、グループワークへの関わり２０％で評価する。 なお、教科書の他に配布する資料については、授業の中でフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題については、授業の中でフィードバックする。
履修条件・注意事項	授業に対する姿勢として、目的意識をもって積極的に取り組ことを心がける。 授業内容により、レポート等の提出を求めるために、予習・復習が必須となる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：本科目の目標は、保育者として、障害を持つ子どもへの支援について学ぶことである。養護教諭としての実務経験から、心身に問題を抱える子どもの保育ニーズの把握と支援、専門機関および保護者との連携について、学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	日ごろから、子どもの健康問題に興味・関心を持ち、予習として教科書・新聞・雑誌等を読んで、疑問点や質問事項をまとめておく。復習は講義内容をノートに整理し振り返りをする。予習・復習にはそれぞれ2時間程度を目安とする。
オフィスアワー	授業終了後、教室で実施する。

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	池本
第２回	２．障害児と障害観	池本
第３回	３．家庭への子育て支援	池本
第４回	４．関係機関との連携	池本
第５回	５．視覚障害とその支援	池本

第６回	６．聴覚障害とその支援	池本
第７回	７．肢体不自由とその支援	池本
第８回	８．言語障害とその支援	池本
第９回	９．知的障害とその支援	池本１０．
第１０回	１０．発達障害とその支援	池本
第１１回	１１．統合保育の意義と仕組み	池本
第１２回	１２．インテグレーションからインクルーシブへ	池本
第１３回	１３．インクルーシブ保育の実際	池本
第１４回	１４．指導計画の重要性とその作成	池本
第１５回	１５．就学と特別支援教育	池本
第１６回	筆記試験	池本

教科書			
教・書籍名１	幼稚園・保育所の先生のための障害児保育テキスト	教・出版社名１	教育出版
教・著者名１	若井淳二・水野薫・酒井幸子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-316-80347-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育内容指導（環境）（子ども発達合同）			担当者	藤井　伊津子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-622		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	＜テーマ＞幼児期において育みたい資質・能力を理解し、「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」に示された「保育内容　領域(環境)」の「ねらい」及び「内容」について環境領域と関連させて理解を深め、幼児期の発達に即して、主体的・対話的な学びが実現する過程を踏まえ具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることを基本とする。 ＜到達目標＞ １）保育内容「領域（環境）」の「ねらい」及び「内容」並びに全体構造を理解できる。 ２）保育内容「領域（環境）」の「ねらい」及び「内容」を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解できる。 ３）保育内容「領域（環境）」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科などとのつながりを理解できる。
授業概要	本授業は、子どもの幼児期において身近な環境（自然環境、物的環境、人的環境、社会環境）との関わりによる人間形成の基礎を築くための意義について具体的な事例の考察により理解する。加えて保育内容（環境）の指導現場に欠かせない環境構成のあり方、指導案作成なども含めた基礎理論を学び、次の実践的な保育指導法につながる基礎力を修得する。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	授業は、教科書、参考書、配布資料、体験、調査等で進められ、発表や質疑応答の参加型学習方式で行われ、各自またはグループでの討論における発言頻度、その内容など授業への積極的参加度（40%）を重視し、筆記試験による知識修得度（40%）並びに課題レポート発表・討論など(20%）で総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題やレポート等は、次の授業内に取り上げたり、コメントをつけてフィードバックする。
履修条件・注意事項	配布される参考資料等をファイルにまとめたり、自習した資料を加えたりして「マイノート」として整理し、討論や演習の際に持参して授業の参加度を上げること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：保育士としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かし、保育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	1.授業では講義の他に、事前に提示された課題に対して調べたことを材料に討論したり、演習を取り入れたりして参加型学習方式で進められるので、個人、グループ発表準備などが必須である。 2.配布資料はファイルして、自習したものを加えた「マイノート」として整理し、復習を行うこと。 3.期末試験（筆記試験）が実施され、出席のみの単位取得はできない。また、予習・復習（各2時間程度）を必ず行うこと。
オフィスアワー	10号館３階の個人研究室において、毎週水曜日５限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者

第１回	幼児教育の意味と保育内容における領域「環境」のとらえ方	藤井
第２回	保育内容の領域「環境」における指導目標と「ねらい」「内容」及び留意点	藤井
第３回	幼児の発達と環境との関わりにみる、保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」についての考察	藤井
第４回	環境の構成・再構成のあり方と保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」との関わり	藤井
第５回	保育における保育内容「環境」の視点から考察する指導案作成の「ねらい」と「内容」	藤井
第６回	幼児期における動物との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第７回	幼児期における植物との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第８回	幼児期における物的環境との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第９回	幼児期における自然事象との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第１０回	幼児期における数量や図形との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第１１回	幼児期における地域との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第１２回	幼児期における情報機器および教材との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第１３回	保育内容「環境」と他の領域や小学校教育との関わりにおける意義	藤井
第１４回	子どもの環境への関わりと保育者の役割	藤井
第１５回	保育内容「環境」についての総括	藤井
第１６回	筆記試験	藤井

教科書			
教・書籍名１	基礎からまなべる保育内容（環境）ワークブック	教・出版社名１	あいり出版
教・著者名１	田中卓也・岡野聡子・藤井伊津子・橋爪けい子・木本有香・小久保圭一郎　編	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86555-087-0
教・書籍名２	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	教・出版社名2	フレーベル館
教・著者名2	内閣府、文部科学省、厚生労働省	教・ＩＳＢＮ2	4577814498

参考書			
参・書籍名１	コンパス　保育内容　　環　境	参・出版社名１	建帛社
参・著者名１	編著：高橋貴志・目良秋子 共著：青木聡子　他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7679-5062-4
参・書籍名２	子どもと環境（理論編）	参・出版社名2	三晃書房
参・著者名2	監修：小田　豊 編者：奥井智久、芦田　宏	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7830-8002-2

授業科目名	保育内容指導（言葉）（子ども発達合同）			担当者	小坂田　佐弓		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-623		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう
到達目標	テーマ：子どもの言葉の発達と獲得について理解し、絵本などを教材として保育を構想する方法を身に付けることができる。 到達目標：①幼稚園教育要領の領域「言葉」のねらい及び内容について理解している。 ②子どもの言葉の発達と獲得について理解し、子どもが言葉を獲得するために、保育者として援助する能力及び言葉の発達に即した環境を構成する能力を身につけている。 ③言葉の発達を、発達していく過程にある子どもの全体像の中で評価することができる。 ④生活体験の中で培われた言葉の力が､小学校の国語科学習につながっていくことを理解している。
授業概要	まず領域「言葉」のねらいと内容を学び､子どものコミュニケーションとしての言葉について考える｡次いで子どもが発達段階において言葉をどのように獲得していくのか学習する。その上で、子どもが安心して表現したり、興味や関心をもって聞いたり、イメージ豊かに考えたりできる力を育てるために指導案を作成し、模擬保育を通じて保育者がどのように援助・指導すべきか理解する。また情報機器及び教材を活用して、言葉を育てる文化財や遊びについて討論したり実演したりして、言葉による伝え合いの楽しさ・喜びを知る。こうした中から培われた言葉の力が、国語科学習へとつながっていくことを理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／実習
評価方法と割合	この科目では、子どもの言葉の発達と獲得について理解し、保育者として保育を構想する方法を身に付けることを目的としていることから、知識および能力の修得状況を計るため、定期試験結果や実習、授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（50%）、絵本の読み聞かせや紙芝居の上演実習（30%）、ディスカッションにおける発言頻度・発言内容、および授業中の学びの程度を判定するため､授業への積極的な参加態度（20%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間内での解説およびコメントカードに記入しての返却。
履修条件・注意事項	毎回の授業におけるディスカッションなどに主体的に参加・発表できるように、予習として授業計画に記載されていることについて調べ学習を行ってくること。絵本などを紹介することが多いので、見やすいよう教室のなるべく前の方に座ること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に参考書を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また事後学習として、ディスカッションの内容、講義で取り上げた児童文化財の内容や感想についてノートをまとめ、復習を行っておくこと。絵本の読み聞かせや紙芝居の上演実習を行うので、自らの演じる物を選び練習をしておくこと。予習および復習には各1時間程度を要する。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

授業計画		担当者
第１回	概論：保育内容「言葉」に関する領域	小坂田佐弓
第２回	子どもの言葉：言葉の教育のねらい	小坂田佐弓
第３回	子どもの言葉：言葉の機能	小坂田佐弓

第４回	子どもの言葉：発達と獲得(出生から生後8、9か月)	小坂田佐弓
第５回	子どもの言葉：発達と獲得(生後8、9か月から2歳)	小坂田佐弓
第６回	子どもの言葉：発達と獲得(3歳から6歳)	小坂田佐弓
第７回	子どもの生活と言葉：言葉を聞くこと・わかること	小坂田佐弓
第８回	子どもの生活と言葉：言葉で表現すること	小坂田佐弓
第９回	子どもの生活と言葉：言葉で考えること	小坂田佐弓
第１０回	言葉と環境：人との関わり	小坂田佐弓
第１１回	言葉と環境：社会環境との関わり	小坂田佐弓
第１２回	言葉と環境：文化財との関わり（絵本）〔読み聞かせ〕	小坂田佐弓
第１３回	言葉と環境：文化財との関わり（童話・紙芝居）〔上演〕	小坂田佐弓
第１４回	言葉と環境：文化財との関わり（人形劇）	小坂田佐弓
第１５回	言葉遊びの楽しさ	小坂田佐弓
第１６回	単位認定試験	小坂田佐弓

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	最新保育講座　保育内容「言葉」	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	柴崎正行･戸田雅美･秋田喜代美 編	参・ＩＳＢＮ１	978-4623056415
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	保育内容指導（表現）			担当者	上田　豊、佐藤　尚宏		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-624		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

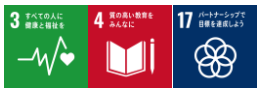
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「子どもの表現活動の理解および造形・音楽表現の技法と技術」をテーマとする。前半の造形表現では、環境づくりの課題として「子ども参加の空間デザイン」をテーマに壁面空間のグループ製作を通して保育内容の指導に必要な造形表現力を養い、後半の音楽表現では、音・音楽による表現方法の学習を通して、作品作りや表現ができる力を養う事を到達目標とする。
授業概要	「子どもの表現活動の理解および造形・音楽表現の技法と技術」「実際の保育現場において適切な援助および指導ができる能力」の習得を行うために、教材研究、情報機器及び教材の活用、指導案作成、模擬保育を実施する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	模擬保育（題材の理解とねらい、指導・援助の確かさなど）（５0点）、および授業に取り組む姿勢（事前準備と自己学習、かたづけ、提出物）（５0点)によって評価する。 講義内で適宜フィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	模擬授業の後、必要なフィードバックおよび補足講義を行う。
履修条件・注意事項	必要な教材は基本的にこちらで用意する。特別に必要なものは各自手配すること。指示された準備（予習）をして授業に望むこと。また、授業内容を記録（復習）すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：園での造形表現指導（2年）、小学生の絵画指導経験（20年）継続中。過去に美術系進学予備校において15年間の指導経験あり（デッサン、色彩構成・表現、立体構成・表現、構想表現）。
事前学習・事後学習とその時間	造形表現では、 事前の学修として、普段から様々な環境整備（お店のショウウィンドウや公共施設の子ども室などの室内構成、壁面装飾）を観察し、どんな工夫や意図があるかに触れること。 事後の学修として、講義で理解できなかった知識や技能について自宅学修を行うこと。 音楽表現では、 事前の学修として、普段から身の回りの様々な音や音楽に触れ、感性を磨いておくこと。 事後の学修として、講義で理解できなかった知識や技能について自宅学修を行うこと。 いずれも、2時間を学修時間の目安とする。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	佐藤尚宏・上田豊
第２回	「子ども参加の空間デザイン」「情報聞き及び教材の活用」について	佐藤尚宏
第３回	グループ分けと教材研究	佐藤尚宏
第４回	指導案作成と教材準備	佐藤尚宏
第５回	続き	佐藤尚宏
第６回	模擬授業	佐藤尚宏
第７回	模擬授業	佐藤尚宏
第８回	模擬授業とふりかえり	佐藤尚宏
第９回	感性と表現	上田豊
第１０回	身体と音楽表現	上田豊
第１１回	身の回りのものと音楽表現	上田豊

第１２回	楽器と音楽表現		上田豊
第１３回	子どもと一緒にできる音遊び1-詩に音をつける		上田豊
第１４回	子どもと一緒にできる音遊び2-CDの音楽と手作り音楽によるアンサンブル		上田豊
第１５回	作品発表・模擬保育		上田豊
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	保育をひらく造形表現	教・出版社名１	萌文書林
教・著者名１	槇　英子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89347-295-3
教・書籍名２	歌う、弾く、表現する保育者になろう	教・出版社名2	音楽之友社
教・著者名2	全国大学音楽教育学会中四国地区学会編著	教・ＩＳＢＮ2	4-276-31274-4
参考書			
参・書籍名１	幼稚園教育要領解説	参・出版社名１	フレーベル館
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-577-81447-5
参・書籍名２	保育所保育指針解説	参・出版社名2	フレーベル館
参・著者名2	厚生労働省	参・ＩＳＢＮ2	978-4577814482

授業科目名	基礎技能（音楽A）			担当者	上田　豊		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-626		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう 
到達目標	テーマは「子どもの豊かな音楽活動を援助する知識・技術」の習得。指導者は、保育や幼・小学校教育現場における子どもの音楽活動が実践できなくてはならない。そのために必要な音楽的な知識・技能の習得を目指す。本講座では、①歌唱表現の基礎となる呼吸法、発声法、ソルフェージュ練習により、子どもの歌が素歌で歌える、②ピアノ演奏の基本である5指を中心にした初級曲の演奏ができる、③主要三和音（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）のカデンツが正しい運指で弾ける、④簡易楽器の演奏と取り扱いができる。
授業概要	授業は個人レッスンとクラス授業の二形態で行う。個人レッスンでは、ピアノの基本的な奏法を習得する。また、クラス授業では、呼吸法、発声法、ソルフェージュ練習、鍵盤楽器によるカデンツ演奏、楽典の学習を行う。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	平素の学習態度と期末試験（実技・筆記）により、総合的に評価する。評価の割合は、期末試験（50%）、平素の課題への取り組み（30%）、授業参加態度（20%）。　平素の取り組みでは課題を実施し、結果は一人ひとり簡単な解説を付す形でフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間内に口頭で行う
履修条件・注意事項	初回、各自のピアノ演奏力が担当者に分かるように、一曲用意してくること。授業は、ピアノ個人レッスンと歌唱法その他グループ演習（クラス授業形態）を組み合わせる。グループ分けは初回に発表する。ピアノ、唱歌とも予習する。レッスンで〇（丸）をもらった曲はいつでも弾けるように復習を重ねること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、前回の授業で課された課題曲について、譜読みを行い、歌唱及びピアノ演奏練習を、1週間十分復習しておくことが必要不可欠である。難しい、また、分からないところはまとめておくこと。 復習として、「〇」をもらった曲は、いつでも歌える（弾ける）ように、日々練習を怠らないこと。予習及び復習は、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

授業計画		担当者
第１回	１．ピアノ奏法、ソルフェージュ　予備知識	上田
第２回	２．ピアノ奏法、楽典	上田
第３回	３．ピアノ奏法、ソルフェージュ　４分音符他	上田
第４回	４．ピアノ奏法、ソルフェージュ　３／４拍子	上田
第５回	５．ピアノ奏法、ソルフェージュ　８八分音符	上田
第６回	６．ピアノ奏法、ソルフェージュ　16分音符	上田
第７回	７．ピアノ奏法、ソルフェージュ　付点音符	上田
第８回	８．ピアノ奏法、ソルフェージュ　３連音符	上田
第９回	９．ピアノ奏法、ソルフェージュ　６／８拍子	上田
第１０回	１０．ピアノ奏法、ソルフェージュ　短調	上田
第１１回	１１．ピアノ奏法、カデンツ　音階と音程	上田
第１２回	１２．ピアノ奏法、カデンツ　音の重なり	上田
第１３回	１３．ピアノ奏法、カデンツ　ハ長調Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ	上田
第１４回	１４．ピアノ奏法、簡易楽器奏法	上田

第１５回	１４．ピアノ奏法、簡易楽器合奏	上田
第１６回	１６．単位認定試験（実技）	上田

教科書			
教・書籍名１	基礎から学べるピアノ１，２，３	教・出版社名１	ドレミ楽譜出版社
教・著者名１	本廣明美・加藤照恵編著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-285-11830-8
教・書籍名２	歌う、弾く、表現する保育者になろう	教・出版社名2	音楽之友社
教・著者名2	全国大学音楽教育学会中四国地区学会編著	教・ＩＳＢＮ2	4-276-31274-4
参考書			
参・書籍名１	日本の子どもの歌－唱歌童謡140年の歩み	参・出版社名１	音楽之友社
参・著者名１	全国大学音楽教育学会編著	参・ＩＳＢＮ１	978-4-276-59025-0
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎技能（図画工作）（集中A）			担当者	佐藤　尚宏		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-628		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「子どもの造形活動を援助するために必要な造形表現力を養うこと」をテーマに、「図画工作に関する基礎的な技能の習得」をめざす。 課題の作品制作を通して、子どもの造形表現に適した素材特性の理解，素材を活かす加工方法の理解と技能を養うことを到達目標とする。
授業概要	子どもの造形活動を援助するためには，子どもの発達段階の理解と、発達段階に適した題材設定や準備，さらに保育者自身が素材や加工・技法に習熟している必要がある。 この授業ではおもに幼児教育のための題材を中心に、演習による作品制作を通して、1）子どもの造形表現活動の援助に必要な態度や姿勢が実感できる、２）子どもの発達段階に適した素材や技法、加工方法を体得する、３）保育に活用できる教材の加工と活用方法を体得することができる、の３つの側面から学習を進める。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習
評価方法と割合	●課題作品（素材・技法の理解と技能，課題の理解と活用、作品の完成度等）５０％ ●取組内容（準備・かたづけ，制作プロセスにおける気づきや発見，レポートなど）５０％ ※課題作品・レポートは評価の後、フィードバックを行います。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	作品について必要なフィードバックおよび補足講義を行う。
履修条件・注意事項	授業は課題の制作などが中心になるため、自宅での制作が必要となる場合もある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：園での造形表現指導（2年）、小学生の絵画指導経験（20年）継続中。過去に美術系進学予備校において15年間の指導経験あり（デッサン、色彩構成・表現、立体構成・表現、構想表現）。
事前学習・事後学習とその時間	【予習】普段から様々なアートや子どもたちの遊びや野外活動、造形表現に触れること。事前に参考テキストを読んで素材や加工、制作プロセスなどの概略を理解しておくこと。 【復習】作品を完成させること。また実習での気づきや発見などをレポートにまとめること。 ※事前・事後の学修は、各2時間以上必要です。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

授業計画		担当者
第１回	ガイダンス、第1章．造形表現の意義	佐藤尚宏
第２回	手の動き(1)土粘土-触覚と変形（球）、第2章．表現を育む人になる、	佐藤尚宏
第３回	手の動き（2）油粘土による変形（鳥）	佐藤尚宏
第４回	手の動き（3）ゆび絵具による色遊び－フィンガーペインティング	佐藤尚宏
第５回	操作と試行錯誤：カラーインクによる色遊び	佐藤尚宏
第６回	描く（1）紙の加工と構成－切る・破る→貼る	佐藤尚宏
第７回	描く（2）線描－クレヨンのお散歩	佐藤尚宏
第８回	描く（3）透明水彩によるぬらし絵（色彩と感情）	佐藤尚宏
第９回	描く（4）不透明水彩による色遊び（カードづくり）	佐藤尚宏
第１０回	続き	佐藤尚宏
第１１回	作る（1）紙の加工と様々な形態	佐藤尚宏
第１２回	つくる（2）紙の加工による昆虫	佐藤尚宏
第１３回	続き	佐藤尚宏

第１４回	作る（3）、紙の加工と動物	佐藤尚宏
第１５回	まとめと鑑賞	佐藤尚宏
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	保育をひらく造形表現	教・出版社名１	萌文書林
教・著者名１	槇　英子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89347-295-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎技能Ⅱ（図画工作）			担当者	佐藤　尚宏		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-631		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「子どもの造形活動を援助するために必要な造形表現力を養うこと」をテーマに、主に幼児期から小学生を想定し「図画工作科の授業づくりに関する基礎的な技能の習得」をめざす。 課題の作品制作を通して、子どもの造形表現に適した素材特性の理解，素材を活かす加工方法の理解と技能を養い、さらに教材研究のポイントとして課題の特徴と望ましい子どもの体験との関係を想定する力を養うことを到達目標とする。
授業概要	子どもの造形活動を援助・指導するためには，子どもの発達段階の理解と、発達段階に適した題材設定や準備，さらに保育者自身が素材や加工・技法に習熟している必要がある。 この授業では主に幼児期から小学生を想定し、特に授業づくりのための教材研究と表現技能について、実践的な演習による作品制作を通して習得する。 1）子どもの造形表現活動の援助に必要な態度や姿勢が実感できる、 ２）子どもの発達段階に適した素材や技法、加工方法を体得する、 ３）保育に活用できる教材の加工と活用方法を体得することができる、 の３つの側面から学習を進めるが、この授業では特に初等教科教育図画工作も視野に入れた実技課題を学修する。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	●課題作品（素材・技法の理解，課題の理解、作品の完成度等）５０％ ※課題作品は評価したのち返却し、必要なフィードバックは授業内で行います。 ●取組姿勢（レポート、準備，製作プロセス，かたづけ，）５０％
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題作品およびレポートは必要な補足講義とディスカッション、フィードバック等を授業内で行います。
履修条件・注意事項	必要な教材はこちらで用意します。特別な準備（予習）がある場合は指示をます。また、授業の記録・復習を重視すること。
実務経験のある教員	該当する　内容：美術系進学予備校において15年間の指導経験あり（デッサン、色彩構成・表現、立体構成・表現、構想表現）。また小学生の絵画指導経験20年あり。
事前学習・事後学習とその時間	【予習】事前にテキストを読んで素材や加工、制作プロセスなどの概略を理解しておくこと。 【復習】作品を完成させること。また授業の内容をまとめること。 ※事前・事後の学修は、各2時間程度必要です。 ※普段から様々なアートや子どもたちの遊びや野外活動、造形表現に触れること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

授業計画		担当者
第１回	ガイダンス	佐藤尚宏
第２回	指編み・あやとり	佐藤尚宏
第３回	技法と教材研究①デカルコマニー	佐藤尚宏
第４回	技法と教材研究②折り染	佐藤尚宏
第５回	技法と教材研究③スクラッチ	佐藤尚宏
第６回	技法と教材研究④ステンシル	佐藤尚宏
第７回	まとめ：様々な技法・素材特性と教材研究について	佐藤尚宏
第８回	工作①紙の加工とポップアップカード	佐藤尚宏

第９回	続き		佐藤尚宏
第１０回	工作②マカロニリース		佐藤尚宏
第１１回	造形訓練①線による表現		佐藤尚宏
第１２回	造形訓練②配置構成による表現		佐藤尚宏
第１３回	造形訓練③色彩（水彩）による表現		佐藤尚宏
第１４回	造形表現④クロッキーによる写実表現		佐藤尚宏
第１５回	続き		佐藤尚宏
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	保育をひらく造形表現	教・出版社名１	萌文書林
教・著者名１	槇　英子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89347-295-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜資料を配付する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ （コラボ形式）			担当者	井勝　久喜、雲津　英子、黒宮　亜希子、秀　真一郎、大西　正泰、竹岡　志朗、稲元　洋輔、李　分一、姜　明求、栗田　喜勝、赤坂　真人、中野　明子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	SS-BU-1-701		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】 大学で学ぶ上で必要な基礎的な知識、学習スキルを習得する。 学科内での人間関係形成を通じ、コミュニケーション力を養う。 【到達目標（主に３つ）】 ①新入生がスムーズに大学生活を送ることが出来るよう、大学で学ぶための基礎的な知識を身につける。 ②大学生・社会人として必要な社会的マナーを身につける。 ③演習における少人数のグループ活動を通じて、自己理解や自己表現、コミュニケーションスキルの向上を目指す。
授業概要	１年生全体での合同授業では、大学生活や経営社会学科で学ぶために重要なガイダンス（コース・資格の説明）、さらには、学科全体でのレクリエーション活動を実施する。 各チューター別の演習授業時には、指定されたテキストを基に、大学での基本的な学び方、コミュニケーション（話し方・聴き方）、マナー（電話やメールの作法など）に関して、毎回一つずつトピックを取り上げながら演習形式で学習を進める。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	ルーブリック評価表（100%）に基づき評価を行う。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	・提出課題については各チューターが添削の上、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	①経営社会学科（１年次）の卒業必修科目である。 ②テキストを配布する。書き込み式テキストのため、忘れないように毎回持参のこと。 ③授業中または授業後に、課題・ミニレポート等の提出が求められる。提出物を基にフィードバックを行う。 ④合同（１年生全員）で実施する回と、各チューター単位で活動する回に分かれている。予定に注意すること。
実務経験のある教員	該当する　内容　企業等における勤務経験を有する教員が授業を行う。
事前学習・事後学習とその時間	・演習形式の授業であるため、積極的な参加が重要である。 ・テキストを基に、事前・事後の学修に各2時間を要する。
オフィスアワー	チューター教員ごとにオフィスアワーが異なる。授業時にオフィスアワーに関しては説明がある。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション ①授業予定、コース・資格等、研究倫理教育	全教員
第２回	オリエンテーション ②マイステップを用いた学習計画の記入について	全教員
第３回	学生交流活動①	全教員
第４回	学生交流活動②	全教員
第５回	大学で学ぶということ ①自主性を発揮して大学生活を楽しもう	全教員

第６回	大学で学ぶということ ②大学での学びとは	全教員
第７回	コミュニケーションとマナー①コミュニケーションの重要性	全教員
第８回	コミュニケーションとマナー②話を聴く	全教員
第９回	コミュニケーションとマナー③わかりやく話す	全教員
第１０回	学外交流活動 ①	全教員
第１１回	学外交流活動 ②	全教員
第１２回	コミュニケーションとマナー④マナーの本質と重要性	全教員
第１３回	コミュニケーションとマナー⑤人に依頼するときのマナー	全教員
第１４回	コミュニケーションとマナー⑥電話・メールの作法	全教員
第１５回	春学期まとめ（振り返りレポート）	全教員
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	マイキャリアノートⅠ Basic (基礎演習Ⅰ授業時に配布する)	教・出版社名１	ベネッセ i-キャリア
教・著者名１	ベネッセ i-キャリア	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ （コラボ形式）			担当者	井勝　久喜、雲津　英子、黒宮　亜希子、秀　真一郎、大西　正泰、竹岡　志朗、稲元　洋輔、李　分一、姜　明求、栗田　喜勝、赤坂　真人、中野　明子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	SS-BU-1-702		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】 大学で学ぶ上で必要な基礎的な知識、学習スキルを習得する。 学科内での人間関係形成を通じ、コミュニケーション力を養う。 【到達目標（主に３つ）】 ①新入生がスムーズに大学生活を送ることが出来るよう、大学で学ぶための基礎的な知識を身につける。 ②大学生・社会人として必要な社会的マナーを身につける。 ③演習における少人数のグループ活動を通じて、自己理解や自己表現、コミュニケーションスキルの向上を目指す。
授業概要	１年生全体での合同授業では、大学生活や経営社会学科で学ぶために重要なガイダンス（コース・資格の説明）等を実施する。 各チューター別の演習授業時には、指定されたテキストを基に、大学での基本的な学び方（レポートの書き方、図書館利用の仕方、発表の仕方）など、毎回一つずつトピックを取り上げながら演習形式で学習を進める。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	ルーブリック評価表（100%）に基づいて授業評価を行う。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	・提出課題はチェックし、チューターより返却を行う。
履修条件・注意事項	①経営社会学科（１年次）の卒業必修科目である。 ②テキストを配布する。書き込み式テキストのため、忘れないように毎回持参のこと。 ③授業中または授業後に、課題・ミニレポート等の提出が求められる。提出物を基にフィードバックを行う。 ④合同（１年生全員）で実施する回と、各チューター単位で活動する回に分かれている。予定に注意すること。
実務経験のある教員	該当する　内容：企業等において勤務経験を有する教員が担当する。
事前学習・事後学習とその時間	・演習形式の授業であるため、積極的な参加が重要である。 ・テキストを基に、事前・事後の学修に各2時間を要する。
オフィスアワー	チューター教員ごとにオフィスアワーが異なる。 授業時にオフィスアワーに関しては説明がある。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション ①授業予定説明・履修指導、研究倫理教育	全教員
第２回	オリエンテーション ②マイステップの記入、履修確認など	全教員
第３回	キャリアデザインとは	全教員
第４回	自分について考える	全教員
第５回	大学で伸ばしたい力＆将来について考える	全教員

第６回	社会で求められる力	全教員
第７回	学びと社会のつながりを知る	全教員
第８回	目標と行動計画を立ててみよう	全教員
第９回	授業の受け方、タイムマネジメントの仕方	全教員
第１０回	図書館の使い方	全教員
第１１回	レポート・論文の書き方	全教員
第１２回	コース選択説明会	全教員
第１３回	ディスカッション・ディベートの仕方	全教員
第１４回	発表・プレゼンテーションの仕方	全教員
第１５回	秋学期まとめ（振り返りレポート）	全教員
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	マイキャリアノートⅠ Basic (基礎演習Ⅰ授業時に配布する)	教・出版社名１	ベネッセ i-キャリア
教・著者名１	ベネッセ i-キャリア	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	基礎演習III （コラボ形式）			担当者	井勝　久喜、雲津　英子、黒宮　亜希子、秀　真一郎、大西　正泰、竹岡　志朗、稲元　洋輔、李　分一、姜　明求、栗田　喜勝、赤坂　真人、中野　明子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-703		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ：小集団での演習活動を通じたコミュニケーション力・対人関係力の向上 到達目標（３つ） ①自己・他者を知る（自己分析ならびに、異文化理解を含めた他者理解を深める）。 ②お互いの考え方や価値観を知る（ワークを通じ、物事の価値観に関する共通点・違いを探る）。 ③ワークをもとに、よりより人と人との関係性、チームワークのあり方について習得する。
授業概要	本授業は、小グループの演習活動を通じた、各受講生のコミュニケーション力・対人関係力の向上を目標とした演習形式の授業である。 授業全体の進め方としては、演習グループ（チューターごと）を基本として、各グループでワークを経験しながら、自己分析ならびに、異文化理解を含めた他者理解を深めていく。 これらの学習経験を通じて、グループのメンバー同士が、お互いの考え方や価値観を知ること、さらには、よりよい人と人との関係、チームワークのあり方について受講生自身が習得するまでを目標としている。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	ルーブリック評価表（100%）に基づき評価を行う。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	・提出課題については各チューターが添削の上、返却を行う（フィードバック）。
履修条件・注意事項	①経営社会学科（2年次）の必修科目である。 ②配付資料はファイル等を各自が準備し管理すること。 ③演習形式の授業であるため、積極的な参加が重要である。 ④授業中または授業後に、課題・ミニレポート等の提出が求められる。 ⑤合同（２年生全員）で実施する回と、各チューター単位で活動する回に分かれている。予定に注意すること。
実務経験のある教員	該当する　内容：企業等における勤務経験を有する教員が授業を行う。
事前学習・事後学習とその時間	・配付資料をもとに、事前・事後の学修に各2時間を要する。
オフィスアワー	チューター教員ごとにオフィスアワーが異なる。 授業時にオフィスアワーに関しては説明がある。

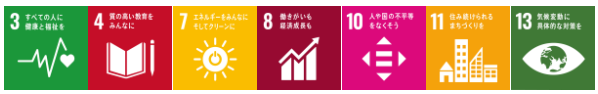
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション① 授業予定・授業評価について、履修指導など	全教員
第２回	オリエンテーション② 2年生全体連絡、履修確認など	全教員
第３回	新チューターメンバー自己紹介、履修確認など	全教員
第４回	自己・他者を知る① 好きなものウェビング	全教員
第５回	2年生交流活動① チーム作り	全教員

第６回	2年生交流活動② チューター対抗ワーク	全教員
第７回	自己・他者を知る② お互いをインタビュー	全教員
第８回	自己・他者を知る③ 私の出身国・出身地プレゼン	全教員
第９回	お互いの考え方を知る① 人生の価値観	全教員
第１０回	お互いの考え方を知る② ○○の条件	全教員
第１１回	お互いの考え方を知る③ 哲学カフェ	全教員
第１２回	人と人との関係・チームワーク① 私の対人関係マップ	全教員
第１３回	人と人との関係・チームワーク② サバイバル	全教員
第１４回	人と人との関係・チームワーク③ メンバーへのフィードバック	全教員
第１５回	春学期学修成果まとめ（振り返りレポート）	全教員
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	ソーシャルスキルが身につくレクチャー&ワークシート	参・出版社名１	学事出版
参・著者名１	西村 宣幸	参・ＩＳＢＮ１	978-4761916282
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	基礎演習Ⅳ （コラボ形式）			担当者	井勝　久喜、雲津　英子、黒宮　亜希子、秀　真一郎、大西　正泰、竹岡　志朗、稲元　洋輔、李　分一、姜　明求、栗田　喜勝、赤坂　真人、中野　明子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-704		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１３．気候変動に具体的な対策を 
到達目標	テーマ：学科全教員の演習（ゼミ）を体験し、各教員の専門性を理解した上で、３年次以降のゼミ選択を行う 到達目標（3つ） ①学科全教員の演習授業を体験することで、ゼミ形式の授業に慣れる。 ②演習形式の授業を通じて、自発的に学ぶ姿勢や態度を身につける。 ③各教員の専門性を理解し、各自３年次以降のゼミ選択を行う。
授業概要	本授業は、学科全教員の演習（ゼミ）体験を踏まえた上で、３年次以降で学ぶゼミ選択を的確に行うことを狙いとしている。 毎週、それぞれ異なる教員の演習授業を体験することで、ゼミ形式の授業において自発的に学ぶ姿勢や態度を身に着けることも重要なポイントである。 途中、２年生全体を対象とした「ゼミ選択説明会」を行う。各教員の専門性を毎回の演習を通じて理解した上で、各自が積極的に３年次以降のゼミ選択を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	ルーブリック評価表（100%）に基づき評価を行う。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	・提出課題については各教員が添削の上、返却を行う（フィードバック）。
履修条件・注意事項	①経営社会学科（2年次）の卒業必修科目である。 ②配付資料はファイル等を各自準備し、管理すること。 ③授業中または授業後に、課題・ミニレポート等の提出が求められる。 ④合同（2年生全員）で実施する回と、各グループ単位で活動する回に分かれている。予定に注意すること。
実務経験のある教員	該当する　内容：企業等における勤務経験を有する教員が授業を行う。
事前学習・事後学習とその時間	・演習形式の授業であるため、積極的な参加が重要である。 ・教員からの配布資料をもとに、事前・事後の学修に各2時間を要する。
オフィスアワー	チューター教員ごとにオフィスアワーが異なる。 授業時にオフィスアワーに関しては説明がある。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業予定・授業評価、履修指導など）	全教員
第２回	演習ゼミ体験　教員1グループ	全教員
第３回	演習ゼミ体験　教員2グループ	全教員

第４回	演習ゼミ体験　教員3グループ	全教員
第５回	演習ゼミ体験　教員4グループ	全教員
第６回	演習ゼミ体験　教員5グループ	全教員
第７回	演習ゼミ体験　教員6グループ	全教員
第８回	演習ゼミ体験　教員7グループ	全教員
第９回	演習ゼミ体験　教員8グループ	全教員
第１０回	演習ゼミ体験　教員9グループ	全教員
第１１回	演習ゼミ体験　教員10グループ	全教員
第１２回	演習ゼミ体験　教員11グループ	全教員
第１３回	ゼミ選択説明会	全教員
第１４回	演習ゼミ体験　教員12グループ	全教員
第１５回	演習ゼミ体験　教員13グループ	全教員
第１６回	最終レポート（ゼミ選択関連資料の提出）	全教員

教科書			
教・書籍名１	教科書は指定しない。各教員より配布資料がある。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本語教材の研究 （春学期入学生）			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-601		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義では、日本語教授のためにどのような教材・教具があり、それをどのように授業に活用するかを理解し、修得する。主に、授業レベルに合った教材や教具を的確に選び、これらを活用し、授業計画を立てたり、授業資料を作成したりしながら日本語教授の実践力を身につける。受講生同士が互いに評価しあうことで、自らの可能性を高めていくことができる。また、日本語教育を必要とする人々へのまなざしと行動力を養う。
授業概要	本講義は、第二言語として日本語を学ぶ留学生を対象とする。主体的に教材・教具の検討を行う。学習者に正確な発音と文型を習得させるための文型練習のための教材・教具とはどのようなものか、また、流暢な日本語の会話力や説明力の習得のための教材やテキストとはどのようなものかについて考えよう。その教材をもとに各人が授業計画を立て教案を作成し、模擬授業も行う予定である。模擬授業を通して気づいた問題点や改善点について議論し、日本語教授の技術と能力を鍛える。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	本講義内で作成した教案や教材を用いて模擬授業を行い評価する。模擬授業の成果を40%、準備段階として教案、教材・プリントの作成に積極的に取り組んだかを40%、授業の反省点や改善点、感想を含めたレポートを20%とし、これらを総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	模擬授業やレポート提出によって単位認定を行うが、それだけでは評価しない。一つの授業を組み立てるまでの教材研究に取り組む姿勢・態度、努力や工夫も考慮する。教材研究や模擬授業をよりよいものにするためには、授業以外での予習・復習に心がけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	自己学修として、日本語教育実習（４年次開講）に向け、講義内容や配布資料をもとに教案を作成したり、模擬授業のための教材研究を行ったりすること。毎週の講義内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	日本語教材の研究の概括	大下 朋子
第２回	教材・教具の種類（１）	大下 朋子
第３回	教材・教具の種類（２）	大下 朋子
第４回	教材の作成・導入（１）	大下 朋子
第５回	教材の作成・導入（２）	大下 朋子
第６回	教案作成Ⅰ	大下 朋子
第７回	模擬授業（１）	大下 朋子
第８回	模擬授業（２）	大下 朋子
第９回	教材・教具の見直し（１）	大下 朋子
第１０回	教材・教具の見直し（２）	大下 朋子
第１１回	教案作成Ⅱ	大下 朋子
第１２回	模擬授業（３）	大下 朋子

第１３回	模擬授業（４）	大下 朋子
第１４回	模擬授業（５）	大下 朋子
第１５回	授業のまとめ	大下 朋子
第１６回	単位認定試験（実技試験）	大下 朋子

教科書			
教・書籍名１	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本語教材の研究 （秋学期入学生）			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-601		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義では、日本語教授のためにどのような教材・教具があり、それをどのように授業に活用するかを理解し、修得する。主に、授業レベルに合った教材や教具を的確に選び、これらを活用し、授業計画を立てたり、授業資料を作成したりしながら日本語教授の実践力を身につける。受講生同士が互いに評価しあうことで、自らの可能性を高めていくことができる。また、日本語教育を必要とする人々へのまなざしと行動力を養う。
授業概要	本講義は、第二言語として日本語を学ぶ留学生を対象とする。主体的に教材・教具の検討を行う。学習者に正確な発音と文型を習得させるための文型練習のための教材・教具とはどのようなものか、また、流暢な日本語の会話力や説明力の習得のための教材やテキストとはどのようなものかについて考えよう。その教材をもとに各人が授業計画を立て教案を作成し、模擬授業も行う予定である。模擬授業を通して気づいた問題点や改善点について議論し、日本語教授の技術と能力を鍛える。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	本講義内で作成した教案や教材を用いて模擬授業を行い評価する。模擬授業の成果を40%、準備段階として教案、教材・プリントの作成に積極的に取り組んだかを40%、授業の反省点や改善点、感想を含めたレポートを20%とし、これらを総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	模擬授業やレポート提出によって単位認定を行うが、それだけでは評価しない。一つの授業を組み立てるまでの教材研究に取り組む姿勢・態度、努力や工夫も考慮する。教材研究や模擬授業をよりよいものにするためには、授業以外での予習・復習に心がけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	自己学修として、日本語教育実習（４年次開講）に向け、講義内容や配布資料をもとに教案を作成したり、模擬授業のための教材研究を行ったりすること。毎週の講義内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	日本語教材の研究の概括	大下 朋子
第２回	教材・教具の種類（１）	大下 朋子
第３回	教材・教具の種類（２）	大下 朋子
第４回	教材の作成・導入（１）	大下 朋子
第５回	教材の作成・導入（２）	大下 朋子
第６回	教案作成Ⅰ	大下 朋子
第７回	模擬授業（１）	大下 朋子
第８回	模擬授業（２）	大下 朋子
第９回	教材・教具の見直し（１）	大下 朋子
第１０回	教材・教具の見直し（２）	大下 朋子
第１１回	教案作成Ⅱ	大下 朋子
第１２回	模擬授業（３）	大下 朋子

第１３回	模擬授業（４）	大下 朋子
第１４回	模擬授業（５）	大下 朋子
第１５回	授業のまとめ	大下 朋子
第１６回	単位認定試験（実技試験）	大下 朋子

教科書			
教・書籍名１	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本語教育実習 （春学期入学生）			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SC-SM-4-602		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	実習		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語教員養成コース修了のための必修科目であり、学生は外国人に対して日本語を教授する実践力を修得する。具体的には、教材の捉え方、授業の流れ、教科書や教具の活用について考慮しながら、学生に合った授業の教材や教具を準備し、教壇実習を行う実践力を養う。
授業概要	本講義は、第二言語として日本語を学ぶ留学生を対象とする。本実習では、現場での日本語教授の体験を通して、日本語教員養成コースで学んできた教材の活用、知識や技術を実際に授業で実践し、日本語教授の能力を修得する。半期30時間の教育実習を行う。学生の日本語レベルに合った教材や教具を的確に決定する判断力を養い、学習者が積極的に学習できるよう工夫し、応用する能力を身に付ける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	実習の受け入れ機関からの実習評価を60点、実習記録・最終レポート30点、その他の学習態度10点で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、実習に向けた準備（教材、教具の選定、教案・教材の作成、板書計画、授業運営など）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	３年次開講科目「日本語教材の研究」の他、本学が定める日本語教員養成に関する科目の単位を取得した学生のみ履修することができる。また、日本語教育実習を行うために、原則として３年修了時までに、留学生の場合、日本語能力試験N1に合格しておかなければならない。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、日本語教師としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	実習準備には多くの時間を要する。教育実習の内容を充実させるため、予習と復習を各２時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に準備し、理解できない点などは担当教員に質問すること。復習として、実習の準備や教壇実習のふり返りを主体的に行うこと。
オフィスアワー	授業後の休憩時間

授業計画		担当者
第１回	半期30時間の教育実習を実施する。	実習校の担当者（大下(朋)）
第２回		
第３回		
第４回		
第５回		
第６回		
第７回		
第８回		
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		

第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	実習準備に合わせて資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本語教育実習 （秋学期入学生）			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SC-SM-4-602		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	実習		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語教員養成コース修了のための必修科目であり、学生は外国人に対して日本語を教授する実践力を修得する。具体的には、教材の捉え方、授業の流れ、教科書や教具の活用について考慮しながら、学生に合った授業の教材や教具を準備し、教壇実習を行う実践力を養う。
授業概要	本講義は、第二言語として日本語を学ぶ留学生を対象とする。本実習では、現場での日本語教授の体験を通して、日本語教員養成コースで学んできた教材の活用、知識や技術を実際に授業で実践し、日本語教授の能力を修得する。半期30時間の教育実習を行う。学生の日本語レベルに合った教材や教具を的確に決定する判断力を養い、学習者が積極的に学習できるよう工夫し、応用する能力を身に付ける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	実習の受け入れ機関からの実習評価を60点、実習記録・最終レポート30点、その他の学習態度10点で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、実習に向けた準備（教材、教具の選定、教案・教材の作成、板書計画、授業運営など）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	３年次開講科目「日本語教材の研究」の他、本学が定める日本語教員養成に関する科目の単位を取得した学生のみ履修することができる。また、日本語教育実習を行うために、原則として３年修了時までに、留学生の場合、日本語能力試験N1に合格しておかなければならない。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、日本語教師としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	実習準備には多くの時間を要する。教育実習の内容を充実させるため、予習と復習を各２時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に準備し、理解できない点などは担当教員に質問すること。復習として、実習の準備や教壇実習のふり返りを主体的に行うこと。
オフィスアワー	授業後の休憩時間

授業計画		担当者
第１回	半期30時間の教育実習を実施する。	実習校の担当者（大下(朋)）
第２回		
第３回		
第４回		
第５回		
第６回		
第７回		
第８回		
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		

第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	実習準備に合わせて資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

Syllabus

社会科学部
経営社会学科

2021 年度入学生

授業科目名	吉備国際大から世界へ 保健医療福祉学部以外			担当者	山本　倫子、畝　伊智朗		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ： Think Globally Act Locally.グローバルに物事を見る、グローバルに考える。実践はローカルに。 到達目標： ヒト、モノ、カネ、情報が自由に世界を飛び回る時代。グローバル化、国際化が進展する現代では、グローバルな視点で、日本を見直す必要がある。日本の事情・都合だけで、政治・外交、経済、企業経営などを行なうことはできない。そのため、グローバルな視点で事象を観察、評価、判断できる能力が求められる。社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、グローバルな視点を学び、世界の常識を学びながら、グローバル人材としての基本的思考を確立することを目指す。学生は、グローバルな視点で物事を判断できるようになる。
授業概要	将来、社会で活躍する学生は、国際関係、国際経済、難民問題、その他多くのグローバル事象を複眼的に検討し、日本の事情を理解した上で、自分の意見が言える必要がある。そして、それを踏まえつつ、地域社会で実践する。それがグローバル人材。そのため、社会科学の多くの視点、手法を学びつつ、それを通じて世界の常識を認識できるようになる。グローバル人材として当然知っておくべき基本的な内容を学べる授業である。 具体的なイッシューを題材として、講義を行なう。その際、経験的方法、量的論証、批判的思考方法の手法・視点を取り入れる。自己教育力を身につけてもらうため、問題解決型学習の実践も取り入れる。グループに課題を与え、実態を調査し解決策を検討する。その成果は、授業で発表を行なってもらう。 この科目が、他の教養科目の学修深化の一助となると共に、海外留学での学びや専門科目を履修する上での基礎を築くものとしたい。 なお、履修者の興味、関心などに基づき、ディスカッションのやり方、テーマなどは適宜調整する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業への参加度・コメント（40%）、グループ・プレゼンテーション（20%）、最終レポートの成績（40%）により、総合評価をおこなう。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	グループ・プレゼンテーションの結果は、各プレゼンテーションの後で、それぞれ講評を行う。最終レポートに関しては、コメントを付し、授業または事務室を経由して、返却する。
履修条件・注意事項	ワールドニュースを必ず観ること。チェックすること。世界で起こっていることに関して、興味関心を持つこと。

実務経験のある教員	該当する	内容	本講義の担当教員は、米国に通算2ヶ年留学し、国際協力機構JICAで長年勤務し、その間、コートジボアール日本大使館、JICAケニア事務所、フランスにある国際機関経済協力開発機構（OECD）に勤務した経験があるほか、多くの外国要人の接遇経験もある。 それらの実務経験で学んだ暗黙知（本、論文、ネット記事などになっていないもの）を、授業の節目節目で共有し、講義にリアリティを持たせる。
事前学習・事後学習とその時間	毎日、新聞を読む。ネットニュースなどをチェックする。参考図書などを読んで特定テーマに関し調べることなど、授業1回当たり、事前学習90分、復習90分の自己学修を必要とする。		
オフィスアワー	2号館附属図書館内で、毎週月曜日3限目、5限目をオフィス・アワーとします。		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　グローバル・スタディーズで学ぶこと	畝 山本倫子
第２回	国境とは何か？	畝 山本倫子
第３回	人はなぜ移動するのか？	畝 山本倫子
第４回	なぜ、自衛隊を軍隊と呼ばないのか？	畝 山本倫子
第５回	国連憲章と日本国憲法	畝 山本倫子
第６回	ジェンダー、LBGT、少数民族	畝 山本倫子
第７回	グループ・プレゼンテーション	畝 山本倫子
第８回	価値、価格はどのように決まるのか？	畝 山本倫子
第９回	自由貿易は本当に世界を豊かにするのか？	畝 山本倫子
第１０回	産業の空洞化、技術流出とは何か？何が問題なのか？	畝 山本倫子
第１１回	多国籍企業とは何だろうか？	畝 山本倫子
第１２回	高齢化社会の課題	畝 山本倫子
第１３回	世界の教育問題、日本の教育問題。	畝 山本倫子
第１４回	なぜ、Liberal Artsを学ぶのか？	畝 山本倫子
第１５回	グループ・プレゼンテーションと総括	畝 山本倫子
第１６回	最終試験（レポート）	畝

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	国際関係論　同時代史への羅針盤	参・出版社名１	中公新書
参・著者名１	中島嶺雄	参・ＩＳＢＮ１	4-12-101106-6
参・書籍名２	経済学を味わう　東大1、2年生に大人気の授業	参・出版社名2	日本評論社
参・著者名2	市村英彦ほか	参・ＩＳＢＮ2	978-4-535-55955-4

授業科目名	吉備国際大から世界へ 留学生(再履１・２クラス)			担当者			日笠　恵美子	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			GE-KE-1-001	
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかかげ、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、ノートやレポート課題の提出を５０点、そして単位認定試験を３０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。本科目は、プレイスメントテストの結果で、２クラスに編成する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	日笠
第２回	世界の中の日本、岡山、高梁	日笠
第３回	日本人の行動様式	日笠
第４回	日本の食文化	日笠

第５回	日本の伝統文化	日笠
第６回	健康法	日笠
第７回	教育と学び	日笠
第８回	余暇と娯楽	日笠
第９回	現代の社会	日笠
第１０回	報道とマスコミ	日笠
第１１回	ITと情報社会	日笠
第１２回	科学と技術	日笠
第１３回	日本の歴史	日笠
第１４回	岡山の祭り	日笠
第１５回	異文化理解	日笠
第１６回	単位認定試験	日笠

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	漢字マスターN2	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	アークアカデミー	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05632-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ 留学生（再履３・４クラス）			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを３０点、そして単位認定試験５０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション　自己紹介	井上光恵
第２回	２．トピック２（食文化）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第３回	３．トピック２（食文化）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第４回	４．トピック２（食文化）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第５回	５．トピック３（観光）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第６回	６．トピック３（観光）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第７回	７．トピック３（観光）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第８回	８．トピック５（行事）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第９回	９．トピック５（行事）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第１０回	１０．トピック５（行事）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第１１回	１１．トピック７（歴史）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第１２回	１２．トピック７（歴史）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第１３回	１３．トピック７（歴史）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第１４回	１４．振り返り	井上光恵
第１５回	１５．総括	井上光恵
第１６回	単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	まるごと　ことばと文化　初級２　A2　りかい	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	来嶋洋美　柴原智代　八田直美　今井寿枝　木谷直之	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05757-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	漢字たまご 初中級	参・出版社名１	凡人社
参・著者名１	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-832-6
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ （秋入学生）(再履１・２クラス)			担当者	日笠　恵美子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかかげ、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、ノートやレポート課題の提出を５０点、そして単位認定試験を３０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。本科目は、プレイスメントテストの結果で、２クラスに編成する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	日笠
第２回	世界の中の日本、岡山、高梁	日笠
第３回	日本人の行動様式	日笠

第４回	日本の食文化	日笠
第５回	日本の伝統文化	日笠
第６回	健康法	日笠
第７回	教育と学び	日笠
第８回	余暇と娯楽	日笠
第９回	現代の社会	日笠
第１０回	報道とマスコミ	日笠
第１１回	ITと情報社会	日笠
第１２回	科学と技術	日笠
第１３回	日本の歴史	日笠
第１４回	岡山の祭り	日笠
第１５回	異文化理解	日笠
第１６回	単位認定試験	日笠

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	漢字マスターN2	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	アークアカデミー	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05632-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ （秋入学生）(再履３・４クラス)			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		
ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう						
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。						
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを３０点、そして単位認定試験５０点とし、これらを１００点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。						

オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション　自己紹介	井上光恵
第２回	２．トピック２（食文化）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第３回	３．トピック２（食文化）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第４回	４．トピック２（食文化）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第５回	５．トピック３（観光）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第６回	６．トピック３（観光）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第７回	７．トピック３（観光）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第８回	８．トピック５（行事）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第９回	９．トピック５（行事）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第１０回	１０．トピック５（行事）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第１１回	１１．トピック７（歴史）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第１２回	１２．トピック７（歴史）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第１３回	１３．トピック７（歴史）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第１４回	１４．振り返り	井上光恵
第１５回	１５．総括	井上光恵
第１６回	単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	まるごと　ことばと文化　初級２　A2　りかい	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	来嶋洋美　柴原智代　八田直美　今井寿枝　木谷直之	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05757-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	漢字たまご 初中級	参・出版社名１	凡人社
参・著者名１	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-832-6
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	地域学概論 経社			担当者	井勝　久喜、稲元　洋輔、藤井　伊津子、栗田　喜勝、中野　明子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-KE-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜4限		
ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	
ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に 						
到達目標	＜きびこく学・前半8回＞ 本学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材の養成」を達成するための導入的教育として位置づけられる科目である。テーマとしては、順正学園及び大学が、立地する地元地域社会の中で発展を遂げてきた歴史、ならびに地域の歴史や文化、人々の生活等について理解を深めるとともに、地域社会の現状を理解し、地域創成に向けて取り組むべき課題について学ぶことがあげられる。 到達目標としては次の2点があげられる。 ①順正学園及び大学の歴史ならびに地域社会の歴史的特性や現状を理解し、地域創成のための取り組むべき課題を理解できる。 ②地域創成に向けて、学生としてどのような貢献ができるか考え、チャレンジする態度を涵養できる。 ＜SDGs概論・後半8回＞ 「地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGsの必要性と意義の理解」をテーマとし、SDGsの概要について学ぶ。 到達目標は以下の通り。 ①地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の背景が理解できる。 ②SDGsについて全体像を把握し、その概要を説明できる。 ③SDGsの各目標を自分事として捉えることができる。 ④SDGsの達成に向けて必要な取り組みを実行することができる。						
授業概要	＜きびこく学・前半8回＞ 順正学園及び大学が、立地する地域の中で発展を遂げてきた歩み(歴史)を概観するとともに、地元地域で様々な活動を展開されている方々を講師に招き、地域の歴史や文化、人々の生活ならびに地域社会の現状や課題等についてご講演いただき、地域の特性や課題について理解を深める。また、毎回の講義の中で、学生の立場で地域の課題解決や発展にどのような貢献ができるのか考え、生活の主体者として地域創生に向けて取り組む姿勢を涵養することができるよう、レポート課題に取り組む。 ＜SDGs概論・後半8回＞ 2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的を学ぶと共に、SDGsの17の目標について概要を学ぶ。また、SDGs達成に向けて実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何ができるか、また何をしなければならないかを考え、実行しようとする能力を身につける。 授業は全学科の学生が受講する合同授業と各学科の授業で構成されている。合同授業は、地球環境システムと人間						

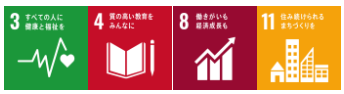
	社会システムの現状とSDGs策定の経緯およびSDGsの概要について講義形式で教授する。各学科の授業ではグループに分かれてSDGs達成に向けた施策をまとめ、グループ毎に発表をおこない課題解決能力を養う。		
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）		
評価方法と割合	＜きびこく学・前半8回＞ 毎回授業時提出のレポート評価(70%)、第8回目に行う学修成果確認レポート作成の評価(30%)により、総合的に評価する。 ＜SDGs概論・後半8回＞ グループでの活動及び発表を評価する(50%)。最後に筆記試験を行いSDGsの理解度を評価する(50%)。 詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。		
ルーブリック評価			
課題や試験のフィードバック方法	＜きびこく学・前半8回＞ 毎回の授業でレポート提出を課すが、次回の授業時までに内容を評価し返却する。 ＜SDGs概論・後半8回＞ 振り返りレポートを評価して次回授業で返却する。		
履修条件・注意事項	＜きびこく学・前半8回＞ 地域の様々な立場にある外部講師による有益な講義を多く導入しているので、受講態度に十分留意して毎回必ず出席すること。 受講内容に関するレポート課題には、単に感想を述べるのではなく、真摯に、積極的に取り組むこと。 ＜SDGs概論・後半8回＞ ①初回の授業には、必ず出席すること。 ②学科別授業ではグループワークを行うことから、授業を欠席しないこと。 ③合同授業日と各学科授業日があるので注意すること。		
実務経験のある教員	該当する	内容	＜きびこく学・前半8回＞ 授業を担当する複数の講師は、いずれも学園や大学の創設に中心的役割を担い尽力した講師や、地域社会の中で様々な活動を展開している実務経験の豊富な講師で
事前学習・事後学習とその時間	＜きびこく学・前半8回＞ １）事前にユニパを通じて配布する資料に十分目を通すとともに、インターネット等を通じて授業内容に関する情報を収集するなど、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 ２）授業後には、学修内容を振り返り、不明な点や確認したいことなどを各自で調べるなど、毎回2時間以上の事後学修を行うこと。 ＜SDGs概論・後半8回＞ ユニパで配布する資料を基に事前学修をすること。また、授業終了後は必ず復習を行うこと。予習及び復習は各2時間程度行うこと。		
オフィスアワー	＜きびこく学・前半8回＞ 個人研究室(10313)にて、水曜日5限に実施 ＜SDGs概論・後半8回＞ 個人研究室(14601号室)にて、木曜日5限に実施		

授業計画		担当者
第１回	＜きびこく学・前半8回＞ オリエンテーション 地域創成と何かー「きびこく学」を学ぶ意義と授業計画について	大西正泰(経営社会学科) (各学科担当教員)
第２回	順正学園及び吉備国際大学の歴史について	加計美也子 順正学園副総長
第３回	高梁市の歴史と文化及び政策課題と今後の方向性について	近藤隆則 高梁市長
第４回	高梁基督教会堂(岡山県指定史跡)をめぐる歴史と人物	高梁基督教会牧師　八木橋康広

第５回	日本遺産「備中吹屋」	吹屋ふるさと村村長　戸田誠
第６回	「未来につなぐ図書館」としての活動	高梁市図書館統括マネージャー　宮地 康志
第７回	宇治地域住民総働のまちづくり	宇治地域市民センター長 中曽 まゆみ
第８回	学修成果確認レポート作成(学修成果の振り返り)	各学科担当教員
第９回	＜SDGs概論・後半8回＞ SDGsとは何かーなぜ学ぶのか (オリエンテーションを含む)	井勝久喜(経営社会学科) (各学科担当教員)
第１０回	2030アジェンダ採択までの経緯	井勝久喜 (各学科担当教員)
第１１回	SDGsが目指している世界	井勝久喜 (各学科担当教員)
第１２回	SDGsの17の目標	井勝久喜 (各学科担当教員)
第１３回	グループ分けと検討課題の設定	各学科担当教員
第１４回	グループ別発表1回目	各学科担当教員
第１５回	グループ別発表2回目	各学科担当教員
第１６回	試験	各学科担当教員

教科書			
教・書籍名１	使用しない（毎回授業用資料を配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	「備中高梁」に学ぶ	参・出版社名１	吉備人出版
参・著者名１	吉備国際大学「備中高梁学」研究会	参・ＩＳＢＮ１	9784860691967
参・書籍名２	SDGsとは何か	参・出版社名2	三和書籍
参・著者名2	安藤顯	参・ＩＳＢＮ2	9784862513984

授業科目名	地域貢献ボランティア 経社			担当者	雲津　英子、黒宮　亜希子、秀　真一郎、大西　正泰、竹岡　志朗、稲元　洋		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-KE-2-003		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜5限		
ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	
ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを 						
到達目標	【2月15日暫定版】 テーマ：多様な社会課題に関する知識を習得し、その課題解決のプロセスを経験する。 到達目標： ①現代社会が抱える多様な課題を、経営学・社会学・教育学的な視点から分析出来るようになる。 ②課題解決に必要な理論・手法を習得する。 ③地域課題やSDGs目標との接点から、社会が抱える多様な課題を「我がこと」として捉えることが出来るようになる。 ④グループでの演習活動を通じ、多様な考え方やそれぞれの価値観の違いを知る。 ⑤学習成果の発表機会を通じ、プレゼンテーション力が身につく。						
授業概要	【2月15日暫定版】 既習の他の必修科目(人間力育成科目：きびこく学、SDGs概論、グローバルスタディーズ入門)で学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。 具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような方法であれば課題に対する解決が可能か検討を行う。 以上の能動的学習経験を通じて、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	【2月15日暫定版】 プレゼンテーション（60%）・ポートフォリオ内容（40%）　→　評価については検討中						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	提出されたポートフォリオにはそれぞれフィードバックを行う。 ポートフォリオは保管し、復習のために活用すること。						
履修条件・注意事項	留学生（N2合格者以外）については、原則、2年次以降に履修とする。理由としては、グループでのディスカッションや発表機会が多くあるためである。						

実務経験のある教員	該当する	内容	企業ならびに、保育・社会福祉分野における勤務、実務経験を有する教員らが担当を行う。
事前学習・事後学習とその時間	毎回発表機会が多くある。その準備のために2時間程度の予習・復習時間を要する。		
オフィスアワー	○曜日○限（　　研究室）		

授業計画		担当者
第１回	授業オリエンテーション	全教員
第２回	演習グループ、チームビルディング	黒宮・稲元
第３回	課題解決フレームワーク	大西・竹岡
第４回	データで知る社会 課題1　○○	黒宮・稲元
第５回	データで知る社会 課題２　○○	黒宮・稲元
第６回	データで知る社会 課題解決ワーク	黒宮・稲元
第７回	データで知る社会 成果発表	黒宮・稲元
第８回	ビジネス・ソーシャルビジネス分野 課題1　○○	大西・竹岡
第９回	ビジネス・ソーシャルビジネス分野 課題2　○○	大西・竹岡
第１０回	ビジネス・ソーシャルビジネス分野 課題解決ワーク	大西・竹岡
第１１回	ビジネス・ソーシャルビジネス分野 成果発表	大西・竹岡
第１２回	子ども・教育分野 課題1　○○	秀・雲津
第１３回	子ども・教育分野 課題2　○○	秀・雲津
第１４回	子ども・教育分野 課題解決ワーク	秀・雲津
第１５回	子ども・教育分野 成果発表	秀・雲津
第１６回	学習成果ポートフォリオまとめ	秀・雲津

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	検討中	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	キャリア開発Ⅰ 経社			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CG-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	8．働きがいも経済成長も
到達目標	【テーマ】 キャリアとは、生涯にわたる様々な立場や役割における自己と働くこととの関係づけや価値づけで、人生そのものである。そして、キャリアデザインとは、卒業後の将来を見据えて自らの生き方・働き方を考え、計画することである。大学生活を充実させ、社会で生きていくためには、自立的・主体的に考えて行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。そのためには、社会が求める人間像（自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力）について考え、自分自身を知り目標をもって実行していくことが必要である。 この科目では、社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画（キャリアデザイン）し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につける。 【到達目標】 ①自分自身を知り、社会を知ることで、自らの将来をイメージしながら、社会に出て働く意味や自分の目標を明確化できる。 ②その目標や社会的自立に向けて、自身のキャリアをデザインし、大学生活をどのように過ごすか考え、実践できる。 ③社会人としての基礎力であるコミュニケーション能力、社会人意識、職業選択能力を向上させる。
授業概要	授業は、合同授業と学科別授業で構成されている。 合同授業では、キャリアとは何か、キャリアをデザインするとはどのようなことか、大学生活における心身の健康やキャリア実践活動、一般的学力（自己理解）について講義や演習を行う。 また、マイステップを使用する「キャリアデザインノート」の意義や作成方法についても説明し、個人の記録として卒業まで活用していく。 授業全体を通して、「自分を知る」「社会を知る」「社会とつながる」「生き方を考える（大学生活を含む）」「働き方を考える」という5つのテーマで構成し、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入、グループワークやディスカッションといった演習活動を行って自分の人生を考えることができるようにする。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業時間内の活動や発言（30%）、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入（30%）、基礎学習（kiuiドリル）実施状況（20%）、最終試験あるいはレポート（20%）で評価する。

ルーブリック評価			
課題や試験のフィードバック方法	ワークシートやキャリアデザインノートの記入内容については、授業内でフィードバックする。		
履修条件・注意事項	毎回、資料やプリントを配布する。 配付されたファイルを持参して保管すること。		
実務経験のある教員	該当する	内容	第2回、5回、14回は、キャリア形成や就職支援の実務経験のある外部講師を招き、キャリアデザインの基礎となる自己理解の演習を行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、授業内で配布された資料や参考図書を読んでおく。 事後学習として、授業内で配布された資料を読み、次回までの課題が提示された回はその課題に取り組む。 随時、自身のキャリア実践やプランについて「キャリアデザインノート」に記載していく。 各２時間の学修時間を目安とする。		
オフィスアワー	・月曜日4限　個人研究室（14615） ・月曜日2限　キャリアサポートセンターにおいてキャリアに関する相談に応じる		

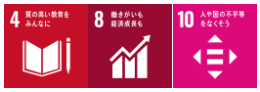
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・キャリアとは何か	黒宮・（藤原）
第２回	自分を知る・社会を知る：興味検査（VPI）or適正検査（GATB）	外部講師：マイナビ
第３回	自分を知る・生き方を考える：メンタルヘルス	森信
第４回	生き方を考える：キャリアデザインとは何か、大学生活の意義	藤原
第５回	自分を知る：基礎学力（1回目）、大学生活の基礎	外部講師（ラインズ・マイナビ）
第６回	社会とつながる：対人コミュニケーション	黒宮
第７回	社会を知る・つながる：キャリア実践となる課外活動	藤原・外部講師（ボランティアセンター）
第８回	自分を知る・社会を知る：社会人基礎力	黒宮
第９回	自分を知る：自分の強みと弱み	黒宮
第１０回	社会とつながる：対人関係力	黒宮
第１１回	生き方を考える：これまでの振り返りとライフプラン	黒宮
第１２回	社会を知る・働き方を考える：学科の専門性や資格を活かす仕事	黒宮
第１３回	社会を知る・働き方を考える：興味関心や能力を活かす仕事	黒宮
第１４回	自分を知る：基礎学力（２回目）、将来に向けて	外部講師：ラインズ・マイナビ
第１５回	まとめ：キャリアデザインノートの作成	黒宮
第１６回	試験（レポート：キャリアデザインノートの提出）	黒宮

教科書			
教・書籍名１	教科書は指定しない。毎回、資料やワークシートを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	マイキャリアノートⅠベーシック	参・出版社名１	ベネッセiキャリア
参・著者名１	ベネッセiキャリア	参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	キャリア開発Ⅰ 留学生（経社）			担当者	小田　淳子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CG-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう 
到達目標	【テーマ】社会的自立と職業的自立にむけて、自らの生き方・働き方を計画（キャリアデザイン）し実行できるようになるため、日本での生活や大学生活に必要な知識やスキルを身につける。 【到達目標】キャリアとは、生涯にわたる様々な立場や役割における自己と働くこととの関係づけや価値づけで、人生そのものである。そして、キャリアデザインとは、卒業後の将来を見据えて自らの生き方・働き方を考え、計画することである。留学生が大学生活を充実させ、日本の社会で生きていくためには、自立的・主体的に考えて行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。そのためには、社会が求める人間像（自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力）を学びながら、自分自身を知り具体的な目標をもって実行していくことが必要である。到達目標として、以下の3点を設定する。 ①日本の社会や地域で生活するために必要な知識やマナーを身につけるとともに、日本の法制度等を理解できる ②自分自身を知り、社会を知ることで自らの将来をイメージし、自身のキャリアをデザインして、大学生活をどのように過ごすか考え実践できる。 ③社会人としての基礎力であるコミュニケーション能力、文章理解力を向上させる。
授業概要	授業は、合同授業と学科別授業で構成されている。 　合同授業では、キャリアとは何か、日本の法律や生活習慣、地域で円滑に生活するために必要な基礎知識について講義を行う。また、マイステップを使用する「キャリアデザインノート」の意義や作成方法についても説明し、個人の記録として卒業まで活用していく。 　学科別授業では，「自分を知る」「社会を知る」「社会とつながる」「生き方を考える（大学生活を含む）」「働き方を考える」という5つのテーマで構成し、ワークシートや課題プリントへの記入、グループワークやディスカッションによる演習活動を行い，コミュニケーション能力や社会人基礎力を高めることができるようにする。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業時間内の活動（20%）、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入（30%）、課題プリント（30%）、レポート（20%）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	ワークシートやキャリアデザインノートの記入内容、課題プリントについては、授業内でフィードバックする。講義後に，毎回内容を見直すこと。
履修条件・注意事項	大幅な遅刻や無断欠席は講義の進行や評価に影響するので，注意すること。病気等不調でやむを得ない場合，必ず事前に連絡を入れること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，キャリアデザインの実務に携わる外部講師を招いて，必要な知識と能力について解説し，学制の理解を深める。

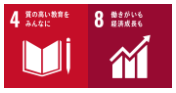
事前学習・事後学習とその時間	予習：合同授業後のテーマは，学科担当の初回講義で説明する。授業は事前学習等を行って臨むこと。 復習：毎回講義資料（プリント等）を作成・配布するので，事後学習を行って復習で必ず完結すること。 予習、復習には各2時間程度が必要である。
オフィスアワー	講義後の時間に適宜，受付ける。 Teamsのチャット機能を利用して，疑問点を提出すること。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション：キャリアとは何か，授業の進め方	CSC，外部講師
第２回	社会を知る１：日本の法律に関する基礎知識、地域での生活や大学生活で気をつけること等	CSC，外部講師
第３回	社会を知る２：地域における生活ルール、日本での生活に必要な知識とマナー	CSC，外部講師
第４回	社会を知る３：キャリアデザインの進め方，キャリアデザインノートの作成	CSC，外部講師
第５回	日本語を知る：日本の挨拶，生活習慣，食べ物	小田
第６回	日本語能力：コミュニケーション（挨拶・会話・マナー）の向上	小田
第７回	日本語能力：自己紹介シートの作成と発表（ワーク，ディスカッション）	小田
第８回	キャリア実践（ボランティア・アルバイト等）の紹介・注意点、キャリアデザインノートの確認	CSC
第９回	日本語能力：日常生活における会話力と聴解力をみがく（ワーク）	小田
第１０回	日本語能力：短文～長文の読み取りと問題理解	小田
第１１回	日本語能力：対人関係と会話力のチェック（ワーク）	小田
第１２回	自己理解力：自分の強みと弱みを知る、強みの活かし方	小田
第１３回	自己理解力：自分の興味（好きなもの）、いろいろな生き方	小田
第１４回	社会を知る：色々な働き方について（就職事情）	小田
第１５回	まとめ：キャリアデザインノートの作成、次年度の目標設定	小田
第１６回	レポート（キャリアデザインノートの提出）	小田

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	ストーリーと活動で自然に学ぶ日本語　いつかどこかで	参・出版社名１	(株)スリーエーネットワーク
参・著者名１	萩原一彦	参・ＩＳＢＮ１	9784883194629
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	キャリア開発Ⅱ 経社			担当者	大西　正泰		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護3年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学3年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業3年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化3年			ナンバリング	GE-CG-3-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も 
到達目標	【テーマ】自分に適した職業進路を具体的に選択し、就活のため、具体的能力を発揮できるようにする。 【到達目標】自分に適した職業進路を選択することができる．就職活動ができる能力を身につける。 選択した進路および社会が求める人間像について考え，身につけておくべき自主性や責任感、社会人としての一般常識や教養、 分別、協調性やコミュニケーション力を再確認し実質的なものにすることができる。
授業概要	合同授業日と各学科の授業日とで授業は構成されている。 14回の合同授業は、就職活動を行うために身につけておくべき内容から構成されている。 ＊この科目は、実務経験のある外部講師を招きキャリア形成に関する知識や能力を講義し、学生の理解を深める。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	合同授業、学科ごと授業中に求める課題（６０％）、ポートフォリオ作成（４０％）。 課題については採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	・感想レポートについては、Teamsで管理し、フィードバックする。 ・エントリーシート攻略テストの結果をもとに、フォロー講座を行う。
履修条件・注意事項	・初回の授業で授業計画を説明するので、休まないこと。 ・合同授業日と各学科授業日で教室が異なるので、教室を間違わないように留意すること。 ・授業態度及び毎回提出するレポートが評価の基準となるので、欠席しないこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、実務経験のある外部講師を招きキャリア形成に関する知識や能力を講義し、学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	・配布したキャリアハンドブックを読んでから授業に出席すること。 ・提出物は復習の上で、期日までに完成させ、必ず提出することが求められる。 ・予習および復習には各2時間程度を要する。 ・インターンシップ、合同説明会に参加し自分ノートに記載。5w1Hを実行する ・キャリアサポートセンタを活用し履歴書、エントリーシートの添削を受ける。
オフィスアワー	研究室（14621号室）にて、水曜日５時限に実施

授業計画		担当者
第１回	就職活動準備情報収集/登録	大西正泰・外部講師

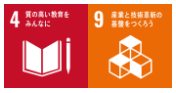
第２回	インターンシップの必要性・申し込み方	大西正泰・外部講師
第３回	自分の傾向を学ぶ	大西正泰・外部講師
第４回	自己分析・自己PR	大西正泰・外部講師
第５回	エントリーとは・エントリーシート攻略	大西正泰・外部講師
第６回	乗り遅れるなWEB就活	大西正泰・外部講師
第７回	業界・職種を理解する	大西正泰・外部講師
第８回	業界研究・職業教育	大西正泰・外部講師
第９回	SPI(筆記試験)対策	大西正泰・外部講師
第１０回	労働関係法規	大西正泰・外部講師
第１１回	社会人に必要なマナー	大西正泰・外部講師
第１２回	エントリーシート攻略フォロー・自分を振り返る	大西正泰・外部講師
第１３回	履歴書の書き方・応募書類の出し方	大西正泰・外部講師
第１４回	面接対策・GD/集団/個人/WEB	大西正泰・外部講師
第１５回	まとめ　内定お礼・内定辞退　お詫び	大西正泰・外部講師
第１６回	試験	大西正泰

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック	参・出版社名１	日本能率協会マネジメントセンター
参・著者名１	小野田博之	参・ＩＳＢＮ１	4-8207-4302-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理Ⅰ 経社A			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-IT-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう 
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30％の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30％、試験の成績を40％として最終的に総合評価が行われる。これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること（受講者数はパソコン教室の定員以内とする）。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。

オフィスアワー	月曜日3限		
授業計画			担当者
第１回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）		竹岡
第２回	パソコンのハードウェアと周辺機器		竹岡
第３回	デジタルデータのしくみ（ビット/バイト・標本化・コード）		竹岡
第４回	OSとアプリケーション		竹岡
第５回	ファイルシステム操作		竹岡
第６回	文書作成（ワープロソフト）操作		竹岡
第７回	文書作成（ワープロソフト）課題		竹岡
第８回	表計算ソフト操作		竹岡
第９回	表計算ソフト課題		竹岡
第１０回	プレゼンテーションソフト操作		竹岡
第１１回	プレゼンテーションソフト課題		竹岡
第１２回	ネットワークとインターネット		竹岡
第１３回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ		竹岡
第１４回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決		竹岡
第１５回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑		竹岡
第１６回	単位認定試験		竹岡
教科書			
教・書籍名１	情報リテラシー 入門編 Windows 11 / Office 2021対応（FPT2117）	教・出版社名１	FOM出版
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	978-4-938927-54-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理Ⅰ 経社C			担当者	大谷　卓史		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-IT-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30%、試験の成績を40%として最終的に総合評価が行われる。これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。
ルーブリック評価	ダミー /uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。

実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、前職で企業のIT部門（システム管理部門）に従事し、パソコンと汎用コンピュータと電話回線を組み合わせた比較的規模の大きい基幹システムから、パソコンによる段ボール箱設計と段ボール箱へのデザインを作るDTPシステムまでを開発運用した経験を持つ。その他データウェアハウスによるOLAPの運用経験を持つほか、労働省（当時）が全国

			で運営するコンピュータカレッジの中の一校においてCGコースを２年間担当した経験を持つ。
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。		
オフィスアワー	春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室） 秋学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室） 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。		

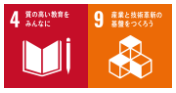
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）	大谷卓史
第２回	パソコンのハードウェアと周辺機器	大谷卓史
第３回	デジタルデータのしくみ（ビット/バイト・標本化・コード）	大谷卓史
第４回	OSとアプリケーション	大谷卓史
第５回	ファイルシステム操作	大谷卓史
第６回	文書作成（ワープロソフト）操作	大谷卓史
第７回	文書作成（ワープロソフト）課題	大谷卓史
第８回	表計算ソフト操作	大谷卓史
第９回	表計算ソフト課題	大谷卓史
第１０回	プレゼンテーションソフト操作	大谷卓史
第１１回	プレゼンテーションソフト課題	大谷卓史
第１２回	ネットワークとインターネット	大谷卓史
第１３回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ	大谷卓史
第１４回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決	大谷卓史
第１５回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑	大谷卓史
第１６回	単位認定試験	大谷卓史

教科書			
教・書籍名１	情報リテラシー　入門編＜改訂版＞FPT1716	教・出版社名１	FOM出版
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	978-4-86510-345-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理Ⅰ 経社B			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-IT-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう 
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30%、試験の成績を40%として最終的に総合評価が行われる。これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること（受講者数はパソコン教室の定員以内とする）。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：担当教員は、前職で企業のIT部門（システム管理部門）に従事し、パソコンと汎用コンピュータと電話回線を組み合わせた比較的規模の大きい基幹システムから、パソコンによる段ボール箱設計と段ボール箱へのデザインを作るDTPシステムまでを開発運用した経験を持つ。その他データウェアハウスによるOLAPの運用経験を持つほか、労働省（当時）が全国で運営するコンピュータカレッジの中の一校においてCGコースを２年間担当した経験を持つ。
事前学習・事後学習とそ	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で

の時間	講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。
オフィスアワー	春学期： 月曜日２時限目

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）	秀
第２回	パソコンのハードウェアと周辺機器	秀
第３回	デジタルデータのしくみ（ビット/バイト・標本化・コード）	秀
第４回	OSとアプリケーション	秀
第５回	ファイルシステム操作	秀
第６回	文書作成（ワープロソフト）操作	秀
第７回	文書作成（ワープロソフト）課題	秀
第８回	表計算ソフト操作	秀
第９回	表計算ソフト課題	秀
第１０回	プレゼンテーションソフト操作	秀
第１１回	プレゼンテーションソフト課題	秀
第１２回	ネットワークとインターネット	秀
第１３回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ	秀
第１４回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決	秀
第１５回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑	秀
第１６回	単位認定試験	秀

教科書			
教・書籍名１	情報リテラシー　入門編　Windows 11／Office 2021対応	教・出版社名１	FOM出版
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	978-4-938927-54-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理 II			担当者	佐藤　匡		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものである。 到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。 （数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム ～ データ思考の涵養～ 2020年４月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 2枚目）
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50%、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20%として最終的に総合評価が行われる。　これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	受講者数は、30人以内とする。そのため抽選となることがある。 抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第１回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。

実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員が理事を務めているNPO全国要約筆記問題研究会（会員数約1,300人）では、全国の自治体に対して要約筆記者養成の現状調査を行っている。また、パソコン要約筆記全体投影の読みやすさについて、首都圏の聴覚障がい者にアンケートや読みやすさの調査を行っている。その分析では本講義のデータサイエンスの知識が活用されている。
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。		
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日３時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日４時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日２時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日３時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	佐藤 匡
第２回	ビッグデータと社会の変化	佐藤 匡
第３回	社会で活用されているデータ	佐藤 匡
第４回	データ・AIの活用領域の広がり	佐藤 匡
第５回	データ・AIの技術	佐藤 匡
第６回	データサイエンス	佐藤 匡
第７回	データ・AIを活用するときの負の側面	佐藤 匡
第８回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（考え方）	佐藤 匡
第９回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（事例）	佐藤 匡
第１０回	AIとアルゴリズム	佐藤 匡
第１１回	データの構造とプログラミング	佐藤 匡
第１２回	データの利活用方法	佐藤 匡
第１３回	時系列データと文章データの分析例	佐藤 匡
第１４回	教師あり学習と教師なし学習	佐藤 匡
第１５回	データ・AI利活用における留意事項	佐藤 匡
第１６回	まとめと筆記試験・評価	佐藤 匡

教科書			
教・書籍名１	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名１	技術評論社
教・著者名１	岡嶋裕史、吉田雅裕 著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-297-12038-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理 II			担当者	大谷　卓史		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	仮想的な事例や現実の事例を通じて、情報セキュリティと情報倫理学の基本的な考え方を学ぶ。 到達目標は、学生が次の３つのことができるようになることである。 １．情報社会において、情報セキュリティにまつわる危険やリスクを理解し、トラブルを事前に回避できるようになる。 ２．万が一トラブルに巻き込まれた場合でも、人々の力を借りたとしても合理的な社会的・個人的コストで解決できるようになる。 ３．情報倫理学の基本的な思考を身につけることで、情報社会においてどのような倫理的問題が生じえるか理解できるようになる。 なお、本講義のラーニングアウトカムズは「情報リテラシー」と「問題解決能力」である。
授業概要	現代における情報セキュリティと情報倫理にかかわる諸問題について、仮想的事例や現実の事例から学ぶ。情報技術だけでなく、法律や経済・ビジネス、情報倫理などにかかわる知識や考え方を身につける。 主要なキーワードは次のとおりである。 電子掲示板やtwitterなどでのトラブル、フィッシング、ワンクリック詐欺、電子メールの成りすまし、プライバシー、匿名性、著作権、など。 講義の最終回に全体のまとめをおこなう。 毎回簡単な課題提出を求める。内容は自分の意見であれば自由で採点には関係がないが、授業内容を理解したうえでの意見であるかどうかなどを課題で確認する。課題に対しては、次回以降授業担当者から返答を行う。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義内における自主的な質問・発言やディスカッションへの積極的な参加態度、講義内容にかかわる教員からの質問への回答を30%の重みづけで評価する（受講態度）。また、課題等の提出物10%、試験の成績を60%として最終的に総合評価を行う。これらの３つの評価をバランスよく得ていることを単位認定（到達目標）の判断基準とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業課題に関しては、次回授業でコメントシート（シャトルカード）や、授業内での言及・コメントなどによって（原則課題回答者名は匿名）、フィードバックする。
履修条件・注意事項	授業に積極的に取り組む姿勢が単位取得には必要です。 講義形式ですが、授業中に受講者に対して質問をします。また、授業の最後には、授業内容に関連した課題を出しますので、解答してください。解答に対しては、次回以降の授業でコメントや解説をします。 原則として情報処理Iの単位を取得した学生を対象とします。 授業計画の内容は、理解度の状況に応じて変更になることがあります。
実務経験のある教員	該当しない　内容

事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対して、次のように予習・復習を十分におこなうこと。 予習：次回内容に対応する章の「重要ポイント」および「考えよう」を読み、本文を読んでくること。約2時間。 復習：授業内容に対応する章の「まとめ」をもとにノートを整理し、「練習問題」に取り組むこと。約2時間。
オフィスアワー	春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室） 秋学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室）

授業計画		担当者
第１回	イントロダクション	大谷
第２回	なぜ情報倫理が必要なのか	大谷
第３回	倫理とは何だろうか（１）倫理・法・慣習	大谷
第４回	倫理とは何だろうか（１）基本的な用語と枠組み	大谷
第５回	コンピューティングの歴史　コンピュータの誕生からパソコンの登場まで	大谷
第６回	コンピューティングの歴史　インターネット出現からIoT時代まで	大谷
第７回	身近な情報セキュリティ	大谷
第８回	メールやメッセージングアプリのセキュリティ	大谷
第９回	著作権の基礎	大谷
第１０回	レポート作成の倫理問題	大谷
第１１回	「漫画サイトが見られない」	大谷
第１２回	個人情報保護法の基礎知識	大谷
第１３回	ポイントカードと個人情報	大谷
第１４回	情報時代のプライバシー	大谷
第１５回	まとめ	大谷
第１６回	筆記試験（オンライン試験も検討中）	大谷

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	改訂新版　情報倫理入門	参・出版社名１	アイケイコーポレーション
参・著者名１	土屋俊監修、大谷卓史編著、江口聡、喜多千草、永崎研宣、村上祐子、坪井雅史、川口嘉奈子、吉永敦征、川口由起子著	参・ＩＳＢＮ１	4874923240
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	情報処理 II			担当者	今村　俊介		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	膨大なデータを適切に処理することが様々な分野で求められていることを理解し、基本的なデータに対する知識、および、データの扱い方を学習する。 ・なぜデータサイエンスを学ぶのか、社会でどのように活用されているのかを知る。 ・データの処理、集計、可視化、分析を行うためのデータサイエンスの基礎的事項を学習する。 ・社会における事象を適切に捉え、分析・説明できる力を修得する。 ・データが重要視されるようになった社会背景を理解する。 ・データとは何かを説明できる。 ・データの基本的な分析手法を理解する。 ・データサイエンティストに求められるスキルを理解する。
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。 この時代においては、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することがこれからをよりよく生きる上で求められている。 さらに、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見、および、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。 この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶことを目的とする。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。 後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」リテラシーレベルの導入・基礎・心得分野
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習・復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。 それに対する返答、 あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が「30%」の重みづけで評価される。 また、課題等の提出物「50%」、 データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を「20%」として最終的に総合評価が行われる。

	これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定(到達目標)の判断基準となる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	【受講者数】 ・学部で30人以内とする。そのため抽選となることがある。 ・抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 【持参物】 ・指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 ・ 第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト【これは、学科によって実施・非実施をきめられますか？】未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがある ので十分注意すること。 【授業計画】 進捗の状況に応じて変更することがある。

実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、情報系科目の講義担当経験、ならびに、研究活動への使用経験を有している。

事前学習・事後学習とその時間	【予習】 ・各回の講義に先立ち、予習として教科書の該当箇所を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。 【復習】 ・復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 【全体】 ・授業の進度と同程度の予習量・復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 ・予習・復習の確認については、課題やタスクにおいて知識・技術の使用が求められ、その達成度ならびに積極的な参加態度が成績評価として考慮される。
オフィスアワー	・講義終了時間の直後 ・事前に学生と教員で相談して決めた時間帯

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	今村
第２回	ビッグデータと社会の変化	今村
第３回	社会で活用されているデータ1	今村
第４回	社会で活用されているデータ2	今村
第５回	データ・AIの技術	今村
第６回	データサイエンス	今村
第７回	データ・AIを活用するときの負の側面	今村
第８回	データ・AIにまつわるセキュリティ1	今村
第９回	データ・AIにまつわるセキュリティ2	今村
第１０回	AIとアルゴリズム	今村
第１１回	データの構造とプログラミング	今村
第１２回	データの利活用方法	今村
第１３回	時系列データと文章データの分析例	今村
第１４回	教師あり学習と教師なし学習	今村
第１５回	データ・AI利活用における留意事項	今村
第１６回	まとめと試験・評価	今村

教科書			
教・書籍名１	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名１	技術評論社

教・著者名１	岡嶋裕史，吉田雅裕　著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-297-12038-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語Ⅰ 経社			担当者	嶋村　優枝		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えるようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の５０％で査定し評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて１６回行いますが、１５回目に試験を行い、最後の１６回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかり行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従って下さい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日１０分でもよいので次の週までに合計６０～９０分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないとのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日１０分でよいので毎日自分で声に出して英文を読む習慣をつけてください。
オフィスアワー	金曜日１限の授業前と授業後

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　春学期の授業に関しての大雑把な説明と２回目の授業のさわり	嶋村優枝
第２回	Profile　自分を知ろう　BE動詞	嶋村優枝
第３回	Sports　多彩だね、スポーツの世界　一般動詞：自動詞・他動詞	嶋村優枝
第４回	Special Occasions　特別な日は誰に何をしてあげる？　二重目的語、目的語をとる動詞	嶋村優枝
第５回	Families　家族を知ろう　人称代名詞	嶋村優枝
第６回	Japan Quiz　　日本クイズに挑戦　WH疑問文	嶋村優枝

第７回	Love and Marriage　恋愛はいつの時代も人々の関心事？　過去形	嶋村優枝
第８回	Life History　今までの自分を語ろう　現在完了形　継続	嶋村優枝
第９回	Leisure　自分の経験を語ろう　現在完了形　経験・完了	嶋村優枝
第１０回	College Life　学生生活を楽しもう　進行形	嶋村優枝
第１１回	On Vacation　休暇の計画をたてよう　未来表現	嶋村優枝
第１２回	Out and About　自分の気持ちを上手に伝えるには　助動詞　CAN,MAY	嶋村優枝
第１３回	春学期の総復習（１）　BE動詞　一般動詞　人称代名詞　疑問	嶋村優枝
第１４回	春学期の総復習（２）　現在完了形　進行形　助動詞	嶋村優枝
第１５回	春学期の試験	嶋村優枝
第１６回	春学期の総復習、フィードバック	嶋村優枝

教科書			
教・書籍名１	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー　Living Grammar	教・出版社名１	成美堂　SEIBIDO
教・著者名１	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語Ⅱ 経営社会			担当者	嶋村　優枝		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LE-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えるようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の５０％で査定し評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて１６回行いますが、１５回目に試験を行い、最後の１６回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかり行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従って下さい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日１０分でもよいので次の週までに合計６０～９０分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないとのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日１０分でよいので毎日自分で声に出して英文を読む習慣をつけてください。
オフィスアワー	金曜日２限の授業前と授業後

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　秋学期の授業に関しての大雑把な説明と２回目の授業のさわり	嶋村優枝
第２回	Rules　しきたりは難しい　助動詞 must should	嶋村優枝
第３回	Folk Tales　昔話に思わぬ教訓を発見　　接続詞　and but or so	嶋村優枝
第４回	News & Events　ニュースに敏感になろう　受動態	嶋村優枝
第５回	Amazing Animals 動物の世界は驚きでいっぱい　頻度を表す副詞	嶋村優枝
第６回	Feelings 人間は感情の生き物だね　　ing edで終わる形容詞	嶋村優枝

第７回	World Quiz 世界クイズに挑戦　　原級　比較級　最上級	嶋村優枝
第８回	Business この大企業の創始者は？　　基本的な前置詞 at on in	嶋村優枝
第９回	Environment 環境問題を解決するには？　接続詞(2) when because although if	嶋村優枝
第１０回	Old Sayings ことわざは面白い　　不定詞と動名詞	嶋村優枝
第１１回	Professions 将来の職業について考えよう　関係詞　who which where	嶋村優枝
第１２回	What If？ 仮定の話は途方もない　　仮定法	嶋村優枝
第１３回	秋学期の総復習（１）　接続詞　受動態　比較級　基本的な前置詞	嶋村優枝
第１４回	秋学期の総復習（２）　不定詞と動名詞　関係詞　仮定法	嶋村優枝
第１５回	秋学期の試験	嶋村優枝
第１６回	秋学期の総復習、フィードバック	嶋村優枝

教科書			
教・書籍名１	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー　Living Grammar	教・出版社名１	成美堂　SEIBIDO
教・著者名１	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語III			担当者	平見　勇雄		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LE-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	この授業はテキストの予習をしっかりやれば学生は高校以上の難易度の長い文章が読むことができるようになります。基本的な文法の復習や語彙に加えて読解力をつけることを目標にしています。また、全文のテキストのテープを聞く、訳を自分でしてもらうことで自分の実力を客観的に把握できるような授業を行います。教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力がつくよう各自の予習も必須です。英会話の中級に近い程度の会話ができるようになります。
授業概要	教材はビートルズの物語を扱います。メンバーの生い立ちからグループの解散まで、テンポよく流れていく物語を楽しみながら次の授業が楽しみになるよう、内容を取りながら進めていきます。物語はスターとしての側面よりは人間的な側面に焦点が当たっており、人生における挫折が多く書かれています。自分たちと変わらない年齢の若者が、国籍、時代を問わず、同じように経験する出来事を自らの人生と重ねながら読んでもらいたいと願っています。 　時々プリントに合わせて公式に発売されているメンバーの肉声のインタビューを聞きながら、物語に幅をもたせ、いろいろな角度からその人生を眺めます。なぜビートルズが時代を問わず愛されているのか、他のグループとは一線を画す存在なのかも考えていただきたいと思います。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業態度50%、授業での発表20%、そして試験30%を総合して評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	１６回目に筆記試験をやり、そのあと試験問題の解説をします。大切な文法事項、読解の難しいところなどが中心です。
履修条件・注意事項	必ず予習すること、その際に配布するプリントを丹念に辞書を引き、大意をつかんでから授業に臨んで下さい。わからない文法は授業の中で自分から説明を求めるくらいの積極的態度を希望します。参考書や辞書は必ず使って授業に臨んでもらうことを前提とします。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業前に必ず自分で訳をしてきて下さい。辞書を引いて文型を確認しながら前後の文章とのつながりも考えながら２時間程度の予習が理想です。復習としてはこれも２時間、実力に応じて授業で渡すCD-Rを使ってシャドウイングをしながら耳と会話を鍛えることをお勧めします。
オフィスアワー	水曜日の３限　研究室にて（２号館６F）

授業計画	担当者

第１回	リバプール	平見勇雄
第２回	メンバーの生い立ち　ジョンレノン	平見勇雄
第３回	ポールマッカートニーの生い立ち	平見勇雄
第４回	ジョージハリソンの生い立ちとメンバー加入	平見勇雄
第５回	メンバー交代　リンゴスター	平見勇雄
第６回	1960年デッカオーディション	平見勇雄
第７回	1962年ビートルズデビュー	平見勇雄
第８回	1964年ビートルマニア	平見勇雄
第９回	エドサリバンショー　アメリカ進出	平見勇雄
第１０回	オーストラリアや各国の状況	平見勇雄
第１１回	映画ア・ハード・ディズ・ナイト	平見勇雄
第１２回	映画とサントラ　ヘルプ	平見勇雄
第１３回	世界制覇	平見勇雄
第１４回	アルバム　ラバーソール	平見勇雄
第１５回	アルバム　リボルバー　日本公演	平見勇雄
第１６回	筆記試験	平見勇雄

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布いたします。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	英語Ⅳ			担当者	平見　勇雄		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LE-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	この授業ではしっかり予習と復習を行うことで学生は大学初級程度のテキストの長文が読めるようになります。文法の復習は英語ⅠとⅡで既に行っており、春期はそれを前提に内容把握に焦点を当てていましたが、秋期は読解のスピードが上がることを目標としています。教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力をつけてもらうことも一年を通して目標としていますが、後期はテープを聴いてもらい大意が把握できるような練習をすることで、より総合的に力をつけることを目標としています。
授業概要	教材はビートルズの物語です。秋期は中期と呼ばれている時期の傑作アルバムの創作からグループの解散までを取扱います。スターとしての側面よりは人間的な側面に焦点が当たっており、春期と違った人間関係における難しさが多く書かれています。成長していくことによってより個性が明確になり、環境の変化が人間関係を悪化させていく詳細を読み込んでいきます。英語の面ではテープを聞いていただきながら内容の把握をしてもらうことをやります。前期には行わなかった聴き取りをしてもらいますが、聴き取りに自信がない人はしっかりと事前に読み込んできてもらい、書いてもらっても構いません。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業態度50%、授業での発表20%、そして試験30%を総合して評価します。フィードバックは試験のあとに重要な要点をまとめたプリントを配布することで行いたいと思います。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	単位認定の筆記試験は１６回目に行い、その日の後半に試験の解説を行います。文法的な面と、読解で訳しにくい場所の解説を行います。
履修条件・注意事項	必ず予習すること、その際に配布するプリントを丹念に辞書を引き、大意をつかんでから授業に臨んで下さい。わからない文法は授業の中で自分から説明を求めるくらいの積極的態度を希望します。参考書や辞書は必ず使って授業に臨んでもらうことを前提とします。なお試験のあとに試験の解答を言います。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	基本的な文法事項は授業ではやらないので自分で弱いところは補っていくように参考書を使って勉強してください。毎回２～３ページ進む予定ですから訳を書いてくることが最低限の予習です（２時間程度の予習です）。授業を受けたあとは毎日授業で行ったところを声に出して読んで下さい。声に出すこと、毎日行うことが重要です。一日にたくさんやるのでは長続きしませんから一日１０～２０分程度で結構です。（したがって復習も時間としてはトータルとして２時間程度）
オフィスアワー	水曜日の３限、２号館６Fの研究室

授業計画	担当者

第１回	春学期の復習	平見勇雄
第２回	日本公演続き	平見勇雄
第３回	レコーディング革命	平見勇雄
第４回	アルバム　サージェントペパーズロンリーハーツクラブバンド	平見勇雄
第５回	世界同時衛星放送　「All you need is love」	平見勇雄
第６回	マネージャー　ブライアンエプスタインの死	平見勇雄
第７回	マジカルミステリーツアー	平見勇雄
第８回	インドでの生活　修行	平見勇雄
第９回	初の２枚組アルバム　通称ホワイトアルバム	平見勇雄
第１０回	ゲットバックプロジェクト	平見勇雄
第１１回	最後のレコーディング　アビーロード	平見勇雄
第１２回	映画とサントラ　レットイットビー	平見勇雄
第１３回	解散後の４人　ジョンレノン	平見勇雄
第１４回	解散後の４人　ポールマッカートニー	平見勇雄
第１５回	解散後の４人　ジョージハリソンとリンゴスター	平見勇雄
第１６回	筆記試験	平見勇雄

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布します。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	フランス語Ⅰ			担当者	加藤　健次		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LF-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、かんたんなフランス語を話す」 到達目標：学生はフランスの文化について教養として語れるようになる。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行したときなどに、あいさつやかんたんな会話ができるようになる。
授業概要	この講義は、一方向のレクチャーではなく、参加型双方向の授業で、フランス語のスキル習得のため、できるだけ大きな声を出して繰り返し発音することが求められる。フランス語の音節を正しく発音するための方法を知り、綴り字を正しく読むための理論と基礎文法を理解し、初歩的かつ日常的なフランス語会話に必要な語彙と例文を、フランスの歴史・地理・文化のなかから代表的なものを繰り返し発音して、暗唱できるようにする。初心者対象で、ABCと発音／つづり字の読み方から始められ、名詞・形容詞の性・数や冠詞などの基本文法が文化を学ぶなかで理解できるよう説明される。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることか ら、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（６０％）、単位認定試験（４０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各２時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各２時間の学修時間を目安とする。
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

授業計画		担当者
第１回	スポーツ①ツール・ド・フランス	加藤健次
第２回	映画①ヌーヴェル・ヴァーグから最強の二人まで	加藤健次

第３回	音楽①サガンとブラームスはお好き？	加藤健次
第４回	建築①ロマネスク様式	加藤健次
第５回	食①パン	加藤健次
第６回	旅①ブルターニュとモンサンミシェル	加藤健次
第７回	歴史①マリーアントワネット	加藤健次
第８回	スポーツ②その他の自転車ロードレースとル・マン24時間耐久レース	加藤健次
第９回	美術②ピカソ、マチス、キュビズムと現代アート	加藤健次
第１０回	音楽②ピアフとシャンソンの世界	加藤健次
第１１回	建築②ゴシック様式	加藤健次
第１２回	食②お菓子とショコラ	加藤健次
第１３回	旅②ロワール川と城	加藤健次
第１４回	文学①詩：ボードレールからコクトーまで	加藤健次
第１５回	旅③ブルゴーニュとヴェズレー教会	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	上垣 豊（編）	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4623087786 ISBN-13 ： 978-4623087785
参・書籍名２	ゼロからスタート　フランス語　会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ＩＳＢN2	ＩＳＢＮ１978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語Ⅱ			担当者	加藤　健次		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LF-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、日常的なフランス語を話すことができるようになる」 到達目標：学生はフランスの文化について理解する。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行した時などに、あいさつやその場に応じた会話ができるようになる。
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、フランス文化に関する練習問題をていねいに解いていく。フランス文化に関係した会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことでフランスに精通し、フランス語の語彙力や発話力を身につけよう。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることか ら、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（６０％）、単位認定試験（４０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各２時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各２時間の学修時間を目安とする。
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

授業計画		担当者
第１回	スポーツ③サッカー・リーグ・アン	加藤健次
第２回	美術③マグリットとシュールレアリスム	加藤健次
第３回	音楽③サティとミニマルミュージック	加藤健次

第４回	建築③ルネサンス・バロック様式	加藤健次
第５回	食③チーズ	加藤健次
第６回	旅④プロヴァンスとアルル	加藤健次
第７回	文学②文学②サンテグジュペリ『星の王子さま』	加藤健次
第８回	スポーツ④ペタンク	加藤健次
第９回	美術④スーラージュ、クラインに見る現代アート	加藤健次
第１０回	音楽④ジプシー音楽とジャズマヌーシュ	加藤健次
第１１回	食④ワイン	加藤健次
第１２回	旅⑤サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路	加藤健次
第１３回	哲学①デカルトと主体の哲学	加藤健次
第１４回	文学②文学③小説：ユゴーからル・クレジオまで	加藤健次
第１５回	食⑤Menuとコース料理	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	上垣 豊（編）	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4623087786 ISBN-13 ： 978-4623087785
参・書籍名２	ゼロからスタート　フランス語　会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ＩＳＢN2	ＩＳＢＮ１978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語III			担当者	加藤　健次		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LF-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランス語会話ができるようになる」 到達目標：学生はフランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を学ぶ。フランス語Ⅰ・Ⅱで練習した会話表現をさらに応用して、様々な日常的な場面で運用できるようになることを到達目標とする。
授業概要	1年で習った発音や綴り字の読み方の復習をしながら、語彙や表現を増やしていく。実際の場面を想像して、会話練習をする。文法的にもより踏み込んだ説明を読んでみる。教科書の練習問題をていねいに解いていく。教科書にある会話例文を正確に発音する。暗唱する。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その暗唱した例文を発表する。他の学生と会話する。これを繰り返すことでフランス語のコミュニケーション力を身につけることを目指す。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランス語会話ができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業での質問や発表等を通じて総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための試験を行って評価する。授業毎試験（30%）、授業への積極的な参加態度（20%）、単位認定試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	フランス語Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習復習には各2時間程度を要する。そのテーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。その成果は、各週の小テストと最終週の単位認定試験で問われる。
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

授業計画		担当者
第１回	あいさつ	加藤健次
第２回	発音	加藤健次
第３回	性と数	加藤健次
第４回	前置詞	加藤健次
第５回	規則動詞	加藤健次
第６回	形容詞	加藤健次

第７回	否定形	加藤健次
第８回	命令形	加藤健次
第９回	疑問形	加藤健次
第１０回	副詞	加藤健次
第１１回	疑問副詞	加藤健次
第１２回	疑問代名詞	加藤健次
第１３回	不規則動詞	加藤健次
第１４回	所有形容詞	加藤健次
第１５回	疑問形容詞	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１	新ゼロからスタートフランス語 文法編	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	島崎 貴則	教・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4901429620 ISBN-13 ： 978-4901429627
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	フランス語IV			担当者	加藤　健次		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LF-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランス語で会話を楽しむことができる」 到達目標：学生はフランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を学ぶ。フランス語技能検定5級に合格するレベルを到達目標とする。
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、検定問題も念頭に置いて教科書の練習問題をていねいに解いていく。教科書にある会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことで本気で語彙力や発話力を身につけ、検定試験に合格しよう
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランス語で会話を楽しむことができる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業での質問や発表等を通じて総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための試験を行って評価する。授業毎試験（30%）、授業への積極的な参加態度（20%）、単位認定試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していることが望ましい。毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習復習は各2時間程度行うこと。予習は、毎授業の終わりに「次週の暗唱例文」が課題として示されるので、これらがスムーズに発話できるようにしてくることである。復習は、そのテーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。復習の成果は、各週の小テストや最終週の単位認定試験で問われる
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

授業計画		担当者
第１回	動詞allerとvenirの活用	加藤健次
第２回	近接未来と近接過去	加藤健次
第３回	命令形、否定表現	加藤健次
第４回	疑問代名詞	加藤健次
第５回	疑問副詞	加藤健次
第６回	指示代名詞	加藤健次

第７回	関係代名詞	加藤健次
第８回	過去分詞	加藤健次
第９回	直説法複合過去	加藤健次
第１０回	補語人称代名詞の語順	加藤健次
第１１回	比較級と最上級	加藤健次
第１２回	非人称構文	加藤健次
第１３回	直説法半過去	加藤健次
第１４回	条件法現在	加藤健次
第１５回	関係副詞と文の構造	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１	新ゼロからスタートフランス語 文法編	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	島崎 貴則	教・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4901429620 ISBN-13 ： 978-4901429627
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ドイツ語Ⅰ			担当者	清水　光二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LG-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅰ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語を正しく発音するためのルールを知り、併せて動詞や名詞を中心とした基礎的な文法を段階的に習得することになる。
授業概要	この講義は、ドイツ語の初学者を対象にしている。春学期を通して学修する項目は、大体以下のような内容である。つづりと発音の関係、挨拶等の定型表現、自己紹介と他者紹介、辞書の案内と使い方、人称代名詞、規則動詞と不規則動詞の現在人称変化、名詞の性・数・格、前置詞、定冠詞、不定冠詞など。それに加え、定型的な日常口語表現を通して、コミュニケーションの初歩も学ぶ。なお、今回この授業で使うテキストはドイツ語の総合的な文法読本であり、ドイツの社会・文化・歴史などについても学ぶことができ、異質な文化や社会にたいする理解を深めることにもなる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえないことである。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　ドイツおよびドイツ語とは　アルファベット　ドイツ語の発音（母音）	清水光二
第２回	ドイツ語の発音（子音）　挨拶表現	清水光二
第３回	ドイツ語の発音（まとめ）　挨拶表現の復習	清水光二
第４回	Lektion 1　Was lernst du?　動詞の現在人称変化	清水光二

第５回	Lektion 1　Was lernst du?　定動詞第2位の原則　seinの現在人称変化	清水光二
第６回	Lektion 2　Hast du Geschwister?　名詞の性と格　定冠詞の格変化	清水光二
第７回	Lektion 2　Hast du Geschwister?　不定冠詞の格変化　habenの現在人称変化	清水光二
第８回	Lektion 3　Wann fährst du nach München?　不規則な現在人称変化	清水光二
第９回	Lektion 3　Wann fährst du nach München?　命令形	清水光二
第１０回	Lektion 4　Welche Uhr kaufst du?　定冠詞類	清水光二
第１１回	Lektion 4　Welche Uhr kaufst du?　不定冠詞類　所有冠詞	清水光二
第１２回	Lektion 5　Kaufst du diese Bücher?　複数形	清水光二
第１３回	Lektion 5　Kaufst du diese Bücher?　人称代名詞	清水光二
第１４回	Lektion 6　Was machst du an diesem Wochenende?　前置詞の格支配　2格支配／3格支配	清水光二
第１５回	Lektion 6　Was machst du an diesem Wochenende?　前置詞の格支配　4格支配／3・4格支配	清水光二
第１６回	筆記試験	清水光二

教科書			
教・書籍名１	パノラマ　初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	上野成利、本田雅也	教・ＩＳＢＮ１	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	文法からマスター!　はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10: 481635137X
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ドイツ語Ⅱ			担当者	清水　光二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LG-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、日常的な会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語の基礎的な文法を学びながら（英語との比較も行いつつ）、ドイツ語特有の語法を品詞別あるいは時制別に段階的に理解することになる。
授業概要	この講義は、「ドイツ語Ⅰ」を終了した学生を対象にしている。秋学期を通して学習する主な文法項目は、大体以下のようなものになっている。分離動詞・非分離動詞、接続詞、副文、再帰代名詞、再帰動詞、動詞の過去形と現在完了形、接続法など。文法事項については教師によって説明がなされるが、その後の練習問題や会話・読本部分については毎回学生の積極的な取り組みが求められる。そのためには、授業以外での予習や復習がどうしても必要となる。なお、今回この授業で使うテキストは総合的な文法読本であり、ドイツ語圏の習慣や日常といった文化一般、社会問題等にも触れながら楽しく初級ドイツ語を学べる内容となっている。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえないことである。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

授業計画		担当者
第１回	Lektion 7　Was liest du gren?　形容詞の格変化	清水光二
第２回	Lektion 8　Wohin willst du gehen?　話法の助動詞	清水光二
第３回	Lektion 8　Wohin willst du gehen?　未来形	清水光二
第４回	Lektion 9　Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt?　分離動詞	清水光二

第５回	Lektion 9　Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt?　接続詞と副文	清水光二
第６回	Lektion 10　Hast du vor, München zu besuchen?　zu不定詞	清水光二
第７回	Lektion 10　Hast du vor, München zu besuchen?　再帰代名詞	清水光二
第８回	Lektion 11　Als ich das Museum besuchte, …　動詞の３基本形	清水光二
第９回	Lektion 11　Als ich das Museum besuchte, …　過去形	清水光二
第１０回	Lektion 12　Hast du Weimar besucht?　現在完了形	清水光二
第１１回	Lektion 12　Hast du Weimar besucht?　非人称表現	清水光二
第１２回	Lektion 13　Es wird gesagt, dass …　受動態	清水光二
第１３回	Lektion 13　Es wird gesagt, dass …　比較表現	清水光二
第１４回	Lektion 14　Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast?　関係代名詞	清水光二
第１５回	Lektion 14　Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast?　不定関係代名詞	清水光二
第１６回	筆記試験	清水光二

教科書			
教・書籍名１	パノラマ　初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	上野成利、本田雅也	教・ＩＳＢＮ１	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	文法からマスター! はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	481635137X
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	ドイツ語III			担当者	清水　光二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LG-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、ドイツの歴史、文化、社会を多面的に学習することで、ドイツ語の背景にあるものについての理解を深めると同時に、初歩的レベルなら一人でも読み書きすることが出来るようになる。 個別目標としては、どのような場面でどのようなドイツ語表現が使われるかを一つひとつ理解し学修することで、実際に遭遇するであろう様々な場面に応用可能な表現や基本構文を身につける。
授業概要	ドイツ語Ⅰ・Ⅱで学んだ文法事項の確認を行いながら、ドイツ語の文章を読むことによって読解力や語彙力を着実に身につけることができる。 具体的には、ドイツ語圏の社会や文化の中から私たちの生活にも関係がありそうなトピックを話題にして、易しい文章から徐々にレベルアップしたものへと読み進めることにより、ドイツ語圏に関わる知識とドイツ語の理解力を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	この授業は、１年間で60時間のドイツ語学習を経験した者を対象としている。本校のカリキュラムで言えば、「ドイツ語Iとドイツ語IIを履修済みであること」（あるいは同等のレベル）が履修の前提となっている。 語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえない。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。 テキストの読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後における予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語の初学者には、教師が説明する文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業ではその準備の成果を発表することが個々に求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

授業計画		担当者
第１回	Lektion 0　自己紹介	清水光二
第２回	Lektion 0　挨拶　動詞の現在人称変化	清水光二

第３回	Lektion 1 地理と天候	清水光二
第４回	Lektion 1 冠詞（類）の格変化	清水光二
第５回	Lektion 2　食生活	清水光二
第６回	Lektion 2　前置詞の格変化	清水光二
第７回	Lektion 3 ドイツ語という言語	清水光二
第８回	Lektion 3 名詞の複数形	清水光二
第９回	Lektion 4　ドイツの大学	清水光二
第１０回	Lektion 4　話法の助動詞	清水光二
第１１回	Lektion 5　祝日と休暇	清水光二
第１２回	Lektion 5　形容詞の格変化	清水光二
第１３回	Lektion 6　ドイツの治安事情	清水光二
第１４回	Lektion 6　比較表現	清水光二
第１５回	Lektion 0 〜 Lektion 6 までの復習	清水光二
第１６回	筆記試験	清水光二

教科書			
教・書籍名１	知りたいドイツ語　〜読みながらステップアップ〜	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	Siegfried Kohlhammer、斎藤太郎	教・ＩＳＢＮ１	ISBL: 978-4-255-25403-6 C1084
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	文法からマスター!はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	481635137X
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ドイツ語IV			担当者	清水　光二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LG-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、ドイツの歴史、文化、社会を多面的に学習することで、ドイツ語の背景にあるものについての理解を深めると同時に、初歩的レベルなら一人でも読み書きすることが出来るようになる。 個別目標としては、どのような場面でどのようなドイツ語表現が使われるかを一つひとつ理解し学修することで、実際に遭遇するであろう様々な場面に応用可能な表現や基本構文を身につける。
授業概要	ドイツ語Ⅰ・Ⅱで学んだ文法事項の確認を行いながら、ドイツ語の文章を読むことによって読解力や語彙力を着実に身につけることができる。 具体的には、ドイツ語圏の社会や文化の中から私たちの生活にも関係がありそうなトピックを話題にして、易しい文章から徐々にレベルアップしたものへと読み進めることにより、ドイツ語圏に関わる知識とドイツ語の理解力を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	この授業は、１年間で60時間のドイツ語学習を経験した者を対象としている。本校のカリキュラムで言えば、「ドイツ語Iとドイツ語IIを履修済みであること」（あるいは同等のレベル）が履修の前提となっている。 語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえない。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。 テキストの読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後における予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語の初学者には、教師が説明する文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業ではその準備の成果を発表することが個々に求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

授業計画		担当者
第１回	Lektion 7　教育制度	清水光二
第２回	Lektion 7　分離動詞と非分離動詞	清水光二

第３回	Lektion 8　政治制度	清水光二
第４回	Lektion 8　受動態	清水光二
第５回	Lektion 9　ドイツの歴史概観	清水光二
第６回	Lektion 9　過去の表現	清水光二
第７回	Lektion 10　音楽の国ドイツ	清水光二
第８回	Lektion 10　副文の語順	清水光二
第９回	Lektion 11　ドイツの宗教事情	清水光二
第１０回	Lektion 11　関係代名詞	清水光二
第１１回	Lektion 12　二つのドイツ	清水光二
第１２回	Lektion 12　分詞の用法	清水光二
第１３回	Lektion 13　EUとドイツ	清水光二
第１４回	Lektion 13　接続法第2式	清水光二
第１５回	Lektion 14　EUとドイツ	清水光二
第１６回	筆記試験	清水光二

教科書			
教・書籍名１	知りたいドイツ語　～読みながらステップアップ～	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	Siegfried Kohlhammer、斎藤太郎	教・ＩＳＢＮ１	ISBL: 978-4-255-25403-6 C1084
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	文法からマスター!はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	978-4-560-06420-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語Ⅰ			担当者	孫　基然		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LC-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（入門編）。 到達目標： 学生は中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる。
授業概要	中国語での読む・書く・話す力を伸ばすためには、まず発音を完全にマスターする必要がある。中国語には日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヶ月近く徹底的に練習を繰り返す。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習することにより、前期終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	1、中国語の声調に関する解説及び発声リズムの練習 2、単母音の発声練習	孫基然
第２回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声練習	孫基然
第３回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声復習	孫基然

	4、鼻音の発声練習	
第４回	1、発音の復習 2、そり舌音の発声練習	孫基然
第５回	1、発音の復習 2、子音の発声練習	孫基然
第６回	1、発音総合復習 2、発音小テス 3、実施した小テストをフィードバックする。	孫基然
第７回	1、声調符号をつける位置 2、声調の変化 3、よく使うフレーズ	孫基然
第８回	1、人称代名詞 2、判断文 3、普通疑問文	孫基然
第９回	1、副詞「也」 2、副詞「的」 3、普通疑問文	孫基然
第１０回	1、「喜歓」の使い方 2、形容詞述語文	孫基然
第１１回	1、省略疑問文 2、年齢の聞き方と使い分け	孫基然
第１２回	1、所有を表す「有」 2、完了を表す「了」 3、推測表現	孫基然
第１３回	1、時刻の言い方 2、量詞の使い方	孫基然
第１４回	1、省略疑問文 2、進行表現	孫基然
第１５回	1、提案や勧誘の使い方 2、二重目的語を取る動詞	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	中国への旅	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	山下輝彦、黄漢青	教・ＩＳＢＮ１	978-4-255-45332-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語Ⅱ			担当者	孫　基然		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LC-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（基礎編）。 到達目標： 学生は前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準４級の獲得へつなげていくことができるようになる。
授業概要	中国語には、日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、２ヵ月近く徹底的に練習を繰り返す必要がある。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習し、Ⅱの終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。基礎的な文法事項、表現等を会話や筆記練習等で理解を深め、会話力、読解力、応用力を高める。担当教員は毎回必ず課題として出された単語や基本構文の暗唱をチェックする。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準４級の獲得へつなげていくことができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文	孫基然
第２回	1、助動詞「想」 2、反復疑問文	孫基然
第３回	1、経験表現	孫基然

	2、連動文	
第４回	1、時量補語 2、存在表現	孫基然
第５回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文 3、比較表現	孫基然
第６回	1、介詞「離」、「従」と「往」の使い方 2、動作の方式を表す「着」 3、比較表現	孫基然
第７回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方 3、結果補語	孫基然
第８回	中間テスト	孫基然
第９回	中間テストをフィードバックする。	孫基然
第１０回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方	孫基然
第１１回	1、未来を表す表現 2、方法や方式を訪ねる表現	孫基然
第１２回	1、介詞「給」 2、仮定表現	孫基然
第１３回	1、「太……了」の文型 2、人民元の数え方 3、割引の言い方	孫基然
第１４回	1、動詞の重ね型 2、「一辺」と「一点」	孫基然
第１５回	1、程度補語 2、介詞「為了」 3、方向補語と兼語文	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	中国への旅	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	山下輝彦、黄漢青	教・ＩＳＢＮ１	978-4-255-45332-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語III			担当者	孫　基然		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LC-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論（検定試験対応・前篇）を修得できるようになる。 到達目標： 学生は中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。
授業概要	１年次に習った単語、基礎的文法事項、表現等を生かしつつ、新しい文法や表現等を習得し,筆記や会話の練習を通して、中国語の読解能力と基礎的会話能力を高める。また、毎回少し時間を割いて中国に関することをも講義する。さらに助動詞、比較表現、使役表現、結果補語などを中心として関連文法を紹介する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）試験は必ず行うので、授業に出席していただけでは単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	１、前置詞「对」 ２、名詞前の「的」	孫基然
第２回	１、「有的……有的」の文型 ２、「既……又」の文型	孫基然
第３回	１、「每……都」の文型 ２、動詞、形容詞の前の「地」	孫基然

第４回	「除了……」の文型	孫基然
第５回	「即使……也」の文型	孫基然
第６回	持続を表す「着」	孫基然
第７回	結果補語	孫基然
第８回	中間テスト	孫基然
第９回	中間テストをフィードバックする	孫基然
第１０回	１、「因為……所以」の文型 ２、「一辺……一辺」の文型	孫基然
第１１回	「是……的」の文型	孫基然
第１２回	現存文	孫基然
第１３回	手段・状態を表す「着」	孫基然
第１４回	「一点也不」の文型	孫基然
第１５回	疑問詞の呼応表現	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	2冊目の中国語講読クラス	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	劉頴、柴森、小澤正人	教・ＩＳＢＮ１	978－4－560－06927－1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語IV			担当者	孫　基然		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LC-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論（検定試験対応・後篇）を修得できるようになる。 到達目標： 学生は中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。
授業概要	１年次に習った単語、基礎的文法事項、表現等を生かしつつ、新しい文法や表現等を習得し,筆記や会話の練習を通して、中国語の読解能力と基礎的会話能力を高める。また、毎回少し時間を割いて中国に関することをも講義する。さらに助動詞、比較表現、使役表現、結果補語などを中心として関連文法を紹介する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）試験は必ず行うので、授業に出席していただけでは単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	１、「是……的」の文型 ２、様態補語	孫基然
第２回	１、「不知道……才好」の文型 ２、「好像……一様」の文型	孫基然
第３回	疑問詞の不定用法	孫基然

第４回	可能補語「動詞+得了」	孫基然
第５回	1、「無論……都」の文型 2、「要是……就」の文型	孫基然
第６回	1、動詞後の「給」 2、受身表現	孫基然
第７回	中間テスト	孫基然
第８回	中間テストをフィードバックする。	孫基然
第９回	1、「不是……就是」の文型 2、「再也没……過」の文型	孫基然
第１０回	1、「雖然……但是」の文型 2、「不但……而且」の文型	孫基然
第１１回	1、動量補語 2、離合詞	孫基然
第１２回	1、「有」の謙語文 2、使役表現	孫基然
第１３回	1、副詞「就」 2、副詞「都」	孫基然
第１４回	1、「有」の連動文 2、「把」の文	孫基然
第１５回	1、「対……来説」の文献 2、「只有……才」の文型	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	2冊目の中国語講読クラス	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	劉頴、柴森、小澤正人	教・ＩＳＢＮ１	978－4－560－06927－1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ再履１クラス			担当者			日笠　恵美子	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			GE-LJ-1-001	
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	日笠

第２回	ユニット１	日笠
第３回	ユニット１	日笠
第４回	ユニット2	日笠
第５回	ユニット2	日笠
第６回	ユニット3	日笠
第７回	ユニット3	日笠
第８回	中間テスト	日笠
第９回	ユニット４	日笠
第１０回	ユニット４	日笠
第１１回	ユニット５	日笠
第１２回	ユニット５	日笠
第１３回	ユニット６	日笠
第１４回	ユニット６	日笠
第１５回	総復習	日笠
第１６回	単位認定試験	日笠

教科書			
教・書籍名１	レベルアップトレーニング文法Ｎ２	教・出版社名１	アルク
教・著者名１	坂本勝信	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2210-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語パワードリル N2 文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子（他）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ １クラス			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	まずは日本語能力試験Ｎ３レベルの日本語力を確実なものにするため、Ｎ３レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、Ｎ２のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にＮ２レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（文法）、応用日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（読解）、日本語研究ＩＡ/日本語ＩＡ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容

事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習	磯
第２回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習　場面6①	磯
第３回	文法テキスト学習　場面6②	磯
第４回	文法テキスト学習　場面7①	磯
第５回	文法テキスト学習　場面7②	磯
第６回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習①	磯
第７回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習②	磯
第８回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習③	磯
第９回	第１回～第８回授業　総まとめテスト	磯
第１０回	文法テキスト学習　場面8①	磯
第１１回	文法テキスト学習　場面8②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習④	磯
第１２回	文法テキスト学習　場面9①	磯
第１３回	文法テキスト学習　場面9②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑤	磯
第１４回	文法テキスト学習　敬語、副詞、接続詞等①	磯
第１５回	文法テキスト学習　敬語、副詞、接続詞等②	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　Ｎ３文法　スピードマスター	教・出版社名１	Ｊリサーチ出版
教・著者名１	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-036-1
教・書籍名２	ドリル＆ドリル日本語能力試験Ｎ２　文字語彙	教・出版社名2	ＵＮＩＣＯＭ
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-478-3
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ２クラス			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験Ｎ２の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ３レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋Aの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習

の時間	し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第25課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第３回	３．第25課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第４回	４．第28課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第５回	５．第28課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第６回	６．第31課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第７回	７．第31課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第８回	８．第34課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第９回	９．第34課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第１０回	１０．第37課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第１１回	１１．第37課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第１２回	１２．まとめ７　３３課～３７課の復習	井上光恵
第１３回	１３．第40課-１ 漢字・語彙　　文型１-導入・練習	井上光恵
第１４回	１４．第40課-２ 文型２-導入・練習　会話	井上光恵
第１５回	１５．まとめ８　３８課～４２課の復習	井上光恵
第１６回	単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語初級（2）大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-507-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子　辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-487-5
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ 再履２クラス			担当者				福本　苗
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング				GE-LJ-1-001
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ⅡＢを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	福本苗
第２回	時を表す表現	福本苗
第３回	「わけ・こと・もの・ところ」を使った表現	福本苗

第４回	助詞の働きをする言葉① （場面・時点・手段・原因を示す表現）		福本苗
第５回	助詞の働きをする言葉② （添加・判断・評価を示す表現）		福本苗
第６回	主に文末に使われる言葉		福本苗
第７回	文章の文法		福本苗
第８回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法		福本苗
第９回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法		福本苗
第１０回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法		福本苗
第１１回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法		福本苗
第１２回	基本文法の復習		福本苗
第１３回	接続の言葉		福本苗
第１４回	敬語・丁寧な言い方		福本苗
第１５回	総括		福本苗
第１６回	単位認定試験		福本苗
教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語日本語能力試験Ｎ２重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂　（他）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0 ☒
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策　N2文法　総まとめ	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	遠藤ゆう子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ 再履３クラス			担当者				福本　苗
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング				GE-LJ-1-001
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ＩＩを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・レベル確認テスト	福本苗
第２回	文末に使われる表現	福本苗

第３回	傾向や様子を表す表現	福本苗
第４回	例を挙げて示す表現	福本苗
第５回	原因・理由を表す表現	福本苗
第６回	「わけ・こと」を使った表現	福本苗
第７回	「もの」を使った表現	福本苗
第８回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第９回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１０回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１１回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１２回	「ない」を含んだ表現	福本苗
第１３回	付加を表す表現	福本苗
第１４回	基本文法の復習	福本苗
第１５回	総括	福本苗
第１６回	単位認定試験	福本苗

教科書			
教・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策　N2文法　総まとめ	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	遠藤ゆう子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ 再履クラス４			担当者				大下　朋子	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング				GE-LJ-1-001	
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義		
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限				
ディプロマポリシー対応項目									
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力			
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目			
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう 								
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。								
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。								
アクティブラーニングの内容									
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することはできない。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。								
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。各２時間の予習と復習に努めること。								
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。								

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大下(朋)
第２回	ます形・て形に接続する表現	大下(朋)
第３回	辞書形・た形に接続する表現	大下(朋)
第４回	ない形・意向形、名詞・形容詞に接続する表現	大下(朋)

第５回	いろいろなものと接続する表現	大下(朋)
第６回	評価・比較の表現①	大下(朋)
第７回	評価・比較の表現②／時間に関する表現	大下(朋)
第８回	状態・強調の表現／条件に関する表現①	大下(朋)
第９回	条件に関する表現②	大下(朋)
第１０回	判断に関する表現①	大下(朋)
第１１回	判断に関する表現②／敬語表現	大下(朋)
第１２回	縮約形／接続詞	大下(朋)
第１３回	動詞①	大下(朋)
第１４回	動詞②	大下(朋)
第１５回	名詞・助数詞	大下(朋)
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	大下(朋)

教科書			
教・書籍名１	28日間で基礎から応用まで完全マスター！日本語能力試験対策　Ｎ３文法・語彙・漢字　改訂版	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	山田光子	教・ＩＳＢＮ１	978-4384059502
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ（1クラス）			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	まずは日本語能力試験Ｎ３レベルの日本語力を確実なものにするため、Ｎ３レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、Ｎ２のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にＮ２レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に編成される。履修登録は教務課で一括登録する。 　登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（文法）、応用日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（読解）、日本語研究ＩＡ/日本語ＩＡ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習	磯
第２回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習　場面１①	磯
第３回	文法テキスト学習　場面１②	磯
第４回	文法テキスト学習　場面２①	磯
第５回	文法テキスト学習　場面２②	磯
第６回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習①	磯
第７回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習②	磯
第８回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習③	磯
第９回	第１回～第８回授業　総まとめテスト	磯
第１０回	文法テキスト学習　場面３①	磯
第１１回	文法テキスト学習　場面３②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習④	磯
第１２回	文法テキスト学習　場面４①	磯
第１３回	文法テキスト学習　場面４②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑤	磯
第１４回	文法テキスト学習　場面５①	磯
第１５回	文法テキスト学習　場面５②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑥	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　Ｎ３文法　スピードマスター	教・出版社名１	Ｊリサーチ出版
教・著者名１	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-036-1
教・書籍名２	ドリル＆ドリル日本語能力試験Ｎ２　文字語彙	教・出版社名2	ＵＮＩＣＯＭ
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-478-3

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ（２クラス）			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験Ｎ２の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ３レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋Aの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容		

事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第25課-１ 漢字・語彙　　文型１―導入・練習	井上光恵
第３回	３．第25課-２ 文型２―導入・練習　　会話	井上光恵
第４回	４．第28課-１ 漢字・語彙　　文型１―導入・練習	井上光恵
第５回	５．第28課-２ 文型２―導入・練習　　会話	井上光恵
第６回	６．第31課-１ 漢字・語彙　　文型１―導入・練習	井上光恵
第７回	７．第31課-２ 文型２―導入・練習　　会話	井上光恵
第８回	８．第34課-１ 漢字・語彙　　文型１―導入・練習	井上光恵
第９回	９．第34課-２ 文型２―導入・練習　　会話	井上光恵
第１０回	１０．第37課-１ 漢字・語彙　　文型１―導入・練習	井上光恵
第１１回	１１．第37課-２ 文型２―導入・練習　　会話	井上光恵
第１２回	１２．まとめ７　３３課～３７課の復習	井上光恵
第１３回	１３．第40課-１ 漢字・語彙　　文型１-導入・練習	井上光恵
第１４回	１４．第40課-２ 文型２-導入・練習　会話	井上光恵
第１５回	１５．まとめ８　３８課～４２課の復習	井上光恵
第１６回	単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語初級（2）大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-507-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子　辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-487-5
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ 再履クラス１			担当者	日笠　恵美子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画	担当者

第１回	オリエンテーション	日笠
第２回	ユニット１	日笠
第３回	ユニット１	日笠
第４回	ユニット2	日笠
第５回	ユニット2	日笠
第６回	ユニット3	日笠
第７回	ユニット3	日笠
第８回	中間テスト	日笠
第９回	ユニット４	日笠
第１０回	ユニット４	日笠
第１１回	ユニット５	日笠
第１２回	ユニット５	日笠
第１３回	ユニット６	日笠
第１４回	ユニット６	日笠
第１５回	総復習	日笠
第１６回	単位認定試験	日笠

教科書			
教・書籍名１	レベルアップトレーニング文法Ｎ２	教・出版社名１	アルク
教・著者名１	坂本勝信	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2210-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語パワードリル N2 文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子（他）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ再履クラス２			担当者	福本　苗		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ＩＩを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・レベル確認テスト	福本苗
第２回	いろいろな働きをする助詞	福本苗
第３回	「よう・う・まい・べき」を使った言葉	福本苗

第４回	複合語として使われる言葉	福本苗
第５回	文章の文法	福本苗
第６回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第７回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第８回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第９回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１０回	基本文法の復習	福本苗
第１１回	決まった使い方の副詞	福本苗
第１２回	仮定・逆説の表現	福本苗
第１３回	原因・理由を表す表現	福本苗
第１４回	話者の感覚・気持ち・推量を表す表現	福本苗
第１５回	総括	福本苗
第１６回	単位認定試験	福本苗

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語日本語能力試験Ｎ２重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂　（他）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策Ｎ2文法総まとめ	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	遠藤ゆう子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ 再履クラス３			担当者	福本　苗		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ＩＩを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・レベル確認テスト	福本苗
第２回	時を表す表現	福本苗
第３回	くり返しを表す表現	福本苗

第４回	進行状態を示す表現	福本苗
第５回	相関関係を示す表現	福本苗
第６回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第７回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第８回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第９回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１０回	比較を表す表現	福本苗
第１１回	対象を表す表現	福本苗
第１２回	仮定を表す表現	福本苗
第１３回	「から」が付く表現	福本苗
第１４回	評価・判断を示す表現	福本苗
第１５回	「ほど・くらい・こそ・さえ」を使った表現	福本苗
第１６回	単位認定試験	福本苗

教科書			
教・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策　N2文法　総まとめ	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	遠藤ゆう子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本語ＩＢ 再履クラス４			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＩを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。各２時間の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大下(朋)
第２回	ます形・て形に接続する表現	大下(朋)
第３回	辞書形・た形に接続する表現	大下(朋)

第４回	ない形・意向形、名詞・形容詞に接続する表現	大下(朋)
第５回	いろいろなものと接続する表現	大下(朋)
第６回	評価・比較の表現①	大下(朋)
第７回	評価・比較の表現②／時間に関する表現	大下(朋)
第８回	状態・強調の表現／条件に関する表現①	大下(朋)
第９回	条件に関する表現②	大下(朋)
第１０回	判断に関する表現①	大下(朋)
第１１回	判断に関する表現②／敬語表現	大下(朋)
第１２回	縮約形／接続詞	大下(朋)
第１３回	動詞①	大下(朋)
第１４回	動詞②	大下(朋)
第１５回	名詞・助数詞	大下(朋)
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	大下(朋)

教科書			
教・書籍名１	28日間で基礎から応用まで完全マスター！日本語能力試験対策　Ｎ３文法・語彙・漢字　改訂版	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	山田光子	教・ＩＳＢＮ１	978-4384059502
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ⅡＡ １・２クラス			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2018年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-003		
必修・選択	選択必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。
授業概要	この講義は、「文法」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な文法能力を理解しながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの文法問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、文法力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（50%）、中間テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）に基づく総合評価。成績評価の評価対象となるので、単位認定試験と併せて中間テストも必ず受験しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大下 朋子
第２回	１課 時間関係	大下 朋子
第３回	２課 範囲の始まり・限度	大下 朋子
第４回	３課 限定・非限定・付加	大下 朋子
第５回	４課 例示	大下 朋子
第６回	５課 関連・無関係	大下 朋子
第７回	６課 様子	大下 朋子
第８回	【中間テスト】１～６課／中間テストの解説	大下 朋子
第９回	７課 付随行動	大下 朋子
第１０回	８課 逆接	大下 朋子
第１１回	９課 条件	大下 朋子
第１２回	10課 逆接条件	大下 朋子
第１３回	11課 目的・手段	大下 朋子

第１４回	12課 原因・理由	大下 朋子
第１５回	13課　可能・不可能・禁止	大下 朋子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	大下 朋子

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター文法　日本語能力試験Ｎ１	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	友松悦子、福島佐知、中村かおり	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195640
教・書籍名２	日本語パワードリル N1 文字・語彙	教・出版社名2	アスク出版
教・著者名2	松浦 真理子、鈴木 健司	教・ＩＳＢＮ2	978-4872177671
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ⅡB			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／2018年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-004		
必修・選択	選択必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。
授業概要	この講義は、「文法」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な文法能力を理解しながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの文法問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、文法力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（50%）、中間テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）に基づく総合評価。成績評価の評価対象となるので、学期末の筆記試験と併せて中間テストも必ず受験しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大下 朋子
第２回	14課　話題・評価の基準	大下 朋子
第３回	15課　比較対照	大下 朋子
第４回	16課　結末・最終の状態	大下 朋子
第５回	17課　強調	大下 朋子
第６回	18課　主張・断定	大下 朋子
第７回	【中間テスト】14～18課／中間テストの解説	大下 朋子
第８回	19課　評価・感想	大下 朋子
第９回	20課　心情・強制的思い	大下 朋子
第１０回	A　動詞の意味に着目-1	大下 朋子
第１１回	B　動詞の意味に着目-2	大下 朋子
第１２回	C　古い言葉を使った言い方	大下 朋子
第１３回	D「もの・こと・ところ」を使った言い方	大下 朋子

第１４回	E　二つの言葉を組にする言い方	大下 朋子
第１５回	F　助詞・複合助詞	大下 朋子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	大下 朋子

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター文法　日本語能力試験Ｎ１	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	友松悦子、福島佐知、中村かおり	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195640
教・書籍名２	日本語パワードリル N1 文字・語彙	教・出版社名2	アスク出版
教・著者名2	松浦 真理子、鈴木 健司	教・ＩＳＢＮ2	978-4872177671
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩA 再履クラス１			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．６課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第３回	３．６課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第４回	４．７課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第５回	５．７課-２　内容理解（中文）	井上光恵
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光恵
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光恵
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光恵
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光恵
第１０回	１０．８課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１１回	１１．８課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１２回	１２．９課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１３回	１３．９課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１４回	１４．１０課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１５回	１５．１０課−２　内容理解（中ｚ文）	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル日本語能力試験N2文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子・辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＡ １クラス			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1~3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④２年次開講日本語関連科目ＩＩの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	

事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第５回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第６回	統合理解問題 情報理解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第７回	統合理解問題 情報理解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第８回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第９回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第１０回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第１１回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第１２回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第１５回	総括、確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書

教・書籍名１	ドリル＆ドリルＮ２文字・語彙	教・出版社名１	ユニコムUNICOM
教・著者名１	星野恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	日本語総まとめN3　読解	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-766-4
参・書籍名２	日本語総まとめN3　語彙	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ2	978-4-87217-731-2

授業科目名	応用日本語ＩＡ２クラス			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩA、応用日本語ＩA、日本語研究ＩA）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(20%)で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩA・応用日本語ＩA・日本語研究ＩAの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 ２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。

	予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. ２３課　文法１	久保田
第２回	２．２３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	３．２７課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	４．２７課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５．３０課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	６．３０課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７．３３課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	８．３３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９．３６課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	１０．３６課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	１１．３９課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	１２．３９課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	１３．４２課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	１４．４２課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	１５．　総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-507-7
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5
参考書			
参・書籍名１	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク　初級２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	中村　かおり他著	参・ＩＳＢＮ１	978-488-319-7828
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩA 再履２クラス			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修性は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＡを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～3ラスに編成される。履修登録は教務課で一括で登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩA・応用日本語ＩA・日本語研究ＩAの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
	内容理解問題：短文ー単問	

第２回	中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括、確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語　日本語能力試験N2重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N2 読解	参・出版社名１	Jリサーチ出版
参・著者名１	小林ひとみ・桑原里奈・木村理恵	参・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-058-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＡ再履クラス３			担当者				久保田　雅子	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング				GE-LJ-1-005	
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義		
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限				
ディプロマポリシー対応項目									
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎		
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目			
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう								
到達目標	テーマは第二言語としての日本語の「読解力の向上」である。Ｎ３～Ｎ２レベルの読解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることが目標である。								
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスでは主に「読解」中心に学ぶ。教科書で論理的な文章を読み、内容を理解する。プリントでＮ３～Ｎ２レベルの演習問題をやり、文章を通じて筆者の考えを理解したり、パンフレットや説明書等、さまざまな文書を読み、各文書から必要な情報を得る方法を理解する。 中級レベルの読解力が身につくことで事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることができる。								
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）								
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。								
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。								
実務経験のある教員	該当する	内容	留学生の日本語教育						
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題をだす。授業中にその発表を行い、みずから、自分自身の課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ず専用のノートを作成し、復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。予習と復習に２時間以上は必要である。								
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。								

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション （授業の進め方、予習、復習のやりかた　例：第１課）	久保田

第２回	第２課　語彙・本文１、プリント	久保田
第３回	第２課　本文２・文法、プリント	久保田
第４回	第４課　語彙・本文１、プリント	久保田
第５回	第４課　本文２・文法、プリント	久保田
第６回	第６課　語彙・本文１、プリント	久保田
第７回	第６課　本文２・文法、プリント	久保田
第８回	Ｎ２演習問題１	久保田
第９回	Ｎ２演習問題　２	久保田
第１０回	Ｎ２演習問題　３	久保田
第１１回	第８課　語彙・本文１	久保田
第１２回	第８課　本文2・文法	久保田
第１３回	第１０課　語彙・本文１	久保田
第１４回	第１０課　本文2・文法	久保田
第１５回	総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	留学生の日本語　読解編	教・出版社名１	株式会社アルク
教・著者名１	アカデミック・ジャパニーズ研究会	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2631-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	はじめての日本語能力試験Ｎ２ 合格模試	参・出版社名１	株式会社アスク出版
参・著者名１	アスク出版編集部	参・ＩＳＢＮ１	978-4-86639-315-5
参・書籍名２	新完全マスター　読解　N3	参・出版社名2	株式会社　スリーエーネットワーク
参・著者名2	田代　ひろみ・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-888319-671-5

授業科目名	応用日本語ＩA 再履クラス４			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．１課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第３回	３．１課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第４回	４．２課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第５回	５．２課-２　内容理解（中文）	井上光恵
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光恵
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光恵
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光恵
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光恵
第１０回	１０．３課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１１回	１１．３課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１２回	１２．４課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１３回	１３．４課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１４回	１４．５課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１５回	１５．５課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 日本語能力試験N2	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃・本田ゆかり・来栖里美・前坊香菜子・阿保きみ枝・宮田公治	参・ＩＳＢＮ１	9784883195749
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ（1クラス）			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1~3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④２年次開講日本語関連科目ＩＩの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、

の時間	授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括、確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	ドリル＆ドリルＮ２文字・語彙	教・出版社名１	ユニコムUNICOM
教・著者名１	星野恵子・辻　和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語総まとめN3　読解	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-766-4

参・書籍名２	日本語総まとめN3　語彙	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ2	978-4-87217-731-2

授業科目名	応用日本語ＩＢ（2クラス）			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩA、応用日本語ＩA、日本語研究ＩA）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２0%)で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩA・応用日本語ＩA・日本語研究ＩAの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当する　内容　日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 ２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノー

	トへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. ２３課　文法１	久保田
第２回	２．２３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	３．２７課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	４．２７課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５．３０課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	６．３０課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７．３３課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	８．３３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９．３６課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	１０．３６課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	１１．３９課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	１２．３９課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	１３．４２課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	１４．４２課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	１５．　総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-507-7
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク　初級２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	中村　かおり他著	参・ＩＳＢＮ１	978-488-319-7828
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ再履クラス１			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．６課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第３回	３．６課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第４回	４．７課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第５回	５．７課-２　内容理解（中文）	井上光恵
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光恵
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光恵
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光恵
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光恵
第１０回	１０．８課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１１回	１１．８課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１２回	１２．９課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１３回	１３．９課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１４回	１４．１０課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１５回	１５．１０課−２　内容理解（中ｚ文）	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル日本語能力試験N2文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子・辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ再履クラス２			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修性は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人と同様に外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、休憩時間、教室にて。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問	小西真弓

	文字・語彙：漢字読み、表記	
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括・確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語　日本語能力試験N2重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N2 読解	参・出版社名１	Jリサーチ出版
参・著者名１	小林ひとみ・桑原里奈・木村理恵	参・ＩＳＢＮ１	9784863920583
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ再履クラス３			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマは第二言語としての日本語の「読解力の向上」である。Ｎ３～Ｎ２レベルの読解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることが目標である。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスでは主に「読解」中心に学ぶ。教科書で論理的な文章を読み、内容を理解する。プリントでＮ３～Ｎ２レベルの演習問題をやり、文章を通じて筆者の考えを理解したり、パンフレットや説明書等、さまざまな文書を読み、各文書から必要な情報を得る方法を理解する。 中級レベルの読解力が身につくことで事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることができる。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：留学生の日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題をだす。授業中にその発表を行い、みずから、自分自身の課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ず専用のノートを作成し、復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。

授業計画		担当者
	オリエンテーション	

第１回	（授業の進め方、予習、復習のやりかた　例：第１課）	久保田
第２回	第1課　語彙・本文１-2、プリント	久保田
第３回	第3課　本文２・文法、プリント	久保田
第４回	第3課　語彙・本文１、プリント	久保田
第５回	第5課　本文２・文法、プリント	久保田
第６回	第5課　語彙・本文１、プリント	久保田
第７回	第7課　本文２・文法、プリント	久保田
第８回	第7課、Ｎ２演習問題１	久保田
第９回	Ｎ２演習問題　２	久保田
第１０回	Ｎ２演習問題　３	久保田
第１１回	第9課　語彙・本文１	久保田
第１２回	第9課　本文2・文法	久保田
第１３回	第11課　語彙・本文１	久保田
第１４回	第11課　本文2・文法	久保田
第１５回	第13課、総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	留学生の日本語　読解編	教・出版社名１	株式会社アルク
教・著者名１	アカデミック・ジャパニーズ研究会	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2631-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	はじめての日本語能力試験Ｎ２ 合格模試	参・出版社名１	株式会社アスク出版
参・著者名１	アスク出版編集部	参・ＩＳＢＮ１	978-4-86639-315-5
参・書籍名２	新完全マスター　読解　N3	参・出版社名2	株式会社　スリーエーネットワーク
参・著者名2	田代　ひろみ・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-888319-671-5

授業科目名	応用日本語ＩＢ 再履クラス４			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．１課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第３回	３．１課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第４回	４．２課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第５回	５．２課-２　内容理解（中文）	井上光恵
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光恵
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光恵
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光恵
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光恵
第１０回	１０．３課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１１回	１１．３課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１２回	１２．４課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１３回	１３．４課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１４回	１４．５課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１５回	１５．５課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 日本語能力試験N2	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃・本田ゆかり・来栖里美・前坊香菜子・阿保きみ枝・宮田公治	参・ＩＳＢＮ１	9784883195749
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ⅡA			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／2018年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-007		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。
授業概要	この講義は、「読解」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な読解力をつけしながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの読解問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、読解力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓

第６回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括・確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N1　読解	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	菊池富美子・黒石しづ可・日置陽子・竹田慎吾	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-075-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター単語Ｎ２重要２２００	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	小谷野美穂・森田亮子　他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
参・書籍名２	速攻トレーニング読解編	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	加藤早苗・沼田宏・他	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7574-1990-2

授業科目名	応用日本語ⅡB			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／2018年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-008		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする.。
授業概要	この講義は、「読解」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な読解力をつけながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの読解問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、読解力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓

第６回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括・確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N1　読解	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	菊池富美子・黒石しづ可・日置陽子・竹田慎吾	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-075-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター単語Ｎ２重要２２００	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
参・書籍名２	速攻トレーニング読解編	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	加藤早苗・沼田宏	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7574-1990-2

授業科目名	日本語研究ＩA 再履クラス１			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにし、そのうえで、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力を身につけていく。そのことが本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解を深め、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力獲得を目指している。日本語を聞いて理解するには、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。 ２年生以上の再履修生は、Ｎ２の合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で 　一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩA/日本語ＩA（文法）、応用日本語ＩA/日本語ＩA（読解）、日本語研究ＩA/日本語ＩA（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。

	授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、文法、文字・語彙確認演習	磯
第２回	聴解テキスト学習　課題理解①	磯
第３回	聴解テキスト学習　課題理解②　文字・語彙演習①	磯
第４回	聴解テキスト学習　ポイント理解①	磯
第５回	聴解テキスト学習　ポイント理解②　文字・語彙演習②	磯
第６回	聴解テキスト学習　概要理解①	磯
第７回	聴解テキスト学習　概要理解②　文字・語彙演習③	磯
第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯
第９回	第２回～第７回授業内容総括演習の解説、復習演習	磯
第１０回	聴解テキスト学習　即時応答①　文字・語彙演習④	磯
第１１回	聴解テキスト学習　即時応答②	磯
第１２回	聴解テキスト学習　即時応答③　文字・語彙演習⑤	磯
第１３回	聴解テキスト学習　概要理解①	磯
第１４回	聴解テキスト学習　概要理解②　文字・語彙演習⑥	磯
第１５回	聴解テキスト学習　第１回、第２回模擬試験問題	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　Ｎ２聴解　スピードマスター	教・出版社名１	Ｊリサーチ出版
教・著者名１	棚橋明美、杉山ますよ、野原ゆかり	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-057-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＡ ２クラス			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＢ、応用日本語ＩＢ、日本語研究ＩＢ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２０％)で評価する。この授業では、基礎の文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～3クラスに編成される。 ②日本語Ｉ・応用日本語Ｉ・日本語研究Ｉの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。(社会情勢に応じてＪＬＰＴの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。) ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することもできる。
実務経験のある教員	該当する　内容：日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間

授業計画	担当者

第１回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第２４課　文法１	久保田
第２回	2. 第２４課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	3. 第２７課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	4. 第２７課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５. 第30課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	6. 第30課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７. 第33課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	8. 第33課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９. 第３６課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	10. 第３６課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	10. 第３９課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	12. 第３９課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	13. 第41課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	14. 第41課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195077
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＡ １クラス			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目ⅡⅡを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目ⅡⅡを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目ⅡⅡの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光恵
第３回	３．第１章（準備）-２　会話表現	井上光恵
第４回	４．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光恵
第５回	５．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光恵
第６回	６．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光恵
第７回	７．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光恵
第８回	８．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光恵
第９回	９．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光恵
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光恵
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光恵
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光恵
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光恵
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光恵
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ2	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩA 再履クラス２			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目ⅡⅡを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光恵
第３回	３．第１章（準備）-２　会話表現	井上光恵
第４回	４．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光恵
第５回	５．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光恵
第６回	６．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光恵
第７回	７．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光恵
第８回	８．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光恵
第９回	９．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光恵
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光恵
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光恵
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光恵
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光恵
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光恵
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ2	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩA 再履クラス３			担当者				雲津　英子
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング				GE-LJ-1-009
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「聴解 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。聴解と併せて、言語知識（文字・語彙・文法など）も取り上げ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩA・応用日本語ＩA・日本語研究ＩAの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	雲津 英子
第２回	基礎編１～４	雲津 英子
第３回	基礎編５～７	雲津 英子
第４回	課題理解１～４	雲津 英子

第５回	Ｎ２対策問題（聴解）	雲津 英子
第６回	Ｎ２対策問題（聴解）の解説	雲津 英子
第７回	課題理解５～９	雲津 英子
第８回	課題理解10～13	雲津 英子
第９回	ポイント理解14～16	雲津 英子
第１０回	ポイント理解17～20	雲津 英子
第１１回	概要理解21～24	雲津 英子
第１２回	概要理解25～28	雲津 英子
第１３回	即時応答29～46	雲津 英子
第１４回	統合理解47～49	雲津 英子
第１５回	統合理解50～52	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（聴解・筆記試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験Ｎ２聴解 必修パターン	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	氏原 庸子　清島 千春　佐伯 玲子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-360-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策 日本語パワードリル N2文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子　鈴木 健司	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩA 再履クラス４			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスは主に「聴解」を学ぶ。Ｎ３～Ｎ２レベルの聴解問題の出題の傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら実践力を身につける。「聴解の教材」は生活の場面で、ひとりでも対応できる能力を身につけられるような内容を取り入れる。 第二、第三の言語としての日本語をより早く習得するために考察を自ら積極的に行い、他の学生と共有できるコミュニケーション能力を身につけられるよう参加型授業を行う。 また中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになることが目標である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＡを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩA・応用日本語ＩA・日本語研究ＩAの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑤聴解の教材では、参考図書及びプリントを利用する。プリントを配布するので、初回から専用のファイル、ノートは持参すること。副教材については、３人の先生と共有して進める。これについても毎回持ってくること。 ⑥理由なく欠席が続く場合や、指示した課題を提出しない場合は受講を認めない場合があるので注意してほしい。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。
実務経験のある教員	該当する　内容：留学生への日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	1) 語彙については毎回指定した範囲の小テストを行うので、その課の語彙を自主学習してくること。また定着できるような方法を考え、やってくること。授業でも取り上げるので、それぞれのアイデアを発表できるように準備して授業にのぞむこと。

	2) 聴解の学習方法については、授業でやり方を説明する。おもに発表する形で確認を行うが、短時間でも必ず練習してみること。 予習と復習におよそ２時間以上が望ましいが、時間が見つけて短時間でもやることが当面の目標である。授業前の時間など、活用できる時間を考えてみること。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. プリントの説明	久保田
第２回	1-1：イントネーションの違いを知る	久保田
第３回	1-2：はっきり言わない言い方	久保田
第４回	1-3：感謝・迷惑などの表現を知る	久保田
第５回	1-4：量や時間の印象を知る	久保田
第６回	1-5：予想・伝聞の表現を知る	久保田
第７回	1-6：意見を聞き取るときのキーワードを知る	久保田
第８回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ１	久保田
第９回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ２	久保田
第１０回	2-2: 次に何をするべきかを聴き取るコツ１	久保田
第１１回	2-２: 次に何をするべきかを聴き取るコツ２	久保田
第１２回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ１	久保田
第１３回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ２	久保田
第１４回	2-4：さまざまな情報を集めて理解するコツ１	久保田
第１５回	2-4 ：さまざまな情報を集めて理解するコツ2・総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	新完全マスター語彙N2	教・出版社名2	スリーエーネットワーク
教・著者名2	伊能 裕晃	教・ＩＳＢＮ2	978-4883195749
参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策　日本総まとめＮ２　聴解	参・出版社名１	978-4-87217-792-3
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	アスク出版
参・書籍名２	短期マスター聴解ドリル２	参・出版社名2	凡人社
参・著者名2	浅野陽子・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-89358-857-9

授業科目名	日本語研究ＩＢ（1クラス）			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目ⅡⅡを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目ⅡⅡを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目ⅡⅡの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光恵
第３回	３．第１章（準備）-２　会話表現	井上光恵
第４回	４．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光恵
第５回	５．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光恵
第６回	６．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光恵
第７回	７．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光恵
第８回	８．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光恵
第９回	９．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光恵
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光恵
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光恵
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光恵
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光恵
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光恵
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ（2クラス）			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＢ、応用日本語ＩＢ、日本語研究ＩＢ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２０％)で評価する。この授業では、基礎の文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～3クラスに編成される。 ②日本語Ｉ・応用日本語Ｉ・日本語研究Ｉの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。(社会情勢に応じてＪＬＰＴの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。) ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することもできる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第２４課　文法１	久保田
第２回	2. 第２４課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	3. 第２７課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	4. 第２７課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５. 第30課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	6. 第30課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７. 第33課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	8. 第33課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９. 第３６課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	10. 第３６課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	10. 第３９課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	12. 第３９課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	13. 第41課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	14. 第41課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195077
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ再履クラス１			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにし、そのうえで、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力を身につけていく。そのことが本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解を深め、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力獲得を目指している。日本語を聞いて理解するには、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。 ２年生以上の再履修生は、Ｎ２の合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で 　一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＢ/日本語ＩＢ（文法）、応用日本語ＩＢ/日本語ＩＢ（読解）、日本語研究ＩＢ/日本語ＩＢ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とそ	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整

の時間	理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、文法、文字・語彙確認演習	磯
第２回	文法確認演習、聴解テキスト学習　第１章１	磯
第３回	聴解テキスト学習　第１章２，３	磯
第４回	聴解テキスト学習　第１章４，５	磯
第５回	聴解テキスト学習　第２章１，２	磯
第６回	聴解テキスト学習　第２章３，４	磯
第７回	聴解テキスト学習　第２章５，６，７	磯
第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯
第９回	第２回～第７回授業内容総括演習の解説、復習演習	磯
第１０回	聴解テキスト学習　第３章１，２	磯
第１１回	聴解テキスト学習　第３章３，４	磯
第１２回	聴解テキスト学習　第３章５　第４章１	磯
第１３回	聴解テキスト学習　第４章２，３	磯
第１４回	聴解テキスト学習　第４章４，５	磯
第１５回	聴解テキスト学習　第５章	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験　日本語総まとめＮ２　聴解	教・出版社名１	アスク出版
教・著者名１	佐々木仁子、松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ再履クラス２			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目ＩＩを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目ＩＩの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光恵
第３回	３．第１章（準備）-２　会話表現	井上光恵
第４回	４．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光恵
第５回	５．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光恵
第６回	６．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光恵
第７回	７．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光恵
第８回	８．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光恵
第９回	９．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光恵
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光恵
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光恵
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光恵
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光恵
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光恵
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	

参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ再履クラス３			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「聴解 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。聴解と併せて、言語知識（文字・語彙・文法など）も取り上げ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	雲津 英子
第２回	基礎編１～４	雲津 英子
第３回	基礎編５～７	雲津 英子

第４回	課題理解１～４	雲津 英子
第５回	Ｎ２対策問題（聴解）	雲津 英子
第６回	Ｎ２対策問題（聴解）の解説	雲津 英子
第７回	課題理解５～９	雲津 英子
第８回	課題理解10～13	雲津 英子
第９回	ポイント理解14～16	雲津 英子
第１０回	ポイント理解17～20	雲津 英子
第１１回	概要理解21～24	雲津 英子
第１２回	概要理解25～28	雲津 英子
第１３回	即時応答29～46	雲津 英子
第１４回	統合理解47～49	雲津 英子
第１５回	統合理解50～52	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（聴解・筆記試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験Ｎ２聴解 必修パターン	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	氏原 庸子　清島 千春　佐伯 玲子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-360-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策 日本語パワードリル N2文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子　鈴木 健司	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ 再履クラス４			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスは主に「聴解」を学ぶ。Ｎ３～Ｎ２レベルの聴解問題の出題の傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら実践力を身につける。「聴解の教材」は生活の場面で、ひとりでも対応できる能力を身につけられるような内容を取り入れる。 第二、第三の言語としての日本語をより早く習得するために考察を自ら積極的に行い、他の学生と共有できるコミュニケーション能力を身につけられるよう参加型授業を行う。 また中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになることが目標である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑤聴解の教材では、参考図書及びプリントを利用する。プリントを配布するので、初回から専用のファイル、ノートは持参すること。副教材については、３人の先生と共有して進める。これについても毎回持ってくること。 ⑥理由なく欠席が続く場合や、指示した課題を提出しない場合は受講を認めない場合があるので注意してほしい。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：留学生への日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	1) 語彙については毎回指定した範囲の小テストを行うので、その課の語彙を自主学習してくること。また定着できるような方法を考え、やってくること。授業でも取り上げるので、それぞれのアイデアを発表できるように準備し

	て授業にのぞむこと。 2) 聴解の学習方法については、授業でやり方を説明する。おもに発表する形で確認を行うが、短時間でも必ず練習してみること。 予習と復習におよそ２時間以上が望ましいが、時間が見つけて短時間でもやることが当面の目標である。授業前の時間など、活用できる時間を考えてみること。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. プリントの説明	久保田
第２回	1-1：イントネーションの違いを知る	久保田
第３回	1-2：はっきり言わない言い方	久保田
第４回	1-3：感謝・迷惑などの表現を知る	久保田
第５回	1-4：量や時間の印象を知る	久保田
第６回	1-5：予想・伝聞の表現を知る	久保田
第７回	1-6：意見を聞き取るときのキーワードを知る	久保田
第８回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ１	久保田
第９回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ２	久保田
第１０回	2-2: 次に何をするべきかを聴き取るコツ１	久保田
第１１回	2-2 : 次に何をするべきかを聴き取るコツ２	久保田
第１２回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ１	久保田
第１３回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ２	久保田
第１４回	2-4：さまざまな情報を集めて理解するコツ１	久保田
第１５回	2-4 ：さまざまな情報を集めて理解するコツ2・総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	新完全マスター語彙N2	教・出版社名2	スリーエーネットワーク
教・著者名2	伊能 裕晃	教・ＩＳＢＮ2	978-4883195749
参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策　日本総まとめＮ２　聴解	参・出版社名１	978-4-87217-792-3
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	アスク出版
参・書籍名２	短期マスター聴解ドリル２	参・出版社名2	凡人社
参・著者名2	浅野陽子・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-89358-857-9

授業科目名	日本語研究ⅡＡ １・２クラス			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2018年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-011		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力を身につけていく。それにとどまらず、「読む」「書く」「話す」能力の向上もめざす。総合的な日本語力の向上は、本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解が深化し、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力獲得を目指している。そのためには日本語を反復して聞いて、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていき、充実した学生生活を送れるようにする。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	日本語能力試験Ｎ２合格が条件である。 Ｎ２を取得していない学生は履修することはできない。 Ｎ２レベルに満足するのでなく、さらにＮ１レベルを目指して意欲的に受講してもらいたい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	高いレベルの日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、Ｎ３、Ｎ２レベル文法、文字・語彙確認演習	磯
第２回	聴解テキスト学習　課題理解①　練習問題１～５	磯
第３回	聴解テキスト学習　課題理解②　練習問題６～12　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習①	磯
第４回	聴解テキスト学習　ポイント理解①　練習問題１～６	磯
第５回	聴解テキスト学習　ポイント理解②　練習問題７～14　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習②	磯
第６回	聴解テキスト学習　概要理解①　練習問題１～６	磯
第７回	聴解テキスト学習　概要理解②　練習問題７～12　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習③	磯

第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯
第９回	第２回～第７回授業内容総括演習解説、補充演習	磯
第１０回	聴解テキスト学習　即時応答①　敬語表現、文末否定、慣用表現	磯
第１１回	聴解テキスト学習　即時応答②　練習問題１～８　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習④	磯
第１２回	聴解テキスト学習　即時応答③　練習問題９～20　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑤	磯
第１３回	聴解テキスト学習　即時応答④　練習問題21～30　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑥	磯
第１４回	聴解テキスト学習　統合理解①　統合理解とは　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑦	磯
第１５回	聴解テキスト学習　統合理解②　練習問題１～６	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	絶対合格！日本語能力試験　徹底トレーニングＮ１　聴解	教・出版社名１	アスク出版
教・著者名１	松岡龍美	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-776-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ⅡB			担当者				磯　永二
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／2018年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング				GE-LJ-2-012
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習	
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力を身につけていく。それにとどまらず、「読む」「書く」「話す」能力の向上もめざす。総合的な日本語力の向上は、本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解が深化し、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力獲得を目指している。そのためには日本語を反復して聞いて、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていき、充実した学生生活を送れるようにする。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	日本語能力試験Ｎ２合格が条件である。 Ｎ２を取得していない学生は履修することはできない。 Ｎ２レベルに満足するのでなく、さらにＮ１レベルを目指して意欲的に受講してもらいたい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	高いレベルの日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習には２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、Ｎ３、Ｎ２レベル文法確認演習	磯
第２回	Ｎ３、Ｎ２レベル文字・語彙確認演習　　聴解テキスト学習①　第１章１	磯
第３回	聴解テキスト学習②　第１章２，３	磯
第４回	聴解テキスト学習③　第１章４，５　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習①	磯
第５回	聴解テキスト学習④　第２章１，２　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習②	磯
第６回	聴解テキスト学習⑤　第２章３，４　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習③	磯
第７回	聴解テキスト学習⑥　第２章5，６，７	磯

第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯
第９回	第２回～第７回授業内容総括演習解説、補充演習	磯
第１０回	聴解テキスト学習⑦　第３章１，２　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習④	磯
第１１回	聴解テキスト学習⑧　第３章３，４　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑤	磯
第１２回	聴解テキスト学習⑨　第３章５　第４章１　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑤	磯
第１３回	聴解テキスト学習⑩　第４章２，３　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑦	磯
第１４回	聴解テキスト学習⑪　第４章４，５　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑧	磯
第１５回	聴解テキスト学習⑫　第５章　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑨	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験対策　日本語総まとめＮ１　聴解	教・出版社名１	アスク出版
教・著者名１	佐々木仁子、松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-791-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	文章表現入門			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-CH-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。 大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受検に対しての指導も行う。
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の６つ領域で構成している。 学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一歩一歩着実に高めていくことができる。 毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、授業態度（15%）、小テスト・復習テスト（15%）によって総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のＮ２（２級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受検を目標にして学修に取り組むことが望ましい。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	「日本語検定３級」に挑戦	雲津 英子
第２回	はじめに	雲津 英子

第３回	敬語の種類と使い分け	雲津 英子
第４回	注意すべき敬語	雲津 英子
第５回	配慮を示す言葉	雲津 英子
第６回	品詞・活用の種類	雲津 英子
第７回	ら抜き言葉・さ入れ言葉	雲津 英子
第８回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文	雲津 英子
第９回	接続後・指示語と文章	雲津 英子
第１０回	類義語・対義語	雲津 英子
第１１回	動詞の自他・視点	雲津 英子
第１２回	文体、話し言葉・書き言葉	雲津 英子
第１３回	コロケーション	雲津 英子
第１４回	部首・音訓・熟語	雲津 英子
第１５回	仮名遣い・送り仮名	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	スキルアップ！ 日本語力ー大学生のための日本語練習帳ー	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	名古屋大学日本語研究会ＧＫ７	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-80364-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	文章表現入門			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-CH-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。 大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受検に対しての指導も行う。
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の６つ領域で構成している。 学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一歩一歩着実に高めていくことができる。 毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、授業態度（15%）、小テスト・復習テスト（15%）によって総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のＮ２（２級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受検を目標にして学修に取り組むことが望ましい。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	「日本語検定３級」に挑戦	雲津 英子
第２回	はじめに	雲津 英子

第３回	敬語の種類と使い分け	雲津 英子
第４回	注意すべき敬語	雲津 英子
第５回	配慮を示す言葉	雲津 英子
第６回	品詞・活用の種類	雲津 英子
第７回	ら抜き言葉・さ入れ言葉	雲津 英子
第８回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文	雲津 英子
第９回	接続後・指示語と文章	雲津 英子
第１０回	類義語・対義語	雲津 英子
第１１回	動詞の自他・視点	雲津 英子
第１２回	文体、話し言葉・書き言葉	雲津 英子
第１３回	コロケーション	雲津 英子
第１４回	部首・音訓・熟語	雲津 英子
第１５回	仮名遣い・送り仮名	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	スキルアップ！ 日本語力ー大学生のための日本語練習帳ー	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	名古屋大学日本語研究会ＧＫ７	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-80364-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	文学への招待			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-CH-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	本講義のテーマは、詩・俳句・短歌・小説等の文学作品を読み鑑賞することを通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、学生が自分自身の生き方を多様で豊かなものにしていくことである。 学生が、その過程において、文学に使われている語彙や巧みな言語表現、文学作品にみられる豊かな構想力を自己のものにし、自己の言語表現能力の向上をめざすとともに、文学作品の鑑賞を通して自分自身の生き方を豊かなものにしようとする態度を身につけることを到達目標とする。
授業概要	詩・俳句・短歌・小説等の文学作品について、それぞれの作者や作品を生み出した歴史的背景、あるいは文化的背景に触れ、文学の発達のあらましやそれぞれの時代における文学の特質を学ぶ。また、文学作品を読み、印象に残った作家や作品について調べ発表したり、討論を行う。このような学修活動を通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、自分自身の生き方を豊かなものにするとともに、文学作品を読み、鑑賞することの意義を理解する。さらに、学生の図書館活用能力の向上のため、図書館の活用方法についての学修を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	レポート試験・受講態度などによって総合的に評価する。 レポート試験（70%）、発表・討論への参加（15%）、受講態度（15%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題（提出物・レポート）は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、ファイルを用意すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，大学図書館職員としての実務経験を持つ教員が，その経験を活かし，図書館の利用方法など，学生の読書活動，論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	大学図書館・県立図書館・市立図書館などで本を借りて、自宅においても積極的に読書をし、講義に臨むこと。 復習を行い、講義内容を十分に理解した上で、次回の講義を受講すること。予習および復習は、各2時間程度行うこと。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	文学とはなにか	雲津 英子
第２回	図書館活用方法の理解	雲津 英子
第３回	図書館活用の実践	雲津 英子

第４回	日本文学史（１）-上代文学	雲津 英子
第５回	日本文学史（２）-中古文学	雲津 英子
第６回	日本文学史（３）-中世文学	雲津 英子
第７回	日本文学史（４）-近世文学	雲津 英子
第８回	日本文学史（５）-近代文学	雲津 英子
第９回	日本文学史（６）-現代文学	雲津 英子
第１０回	夏目漱石・森鴎外・泉鏡花の作品（討論）	雲津 英子
第１１回	芥川龍之介の作品（討論）	雲津 英子
第１２回	宮沢賢治の作品（討論）	雲津 英子
第１３回	小林多喜二・太宰治の作品	雲津 英子
第１４回	詩・俳句・短歌（討論）	雲津 英子
第１５回	まとめ	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（レポート試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	日本文学概論	参・出版社名１	財団法人　放送大学教育振興会
参・著者名１	島内裕子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-595-31342-4
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	美術の見方			担当者	前嶋　英輝		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-CH-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	学生は、「自分なりの美術の見方を確立する」ことをテーマとして、美術作品について広い知識を持ち、自分の言葉で語ることができる能力を身につける。美術作品の「見方」の２つの可能性を考えてみる。１つめは、美術作品について客観的に知識として学習する見方であり、２つ目は、主観的に興味を持ち疑問を投げかけてみるような見方である。前者にはある程度の答えがあり、後者には答えは無い。この授業では、２つの見方を組み合わせて対話型鑑賞を行う。学生は、美術の見方を考えることで、自分の美術の見方ができるようになることを到達目標とする。
授業概要	毎回映像資料による対話型鑑賞を行う。毎回、先行研究として示されている各時代の作品の属性や意味、時代背景などについて学問的な検討を行う。　鑑賞の仕方を学ぶことが目的であるから、とにかく多くの美術作品にふれ、授業で紹介される作品について、自分なりに調べてみることが大切である。自分で考えた疑問などについて、授業内の対話や毎回の小レポートの中で深める事が大切である。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	この科目では、芸術について理解し自分の視点で鑑賞できる能力を身につけることを目的としていることから、発言を含む毎回のレポート（６0点）、 到達目標達成度を見る期末試験（40%）の割合によって評価を行う。詳しい評価内容については、最初の授業で説明する。課題については、評価すると同時に、結果を伝えながら指導を行い、フィードバックして学習の積み重ねの資料とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の小レポートについては、代表的なものを次回取り挙げてコメントしディスカッションの題材とすることでフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	事前に次回の授業内容を指示するので、美術作品について興味を持ち検索などで予習を行うことが必要である。また積極的に討論に参加するためにノートなどをもとに復習を行うことが重要である。対話型鑑賞では、自分の視点で意見を述べることが重要である。できれば自主的に美術館を訪れることを薦める。期末試験では、到達目標の理解度を見るため十分な復習が必 要である。 初回の授業で芸術作品についての調べ方や授業の進め方について詳しく説明する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。 中学校・高等学校での美術科教員および短期大学での美術担当教員、全国公募展審査員、彫刻家
事前学習・事後学習とそ	美術に関する書籍やネットの情報を参照し、授業のテーマに沿った内容について予習復習をおこなう。美術館など

の時間	に鑑賞に出かけることも重要である。　1コマ毎の授業に予習 2 時間、復習 2 時間が必要である。
オフィスアワー	2 号館 6 階の前嶋研究室において、毎週月曜日 5 時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第 1 回	対話型鑑賞と美術の見方	前嶋英輝
第 2 回	世界の美術館散歩	前嶋英輝
第 3 回	美術教育と人間形成・現代美術	前嶋英輝
第 4 回	古代オリエント	前嶋英輝
第 5 回	ギリシャ・ローマ・中世	前嶋英輝
第 6 回	ルネサンス・バロック・ロココ	前嶋英輝
第 7 回	新古典主義・印象派	前嶋英輝
第 8 回	後期印象派以降・セザンヌとキュービズム	前嶋英輝
第 9 回	インド美術とイスラム美術・東南アジアの美術	前嶋英輝
第 1 0 回	仏教美術の誕生とシルクロードの美術	前嶋英輝
第 1 1 回	飛鳥～平安・韓国美術の影響	前嶋英輝
第 1 2 回	鎌倉～室町・仏教彫刻・絵巻物・水墨画	前嶋英輝
第 1 3 回	安土桃山・障屏画	前嶋英輝
第 1 4 回	江戸・浮世絵・町人の美術	前嶋英輝
第 1 5 回	明治以降の美術・西洋美術の影響	前嶋英輝
第 1 6 回	単位認定試験	前嶋英輝

教科書			
教・書籍名 1	適宜プリントなどを配布する。予習復習も配布プリントによって行う。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ＩＳＢＮ 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名 1	テキスト名：絵画をいかに味わうか	参・出版社名 1	平凡社
参・著者名 1	著者：ヴィクトル・I・ストイキツァ	参・ＩＳＢＮ 1	978-4582206371
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生涯スポーツ論 経社・心理・子ども・アニメ			担当者	羽野　真哉		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-CH-0-005		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：年齢に応じたスポーツとの関わり方について理解する。 到達目標：学生が年齢に応じた「スポーツ」に参加することの意味を理解し、グループワークやディスカッションすることによって自らの言葉で伝えられるようになる。
授業概要	少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味は多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。具体的には、①生涯スポーツの概念や歴史、現状についての基礎的理解、②幼少年のスポーツ、新しいスポーツ、地域総合型スポーツクラブの現状と課題、スポーツと環境問題、スポーツ少年団の将来像について取り上げる。 これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通したスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。 なお、本演習は学校教員（保健体育）の実務経験者が担当し、学校現場の実態などを踏まえた討議などを行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	定期試験とレポートおよび授業態度にて評価する。定期試験を５０％とし、レポートの記述内容30％、授業での積極的発言など授業態度を２０％とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内に行う課題については、授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	授業内で配布される資料は各自でファイルにまとめ予習復習を行うこと。 授業内容を自分なりの考察も含めノートにまとめること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、本学硬式野球部で監督経験を持つ教員が、その経験を活かし、指導現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように、テキストの指定されたページをまとめるなど予習してくること。また、配布した資料や、講義内容を踏まえて学期末の定期試験を出題するので、授業終了後にノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習復習についてはそれぞれ2時間程度行うこと。
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室において、毎週金曜日２時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	スポーツ本来の姿	羽野
第２回	スポーツ観の返還	羽野
第３回	スポーツする身体	羽野

第４回	運動・スポーツとメンタルヘルス		羽野
第５回	スポーツの技術		羽野
第６回	体力について		羽野
第７回	心とスポーツ		羽野
第８回	発育・発達とスポーツ		羽野
第９回	現代社会とスポーツ		羽野
第１０回	スポーツの上達法		羽野
第１１回	健康のためのスポーツ		羽野
第１２回	スポーツと教育		羽野
第１３回	スポーツと経済		羽野
第１４回	スポーツ動作の分析		羽野
第１５回	競技スポーツと生涯スポーツ		羽野
第１６回	試験		筆記試験
教科書			
教・書籍名１	生涯スポーツの理論と実際	教・出版社名１	大修館書店
教・著者名１	日下 裕弘（著), 加納 弘二（著）	教・ＩＳＢＮ１	978-4469266986
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	生涯スポーツ実践論	参・出版社名１	市村出版
参・著者名１	野川春夫 (著), 川西正志 (著)	参・ＩＳＢＮ１	978-4902109290
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	生涯スポーツ実習 （アニメ・心理・経社）			担当者	天岡　寛		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CH-0-006		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	学生は実習通して、スポーツの楽しさを理解し、好きになってもらう。スポーツの楽しさである、人と関わる楽しさ、極める楽しさ、協力する楽しさ、創意工夫する楽しさ、考える楽しさ、勝敗の楽しさを理解することができる。 近年、社会環境の変化による、外遊びの減少、運動経験不足、基礎運動能力の低下が挙げられる。自分自身の体を自由自在に動かすことができるように、全身のコーディネーションと体幹の安定化を高める事ができる。全身持久力を高める事ができるようにボールを使った球技の中で、たくさんのボールにさわり、たくさんプレーすることによって高めることができる。 ☒
授業概要	球技（バスケットボール、フットサル、卓球、バトミントン）を通してルールを守り、仲間と助けあうことを体感する。 気軽にできる体幹トレーニングにより、基礎筋力、全身コーディネーションを高める。 ストレッチを学び、怪我予防を学ぶことができる。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	受講態度（50%）及び理解度（50%） 全力で取り組み、技術習得に努めてたか。 仲間と協力して、目的にむかってプレーしているか。 授業のマナー・ルールを守っているか。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために競技のルール等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	体育館シューズを準備。 運動できる服装の準備（ジーンズ等は認めない） 水分（水、スポーツ飲料、お茶）の準備 競技に関する競技規則等について、復習及び指示された予習を行うこと.
実務経験のある教員	該当する　内容：健康運動指導士
事前学習・事後学習とその時間	日ごろからスポーツや健康に興味関心を持つこと.
オフィスアワー	水曜日4時限目　9号館4階研究室

授業計画	担当者

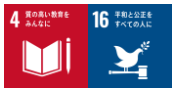
第１回	オリエンテーション	天岡
第２回	卓球	天岡
第３回	卓球	天岡
第４回	バスケットボール	天岡
第５回	バスケットボール	天岡
第６回	フットサル	天岡
第７回	フットサル	天岡
第８回	バトミントン	天岡
第９回	バトミントン	天岡
第１０回	器具を使用しての筋力トレーニング	天岡
第１１回	器具を使用しての筋力トレーニング　2	天岡
第１２回	自体重でできる筋力トレーニング	天岡
第１３回	自体重でできる筋力トレーニング　2	天岡
第１４回	フットサル　ゲーム１	天岡
第１５回	フットサル　ゲーム２	天岡
第１６回	単位認定試験	天岡

教科書			
教・書籍名１	実習科目につき教科書は使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	適宜指示する.	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	哲学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-GA-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。
オフィスアワー	月曜５限257研究室

授業計画		担当者
第１回	1.「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり	山本
第２回	初期の「哲学者」たち	山本
第３回	エレア派とその影響	山本
第４回	ソクラテスとその影響	山本
第５回	プラトン	山本
第６回	アリストテレスの哲学	山本
第７回	アリストテレスの第一哲学	山本
第８回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況	山本
第９回	西欧文明の成立	山本
	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革	

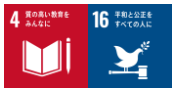
第１０回		山本
第１１回	ルネサンスと科学革命	山本
第１２回	科学革命と政治哲学	山本
第１３回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本
第１４回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名１	岩波新書
参・著者名１	熊野純彦	参・ＩＳＢＮ１	9784004310075
参・書籍名２	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	哲学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-GA-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。
オフィスアワー	月曜５限257研究室

授業計画		担当者
第１回	1.「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり	山本
第２回	初期の「哲学者」たち	山本
第３回	エレア派とその影響	山本
第４回	ソクラテスとその影響	山本
第５回	プラトン	山本
第６回	アリストテレスの哲学	山本
第７回	アリストテレスの第一哲学	山本
第８回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況	山本
第９回	西欧文明の成立	山本
	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革	

第１０回		山本
第１１回	ルネサンスと科学革命	山本
第１２回	科学革命と政治哲学	山本
第１３回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本
第１４回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名１	岩波新書
参・著者名１	熊野純彦	参・ＩＳＢＮ１	9784004310075
参・書籍名２	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	宗教学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-GA-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマは「世界宗教史」である。学生は講義を通じて、現生人類の誕生から新石器時代、文明の誕生を経て、ユーラシア西部や日本にどのような宗教が存在してきたか、そしてそれらが現代の我々にどのような影響を及ぼしているのかを知る。このことを通じ学生は、世界の多様な文化を理解することができる。これが到達目標である。
授業概要	後期旧石器時代・中石器時代・新石器時代・古代諸文明(メソポタミア、エジプト、カナアン、ギリシャなど)という段階を経て一神教(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)の成立までの流れを追い、そしてそれらの一神教の展開を概観する。これは主としてユーラシア大陸西半部の歴史上の諸宗教の紹介という形をとるが、文字資料のみならず画像などの視覚的情報を多用して、縁遠い時空に生きた人々の精神世界への理解を促したい。また、日本の宗教という話題にも、世界史的観点から言及する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	評価方法 小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	地理歴史の基礎知識。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。これを次回授業で確認する。
オフィスアワー	月曜5限257研究室

授業計画		担当者
第１回	人類史と宗教：旧石器時代から新石器時代へ	山本
第２回	日本の縄文時代、弥生時代、古墳時代の宗教	山本
第３回	文明誕生：メソポタミア	山本
第４回	エジプト文明	山本
第５回	古代ギリシャ文明	山本
第６回	ユダヤ教の成立	山本
第７回	ヘレニズム期の宗教	山本
第８回	キリスト教の成立と展開	山本
第９回	ローマカトリック	山本
第１０回	初期のイスラーム	山本

第１１回	宗教改革とその後	山本
第１２回	日本宗教史：古代・中世・近世	山本
第１３回	現代日本の宗教事情	山本
第１４回	現代世界の宗教事情	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１	配布資料	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	倫理学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-GA-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	主題は「暇と退屈」である。つまり、ヒトが暇であるという事態と退屈であるという事態である。我々にとって身近な「暇と退屈」を分析する。暇はあるが退屈はしないという、よき人生はどのようなものか考える。そして学生各位は暇を持て余すことのない、自分固有のよき人生への指針を獲得することができる。
授業概要	定住生活を開始して以来、人類とともにあり、個人や集団に破滅をもたらしたりすることもある「退屈」について、国分功一郎『暇と退屈の倫理学』を一緒に読みながら、注釈と批判を加え、ともに考えてゆく。その過程でパスカルやニーチェ、ラッセルやハイデッガー、ホッブズやルソー、マルクスやアーレントといった西欧思想の古典をこのテーマに関わる範囲で読むことになる。　また、定住革命論やユクスキュルの環世界論など、隣接するさまざまな領域の知見を学ぶ。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
履修条件・注意事項	「気分」のようなとらえにくいものについて、具体例に即して考える思考力、言語能力、忍耐力。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、教科書や配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。これを次回授業で確認する。
オフィスアワー	月曜5限257研究室

授業計画		担当者
第１回	「好きなこと」とは？	山本
第２回	パスカルとニーチェの退屈論	山本
第３回	暇と退屈の原理論	山本
第４回	定住革命について	山本
第５回	暇と退屈の系譜学	山本
第６回	暇と退屈の経済史	山本
第７回	ホッブズ、ルソー、マルクス	山本
第８回	暇と退屈の疎外論	山本
第９回	暇と退屈の哲学	山本
第１０回	環世界論	山本
第１１回	暇と退屈の人間学	山本
第１２回	ハイデッガー	山本

第１３回	暇と退屈の倫理学	山本
第１４回	スピノザ	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１	暇と退屈の倫理学	教・出版社名１	太田出版
教・著者名１	國分功一郎	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7783-1437-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	心理学 （経営・心理）	担当者	津川　秀夫、藤原　直子、土居　正人、橋本　翠、村上　勝典、若森　孝彰、森井　康幸、宇都宮　真輝
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-GA-0-004

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。学生は，人が生活している環境からいかに情報を取り入れ，蓄積し，利用するのか，あるいは，いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して，心理学のおもしろさに触れることができる。
授業概要	心理学は知覚、認知、発達、社会、パーソナリティーなどさまざまな領域において様々な研究が行われている。本講義では，いくつかの領域における研究対象，方法，得られた知見等の解説をオムニバス形式で行う。 ☒
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	小テスト(50%) と定期テスト(50%) の成績により評価する。 ただし、受講態度の悪い学生（私語、飲食、内職等・・・）については，この限りではない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストについては、授業中にフィードバックするので、定期試験に向けて、見直すこと。
履修条件・注意事項	テキストは使用しないので，集中して講義に参加すること。 授業担当者ごとに，2回に１回くらいの割合で小テストを行うので，特に復習には力を入れること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	基本的には、講義内で配布された資料をもとに復習すること。（2時間） テキストは使用しないが、一般的な心理学の本で該当箇所を対照させながら学ぶことが重要である（2時間）。体験的に学びを深めたい学生には、心理学実験への参加・協力をお願いする。
オフィスアワー	森井：月４　津川：月4　藤原：月2　橋本：月5　宇都宮：火4　土居：月2　村上：木3　　各教員研究室

授業計画		担当者
第１回	(1) オリエンテーション	全員
第２回	(2) 外界を探るこころの働き	橋本
第３回	(3) 感覚と知覚	橋本
第４回	(4) 記憶のふしぎ	森井
第５回	(5) 本能と学習	森井
第６回	(6) 性格とは	土居

第７回	(7) 心理検査について	土居
第８回	(8) 乳幼児期～青年期の発達	宇都宮
第９回	(9) 青年期の人間関係と心理	宇都宮
第１０回	(10) 対人認知	村上
第１１回	(11) 態度変容	村上
第１２回	(12) ストレス	藤原
第１３回	(13) ストレスと考え方	藤原
第１４回	(14) カウンセリング	津川
第１５回	(15) カウンセリングの実際	津川
第１６回	(16) 定期試験(筆記)	全員

教科書			
教・書籍名１	教科書は使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	心理学 (New Liberal Arts Selection)	参・出版社名１	有斐閣
参・著者名１	無藤・遠藤・玉瀬・森	参・ＩＳＢＮ１	978-4641053694
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	多文化理解			担当者				末吉　秀二	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			GE-GA-0-005	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義		
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限				

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味がもてるようになる。
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60%）、授業態度/積極性（20%）、課題レポート（20%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートの返却時に講評する。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	末吉秀二
第２回	古代オリエント	末吉秀二
第３回	アラブ・イスラーム世界の形成	末吉秀二
第４回	オスマン帝国とアラブ	末吉秀二
第５回	近・現代のアラブ社会	末吉秀二
第６回	アラビア語の基礎（文字と発音）	末吉秀二
第７回	アラビア語の基礎（文法）	末吉秀二
第８回	預言者ムハンマド	末吉秀二
第９回	コーラン	末吉秀二
第１０回	イスラーム法（シャリーア）	末吉秀二
第１１回	イスラーム文化（衣・食・住）	末吉秀二

第１２回	イスラーム文化（スーク/メディナ）	末吉秀二
第１３回	パレスチナ問題	末吉秀二
第１４回	事例研究（ヨルダン）	末吉秀二
第１５回	多文化理解（論文輪読）	末吉秀二
第１６回	単位認定試験	末吉秀二

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	イスラーム文化	参・出版社名１	岩波文庫
参・著者名１	井筒俊彦	参・ＩＳＢＮ１	4-00-331851-X
参・書籍名２	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2	中央公論社
参・著者名2	池内　恵	参・ＩＳＢN2	978-412-003990-4

授業科目名	多文化理解			担当者	末吉　秀二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-GA-0-005		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味がもてるようになる。
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60%）、授業態度/積極性（20%）、課題レポート（20%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートの返却時に講評する。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	末吉秀二
第２回	古代オリエント	末吉秀二
第３回	アラブ・イスラーム世界の形成	末吉秀二
第４回	オスマン帝国とアラブ	末吉秀二
第５回	近・現代のアラブ社会	末吉秀二
第６回	アラビア語の基礎（文字と発音）	末吉秀二
第７回	アラビア語の基礎（文法）	末吉秀二
第８回	預言者ムハンマド	末吉秀二
第９回	コーラン	末吉秀二
第１０回	イスラーム法（シャリーア）	末吉秀二
第１１回	イスラーム文化（衣・食・住）	末吉秀二

第１２回	イスラーム文化（スーク/メディナ）	末吉秀二
第１３回	パレスチナ問題	末吉秀二
第１４回	事例研究（ヨルダン）	末吉秀二
第１５回	多文化理解（論文輪読）	末吉秀二
第１６回	単位認定試験	末吉秀二

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	イスラーム文化	参・出版社名１	岩波文庫
参・著者名１	井筒俊彦	参・ＩＳＢＮ１	4-00-331851-X
参・書籍名２	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2	中央公論社
参・著者名2	池内　恵	参・ＩＳＢN2	978-412-003990-4

授業科目名	日本国憲法			担当者			入江　祥子	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			GE-SI-0-001	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限			
ディプロマポリシー対応項目								
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目		
ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に 							
到達目標	＜到達目標＞ 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 ＜テーマ＞ 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。							
授業概要	法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。 ＊実務経験のある教員による授業 　本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。							
アクティブラーニングの内容								
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢３０％、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価３０％、定期試験４０％の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。							
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。							

	原則として、配布物の再配布は行いません。		
実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。 本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させること。		
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。		

授業計画		担当者
第１回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江　祥子
第２回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江　祥子
第３回	法源とは何か、法の種類	入江　祥子
第４回	憲法とは何か、立憲主義	入江　祥子
第５回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江　祥子
第６回	国民主権の意味、その役割	入江　祥子
第７回	戦争の放棄、日本国憲法第９条	入江　祥子
第８回	人権とは何か、その役割	入江　祥子
第９回	人権の効果	入江　祥子
第１０回	人権の限界、公共の福祉	入江　祥子
第１１回	統治制度について、権力分立	入江　祥子
第１２回	立法権、国会の役割	入江　祥子
第１３回	行政権、内閣の役割	入江　祥子
第１４回	司法権、裁判所の役割	入江　祥子
第１５回	地方自治について	入江　祥子
第１６回	筆記試験	入江　祥子

教科書			
教・書籍名１	各回ごとに配布物を配り、それに従って授業を進める。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	六法	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本国憲法			担当者			入江　祥子	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			GE-SI-0-001	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜5限			
ディプロマポリシー対応項目								
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目		
ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に 							
到達目標	＜到達目標＞ 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 ＜テーマ＞ 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。							
授業概要	法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。 ＊実務経験のある教員による授業 　本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。							
アクティブラーニングの内容								
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢３０％、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価３０％、定期試験４０％の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。							
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。							

	原則として、配布物の再配布は行いません。		
実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。 本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させること。		
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。		

授業計画		担当者
第１回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江　祥子
第２回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江　祥子
第３回	法源とは何か、法の種類	入江　祥子
第４回	憲法とは何か、立憲主義	入江　祥子
第５回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江　祥子
第６回	国民主権の意味、その役割	入江　祥子
第７回	戦争の放棄、日本国憲法第９条	入江　祥子
第８回	人権とは何か、その役割	入江　祥子
第９回	人権の効果	入江　祥子
第１０回	人権の限界、公共の福祉	入江　祥子
第１１回	統治制度について、権力分立	入江　祥子
第１２回	立法権、国会の役割	入江　祥子
第１３回	行政権、内閣の役割	入江　祥子
第１４回	司法権、裁判所の役割	入江　祥子
第１５回	地方自治について	入江　祥子
第１６回	筆記試験	入江　祥子

教科書			
教・書籍名１	各回ごとに配布物を配り、それに従って授業を進める。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	六法	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	民法			担当者	生駒　正文		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SI-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	学生は日常生活の各場面で想定される法律の動きを知り、何がただしいのかという価値判断が求められる局面において、自ら考えて選ぶリーガル・マインドを獲得できる。 具体的には法の意義と、社会における法の役割を理解、実際の事件の中で、法がいかに問題解決のために機能しているか関心を持つこと、課題を法的な観点から検討できること、自分の考えを整理して、相手に論理的に説明する能力を身に着けることが個別目標です。
授業概要	我々の日常生活は、直接的・間接的に法律と関係しています。例えば、物の購入、家・金銭の貸し借り、結婚、親子関係、相続等、法律と無関係ではありません。我々の日常生活を規律する民法の基礎の基礎くらい知っておいた方が無難でしょう。 本講義では、日常生活の場面で想定される事態について、どのように民法がかかわるか考えます。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	試験７０％　授業態度・意欲・小テスト３０％の評価
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題、小テストは、後日添削し返却します。理解が不足の場合、再提出。
履修条件・注意事項	教科書持参、ノートをとること、考えることを原則に授業にのぞむこと
実務経験のある教員	該当する　内容：大阪簡易裁判所の民事調停委員として各案件の処理を行う（２０年）
事前学習・事後学習とその時間	授業計画ごとに教科書を復習・予習しておくこと（２時間）
オフィスアワー	１２：３０から１３：２０　１４号館６階（生駒研究室）

授業計画		担当者
第１回	（１）民法学の基礎知識（総則）　①民法とは何か、権利義務関係の基本となる能力	生駒正文
第２回	（２）民法学の基礎知識（総則）②制限行為能力者制度	生駒正文
第３回	（３）民法学の基礎知識（総則）③法人とは、物とは	生駒正文
第４回	（４）民法学の基礎知識（総則）④意思表示	生駒正文
第５回	（５）民法学の基礎知識（総則）⑤代理、時効	生駒正文
第６回	（６）民法学の基礎知識（財産法）⑥物権と債権、物権の種類、物権法定主義	生駒正文
第７回	（７）民法学の基礎知識　⑦物権の効力と物権変動（動産・不動産）	生駒正文
第８回	（８）民法学の基礎知識（財産法）　⑧即時取得、担保とは何か	生駒正文
第９回	（９）民法学の基礎知識（財産法）⑨一般的な不法行為	生駒正文

第１０回	（１０）民法学の基礎知識（財産法）　⑩特殊的な不法行為　賃貸借	生駒正文
第１１回	（１１）（３）家族法の基礎知識　⑪親族、婚姻、夫婦関係、離婚	生駒正文
第１２回	（１２）家族法の基礎知識　⑫親子関係、親権、相続	生駒正文
第１３回	（１３）家族法の基礎知識　⑬遺言	生駒正文
第１４回	（１４）家族法の基礎知識　⑭遺留分	生駒正文
第１５回	（１５）その他　⑮割賦販売、訪問販売	生駒正文
第１６回	（１６）定期試験	生駒正文

教科書			
教・書籍名１	ガイドブック法学	教・出版社名１	嵯峨野書院
教・著者名１	生駒正文・高田富男編著	教・ＩＳＢＮ１	９７８－４－７８２３－０５７０－６
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経済学			担当者	張　秉煥		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SI-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するのかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

授業計画		担当者
第１回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル	張秉煥
第２回	経済学の主要原理（１）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等	張秉煥
第３回	経済学の主要原理（２）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）	張秉煥
第４回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場	張秉煥
第５回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）	張秉煥
第６回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト１	張秉煥
第７回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用	張秉煥
第８回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用	張秉煥
第９回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例	張秉煥
第１０回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト２	張秉煥
第１１回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１２回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１３回	経済成長と公共政策、７２の法則とその応用、景気変動	張秉煥

第１４回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト３	張秉煥
第１５回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）	張秉煥
第１６回	定期筆記試験	張秉煥

教科書			
教・書籍名１	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	マンキュー入門経済学	参・出版社名１	東洋経済新報社
参・著者名１	N・グレゴリー・マンキュー	参・ＩＳＢＮ１	978-4492315217
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経済学			担当者	張　秉煥		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SI-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するのかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

授業計画		担当者
第１回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル	張秉煥
第２回	経済学の主要原理（１）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等	張秉煥
第３回	経済学の主要原理（２）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）	張秉煥
第４回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場	張秉煥
第５回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）	張秉煥
第６回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト１	張秉煥
第７回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用	張秉煥
第８回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用	張秉煥
第９回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例	張秉煥
第１０回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト２	張秉煥
第１１回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１２回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１３回	経済成長と公共政策、７２の法則とその応用、景気変動	張秉煥

第１４回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト３	張秉煥
第１５回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）	張秉煥
第１６回	定期筆記試験	張秉煥

教科書			
教・書籍名１	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	マンキュー入門経済学	参・出版社名１	東洋経済新報社
参・著者名１	N・グレゴリー・マンキュー	参・ＩＳＢＮ１	978-4492315217
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会学			担当者	黒宮　亜希子、稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SI-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	テーマ：基礎社会学を学ぶ（社会学とは何か？、労働・教育・地域・家族等の視点より） 到達目標：社会学の基本的な定義・考え方、具体的な社会問題、人口問題と環境、現代家族、教育、産業・労働の領域における現状と問題を理解し、その解決法を考えることとする。 受講生らが生きている現代社会の仕組みや出来事に関する理解を深める。 この講義を通じて、現代社会の様々な制度と問題を理解すること、また、自分の考えを文章で言語化し、記述する能力を向上することも併せて目標とする。
授業概要	この講義の目的は、社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、講義で学習した社会学的な見方、考え方を応用し、受講生の周囲で起こっている実際の出来事について考えることが出来るようにすることである。 具体的には、現代家族の変化、教育問題、非正規社員の増加と経済的格差、人口構造の変化などを取り上げる。 それによって学生たちは問題を理解し、社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中課題（40%）・定期試験（60%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題はコメントを入れ返却を行う。
履修条件・注意事項	・2名の教員がオムニバス形式で進行する。 ・毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。ファイル等で各自保管しておくこと。 ・日本語で自身の考えを記述する力が求められるため、日本語の力がまだ十分ではない留学生の受講に際してはやや注意を要する。 ・授業計画の内容は、進捗状況に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	黒宮：月曜4限（14625） 稲元：火曜3限（14611）

授業計画	担当者

第１回	授業オリエンテーション	黒宮・稲元
第２回	身近な社会学（1）地位と役割	黒宮
第３回	身近な社会学（2）ラベリング・スティグマ	黒宮
第４回	教育の社会学（1）学校とはなにか	稲元
第５回	教育の社会学（2）教育をめぐる諸問題	稲元
第６回	家族の社会学（1）家族とその変化	黒宮
第７回	家族の社会学（2）家族とジェンダー	黒宮
第８回	労働の社会学（1）学校から職場へ	稲元
第９回	労働の社会学（2）働くことの社会的な位置づけ	稲元
第１０回	地域の社会学（1）地域、コミュニティとは	黒宮
第１１回	地域の社会学（2）地域社会の今	黒宮
第１２回	自己と他者の社会学（1）他者のまなざし	稲元
第１３回	自己と他者の社会学（2）コミュニケーション	稲元
第１４回	社会問題を社会学する（講義、小括）	黒宮
第１５回	社会問題を社会学する（講義、小括）	稲元
第１６回	筆記試験	黒宮・稲元

教科書			
教・書籍名１	資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	授業内容に応じて適宜、文献を紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	社会学			担当者	赤坂　真人		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SI-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ 社会学入門（社会学とは何か・人口論・家族・教育・産業と労働） 到達目標 社会学の定義と考え方を学び、そのうえで現代社会の人口、現代家族、教育、産業と労働について述べる。次に、明確に意識されていない現代社会の様々な制度と問題を明確に認識させ、毎回実施する小テスト（記述式）で社会問題に対する自分自身の考えをまとめ、文章で記述・説明する能力を鍛える。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
授業概要	この講義の目的は社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、次に講義で学習した社会学的な見方、考え方を応用し、学生の周囲で起こっている日常の出来事について考えさせることである。具体的には人口減少に伴って起こる様々な問題、人口高齢化と年金・医療保険の問題、現代家族の変化、晩婚化・非婚化、教育の社会的意義、AI 化とこれからの教育、Society5.0における産業と労働、経済的格差、日本の経済不況と対策などを取り上げる。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中の小テスト（50%）・定期試験（50%）によって評価する。小テストは採点し、コメントつけて返却するので必ず復習すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義の最後20分間を使って、毎回論述式の小試験を行う。メールにより解答し教員の授業用メールボックスに返送する。教員は学生一人一人の論述に対し400～500字のコメントを書いて学生に返却する。教員からのコメントに対してさらに意見を述べた場合、それに対して再びコメント書いて返却する。
履修条件・注意事項	講義時間が減少するので学生の名前を読み上げて出席を取ることはしない。カードによる出席チェックの不正をしない。日本語が分からないと講義についてゆけないので留学生は履修の際、十分留意すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜4限（15：10～16：40）に、研究室（9309）にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	1.人間が社会を作るまで。2群れ（社会）で生きる人間。3.人間社会の大変動。	赤坂
第２回	1.社会学とは何か。2.社会のわかりにくさ。3.他の人間科学との相違。4.社会学の利用法。	赤坂
第３回	1.世界の人口動向。2.人口転換理論。3.日本の人口推移。4.少子高齢化。5.晩婚化と非婚化。	赤坂

第４回	1.生涯未婚率の推移。2.世界最速の高齢化。3.少子高齢化と経済の縮小・社会保障の危機。	赤坂
第５回	1.家族とは何か。2.家族の類型。３.世帯・親族・親戚。4.社会制度としての結婚。5.国家による管理	赤坂
第６回	1.結婚の社会的規制。2.非婚社会：日本。3.非婚の経済的原因。4.非婚の生物学的原因	赤坂
第７回	1.解体する家族。２.現代家族の問題。3.下流化する中高年。4.現代家族の病理と法的問題。	赤坂
第８回	1.液状化する社会。２.避けられぬ人口減少。3.男性未婚者。4.職業と未婚。5.世代間の不平等。	赤坂
第９回	1.教育の機能。2.メリトクラシーの崩壊と階層の固定化。3.学力低下論争。4.学力の二極化	赤坂
第１０回	1.教師の多忙化と燃え尽き。２.いじめ問題。3.校内暴力。4.不登校。5.学校は魅力をうしなったか	赤坂
第１１回	1.教育と職業。2.大学教育は仕事の役に立つか？3.中間集団としての学校。4.ニートの人々	赤坂
第１２回	1.産業の分類。2.賃金と労働。3.日本人の労働時間と失業率。4.日本的経営の終わり。5.日本経済の没落	赤坂
第１３回	1.日本経済の矛盾。2.生産性の低さ。3.日本経済没落の原因。4.経済再生の課題	赤坂
第１４回	1.職業とジェンダー。2.職業と階層。3.階層間格差。4.AI化と労働の未来	赤坂
第１５回	1.AI の進化と社会変動　2.インフォテック。3.フードテック。4.画像認識。5.拡張現実・その他	赤坂
第１６回	筆記試験	赤坂

教科書			
教・書籍名１	基礎社会学	教・出版社名１	ふくろう出版
教・著者名１	赤坂真人	教・ＩＳＢＮ１	978-4861864278
教・書籍名２	毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。	教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	講義中に役30冊の文献を紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	環境科学			担当者	秋山　純一		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。
授業概要	ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見的な問題意識を持ちどの様に対処すべきるかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。　試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習（1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。

授業計画			担当者
第１回	環境と人間のかかわりあい		秋山純一
第２回	環境における人類危機要因		秋山純一
第３回	生態系と人間		秋山純一
第４回	食物連鎖		秋山純一
第５回	物質循環		秋山純一
第６回	紫外線（作用と分類）		秋山純一
第７回	紫外線と皮膚（臨床）		秋山純一
第８回	紫外線と皮膚（防御）		秋山純一
第９回	オゾン層の破壊（原因）		秋山純一
第１０回	オゾン層の破壊（対策）		秋山純一
第１１回	環境ホルモン（作用）		秋山純一
第１２回	環境ホルモン（分類）		秋山純一
第１３回	環境ホルモン（影響）		秋山純一
第１４回	地球温暖化（原因）		秋山純一
第１５回	地球温暖化（対策）		秋山純一
第１６回	単位認定試験		秋山純一
教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	環境科学入門	参・出版社名１	化学同人
参・著者名１	川合　真一郎　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	環境科学			担当者	秋山　純一		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。
授業概要	ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見的な問題意識を持ちどの様に対処すべきるかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。　試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習（1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。

授業計画			担当者
第１回	環境と人間のかかわりあい		秋山純一
第２回	環境における人類危機要因		秋山純一
第３回	生態系と人間		秋山純一
第４回	食物連鎖		秋山純一
第５回	物質循環		秋山純一
第６回	紫外線（作用と分類）		秋山純一
第７回	紫外線と皮膚（臨床）		秋山純一
第８回	紫外線と皮膚（防御）		秋山純一
第９回	オゾン層の破壊（原因）		秋山純一
第１０回	オゾン層の破壊（対策）		秋山純一
第１１回	環境ホルモン（作用）		秋山純一
第１２回	環境ホルモン（分類）		秋山純一
第１３回	環境ホルモン（影響）		秋山純一
第１４回	地球温暖化（原因）		秋山純一
第１５回	地球温暖化（対策）		秋山純一
第１６回	単位認定試験		秋山純一
教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	環境科学入門	参・出版社名１	化学同人
参・著者名１	川合　真一郎　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	物理学			担当者	藤原　智子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	15回	授業形態	対面
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：物理学の１分野である天文学を中心に、簡単な実験やそれぞれテーマに沿った議論などを通じて、その歴史的背景や社会・生活で活用されている物理のエッセンスを体系的に学習する。 到達目標：「自然から学ぶ」や「論理的思考」とはどういうことかを理解する。
授業概要	太古の昔から、人類は頭上に広がる果てしない宇宙を見つめてきた。手の届かないところにある天体のふるまいを理解するには、まず身近な自然現象を観察し、そこにある物理法則に気付く必要がある。人々はどんな想いで宇宙を見つめてきたのか、宇宙を知るためにどんな挑戦をし、注意深く観察した星空から何を理解してきたのか。この授業では、太陽系天体、恒星や銀河など、宇宙に浮かぶ様々な天体の姿を紹介、そこで起こっている現象を身近な物理と結び付けて科学的に解説するだけではなく、星座や神話、人類の宇宙観など文化的内容、観測機器や宇宙開発(ロケットや人工衛星・探査機)等の技術的内容についても触れ、「宇宙」をテーマに幅広い内容を扱う。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	論述試験と出席で評価します。授業を受ける姿勢として、実験や議論に参加する積極性を重視します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や試験に対する質問は授業での回答の他、UNIPAやTeamsなどの機能を用いてフィードバックする。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画のテーマに関連するニュースやトピックスに注意を払い、事後学習として授業で学んだことに関して友人や家族と議論すること。 各１時間の学修が望ましい。
オフィスアワー	授業の前後に、教室において実施する。

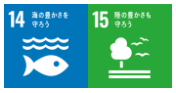
授業計画		担当者
第１回	ガイダンスー自然現象を理解するための物理学ー	藤原智子
第２回	宇宙観の変遷	藤原智子
第３回	星と文化①　星座と星物語	藤原智子
第４回	星と文化②　暦の成立	藤原智子
第５回	天体の記録と基礎データ①　天体の位置、明るさ、距離	藤原智子
第６回	天体の記録と基礎データ②　光のスペクトル	藤原智子
第７回	観測装置の発展①　光学・電波望遠鏡	藤原智子
第８回	観測装置の発展②　人工衛星・探査機	藤原智子
第９回	人工衛星・ロケットの仕組み	藤原智子

第１０回	宇宙の環境問題	藤原智子
第１１回	太陽系の素顔①　太陽系の天体	藤原智子
第１２回	太陽系の素顔②　太陽系を取り巻く環境・太陽系外惑星	藤原智子
第１３回	恒星の誕生と死	藤原智子
第１４回	私たちの起源と未来	藤原智子
第１５回	まとめ：宇宙と物理学のつながり	藤原智子
第１６回	レポート試験	藤原智子

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生物学			担当者	香田　康年		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

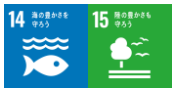
ＳＤＧｓ関連項目	１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう 
到達目標	【テーマ】 学生が、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なせそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。 【到達目標】 まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味がことなることを理解する。さらに生物のシンカがどのうような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。
授業概要	○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。 ○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容，範囲などは受講生の了解をとりながら適宜変更する。 ○ 受講生は，講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば，次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80%）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20%）で評価する。 ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。 各小テストは，論述記述式である。 講義の内容から，重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。 授業をとっていない友人に分かるような説明記述ができていることが，採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	過去の授業内容について度々Ｑ＆Ａを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。 複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験

	を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。
履修条件・注意事項	受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。 教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名されてから発言すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	【復習】 授業内容は常識と異なることが多く，授業は前回までの理解を前提に進めるので，毎回必ず復習し，理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。 復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように，充分理解し，ノート整理しておくこと。 【予習】 過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。

授業計画		担当者
第１回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？	香田康年
第２回	生物のシンカと一般用語としての「進化」	香田康年
第３回	生物のシンカの起こる仕組み	香田康年
第４回	なぜたくさんの生物がいるのか？　なぜ人間がいるのか？	香田康年
第５回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？	香田康年
第６回	科学とはどのような学問か？	香田康年
第７回	生物とは？	香田康年
第８回	どんな生物、どんな動物がいるのか？	香田康年
第９回	遺伝子と遺伝子の発現	香田康年
第１０回	本能と学習と理性の関係	香田康年
第１１回	利己的行動と利他的行動	香田康年
第１２回	非血縁者間の利他行動のシンカ	香田康年
第１３回	ゲーム理論とシンカ	香田康年
第１４回	様々な対人関係心理のシンカ	香田康年
第１５回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ	香田康年
第１６回	最終試験（記述式筆記試験）	香田康年

教科書			
教・書籍名１	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	「進化と人間行動」	参・出版社名１	東京大学出版会
参・著者名１	長谷川寿一、長谷川眞理子	参・ＩＳＢＮ１	4－13－012032－8
参・書籍名２	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ＩＳＢＮ2	978-4-569-76860-1

授業科目名	生物学			担当者			香田　康年	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			GE-NM-0-003	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限			
ディプロマポリシー対応項目								
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目		
ＳＤＧｓ関連項目	１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう 							
到達目標	【テーマ】 学生が、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なせそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。 【到達目標】 まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味がことなることを理解する。さらに生物のシンカがどのうような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。							
授業概要	○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。 ○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容，範囲などは受講生の了解をとりながら適宜変更する。 ○ 受講生は，講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば，次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。							
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク							
評価方法と割合	20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80%）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20%）で評価する。 ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。 各小テストは，論述記述式である。 講義の内容から，重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。 授業をとっていない友人に分かるような説明記述ができていることが，採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	過去の授業内容について度々Ｑ＆Ａを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。 複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験							

	を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。
履修条件・注意事項	受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。 教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名されてから発言すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	【復習】 授業内容は常識と異なることが多く，授業は前回までの理解を前提に進めるので，毎回必ず復習し，理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。 復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように，充分理解し，ノート整理しておくこと。 【予習】 過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。

授業計画		担当者
第１回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？	香田康年
第２回	生物のシンカと一般用語としての「進化」	香田康年
第３回	生物のシンカの起こる仕組み	香田康年
第４回	なぜたくさんの生物がいるのか？　なぜ人間がいるのか？	香田康年
第５回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？	香田康年
第６回	科学とはどのような学問か？	香田康年
第７回	生物とは？	香田康年
第８回	どんな生物、どんな動物がいるのか？	香田康年
第９回	遺伝子と遺伝子の発現	香田康年
第１０回	本能と学習と理性の関係	香田康年
第１１回	利己的行動と利他的行動	香田康年
第１２回	非血縁者間の利他行動のシンカ	香田康年
第１３回	ゲーム理論とシンカ	香田康年
第１４回	様々な対人関係心理のシンカ	香田康年
第１５回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ	香田康年
第１６回	最終試験（記述式筆記試験）	香田康年

教科書			
教・書籍名１	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	「進化と人間行動」	参・出版社名１	東京大学出版会
参・著者名１	長谷川寿一、長谷川眞理子	参・ＩＳＢＮ１	4－13－012032－8
参・書籍名２	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ＩＳＢＮ2	978-4-569-76860-1

授業科目名	化学			担当者	秋山　純一		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく，現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は，物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし，それらの性質，構造，反応性などを実証的に解き明かす。１８世紀後半から学問として体系付けられ，幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら，現代化学へと発展してきた。今日では，複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど，私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ，暮らしを豊かに，快適にしてくれている。一方，分子という考えの導入により，生命現象を化学的に解釈できるようになり，また生命現象を遺伝しのレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では，地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は香粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了毎および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。

授業計画	担当者

第１回	原子・分子の構造	秋山純一
第２回	化学結合	秋山純一
第３回	同位体と放射能	秋山純一
第４回	周期律表	秋山純一
第５回	化学反応、結合	秋山純一
第６回	酸化と還元（反応物質）	秋山純一
第７回	酸化と還元（燃料電池他）	秋山純一
第８回	物質の分類（金属、非金属）	秋山純一
第９回	水の化学（特性、硬度、pH）	秋山純一
第１０回	有機化合物の構造分類	秋山純一
第１１回	有機化合物の置換基分類	秋山純一
第１２回	有機合成の反応分類	秋山純一
第１３回	高分子化合物（天然）	秋山純一
第１４回	高分子化合物（合成）	秋山純一
第１５回	界面の化学（洗剤、乳化）	秋山純一
第１６回	単位認定試験	秋山純一

教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	教養の現代化学	参・出版社名１	三共出版
参・著者名１	多賀　光彦／共著　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	化学			担当者	秋山　純一		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく，現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は，物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし，それらの性質，構造，反応性などを実証的に解き明かす。１８世紀後半から学問として体系付けられ，幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら，現代化学へと発展してきた。今日では，複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど，私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ，暮らしを豊かに，快適にしてくれている。一方，分子という考えの導入により，生命現象を化学的に解釈できるようになり，また生命現象を遺伝しのレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では，地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は香粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了毎および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。

授業計画	担当者

第１回	原子・分子の構造	秋山純一
第２回	化学結合	秋山純一
第３回	同位体と放射能	秋山純一
第４回	周期律表	秋山純一
第５回	化学反応、結合	秋山純一
第６回	酸化と還元（反応物質）	秋山純一
第７回	酸化と還元（燃料電池他）	秋山純一
第８回	物質の分類（金属、非金属）	秋山純一
第９回	水の化学（特性、硬度、pH）	秋山純一
第１０回	有機化合物の構造分類	秋山純一
第１１回	有機化合物の置換基分類	秋山純一
第１２回	有機合成の反応分類	秋山純一
第１３回	高分子化合物（天然）	秋山純一
第１４回	高分子化合物（合成）	秋山純一
第１５回	界面の化学（洗剤、乳化）	秋山純一
第１６回	単位認定試験	秋山純一

教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	教養の現代化学	参・出版社名１	三共出版
参・著者名１	多賀　光彦／共著　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	人類生態学			担当者	末吉　秀二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-005		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	人類生態学の視点から、ヒトの環境への適応を理解することができるようになる。
授業概要	人類生態学は、個体群レベルで人間の生存をとらえ、その生業・食物・人口学的側面に関する包括的な研究から、ヒトの環境への適応を明らかにする学問分野と定義される。本講義は、①生態系のなかの人間、②人間の生存と健康、③人口からみた人間、④環境問題と人間の大テーマをブレークダウンして詳しく説明する。また、今日の環境問題や人口問題の本質について理解を深める。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（80%）、小テスト（10%）、受講態度（10%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、授業でフィードバックするので試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	指定した教科書は必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回講義で指定する章を通読し、不明な点を明確にすること（予習）、不明な点が理解できたかを確認すること（復習）。
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	末吉秀二
第２回	生態系と人類の特性	末吉秀二
第３回	人類の起源と進化	末吉秀二
第４回	生存様式の変化と多様性	末吉秀二
第５回	生業と社会	末吉秀二
第６回	身体とその機能	末吉秀二
第７回	行動の生態学	末吉秀二
第８回	栄養と健康	末吉秀二
第９回	病気の生態学	末吉秀二
第１０回	長期的な人口変化	末吉秀二
第１１回	人口指標と集団の適応	末吉秀二
第１２回	現代の人口問題	末吉秀二
第１３回	エネルギーと資源	末吉秀二
第１４回	ライフスタイルと環境	末吉秀二

第１５回	地球環境問題と人類	末吉秀二
第１６回	試験	末吉秀二

教科書			
教・書籍名１	人類生態学	教・出版社名１	東京大学出版会
教・著者名１	大塚柳太郎・河辺俊雄・高坂宏一ほか	教・ＩＳＢＮ１	4-13-052300-
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	数学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-007		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。
オフィスアワー	月曜5限

授業計画		担当者
第１回	数的推理：濃度	山本
第２回	数的推理：速さ・距離・時間	山本
第３回	数的推理：ものの値段と個数	山本
第４回	数的推理：定価・原価・利益	山本
第５回	数的推理：割合と値段	山本
第６回	数的推理：仕事算	山本
第７回	資料解釈：表の読み取り＆資料の読み取り	山本
第８回	数的推理：順列と組み合わせ	山本
第９回	数的推理：確率のとらえ方	山本

第１０回	判断推理：集合	山本
第１１回	判断推理：推論	山本
第１２回	判断推理：ものの流れと比率＆ブラックボックス	山本
第１３回	資料解釈：グラフの領域	山本
第１４回	判断推理：論証	山本
第１５回	空間把握：立体の展開図・断面	山本
第１６回	単位認定試験	山本

教科書			
教・書籍名１	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名１	永岡書店
教・著者名１	柳本新二	教・ＩＳＢＮ１	9784522460122
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	数学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-007		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。
オフィスアワー	月曜5限

授業計画		担当者
第１回	数的推理：濃度	山本
第２回	数的推理：速さ・距離・時間	山本
第３回	数的推理：ものの値段と個数	山本
第４回	数的推理：定価・原価・利益	山本
第５回	数的推理：割合と値段	山本
第６回	数的推理：仕事算	山本
第７回	資料解釈：表の読み取り＆資料の読み取り	山本
第８回	数的推理：順列と組み合わせ	山本
第９回	数的推理：確率のとらえ方	山本

第１０回	判断推理：集合	山本
第１１回	判断推理：推論	山本
第１２回	判断推理：ものの流れと比率＆ブラックボックス	山本
第１３回	資料解釈：グラフの領域	山本
第１４回	判断推理：論証	山本
第１５回	空間把握：立体の展開図・断面	山本
第１６回	単位認定試験	山本

教科書			
教・書籍名１	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名１	永岡書店
教・著者名１	柳本新二	教・ＩＳＢＮ１	9784522460122
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動学Ⅰ			担当者	井上　茂樹		
配当学科・研究科	2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2020～ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	HS-PT-1-108		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	ヒトの身体運動に関する基本的な知識を学修する。主に、上肢帯と上肢の運動、顔面および頭部の運動、運動学的分析、姿勢、歩行と走行、運動発達、運動学習に関して学修する。 学生は、１）身体運動に関する基礎的な知識を理解する、２）運動器の構造と機能を理解する、３）上肢帯と上肢の運動、顔面および頭部の運動、運動学的分析、姿勢、歩行と走行、運動発達、運動学習に関して理解を深め、基本事項を記憶できることを到達目標とする。
授業概要	運動学は理学療法士の最も基本的な学問であり、また臨床の理学療法士が治療場面で応用する学問である。授業ではその中で主に、上肢帯と上肢の運動、顔面および頭部の運動、運動学的分析、姿勢、歩行と走行、運動発達、運動学習に関して学修する。参加型学習における授業であるが、運動学の基本事項についてより理解度を深めるために課題を与え、グループ討論も取り入れた授業を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	参加型学習における授業への積極的参加態度（30%）、知識修得程度を確認するための試験（60%）、自ら調べまとめる能力を確認するための授業ノート（10%）で評価する。参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を重視する。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして、参加型学習法により授業を行うため、予習が必須である。 ２）指示に従って必ずノートを作成し復習すること。 ３）初回の授業では、今後の授業にて学修する全体像を説明するため必ず出席すること。 ４）隔週で行う小テストや定期試験は必ず行うため、授業に出席していただけでは単位は取れない。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員がその経験を活かし、臨床現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして、参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。指示に従って必ずノートを作成し復習すること。試験は必ず行うので、授業に出席していただけでは単位はとれないため、必ず予習復習を行うこと。予習および復習には、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	上肢帯の運動と構造	井上茂樹
第２回	上肢の運動と構造 肩関節（1）	井上茂樹
第３回	上肢の運動と構造 肘関節（2）	井上茂樹
第４回	上肢の運動と構造 手関節（3）	井上茂樹
第５回	上肢の運動と構造手指（4）	井上茂樹

第６回	運動と動作の分析（1）	井上茂樹
第７回	運動と動作の分析（2）	井上茂樹
第８回	体力と運動処方（1）	井上茂樹
第９回	体力と運動処方（2）	井上茂樹
第１０回	姿勢（1）	井上茂樹
第１１回	姿勢（2）	井上茂樹
第１２回	姿勢（3）	井上茂樹
第１３回	歩行と走行（1）	井上茂樹
第１４回	歩行と走行（2）	井上茂樹
第１５回	歩行と走行（3）	井上茂樹
第１６回	単位認定試験	井上茂樹

教科書			
教・書籍名１	基礎運動学　第6版　補訂	教・出版社名１	医歯薬出版
教・著者名１	中村隆一、齋藤　宏、長崎　浩	教・ＩＳＢＮ１	978-4-263-21153-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	作業療法概論 （オムニバス）			担当者	岩田　美幸、三宅　優紀、狩長　弘親、山本　倫子、京極　真、寺岡　睦		
配当学科・研究科	2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2020～ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	HS-OT-1-201		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】 学生は、将来、作業療法士として従事することを目指し、保健・医療・福祉、あるいは新しく開拓される領域での作業療法の役割を多様な観点で捉えることができる。 【到達目標】 学生は、作業療法の専門性と独自性を明確に理解できることを目標とする。
授業概要	作業的存在としての人と作業療法の役割を理解するために、作業のイメージを明確にし、各領域における作業療法の実践過程を理解する。また、作業療法の歴史的背景と実践理論の概要を学び、根拠に基づく実践の重要性と今後の作業療法への展望について検討する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業への参加度（50%）、単位認定レポート試験（50%）の結果で総合評価する。 なお、単位認定レポート試験は採点結果を返却し、模範解答を掲示する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内で課題や試験のフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	グループワークや発表時に欠席した場合は成績評価に大きく影響するため、必ず担当教員に連絡すること。 日常生活の中で人（自分自身も含む）と作業の関係について洞察を深めること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、作業療法士としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、臨床現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業を確実に理解できるように教員が指定する内容を必ず1時間以上予習し、主体的に参加すること。また、授業後は重要な事項を必ず1時間以上復習しておくこと。
オフィスアワー	月曜4限（15：10～16：40）、6428研究室 ※他教員のオフィスアワーは別途確認

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション，作業とは何か	京極
第２回	作業療法の対象，Enabling occupation	岩田
第３回	身体障害領域の作業療法	寺岡
第４回	精神障害領域の作業療法	山本
第５回	高齢者・認知症の作業療法	岩田
第６回	作業療法の歴史（起源）	京極
第７回	作業療法の歴史（パラダイムシフト）	京極
第８回	作業療法の実践理論（OBP2.0、MOHO）	寺岡
第９回	作業療法の実践理論（CMOP-E・OTIPM）	寺岡
第１０回	高次脳機能障害領域の作業療法	狩長

第１１回	発達障害領域の作業療法	外部講師
第１２回	生活行為向上マネジメント	狩長
第１３回	作業療法における研究の重要性	三宅
第１４回	予防領域の作業療法	三宅
第１５回	作業療法を取り巻く状況、まとめ	狩長
第１６回	試験	京極

教科書			
教・書籍名１	作業療法学概論 第3版（標準作業療法学専門分野）	教・出版社名１	医学書院
教・著者名１	二木淑子・能登真一	教・ＩＳＢＮ１	978-4260025355
教・書籍名２	「作業」って何だろう－作業科学入門 第2版	教・出版社名2	医歯薬出版
教・著者名2	吉川ひろみ	教・ＩＳＢＮ2	978-4263216675

参考書			
参・書籍名１	基礎作業学 第3版（標準作業療法学専門分野）	参・出版社名１	医学書院
参・著者名１	濱口豊太	参・ＩＳＢＮ１	978-4260030557
参・書籍名２	作業療法士になろう！	参・出版社名2	青弓社
参・著者名2	齋藤さわ子	参・ＩＳＢＮ2	978-4787210531

授業科目名	人間と作業			担当者	寺岡　睦		
配当学科・研究科	2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2020～ 2022年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	HS-OT-1-217		
必修・選択	必須	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義、AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：学生は，作業療法士が主とする「作業」が健康と幸福に与える影響を理解できる 到達目標：学生は，講義とアクティブラーニングを通して，作業が人間の健康と幸福に与える影響を理解できる
授業概要	作業とは，人間が経験すること全てである． 作業療法士になるためにはこの作業を理解し，作業療法という方法を使ってクライエントへ介入を行う必要がある． そのためには作業がもつ力を理解し，健康と幸福に近づく作業の使い方を教えたり，やり方を変更したり，自身で運用できるようになることが求められる． 作業は経験である以上，どのような経験を積むかによって将来の健康と幸福が変化する． 質の悪い経験＝作業機能障害を積み重ねると人の健康と幸福は阻害される． しかし質の良い経験＝作業機能状態を積み重ねると人の健康と幸福は促進される． この科目では，健康と幸福に特に良い影響を与える作業を学生に紹介し，実際に体験する時間を設けることでその影響や効果を理解し，解釈出来るように構成している． この科目は，作業科学を研究し，臨床現場で実践していた者が講義を行う．人間が行う作業が健康と幸福に関連する基礎知識に加え，臨床現場での活用方法なども講義し学生の理解を深める． ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は，作業に根ざした実践の研究及び臨床での実務経験を持っている教員が，その経験を活かし実践的に役立つ授業を実施する．
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	試験60%，提出物20%，授業への態度20%で評価する．なお，提出物へのフィードバックは授業内で行う．
ルーブリック評価	本科目ではルーブリック評価を用いる。 /uprx/sagyou.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題提出のフィードバックは書面上、もしくは授業時間内に行う。 試験のフィードバックは提出された問題用紙の返却をもって行う。
履修条件・注意事項	授業の復習をきちんと行うこと 講義内で出た課題には取り組むこと
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、作業に根ざした実践の研究及び臨床での実務経験を持っている教員が、その経験を活かし実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習はシラバスについて記載されているテーマについて教科書を読み，事前にインターネットなどを活用し調べておくこと． 予習の時間は1時間程度とする． 講義終了時に，作業を習得して効果を体験してもらうために課題を毎回出すので必ず行うこと．

	課題は３０分～1時間程度で行える内容で提供する．課題は次回の講義前までに提出すること．
オフィスアワー	授業終了後，教室で行う．それ以外は月曜か金曜に6430研究室で対応する

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	寺岡
第２回	作業と健康と幸福の関係性	寺岡
第３回	意志力と作業、演習、課題発表	寺岡
第４回	疲労と作業、演習、課題発表	寺岡
第５回	感謝と作業、演習、課題発表	寺岡
第６回	フローと作業、演習、課題発表	寺岡
第７回	人間関係と作業、演習、課題発表	寺岡
第８回	挫折と作業、演習、課題発表	寺岡
第９回	ストレス軽減と作業、演習、課題発表	寺岡
第１０回	強みと作業、演習、課題発表	寺岡
第１１回	レジリエンスと作業、演習、課題発表	寺岡
第１２回	習慣と作業、演習、課題発表	寺岡
第１３回	自己肯定感と作業、演習、課題発表	寺岡
第１４回	睡眠と作業、演習、課題の発表	寺岡
第１５回	人間と作業まとめ	寺岡
第１６回	単位認定試験	寺岡

教科書			
教・書籍名１	「作業」って何だろう　作業科学入門　第2版	教・出版社名１	医歯薬出版
教・著者名１	吉川ひろみ	教・ＩＳＢＮ１	4263216679
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	発達心理学			担当者				宇都宮　真輝	
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2018年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング			PS-PS-1-307	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義		
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜2限				

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマは、様々な視点から人間の発達過程について理解することである。そのために、身体、脳、感情、認知、人間関係の発達など、様々な観点から人間の発達を分析し、理解するための知識を身に付けられるようになることを到達目標とする。
授業概要	胎児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期の各時期における発達の様相や発達課題について様々な観点から学習する。また、各発達段階における臨床的問題についても学習し、心理的援助についての考察も深める。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	評価は、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）、期末試験（60%）とし、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト、レポートは授業時間内に答え合わせやフィードバックを行う予定。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 事前に各回の内容について伝達するので、予習を行うこと。小テストなども行うので、自身の習熟度を確認し、復習を欠かさないこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：臨床心理士、公認心理師の資格を有しており、心理相談室、学生相談、スクールカウンセリングにおける実務経験あり。
事前学習・事後学習とその時間	予習として次回の内容について教科書を読んでくること。授業で学習し、ノートにまとめた内容について復習してくること。次回の授業時に口頭で質問したり、小テスト等で確認します。予習・復習には、1－2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室にて、火曜日4時限に実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	ライフサイクルについて	宇都宮
第３回	胎児期	宇都宮
第４回	新生児期	宇都宮
第５回	乳児期：愛着の形成	宇都宮
第６回	乳児期：言葉の発達	宇都宮
第７回	幼児期：表象の獲得	宇都宮
第８回	幼児期：社会性の発達	宇都宮
第９回	児童期：有能感と劣等感	宇都宮
第１０回	児童期：学校への適応・いじめ	宇都宮

第１１回	青年期前期		宇都宮
第１２回	青年期後期		宇都宮
第１３回	青年期の病理		宇都宮
第１４回	成人期		宇都宮
第１５回	まとめ		宇都宮
第１６回	期末試験（筆記試験）		宇都宮
教科書			
教・書籍名１	よくわかる発達心理学	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-05379-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	保育の心理学Ⅰ			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2017～ 2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～ 2018年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017～ 2018年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	PS-CE-2-213		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	発達は人と人の関わりのなかで生じていることを中心に、乳幼児の保育や幼児教育を行っていくうえで必須となる子どもの心身発達の基礎となる心理学的知見を学ぶことをテーマとする。 到達目標：子どもの生得的なすばらしい能力とその発達過程を理解し、子どもに対する興味・関心を高め、より多面的に理解できるようになる。
授業概要	保育実践における子どもの発達理解の意義について学ぶとともに、発達に関わる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。また、子どもの発達に関わる他者との関わり、社会的相互作用等についても理解する。さらに、生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育実践との関わりについて考察する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	ほぼ隔週で行う小テストまたはミニ・レポートの得点（３０％）と定期試験の得点（７０％）に、受講態度の評価点（０～１）を乗じたもので評価する。したがって、テストで満点であっても、受講態度の評価点が 0.5 の場合は100点×0.5で50点となるので注意すること。小テストは採点後、返却するので、定期試験に向けて、しっかり見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストの返却と、必要に応じて補足解説を行う。
履修条件・注意事項	上述のように、ほぼ隔週で小テストを行なうので、最低限、教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 小テストは前回の授業内容の復習テスト、あるいは当日の授業内容の理解テストを中心に行なう予定である。 保育士の資格取得には必須科目である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、あらかじめテキストに目を通しておくこと。（2時間） 復習は、配付資料とともに、再度テキストを読むこと。（2時間） 返却された小テストも確認しておくこと。
オフィスアワー	月曜4限　　教員研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	発達を考える（第1章）	森井
第３回	人との関わりの基盤	森井

第４回	子ども同士の関わりの進展	森井
第５回	身体的機能と運動機能の発達－個人差と環境－	森井
第６回	運動機能の発達と心理的発達との関連	森井
第７回	ピアジェ理論とその再検討	森井
第８回	世界づくりの開始―認知発達の基盤	森井
第９回	世界づくりの展開―身の回りの世界についての理解の構成	森井
第１０回	言語発達の基礎―人との関わりから育まれる言葉	森井
第１１回	言語を使った世界の広がり	森井
第１２回	乳幼児期の学びに関わる理論	森井
第１３回	乳幼児期の学びの過程と特性	森井
第１４回	乳幼児期の学びを支える保育	森井
第１５回	まとめ	森井
第１６回	定期試験	森井

教科書			
教・書籍名１	保育の心理学	教・出版社名１	北大路書房
教・著者名１	藤﨑 眞知代・無藤 隆	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7628-3152-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	エピソードで学ぶ　乳幼児の発達心理学	参・出版社名１	新曜社
参・著者名１	岡本依子・菅野幸恵・塚田-城みちる	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7885-0907-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	デジタルメディアと社会			担当者	大谷　卓史		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2019年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	AN-AN-1-108		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	映像をもとに、現代の情報技術とコミュニケーションをめぐる倫理的問題について学ぶ。 現代は、情報技術が広く社会に浸透し、人びとのコミュニケーションと行為を媒介する情報社会である。また、現代の情報技術はデジタルコンピューティングをベースとしているので、現代の社会はデジタル技術とデジタルメディアを行為とコミュニケーションの基盤とする社会と見ることができる。 本講義は、デジタルメディアを媒介とする行為・コミュニケーションの性質を理解し、これらの行為･コミュニケーションにおける規範がどのようなものであるべきか構想するために必要な情報倫理学の基本的な考え方を学ぶ。 到達目標は、学生が次の３つのことができるようになることである。 １．デジタルメディアが媒介する行為やコミュニケーションの性質を理解できるようになる。 ２．倫理学の基本的な考え方とその枠組みを理解できるようになる。 ３．デジタルメディアが媒介する行為やコミュニケーションにおいて、どのような法的・倫理的問題が生じる可能性があるか理解できるようになる。 ラーニングアウトカムは、「デジタルメディアと情報社会の理解」および「デジタル社会への参加態度」である。
授業概要	現代において、デジタルメディアが媒介する私たちの行為とコミュニケーションにかかわる諸問題について、仮想的事例や現実の事例から学ぶ。これらの諸問題に対する基本的なアプローチには、1980年代以降に発展してきた情報倫理学の考え方と枠組みを活用する。 具体的実例を通して、現代の生活や社会のさまざまな局面における情報技術の働きを知るとともに、情報技術が基盤となる現代社会における情報とコミュニケーションの倫理的問題について考察する。授業では適宜映像作品やドキュメンタリー、講演・シンポジウムの映像記録などを活用して、現代的問題を考察できるようにする。 講義の最終回に全体のまとめをおこなう。 毎回簡単な課題提出を求める。内容は自分の意見であれば自由で採点には関係がないが、授業内容を理解したうえでの意見であるかどうかなどを課題で確認する。課題に対しては、次回以降授業担当者から返答を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義内における自主的な質問・発言やディスカッションへの積極的な参加態度、講義内容にかかわる教員からの質問への回答を30%の重みづけで評価する（受講態度）。また、課題等の提出物10%、試験の成績を60%として最終的に総合評価を行う。これらの３つの評価をバランスよく得ていることを単位認定（到達目標）の判断基準とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィード	授業課題に関しては、次回授業でコメントシート（シャトルカード）や、授業内での言及・コメントなどによって

バック方法	（原則課題回答者名は匿名）、フィードバックする。
履修条件・注意事項	授業に積極的に取り組む姿勢が単位取得には必要です。 講義形式の場合も、授業中に受講者に対して質問をします。また、授業の最後には、授業内容に関連した課題を出しますので、解答してください。解答に対しては、次回以降の授業でコメントや解説をします。 授業計画の内容は、理解度の状況に応じて変更になることがあります。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対して、次のように予習・復習をおこなうこと。 予習：レジュメ等の資料を配布するので、指示に従って予習すること。約2時間。 復習：授業内容と資料を要約し、授業内で提示された課題について自分自身で考え回答する。約2時間。
オフィスアワー	春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室） 秋学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室）

授業計画		担当者
第１回	イントロダクション	大谷
第２回	なぜ情報倫理が必要なのか	大谷
第３回	倫理とは何だろうか（１）倫理学と倫理・倫理学で使われる言葉	大谷
第４回	倫理とは何だろうか（２）倫理学の基本的な立場	大谷
第５回	グーグル革命（ビデオ教材）視聴と解説	大谷
第６回	サーチエンジンの倫理	大谷
第７回	ソーシャルネットワーキングサービス	大谷
第８回	フェイクニュースと情報の信頼	大谷
第９回	プライバシーの基礎	大谷
第１０回	個人情報保護制度とその思想	大谷
第１１回	監視と見守り	大谷
第１２回	著作権の法・技術・ビジネス	大谷
第１３回	AI・ロボットの倫理	大谷
第１４回	バーチャルリアリティー	大谷
第１５回	まとめ	大谷
第１６回	筆記試験（オンライン試験機能利用も）	大谷

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	改訂新版　情報倫理入門	参・出版社名１	アイ・ケイコーポレーション
参・著者名１	土屋俊監修、大谷卓史編著、江口聡、喜多千草、永崎研宣、村上祐子、坪井雅史、川口嘉奈子、吉永敦征、川口由起子著	参・ＩＳＢＮ１	4874923240
参・書籍名２	AIの倫理学	参・出版社名2	丸善出版
参・著者名2	クーケルバーグ著、直江清隆訳者代表	参・ＩＳＢN2	978-4621305881

授業科目名	経営学総論			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	SS-BU-1-101		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「経営学の全体像の理解」がテーマである。到達目標は、この講義を通じて経営学の基礎知識、企業に関する基礎知識を習得し、それを活用して経営学の用語の説明、応用ができるようにすることが目標である。また、経営学の全体像を理解することを目標とする。さらに、次のような能力が養成されることを目標にする。教科書と資料を読み、調べることによって、読む力、調べられる力が養われる。企業経営の仕組みを調べて、それを整理し、まとめる力を涵養する。さらに、講義の内容について質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力が養われる。
授業概要	講義概要と目的は次のとおりである。経営学は社会科学の1分野であり、我々が生きていく上で関わりが深い重要な学問である。 　本講義では、経営学に関する基礎的な概念と理論を中心にとりあげ、わかりやすく解説し、それを理解することを狙いとする。講義内容は、株式会社の仕組み、日本の雇用制度、競争戦略のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ、組織構造のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄなどである。また、講義は教科書を中心に進行し、必要に応じて参考資料を配布する。皆様はこの講義を通して経営学の基礎的な知識を学び、それを活用することができる。ﾋﾞﾃﾞｵ教材も活用する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	授業態度・貢献度(40%)、単位認定試験(60%)によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	教科書購入。積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、ﾒｰﾙ、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。教科書あるいは配布した資料を事前によく読むこと。また、毎回復習をして、自分のものにしておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前には参考資料の予習(毎回2時間)と講義後には復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	姜
第２回	2.企業経営の全体像	姜
第３回	3.経営学の全体像	姜
第４回	4.株式会社の仕組み	姜
第５回	5.日本の雇用制度の仕組み	姜
第６回	6.ｹｰｽの研究	姜
第７回	7.競争戦略のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	姜
第８回	8.多角化戦略	姜
第９回	9.組織構造のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	姜
第１０回	10.組織構造のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	姜
第１１回	11.ｹｰｽの研究	姜
第１２回	12.ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	姜

第１３回	13.情報ｼｽﾃﾑと事業の仕組み		姜
第１４回	14.経営学の広がり		姜
第１５回	15.全体のまとめ		姜
第１６回	16.単位認定試験		姜
教科書			
教・書籍名１	1からの経営学(第2版)	教・出版社名１	中央経済社
教・著者名１	加護野忠男・吉村典久 編著	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	政治学			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	SS-BU-1-104		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	大学で政治の問題を学ぶ意義は、専門的な概念を用いた理論的観点を通じて学ぶことになる。しかし、政治に対する考え方は極めて多意であり、それらを説明する概念や接近の仕組みも学者によって異なる。そのために受講生は、様々な政治関連の問題について、自らの立場で自分の見解や判断力を持つことを期待する。 この講義を受講すれば、成熟した自由社会の民主政治における政治的な出来事の理解、すなわちその背景と要因、そして、こうした相互関連性について知ることができる。それは、現代社会の一市民としての教養と姿勢が修得できる。
授業概要	この講義では、様々な政治現象を分析し説明する。なお、複雑な政治現象の仕組みを理解するためには、政治学の基礎的な概念と考え方、そして理論についての説明は不可避である。講義の主な内容は、政治学の基礎知識を習得しながら、「先進民主主義国・日本の政治と社会」について、様々なトピックを取り上げて説明する。そのため、受講生は、日常の政治社会学的な出来事とその経済的関連について関心を持つことが大切である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	政治とは何か	李　分一
第３回	現代社会と政治	李　分一
第４回	政治の地位と役割	李　分一
第５回	国家論	李　分一
第６回	政治学の行動科学主義的方法	李　分一
第７回	政治学の歴史的接近方法	李　分一
第８回	政治と権力	李　分一
第９回	支配の正当性	李　分一
第１０回	権力の分立	李　分一
第１１回	政治的リーダーシップの意義	李　分一
第１２回	政治的リーダーと大衆	李　分一
第１３回	現代社会と政治的指導力	李　分一

第１４回	政治文化	李　分一
第１５回	政治参加	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	プリント使用	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本社会論			担当者	赤坂　真人		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-105		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ 現代日本社会のさまざまな問題、具体的には、女性差別、女性と労働、男女共同参画社会、LGBTQ、逸脱と犯罪、都市と農村、過疎と過密、疲弊する農村、宗教と社会、死生観等に関する現状と問題を理解させ、その解決法を考える。 到達目標 多くの学生たちは、自分たちが生きている社会の仕組みや出来事について明確に理解していない。講義においては、まず現代日本社会が直面している様々な日常的な問題と制度上の矛盾に関する問題点を理解させる。次に、毎回講義のテーマに関する小テスト（記述式）を実施し、社会問題に関する見解と問題の解決法を考えさせ、それらを適切な文章で表現する能力を鍛える。
授業概要	講義で学んだ社会学的な見方、考え方を応用し、学生の周囲で起こっている現代日本および世界の社会問題を認識、分析し、解決策を考えさせる。具体的には、日本社会における男女差別、性別役割問題、LGBTQ、逸脱と犯罪、監視と個人情報、社会統制、都市と農村、過疎と過密、疲弊する農村、日本人と宗教、世界の宗教、死生観をテーマとして講義を行う。講義の終了前20分で、講義のテーマに関する記述式小テストを実施し、メールで教員のメールボックスに解答を送る。教員は解答を採点し、400字程度のコメントを書いてフィードバックする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	講義内小テスト（50%）と定期試験（50%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義時間の終盤20分間を使って毎回、論述式の小テストを行う。小テストはメールで教員専用のメールボックスに送り、教員はそれを採点後400～500字のコメントを書いて学生に返送する。もし学生がコメントに対してさらなる意見を表明しメールを送ってきた場合、教員はそれに対して再びコメントを書き返送する。
履修条件・注意事項	記録上は出席になっていても小テストの解答がない場合、欠席とする。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜４限（15：10～16：40）に研究室で実施

授業計画		担当者
第１回	1.講義内容と評価。2.社会生活をする人間。3.人類の変化と社会変動。4.BCI・ゲノム編集・人工生命。	赤坂
第２回	1.多様性容認の時代へ。2.ジェンダーとセックス。3.フェミニズム。4.ジェンダー研究の歴史。	赤坂
第３回	1.ジェンダーと労働　2.男女の職業格差。3.男女平等のデメリット。4.進化理論から逸脱した人間。	赤坂
第４回	1.逸脱とは何か。2.逸脱論の創始者E.デュルケーム。3.自殺論。4.逸脱に関する3つの理論。	赤坂
第５回	1.逸脱の7つの理論。2.ルールの法制化。3.高度産業社会における逸脱。4.社会統制と道徳。5.日本の現状。	赤坂
第６回	1.都市に集住する人々。2.都市とは何か。3.無縁化社会。4.孤独な群衆。5.過疎と過密。	赤坂
第７回	1.都市への集中と地方の消滅。2.コンパクトシティ。3.地方生活の諸問題。4.過疎を止められる	赤坂

	か。	
第８回	1.過密。2.都市的ライフスタイル。3.地域社会の崩壊。4.未来の都市。5.地方の取り組み。	赤坂
第９回	1.消えてゆく町と村。2.地方財政の圧迫：インフラ。3.地方都市の未来。4.都市の経営戦略。	赤坂
第１０回	1.日本人と宗教。2.日本人の宗教の源流。3.宗教とは何か。4.科学・イデオロギー・哲学・宗教。	赤坂
第１１回	1.宗教と連帯。2.宗教と生きる意味。3.宗教の世俗化。4.人口知能は神になるか。	赤坂
第１２回	1.宗教の復権。2.日本仏教の衰退。3.ゾロアスター教。4.ユダヤ教。5.宗教生活の原初形態。	赤坂
第１３回	1.ヒンディー教。2.バラモン教と仏教。3.仏教の変容。4.キリスト教。5.イスラム教。	赤坂
第１４回	1.死生学とは何か。2.生きる苦しみ。3.セネカ・トルストイ・ソロー。4.日本人と死。5.安楽死の是非。	赤坂
第１５回	1.科学技術の発展と社会変動。2.自動化。3.ロボット。4.AR（拡張現実）。5.技術への期待と不安。	赤坂
第１６回	定期試験	赤坂

教科書			
教・書籍名１	基礎社会学	教・出版社名１	ふくろう出版
教・著者名１	赤坂真人	教・ＩＳＢＮ１	978-4861864278
教・書籍名２	毎回ハンドアウトを配布	教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	講義の中で20～30冊の文献を紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本経済論			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-106		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	この講義は、日本経済に関する基礎的知識とその実体的事実関係を分析して理解することに重点を置く。そして、日本経済の特徴は、日本型対アメリカ型という単純な比較ではなく、日本経済の現状をさまざまな立場や観点から客観的かつ具体的に取り上げて、多面的に捉えてゆく。この講義内容のポイントは、日本経済の捉え方と日本経済の軌跡を分析し説明する。 この講義を受講すれば、日本経済の実体に関する基本的な見方や仕組み、そして日本経済の軌跡などが理解でき、また様々な経済現象をめぐる論理的思考・理解の能力と問題の発見力、そしてその問題の解決力が修得できる。
授業概要	これまでの日本経済は、規制や協調と競争の絶妙のバランスの上で成り立って成果を上げてきたが、21世紀前後のIT革命の進歩や経済のグローバル化の進展、そして人口の少子高齢化などにより、日本型経済構造の変革を余儀なくされてきた。一方、小さいな政府や自由競争を基盤とするアメリカ型資本主義にも大きな修正が加えられた。本講義では、日本型対アメリカ型といった単純な対比で捉えずに分析し説明する。 この講義の前半部は、日本経済の捉え方をはじめ、日本経済の仕組みや日本経済の現状と課題などを取り上げて説明する。そして後半部の現実経済の分野では、日本経済の復興期、高度成長期、低成長期、バブル経済期、長期不況と日本再生への模索期、そして東日本震災とアベノミクス期などに分けて説明する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	現代経済の仕組み	李　分一
第３回	日本経済の捉え方	李　分一
第４回	日本経済の姿	李　分一
第５回	日本経済の課題	李　分一
第６回	日本経済の歩み	李　分一
第７回	経済復興期（1945－54）	李　分一
第８回	高度成長期（1955－70）	李　分一

第９回	低成長期（1971－85）	李　分一
第１０回	資産価格の高騰	李　分一
第１１回	バブルの崩壊	李　分一
第１２回	不良債権と金融システム	李　分一
第１３回	構造改革と日本経済の再生	李　分一
第１４回	東日本大震災	李　分一
第１５回	アベノミクス	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	プリント使用	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	国際関係論			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-107		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	この講義は、国際関係という学問の基礎的知識を理解することに重点を置く。国際関係論という学問の発展過程に始まり、隣接分野との関連や、既存理論とその限界などを、最近の変動の事例に念頭を置きながら説明する。 この講義を受講すれば、国際関係論（と東アジア地域）という学問の基礎知識を習得することによって、国際社会仕組みの理解とグローバル社会の中で必要な様々な価値観および生き方が模索できる。特に、多文化・異文化の理解と総括・発表力が修得できる。
授業概要	この講義では、国際関係論に関する基礎知識を踏まえて、グローバリゼーション進展下の東アジア各国の変化とその問題点、そして現実に生じているトピックを取り上げ、それらの出来事や問題を整理する。今年は、ことに国際関係論・国際比較論的な視点から、東アジアの「国家」「開発」「安全保障」などの問題について説明する。なお、この科目を学ぶことにより、地理的な見方・認識の手法を学び取り、異文化理解や国際理解を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	国際関係論の学び方	李　分一
第３回	国際関係、地域研究、国際比較	李　分一
第４回	冷戦後の東アジア地図	李　分一
第５回	東アジア国際関係の変容	李　分一
第６回	東アジアのグローバル化	李　分一
第７回	東アジアの安全保障	李　分一
第８回	東アジアの安全保障ネットワーク	李　分一
第９回	開発と地域発展	李　分一
第１０回	地球化、地域化、民族主義化	李　分一
第１１回	相互依存関係の拡大と深化	李　分一
第１２回	世界化と市場経済	李　分一
第１３回	リージョナリゼーション	李　分一

第１４回	地球主義	李　分一
第１５回	ナショナリズム	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	プリント使用	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報と社会			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-109		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	近年急速に発展している情報技術をテーマに、これらを利用する際に必要となる諸技術に関する知識の獲得を目標とする。特に、社会を革新するクラウド・コンピューティング、ブロックチェーン、ディープラーニングについての知識の獲得を目標としている。これらの知識の机上だけでは困難であり、できうる限りPCを使って実際に動作させてみることによって、より知識を深化させることも目標としている。
授業概要	本講義で学ぶ情報技術は、今後の社会基盤を形成する非常に重要なものであり、これらの理解なければ、社会を理解することは難しいと言える。しかし、これらの技術は、万人がそれを1から構築する必要があるというたぐいのものではない。 とはいえ、これらの技術がどのようなものであり、どのような技術を用いて構築されているのかの知識なしには、それら技術が埋め込まれた文脈の中での行動指針の決定も困難なものとなる。 そこで本講義ではすでにインフラとして機能してるクラウド・コンピューティングやブロックチェーン、そして近年目まぐるしい発展を見せているディープラーニングについて説明するとともに、できる限り触れてもらえるようにすることを考えている。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業内での貢献度30%、期末の成果物70%。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義時間内やオフィスアワーを利用して随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	421教室のキャパシティの限界から受講生を制限する可能性がある。 情報処理Ｉの単位を取得していることを条件とする。 留学生はN2を取得していること。 また、初回の講義の中でアプリのダウンロードとインストールを行うので、初回の講義が始まる前までに学内無線LANへの接続ができる状態にしておくこと。もし、できていない場合には履修放棄としてもらう。 毎回の講義にはPCを持参する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習についてはYouTubeでの解説動画を随時紹介するのでそれを予習資料として活用する（2時間）。 事後学習については、講義の内容をもとに、自身で復習を行う（2時間）。
オフィスアワー	月曜日3限

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション―情報と社会の関係	竹岡
第２回	クラウドコンピューティング	竹岡
第３回	ブロックチェーン	竹岡
第４回	アルゴリズム	竹岡
第５回	AIとは何か	竹岡

第６回	ディープラーニングの概要	竹岡
第７回	パーセプトロン	竹岡
第８回	オートエンコーダー	竹岡
第９回	画像認識	竹岡
第１０回	単語分散表現	竹岡
第１１回	文章分類	竹岡
第１２回	画像生成	竹岡
第１３回	ディープラーニングの数学	竹岡
第１４回	AIの応用	竹岡
第１５回	まとめ	竹岡
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	コミュニケーション論			担当者	赤坂　真人		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-112		
必修・選択	選択科目	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：コミュニケーションを科学する コミュニケーション力は現代社会で求められる最も重要な能力のひとつである。この講義ではコミュニケーションの主体・客体・過程・メディアを理解することにより、学生一人一人のコミュニケーション能力を向上させる。 到達目標 この講義を受講することによって、学生は人間関係や文化が言語的コミュニケーションによって構築されていることを理解し、コミュニケーションにおける適切な言葉の選択、論理的思考の重要性を理解する。それは学習にとって、また社会生活においてもきわめて重要な資質となる。
授業概要	人間のコミュニケーション、とりわけ言語的コミュニケーションに焦点を定め、その構成要素と機能について講義する。前半はコミュニケーションの定義とそのバリエーションについて解説する。それが終わった後、コミュニケーションのメディアである記号（シグナルとシンボル）について説明する。その後、言語記号について説明した後（意味論・統語論・実用論）、最後に文化記号論、情報化する社会について講義する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義時間における小テスト（50%）と定期試験（50%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回、講義時間の最後20分間を使って小テストを実施する。学生は解答をメールで教員の専用ボックスへ送る。教員は解答を正誤をチェックし、採点した後、コメントを書いて学生に返却する。
履修条件・注意事項	言語記号について説明する際、日本語と英語を対比させながら論じるので、英語やドイツ語の知識があることが望ましい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。配布されたハンドアウトは必ず復習し、定期試験までなくさないようにすること。
オフィスアワー	火曜日　15：10～16：40.に研究室で実施。

授業計画		担当者
第１回	1.講義の目的。2.講義の概要。3.評価について。4.コミュニケーションが社会を構築する。	赤坂
第２回	1.人間コミュニケーションの不合理。2.ウソ・間違い・データメ。3.複雑な人間関係と脳の発達。	赤坂
第３回	1.コミュニケーションの定義。2.概念の拡張。3.伝達と解釈。4.非言語的コミュニケーション。	赤坂
第４回	1.動物のコミュニケーション。2.触覚。3.視覚と聴覚。4.動物と文言のコミュニケーション。	赤坂
第５回	1.記号。2.信号と象徴。3.ソシュール：シニフィアンとシニフィエ。4.明示的意味と暗示的意味。	赤坂
第６回	1.記号の機能　2.記号の恣意性。3.記号の差異。4.コード。5.有契性と無契性。6.対立と中和。	赤坂
第７回	1.言語。2.準言語。3.言語の機能。4.新しい言語観。5.衣服とコミュニケーション。	赤坂
第８回	1.意味の曖昧さ。2.レトリック。3.コンテキスト。4.二項対立。5.文の意味と発話の意味。	赤坂
第９回	1.非言語的コミュニケーションとは。2.身体動作学。3.近接空間学。4.パラランゲッジ。	赤坂

第１０回	1.近接学。2.外観によるコミュニケーション：髪型・入れ墨・服装・化粧・ポーズ。	赤坂
第１１回	1.レトリック。2.直喩と隠喩。3.換喩。4.提喩。5.芸術とレトリック。	赤坂
第１２回	1.コミュニケーションと理解　2.わかるとは。2.行為の理解　3.ディスコミュニケーション。	赤坂
第１３回	1.ジョハリの窓と自己の理解。2.社会的被存在拘束性：社会階層・容姿と認識の歪み。	赤坂
第１４回	1.情報の定義　2.情報の分類　3.通信の歴史　4.インターネットとプライバシー。	赤坂
第１５回	言語の変化　1）尊敬語　2）方言　3）口語体と文語体　4）男言葉・女言葉　5）流行語	赤坂
第１６回	定期試験	赤坂

教科書			
教・書籍名１	コミュニケーション論序説	教・出版社名１	日本放送出版会
教・著者名１	大橋理恵　根橋玲子	教・ＩＳＢＮ１	978-4595307102
教・書籍名２	言葉とは何か	教・出版社名2	ちくま学芸文庫
教・著者名2	丸山圭三郎	教・ＩＳＢＮ2	978-4480009008

参考書			
参・書籍名１	コミュニケーション学への招待	参・出版社名１	大修館書店
参・著者名１	橋本良明	参・ＩＳＢＮ１	978-4469212143
参・書籍名２	記号論への招待	参・出版社名2	岩波書店
参・著者名2	池上嘉彦	参・ＩＳＢＮ2	978-4004202582

授業科目名	ビジネス日本語Ⅰ			担当者				雲津　英子	
配当学科・研究科	2021～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング				SS-BU-1-114	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義		
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜4限				
ディプロマポリシー対応項目									
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎		
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎		
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに								
到達目標	本講義は、日本のビジネスの現場で求められる日本語力の基礎を養うことをテーマとし、到達目標は次の３点とする。 （1）基本的なビジネスマナーについて理解することができる。 （2）ビジネスの様々な場面で、敬語を含む表現を適切に用いてコミュニケーションをとることができる。 （3）ビジネスメールの書き方を理解し、実際に書くことができる。								
授業概要	基本的なビジネスマナーについて理解するとともに、ロールプレイングを行い、実践力を身につける。 敬語についての基本的な知識を確認し、ビジネスの場面における特徴的な敬語について学ぶとともに、ロールプレイングを通して、ビジネス場面でのコミュニケーション行動にともなうさまざまな表現の運用練習を行う。さらに、ビジネスメールの書き方の基本を理解し、実際に書く練習をする。								
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）								
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、課題文書の内容（15%）、ロールプレイング時の参加態度（15%）により総合的に評価する。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	提出された課題文書は授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。								
履修条件・注意事項	ロールプレイングには積極的に参加する必要がある。								
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，ビジネス場面での日本語の運用に役立つ授業を実施する。						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 また、授業内で修得したビジネスマナーは、日々の生活の中で実践するよう努めること。								
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。								

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	雲津 英子
第２回	あいさつの基本	雲津 英子
第３回	敬語の使い方	雲津 英子
第４回	身だしなみのマナー／紹介する	雲津 英子
第５回	身だしなみのマナー／電話をかける・受ける	雲津 英子
第６回	入室・退室のマナー／注意をする・注意を受ける	雲津 英子
第７回	話し方のマナー／頼む・断る	雲津 英子
第８回	整理整頓のマナー／許可をもらう	雲津 英子
第９回	携帯電話のマナー／ビジネスメールの基本	雲津 英子
第１０回	社会人としてしてはいけないこと／ビジネスメールの作成（依頼）	雲津 英子
第１１回	社会人らしい行動と言葉遣い／ビジネスメールの作成（問い合わせ）	雲津 英子
第１２回	ビジネスメールの作成（社外・社内）	雲津 英子
第１３回	電話対応（アポイントをとる／問い合わせをする）	雲津 英子
第１４回	電話対応（相手を待たせているとき／怒っている相手に謝る）	雲津 英子

第１５回	まとめ		雲津 英子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）		雲津 英子
教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	しごとの日本語（ビジネスマナー編）	参・出版社名１	アルク
参・著者名１	釜渕優子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-1467-9
参・書籍名２	しごとの日本語（メールの書き方編）	参・出版社名2	アルク
参・著者名2	奥村真希　釜渕優子	参・ＩＳＢN2	978-4-7574-1368-9

授業科目名	ビジネス日本語Ⅱ			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-115		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本講義は、日本のビジネスの現場で求められる日本語の運用力を養うことをテーマとし、到達目標は次の3点とする。 （1）ビジネスマナーについて理解することができる。 （2）ビジネスの様々な場面で、敬語を含む表現を適切に用いてコミュニケーションをとることができる。 （3）ビジネスメール・ビジネス文書・履歴書・自己紹介文の書き方を理解し、実際に書くことができる。
授業概要	ビジネス日本語Ⅰに引き続き、ビジネスマナーについて理解するとともに、ロールプレイングを行い、実践力を身につける。 さらに、ビジネス場面で、敬語を含む表現を適切に用いてコミュニケーションをとることができるように、ビジネス場面でのコミュニケーション行動にともなうさまざまな表現の運用練習を行う。 ビジネスメール、ビジネス文書、履歴書、自己紹介文の書き方を理解し、実際に書く練習をする。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、課題文書の内容（15%）、ロールプレイング時の参加態度（15%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出された課題文書は授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	ロールプレイングには積極的に参加する必要がある。 ビジネス日本語Ⅰを履修していることが望ましい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，ビジネス場面での日本語の運用に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 また、授業内で修得したビジネスマナーは、日々の生活の中で実践するよう努めること。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	雲津 英子
第２回	ビジネスメールのマナー／ビジネスメールの作成（承諾）	雲津 英子
第３回	名刺交換のマナー／ビジネスメールの作成（お礼）	雲津 英子
第４回	接客・訪問のマナー／ビジネスメールの作成（お詫び）	雲津 英子
第５回	接待・会食のマナー／ビジネスメールの作成（断り）	雲津 英子
第６回	席次のマナー／ビジネス文書の作成（社内）	雲津 英子
第７回	指示を受けるときのマナー／ビジネス文書の作成（社外）	雲津 英子
第８回	電話対応のマナー／電話対応（担当者が電話中の時の対応）	雲津 英子
第９回	報告・連絡・相談のマナー／電話対応（担当者が離席中の時の対応）	雲津 英子
第１０回	社内でのコミュニケーション／電話対応（至急の時の対応）	雲津 英子
第１１回	日本人の仕事観／電話対応（よく聞き取れない時の対応）	雲津 英子
第１２回	自己分析／自己紹介文の書き方	雲津 英子

第１３回	履歴書の書き方	雲津 英子
第１４回	履歴書の修正	雲津 英子
第１５回	まとめ	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	しごとの日本語（ビジネスマナー編）	参・出版社名１	アルク
参・著者名１	釜渕優子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-1467-9
参・書籍名２	しごとの日本語（メールの書き方編）	参・出版社名2	アルク
参・著者名2	奥村真希　釜渕優子	参・ＩＳＢN2	978-4-7574-1368-9

授業科目名	異文化理解（英会話Ⅰ）			担当者	ジョン・フォーセット		
配当学科・研究科	2021～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-116		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	To work together to learn words that help us tell people about Japan, its culture, and its people and learn about other cultures. To go beyond 'delicious' and 'beautiful' and 'hot'. Above all to develop our ability to listen to and understand opinions expressed about Japan and other cultures.
授業概要	We will research different things about Japan and other countries. Listen to people speaking about the country and evaluate their opinions. We will learn words to talk about and respond to them. Also we will learn how to give people our original opinion.
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	Class 60%: participation 20%, effort 20%, product 20% Exam 40%
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	Most tasks will be verbal and so will feedback concerning mostly volume, enunciation, and pace.
履修条件・注意事項	There will be regular vocabulary and listening quizzes so be careful to practice daily. Sometimes there will be presentations again outside practice is necessary. The teacher will speak 100% native English!
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	Decide what you want to say and practice saying it. Exact vocabulary is vital; make your own study sets and system. Check with the teacher if your selection is good or not.
オフィスアワー	1700-1800 except Fridays

授業計画		担当者
第１回	Weather	Fawsitt
第２回	The land	Fawsitt
第３回	The sea	Fawsitt
第４回	Wildlife	Fawsitt
第５回	Jungle?	Fawsitt
第６回	Fruits and flowers	Fawsitt
第７回	People	Fawsitt
第８回	Houses	Fawsitt
第９回	Work	Fawsitt

第１０回	City life	Fawsitt
第１１回	Country life	Fawsitt
第１２回	Anime and cartoons	Fawsitt
第１３回	Religion	Fawsitt
第１４回	Fooood	Fawsitt
第１５回	In the world	Fawsitt
第１６回	Exam	Fawsitt

教科書			
教・書籍名１	We will research and create our own materials.	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	異文化理解（英会話Ⅱ）			担当者	ジョン・フォーセット		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-117		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	To learn about different cultures and ways of life especially the links between cultures.
授業概要	In the first half of the class we will revise and practice useful vocabulary. In the second we will read about and discuss aspects of life and ideas characteristic of other societites.
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	定期試験の成績（40%）、予習・レポート・プレゼン・授業姿勢（60%
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	Class and one to one feedback and explanations will be during class and on submitted work. Students with questions can contact me via email for online or in-person appointments according to personal wishes and general circumstances.
履修条件・注意事項	積極参加を重視します。The teacher will speak 100% native English!
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	語彙練習をしっかり取り込むこと。
オフィスアワー	1700~1800~ generally evenings are best, except for Friday when I sometimes go home earlier.

授業計画		担当者
第１回	Course Introduction	Fawsitt
第２回	Modernity and Globalisation	Fawsitt
第３回	Tourism and Travel	Fawsitt
第４回	National Images and Stereotyping	Fawsitt
第５回	Japan as Seen from Outside	Fawsitt
第６回	"Western" Cultures	Fawsitt
第７回	Europe and the United States	Fawsitt
第８回	Asian Areas	Fawsitt
第９回	Japan as "In-Between"	Fawsitt
第１０回	Religions Now	Fawsitt
第１１回	Japanese Religions	Fawsitt
第１２回	Poverty and Wealth	Fawsitt
第１３回	The Environment and Culture	Fawsitt
第１４回	Local Cultures	Fawsitt
第１５回	The Future of Culture	Fawsitt
第１６回	定期試験	Fawsitt

教科書			
教・書籍名１	授業中に適宜資料を配付する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	異文化理解（ハングルⅠ）			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-118		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	この講義では、韓国語の文字構成（子音・母音）と音素、音節の構成原理（子音と母音の組み合わせ）を基礎から身に付け、読み書き能力を体系的に学修する。また、韓国語と関連する社会、文化、歴史、慣習などの背景をも学修する。最終的には、基礎文法や日常生活表現による自己紹介文の作成を目標とする。 この講義を受講すれば、日本に隣接する韓国の社会や文化が理解できる。また、コミュニケーション・スキルとともに、韓国の友達がつくられる。
授業概要	日本に近接する韓国を理解するために必要な言葉を身に付けることは、最も有効な方法の一つである。特に、言語学的に類似性を持つ日本語と韓国語は、韓国語を学習する日本人にとって有利な側面が多い。この講義では韓国の理解に必要な初級レベルの会話とその背景を学習する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	ハングルの子音と母音	李　分一
第３回	子音と母音（読み書き）	李　分一
第４回	子音と母音の組み合わせ	李　分一
第５回	子音と母音の発音	李　分一
第６回	私はチャンジウンと言います。	李　分一
第７回	練習問題（挨拶）	李　分一
第８回	私は韓国人ではありません。	李　分一
第９回	練習問題（職業の単語）	李　分一
第１０回	韓国語は面白いですか。	李　分一
第１１回	練習問題（趣味の言葉）	李　分一
第１２回	週末に何をしますか。	李　分一
第１３回	練習問題（食べ物の単語）	李　分一
第１４回	授業は何時からですか。	李　分一
第１５回	練習問題（花と木の単語）	李　分一

第１６回	定期試験		李　分一
教科書			
教・書籍名１	親しくなれる韓国語	教・出版社名１	白帝社
教・著者名１	崔瑞ヒョン	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86398-123-2 C3087
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	異文化理解（ハングルⅡ）			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-119		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

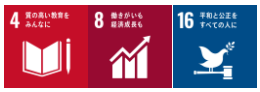
ＳＤＧｓ関連項目	５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	この講義では、異文化Ⅰで学修したハングル（子音、母音）、基礎文法、日常生活会話を中心に、各テーマに対応できる実践会話の修得とともに、最終的には中級レベル会話修得を目標とする。 この講義を受講すれば、日本に隣接する韓国の社会と文化が理解できる。また、コミュニケーション・スキルとともに、韓国の友達がつくられ、しかも韓国への一人旅もできる。
授業概要	日本と韓国は、古来より密接な関係にあったと言われている。この授業の前半部では、韓国の社会、文化、歴史、慣習などの内容と関連する初級レベルの会話を中心に学習する。また、教科書に登場する各テーマに応じた背景知識について意見交換を行う。後半部では、韓国の時事的関心事について自分の意見を自ら提示できる中級レベル会話を習得するため、必要とされる多様な背景を提供して意見交換を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	このガバンはいくらですか。	李　分一
第３回	練習問題（世界の貨幣とお金の単語）	李　分一
第４回	運転できますか。	李　分一
第５回	練習問題（外国語表記）	李　分一
第６回	韓国の食べ物が好きですか。	李　分一
第７回	練習問題（体の単語）	李　分一
第８回	南大門市場まで遠いですか。	李　分一
第９回	練習問題（形容詞の反対語）	李　分一
第１０回	写真を撮って下さい。	李　分一
第１１回	練習問題（家族の呼称）	李　分一
第１２回	どちらのご出身ですか。	李　分一
第１３回	練習問題（場所の単語）	李　分一
第１４回	夏休みに韓国へ行きました。	李　分一
第１５回	練習問題（十二支と動物の単語）	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	親しくなれる韓国語	教・出版社名１	白帝社
教・著者名１	崔瑞ヒョン	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86398-123-2 C3087
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	簿記Ⅰ			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2021～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-201		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	「簿記の全体像の理解」がテーマである。企業の経営状態を把握するためには重要な情報源のひとつが会計情報である。会計情報は日々の取引の管理と決算時の会計処理によって構築されている。これら会計処理を行うために必要なのが簿記の知識である。この授業では，簿記，とくに複式簿記の基本的な構造，手続きについて学ぶ。 この授業では簿記について知識がまったくなくても初学者が学びやすいレベルの入門講義であり、簿記の専門用語と基本的な事項を理解することが目標である。
授業概要	この授業では、簿記の原理、貸借対照表、損益計算書、取引、仕訳、小切手、現金過不足、当座預金、当座借越、小口現金、返品、付随費用、前払金と前受金、商品券、有形固定資産の取得、減価償却、有形固定資産の売却、貸付金と借入金、未収入金と未払金、仮払金と仮受金、立替金と預り金などについて講義する。 簿記は技術であるので、単に教科書を読むだけでは不十分である。実際に手を動かして、電卓を活用して、体で覚えて初めて使いこなせるようになるので、配布する問題を自分で解くなど積極的な姿勢が求められる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度・貢献度：40%、単位認定試験：60%によって総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義の中やオフィスアワーを利用して随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	簿記は通常使用している日本語とは異なる専門用語を多用します。日本語を母語とする者にも難しいものです。ある程度日本語能力を身に着けてから受講してください。 授業には積極的な姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、居眠り、ゲーム、飲食、無断退室の厳禁である。 出席も重要ですので休まないようにすること。 配布資料は事前によく読み、自分の考えを用意しておくこと、また毎回予習と復習を心かけること。 電卓持参。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習はYouTubeにあがっている簿記に関する動画を必ず見てくること（2時間）。 事後学習は教科書としてあげた教材を用いて復習すること（2時間）。
オフィスアワー	研究室、月曜日3限

授業計画		担当者
第１回	簿記とは	竹岡
第２回	商品売買、決算	竹岡
第３回	現金、預金	竹岡
第４回	売買、原価	竹岡
第５回	手形、貸付金・借入金	竹岡
第６回	固定資産、経費	竹岡
第７回	仮払金・借受金、純資産	竹岡
第８回	決算、決算整理仕訳①	竹岡
第９回	決算整理仕訳②	竹岡
第１０回	原価償却、貸倒引当金	竹岡

第１１回	在庫、消費税、法人税等		竹岡
第１２回	税金の復習		竹岡
第１３回	余剰金、帳簿		竹岡
第１４回	精算表		竹岡
第１５回	総復習		竹岡
第１６回	単位認定試験		竹岡
教科書			
教・書籍名１	スッキリわかる 日商簿記3級 第12版 [テキスト&問題集]	教・出版社名１	TAC出版
教・著者名１	滝澤 ななみ	教・ＩＳＢＮ１	978-4813296126
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	ホントにゼロからの簿記３級	参・出版社名１	Kindle電子書籍
参・著者名１	ふくしままさゆき	参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	簿記Ⅱ			担当者	崔　瑞玹		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-202		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「簿記の全体像の理解」がテーマである。簿記1で学んだ専門用語と基本的な事項を活かして実力アップ問題を解けることができるようにすることが目標である。また、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級の合格を目指すことができるように専門用語と基礎知識を身につけさせる。（簿記Ⅰを履修するのが望ましい。）
授業概要	この授業では、1学期で学んだ仕訳を使用して約束手形、手形の裏書、手形の割引、転記（補助簿）、（仕訳帳）、（総勘定元帳）、伝票会計､試算表など゛について講義する。 簿記は技術であるので、単に教科書を読むだけでは不十分である。実際に手を動かして、電卓を活用して、体で覚えて初めて使いこなせるようになるので、配布する問題を自分で解くなど積極的な姿勢が求められる。講義内容は変更も可能である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	単位認定試験(60%)、小テストと授業の取り組みなど(40%)による総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間を利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	授業には積極的な姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、居眠り、着帽、ﾒｰﾙ、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。出席も重要ですので休まないようにすること。配布資料は事前によく読み、自分の考えを用意しておくこと、また毎回予習と復習を心かけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前後に予習（2時間）と復習（2時間）をするための課題を指示する。
オフィスアワー	授業終了後に教室で実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（１学期復習）	崔　瑞玹
第２回	取引・仕訳①	崔　瑞玹
第３回	取引・仕訳②、クレジット売掛金	崔　瑞玹
第４回	小切手・現金過不足	崔　瑞玹
第５回	当座預金・当座借越	崔　瑞玹
第６回	小口現金・付随費用・立替金	崔　瑞玹
第７回	前払金・前受金・受取商品券	崔　瑞玹
第８回	固定資産の売却	崔　瑞玹
第９回	有形固定資産の売却	崔　瑞玹
第１０回	小テスト	崔　瑞玹
第１１回	資本金・固定資産税・訂正仕訳	崔　瑞玹
第１２回	電子記録債権・債務、有価証券の購入・売却	崔　瑞玹
第１３回	仕訳帳・総勘定元帳・現金出納帳	崔　瑞玹
第１４回	決算まとめ	崔　瑞玹
第１５回	総合まとめ	崔　瑞玹

第１６回	単位認定試験		崔　瑞玹
教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	講義時に参考書・資料などを予習ができるように適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	はじめての人の簿記　入門熟	参・出版社名2	かんき出版
参・著者名2	浜田　勝義　著	参・ＩＳＢＮ2	ISBN978-4-7612-6290-7

授業科目名	マーケティング入門			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-203		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１２．つくる責任・つかう責任／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	「企業におけるマーケティング重要性の理解」がテーマである。到達目標は、この講義を通じてマーケティングの基礎知識を習得し、それに基づいてﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞの基本概念を説明できるようにすること、マーケティングの全体像を理解することを目標とする。さらに、次のような能力が養成されることを目標とする。丁寧に講義のノートをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力を、教科書と資料を読み、調べることによって、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報処理力、計画力、分析力、判断力を、さらに講義の内容に質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とコミュニケーション能力を養うことも目標としている。
授業概要	講義の目的と概要は次のとおりである。マーケティングは広い意味での企業における経営活動の一部であるが、最も重要な部分でもある。なぜなら、企業は売ることの課題に取り組む必要性があり、企業の利益は、製品やサービスを消費者に売るところから生まれるからである。では企業活動の中でマーケティングとはどのように位置付けられ、どのような役割を担っているのだろうか。講義では、マーケティングの基本についての学習と問題意識を高めることを目的にする。講義では、従来のマーケティング分野に加えて近年注目されている行動経済学の諸研究も交えて、市場を作る側とそれを選択する側、両方の側面から学修していく。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度・貢献度：40%、単位認定試験：60%によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の中やオフィスアワーを利用して随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、ゲーム、飲食、無断退室は厳禁である。教科書あるいは配布した資料を事前によく読むこと。また、毎回復習をして、自分のものにしておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前に教科書を用いた予習(毎回2時間)と講義後にはノートに基づく復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室、火曜日4時限。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	竹岡
第２回	マーケティングとは	竹岡
第３回	マーケティングの基本	竹岡
第４回	製品のマネジメント	竹岡
第５回	価格のマネジメント	竹岡
第６回	広告のマネジメント	竹岡
第７回	チャネルのマネジメント	竹岡
第８回	市場の確認	竹岡
第９回	コンセプト開発	竹岡
第１０回	サプライチェーン	竹岡
第１１回	消費者の行動	竹岡
第１２回	顧客関係	竹岡
第１３回	ブランド	竹岡
第１４回	企業の社会的責任	竹岡

第１５回	全体のまとめ	竹岡	
第１６回	単位認定試験	竹岡	
教科書			
教・書籍名１	1からのマーケティング（第4版）	教・出版社名１	碩学舎
教・著者名１	石井淳蔵・廣田章光・清水信年（編著）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-502-32771-1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	経営管理論			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-205		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「企業経営において経営管理の全体像の理解」がテーマである。到達目標は、この講義を通じて経営管理論の基礎知識を習得、経営管理論の重要性を認識し、経営管理論の概念を説明、応用できる力を身につけるとともに、経営管理論の全体像を理解することを目標とする。また、次のような能力が養成されることを目標にする。丁寧に講義内容のﾉｰﾄをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力が養われる。また、教科書を読み、資料を読み、調べることによって、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報処理力、分析力、判断力が養われる。さらに、講義の内容について質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力が養われる。
授業概要	講義目的と概要は、以下の通りである。現代は経営管理の時代であり、組織の時代である。学生諸君の身近なところでは、学園祭にも、ｸﾞﾗﾌﾞやｻｰｸﾙにもﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄが存在する。受講者の皆様も就職して10,20年程度経つと管理者、経営者になる。 　講義では、科学的管理法、人間管理論、動機づけとﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ論などを講義する。また、企業経営問題のさまざまな側面について、具体的な事例を活用して経営に関する基礎的な理論をわかりやすく解説し、それを理解させる。ﾋﾞﾃﾞｵ教材も活用する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	授業態度・貢献度など(40%)、単位認定試験(60%)によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	教科書購入。積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、ﾒｰﾙ、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。教科書あるいは配布した資料を事前によく読むこと。また、毎回復習をして、自分のものにしておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前には参考資料の予習(毎回2時間)と講義後には復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	姜
第２回	2.経営管理論とはなにか	姜
第３回	3.科学的管理法	姜
第４回	4.科学的管理法の限界	姜
第５回	5.管理過程論と官僚理論	姜
第６回	6.人間関係論(1)	姜
第７回	7.人間関係論(2)	姜
第８回	8.動機づけ論	姜
第９回	9. ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ論	姜
第１０回	10.経営組織論	姜
第１１回	11. 組織構造と戦略	姜

第１２回	12. 新しい組織の流れ	姜
第１３回	13.ｹｰｽの研究(ﾄﾖﾀ)	姜
第１４回	14.ｹｰｽの研究(ﾄﾖﾀ)	姜
第１５回	15.全体のまとめ	姜
第１６回	16.単位認定試験	姜

教科書			
教・書籍名１	経営管理論の基礎	教・出版社名１	ふくろう出版
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	国際経営論			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-208		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「グローバル市場においてグローバル企業の全体像を理解」がテーマである。到達目標は、日本、米国、韓国の事情、企業の経営特徴に関する知識を習得し、それぞれの国の経営について説明と応用ができるようにすることである。また、グローバル戦略論の全体像を理解することを目標とする。さらに、次のような能力が養成されることを目標にする。丁寧に講義のﾉｰﾄをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力が養われる。また、教科書と資料を読み、調べることによって、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報力、計画力、分析力、判断力が養われる。さらに、講義の内容について質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とｺﾐﾆﾆｹｰｼｮﾝ能力が養われる。
授業概要	講義の目的と概要は次のとおりである。世界的なﾚﾍﾞﾙで、企業や社会のｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化が急速に進展している。すなわち、ﾎﾞｰﾀﾞﾚｽ時代あるいはｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ時代といわれ、国境を超えた企業の活動が盛んになっている。ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化をしている企業がどのような仕組みで管理を行っているのか、またｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化した企業がどのような問題に直面し、どのように克服しようとしているのか、といったことを学習する。また、日本企業の重要な活動地域の東南ｱｼﾞｱ、中国、米国の地域事情をわかりやすく説明する。 　本講義では、多国籍企業の経営、定義、国際経営戦略、海外子会社の経営、組織戦略、外資系企業などの課題についてわかりやすく説明する。 　また、日本企業の具体的な事例に基づきながら、基礎的な知識の理解を深めるとともに、これらについての問題意識を高めることを目的に講義する。さらに、ﾋﾞﾃﾞｵ教材も活用する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	授業態度・貢献度など(40%)、単位認定試験(60%)によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	教科書の購入。積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、ﾒｰﾙ、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。日頃から、新聞、雑誌などを読んでｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化をしている日本企業に関心を持つこと。教科書あるいは事前に配布した資料を読むこと。また、毎回・復習をして自分のものにしておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前には参考資料の予習(毎回2時間)と講義後には復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.オリエンテーション	姜
第２回	2.多国籍企業の経営	姜
第３回	3.多国籍企業の経営の特徴	姜
第４回	4.東南アジア・中国と日本の企業	姜
第５回	5.国際経営戦略	姜
第６回	6.国際マーケティングと地域(東南アジア、中国、米国)	姜
第７回	7.国際マーケティングと地域	姜

第８回	8.海外生産と技術移転(東南アジア、知友国、米国)		姜
第９回	9.国際経営組織と所有政策		姜
第１０回	10.米国と日本企業		姜
第１１回	11.海外子会社の経営		姜
第１２回	12.外資系企業		姜
第１３回	13.グローバル経営		姜
第１４回	14.グローバル経営(2)		姜
第１５回	15.全体のまとめ		姜
第１６回	16.単位認定試験		姜
教科書			
教・書籍名１	国際経営(第4版)	教・出版社名１	有斐閣アルマ
教・著者名１	吉原　英樹	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ベンチャービジネスと経済			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-211		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「経済とベンチャービジネスの全体像の理解」がテーマである。到達目標は、この講義を通じてﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の重要性をI理解するとともに、ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の概念の説明ができ、ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の創業と経営ができる知識の習得を高めることにある。また、ベンチャー企業の全体像を理解することを目標とする。さらに、次のような能力が養成されることを目標にする。丁寧に講義内容のﾉｰﾄをとることにより、聴く力、書く力、まとめる力がつく。また、教科書と資料を読み調べることによって、読む力、調べる力、考える力が身につけられるとともに、分析力、判断力を高める。さらに、講義の内容について質問をし、それに答える訓練を通じてｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力を高める。
授業概要	講義の目的と概要は次のとおりである。いま世界は新産業の創出への挑戦が不可避であり、起業家活動の重要性が一段と増している。ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の創業は経済発展のｴﾝｼﾞﾝの役割もしている。しかし、日本のﾍﾞﾝﾁｬｰ企業は、その質と量において、米国に比べて劣っている。そこで、日本のﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の実態を米国との比較を通じて、詳しく分析することが目的である。 　本講義では、まずﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の発展を必要とする産業、ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の経済的意義、これまでのﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の歴史、ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の起業戦略はどうあるべきか、成長への戦略をいかに立てていくのか、などの課題についてわかりやすく説明する。ﾋﾞﾃﾞｵ教材も活用し、松下幸之助、本田宗一郎などの経営者たちを取り上げたい。また、講義は、担当教員のみによる講義ではなく、外部から講師も招聘して講義をする。外部の特別講師の場合は都合によっては変更可能である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	授業態度・貢献度・感想文(40%)、単位認定(60%)によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、メール、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。配布した資料を事前によく読むことと共に外部講師の話しを静かに良く聞くこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前には参考資料の予習(毎回2時間)と講義後には復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.オリエンテーション	姜
第２回	2.人づくり、町づくり、仕事づくり	外部講師・姜
第３回	3.時代とともに変わるプロモーション戦略	外部講師・姜
第４回	4.洋菓子の経営と今後の展望	外部講師・姜
第５回	5.高梁市と中小企業の経営者	外部講師・姜
第６回	6.信用金庫の業務と備北信用金庫の経営方針	外部講師・姜
第７回	7.メディアを通して地域を見るーそして本業	外部講師・姜
第８回	8.電力事業の状況と中国電力ネットワーク(株)の取り組みについて	外部講師・姜
第９回	9.100年企業として・・・・地域で必要とされる存在であり続けるために	外部講師・姜

第１０回	10.リーダーシップと経営者	外部講師・姜
第１１回	11.リーダーシップと経営者	外部講師・姜
第１２回	12.好きなことをして生きる	外部講師・姜
第１３回	13.私が見てきた経営者たち	外部講師・姜
第１４回	14.リーダーシップと経営者	外部講師・姜
第１５回	15.仕事と私	外部講師・姜
第１６回	16.単位認定試験	姜

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	予習ができるように講義時に参考書・資料などを事前に適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	リーダーシップと経営者			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-212		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	経営者のリーダーシップを理解するのがテーマである。この科目の到達目標は多様な仕事内容や経営者の実像を把握できるようにすると共に将来のリーダーとして、どのように自分を育成していくかを理解すること。また、地域に愛着心を持つと共に地域産業の実態を知ってもらうことを目標とする。
授業概要	この科目は高梁市商工会議所の協力により、実務経験を持つ企業の経営者などをを外部講師に招き、経営者としてのﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟのあり方や、事業や仕事に携わった経験を活かして、講義し、学生の理解を深める。講義は、毎回外部から講師を招聘して講義をする。外部の特別講師の場合は都合によっては変更可能である。高梁商工会議所の会員の外部講師による講演を通じて、実際のﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟの理解と共に地域企業の取り組み等を紹介する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度・貢献度・感想文(40%)、単位認定試験(60%)によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、ﾒｰﾙ、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。配布した資料を事前によく読むことと共に外部講師の話を静かに良く聞くこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前には参考資料の予習(毎回2時間)と講義後には復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	姜
第２回	2.人づくり、町づくり、仕事づくり	外部講師・姜
第３回	3.時代とともに変わるプロモーション戦略	外部講師・姜
第４回	4.洋菓子の経営と今後の展望	外部講師・姜
第５回	5.高梁市と中小企業の経営者	外部講師・姜
第６回	6.信用金庫の業務と備北信用金庫の経営方針	外部講師・姜
第７回	7.ﾒﾃﾞｨｱを通して地域を見る-そして本業	外部講師・姜
第８回	8.電力事業の状況と中国電力ネットワーク(株)の取り組みについて	外部講師・姜
第９回	9.100年企業として・・・地域で必要とされる存在であり続けるために	外部講師・姜
第１０回	10.リーダーシップと経営者	外部講師・姜
第１１回	11.リーダーシップと経営者	外部講師・姜
第１２回	12.好きなことをして生きる	外部講師・姜
第１３回	13.私が見てきた、経営者たち	外部講師・姜
第１４回	14.ガリーダーシップと経営者	外部講師・姜
第１５回	15.仕事と私	外部講師・姜
第１６回	16.単位認定試験	姜

教科書

教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	予習ができるように講義時に参考書・資料などを事前に適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	社会的責任経営			担当者	井勝　久喜		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-213		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	「社会的責任経営の必要性と意義」をテーマとして、社会における諸課題と企業経営の関係性を学び、なぜ社会的責任経営が必要なのかということについて考える。社会課題と経済及び社会的責任経営の方法論を学ぶことにより、企業の社会的責任について考える。 到達目標は下記の通りです ・企業活動が社会に及ぼす影響を理解し、説明することができる ・環境問題と企業活動の関係を説明することができる ・社会的責任の国際規格（ISO26000）を説明できる ・企業経営における経営倫理の重要性を理解し、説明することができる ・社会的責任経営の方法を提案できる能力が身についている
授業概要	なぜ、企業は社会的責任経営に取り組まなければならないのか、持続可能な人類社会を築くために社会的責任経営が必要なことを、社会における諸課題の発生の原因と関連づけて理解する。さらに、持続可能な企業経営における、企業の社会的責任と経営戦略の概念と重要性について理解するとともに、社会的責任経営の具体的内容について概要を講義する。 講義、グループディスカッション、ケースメソッド、BRDなど参加型学習方法も取り入れて授業を行う。毎回、課題レポートを作成する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	試験（40%）、課題レポート（60%）で評価する。ただし、他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には、減点することもある。また、参加型学習法であることから、授業態度を重視する。詳しい評価方法は、初回の授業時に説明する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポート等は採点して授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	１）初回の講義には、必ず出席すること。 ２）評価方法でも示したとおり、出席と授業での学び重視しているので、授業を休まないようにすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）講義と参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。次の授業までに必要な予習の内容については授業時間中に指示する。 ２）指示に従って、必ずノートを作成し復習をすること。 ３）BRD（Brief Report of the Day：当日ブリーフレポート）学習法により授業を行う場合は前週に資料を配布するので、しっかり読み込んで、不明な点は調べてくること。 予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施

授業計画		担当者
第１回	ＣＳＲの定義と概要	井勝久喜

第２回	ＣＳＲ経営の概要	井勝久喜
第３回	地球環境と社会システムの現状	井勝久喜
第４回	経済理論とＣＳＲ	井勝久喜
第５回	ＣＳＲと豊かさの概念	井勝久喜
第６回	地球の限界とエコロジカル・フットプリント	井勝久喜
第７回	社会的責任の国際規格（ISO26000）	井勝久喜
第８回	ISO26000（社会的責任の原則）	井勝久喜
第９回	ISO26000（中核主題）	井勝久喜
第１０回	ＣＳＲと環境経営	井勝久喜
第１１回	ステークホルダー・エンゲージメント	井勝久喜
第１２回	経営倫理とＣＳＲ	井勝久喜
第１３回	ＣＳＲとグローバルコンパクト	井勝久喜
第１４回	ＣＳＲと社会的責任投資	井勝久喜
第１５回	ＣＳＲ実践の課題と戦略	井勝久喜
第１６回	試験	井勝久喜

教科書			
教・書籍名１	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ＣＳＲの基礎	参・出版社名１	中央経済社
参・著者名１	國部克彦	参・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4-5002-22541-3
参・書籍名２	ＣＳＲ経営要論	参・出版社名2	創成社
参・著者名2	佐久間信夫　他	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7944-2551-5

授業科目名	SDGsと経営			担当者	井勝　久喜		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2021年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-214		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	「SDGsを指向した企業経営の実践方法の理解」をテーマとする。 到達目標は以下の通りです。 ・企業がSDGsに取り組む必要性を理解する ・企業経営に関係するSDGsの本質を理解する ・SDGs時代の新しい経営モデルを理解する ・持続可能な社会の構築における企業の役割を理解し、実践できる能力を身につける
授業概要	企業はSDGsを達成する上で重要な役割を担っています。また、企業は事業を通じてSDGsの達成に貢献しなければなりません。また、企業の立場からSDGs見てみると、SDGsは、貧困や健康、教育、気候変動、環境劣化など、企業にとって関連のある広範な課題を扱うので、企業戦略を地球の優先課題につなげることに役立ちます。 授業ではSDGsの基本的考え方を理解すると共に、企業がどのようにしてSDGsを経営戦略と整合させ取り組んでいくのかについて学び、持続可能な社会の構築に寄与する企業経営を実践できる能力を身につけます。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	BRD（Brief Report of the Day）方式で授業を行い毎回の授業でレポートを作成しそのレポートを評価（70%）、試験（30%）で評価する。ただし、他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には、減点することもある。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回提出したレポートは採点して次回授業時に返却する。
履修条件・注意事項	１）BRD方式により授業を行うので、教科書を読んで予習しておくことが必須である。２）初回の講義には、必ず出席すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）BRD学習法により授業を行うので、予習が必須である。教科書を、しっかり読み込んで、不明な点は調べてくること。 ２）返却されたレポートに記載されている指示に従って学習し直すこと。 ３）予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施

授業計画		担当者
第１回	SDGsの理解	井勝久喜
第２回	SDGsと経営	井勝久喜
第３回	SDGsの背景	井勝久喜
第４回	SDGsとCSV(共通価値の創造)	井勝久喜
第５回	SDGs時代の新たな経営モデル	井勝久喜
第６回	SDGsをビジネス言語に翻訳する	井勝久喜

第７回	持続可能性を志向した政府の規制	井勝久喜
第８回	ESG投資	井勝久喜
第９回	抜本的な改革に向けての道筋	井勝久喜
第１０回	企業は何を目指して改革を進めるか	井勝久喜
第１１回	企業はどこで戦うか	井勝久喜
第１２回	企業はどう勝ち抜くか	井勝久喜
第１３回	サステナブルなサプライチェーン	井勝久喜
第１４回	ブランディング力	井勝久喜
第１５回	新たに必要なマネジメントシステム	井勝久喜
第１６回	試験	井勝久喜

教科書			
教・書籍名１	SDGsが問いかける経営の未来	教・出版社名１	日本経済新聞出版社
教・著者名１	モニターデトロイト編	教・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4-532-32236-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	SDGsの考え方と取り組みがしっかりわかる教科書	参・出版社名１	技術評論社
参・著者名１	バウンド著	参・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4-297-11629-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	地域クラブマネジメント論			担当者	高藤　順		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-215		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	スポーツ現場におけるマネジメントをテーマとして、身体活動のみならず、ビジネス活動、文化活動など社会的活動としての価値を急速に高めつつあるスポーツの過程の知識を身につける。加えて、学生がスポーツの様々な場面において、効果的なマネジメントを行なうことができる。
授業概要	現代ではスポーツに関わる様々な活動がビジネスとして行われるようになっている。そして、これらのビジネスにおいて高度なマネジメントの知識と技能が要求されつつある。本講義では、スポーツマネジメントの基礎的概念についての理解を深め、マネジメントの基礎を習得するとともに、現代においてマネジメントがどのようにスポーツの場面で応用されているのかについて解説する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	単位認定試験（40%）中間レポート（30%）毎回の小レポート（20%）受講姿勢（10%）評価の詳細については、第1回目の授業において説明する。なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので単位認定試験までに見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の講義終了後の小レポートの内容を通して、次回の講義導入時にポイントを説明する。
履修条件・注意事項	（公財）日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー受験資格必修科目 パワーポイントの資料は配布しないので、ノート・ルーズリーフ等は必ず持参すること。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、日本女子サッカーリーグ所属クラブ監督・運営責任者の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、スポーツマネジメント現場における現状や課題、必要とされる知識や能力について講義し、学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業終了後、課す小レポートの内容及び授業内容を必ず毎回2時間程度、復習するとともに次回のテーマについて予習すること。
オフィスアワー	個人研究室（９号館４階）にて、火曜日4限に実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スポーツマネジメントとは！？	高藤
第２回	スポーツとスポンサー	高藤
第３回	スポーツマーケティング	高藤
第４回	スポーツクラブにおけるマネジャーの役割（マネジャーとは）	高藤
第５回	スポーツクラブにおけるマネジャーの役割（MGの位置づけ）	高藤
第６回	アメリカのトップリーグのマネジメント	高藤
第７回	ヨーロッパのトップリーグのマネジメント	高藤
第８回	日本におけるプロ野球とプロサッカーリーグのマネジメント	高藤
第９回	みるポーツのマネジメント	高藤
第１０回	プロスポーツ選手・プロスポーツクラブのマネジメント	高藤（外部講師）
第１１回	地域スポーツクラブのマネジメント	高藤（外部講師）
第１２回	スポーツビジネスにおけるマネジメント	高藤
第１３回	日本女子サッカーリーグ所属クラブのマネジメント	高藤（外部講師）

第１４回	スポーツ施設のマネジメント	高藤
第１５回	総括・最終レポート	高藤
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	体育・スポーツ経営学講義	教・出版社名１	大修館書店
教・著者名１	八代勉・中村平　編	教・ＩＳＢＮ１	4-469-26480-6
教・書籍名２	公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	教・出版社名2	（公財）日本スポーツ協会
教・著者名2	（公財）日本スポーツ協会	教・ＩＳＢＮ2	214K1T 214K2T 214K3T
参考書			
参・書籍名１	使用しない（プリントを配布する）	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	プログラミング入門			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-216		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	プログラミングにおける基本的な考え方、構造化プログラミングを習得してもらうことを目標としている。本講義ではscratch、Minecraft EE、Power Automate Desktopを使ってビジュアルプログラミングを行うことで、その後のテキストベースのプログラミングへの発展の足掛かりとなる技能を習得してもらう。また、これらのアプリケーション習得を目指す中で、日常的にPCに触れ、PCセントラルな考え方も習得してらもらいたい。
授業概要	近年、小学校レベルから情報教育、なかでもプログラミング教育が行われるようになっており、社会的にプログラミング能力が必要とされるようにはなっている とはいえ、テキストベースのプログラミング言語までは必要ないと思われるが、ビジュアル・プログラミングは様々な面で企業内に取り込まれているため、必要な技能と言える。 今後の企業内では、ExcelやPowerPointに加えて、Power Automate DesktopのようなRPAツールも使用できるようになることが重要であり、本講義ではこれを目標とするよう構成している。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	講義内での貢献度30%、期末成果物70%。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義時間内やオフィスアワーなどを利用してい随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	421教室のキャパシティの限界から受講生を制限する可能性がある。 情報処理Ⅰの単位を取得していることを条件とする。 留学生はN2を取得していること。 また、初回の講義の中でアプリのダウンロードとインストールを行うので、初回の講義が始まる前までに学内無線LANへの接続ができる状態にしておくこと。もし、できていない場合には履修放棄としてもらう。 PCは必ず持参すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習としては、情報処理1の中で学んだことの復習を行っておくこと（2時間）。 また、YouTubeなどでscratchやPower Automate Desktopに関する解説動画は、常に確認しておくこと。 事後学習としては、当日の内容を、再度１から再現してみること（２時間）。
オフィスアワー	月曜日3限

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーションと環境構築	竹岡
第２回	構造化プログラミング①順次実行の基礎	竹岡
第３回	構造化プログラミング②順次実行の応用	竹岡
第４回	構造化プログラミング②条件分岐の基礎	竹岡
第５回	構造化プログラミング②条件分岐の応用	竹岡
第６回	構造化プログラミング②ループ処理の基礎	竹岡
第７回	構造化プログラミング②ループ処理の応用	竹岡
第８回	構造化プログラミングによる問題解決①基礎	竹岡
第９回	構造化プログラミングによる問題解決②応用	竹岡

第１０回	RPAの基礎と考え方について		竹岡
第１１回	RPAを用いた処理の構築		竹岡
第１２回	RPAを用いたwebクローリング		竹岡
第１３回	アプリケーション制作①仕様の検討		竹岡
第１４回	アプリケーション制作②実装		竹岡
第１５回	アプリケーション制作③デバッグ		竹岡
第１６回			
教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	10才からはじめるプログラミング Scratchでゲームをつくって楽しく学ぼう	参・出版社名１	技術評論社
参・著者名１	大角 茂之、大角 美緒	参・ＩＳＢＮ１	978-4774198163
参・書籍名２	Scratch 3.0で楽しむ レッツ! プログラミング ジュニア・プログラミング検定 公式テキスト	参・出版社名2	FOM出版(富士通エフ・オー・エム)
参・著者名2	富士通エフ・オー・エム株式会社 (FOM出版)	参・ＩＳＢＮ2	978-4865103922

授業科目名	ソーシャルデザイン論			担当者	大西　正泰		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-301		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ；自分の周りの環境をよりよくする営み（ソーシャルデザイン）の面白さと難しさをケースを通じて体感する 到達目標；①ソーシャルデザインに関する国内外の映画や事例をもとに、知識や考え方を身につけている。 ②ワークショップを通じて、課題について対話し、課題解決の結果となる ソーシャルデザインのありようへ至る合意形成の姿勢を身につけている。 ③自分の周りの環境をよりよくしようと互いに考え、行動することができる。 ＊DPで重要視している◎について DP３「主体的な学びと論理的思考」・・映画やケース分析を通じて話し合う中で、教材の面白さから誘発されたり、 対話のなかでの主体的な姿勢が尊重され、論理的思考によって通じあえる共感ができる。 DP７「自己効力感」・・ワークショップで対話を積み重ねることで、学生間の行動変容が生まれ、 関係性の深まりとともに、組織が変わっていくことによる自己効力感を得られる。
授業概要	本講義の前半では、動画におけるケース（組織行動）を用いて反転学習を行います（事前に映画を見たり、あらすじを確認する）。 動画に出てくるシーンを通じて、組織社会化などのテーマに基づいて、話し合いを進めていきます。 ケースとして使う映画は主に以下のものです。 「プラダの悪魔」（2006）「ショーシャンクの空に」（1994） 「12人の怒れる男」（1959）「マネーボール」（2011） 「ソーシャルネットワーク」（2010） ＊受講生の興味関心によって、映画やケースを変えることもあります。 本講義の後半では、実際のケースや授業のなかでのルール改正に基づく変容を分析します。 1. Kiva（世界初のperson to personマイクロファイナンス機関）など 2. 喫茶ランドリー（カフェ＋αでサードプレイスを作る）など 3. 新たな「学校」などのソーシャルデザイン 4. ユニバーサルデザインの事例 などを元に行う。 ＊ケースは、受講生の興味関心に応じて変わる場合があります。 これらの事例をもとに勉強しながら、ソーシャルデザインを考えるための基礎的な力を養う。
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	評価方法は、 ①毎回の授業における感想レポート（40%）と、②レポート試験（60%）で評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィード	１）感想レポートについては、ユニバーサルパスポートで管理し、フィードバックする。

バック方法	2）レポート試験については、Teamsで管理し、フィードバックする。		
履修条件・注意事項	1）本講義では、映画をケースに使うため、事前に予習として映画を見てもらいます（反転学習）。 2）本講義では、ルールなどの組み替えによって（＝デザインする）、外的環境を変えていくことを 学ぶので、積極的な授業姿勢、発言などが求められます。 3）欠席、遅刻する場合は前もって連絡すること。		
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、地域づくりに携わってきた実務経験のある教員が授業を行います。 実務経験としては、 ①2006年～2010年香川県高松市丸亀町商店街での地域スポーツ支援
事前学習・事後学習とその時間	1）反転学習を行うので、映画の視聴とそれらの評論など、事前に課題を調べた上で参加するのが必須である。 授業は、この課題をめぐって対話形式で行います。 2）授業後には、感想レポートを提出し、ふりかえりを行います。 ふりかえりでは、課題ごとに登場するキーワード（例　組織社会化など）に基づいて ２時間の自己学修を行うこと。 3）さらにソーシャルデザインに興味があれば、参考書を設定しているので、自己学修に利用すること。		
オフィスアワー	月曜日（２、３限）火曜日（２、３限）場所は14621研究室（14号館6階）になります。 ＊他の曜日についてはメールにて、随時受付します。m-onishi@kiui.ac.jp		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション～人生グラフとトークフォークダンス～	大西正泰
第２回	ソーシャルデザインとは何か？～ケース「プラダを着た悪魔」①～	大西正泰
第３回	ソーシャルデザインとは何か？～ケース「プラダを着た悪魔」②～	大西正泰
第４回	ソーシャルデザインを拒むもの（組織社会化）～ケース２「ショーシャンクの空へ」①～	大西正泰
第５回	ソーシャルデザインを拒むもの（組織社会化）～ケース２「ショーシャンクの空へ」②～	大西正泰
第６回	社会を動かす決め手は何か？～ファクトフルネス～	大西正泰
第７回	社会を動かす決め手は何か？（集団的意思決定）～ケース３「12人の怒れる男」①～	大西正泰
第８回	社会を動かす決め手は何か？（集団的意思決定）～ケース３「12人の怒れる男」②～	大西正泰
第９回	ソーシャルデザイン分析①「クラウドファンディング」	大西正泰
第１０回	ソーシャルデザイン分析②「居心地のいい場所」	大西正泰
第１１回	ソーシャルデザイン分析③「誰にでも使えるユニバーサルデザイン」	大西正泰
第１２回	ソーシャルデザイン分析④「新しい学校」	大西正泰
第１３回	熱狂のイノベーション～ケース４「ソーシャルネットワーク」①～	大西正泰
第１４回	熱狂のイノベーション～ケース４「ソーシャルネットワーク」②～	大西正泰
第１５回	ふりかえりワークショップ	大西正泰
第１６回	レポート試験	大西正泰

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	ソーシャルデザインー社会を作るグッドアイデア集	参・出版社名１	朝日出版社
参・著者名１	グリーンズ	参・ＩＳＢＮ１	978-4255006222
参・書籍名２	図解組織開発入門 組織づくりの基礎をイチから学びたい人のための「理論と実践」100のツボ	参・出版社名2	ディスカヴァー・トゥエンティワン
参・著者名2	坪谷邦生	参・ＩＳＢN2	978-4799328248

授業科目名	SDGsで考える社会			担当者	井勝　久喜		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-302		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：SDGsの達成に向けた施策の理解 到達目標は下記の通りです。 ・SDGsの背景について理解する ・SDGsが目指す社会について理解する ・持続可能な社会の構築に向けて政策立案能力を身につける
授業概要	現在の地球は多くの環境的課題、社会的課題、経済的課題を抱えており、このままの状況が続けば、現代文明は持続することができません。SDGsは2015年に開催された持続可能な開発サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに達成を目指す世界共通の目標です。 授業では、SDGsについて、その背景や目的を学ぶと共に、SDGsの17の目標について概要を学びます。その後、17の目標について達成に向けた取り組み施策を受講者が考え、その施策について受講者全員で討論をします。それにより、SDGsの達成に向けた政策立案能力を身につけます。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	各自が作成した討論資料と討論の振り返りレポートを評価します（50点）。また、最終試験を行います（50点）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業の振り返りレポートは採点した後、次回授業で返却します。
履修条件・注意事項	１）討論資料作成と討論を主体として授業を行うので、予習しておくことが必須である。 ２）授業は毎回討論を行うので休まないこと ３）初回の講義には、必ず出席すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）討論資料作成と討論を主体として授業を行うので、予習しておくことが必須である。 ２）返却されたレポートに記載されている指示に従って学習し直すこと。 ３）予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施

授業計画		担当者
第１回	SDGsとは何か	井勝久喜
第２回	SDGsの背景	井勝久喜
第３回	目標1　貧困をなくそう　について議論する	井勝久喜

第４回	目標2　飢餓をゼロに　について議論する	井勝久喜
第５回	目標3　すべての人に健康と福祉を　について議論する	井勝久喜
第６回	目標4　質の高い教育を皆に　について議論する	井勝久喜
第７回	目標5　ジェンダー平等を実現しよう　について議論する	井勝久喜
第８回	目標8　働きがいも経済成長も　について議論する	井勝久喜
第９回	目標10　人や国の不平等をなくそう　について議論する	井勝久喜
第１０回	目標11　住み続けられるまちづくり　について議論する	井勝久喜
第１１回	目標12　つくる責任　つかう責任　について議論する	井勝久喜
第１２回	目標13　気候変動に具体的対策を　について議論する	井勝久喜
第１３回	目標16　平和と公正をすべての人に　について議論する	井勝久喜
第１４回	目標17　パートナーシップで目標を達成しよう　について議論する	井勝久喜
第１５回	SDGsで考える社会	井勝久喜
第１６回	授業の振り返りと試験	井勝久喜

教科書			
教・書籍名１	使用しない（適宜プリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１	使用しない（適宜プリントを配布する）	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	SDGsとは何か？	参・出版社名１	三和書籍
参・著者名１	安藤顯	参・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4-86251-398-4
参・書籍名２	ADGsの実践	参・出版社名2	事業構想大学院大学出版部
参・著者名2	村上周三　他	参・ＩＳＢN2	978-4-88335-464-1

授業科目名	地域づくり論			担当者	大西　正泰		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-303		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ；生物学視点から、地域づくりのルーツを「巣づくり」とみなし、先史からいままでの地域づくりの歴史をテーマとする。 到達目標；地域づくりの歴史から地域形成過程を学び、地域の文化や歴史などからみた地域づくりに必要な知識やスキルを身につけることができることを目標とする。 ＊DPで重要視している◎について DP1知識技能　生物の生存戦略から巣作りとしての地域づくりとして解釈した見方をもとに、専門的知識を学んで、課題解決に取り組むことができる。
授業概要	この講義は、3部構成になっており、地域づくりについて、生物・経済・空間づくりそれぞれの視点で地域づくりを再定義し、次の地域づくりを考えます。 ・前半では、家や地域を「巣」として考えて、人類史を振り返って分析します。 ・中盤では、空間経済学の知見である産業クラスターやクリエイティブクラス論（リチャード・フロリダ）を用いて議論をします。 また最近注目されているプレイスメイキングの考えを用いて、実際の場づくりを体感したりします。 ・後半では、次の地域づくりのヒントを世界各国の事例（日本、アメリカ、イスラエルなど）から学んでいきます。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	評価方法は、 ①毎回の感想レポート（40%）、②レポート試験（60%）で評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	１）感想レポートについては、ユニバーサルパスポートで管理し、フィードバックする。 ２）レポート試験については、Teamsで管理し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	・毎回の授業時に配付する資料がテキストになります。 ・大幅な遅刻や無断欠席はグループワークや評価に影響するので，ご注意ください。 やむを得ない場合，必ずメールなどで連絡してください（できるだけ事前にお願いします）。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、地域づくりに携わってきた実務経験のある教員が授業を行います。 実務経験としては、 ①2006~2010年　香川県高松市丸亀町商店街での地域スポーツ支援 ②2009年　讃岐パスタ発案者（企画・開発・商品化） ③2011~2018年　徳島県上勝町における空き家再生/起業家育成など
事前学習・事後学習とその時間	・各ケース、討論テーマについては、テレビや新聞報道による地域事例に目を配り，予習復習（各２時間）を行ってください。 ・グループ活動では，積極的な問題提起や発言ができるようにしてください。

	（地域との関わりにおいては、コミュニケーションがもっとも大事なスキルとなります） ・参考文献に載せている本は、各テーマごとの背景になる考え方を指し示しているもので、読みやすいものを選んでいます。
オフィスアワー	月曜日（２、３限）　火曜日（２、３限）場所は14621研究室（14号館6階）になります。 ＊他の曜日についてはメールにて、随時受付します。m-onishi@kiui.ac.jp

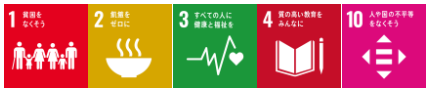
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大西正泰
第２回	＜問い１＞生物視点で地域づくりを考えてみたら？	大西正泰
第３回	＜問い２＞地域づくりとは何か？①	大西正泰
第４回	＜問い２＞地域づくりとは何か？②	大西正泰
第５回	＜目線を変える＞地域進化論①産業集積	大西正泰
第６回	＜目線を変える＞地域進化論②クリエイティブクラス	大西正泰
第７回	＜目線を変える＞地域進化論③「地域づくりの原理/資本主義」	大西正泰
第８回	＜目線を変える＞地域進化論④「地域づくりの原理/資本主義」	大西正泰
第９回	＜目線を変える＞地域進化論⑤進化の先の生きづらさ	大西正泰
第１０回	地域づくりの基礎基本①サードプレイスと対話	大西正泰
第１１回	地域づくりの基礎基本②自己紹介ワークショップとインタビュー	大西正泰
第１２回	地域づくりの基礎基本③ワールドカフェ	大西正泰
第１３回	次の地域づくりのヒントは何か？①～理想共同体の歴史～	大西正泰
第１４回	次の地域づくりのヒントは何か？②～理想共同体の歴史～	大西正泰
第１５回	次の地域づくりのヒントは何か？～企業がつくる時代へ～	大西正泰
第１６回	レポート試験	大西正泰

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	サピエンス全史(上・下)	参・出版社名１	河出書房新社（２０１６）
参・著者名１	ユヴァル・ノア・ハラリ	参・ＩＳＢＮ１	上巻978-4309226712 下巻978-4309226729
参・書籍名２	マイパブリックとグランドレベル ―今日からはじめるまちづくり	参・出版社名2	晶文社 (2017)
参・著者名2	田中元子	参・ＩＳＢＮ2	104794969821

授業科目名	福祉と地域づくり			担当者	黒宮　亜希子、藤井　伊津子、中野　明子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-304		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう 
到達目標	テーマ：福祉の視点から、地域におけるまちづくりの現状と課題について分析する。 到達目標（4つ） ① 福祉、まちづくりに関する基礎的な知識を修得する。 ② 福祉の視点に基づいたまちづくりの実践例を、事例を通じて理解する。 ③ SDGsの課題達成や、地域共生社会の実現にとって必要な要素を、受講生が分析出来るようになる。 ④ 受講生が、自らが生活する地域のまちづくりに関する事例やそこでの課題を検証する作業を通じて、能動的に学ぶ姿勢を身につける。
授業概要	本講義は、福祉の視点から地域におけるまちづくりの現状と課題について学ぶ授業である。 授業の冒頭では、福祉やまちづくりの基礎的概念を理解した上で、担当者3名が様々な社会福祉実践とそこでのまちづくり、地域の課題について考察を加える。 受講生自らも、高梁市や、出身地域など、身近な地域を事例として検討を行うため、解決に対する課題解決能力が身につく。 学外における施設見学や体験学習も予定している。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中提出課題（60%）、学習成果発表（40%）で評価を行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は随時フィードバックを行う。 返却された課題は各自保管しておくこと。
履修条件・注意事項	・授業は配布するハンドアウトに沿って進める。ファイルを準備し保管のこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：担当者は、保育所・社会福祉施設等における勤務経験を有する。
事前学習・事後学習とその時間	・毎回の授業後に、ハンドアウトをもとに必ず復習が必要である。 ・十分な予習と復習（毎回約2時間）を必要とする。
オフィスアワー	水曜5限（10313研究室：藤井） 月曜4限（14615研究室：黒宮） 火曜2限（10312研究室：中野）

授業計画		担当者
第１回	授業オリエンテーション	藤井・中野・黒宮

第２回	福祉とまちづくり、基礎的理解	黒宮
第３回	子ども・保育とまちづくり（高梁から生まれた福祉の先駆者：順正記念館の見学）	藤井
第４回	子ども・保育とまちづくり（高梁の子育て：高梁子育て支援センターの見学）	藤井
第５回	子ども・保育とまちづくり（高梁市内の保育園の見学）	藤井
第６回	子ども・保育とまちづくり（振り返り）	藤井
第７回	福祉・障害とまちづくり（絵本を通して学ぶ障害のある子どもの暮らし）	中野
第８回	福祉・障害とまちづくり（事例やビデオで学ぶ障害のある人の暮らし）	中野
第９回	福祉・障害とまちづくり（障害の疑似体験）	中野
第１０回	福祉・障害とまちづくり（振り返り）	中野
第１１回	地域の生活課題とまちづくり（地域人口と居住者の変化）	黒宮
第１２回	地域の生活課題とまちづくり（食料品アクセス）	黒宮
第１３回	地域の生活課題とまちづくり（自然災害と地域のつながり）	黒宮
第１４回	学習成果発表の準備1（発表内容の検討）	藤井・中野・黒宮
第１５回	学習成果発表の準備2（発表資料作成）	藤井・中野・黒宮
第１６回	学習成果発表（試験）	藤井・中野・黒宮

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	福祉のまちづくりの検証―その現状と明日への提案	参・出版社名１	彰国社
参・著者名１	日本福祉のまちづくり学会 (編集)	参・ＩＳＢＮ１	978-4395021086
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ファシリテーション入門			担当者	井勝　久喜		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-307		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「集団による課題解決など、知的創造活動を支援するファシリテーション技能の習得と活用」をテーマとし、ファシリテーションの理論と技能を学ぶ。 到達目標は下記の通りです。 ・合意形成におけるファシリテーションの重要性を理解している ・ファシリテーション技能を身につけ、実践で活用できる ・ワークショップのファシリテーターとして話し合いを支援できる。
授業概要	集団による課題解決、アイデア創造、合意形成などの場面では、参加者の話し合いを支援し、促進することが大切となります。話し合いを円滑に進行し、集団のメンバーが納得できる意思決定を行うためにはファシリテーションが必要不可欠です。 授業では、集団の話し合いに必要なファシリテーション技能について理論を学ぶと共に、実際にファシリテーションを体験するワークショップを行い、ファシリテーション技能を身につけます。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	講義とグループワークを組み合わせて授業を行う。毎回授業レポートを提出してもらい、レポートを評価する（70%）。最後に、試験を行い評価（30%）する。ただし、他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には、減点することもある。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回のレポートを採点し、次回授業の時に返却する。
履修条件・注意事項	１）初回の講義には、必ず出席すること。２）毎回の授業での活動が評価の対象となるので、授業を休まないこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）授業前に配付資料を読んできておくこと。２）指示に従って、必ず復習をすること。予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施

授業計画		担当者
第１回	ファシリテーションとリーダーシップ	井勝久喜
第２回	人材育成と教育ファシリテーション	井勝久喜
第３回	ファシリテーションの応用分野	井勝久喜
第４回	構造化の理論と実践	井勝久喜
第５回	合意形成の理論と実践	井勝久喜
第６回	ファシリテーターの役割と技能	井勝久喜
第７回	ファシリテーターの技能①聴く力	井勝久喜
第８回	ファシリテーターの技能②応える力	井勝久喜
第９回	ファシリテーターの技能③訊く力	井勝久喜
第１０回	ファシリテーターの心構え	井勝久喜
第１１回	ワークショップの「困ったチャン」対応	井勝久喜
第１２回	ファシリテーショントレーニング①見取りシート	井勝久喜

第１３回	ファシリテーショントレーニング②三人インタビュー	井勝久喜
第１４回	ファシリテーショントレーニング③ダイアログ	井勝久喜
第１５回	ファシリテーショントレーニング④合意形成	井勝久喜
第１６回	授業の振り返りと試験	井勝久喜

教科書			
教・書籍名１	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	ファシリテーション超技術	参・出版社名１	かんき出版
参・著者名１	園部浩司	参・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4-7612-7512-9
参・書籍名２	ファシリテーションの教科書	参・出版社名2	東洋経済新報社
参・著者名2	グロービス	参・ＩＳＢＮ2	978-4-492-53348-2

授業科目名	法学入門			担当者	生駒　正文		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-310		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

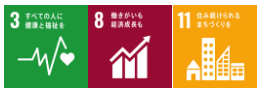
ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	本講義（法律の基礎知識、憲法の構成と基本原理、民法学の基礎知識、家族法の基礎知識、契約一般の基礎知識、訪問販売・割賦販売等の基礎知識）を通して、生活上の諸問題や社会の動向に関して興味関心を持ち、何がただしいのかという価値判断が求められる局面において、自ら考えて選ぶリーガル・マインドを獲得することを到達目標とします。
授業概要	本講義では、個人の生活、企業のビジネスで体験する身近な法的問題を取り上げることによって法の生きた現実の機能を学ぶとともに、法的なものの考え方（リーガルマインド）を学習できるようになっています。講義中に配布する簡単なレジュメ・教科書をもとに授業します。 　各講義とも、それに関係する基礎的な知識習得として、「テーマ」を出しますので、各自意見を文章にしてもらいます。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	レポート及び平常点３０％、定期試験７０％として総合評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題・小テスト等は後日添削して返却
履修条件・注意事項	新聞記事を毎日読むこと、受講に際して、ノートを取ること、考えることを原則に講義に臨むこと
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は大阪簡易裁判所民事調停委員として各案件処理等経験を持つ教員が、その経験を活かし実践的に役立つ授業を実施します
事前学習・事後学習とその時間	授業計画ごとに教科書を復習・予習しておくこと（２時間）
オフィスアワー	12:00～13：２０　14号館6階（生駒研究室）

授業計画		担当者
第１回	1．法律の基礎知識	生駒正文
第２回	2．日本国憲法の構成と基本原理	生駒正文
第３回	3・平和主義・国民主権（三権分立）	生駒正文
第４回	4．基本的人権	生駒正文
第５回	5．基本的人権	生駒正文
第６回	６．基本的人権	生駒正文
第７回	7．家族法の基礎知識（婚姻、内縁）	生駒正文
第８回	８．家族法の基礎知識（親族）	生駒正文
第９回	9．家族法の基礎知識（相続）	生駒正文
第１０回	10．家族法の基礎知識（相続）	生駒正文
第１１回	11．契約一般の基礎知識（契約上の注意点、無効、取消）	生駒正文
第１２回	12．契約一般の基礎知識（代理、契約解除に必要な条件）	生駒正文
第１３回	13．訪問販売・割賦販売の基礎知識（消費者契約法、クレジット）	生駒正文
第１４回	14．訪問販売・割賦販売の基礎知（特定商取引法）	生駒正文
第１５回	15．電子取引上の契約とホームページ	生駒正文
第１６回	16．定期試験	生駒正文

教科書			
教・書籍名１	ガイドブック法学	教・出版社名１	嵯峨野書院
教・著者名１	生駒正文・高田富男編著	教・ＩＳＢＮ１	９７８－４－７８３４－０５７０－６
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	地域分析入門			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-314		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを 
到達目標	テーマ：地域分析の基礎的知識および、データを活用した分析力を習得する。 到達目標（４つ）： ①社会学的な地域・コミュニティの見方や考え方を理解する。 ②地域の現状ならびに生活課題について各種事例から学ぶ。 ③オープンデータを活用した地域分析の基礎的手法を習得する。 ④複数の地域分析ツール（RESAS、統合型GIS、ｊSTAT MAP、ほかWeb-GIS等）を活用し、①②③を統合した学習課題に取り組み、その成果をまとめる。
授業概要	本講義は、地域社会についてデータを活用しながら地域を分析する視点を身に付ける授業である。 授業は講義と演習で構成される。 特に、演習の際には、各自がパソコンを持参することが求められる。 既存のデータを扱うのみならず、社会調査の視点から、各自が必要なデータを収集する（質的・量的）に行うことも想定している。 受講生自らも、高梁市や、出身地域など、身近な地域を事例として検討を行うため、地域・社会課題に対する解決能力を身に付けることが出来る。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中提出課題と発表60%、最終試験40%
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中の提出課題は添削の上、返却を行う（フィードバック）。
履修条件・注意事項	・各自パソコンの持参が必要な授業回が多くある。 ・グループワークにおいてディスカッション力が求められる。留学生のうち会話能力が十分ではない受講生については注意が必要である。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：研究者として各種の地域分析を行う教員が担当する（専門社会調査士）。
事前学習・事後学習とその時間	・予習・復習にそれぞれ2時間を要する（発表機会が多くある）。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	授業オリエンテーション	黒宮
第２回	地域を理解することとは	黒宮
第３回	地域を知るために必要な情報収集（基礎）	黒宮
第４回	地域を知るために必要な情報収集（実践）	黒宮
第５回	RESASで知る地域（導入）	黒宮
第６回	RESASで知る地域（グループ活動）	黒宮
第７回	RESASで知る地域（まとめ・発表）	黒宮
第８回	統合型GISで学ぶ地域（導入）	黒宮
第９回	統合型GISで学ぶ地域（グループ活動）	黒宮
第１０回	統合型GISで学ぶ地域（まとめ・発表）	黒宮
第１１回	jSTAT MAPで学ぶ地域（導入）	黒宮

第１２回	jSTAT MAPで学ぶ地域（グループ活動）	黒宮
第１３回	jSTAT MAPで学ぶ地域（まとめ・発表）	黒宮
第１４回	その他、地域分析に応用可能な手法	黒宮
第１５回	学習成果の総括（振り返り）	黒宮
第１６回	最終試験（筆記）	黒宮

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	RESASの教科書 リーサス・ガイドブック	参・出版社名１	日経ＢＰ社
参・著者名１	日経ビッグデータ（編集）	参・ＩＳＢＮ１	978-4822236601
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会調査法Ⅰ			担当者	坂口　恵莉		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-315		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する科目である。具体的に、社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、社会調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査等の公的統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的事項を学び、基本用語を使えるようになることが到達目標である。「社会調査士」資格取得を希望する学生が最初に受講するべき初歩的な科目である。資格取得に必要な標準カリキュラムのA科目にあたる。資格取得を目指していない学生も歓迎する。
授業概要	社会調査の意義やその方法に関する基本的な概念を学習することを通して、「社会を読む」ために必要な想像力と論理力を身につける。官庁統計から地域調査まで、さまざまなタイプの社会調査を取り上げ、それぞれの意義と方法について解説する。数学や統計的知識は必要ない。単なる調査技術の理解にとどまらず、社会学的思考とは何かについて、考えるきっかけとなってほしい。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	この科目の到達目標は、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的事項を学び、基本用語を使えるようになることである。そして、学生には、社会調査の意義やその方法に関する基本的な概念を学習することを通して、「社会を読む」ために必要な想像力と論理力を身につけることが求められる。したがって、この科目では、基礎的事項の理解や、論理力を確認するための小テスト（50%）と、期末試験（５０％）で評価する。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。なお、評価のために実施する小テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、次の授業でフィードバック・解説を行う。
履修条件・注意事項	本科目は社会調査士資格科目である。日本語学習者においては、一定以上の日本語運用能力が求められる。 対面授業では、毎回授業プリントを配るので、ファイルを用意することが望ましい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	学生は、単位認定試験に向けて、基礎的事項の理解を積み上げていくことが重要である。講義資料と参考文献を用いた予習および復習には、各２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎授業後（ランチタイムに該当）に、講義を行う教室にて実施。

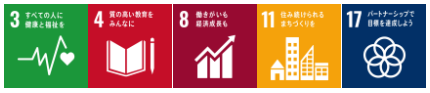
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	坂口
第２回	社会調査史	坂口
第３回	社会調査の目的と意義	坂口
第４回	社会調査の方法と選択：量的調査と質的調査	坂口
第５回	調査倫理	坂口
第６回	量的調査（１）：種類と実例	坂口
第７回	量的調査（２）：データ収集の方法	坂口
第８回	量的調査（３）：データ分析の方法	坂口
第９回	社会調査のデータと情報	坂口
第１０回	質的調査（１）：実際の質的記述の例	坂口
第１１回	質的調査（２）：データ収集の方法①	坂口
第１２回	質的調査（３）：データ収集の方法②	坂口

第１３回	質的調査（４）：データ分析の方法	坂口
第１４回	社会調査の今日的課題	坂口
第１５回	調査報告書のまとめ方	坂口
第１６回	試験	坂口

教科書			
教・書籍名１	なし	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	『社会調査の方法論』	参・出版社名１	丸善出版
参・著者名１	松本渉, 2021,	参・ＩＳＢＮ１	4621306316
参・書籍名２	『はじめて学ぶ社会調査：リサーチ・マインドを磨く８つのレクチャー』	参・出版社名2	慶應義塾大学出版会
参・著者名2	儘田徹, 2012,	参・ＩＳＢＮ2	4766419790

授業科目名	社会調査法Ⅱ			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2021～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-316		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを／１７．パートナーシップで目標を達成しよう 
到達目標	テーマ：社会調査の結果を分析できるようになるための基本的な方法を習得する。 到達目標（４つ） ①公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を身につける。 ②単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データや、グラフの読み方が身につく。 ③さまざまな質的データの読み方、基本的なまとめ方を身につける。 ④相関係数など基礎的統計概念、因果関係と相関関係の区別、擬似相関の概念が理解できるようになる。
授業概要	新聞や雑誌には多くの社会調査の情報があふれているが、その「読み方」までは教えてはくれない。この授業では、実際の社会調査に基づくデータや報告書の実例を出しながら、その意味を読み解くうえでの基本的な考え方について講義する。 社会調査法Ⅰで学んだ入門的知識を踏まえ、常識や思い込みにとらわれず、調査データに基づいて思考する能力を身につける。 社会調査分析に必要となる変数と尺度化、単純集計、クロス分析、因果関係と相関関係の区分、擬似相関、検定等の概念の理解を通し、単なる調査技術の理解にとどまらず、社会学的思考力を高めることが目的である。 本科目は、社会調査士の資格取得に必要な標準カリキュラム「C科目」にあたる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中課題提出（50%）＋定期試験（50%）で評価を行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中の提出課題については添削の上、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	・授業は配布するハンドアウトに沿って進める。ファイルを準備し保管のこと。 ・原則として、「社会調査法Ⅰ」を履修済みであることを条件とする。 ・資格取得に関わる科目のため、留学生の受講に際しては、N2合格水準レベルの日本語力が求められる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、研究者として社会調査を実践する担当教員（専門社会調査士）によるものである。社会調査の手法を具体的に学びながら学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	・毎回の授業時に、授業内容の理解度をはかる課題が出る。 ・十分な予習と復習（毎回約2時間）を必要とする。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	黒宮
第２回	社会調査における分析	黒宮
第３回	社会調査における変数・尺度	黒宮
第４回	記述統計データ ①単純集計	黒宮
第５回	記述統計データ ②度数分布	黒宮
第６回	記述統計データ ③様々な代表値	黒宮

第７回	記述統計データ ④分散	黒宮
第８回	記述統計データ ⑤因果関係と相関関係	黒宮
第９回	記述統計データ ⑥クロス集計	黒宮
第１０回	記述統計データ ⑦相関係数と疑似相関	黒宮
第１１回	様々な統計資料を読む ①各白書	黒宮
第１２回	様々な統計資料を読む ②国際比較調査	黒宮
第１３回	質的データの読み方 ①インタビュー	黒宮
第１４回	質的データの読み方 ②観察法	黒宮
第１５回	質的データの読み方 ③映像・ドキュメント分析	黒宮
第１６回	単位認定試験（筆記）	黒宮

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	社会調査の基礎―社会調査士A・B・C・D科目対応	参・出版社名１	弘文堂
参・著者名１	篠原 清夫ほか（編）	参・ＩＳＢＮ１	978-4335551338
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育デザイン論			担当者	雲津　英子、秀　真一郎、藤井　伊津子、栗田　喜勝、中野　明子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-401		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	教育デザイン論における学びのテーマは、心理学や教育学の学問的知見や教育実践に基づいて、保育・学校教育機能の理解を深めるとともに、保育・教育に関わる職員の役割と仕事内容について理解できることである。到達目標としては、保育・教育現場で求められる教材開発やIT、ICTなどの先端技術を活用した学習カリキュラム、学習支援サービスなどの教育システムをデザインするための基礎的知識を修得することである。
授業概要	本授業では、乳幼児、児童及び生徒の心身の発達特性について理解することを基礎として、子どもの成長発達を支援する保育・教育職員の職務内容と役割について具体的に学ぶとともに、今日の保育・教育実践の現状と課題について考察し、保育・教育環境上の新たなシステムや教材開発のニーズについて検討する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	受講態度(質疑・意見表明等の有無）（４０%）・期末試験（６０%）で総合的に評価する。。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中に呈示する自主学修課題については、学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	講義をしっかり聴き学ぶ意志のあること。受講態度の不適切な者には退出を求めることがある。また、各種講義資料を提示するので、整理し学習に活用すること。なお、受講に際しては必ず復習を行うとともに、次回の予告に対して予習を行うこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：授業は複数の担当者によるオムニバス形式で行うが、保育園や小学校、中学校等の教育現場における教育実践経験者である。
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に呈示する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 ３）単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーを確認すること。

授業計画		担当者
第１回	教育デザインとは―子どもの成長発達支援の観点から	栗田 喜勝
第２回	保育と教育の違いについて	秀 真一郎
第３回	保育所保育士の仕事内容について―現状と課題	秀 真一郎
第４回	幼稚園教諭の仕事内容について―現状と課題	雲津 英子
第５回	認定こども園の現状と課題について	藤井 伊津子
第６回	保育所・幼稚園・認定こども園で用いる教材アラカルト	藤井 伊津子
第７回	児童福祉施設の保育士・児童指導員の仕事内容について	中野 明子
第８回	保育・教育に関わる仕事に必要なスキルについて	雲津 英子

第９回	小学校教諭の仕事内容について―現状と課題	川上 はる江
第１０回	小学校の学習環境と教材アラカルト	川上 はる江
第１１回	中・高校教諭の仕事内容について―現状と課題	藤井 和郎
第１２回	中・高校の学習環境と教材アラカルト	藤井 和郎
第１３回	教育現場における情報教育について	雲津 英子
第１４回	子どもの育ちと教育環境について	栗田 喜勝
第１５回	学修のまとめ	栗田 喜勝
第１６回	期末試験	栗田 喜勝

教科書			
教・書籍名１	毎講義時に授業用資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	子どもがすくすく育つ幼稚園・保育園：教育・環境・安全の見方や選び方、付き合い方まで	参・出版社名１	内外出版社
参・著者名１	猪熊弘子・寺町東子	参・ＩＳＢＮ１	9.78486E+12
参・書籍名２	コンピューターがひらく豊かな教育―情報化社会の教育環境と教師	参・出版社名2	北大路書房
参・著者名2	田中俊也	参・ＩＳＢＮ2	9.78476E+12

授業科目名	ICT教育デザイン			担当者	佐藤　匡		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-402		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	今日のSociety5.0社会の中で、ICT(情報通信技術)の利用・活用が促進される状況にあって、学校教育における情報教育では、児童生徒が自ら考え、主体的に判断・表現・行動するなど、児童生徒が主体的に学ぶための「情報活用能力」の育成が求められる。そこで、本講における学びのテーマは、経営社会学科のディプロマポリシーに従って、児童生徒の情報活用能力の育成のためのICT活用の意義について理解することである。 また、到達目標としては、課題の提示や知識の確認、疑似体験(シミュレーション)、表現活動等の様々な学校教育場面において、ICTを効果的に活用する方法を修得することである。
授業概要	到達目標に従って、Eラーニングシステムの使いこなし方（課題の提示や知識の確認に使うための方法）の理解、疑似体験(シミュレーション)をExcel上で体験、平面図形を活用した資料の作成を体験、2D/3Dのモデリングによる立体感のある資料の作成方法の理解、簡単なWebページの構築やプログラミングの体験、など、様々な学校教育場面においてICTを効果的に活用する方法を、修得する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「"情報活用能力"の育成方法」の学びの予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50%、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20%として最終的に総合評価が行われる。これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	受講者数は、パソコン教室の定員以内とする。 教室の定員のため抽選となることがある。抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第１回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 教科書は用いず、毎回講義の終わりに次回の学習資料が配布される。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。

実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、前職で企業のIT部門（システム管理部門）に従事し、パソコンと汎用コンピュータと電話回線を組み合わせた比較的規模の大きい基幹システムから、パソコンによる段ボール箱設計と段ボール箱へのデザインを作るDTPシステムまでを開発運用した経験を持つ。その他データウェアハウスによるOLAPの運用経験を持つほか、労働省（当時）が全国で運営するコンピュータカレッジの中の一校においてCGコースを２年間担当した経験を持つ。

事前学習・事後学習とその時間	教科書は用いず、講義の終わりに適宜次回の学習資料が配布される。次回の講義に先立って、予習としてその資料を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。

オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日３時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日４時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日２時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日３時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スキル確認テスト	佐藤 匡
第２回	手書き略地図の制作（思考力の確認） Excelで略地図を書く（図形機能の活用）	佐藤 匡
第３回	Wordで略地図を書く（図形機能の活用）	佐藤 匡
第４回	乱数によるモンテカルロ法シミュレーションの概要	佐藤 匡
第５回	Excelによるシミュレーションで円周率を求める（シミュレーションを身近に体験する）	佐藤 匡
第６回	パワーポイントのアニメーション機能の使い方とスライドの動画化 動画と静止画について	佐藤 匡
第７回	Eラーニングシステムの概要とコンテンツの作り方 Google Classroom	佐藤 匡
第８回	Wordによる2段組抄録の作成練習（難易度の高い活用方法）	佐藤 匡
第９回	Windowsにおける拡張子の役割 WebページとHTML、JavaScriptプログラムの概要	佐藤 匡
第１０回	簡単なWebページの作成 パソコンのスペック（仕様）の読み方	佐藤 匡
第１１回	ITパスポート関連個所解説 3次元ポリゴンモデラーによる基本描画	佐藤 匡
第１２回	3次元ポリゴンモデラーによる描画とそのデータの資料としての活用方法	佐藤 匡
第１３回	2次元 ＣＡＤによる基本描画	佐藤 匡
第１４回	2次元 ＣＡＤによる幾何学図形の描画とそのデータの資料としての活用方法	佐藤 匡
第１５回	情報セキュリティの現状 ネットワークとインターネット まとめと質疑応答	佐藤 匡
第１６回	単位認定試験	佐藤 匡

教科書			
教・書籍名１	教科書は使用せず、講義内で学習資料を適宜配付する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育と社会			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-404		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	本講義は、家庭、学校そして地域社会のなかで生起する「社会現象としての教育」を、教育社会学の理論をもとに考察することをテーマとし、到達目標は次の3点とする。 ①　日本の社会と教育の歴史的変遷を理解し、多角的角度から批判的に考察する力を身につけることができる。 ②　家庭、学校、地域社会で営まれている教育、さらには、子どもの生活における現象を経済・社会・文化などと関連付け、その構造を理解することができる。 ③　近年の教育政策の動向を理解し、未来の教育と社会の在り方について自分の考えを論理的に説明することができる。
授業概要	教育社会学および社会学の基礎的概念や理論を理解するとともに、現代社会におけるさまざまな教育に関する現象（社会状況の変化とその影響を含む）について多角的角度から批判的に考察する。受講生には、これからの教育と社会の在り方に対する自らの考えを論理的に説明できる力を身につけてほしい。グループ討議等には積極的に参加し、主体的な学修をめざすことが望ましい。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	レポート試験・受講態度などによって総合的に評価する。 レポート試験（70%）、発表・討論への参加（15%）、受講態度（15%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題（提出物・レポート）は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、ファイルを用意すること。 新聞やテレビ・ラジオ、またインタネットや雑誌などで報道される教育に関する記事やニュースについて、日頃から関心をもってほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	日頃から教育や社会に関するニュースに関心をもち、グループ討議に積極的に参加できるように事前準備に努める。予習および復習は、各2時間程度行うこと。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

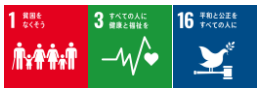
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション―「子ども」「教育」とは	雲津 英子
第２回	日本の社会と学校①―近世教育	雲津 英子
第３回	日本の社会と学校②－近代教育	雲津 英子
第４回	グループ討議①：近代教育について批判的に考える	雲津 英子
第５回	日本の社会と学校③－現代教育	雲津 英子
第６回	日本の家族と子どもの生活	雲津 英子
第７回	現代の子育てとその支援	雲津 英子
第８回	グループ討議②：家族や子育てに関する課題を考える	雲津 英子
第９回	社会の変化と幼児教育（幼稚園・保育所・認定こども園）	雲津 英子
第１０回	グループ討議③：幼児教育の多様化・市場化のメリット、デメリットを考える	雲津 英子
第１１回	教育におけるジェンダー／多文化共生の教育	雲津 英子
第１２回	消費社会・情報社会と子ども文化	雲津 英子

第１３回	グループ討議④：ジェンダー・多文化共生・消費社会・情報社会の教育について考える	雲津 英子
第１４回	世界、アジア、日本の教育改革	雲津 英子
第１５回	グループ討議⑤：社会の変化に対応する教育の在り方を考える―AI・人生100年時代（生涯学習社会）	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（レポート試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	教育と社会	参・出版社名１	学文社
参・著者名１	陣内 靖彦　穂坂 明徳　木村 敬子　編著	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7620-2257-9
参・書籍名２	教育と子どもの社会史	参・出版社名2	梓出版社
参・著者名2	小針 誠	参・ＩＳＢN2	978-4-87262-626-1

授業科目名	社会福祉 （子ども発達合同）			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-407		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	社会福祉の概要や現状と課題を理解することをテーマとし、下記を到達目標とする。 １．学生が、現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び 社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 ２．社会福祉の制度や実施体系について理解する。 ３．社会福祉の範囲や法体系について学ぶ。 ４．社会福祉の相談援助について理解する。 ５．社会福祉における利用者保護に関わる仕組みについて理解する。 ６．社会福祉の動向と課題について理解する。
授業概要	少子高齢化社会の中で、保育者は子どもの保育や子ども家庭支援の役割を担っている。それらを果たすために必要な社会福祉の知識や技術について理解する。具体的には、社会福祉の制度や実施体系、社会福祉の範囲や法体系、相談援助の方法（ソーシャルワークの技術や方法）、利用者保護に関わる仕組みなどについて学ぶ。また、社会福祉の動向と課題についても理解する。身近な事例を用いて、討論する時間なども設けていきたい。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	定期試験（評価基準６割）、課題（発表・提出物・レポート）（２割）、受講態度（２割）など総合的に判断する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題に関しては、紙面によりコメントを返却し、講義の中でもフィードバックする。単位認定試験の後は、事前に配布する講義のまとめのプリントを見て内容を確認すること。
履修条件・注意事項	欠席の場合、理由を書いた欠席届を提出してほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業計画に沿って、事前に教科書を読んで予習をしておくこと。授業中に、疑問点や気づきをメモし、受講後調べておくこと。学習したことを整理して、ノートの左側などにキーワードを書き入れ,、それを見出しとし説明ができるように復習すること。また、テレビや新聞などで報道される社会福祉に関する問題にも関連づけて考察し、ノート等にまとめておくこと。予習・復習は、毎回９０分ずつおこなうこと。
オフィスアワー	10号館3階１０３１２研究室にて、毎週火曜日２限をオフィスアワーとする。

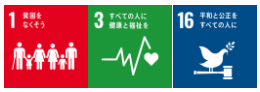
授業計画		担当者
第１回	１．社会福祉の理念と概念	中野明子
第２回	２．子ども家庭福祉と社会福祉	中野明子
第３回	３．社会福祉の道すじ	中野明子
第４回	４．社会福祉の範囲と法体系	中野明子
第５回	５．社会福祉行財政と実施機関	中野明子

第６回	６．社会福祉施設と専門職	中野明子
第７回	７．社会保障制度	中野明子
第８回	８．社会福祉における利用者保護に関わる仕組み	中野明子
第９回	９．社会福祉における相談援助 (1)相談援助の意義と原則	中野明子
第１０回	10．社会福祉における相談援助 (2)相談援助の方法と技術	中野明子
第１１回	11.社会福祉の動向と課題 (1)障害のある人の福祉	中野明子
第１２回	12.社会福祉の動向と課題 (2)高齢者の福祉	中野明子
第１３回	13.社会福祉の動向と課題 (3)在宅福祉・地域福祉の推進	中野明子
第１４回	14.社会福祉の動向と課題 (4)少子高齢化社会における子育て支援	中野明子
第１５回	15.社会福祉の動向と課題 (5)諸外国の動向	中野明子
第１６回	16.筆記試験	中野明子

教科書			
教・書籍名１	九訂『保育士をめざす人の社会福祉』	教・出版社名１	株）みらい
教・著者名１	相澤譲治他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86015-537-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子ども家庭福祉 （子ども発達合同）			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-409		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	「子ども家庭福祉の概要を理解し、これからの課題や展望について学ぶ」をテーマとする。 到達目標は以下の通りとする。 1.学生が、現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2.子ども家庭福祉の人権擁護について理解する。 3.子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4.子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5.子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。
授業概要	児童虐待や家庭内暴力（DV)、子どもの貧困、障害児問題、社会的養護など、児童家庭福祉の現状や課題を明らかにし、それに対応した制度や法体系、専門職について理解する。また、保育・教育・医療･療育などのネットワークの中で課題の解決を考察し、地域で子育て家庭を支える一員として実践できる保育士になれるよう指導したい。身近な話題を取り上げ討議する時間なども設けていきたい。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	定期試験（評価基準６割）、課題（提出物・レポート）（２割）、受講態度（２割）など総合的に判断する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題に関しては講義の中でフィードバックする。単位認定試験後は、授業の内容をまとめたプリント（授業期間に配布）にて内容を確認すること。
履修条件・注意事項	新聞やニュース、参考文献などから、児童家庭福祉の問題に関する情報を収集しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業計画に沿って、事前に教科書を読んで予習をしておくこと。授業中に、疑問点や気づきをメモしておき、受講後調べておくこと。学習したことを整理して、ノートの左側などにキーワードを書き入れ、それを見出しとし、説明ができるように復習すること。また、テレビや新聞などで報道される児童･家庭に関する問題とも関連づけて考察し、ノートにまとめておくこと。予習・復習は、 毎回９０分ずつおこなうこと。
オフィスアワー	10号館3階１０３１２研究室にて、毎週火曜日２限をオフィスアワーとする。

授業計画		担当者
第１回	１．子ども家庭福祉の理念と概念	中野明子
第２回	２．子ども家庭福祉の歴史	中野明子
第３回	３．現代社会と子ども家庭福祉	中野明子
第４回	４．子どもの人権擁護の歴史	中野明子
第５回	５．児童の権利に関する条約と子どもの人権擁護の現状と課題	中野明子
第６回	６．子ども家庭福祉の制度と法体系	中野明子

第７回	７．児童福祉施設及び子ども庭福祉の専門職	中野明子
第８回	８．子ども虐待・DVとその防止	中野明子
第９回	９．ひとり親家庭、貧困家庭等の子どもと支援	中野明子
第１０回	10.障害のある子どもの現状と支援	中野明子
第１１回	11.母子保健と子どもの健全育成	中野明子
第１２回	12.少年非行等の現状と支援	中野明子
第１３回	13.少子化と地域子育て支援	中野明子
第１４回	14.多様な保育ニーズへの対応	中野明子
第１５回	15.子ども家庭福祉の動向と展望	中野明子
第１６回	16.筆記試験	中野明子

教科書			
教・書籍名１	保育士をめざす人の子ども家庭福祉	教・出版社名１	(株) みらい
教・著者名１	波田埜　英治・辰巳 隆 編	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86015-468-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育の心理学Ⅰ（子ども発達合同）			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-411		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	発達は人と人の関わりのなかで生じていることを中心に、乳幼児の保育や幼児教育を行っていくうえで必須となる子どもの心身発達の基礎となる心理学的知見を学ぶことをテーマとする。 到達目標：子どもの生得的なすばらしい能力とその発達過程を理解し、子どもに対する興味・関心を高め、より多面的に理解できるようになる。
授業概要	保育実践における子どもの発達理解の意義について学ぶとともに、発達に関わる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。また、子どもの発達に関わる他者との関わり、社会的相互作用等についても理解する。さらに、生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育実践との関わりについて考察する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	ほぼ隔週で行う小テストまたはミニ・レポートの得点（３０％）と定期試験の得点（７０％）に、受講態度の評価点（０～１）を乗じたもので評価する。したがって、テストで満点であっても、受講態度の評価点が 0.5 の場合は100点×0.5で50点となるので注意すること。小テストは採点後、返却するので、定期試験に向けて、しっかり見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストの返却と、必要に応じて補足解説を行う。
履修条件・注意事項	上述のように、ほぼ隔週で小テストを行なうので、最低限、教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 小テストは前回の授業内容の復習テスト、あるいは当日の授業内容の理解テストを中心に行なう予定である。 保育士の資格取得には必須科目である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、あらかじめテキストに目を通しておくこと。（2時間） 復習は、配付資料とともに、再度テキストを読むこと。（2時間） 返却された小テストも確認しておくこと。
オフィスアワー	月曜4限　　教員研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	発達を考える（第1章）	森井
第３回	人との関わりの基盤	森井
第４回	子ども同士の関わりの進展	森井
第５回	身体的機能と運動機能の発達－個人差と環境－	森井
第６回	運動機能の発達と心理的発達との関連	森井
第７回	ピアジェ理論とその再検討	森井
第８回	世界づくりの開始―認知発達の基盤	森井
第９回	世界づくりの展開―身の回りの世界についての理解の構成	森井
第１０回	言語発達の基礎―人との関わりから育まれる言葉	森井
第１１回	言語を使った世界の広がり	森井
第１２回	乳幼児期の学びに関わる理論	森井

第１３回	乳幼児期の学びの過程と特性		森井
第１４回	乳幼児期の学びを支える保育		森井
第１５回	まとめ		森井
第１６回	定期試験		森井
教科書			
教・書籍名１	保育の心理学	教・出版社名１	北大路書房
教・著者名１	藤﨑 眞知代・無藤 隆	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7628-3152-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	エピソードで学ぶ　乳幼児の発達心理学	参・出版社名１	新曜社
参・著者名１	岡本依子・菅野幸恵・塚田-城みちる	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7885-0907-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	保育原理Ⅰ（子ども発達合同）			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2021～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-413		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、保育に携わる上で基礎概念となる保育の原理を理解することができると共に、より柔軟な保育理念を身に付けるための考察力を培うことができる。保育における歴史や思想を知ることで、現在の保育に至る流れをより深く理解することができる。さらに、乳幼児期の子どもにおける発達を考察し、保育内容を考慮した上での計画の意義・重要性を知ることができる。保育者とは？この疑問に対して、自らの答えを見つけ出すことができる。
授業概要	保育の基礎を構築することから、自らの保育観、子ども観、保育士観、保護者観が磨かれていく。そのためにも、概念・理念を知ることから始まり、歴史的思想を理解することで、今の保育思想を次につなぐものへ変える力をつける。毎回の講義の中で自らの保育に対する基礎作りを求める。保育士としての実務経験を活かし、保育現場について実践的な授業を行う。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度、提出物、試験から総合的に判断する。 成績評価基準：受講態度（１５％）、提出物（１５％）、試験（７０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出物などに関しては、授業内においてフィードバックするので、参考にすること。
履修条件・注意事項	保育の基盤作りという意識を持って取り組むこと。前述したように、保育の基礎・基盤を構築するために大切な授業です。予習・復習をしっかり行い、自らの保育観を作り上げください。
実務経験のある教員	該当する　内容：保育士資格
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高まること。 予習・復習においては２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目をオフィスアワーとする。（１０号館３階研究室）

授業計画		担当者
第１回	保育とは何か	秀
第２回	保育の基盤としての子ども観	秀
第３回	子ども理解から出発する保育	秀
第４回	子どもが育つ環境の理解	秀
第５回	保育内容・方法の原理：保育の基本と保育内容・方法	秀
第６回	保育内容・方法の原理：子どものための保育内容とは	秀
第７回	保育の計画と実践の原理	秀
第８回	保育における健康・安全の原理	秀
第９回	保育の歴史に何を学ぶか：歴史を振り返る	秀
第１０回	保育の歴史に何を学ぶか：西欧における集団保育施設の誕生と発展	秀
第１１回	保育の歴史に何を学ぶか：わが国における集団保育施設の誕生と発展	秀
第１２回	保育者に求められるもの	秀
第１３回	現代の子育てと子育て支援	秀
第１４回	保育の現状と課題	秀
第１５回	「保育原理」の原理を問う	秀
第１６回	試験	秀

教科書			
教・書籍名１	新しい保育講座１　保育原理	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	渡邉英則・髙嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀　編	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-08027-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	現代の保育学４　保育原理【第7版】	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	待井和江　編	参・ＩＳＢＮ１	9784623053094
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育原理Ⅱ （子ども発達合同）			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-414		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	◎

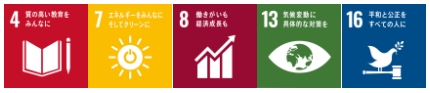
ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	現在保育現場において求められているものは多様化し、細分化されてきている。当然、保育者自身に求められるものも変わってきている。学生は、今保育者として求められているものとは何か？子どもたちにとっての保育者とは？保護者にとっての保育者とは？そのような疑問に対する答えを、役割と論理・制度的位置づけ・専門性などの面から自ら見つけだすことのできる考察力と保育者観を身につけることができる。
授業概要	幼稚園・保育所における保育者の役目や求められているものをしっかり理解することが大切となる。そのためにも理論に基づいた保育者の専門性に関する知識・基礎を理解する必要がある。そうすることで、個性のある魅力ある保育者、自分が保育者としてできることを自ら見つけだすことができるようになる。ただ単なる知識の詰め込みではなく、自らが考える講義となるよう、投げかけに対する答えを見つけ出すことを求める。保育士としての実務経験を活かし、保育現場について実践的な授業を行う。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度、提出物、試験から総合的に判断する。 成績評価基準：受講態度（１５％）、提出物（１５％）、試験（７０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出物などに関しては、授業内においてフィードバックするので、参考にすること。
履修条件・注意事項	保育者となるために必要な知識はもちろん、保育者としての心構えや保育内容を考えるために必要な基盤であることを意識し、積極的に取り組むこと。保育者として身につけておかなければならない大切な内容であることを理解し、予習復習をしっかり行うこと。
実務経験のある教員	該当する　内容：幼稚園教諭1種免許、保育士資格
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高めること。 予習・復習においては２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目をオフィスアワーとする。（１０号館３階研究室）

授業計画		担当者
第１回	「保育者になる」ということ	秀
第２回	魅力的な保育者とは	秀
第３回	保育者の一日：一日のスタート～給食	秀
第４回	保育者の一日：給食～「保育者」という仕事	秀
第５回	子どもがわかる・育つということ	秀
第６回	子どもを読み解くということ	秀
第７回	子どもと一緒に心と体を動かす仕事（幼稚園の場合）	秀
第８回	子どもと一緒に心と体を動かす（保育所の場合）	秀
第９回	絵本を通して豊かな生活を生み出す保育者	秀
第１０回	子どもと豊かに生活するための保育者の個性	秀
第１１回	保護者や家庭と一緒の歩む仕事	秀
第１２回	学び合う保育者：保育者の成長	秀
第１３回	学び合う保育者：「語り合い」・「学び合う」	秀
第１４回	保育者の専門性とは	秀

第１５回	専門性を高めるために		秀
第１６回	試験		秀
教科書			
教・書籍名１	新しい保育講座２　保育者論	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	汐見稔幸・大豆生田啓友　編	教・ＩＳＢＮ１	9784623083329
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	改訂　保育者論	参・出版社名１	建帛社
参・著者名１	民秋言　編著	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7679-3211-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	教育原論（初等教育）			担当者	藤井　和郎		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-415		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	【テーマ】教育の基本的概念や教育の理念などについての理解を深める。 【到達目標】 １　教育の基本的概念 (1)教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解することができる。 (2)子ども・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解することができる。 ２　教育に関する歴史 (1)家族と社会による教育の歴史を理解することができる。 (2)近代教育制度の成立と展開を理解することができる。 (3)現代社会における教育課程を歴史的な視点から理解することができる。 ３　教育に関する思想 (1)家庭や子どもに関わる教育の思想を理解することができる。 (2)学校や学習に関わる教育の思想を理解することができる。 (3)代表的な教育家の思想を理解することができる。
授業概要	教師には教科指導力、生徒指導力などの力量が求められる。しかしそれらの力量は教育の基本的概念や教育の理念などの理解に支えられてこそ発揮できるのである。授業では、これら教育の基本的概念や教育の理念に加え、教育の歴史や思想、そしてこれまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習１→グループ学習→全体学習→個人学習２」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	［試験］50%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する） ［提出物］20%（レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する） ［授業への参画状況］30%（予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。 授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、教育行政及び中学校校長の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	教育学の諸概念	藤井
第２回	教育の本質及び目標並びに代表的な教育家の思想	藤井

第３回	教育を成り立たせる諸要因と相互の関係	藤井
第４回	近代教育制度の成立と展開並びに代表的な教育家の思想	藤井
第５回	学校教育制度の変遷	藤井
第６回	現代社会における教育課題①（日本国憲法下の教育施策）	藤井
第７回	現代社会における教育課題②（幼稚園教育）	藤井
第８回	現代社会における教育課題③（小学校教育）	藤井
第９回	現代社会における教育課題④（特別支援教育）	藤井
第１０回	学習に関わる教育の思想	藤井
第１１回	学校と社会による教育の歴史	藤井
第１２回	家庭や子供に関わる教育の思想	藤井
第１３回	生涯学習社会と教育	藤井
第１４回	歴史的視点から見た教育課題	藤井
第１５回	学校に関わる教育の思想	藤井
第１６回	試験	藤井

教科書			
教・書籍名１	なぜからはじめる教育原理［第2版］	教・出版社名１	建帛社
教・著者名１	池田隆英、楠本恭之、中原朋生	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7679-5072-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	教育原理	参・出版社名１	中央法規
参・著者名１	矢藤誠慈郎・北野幸子編	参・ＩＳＢＮ１	978-4-8058-5202-6
参・書籍名２	小学校学習指導要領(平成29年告示)	参・出版社名2	東洋館出版社
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	978-4-491-03460-7

授業科目名	教育心理学（初等教育）（子ども発達合同）			担当者	栗田　喜勝		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-416		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	授業のテーマとしては、教育心理学の学問的知見に基づき、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、学生が基礎的知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。到達目標としては、学生が幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解でき、さらに乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、具体的な内容を理解できる。また、学生が様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解し、主体的学習を支える動機づけ・集団作り・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解するとともに、幼児、児童及び生徒の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。
授業概要	この講義は、幼児、児童及び生徒の心身の発達過程や特徴について講じるとともに、学習に関する基礎的知識や発達を踏まえた学習を支える指導について論じる。具体的には、幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する代表的理論について概説し、発達の概念及び教育における発達理解の意義、運動・言語・認知・社会性の発達等に関する具体的な内容について講じる。また、幼児、児童及び生徒の主体的学習を支える動機づけ・集団作り・学習評価のあり方等について、主体的な学習活動を支える指導の実際についても教授する。また、幼児、児童及び生徒の学習支援に役立つ臨床心理学的視点についても論じる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度(質疑・意見表明等の有無）（４０%）・期末試験（６０%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中に呈示する自主学修課題については、学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	講義をしっかり聴き学ぶ意志のあること。受講態度の不適切な者には退出を求めることがある。また、多くの講義資料をファイルデータとして提示するので、整理し学習に活用すること。なお、受講に際しては必ず復習を行うとともに、次回の予告に対して予習を行うこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前にファイル呈示する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 ３）単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。
オフィスアワー	木個人研究室にて、基本的には木曜日4限、金曜日5限にPCオンライン・電話・メール等で実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。

授業計画		担当者
第１回	教育心理学とは何か	栗田
第２回	幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する基礎理論	栗田
第３回	幼児期の心身の発達過程と特徴－運動・感情・認知・言語・社会性の発達	栗田
第４回	児童期の心身の発達過程と特徴－身体運動能力・認知・社会性・仲間関係・自己概念の発達	栗田
第５回	青年期の心身の発達と特徴－身体・認知能力・アイデンティティ・自己意識・人間関係の発達	栗田

第６回	学習のメカニズム(1)－学習理論の系譜	栗田
第７回	学習のメカニズム(2)－認知的情報処理と記憶	栗田
第８回	学習のメカニズム(3)－動機づけと学習意欲	栗田
第９回	学級集団と学習行動・学校生活	栗田
第１０回	学級集団づくりにおける教師の役割と友人関係の影響	栗田
第１１回	教育測定と評価の意義	栗田
第１２回	教育測定と評価の実際	栗田
第１３回	幼児、児童及び生徒の情緒問題・行動的問題と学習支援	栗田
第１４回	障害をもつ幼児、児童及び生徒への学習支援	栗田
第１５回	学修のまとめ	栗田
第１６回	試験	栗田

教科書			
教・書籍名１	初回講義時にファイル資料データを提示するとともに、毎講義時にも新たなファイル資料データ呈示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	やさしい教育心理学	参・出版社名１	有斐閣アルマ
参・著者名１	鎌原雅彦	参・ＩＳＢＮ１	978-641-12458-5
参・書籍名２	子どもを育む心理学	参・出版社名2	保育出版社
参・著者名2	小林芳郎他	参・ＩＳＢＮ2	978-4-938795-61-0

授業科目名	社会調査法Ⅲ			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-501		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	テーマ：社会調査における調査の設計および実施方法の基礎を習得する。 到達目標（4つ）： ①社会調査におけるサンプリングの方法を理解する ②調査票（質問紙）の設計および質問項目の作り方について学ぶ ③調査の方法（実査の方法、調査票の配布と回収法等）を理解する ④調査データの整理（コーディング・データクリーニング等）が出来るようになる なお、この科目は、社会調査士資格取得に必要な標準カリキュラムのB科目に該当する。
授業概要	社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する。 サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法等）、調査データの整理（コーディング、データクリーニング等）の理解を通して調査設計と実施方法の基礎を習得する。 授業全体を通して課題を中心としたペアワーク、グループワークを行うため、受講生のコミュニケーション能力の向上にも繋がる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	最終試験(50%)と、授業中課題(50%)により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は授業中にフィードバックを行う。単位認定試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	・毎週授業で配布する「配付資料（書き込み式のハンドアウト）」をもとに授業を進める。配布資料は各自ファイルに保管しておくこと。 ・授業の進行に合わせて、毎回、授業途中および授業の最後に「課題提出」を求める。 ・「社会調査法Ⅰ」、「社会調査法Ⅱ」を既習であることが望ましい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、研究者として社会調査を実践する担当教員（専門社会調査士）によるものである。社会調査の手法を具体的に学びながら学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	配布資料をもとに、授業内で解いた演習問題を次回授業までに復習のこと。 予習および復習には、各２時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	授業内容全体の概略（オリエンテーション）	黒宮
第２回	調査目的と調査方法	黒宮
第３回	調査方法の決め方	黒宮
第４回	調査企画と設計(1)調査企画	黒宮
第５回	調査企画と設計(2)調査設計	黒宮
第６回	質問項目の作成方法（ワーディング等）	黒宮
第７回	調査票の基本的な構成	黒宮
第８回	仮説構成	黒宮

第９回	全数調査と標本調査	黒宮
第１０回	無作為抽出	黒宮
第１１回	標本数と誤差	黒宮
第１２回	サンプリングの諸方法	黒宮
第１３回	調査の実施方法（調査票の配布・回収法等）	黒宮
第１４回	調査データの整理(1)コーディング	黒宮
第１５回	調査データの整理(2)データクリーニング	黒宮
第１６回	単位認定試験（筆記）	黒宮

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	社会調査法入門	参・出版社名１	有斐閣
参・著者名１	盛山和夫	参・ＩＳＢＮ１	4-641-18305-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会調査統計学Ⅰ			担当者	稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2021～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-502		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	テーマ：社会調査に必要な推測統計を学ぶ 到達目標：推測統計の原理を理解し、自ら分析や検定・推定ができるようになる。 本講義は、社会調査士資格取得のための標準カリキュラムＤ科目に該当する。したがって、最終的な目標は社会調査士資格の取得である。
授業概要	本講義は、社会調査における計量的分析に必要となる統計学の知識・スキルの習得を目指す。 まず全数調査を基本とする記述統計（基本統計量や相関、標準偏差、正規分布等）について理解を深める。次に標本調査をもとに推測統計の基礎的部分について学ぶ。推測統計については、確率論の基礎、確率分布、推定・検定（平均の差の検定、関連性の検定、相関係数の検定を含む）などである。 講義内容に対応し適宜演習を行う。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	演習問題や課題等の提出物（30%）と定期試験（70%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	演習問題や課題については授業内で解説をおこなう。
履修条件・注意事項	本講義は、社会調査士資格取得のための標準カリキュラムＤ科目に該当するため、厳格な講義運営を行う。また、「社会調査法Ⅰ」「社会調査法Ⅱ」を既習であることが望ましい。 授業計画の内容は、進捗状況に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、研究者として社会調査を実践する担当教員（専門社会調査士）によるものである。
事前学習・事後学習とその時間	配布資料や参考書などを読み、予習・復習（各2時間程度）をする。
オフィスアワー	火曜日3時限に研究室（14611）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	稲元洋輔
第２回	基本統計量	稲元洋輔
第３回	度数分布とヒストグラム	稲元洋輔
第４回	代表値と分散・標準偏差	稲元洋輔
第５回	相関係数・回帰直線	稲元洋輔
第６回	確率変数・確率分布	稲元洋輔
第７回	母集団と標本	稲元洋輔
第８回	離散型確率変数	稲元洋輔
第９回	連続型確率変数	稲元洋輔
第１０回	正規分布に関わる定理	稲元洋輔
第１１回	統計的仮説検定の原理	稲元洋輔
第１２回	母平均・母比率に関する検定	稲元洋輔
第１３回	統計的推定の基礎	稲元洋輔
第１４回	様々な母数の区間推定	稲元洋輔
第１５回	まとめ	稲元洋輔

第１６回	定期試験		稲元洋輔
教科書			
教・書籍名１	資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	統計学の図鑑	参・出版社名１	技術評論社
参・著者名１	涌井良幸・涌井貞美	参・ＩＳＢＮ１	978-4774173313
参・書籍名２	心理統計学の基礎	参・出版社名2	有斐閣アルマ
参・著者名2	南風原朝和	参・ＩＳＢＮ2	978-4641121607

授業科目名	社会調査統計学Ⅱ			担当者	稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2021～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-503		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	△

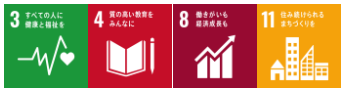
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	テーマ：社会調査における量的データの分析方法を学ぶ。 到達目標：多変量解析法について、基本的な考え方と分析方法について理解する。 本講義は、社会調査士資格取得のための標準カリキュラムE科目に該当する。
授業概要	本講義は、量的データの分析で用いられる多変量解析の手法について、知識・スキルの習得を目指す。 まず種々の解析法に関してその基本的な考え方と主要な分析手法について学ぶ。分散分析や重回帰分析を基本としながら、他の計量モデルとして主成分分析、判別分析、因子分析などをとりあげる。これらの理解と実践を通してデータ解析の方法を身に付ける。 講義内容に対応しパソコンを使用して演習を行う。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	演習問題や課題等の提出物（30%）と定期試験（70%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	演習問題や課題については授業内で解説をおこなう。
履修条件・注意事項	本講義は、社会調査士資格取得のための標準カリキュラムＥ科目に該当するため、厳格な講義運営を行う。また、社会調査士関連科目のA・B・C・D科目（本学設置科目名「社会調査法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「社会調査統計学Ⅰ」）について、すべて既習であることを履修条件とする。 授業計画の内容は、進捗状況に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、研究者として社会調査を実践する担当教員（専門社会調査士）によるものである。
事前学習・事後学習とその時間	配布資料や参考書などを読み、予習・復習（各2時間程度）をする。
オフィスアワー	火曜日3時限に研究室（14611）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	稲元洋輔
第２回	基礎知識の復習：記述統計量	稲元洋輔
第３回	基礎知識の復習：仮説検定	稲元洋輔
第４回	疑似相関	稲元洋輔
第５回	多重クロス表，偏相関分析	稲元洋輔
第６回	分散分析	稲元洋輔
第７回	交互作用効果	稲元洋輔
第８回	単回帰分析	稲元洋輔
第９回	重回帰分析の基礎	稲元洋輔
第１０回	ダミー変数・多重共線性	稲元洋輔
第１１回	重回帰分析の応用	稲元洋輔
第１２回	主成分分析	稲元洋輔
第１３回	因子分析	稲元洋輔
第１４回	クラスター分析	稲元洋輔
第１５回	まとめ	稲元洋輔

第１６回	定期試験		稲元洋輔
教科書			
教・書籍名１	資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理統計学の基礎	参・出版社名１	有斐閣アルマ
参・著者名１	南風原朝和	参・ＩＳＢＮ１	978-4641121607
参・書籍名２	多変量解析入門―線形から非線形へ	参・出版社名2	岩波書店
参・著者名2	小西貞則	参・ＩＳＢＮ2	978-4000056533

授業科目名	質的調査法			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-504		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを 
到達目標	テーマ：社会調査の手法における、質的データの収集や分析方法を習得する。 目標（3つ） ①質的調査に関する基礎的理解を深め、調査技術を習得する。 ②インタビュー法、フィールドワーク、参与観察法等を経験する。また、ライフヒストリー分析や会話分析などの分析方法を学ぶことを通じ、質的調査の技術の習得を目指す。 ③複数の質的調査を用いた研究例の紹介や解説により、多様な質的調査の研究法について理解を深める。 ④インタビュー法のトレーニングを通じ、受講生のコミュニケーション力（言語・非言語）が高まる。 なお、この科目は、社会調査士資格取得に必要な標準カリキュラムの「F科目」に該当する。
授業概要	インタビュー、参与観察法、フィールドワークなどの手法を、講義と演習形式を組みあわせた授業をもとに学ぶ。 データ分析の方法についても、コーディング作業などを実際に行いながら習得を行う。 受講生は単に質的調査法の技法を学ぶだけでなく、社会学の視点や社会調査とは何かについても併せて理解を深める。 この講義を通して学ぶ社会調査の思想や技法は、受講生がレポートや卒業論文作成等を行う際にも役立つものとなる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	毎回の提出課題(50%)、定期試験(50%)で評価を行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した提出課題（小レポート）は、授業中にフィードバックを行う（単位認定試験までに復習しておくこと）。
履修条件・注意事項	・原則として、社会調査法Ⅰ、社会調査法Ⅱ、社会調査法Ⅲを既習であること。 ・授業は毎回配布する資料をもとに、演習を基礎とした課題を行う。 ・配付資料はファイル等を作成し、必ず全て保管しておくこと。 ・留学生については、質的調査の遂行には高い日本語力が求められるため、日本語能力試験（JLPT）N2に合格していることを履修条件とする。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、研究者として社会調査を実践する担当教員（専門社会調査士）によるものである。社会調査の手法を具体的に学びながら学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	配布資料をもとに必ず復習を行うこと。 授業の予習・復習には、各２時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	授業オリエンテーション	黒宮
第２回	社会調査の目的と意義	黒宮
第３回	質的調査の考え方（質的調査研究例の紹介・解説1）	黒宮
第４回	質的調査で扱うデータの種類とその理解（質的調査研究例の紹介・解説2）	黒宮
第５回	インタビュー　基礎	黒宮
第６回	インタビュー　実践	黒宮

第７回	インタビュー　言語データの扱い方	黒宮
第８回	インタビュー　分析（コーディング）	黒宮
第９回	フィールドワーク　基礎	黒宮
第１０回	フィールドワーク　応用	黒宮
第１１回	参与観察法　基礎	黒宮
第１２回	参与観察法　応用	黒宮
第１３回	ワークショップ	黒宮
第１４回	ライフヒストリー分析	黒宮
第１５回	会話分析	黒宮
第１６回	定期試験（筆記式）	黒宮

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	よくわかる質的調査法　技法編	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	谷富雄・芦田徹郎　編著	参・ＩＳＢＮ１	978-4623052738
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	健康・医療心理学			担当者	村上　勝典		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-604		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「人の健康に対する意識、及び意識や行動(健康関連行動、生活習慣など)が健康に及ぼす影響・効果を理解する」ことが授業のテーマである。 到達目標は、健康行動に関する基礎的な理論の理解と、生活習慣病の予防やストレスマネジメントについて理解できることである。
授業概要	健康心理学についての基礎的な内容を紹介する。健康に関連する心理学的な知見、健康心理学で用いるアセスメントや、カウンセリングなどについて紹介する。また、健康心理学で用いられる心理テストの体験を取り入れておこなう。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	テーマ「人の健康に対する意識、及び意識や行動(健康関連行動、生活習慣など)が健康に及ぼす影響・効果を検討する」の到達度について、小テストおよびレポート課題の結果や定期テストの結果により総合的に評価する。具体的には、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）と試験（60%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 プリントを用いて講義を進めるので、復習しやすいようにファイリングすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	健康心理学とは	村上
第２回	健康行動に関する基礎理論	村上
第３回	動機づけ理論	村上
第４回	健康行動とその理論モデル	村上
第５回	健康問題に関する予防	村上
第６回	ストレスとは	村上
第７回	ストレスに関するモデル	村上
第８回	ストレス対処	村上
第９回	疾病とパーソナリティ	村上
第１０回	ソーシャルサポート	村上
第１１回	アセスメント	村上
第１２回	健康心理カウンセリング	村上
第１３回	チーム医療と役割	村上
第１４回	医療領域の対象疾患と支援	村上
第１５回	災害心理学	村上
第１６回	定期試験	村上

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	健康・医療心理学	参・出版社名１	医歯薬出版株式会社
参・著者名１	宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫（編）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-263-26577-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育の心理学Ⅱ			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-606		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ：子どもの発達と保育実践、生活や遊びを通した学びの課程、保育における発達援助の3つの観点から保育の心理学の理解を深める。 到達目標：①単なる座学としての知識ではなく、学んだ知識をもとに様々な現実的な問題への対応について自分で考えることができるようになる。②学んだことを要領よく他者に伝えられるようになる。
授業概要	保育の心理学Ⅰの学びをさらに深化させ、生活や遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。また、発達課題や主体性の形成、就学への支援等、保育実践における具体的な発達援助についても学ぶ。 演習形式で行う授業なので、毎回、各自が調べてきたことを発表し、それに基づいて討議を行ことで、いろいろな意見・考え方について知り理解を深めていく。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	演習への取り組み姿勢（討論への参加の程度、事前の準備状況など）４０％と各自の発表内容４０％、そしてレポート（授業中の小レポートと最終的なレポート）２０％で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	発表に関してはその都度、質疑応答の中で内容や取り組み姿勢等についてコメントする。 レポートは、その都度，フィードバックとして返却する。
履修条件・注意事項	授業内での討論に参加するためには、教科書を中心とした予習・復習はもとより、様々なメディアからの関連情報にもアンテナを張っておくことが必要になる。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	テキストの熟読は必須。不明語句等は当然のこと、それ以外の補足内容についても、発表の準備では、テキスト以外の資料を収集して行うこと。（2時間以上）
オフィスアワー	月曜４限、教員研究室。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	保育における子どもの理解の意義	森井
第３回	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり	森井
第４回	子どもの生活や遊び	森井
第５回	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	森井
第６回	子ども相互の関わりと関係づくり	森井
第７回	集団における経験と育ち	森井
第８回	葛藤やつまずき	森井
第９回	保育の環境の理解と構成	森井
第１０回	環境の変化や移行	森井
第１１回	子どもを理解する方法	森井
第１２回	省察・評価	森井
第１３回	発達の課題に応じた援助と関わり	森井
第１４回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	森井
第１５回	まとめ・保育実践について	森井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	子どもの理解と援助	教・出版社名１	北大路書房
教・著者名１	清水益治・無藤　隆	教・ＩＳＢＮ１	978-4762831386
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育原理Ⅲ （子ども発達合同）			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-608		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	保育所における保育の基盤となる保育所保育指針は、とても重要であり十分に理解されるべきものである。この講義を通して、学生は保育所保育指針における全5章を深く理解し、保育制度の現状を学ぶことができる。さらに、現代の保育課題に対しての知識を高めることができる。
授業概要	保育所保育指針を熟読し、しっかりと理解することがこの講義の内容すべてとなる。日本における保育の中心となす保育所保育指針の理解、さらにはその理解をベースとし、今後の保育観を作り上げる内容となる。保育士としての実務経験を活かし、保育現場について実践的な授業を行う。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業態度・提出物・試験の結果から総合的に評価する。 提出物などに関しては、授業内においてフィードバックするので、参考にすること。 授業態度（１５％）、提出物（１５％）、試験（７０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出物などに関しては、授業内においてフィードバックするので、参考にすること。
履修条件・注意事項	保育現場との共通知識だということを忘れずに、積極的に取り組むこと。 実際の子どもの成長を知る上でも、大切な内容となる。 そのためにも、予習・復習をしっかり行い身につけること。
実務経験のある教員	該当する　内容　保育所保育士
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高めること。 予習・復習においては２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目をオフィスアワーとする。（１０号館３階研究室）

授業計画		担当者
第１回	総則1：保育所保育に関する基本原則（保育所の役割・保育の目標・保育の方法）	秀
第２回	総則2：保育所保育に関する基本原則（保育の環境・保育所の社会的責任）・養護に関する基本的事項	秀
第３回	総則3：保育の計画及び評価	秀
第４回	総則4：幼児教育を行う施設として共有すべき事項	秀
第５回	保育の内容1：乳児保育に係るねらい及び内容	秀
第６回	保育の内容2：1歳以上3歳未満児の保育に係るねらい及び内容（基本的事項・ねらい及び内容1）	秀
第７回	保育の内容3：1歳以上3歳未満児の保育に係るねらい及び内容（ねらい及び内容2・保育の実施に係る配慮事項）	秀
第８回	保育の内容4：3歳以上児の保育に関するねらい及び内容（基本的事項）	秀
第９回	保育の内容5：3歳以上児の保育に関するねらい及び内容（ねらい及び内容）	秀
第１０回	保育の内容6：3歳以上児の保育に関するねらい及び内容（保育の実施に関わる配慮事項）	秀
第１１回	保育の内容6：保育の実施に関して留意すべき事項	秀
第１２回	健康及び安全1：子どもの健康支援・食育の推進	秀
第１３回	健康及び安全2：環境及び衛生管理並びに安全管理・災害への備え	秀
第１４回	子育て支援	秀

第１５回	職員の資質向上		秀
第１６回	試験		秀
教科書			
教・書籍名１	平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領　<原本>	教・出版社名１	チャイルド本社
教・著者名１	文部科学省、厚生労働省、内閣府	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8054-0258-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子どもの保健 （子ども発達合同）			担当者	西田　啓子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-609		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義 グループワーク
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１２．つくる責任・つかう責任／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	新生児から児童までの正常な発達と発育を理解し、乳幼児期、児童期に重要な専門家のかかわりを学修する。
授業概要	教科書「子どもの保健」をテキストとし、テキストに沿って子どもの保健の意義、子どもの理解、正常な子どもの生理的変化、感染症、ワクチン接種について、アレルギー、免疫などについて、視聴覚教材やGWなどを取り入れて、学修する。毎回講義の初めには、前回の復習と確認を行う。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業出席日数、授業態度、試験などを含め、総合的に評価判定する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回授業の初めに、前回の講義内容についての質疑応答と復習を行う。 定期的な課題レポートの提出。
履修条件・注意事項	教科書を必ず購入する。資料が多いので、ファイリングできるように準備しておく。 授業態度は積極的且つ、真摯であること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：看護師・助産師として40年以上の実務経験あり、命の現場に携わってきた。 20年以上、保育現場での子育て支援にかかわっている。
事前学習・事後学習とその時間	毎週、予習復習を行い、自ら質問ができるようにしておく。
オフィスアワー	毎週水曜日。

授業計画		担当者
第１回		
第２回		
第３回		
第４回		
第５回		
第６回		
第７回		
第８回		
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	子どもの保健　改定第3版	教・出版社名１	中山書店
教・著者名１	渡辺　博	教・ＩＳＢＮ１	978-4-521-74487-2
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子どもの健康と安全 （集中D）			担当者	西田　啓子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-610		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義・演習 実習・DVD
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１２．つくる責任・つかう責任／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	「子どもの保健ＩA」および、「子どもの保健」で学んだ基礎知識をもとに、実際の子どもたちへのかかわり方や、体調不良時への対応、応急処置など、実技や演習を中心に実際的なスキルを身につける
授業概要	子どもの健康管理、日常生活の援助方法、体調不良時や緊急時の対応など、演習を通じて実際に行う。 また、発達や応急処置に関しては動画やDVD視聴を通じてイメージできるように学修する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度を最も重視する。出席日数、実習中の態度、試験は実技試験とし、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業開始時に、前回の授業内容についての質疑応答を行う。 定期的に講義内容についての小レポートを課題として提出する。
履修条件・注意事項	教科書を購入すること。資料が多くなるので、ファイルができるよう準備しておく。 実技中心になるので、まじめな態度で臨むこと。
実務経験のある教員	該当する　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回の復習、予習を怠らない。質問ができるくらいの準備をして講義に臨むこと。
オフィスアワー	毎週水曜日

授業計画		担当者
第１回		
第２回		
第３回		
第４回		
第５回		
第６回		
第７回		
第８回		
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	これだけはおさえたい　保育者のための　子どもの健康と安全	教・出版社名１	創成社
教・著者名１	鈴木美枝子.内山有子.田中和香菜.両角理恵	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7944-8093-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	乳児保育Ⅰ（子ども発達合同）			担当者	加藤　寿美子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-613		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	保育者として職務に就いた時、社会の動きを視野に入れ、乳児期にある一人の人間の尊厳を守り育み、自分自身を磨く。
授業概要	日本の風土や子育て文化、これまでの研究の成果を踏まえ、乳児が育つ過程で保育者の豊かな人間性、緻密な観察力と想像力、そして不断の努力に支えられた確かな判断力で一人ひとりの乳児に向き合い、乳児との相互作用の中で営まれていることをまず学び乳児が育つ姿の裏側にある育ちを支える保育者のありようを学ぶ。 乳児理解にとどまらず乳児を育てている家庭と相互理解や連携を取りながら実践者として働く力、自分の実践を内省する力、そして自分自身を育てる力が備わること。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	授業への積極的参加度(40%)知識の修得度を確認するため試験(40%)自ら調べまとめる能力を確認するための課題レポー(20%)
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	皆の前で発表をしディスカッションをする。
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するので、初回授業よりファイルを用意すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：岡山市立保育所・社会福祉法人の保育園に計２５年間勤務し、その内２年間園長を経験。その後、順正短期大学へ常勤として１５年間勤務。岡山県知事より岡山県保育所巡回指導員として任命され５年間指導を行う。現在吉備国際大学非常勤として勤務。乳幼児保育に関わってきた実務経験を活かし、実践的な内容を反映する講義を行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習により授業をする。試験は、必ず行うので必ず予習復習(教科書・保育所保育指針・月刊誌も参考)を行うこと。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

授業計画		担当者
第１回	１．乳児保育の意義・目的と役割	加藤
第２回	２．乳児保育の現状と課題	加藤
第３回	３．乳児保育の実際　保育所	加藤
第４回	４．乳児院・家庭保育の実際	加藤
第５回	５．３歳未満児の発育・発達をふまえた保育３歳未満児の生活と環境	加藤
第６回	６．３歳未満児の遊びと環境	加藤
第７回	７．３歳以上児保育に移行する時期の保育	加藤
第８回	８．乳児保育における計画・記録・評価	加藤
第９回	９．乳児保育における連携・協働	加藤
第１０回	１０．身体機能の発達と保育	加藤
第１１回	１１．基本的生活習慣獲得と保育(食べる)	加藤
第１２回	１２．排泄する・眠る	加藤
第１３回	１３．言葉で人とつながる	加藤
第１４回	１４．言葉の発達を支えるもの	加藤
第１５回	１５．人とかかわる	加藤
第１６回	筆記試験	加藤

教科書			
教・書籍名１	乳児の生活と保育　　ななみ書房	教・出版社名１	
教・著者名１	松本園子　編著	教・ＩＳＢＮ１	９７８－４－９０３３５５－８２－５　C3037
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	乳児保育Ⅱ			担当者	加藤　寿美子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-614		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	３０時間	授業形態	講義　演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	子どもの生命の尊さ、命を育むことの意義を学び、豊かな人間性と諸化学の理論に裏づけられた保育実践力を身につけること。
授業概要	保育所保育指針において保育所の保育は、養護と教育を一体的に進めるものとして定義されています。児童福祉法も保育所保育を支える方向で改定され、さらに次世代育成支援計画の策定が地域に義務づけられる中で保育の児童福祉に占める位置が大きなものとなりました。虐待防止のための要保護児童対策地域協議会の大事な構成員ともなっています。保育士の業務として子どもを保育することと共に、家庭への支援がふくめられたことも大きな意味があります。 子どもの生命・命を育むこと・保育の実践力を身につける。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	授業態度２５％提出物２５％科目認定試験により評価５０％評価のために実施した課題等については、授業でフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	演習の場合教員は、勿論評価するが学生も評価反省をし、又教材研究をしっかりし、次回に活かすようにする。文章表現・動きは勿論保育の流れ子どもが主体的に動けるよう研究する。
履修条件・注意事項	１)事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習により授業をする。 ２)教材研究をすること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：岡山市立保育所・社会福祉法人の保育園に合計２５年間勤務し、その内２年間園長を経験。その後、順正短期大学へ常勤として１５年間勤務。岡山県知事より岡山県保育所巡回指導員として任命され５年間指導を行い、現在は、吉備国際大学非常勤として勤務。乳幼児保育に関わってきた実務経験を活かし、実践的な内容を反映する講義を行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前に教科書を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	加藤
第２回	２．乳児保育になぜ計画が必要か	加藤
第３回	３．乳児保育における計画の意義	加藤
第４回	４．効果的な計画に向けて	加藤
第５回	５．指導計画の作成	加藤
第６回	６．おおむね６カ月未満の計画	加藤
第７回	７．おおむね６カ月から１歳３カ月未満の計画	加藤
第８回	８．おおむね１歳の計画	加藤
第９回	９．おおむね２歳の計画	加藤
第１０回	１０．グループで計画の作成	加藤
第１１回	１１．実践発表	加藤
第１２回	１２．実践発表	加藤
第１３回	１３．実践発表	加藤
第１４回	１４．実践発表	加藤

第１５回	１５．実践発表	加藤
第１６回	１６．筆記試験	加藤

教科書			
教・書籍名１	乳児の生活と保育	教・出版社名１	
教・著者名１	ななみ書房　　松本園子　　編著	教・ＩＳＢＮ１	９７８－４－９０３３５５－８２－５
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	障害児保育Ⅰ（子ども発達合同）			担当者	池本　貞子		
配当学科・研究科	2021～2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-616		
必修・選択	必須	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	障害児について、障害特性と取り巻く環境の両面から学び、保育実践の場でどのようにアプローチが必要なのか考え、実践する力を身につける。 具体的には、①障害種別と具体的な支援方法について理解する。②障害児を取り巻く環境（家族、教育、福祉等）について現状と課題を整理する。③障害児への対応につい て支援の視点から考え、判断できるようになる。
授業概要	障害の基礎知識としての種別、具体的な支援方法、保育を行う上での配慮点について学ぶ。さらに、歴史的な背景を理解したうえで、保育・教育・福祉等それぞれの視点から現状を知り、課題について考える。 具体的には、障害児をイメージし、支援の視点から子どもへの配慮の必要性を考える。また、保護者・家族に対してどのような関わりが求められるか、養護教諭の経験を基に講義し学生に理解を深める。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	この科目は、障害の基礎知識と障害を取り巻く環境の重要性の面から学び、保育実践の場でのアプローチについて考えることを目標にしていることから、知識の習得状況について試験、受講態度、グループワークへの参加状態等について総合的に評価する。 成績評価は試験６０％、授業態度２０％、課題、レポート２０％で評価する。 なお、教科書の他に配布した資料等については、授業の中でフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のための課題は、授業の中でフィードバックする。
履修条件・注意事項	到達目標、授業内容、評価方法等について、初回の授業で詳しく説明するので、必ず出席すること。 授業内容によっては、レポート等の課題提出を求めるため、予習・復習が必要になる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、保育士として障害を持つ子どもへの対応について考える内容である。養護教諭としての実務経験から、心身に問題を抱える子どもへの支援方法、家族支援について学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	日ごろから、子どもの健康問題に興味・関心を持ち、教科書・新聞・雑誌等をよく読み、疑問点や理解できない点をまとめて授業を受ける。授業後は講義内容を整理し振り返る。 予習および復習には、各2時間の学修時間を目安とする。
オフィスアワー	講義終了後、教室にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	池本
第２回	２．障害とは	池本
第３回	３．ノーマライゼーションの広がりと障害に関するWHOの分類	池本
第４回	４．障害児保育の歴史	池本
第５回	５．障害児保育の現状	池本
第６回	６．障害と発達①発達とは	池本
第７回	７．障害と発達②発達の原則	池本
第８回	８．障害と発達③脳の進化	池本
第９回	９．障害乳幼児の生活	池本
第１０回	１０．障害児保育の形態	池本
第１１回	１１．統合保育の意義	池本

第１２回	１２．統合保育の拡大		池本
第１３回	１３．幼稚園・保育所における障害児保育		池本
第１４回	１４．障害児の受け入れ		池本
第１５回	１５．障害児を知る手だてとまとめ		池本
第１６回	筆記試験		池本
教科書			
教・書籍名１	幼稚園・保育所の先生のための障害児保育テキスト	教・出版社名１	教育出版
教・著者名１	若井淳二・水野薫・酒井幸子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-316-80347-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	障害児保育Ⅱ （子ども発達合同）			担当者	池本　貞子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-617		
必修・選択	必須	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	今日、多様な障害を抱える子どもたちが、幼稚園や保育所で地域の子どもたちと一緒に生活する「統合保育」浸透している。地域の中でともに生活することは、専門機関による療育・訓練とは違った意味で障害の改善に繋がることは明らかであり、その支援は「保育」の任務である。また、障害を持つ子どもとともに保育を受けることが、障害を持たない子どもたちの発達にも大きな影響を与えている。 本講義では、①障害児保育の入り口である、障害特性、障害児保育の概念について理解して上で、「統合保育」について考える。②障害別の保育方法について理解して上で 幼稚園・保育所における保育ニーズの把握、保育者間の連携、保護者との連携、関係機関との連携など保育者としての具体的援助ののあり方を検討する。
授業概要	具体的には、 １．発達の遅れと障害種別の特性 ２．「統合保育」の仕組み ３．指導計画とケースカンファレンスについて実践的に学ぶ。 ４．関係機関との連携について学ぶ。 ５．保護者との連携について考える。 などの内容を中心に、養護教諭の経験を基に講義し、学生の理解を深める。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	この科目では、障害別の特性の理解、指導計画とケースカンファレンス意義と進め方などについての理解を目標にしていることから、知識の習得状況を確認する試験、受講態度、グループワークへの参加状態等により、総合的に評価する。 評価基準は、試験６０％、受講態度２０％、グループワークへの関わり２０％で評価する。 なお、教科書の他に配布する資料については、授業の中でフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題については、授業の中でフィードバックする。
履修条件・注意事項	授業に対する姿勢として、目的意識をもって積極的に取り組ことを心がける。 授業内容により、レポート等の提出を求めるために、予習・復習が必須となる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：本科目の目標は、保育者として、障害を持つ子どもへの支援について学ぶことである。養護教諭としての実務経験から、心身に問題を抱える子どもの保育ニーズの把握と支援、専門機関および保護者との連携について、学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	日ごろから、子どもの健康問題に興味・関心を持ち、予習として教科書・新聞・雑誌等を読んで、疑問点や質問事項をまとめておく。復習は講義内容をノートに整理し振り返りをする。予習・復習にはそれぞれ2時間程度を目安とする。
オフィスアワー	授業終了後、教室で実施する。

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	池本
第２回	２．障害児と障害観	池本
第３回	３．家庭への子育て支援	池本
第４回	４．関係機関との連携	池本
第５回	５．視覚障害とその支援	池本

第６回	６．聴覚障害とその支援	池本
第７回	７．肢体不自由とその支援	池本
第８回	８．言語障害とその支援	池本
第９回	９．知的障害とその支援	池本１０．
第１０回	１０．発達障害とその支援	池本
第１１回	１１．統合保育の意義と仕組み	池本
第１２回	１２．インテグレーションからインクルーシブへ	池本
第１３回	１３．インクルーシブ保育の実際	池本
第１４回	１４．指導計画の重要性とその作成	池本
第１５回	１５．就学と特別支援教育	池本
第１６回	筆記試験	池本

教科書			
教・書籍名１	幼稚園・保育所の先生のための障害児保育テキスト	教・出版社名１	教育出版
教・著者名１	若井淳二・水野薫・酒井幸子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-316-80347-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育内容指導（環境）（子ども発達合同）			担当者	藤井　伊津子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-622		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	＜テーマ＞幼児期において育みたい資質・能力を理解し、「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」に示された「保育内容　領域(環境)」の「ねらい」及び「内容」について環境領域と関連させて理解を深め、幼児期の発達に即して、主体的・対話的な学びが実現する過程を踏まえ具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることを基本とする。 ＜到達目標＞ １）保育内容「領域（環境）」の「ねらい」及び「内容」並びに全体構造を理解できる。 ２）保育内容「領域（環境）」の「ねらい」及び「内容」を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解できる。 ３）保育内容「領域（環境）」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科などとのつながりを理解できる。
授業概要	本授業は、子どもの幼児期において身近な環境（自然環境、物的環境、人的環境、社会環境）との関わりによる人間形成の基礎を築くための意義について具体的な事例の考察により理解する。加えて保育内容（環境）の指導現場に欠かせない環境構成のあり方、指導案作成なども含めた基礎理論を学び、次の実践的な保育指導法につながる基礎力を修得する。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	授業は、教科書、参考書、配布資料、体験、調査等で進められ、発表や質疑応答の参加型学習方式で行われ、各自またはグループでの討論における発言頻度、その内容など授業への積極的参加度（40%）を重視し、筆記試験による知識修得度（40%）並びに課題レポート発表・討論など(20%）で総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題やレポート等は、次の授業内に取り上げたり、コメントをつけてフィードバックする。
履修条件・注意事項	配布される参考資料等をファイルにまとめたり、自習した資料を加えたりして「マイノート」として整理し、討論や演習の際に持参して授業の参加度を上げること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：保育士としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かし、保育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	1.授業では講義の他に、事前に提示された課題に対して調べたことを材料に討論したり、演習を取り入れたりして参加型学習方式で進められるので、個人、グループ発表準備などが必須である。 2.配布資料はファイルして、自習したものを加えた「マイノート」として整理し、復習を行うこと。 3.期末試験（筆記試験）が実施され、出席のみの単位取得はできない。また、予習・復習（各2時間程度）を必ず行うこと。
オフィスアワー	10号館３階の個人研究室において、毎週水曜日５限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者

第１回	幼児教育の意味と保育内容における領域「環境」のとらえ方	藤井
第２回	保育内容の領域「環境」における指導目標と「ねらい」「内容」及び留意点	藤井
第３回	幼児の発達と環境との関わりにみる、保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」についての考察	藤井
第４回	環境の構成・再構成のあり方と保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」との関わり	藤井
第５回	保育における保育内容「環境」の視点から考察する指導案作成の「ねらい」と「内容」	藤井
第６回	幼児期における動物との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第７回	幼児期における植物との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第８回	幼児期における物的環境との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第９回	幼児期における自然事象との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第１０回	幼児期における数量や図形との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第１１回	幼児期における地域との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第１２回	幼児期における情報機器および教材との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第１３回	保育内容「環境」と他の領域や小学校教育との関わりにおける意義	藤井
第１４回	子どもの環境への関わりと保育者の役割	藤井
第１５回	保育内容「環境」についての総括	藤井
第１６回	筆記試験	藤井

教科書			
教・書籍名１	基礎からまなべる保育内容（環境）ワークブック	教・出版社名１	あいり出版
教・著者名１	田中卓也・岡野聡子・藤井伊津子・橋爪けい子・木本有香・小久保圭一郎　編	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86555-087-0
教・書籍名２	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	教・出版社名2	フレーベル館
教・著者名2	内閣府、文部科学省、厚生労働省	教・ＩＳＢＮ2	4577814498

参考書			
参・書籍名１	コンパス　保育内容　　環　境	参・出版社名１	建帛社
参・著者名１	編著：高橋貴志・目良秋子 共著：青木聡子　他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7679-5062-4
参・書籍名２	子どもと環境（理論編）	参・出版社名2	三晃書房
参・著者名2	監修：小田　豊 編者：奥井智久、芦田　宏	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7830-8002-2

授業科目名	保育内容指導（言葉）（子ども発達合同）			担当者	小坂田　佐弓		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-623		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう
到達目標	テーマ：子どもの言葉の発達と獲得について理解し、絵本などを教材として保育を構想する方法を身に付けることができる。 到達目標：①幼稚園教育要領の領域「言葉」のねらい及び内容について理解している。 ②子どもの言葉の発達と獲得について理解し、子どもが言葉を獲得するために、保育者として援助する能力及び言葉の発達に即した環境を構成する能力を身につけている。 ③言葉の発達を、発達していく過程にある子どもの全体像の中で評価することができる。 ④生活体験の中で培われた言葉の力が､小学校の国語科学習につながっていくことを理解している。
授業概要	まず領域「言葉」のねらいと内容を学び､子どものコミュニケーションとしての言葉について考える｡次いで子どもが発達段階において言葉をどのように獲得していくのか学習する。その上で、子どもが安心して表現したり、興味や関心をもって聞いたり、イメージ豊かに考えたりできる力を育てるために指導案を作成し、模擬保育を通じて保育者がどのように援助・指導すべきか理解する。また情報機器及び教材を活用して、言葉を育てる文化財や遊びについて討論したり実演したりして、言葉による伝え合いの楽しさ・喜びを知る。こうした中から培われた言葉の力が、国語科学習へとつながっていくことを理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／実習
評価方法と割合	この科目では、子どもの言葉の発達と獲得について理解し、保育者として保育を構想する方法を身に付けることを目的としていることから、知識および能力の修得状況を計るため、定期試験結果や実習、授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（50%）、絵本の読み聞かせや紙芝居の上演実習（30%）、ディスカッションにおける発言頻度・発言内容、および授業中の学びの程度を判定するため､授業への積極的な参加態度（20%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間内での解説およびコメントカードに記入しての返却。
履修条件・注意事項	毎回の授業におけるディスカッションなどに主体的に参加・発表できるように、予習として授業計画に記載されていることについて調べ学習を行ってくること。絵本などを紹介することが多いので、見やすいよう教室のなるべく前の方に座ること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に参考書を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また事後学習として、ディスカッションの内容、講義で取り上げた児童文化財の内容や感想についてノートをまとめ、復習を行っておくこと。絵本の読み聞かせや紙芝居の上演実習を行うので、自らの演じる物を選び練習をしておくこと。予習および復習には各1時間程度を要する。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

授業計画		担当者
第１回	概論：保育内容「言葉」に関する領域	小坂田佐弓
第２回	子どもの言葉：言葉の教育のねらい	小坂田佐弓
第３回	子どもの言葉：言葉の機能	小坂田佐弓

第４回	子どもの言葉：発達と獲得(出生から生後8、9か月)	小坂田佐弓
第５回	子どもの言葉：発達と獲得(生後8、9か月から2歳)	小坂田佐弓
第６回	子どもの言葉：発達と獲得(3歳から6歳)	小坂田佐弓
第７回	子どもの生活と言葉：言葉を聞くこと・わかること	小坂田佐弓
第８回	子どもの生活と言葉：言葉で表現すること	小坂田佐弓
第９回	子どもの生活と言葉：言葉で考えること	小坂田佐弓
第１０回	言葉と環境：人との関わり	小坂田佐弓
第１１回	言葉と環境：社会環境との関わり	小坂田佐弓
第１２回	言葉と環境：文化財との関わり（絵本）〔読み聞かせ〕	小坂田佐弓
第１３回	言葉と環境：文化財との関わり（童話・紙芝居）〔上演〕	小坂田佐弓
第１４回	言葉と環境：文化財との関わり（人形劇）	小坂田佐弓
第１５回	言葉遊びの楽しさ	小坂田佐弓
第１６回	単位認定試験	小坂田佐弓

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	最新保育講座　保育内容「言葉」	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	柴崎正行･戸田雅美･秋田喜代美 編	参・ＩＳＢＮ１	978-4623056415
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	保育内容指導（表現）			担当者	上田　豊、佐藤　尚宏		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-624		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

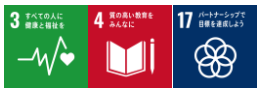
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「子どもの表現活動の理解および造形・音楽表現の技法と技術」をテーマとする。前半の造形表現では、環境づくりの課題として「子ども参加の空間デザイン」をテーマに壁面空間のグループ製作を通して保育内容の指導に必要な造形表現力を養い、後半の音楽表現では、音・音楽による表現方法の学習を通して、作品作りや表現ができる力を養う事を到達目標とする。
授業概要	「子どもの表現活動の理解および造形・音楽表現の技法と技術」「実際の保育現場において適切な援助および指導ができる能力」の習得を行うために、教材研究、情報機器及び教材の活用、指導案作成、模擬保育を実施する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	模擬保育（題材の理解とねらい、指導・援助の確かさなど）（５0点）、および授業に取り組む姿勢（事前準備と自己学習、かたづけ、提出物）（５0点)によって評価する。 講義内で適宜フィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	模擬授業の後、必要なフィードバックおよび補足講義を行う。
履修条件・注意事項	必要な教材は基本的にこちらで用意する。特別に必要なものは各自手配すること。指示された準備（予習）をして授業に望むこと。また、授業内容を記録（復習）すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：園での造形表現指導（2年）、小学生の絵画指導経験（20年）継続中。過去に美術系進学予備校において15年間の指導経験あり（デッサン、色彩構成・表現、立体構成・表現、構想表現）。
事前学習・事後学習とその時間	造形表現では、 事前の学修として、普段から様々な環境整備（お店のショウウィンドウや公共施設の子ども室などの室内構成、壁面装飾）を観察し、どんな工夫や意図があるかに触れること。 事後の学修として、講義で理解できなかった知識や技能について自宅学修を行うこと。 音楽表現では、 事前の学修として、普段から身の回りの様々な音や音楽に触れ、感性を磨いておくこと。 事後の学修として、講義で理解できなかった知識や技能について自宅学修を行うこと。 いずれも、2時間を学修時間の目安とする。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	佐藤尚宏・上田豊
第２回	「子ども参加の空間デザイン」「情報聞き及び教材の活用」について	佐藤尚宏
第３回	グループ分けと教材研究	佐藤尚宏
第４回	指導案作成と教材準備	佐藤尚宏
第５回	続き	佐藤尚宏
第６回	模擬授業	佐藤尚宏
第７回	模擬授業	佐藤尚宏
第８回	模擬授業とふりかえり	佐藤尚宏
第９回	感性と表現	上田豊
第１０回	身体と音楽表現	上田豊
第１１回	身の回りのものと音楽表現	上田豊

第１２回	楽器と音楽表現		上田豊
第１３回	子どもと一緒にできる音遊び1-詩に音をつける		上田豊
第１４回	子どもと一緒にできる音遊び2-CDの音楽と手作り音楽によるアンサンブル		上田豊
第１５回	作品発表・模擬保育		上田豊
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	保育をひらく造形表現	教・出版社名１	萌文書林
教・著者名１	槇　英子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89347-295-3
教・書籍名２	歌う、弾く、表現する保育者になろう	教・出版社名2	音楽之友社
教・著者名2	全国大学音楽教育学会中四国地区学会編著	教・ＩＳＢＮ2	4-276-31274-4
参考書			
参・書籍名１	幼稚園教育要領解説	参・出版社名１	フレーベル館
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-577-81447-5
参・書籍名２	保育所保育指針解説	参・出版社名2	フレーベル館
参・著者名2	厚生労働省	参・ＩＳＢＮ2	978-4577814482

授業科目名	基礎技能（音楽A）			担当者	上田　豊		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-626		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう 
到達目標	テーマは「子どもの豊かな音楽活動を援助する知識・技術」の習得。指導者は、保育や幼・小学校教育現場における子どもの音楽活動が実践できなくてはならない。そのために必要な音楽的な知識・技能の習得を目指す。本講座では、①歌唱表現の基礎となる呼吸法、発声法、ソルフェージュ練習により、子どもの歌が素歌で歌える、②ピアノ演奏の基本である5指を中心にした初級曲の演奏ができる、③主要三和音（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）のカデンツが正しい運指で弾ける、④簡易楽器の演奏と取り扱いができる。
授業概要	授業は個人レッスンとクラス授業の二形態で行う。個人レッスンでは、ピアノの基本的な奏法を習得する。また、クラス授業では、呼吸法、発声法、ソルフェージュ練習、鍵盤楽器によるカデンツ演奏、楽典の学習を行う。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	平素の学習態度と期末試験（実技・筆記）により、総合的に評価する。評価の割合は、期末試験（50%）、平素の課題への取り組み（30%）、授業参加態度（20%）。　平素の取り組みでは課題を実施し、結果は一人ひとり簡単な解説を付す形でフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間内に口頭で行う
履修条件・注意事項	初回、各自のピアノ演奏力が担当者に分かるように、一曲用意してくること。授業は、ピアノ個人レッスンと歌唱法その他グループ演習（クラス授業形態）を組み合わせる。グループ分けは初回に発表する。ピアノ、唱歌とも予習する。レッスンで〇（丸）をもらった曲はいつでも弾けるように復習を重ねること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、前回の授業で課された課題曲について、譜読みを行い、歌唱及びピアノ演奏練習を、1週間十分復習しておくことが必要不可欠である。難しい、また、分からないところはまとめておくこと。 復習として、「〇」をもらった曲は、いつでも歌える（弾ける）ように、日々練習を怠らないこと。予習及び復習は、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

授業計画		担当者
第１回	１．ピアノ奏法、ソルフェージュ　予備知識	上田
第２回	２．ピアノ奏法、楽典	上田
第３回	３．ピアノ奏法、ソルフェージュ　４分音符他	上田
第４回	４．ピアノ奏法、ソルフェージュ　３／４拍子	上田
第５回	５．ピアノ奏法、ソルフェージュ　８八分音符	上田
第６回	６．ピアノ奏法、ソルフェージュ　16分音符	上田
第７回	７．ピアノ奏法、ソルフェージュ　付点音符	上田
第８回	８．ピアノ奏法、ソルフェージュ　３連音符	上田
第９回	９．ピアノ奏法、ソルフェージュ　６／８拍子	上田
第１０回	１０．ピアノ奏法、ソルフェージュ　短調	上田
第１１回	１１．ピアノ奏法、カデンツ　音階と音程	上田
第１２回	１２．ピアノ奏法、カデンツ　音の重なり	上田
第１３回	１３．ピアノ奏法、カデンツ　ハ長調Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ	上田
第１４回	１４．ピアノ奏法、簡易楽器奏法	上田

第１５回	１４．ピアノ奏法、簡易楽器合奏	上田
第１６回	１６．単位認定試験（実技）	上田

教科書			
教・書籍名１	基礎から学べるピアノ１，２，３	教・出版社名１	ドレミ楽譜出版社
教・著者名１	本廣明美・加藤照恵編著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-285-11830-8
教・書籍名２	歌う、弾く、表現する保育者になろう	教・出版社名2	音楽之友社
教・著者名2	全国大学音楽教育学会中四国地区学会編著	教・ＩＳＢＮ2	4-276-31274-4
参考書			
参・書籍名１	日本の子どもの歌－唱歌童謡140年の歩み	参・出版社名１	音楽之友社
参・著者名１	全国大学音楽教育学会編著	参・ＩＳＢＮ１	978-4-276-59025-0
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎技能（図画工作）（集中A）			担当者	佐藤　尚宏		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-628		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「子どもの造形活動を援助するために必要な造形表現力を養うこと」をテーマに、「図画工作に関する基礎的な技能の習得」をめざす。 課題の作品制作を通して、子どもの造形表現に適した素材特性の理解，素材を活かす加工方法の理解と技能を養うことを到達目標とする。
授業概要	子どもの造形活動を援助するためには，子どもの発達段階の理解と、発達段階に適した題材設定や準備，さらに保育者自身が素材や加工・技法に習熟している必要がある。 この授業ではおもに幼児教育のための題材を中心に、演習による作品制作を通して、1）子どもの造形表現活動の援助に必要な態度や姿勢が実感できる、２）子どもの発達段階に適した素材や技法、加工方法を体得する、３）保育に活用できる教材の加工と活用方法を体得することができる、の３つの側面から学習を進める。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習
評価方法と割合	●課題作品（素材・技法の理解と技能，課題の理解と活用、作品の完成度等）５０％ ●取組内容（準備・かたづけ，制作プロセスにおける気づきや発見，レポートなど）５０％ ※課題作品・レポートは評価の後、フィードバックを行います。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	作品について必要なフィードバックおよび補足講義を行う。
履修条件・注意事項	授業は課題の制作などが中心になるため、自宅での制作が必要となる場合もある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：園での造形表現指導（2年）、小学生の絵画指導経験（20年）継続中。過去に美術系進学予備校において15年間の指導経験あり（デッサン、色彩構成・表現、立体構成・表現、構想表現）。
事前学習・事後学習とその時間	【予習】普段から様々なアートや子どもたちの遊びや野外活動、造形表現に触れること。事前に参考テキストを読んで素材や加工、制作プロセスなどの概略を理解しておくこと。 【復習】作品を完成させること。また実習での気づきや発見などをレポートにまとめること。 ※事前・事後の学修は、各2時間以上必要です。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

授業計画		担当者
第１回	ガイダンス、第1章．造形表現の意義	佐藤尚宏
第２回	手の動き(1)土粘土-触覚と変形（球）、第2章．表現を育む人になる、	佐藤尚宏
第３回	手の動き（2）油粘土による変形（鳥）	佐藤尚宏
第４回	手の動き（3）ゆび絵具による色遊び－フィンガーペインティング	佐藤尚宏
第５回	操作と試行錯誤：カラーインクによる色遊び	佐藤尚宏
第６回	描く（1）紙の加工と構成－切る・破る→貼る	佐藤尚宏
第７回	描く（2）線描－クレヨンのお散歩	佐藤尚宏
第８回	描く（3）透明水彩によるぬらし絵（色彩と感情）	佐藤尚宏
第９回	描く（4）不透明水彩による色遊び（カードづくり）	佐藤尚宏
第１０回	続き	佐藤尚宏
第１１回	作る（1）紙の加工と様々な形態	佐藤尚宏
第１２回	つくる（2）紙の加工による昆虫	佐藤尚宏
第１３回	続き	佐藤尚宏

第１４回	作る（3）、紙の加工と動物	佐藤尚宏
第１５回	まとめと鑑賞	佐藤尚宏
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	保育をひらく造形表現	教・出版社名１	萌文書林
教・著者名１	槇　英子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89347-295-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎技能Ⅱ（図画工作）			担当者	佐藤　尚宏		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-631		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「子どもの造形活動を援助するために必要な造形表現力を養うこと」をテーマに、主に幼児期から小学生を想定し「図画工作科の授業づくりに関する基礎的な技能の習得」をめざす。 課題の作品制作を通して、子どもの造形表現に適した素材特性の理解，素材を活かす加工方法の理解と技能を養い、さらに教材研究のポイントとして課題の特徴と望ましい子どもの体験との関係を想定する力を養うことを到達目標とする。
授業概要	子どもの造形活動を援助・指導するためには，子どもの発達段階の理解と、発達段階に適した題材設定や準備，さらに保育者自身が素材や加工・技法に習熟している必要がある。 この授業では主に幼児期から小学生を想定し、特に授業づくりのための教材研究と表現技能について、実践的な演習による作品制作を通して習得する。 1）子どもの造形表現活動の援助に必要な態度や姿勢が実感できる、 ２）子どもの発達段階に適した素材や技法、加工方法を体得する、 ３）保育に活用できる教材の加工と活用方法を体得することができる、 の３つの側面から学習を進めるが、この授業では特に初等教科教育図画工作も視野に入れた実技課題を学修する。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	●課題作品（素材・技法の理解，課題の理解、作品の完成度等）５０％ ※課題作品は評価したのち返却し、必要なフィードバックは授業内で行います。 ●取組姿勢（レポート、準備，製作プロセス，かたづけ，）５０％
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題作品およびレポートは必要な補足講義とディスカッション、フィードバック等を授業内で行います。
履修条件・注意事項	必要な教材はこちらで用意します。特別な準備（予習）がある場合は指示をます。また、授業の記録・復習を重視すること。
実務経験のある教員	該当する　内容：美術系進学予備校において15年間の指導経験あり（デッサン、色彩構成・表現、立体構成・表現、構想表現）。また小学生の絵画指導経験20年あり。
事前学習・事後学習とその時間	【予習】事前にテキストを読んで素材や加工、制作プロセスなどの概略を理解しておくこと。 【復習】作品を完成させること。また授業の内容をまとめること。 ※事前・事後の学修は、各2時間程度必要です。 ※普段から様々なアートや子どもたちの遊びや野外活動、造形表現に触れること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

授業計画		担当者
第１回	ガイダンス	佐藤尚宏
第２回	指編み・あやとり	佐藤尚宏
第３回	技法と教材研究①デカルコマニー	佐藤尚宏
第４回	技法と教材研究②折り染	佐藤尚宏
第５回	技法と教材研究③スクラッチ	佐藤尚宏
第６回	技法と教材研究④ステンシル	佐藤尚宏
第７回	まとめ：様々な技法・素材特性と教材研究について	佐藤尚宏
第８回	工作①紙の加工とポップアップカード	佐藤尚宏

第９回	続き		佐藤尚宏
第１０回	工作②マカロニリース		佐藤尚宏
第１１回	造形訓練①線による表現		佐藤尚宏
第１２回	造形訓練②配置構成による表現		佐藤尚宏
第１３回	造形訓練③色彩（水彩）による表現		佐藤尚宏
第１４回	造形表現④クロッキーによる写実表現		佐藤尚宏
第１５回	続き		佐藤尚宏
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	保育をひらく造形表現	教・出版社名１	萌文書林
教・著者名１	槇　英子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89347-295-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜資料を配付する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ （コラボ形式）			担当者	井勝　久喜、雲津　英子、黒宮　亜希子、秀　真一郎、大西　正泰、竹岡　志朗、稲元　洋輔、李　分一、姜　明求、栗田　喜勝、赤坂　真人、中野　明子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	SS-BU-1-701		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】 大学で学ぶ上で必要な基礎的な知識、学習スキルを習得する。 学科内での人間関係形成を通じ、コミュニケーション力を養う。 【到達目標（主に３つ）】 ①新入生がスムーズに大学生活を送ることが出来るよう、大学で学ぶための基礎的な知識を身につける。 ②大学生・社会人として必要な社会的マナーを身につける。 ③演習における少人数のグループ活動を通じて、自己理解や自己表現、コミュニケーションスキルの向上を目指す。
授業概要	１年生全体での合同授業では、大学生活や経営社会学科で学ぶために重要なガイダンス（コース・資格の説明）、さらには、学科全体でのレクリエーション活動を実施する。 各チューター別の演習授業時には、指定されたテキストを基に、大学での基本的な学び方、コミュニケーション（話し方・聴き方）、マナー（電話やメールの作法など）に関して、毎回一つずつトピックを取り上げながら演習形式で学習を進める。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	ルーブリック評価表（100%）に基づき評価を行う。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	・提出課題については各チューターが添削の上、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	①経営社会学科（１年次）の卒業必修科目である。 ②テキストを配布する。書き込み式テキストのため、忘れないように毎回持参のこと。 ③授業中または授業後に、課題・ミニレポート等の提出が求められる。提出物を基にフィードバックを行う。 ④合同（１年生全員）で実施する回と、各チューター単位で活動する回に分かれている。予定に注意すること。
実務経験のある教員	該当する　内容　企業等における勤務経験を有する教員が授業を行う。
事前学習・事後学習とその時間	・演習形式の授業であるため、積極的な参加が重要である。 ・テキストを基に、事前・事後の学修に各2時間を要する。
オフィスアワー	チューター教員ごとにオフィスアワーが異なる。授業時にオフィスアワーに関しては説明がある。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション ①授業予定、コース・資格等、研究倫理教育	全教員
第２回	オリエンテーション ②マイステップを用いた学習計画の記入について	全教員
第３回	学生交流活動①	全教員
第４回	学生交流活動②	全教員
第５回	大学で学ぶということ ①自主性を発揮して大学生活を楽しもう	全教員

第６回	大学で学ぶということ ②大学での学びとは	全教員
第７回	コミュニケーションとマナー①コミュニケーションの重要性	全教員
第８回	コミュニケーションとマナー②話を聴く	全教員
第９回	コミュニケーションとマナー③わかりやく話す	全教員
第１０回	学外交流活動 ①	全教員
第１１回	学外交流活動 ②	全教員
第１２回	コミュニケーションとマナー④マナーの本質と重要性	全教員
第１３回	コミュニケーションとマナー⑤人に依頼するときのマナー	全教員
第１４回	コミュニケーションとマナー⑥電話・メールの作法	全教員
第１５回	春学期まとめ（振り返りレポート）	全教員
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	マイキャリアノートⅠ Basic (基礎演習Ⅰ授業時に配布する)	教・出版社名１	ベネッセ i-キャリア
教・著者名１	ベネッセ i-キャリア	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ （コラボ形式）			担当者	井勝　久喜、雲津　英子、黒宮　亜希子、秀　真一郎、大西　正泰、竹岡　志朗、稲元　洋輔、李　分一、姜　明求、栗田　喜勝、赤坂　真人、中野　明子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	SS-BU-1-702		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】 大学で学ぶ上で必要な基礎的な知識、学習スキルを習得する。 学科内での人間関係形成を通じ、コミュニケーション力を養う。 【到達目標（主に３つ）】 ①新入生がスムーズに大学生活を送ることが出来るよう、大学で学ぶための基礎的な知識を身につける。 ②大学生・社会人として必要な社会的マナーを身につける。 ③演習における少人数のグループ活動を通じて、自己理解や自己表現、コミュニケーションスキルの向上を目指す。
授業概要	１年生全体での合同授業では、大学生活や経営社会学科で学ぶために重要なガイダンス（コース・資格の説明）等を実施する。 各チューター別の演習授業時には、指定されたテキストを基に、大学での基本的な学び方（レポートの書き方、図書館利用の仕方、発表の仕方）など、毎回一つずつトピックを取り上げながら演習形式で学習を進める。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	ルーブリック評価表（100%）に基づいて授業評価を行う。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	・提出課題はチェックし、チューターより返却を行う。
履修条件・注意事項	①経営社会学科（１年次）の卒業必修科目である。 ②テキストを配布する。書き込み式テキストのため、忘れないように毎回持参のこと。 ③授業中または授業後に、課題・ミニレポート等の提出が求められる。提出物を基にフィードバックを行う。 ④合同（１年生全員）で実施する回と、各チューター単位で活動する回に分かれている。予定に注意すること。
実務経験のある教員	該当する　内容：企業等において勤務経験を有する教員が担当する。
事前学習・事後学習とその時間	・演習形式の授業であるため、積極的な参加が重要である。 ・テキストを基に、事前・事後の学修に各2時間を要する。
オフィスアワー	チューター教員ごとにオフィスアワーが異なる。 授業時にオフィスアワーに関しては説明がある。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション ①授業予定説明・履修指導、研究倫理教育	全教員
第２回	オリエンテーション ②マイステップの記入、履修確認など	全教員
第３回	キャリアデザインとは	全教員
第４回	自分について考える	全教員
第５回	大学で伸ばしたい力＆将来について考える	全教員

第６回	社会で求められる力	全教員
第７回	学びと社会のつながりを知る	全教員
第８回	目標と行動計画を立ててみよう	全教員
第９回	授業の受け方、タイムマネジメントの仕方	全教員
第１０回	図書館の使い方	全教員
第１１回	レポート・論文の書き方	全教員
第１２回	コース選択説明会	全教員
第１３回	ディスカッション・ディベートの仕方	全教員
第１４回	発表・プレゼンテーションの仕方	全教員
第１５回	秋学期まとめ（振り返りレポート）	全教員
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	マイキャリアノートⅠ Basic (基礎演習Ⅰ授業時に配布する)	教・出版社名１	ベネッセ i-キャリア
教・著者名１	ベネッセ i-キャリア	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	基礎演習III （コラボ形式）			担当者	井勝　久喜、雲津　英子、黒宮　亜希子、秀　真一郎、大西　正泰、竹岡　志朗、稲元　洋輔、李　分一、姜　明求、栗田　喜勝、赤坂　真人、中野　明子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-703		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ：小集団での演習活動を通じたコミュニケーション力・対人関係力の向上 到達目標（３つ） ①自己・他者を知る（自己分析ならびに、異文化理解を含めた他者理解を深める）。 ②お互いの考え方や価値観を知る（ワークを通じ、物事の価値観に関する共通点・違いを探る）。 ③ワークをもとに、よりより人と人との関係性、チームワークのあり方について習得する。
授業概要	本授業は、小グループの演習活動を通じた、各受講生のコミュニケーション力・対人関係力の向上を目標とした演習形式の授業である。 授業全体の進め方としては、演習グループ（チューターごと）を基本として、各グループでワークを経験しながら、自己分析ならびに、異文化理解を含めた他者理解を深めていく。 これらの学習経験を通じて、グループのメンバー同士が、お互いの考え方や価値観を知ること、さらには、よりよい人と人との関係、チームワークのあり方について受講生自身が習得するまでを目標としている。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	ルーブリック評価表（100%）に基づき評価を行う。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	・提出課題については各チューターが添削の上、返却を行う（フィードバック）。
履修条件・注意事項	①経営社会学科（2年次）の必修科目である。 ②配付資料はファイル等を各自が準備し管理すること。 ③演習形式の授業であるため、積極的な参加が重要である。 ④授業中または授業後に、課題・ミニレポート等の提出が求められる。 ⑤合同（２年生全員）で実施する回と、各チューター単位で活動する回に分かれている。予定に注意すること。
実務経験のある教員	該当する　内容：企業等における勤務経験を有する教員が授業を行う。
事前学習・事後学習とその時間	・配付資料をもとに、事前・事後の学修に各2時間を要する。
オフィスアワー	チューター教員ごとにオフィスアワーが異なる。 授業時にオフィスアワーに関しては説明がある。

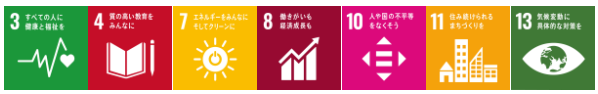
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション① 授業予定・授業評価について、履修指導など	全教員
第２回	オリエンテーション② 2年生全体連絡、履修確認など	全教員
第３回	新チューターメンバー自己紹介、履修確認など	全教員
第４回	自己・他者を知る① 好きなものウェビング	全教員
第５回	2年生交流活動① チーム作り	全教員

第６回	2年生交流活動② チューター対抗ワーク	全教員
第７回	自己・他者を知る② お互いをインタビュー	全教員
第８回	自己・他者を知る③ 私の出身国・出身地プレゼン	全教員
第９回	お互いの考え方を知る① 人生の価値観	全教員
第１０回	お互いの考え方を知る② ○○の条件	全教員
第１１回	お互いの考え方を知る③ 哲学カフェ	全教員
第１２回	人と人との関係・チームワーク① 私の対人関係マップ	全教員
第１３回	人と人との関係・チームワーク② サバイバル	全教員
第１４回	人と人との関係・チームワーク③ メンバーへのフィードバック	全教員
第１５回	春学期学修成果まとめ（振り返りレポート）	全教員
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	ソーシャルスキルが身につくレクチャー&ワークシート	参・出版社名１	学事出版
参・著者名１	西村 宣幸	参・ＩＳＢＮ１	978-4761916282
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	基礎演習Ⅳ （コラボ形式）			担当者	井勝　久喜、雲津　英子、黒宮　亜希子、秀　真一郎、大西　正泰、竹岡　志朗、稲元　洋輔、李　分一、姜　明求、栗田　喜勝、赤坂　真人、中野　明子		
配当学科・研究科	2021～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-704		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１３．気候変動に具体的な対策を 
到達目標	テーマ：学科全教員の演習（ゼミ）を体験し、各教員の専門性を理解した上で、３年次以降のゼミ選択を行う 到達目標（3つ） ①学科全教員の演習授業を体験することで、ゼミ形式の授業に慣れる。 ②演習形式の授業を通じて、自発的に学ぶ姿勢や態度を身につける。 ③各教員の専門性を理解し、各自３年次以降のゼミ選択を行う。
授業概要	本授業は、学科全教員の演習（ゼミ）体験を踏まえた上で、３年次以降で学ぶゼミ選択を的確に行うことを狙いとしている。 毎週、それぞれ異なる教員の演習授業を体験することで、ゼミ形式の授業において自発的に学ぶ姿勢や態度を身に着けることも重要なポイントである。 途中、２年生全体を対象とした「ゼミ選択説明会」を行う。各教員の専門性を毎回の演習を通じて理解した上で、各自が積極的に３年次以降のゼミ選択を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	ルーブリック評価表（100%）に基づき評価を行う。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	・提出課題については各教員が添削の上、返却を行う（フィードバック）。
履修条件・注意事項	①経営社会学科（2年次）の卒業必修科目である。 ②配付資料はファイル等を各自準備し、管理すること。 ③授業中または授業後に、課題・ミニレポート等の提出が求められる。 ④合同（2年生全員）で実施する回と、各グループ単位で活動する回に分かれている。予定に注意すること。
実務経験のある教員	該当する　内容：企業等における勤務経験を有する教員が授業を行う。
事前学習・事後学習とその時間	・演習形式の授業であるため、積極的な参加が重要である。 ・教員からの配布資料をもとに、事前・事後の学修に各2時間を要する。
オフィスアワー	チューター教員ごとにオフィスアワーが異なる。 授業時にオフィスアワーに関しては説明がある。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業予定・授業評価、履修指導など）	全教員
第２回	演習ゼミ体験　教員1グループ	全教員
第３回	演習ゼミ体験　教員2グループ	全教員

第４回	演習ゼミ体験　教員3グループ	全教員
第５回	演習ゼミ体験　教員4グループ	全教員
第６回	演習ゼミ体験　教員5グループ	全教員
第７回	演習ゼミ体験　教員6グループ	全教員
第８回	演習ゼミ体験　教員7グループ	全教員
第９回	演習ゼミ体験　教員8グループ	全教員
第１０回	演習ゼミ体験　教員9グループ	全教員
第１１回	演習ゼミ体験　教員10グループ	全教員
第１２回	演習ゼミ体験　教員11グループ	全教員
第１３回	ゼミ選択説明会	全教員
第１４回	演習ゼミ体験　教員12グループ	全教員
第１５回	演習ゼミ体験　教員13グループ	全教員
第１６回	最終レポート（ゼミ選択関連資料の提出）	全教員

教科書			
教・書籍名１	教科書は指定しない。各教員より配布資料がある。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本語教材の研究 （春学期入学生）			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-601		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義では、日本語教授のためにどのような教材・教具があり、それをどのように授業に活用するかを理解し、修得する。主に、授業レベルに合った教材や教具を的確に選び、これらを活用し、授業計画を立てたり、授業資料を作成したりしながら日本語教授の実践力を身につける。受講生同士が互いに評価しあうことで、自らの可能性を高めていくことができる。また、日本語教育を必要とする人々へのまなざしと行動力を養う。
授業概要	本講義は、第二言語として日本語を学ぶ留学生を対象とする。主体的に教材・教具の検討を行う。学習者に正確な発音と文型を習得させるための文型練習のための教材・教具とはどのようなものか、また、流暢な日本語の会話力や説明力の習得のための教材やテキストとはどのようなものかについて考えよう。その教材をもとに各人が授業計画を立て教案を作成し、模擬授業も行う予定である。模擬授業を通して気づいた問題点や改善点について議論し、日本語教授の技術と能力を鍛える。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	本講義内で作成した教案や教材を用いて模擬授業を行い評価する。模擬授業の成果を40%、準備段階として教案、教材・プリントの作成に積極的に取り組んだかを40%、授業の反省点や改善点、感想を含めたレポートを20%とし、これらを総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	模擬授業やレポート提出によって単位認定を行うが、それだけでは評価しない。一つの授業を組み立てるまでの教材研究に取り組む姿勢・態度、努力や工夫も考慮する。教材研究や模擬授業をよりよいものにするためには、授業以外での予習・復習に心がけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	自己学修として、日本語教育実習（４年次開講）に向け、講義内容や配布資料をもとに教案を作成したり、模擬授業のための教材研究を行ったりすること。毎週の講義内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	日本語教材の研究の概括	大下 朋子
第２回	教材・教具の種類（１）	大下 朋子
第３回	教材・教具の種類（２）	大下 朋子
第４回	教材の作成・導入（１）	大下 朋子
第５回	教材の作成・導入（２）	大下 朋子
第６回	教案作成Ⅰ	大下 朋子
第７回	模擬授業（１）	大下 朋子
第８回	模擬授業（２）	大下 朋子
第９回	教材・教具の見直し（１）	大下 朋子
第１０回	教材・教具の見直し（２）	大下 朋子
第１１回	教案作成Ⅱ	大下 朋子
第１２回	模擬授業（３）	大下 朋子

第１３回	模擬授業（４）	大下 朋子
第１４回	模擬授業（５）	大下 朋子
第１５回	授業のまとめ	大下 朋子
第１６回	単位認定試験（実技試験）	大下 朋子

教科書			
教・書籍名１	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本語教材の研究 （秋学期入学生）			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-601		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義では、日本語教授のためにどのような教材・教具があり、それをどのように授業に活用するかを理解し、修得する。主に、授業レベルに合った教材や教具を的確に選び、これらを活用し、授業計画を立てたり、授業資料を作成したりしながら日本語教授の実践力を身につける。受講生同士が互いに評価しあうことで、自らの可能性を高めていくことができる。また、日本語教育を必要とする人々へのまなざしと行動力を養う。
授業概要	本講義は、第二言語として日本語を学ぶ留学生を対象とする。主体的に教材・教具の検討を行う。学習者に正確な発音と文型を習得させるための文型練習のための教材・教具とはどのようなものか、また、流暢な日本語の会話力や説明力の習得のための教材やテキストとはどのようなものかについて考えよう。その教材をもとに各人が授業計画を立て教案を作成し、模擬授業も行う予定である。模擬授業を通して気づいた問題点や改善点について議論し、日本語教授の技術と能力を鍛える。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	本講義内で作成した教案や教材を用いて模擬授業を行い評価する。模擬授業の成果を40%、準備段階として教案、教材・プリントの作成に積極的に取り組んだかを40%、授業の反省点や改善点、感想を含めたレポートを20%とし、これらを総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	模擬授業やレポート提出によって単位認定を行うが、それだけでは評価しない。一つの授業を組み立てるまでの教材研究に取り組む姿勢・態度、努力や工夫も考慮する。教材研究や模擬授業をよりよいものにするためには、授業以外での予習・復習に心がけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	自己学修として、日本語教育実習（４年次開講）に向け、講義内容や配布資料をもとに教案を作成したり、模擬授業のための教材研究を行ったりすること。毎週の講義内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	日本語教材の研究の概括	大下 朋子
第２回	教材・教具の種類（１）	大下 朋子
第３回	教材・教具の種類（２）	大下 朋子
第４回	教材の作成・導入（１）	大下 朋子
第５回	教材の作成・導入（２）	大下 朋子
第６回	教案作成Ⅰ	大下 朋子
第７回	模擬授業（１）	大下 朋子
第８回	模擬授業（２）	大下 朋子
第９回	教材・教具の見直し（１）	大下 朋子
第１０回	教材・教具の見直し（２）	大下 朋子
第１１回	教案作成Ⅱ	大下 朋子
第１２回	模擬授業（３）	大下 朋子

第１３回	模擬授業（４）	大下 朋子
第１４回	模擬授業（５）	大下 朋子
第１５回	授業のまとめ	大下 朋子
第１６回	単位認定試験（実技試験）	大下 朋子

教科書			
教・書籍名１	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本語教育実習 （春学期入学生）			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SC-SM-4-602		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	実習		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語教員養成コース修了のための必修科目であり、学生は外国人に対して日本語を教授する実践力を修得する。具体的には、教材の捉え方、授業の流れ、教科書や教具の活用について考慮しながら、学生に合った授業の教材や教具を準備し、教壇実習を行う実践力を養う。
授業概要	本講義は、第二言語として日本語を学ぶ留学生を対象とする。本実習では、現場での日本語教授の体験を通して、日本語教員養成コースで学んできた教材の活用、知識や技術を実際に授業で実践し、日本語教授の能力を修得する。半期30時間の教育実習を行う。学生の日本語レベルに合った教材や教具を的確に決定する判断力を養い、学習者が積極的に学習できるよう工夫し、応用する能力を身に付ける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	実習の受け入れ機関からの実習評価を60点、実習記録・最終レポート30点、その他の学習態度10点で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、実習に向けた準備（教材、教具の選定、教案・教材の作成、板書計画、授業運営など）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	３年次開講科目「日本語教材の研究」の他、本学が定める日本語教員養成に関する科目の単位を取得した学生のみ履修することができる。また、日本語教育実習を行うために、原則として３年修了時までに、留学生の場合、日本語能力試験N1に合格しておかなければならない。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、日本語教師としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	実習準備には多くの時間を要する。教育実習の内容を充実させるため、予習と復習を各２時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に準備し、理解できない点などは担当教員に質問すること。復習として、実習の準備や教壇実習のふり返りを主体的に行うこと。
オフィスアワー	授業後の休憩時間

授業計画		担当者
第１回	半期30時間の教育実習を実施する。	実習校の担当者（大下(朋)）
第２回		
第３回		
第４回		
第５回		
第６回		
第７回		
第８回		
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		

第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	実習準備に合わせて資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本語教育実習 （秋学期入学生）			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SC-SM-4-602		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	実習		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語教員養成コース修了のための必修科目であり、学生は外国人に対して日本語を教授する実践力を修得する。具体的には、教材の捉え方、授業の流れ、教科書や教具の活用について考慮しながら、学生に合った授業の教材や教具を準備し、教壇実習を行う実践力を養う。
授業概要	本講義は、第二言語として日本語を学ぶ留学生を対象とする。本実習では、現場での日本語教授の体験を通して、日本語教員養成コースで学んできた教材の活用、知識や技術を実際に授業で実践し、日本語教授の能力を修得する。半期30時間の教育実習を行う。学生の日本語レベルに合った教材や教具を的確に決定する判断力を養い、学習者が積極的に学習できるよう工夫し、応用する能力を身に付ける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	実習の受け入れ機関からの実習評価を60点、実習記録・最終レポート30点、その他の学習態度10点で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、実習に向けた準備（教材、教具の選定、教案・教材の作成、板書計画、授業運営など）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	３年次開講科目「日本語教材の研究」の他、本学が定める日本語教員養成に関する科目の単位を取得した学生のみ履修することができる。また、日本語教育実習を行うために、原則として３年修了時までに、留学生の場合、日本語能力試験N1に合格しておかなければならない。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、日本語教師としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	実習準備には多くの時間を要する。教育実習の内容を充実させるため、予習と復習を各２時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に準備し、理解できない点などは担当教員に質問すること。復習として、実習の準備や教壇実習のふり返りを主体的に行うこと。
オフィスアワー	授業後の休憩時間

授業計画		担当者
第１回	半期30時間の教育実習を実施する。	実習校の担当者（大下(朋)）
第２回		
第３回		
第４回		
第５回		
第６回		
第７回		
第８回		
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		

第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	実習準備に合わせて資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

Syllabus

社会科学部
経営社会学科

2017～2020 年度入学生

授業科目名	吉備国際大から世界へ 保健医療福祉学部以外			担当者	山本　倫子、畝　伊智朗		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ： Think Globally Act Locally.グローバルに物事を見る、グローバルに考える。実践はローカルに。 到達目標： ヒト、モノ、カネ、情報が自由に世界を飛び回る時代。グローバル化、国際化が進展する現代では、グローバルな視点で、日本を見直す必要がある。日本の事情・都合だけで、政治・外交、経済、企業経営などを行なうことはできない。そのため、グローバルな視点で事象を観察、評価、判断できる能力が求められる。社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、グローバルな視点を学び、世界の常識を学びながら、グローバル人材としての基本的思考を確立することを目指す。学生は、グローバルな視点で物事を判断できるようになる。
授業概要	将来、社会で活躍する学生は、国際関係、国際経済、難民問題、その他多くのグローバル事象を複眼的に検討し、日本の事情を理解した上で、自分の意見が言える必要がある。そして、それを踏まえつつ、地域社会で実践する。それがグローバル人材。そのため、社会科学の多くの視点、手法を学びつつ、それを通じて世界の常識を認識できるようになる。グローバル人材として当然知っておくべき基本的な内容を学べる授業である。 具体的なイッシューを題材として、講義を行なう。その際、経験的方法、量的論証、批判的思考方法の手法・視点を取り入れる。自己教育力を身につけてもらうため、問題解決型学習の実践も取り入れる。グループに課題を与え、実態を調査し解決策を検討する。その成果は、授業で発表を行なってもらう。 この科目が、他の教養科目の学修深化の一助となると共に、海外留学での学びや専門科目を履修する上での基礎を築くものとしたい。 なお、履修者の興味、関心などに基づき、ディスカッションのやり方、テーマなどは適宜調整する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業への参加度・コメント（40%）、グループ・プレゼンテーション（20%）、最終レポートの成績（40%）により、総合評価をおこなう。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	グループ・プレゼンテーションの結果は、各プレゼンテーションの後で、それぞれ講評を行う。最終レポートに関しては、コメントを付し、授業または事務室を経由して、返却する。
履修条件・注意事項	ワールドニュースを必ず観ること。チェックすること。世界で起こっていることに関して、興味関心を持つこと。

実務経験のある教員	該当する	内容	本講義の担当教員は、米国に通算2ヶ年留学し、国際協力機構JICAで長年勤務し、その間、コートジボアール日本大使館、JICAケニア事務所、フランスにある国際機関経済協力開発機構（OECD）に勤務した経験があるほか、多くの外国要人の接遇経験もある。 それらの実務経験で学んだ暗黙知（本、論文、ネット記事などになっていないもの）を、授業の節目節目で共有し、講義にリアリティを持たせる。
事前学習・事後学習とその時間	毎日、新聞を読む。ネットニュースなどをチェックする。参考図書などを読んで特定テーマに関し調べることなど、授業1回当たり、事前学習90分、復習90分の自己学修を必要とする。		
オフィスアワー	2号館附属図書館内で、毎週月曜日3限目、5限目をオフィス・アワーとします。		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　グローバル・スタディーズで学ぶこと	畝 山本倫子
第２回	国境とは何か？	畝 山本倫子
第３回	人はなぜ移動するのか？	畝 山本倫子
第４回	なぜ、自衛隊を軍隊と呼ばないのか？	畝 山本倫子
第５回	国連憲章と日本国憲法	畝 山本倫子
第６回	ジェンダー、LBGT、少数民族	畝 山本倫子
第７回	グループ・プレゼンテーション	畝 山本倫子
第８回	価値、価格はどのように決まるのか？	畝 山本倫子
第９回	自由貿易は本当に世界を豊かにするのか？	畝 山本倫子
第１０回	産業の空洞化、技術流出とは何か？何が問題なのか？	畝 山本倫子
第１１回	多国籍企業とは何だろうか？	畝 山本倫子
第１２回	高齢化社会の課題	畝 山本倫子
第１３回	世界の教育問題、日本の教育問題。	畝 山本倫子
第１４回	なぜ、Liberal Artsを学ぶのか？	畝 山本倫子
第１５回	グループ・プレゼンテーションと総括	畝 山本倫子
第１６回	最終試験（レポート）	畝

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	国際関係論　同時代史への羅針盤	参・出版社名１	中公新書
参・著者名１	中島嶺雄	参・ＩＳＢＮ１	4-12-101106-6
参・書籍名２	経済学を味わう　東大1、2年生に大人気の授業	参・出版社名2	日本評論社
参・著者名2	市村英彦ほか	参・ＩＳＢＮ2	978-4-535-55955-4

授業科目名	吉備国際大から世界へ 留学生(再履１・２クラス)			担当者			日笠　恵美子	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			GE-KE-1-001	
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかかげ、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、ノートやレポート課題の提出を５０点、そして単位認定試験を３０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。本科目は、プレイスメントテストの結果で、２クラスに編成する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	日笠
第２回	世界の中の日本、岡山、高梁	日笠
第３回	日本人の行動様式	日笠
第４回	日本の食文化	日笠

第５回	日本の伝統文化	日笠
第６回	健康法	日笠
第７回	教育と学び	日笠
第８回	余暇と娯楽	日笠
第９回	現代の社会	日笠
第１０回	報道とマスコミ	日笠
第１１回	ITと情報社会	日笠
第１２回	科学と技術	日笠
第１３回	日本の歴史	日笠
第１４回	岡山の祭り	日笠
第１５回	異文化理解	日笠
第１６回	単位認定試験	日笠

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	漢字マスターN2	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	アークアカデミー	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05632-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ 留学生（再履３・４クラス）			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを３０点、そして単位認定試験５０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション　自己紹介	井上光恵
第２回	２．トピック２（食文化）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第３回	３．トピック２（食文化）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第４回	４．トピック２（食文化）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第５回	５．トピック３（観光）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第６回	６．トピック３（観光）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第７回	７．トピック３（観光）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第８回	８．トピック５（行事）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第９回	９．トピック５（行事）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第１０回	１０．トピック５（行事）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第１１回	１１．トピック７（歴史）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第１２回	１２．トピック７（歴史）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第１３回	１３．トピック７（歴史）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第１４回	１４．振り返り	井上光恵
第１５回	１５．総括	井上光恵
第１６回	単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	まるごと　ことばと文化　初級２　A2　りかい	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	来嶋洋美　柴原智代　八田直美　今井寿枝　木谷直之	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05757-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	漢字たまご 初中級	参・出版社名１	凡人社
参・著者名１	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-832-6
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ （秋入学生）(再履１・２クラス)			担当者	日笠　恵美子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかかげ、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、ノートやレポート課題の提出を５０点、そして単位認定試験を３０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。本科目は、プレイスメントテストの結果で、２クラスに編成する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	日笠
第２回	世界の中の日本、岡山、高梁	日笠
第３回	日本人の行動様式	日笠

第４回	日本の食文化	日笠
第５回	日本の伝統文化	日笠
第６回	健康法	日笠
第７回	教育と学び	日笠
第８回	余暇と娯楽	日笠
第９回	現代の社会	日笠
第１０回	報道とマスコミ	日笠
第１１回	ITと情報社会	日笠
第１２回	科学と技術	日笠
第１３回	日本の歴史	日笠
第１４回	岡山の祭り	日笠
第１５回	異文化理解	日笠
第１６回	単位認定試験	日笠

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	漢字マスターN2	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	アークアカデミー	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05632-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ （秋入学生）(再履３・４クラス)			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		
ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう						
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。						
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを３０点、そして単位認定試験５０点とし、これらを１００点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。						

オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション　自己紹介	井上光恵
第２回	２．トピック２（食文化）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第３回	３．トピック２（食文化）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第４回	４．トピック２（食文化）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第５回	５．トピック３（観光）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第６回	６．トピック３（観光）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第７回	７．トピック３（観光）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第８回	８．トピック５（行事）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第９回	９．トピック５（行事）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第１０回	１０．トピック５（行事）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第１１回	１１．トピック７（歴史）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第１２回	１２．トピック７（歴史）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第１３回	１３．トピック７（歴史）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第１４回	１４．振り返り	井上光恵
第１５回	１５．総括	井上光恵
第１６回	単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	まるごと　ことばと文化　初級２　A2　りかい	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	来嶋洋美　柴原智代　八田直美　今井寿枝　木谷直之	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05757-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	漢字たまご 初中級	参・出版社名１	凡人社
参・著者名１	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-832-6
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	地域学概論 経社			担当者	井勝　久喜、稲元　洋輔、藤井　伊津子、栗田　喜勝、中野　明子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-KE-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜4限		
ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	
ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に 						
到達目標	＜きびこく学・前半8回＞ 本学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材の養成」を達成するための導入的教育として位置づけられる科目である。テーマとしては、順正学園及び大学が、立地する地元地域社会の中で発展を遂げてきた歴史、ならびに地域の歴史や文化、人々の生活等について理解を深めるとともに、地域社会の現状を理解し、地域創成に向けて取り組むべき課題について学ぶことがあげられる。 到達目標としては次の2点があげられる。 ①順正学園及び大学の歴史ならびに地域社会の歴史的特性や現状を理解し、地域創成のための取り組むべき課題を理解できる。 ②地域創成に向けて、学生としてどのような貢献ができるか考え、チャレンジする態度を涵養できる。 ＜SDGs概論・後半8回＞ 「地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGsの必要性と意義の理解」をテーマとし、SDGsの概要について学ぶ。 到達目標は以下の通り。 ①地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の背景が理解できる。 ②SDGsについて全体像を把握し、その概要を説明できる。 ③SDGsの各目標を自分事として捉えることができる。 ④SDGsの達成に向けて必要な取り組みを実行することができる。						
授業概要	＜きびこく学・前半8回＞ 順正学園及び大学が、立地する地域の中で発展を遂げてきた歩み(歴史)を概観するとともに、地元地域で様々な活動を展開されている方々を講師に招き、地域の歴史や文化、人々の生活ならびに地域社会の現状や課題等についてご講演いただき、地域の特性や課題について理解を深める。また、毎回の講義の中で、学生の立場で地域の課題解決や発展にどのような貢献ができるのか考え、生活の主体者として地域創生に向けて取り組む姿勢を涵養することができるよう、レポート課題に取り組む。 ＜SDGs概論・後半8回＞ 2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的を学ぶと共に、SDGsの17の目標について概要を学ぶ。また、SDGs達成に向けて実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何ができるか、また何をしなければならないかを考え、実行しようとする能力を身につける。 授業は全学科の学生が受講する合同授業と各学科の授業で構成されている。合同授業は、地球環境システムと人間						

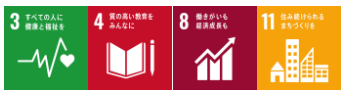
	社会システムの現状とSDGs策定の経緯およびSDGsの概要について講義形式で教授する。各学科の授業ではグループに分かれてSDGs達成に向けた施策をまとめ、グループ毎に発表をおこない課題解決能力を養う。		
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）		
評価方法と割合	＜きびこく学・前半8回＞ 毎回授業時提出のレポート評価(70%)、第8回目に行う学修成果確認レポート作成の評価(30%)により、総合的に評価する。 ＜SDGs概論・後半8回＞ グループでの活動及び発表を評価する(50%)。最後に筆記試験を行いSDGsの理解度を評価する(50%)。 詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。		
ルーブリック評価			
課題や試験のフィードバック方法	＜きびこく学・前半8回＞ 毎回の授業でレポート提出を課すが、次回の授業時までに内容を評価し返却する。 ＜SDGs概論・後半8回＞ 振り返りレポートを評価して次回授業で返却する。		
履修条件・注意事項	＜きびこく学・前半8回＞ 地域の様々な立場にある外部講師による有益な講義を多く導入しているので、受講態度に十分留意して毎回必ず出席すること。 受講内容に関するレポート課題には、単に感想を述べるのではなく、真摯に、積極的に取り組むこと。 ＜SDGs概論・後半8回＞ ①初回の授業には、必ず出席すること。 ②学科別授業ではグループワークを行うことから、授業を欠席しないこと。 ③合同授業日と各学科授業日があるので注意すること。		
実務経験のある教員	該当する	内容	＜きびこく学・前半8回＞ 授業を担当する複数の講師は、いずれも学園や大学の創設に中心的役割を担い尽力した講師や、地域社会の中で様々な活動を展開している実務経験の豊富な講師で
事前学習・事後学習とその時間	＜きびこく学・前半8回＞ １）事前にユニパを通じて配布する資料に十分目を通すとともに、インターネット等を通じて授業内容に関する情報を収集するなど、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 ２）授業後には、学修内容を振り返り、不明な点や確認したいことなどを各自で調べるなど、毎回2時間以上の事後学修を行うこと。 ＜SDGs概論・後半8回＞ ユニパで配布する資料を基に事前学修をすること。また、授業終了後は必ず復習を行うこと。予習及び復習は各2時間程度行うこと。		
オフィスアワー	＜きびこく学・前半8回＞ 個人研究室(10313)にて、水曜日5限に実施 ＜SDGs概論・後半8回＞ 個人研究室(14601号室)にて、木曜日5限に実施		

授業計画		担当者
第１回	＜きびこく学・前半8回＞ オリエンテーション 地域創成と何かー「きびこく学」を学ぶ意義と授業計画について	大西正泰(経営社会学科) (各学科担当教員)
第２回	順正学園及び吉備国際大学の歴史について	加計美也子 順正学園副総長
第３回	高梁市の歴史と文化及び政策課題と今後の方向性について	近藤隆則 高梁市長
第４回	高梁基督教会堂(岡山県指定史跡)をめぐる歴史と人物	高梁基督教会牧師　八木橋康広

第５回	日本遺産「備中吹屋」	吹屋ふるさと村村長　戸田誠
第６回	「未来につなぐ図書館」としての活動	高梁市図書館統括マネージャー　宮地 康志
第７回	宇治地域住民総働のまちづくり	宇治地域市民センター長 中曽 まゆみ
第８回	学修成果確認レポート作成(学修成果の振り返り)	各学科担当教員
第９回	＜SDGs概論・後半8回＞ SDGsとは何かーなぜ学ぶのか (オリエンテーションを含む)	井勝久喜(経営社会学科) (各学科担当教員)
第１０回	2030アジェンダ採択までの経緯	井勝久喜 (各学科担当教員)
第１１回	SDGsが目指している世界	井勝久喜 (各学科担当教員)
第１２回	SDGsの17の目標	井勝久喜 (各学科担当教員)
第１３回	グループ分けと検討課題の設定	各学科担当教員
第１４回	グループ別発表1回目	各学科担当教員
第１５回	グループ別発表2回目	各学科担当教員
第１６回	試験	各学科担当教員

教科書			
教・書籍名１	使用しない（毎回授業用資料を配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	「備中高梁」に学ぶ	参・出版社名１	吉備人出版
参・著者名１	吉備国際大学「備中高梁学」研究会	参・ＩＳＢＮ１	9784860691967
参・書籍名２	SDGsとは何か	参・出版社名2	三和書籍
参・著者名2	安藤顯	参・ＩＳＢＮ2	9784862513984

授業科目名	地域貢献ボランティア 経社			担当者	雲津　英子、黒宮　亜希子、秀　真一郎、大西　正泰、竹岡　志朗、稲元　洋		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-KE-2-003		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜5限		
ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	
ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを 						
到達目標	【2月15日暫定版】 テーマ：多様な社会課題に関する知識を習得し、その課題解決のプロセスを経験する。 到達目標： ①現代社会が抱える多様な課題を、経営学・社会学・教育学的な視点から分析出来るようになる。 ②課題解決に必要な理論・手法を習得する。 ③地域課題やSDGs目標との接点から、社会が抱える多様な課題を「我がこと」として捉えることが出来るようになる。 ④グループでの演習活動を通じ、多様な考え方やそれぞれの価値観の違いを知る。 ⑤学習成果の発表機会を通じ、プレゼンテーション力が身につく。						
授業概要	【2月15日暫定版】 既習の他の必修科目(人間力育成科目：きびこく学、SDGs概論、グローバルスタディーズ入門)で学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。 具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような方法であれば課題に対する解決が可能か検討を行う。 以上の能動的学習経験を通じて、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	【2月15日暫定版】 プレゼンテーション（60%）・ポートフォリオ内容（40%）　→　評価については検討中						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	提出されたポートフォリオにはそれぞれフィードバックを行う。 ポートフォリオは保管し、復習のために活用すること。						
履修条件・注意事項	留学生（N2合格者以外）については、原則、2年次以降に履修とする。理由としては、グループでのディスカッションや発表機会が多くあるためである。						

実務経験のある教員	該当する	内容	企業ならびに、保育・社会福祉分野における勤務、実務経験を有する教員らが担当を行う。
事前学習・事後学習とその時間	毎回発表機会が多くある。その準備のために2時間程度の予習・復習時間を要する。		
オフィスアワー	○曜日○限（　　研究室）		

授業計画		担当者
第１回	授業オリエンテーション	全教員
第２回	演習グループ、チームビルディング	黒宮・稲元
第３回	課題解決フレームワーク	大西・竹岡
第４回	データで知る社会 課題1　○○	黒宮・稲元
第５回	データで知る社会 課題２　○○	黒宮・稲元
第６回	データで知る社会 課題解決ワーク	黒宮・稲元
第７回	データで知る社会 成果発表	黒宮・稲元
第８回	ビジネス・ソーシャルビジネス分野 課題1　○○	大西・竹岡
第９回	ビジネス・ソーシャルビジネス分野 課題2　○○	大西・竹岡
第１０回	ビジネス・ソーシャルビジネス分野 課題解決ワーク	大西・竹岡
第１１回	ビジネス・ソーシャルビジネス分野 成果発表	大西・竹岡
第１２回	子ども・教育分野 課題1　○○	秀・雲津
第１３回	子ども・教育分野 課題2　○○	秀・雲津
第１４回	子ども・教育分野 課題解決ワーク	秀・雲津
第１５回	子ども・教育分野 成果発表	秀・雲津
第１６回	学習成果ポートフォリオまとめ	秀・雲津

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	検討中	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	キャリア開発Ⅰ 経社			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CG-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	8．働きがいも経済成長も
到達目標	【テーマ】 キャリアとは、生涯にわたる様々な立場や役割における自己と働くこととの関係づけや価値づけで、人生そのものである。そして、キャリアデザインとは、卒業後の将来を見据えて自らの生き方・働き方を考え、計画することである。大学生活を充実させ、社会で生きていくためには、自立的・主体的に考えて行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。そのためには、社会が求める人間像（自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力）について考え、自分自身を知り目標をもって実行していくことが必要である。 この科目では、社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画（キャリアデザイン）し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につける。 【到達目標】 ①自分自身を知り、社会を知ることで、自らの将来をイメージしながら、社会に出て働く意味や自分の目標を明確化できる。 ②その目標や社会的自立に向けて、自身のキャリアをデザインし、大学生活をどのように過ごすか考え、実践できる。 ③社会人としての基礎力であるコミュニケーション能力、社会人意識、職業選択能力を向上させる。
授業概要	授業は、合同授業と学科別授業で構成されている。 合同授業では、キャリアとは何か、キャリアをデザインするとはどのようなことか、大学生活における心身の健康やキャリア実践活動、一般的学力（自己理解）について講義や演習を行う。 また、マイステップを使用する「キャリアデザインノート」の意義や作成方法についても説明し、個人の記録として卒業まで活用していく。 授業全体を通して、「自分を知る」「社会を知る」「社会とつながる」「生き方を考える（大学生活を含む）」「働き方を考える」という5つのテーマで構成し、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入、グループワークやディスカッションといった演習活動を行って自分の人生を考えることができるようにする。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業時間内の活動や発言（30%）、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入（30%）、基礎学習（kiuiドリル）実施状況（20%）、最終試験あるいはレポート（20%）で評価する。

ルーブリック評価			
課題や試験のフィードバック方法	ワークシートやキャリアデザインノートの記入内容については、授業内でフィードバックする。		
履修条件・注意事項	毎回、資料やプリントを配布する。 配付されたファイルを持参して保管すること。		
実務経験のある教員	該当する	内容	第2回、5回、14回は、キャリア形成や就職支援の実務経験のある外部講師を招き、キャリアデザインの基礎となる自己理解の演習を行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、授業内で配布された資料や参考図書を読んでおく。 事後学習として、授業内で配布された資料を読み、次回までの課題が提示された回はその課題に取り組む。 随時、自身のキャリア実践やプランについて「キャリアデザインノート」に記載していく。 各２時間の学修時間を目安とする。		
オフィスアワー	・月曜日4限　個人研究室（14615） ・月曜日2限　キャリアサポートセンターにおいてキャリアに関する相談に応じる		

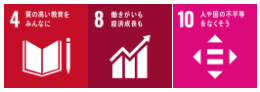
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・キャリアとは何か	黒宮・（藤原）
第２回	自分を知る・社会を知る：興味検査（VPI）or適正検査（GATB）	外部講師：マイナビ
第３回	自分を知る・生き方を考える：メンタルヘルス	森信
第４回	生き方を考える：キャリアデザインとは何か、大学生活の意義	藤原
第５回	自分を知る：基礎学力（1回目）、大学生活の基礎	外部講師（ラインズ・マイナビ）
第６回	社会とつながる：対人コミュニケーション	黒宮
第７回	社会を知る・つながる：キャリア実践となる課外活動	藤原・外部講師（ボランティアセンター）
第８回	自分を知る・社会を知る：社会人基礎力	黒宮
第９回	自分を知る：自分の強みと弱み	黒宮
第１０回	社会とつながる：対人関係力	黒宮
第１１回	生き方を考える：これまでの振り返りとライフプラン	黒宮
第１２回	社会を知る・働き方を考える：学科の専門性や資格を活かす仕事	黒宮
第１３回	社会を知る・働き方を考える：興味関心や能力を活かす仕事	黒宮
第１４回	自分を知る：基礎学力（２回目）、将来に向けて	外部講師：ラインズ・マイナビ
第１５回	まとめ：キャリアデザインノートの作成	黒宮
第１６回	試験（レポート：キャリアデザインノートの提出）	黒宮

教科書			
教・書籍名１	教科書は指定しない。毎回、資料やワークシートを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	マイキャリアノートⅠベーシック	参・出版社名１	ベネッセiキャリア
参・著者名１	ベネッセiキャリア	参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	キャリア開発Ⅰ 留学生（経社）			担当者	小田　淳子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CG-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう 
到達目標	【テーマ】社会的自立と職業的自立にむけて、自らの生き方・働き方を計画（キャリアデザイン）し実行できるようになるため、日本での生活や大学生活に必要な知識やスキルを身につける。 【到達目標】キャリアとは、生涯にわたる様々な立場や役割における自己と働くこととの関係づけや価値づけで、人生そのものである。そして、キャリアデザインとは、卒業後の将来を見据えて自らの生き方・働き方を考え、計画することである。留学生が大学生活を充実させ、日本の社会で生きていくためには、自立的・主体的に考えて行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。そのためには、社会が求める人間像（自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力）を学びながら、自分自身を知り具体的な目標をもって実行していくことが必要である。到達目標として、以下の3点を設定する。 ①日本の社会や地域で生活するために必要な知識やマナーを身につけるとともに、日本の法制度等を理解できる ②自分自身を知り、社会を知ることで自らの将来をイメージし、自身のキャリアをデザインして、大学生活をどのように過ごすか考え実践できる。 ③社会人としての基礎力であるコミュニケーション能力、文章理解力を向上させる。
授業概要	授業は、合同授業と学科別授業で構成されている。 　合同授業では、キャリアとは何か、日本の法律や生活習慣、地域で円滑に生活するために必要な基礎知識について講義を行う。また、マイステップを使用する「キャリアデザインノート」の意義や作成方法についても説明し、個人の記録として卒業まで活用していく。 　学科別授業では，「自分を知る」「社会を知る」「社会とつながる」「生き方を考える（大学生活を含む）」「働き方を考える」という5つのテーマで構成し、ワークシートや課題プリントへの記入、グループワークやディスカッションによる演習活動を行い，コミュニケーション能力や社会人基礎力を高めることができるようにする。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業時間内の活動（20%）、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入（30%）、課題プリント（30%）、レポート（20%）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	ワークシートやキャリアデザインノートの記入内容、課題プリントについては、授業内でフィードバックする。講義後に，毎回内容を見直すこと。
履修条件・注意事項	大幅な遅刻や無断欠席は講義の進行や評価に影響するので，注意すること。病気等不調でやむを得ない場合，必ず事前に連絡を入れること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，キャリアデザインの実務に携わる外部講師を招いて，必要な知識と能力について解説し，学制の理解を深める。

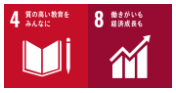
事前学習・事後学習とその時間	予習：合同授業後のテーマは，学科担当の初回講義で説明する。授業は事前学習等を行って臨むこと。 復習：毎回講義資料（プリント等）を作成・配布するので，事後学習を行って復習で必ず完結すること。 予習、復習には各2時間程度が必要である。
オフィスアワー	講義後の時間に適宜，受付ける。 Teamsのチャット機能を利用して，疑問点を提出すること。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション：キャリアとは何か，授業の進め方	CSC，外部講師
第２回	社会を知る１：日本の法律に関する基礎知識、地域での生活や大学生活で気をつけること等	CSC，外部講師
第３回	社会を知る２：地域における生活ルール、日本での生活に必要な知識とマナー	CSC，外部講師
第４回	社会を知る３：キャリアデザインの進め方，キャリアデザインノートの作成	CSC，外部講師
第５回	日本語を知る：日本の挨拶，生活習慣，食べ物	小田
第６回	日本語能力：コミュニケーション（挨拶・会話・マナー）の向上	小田
第７回	日本語能力：自己紹介シートの作成と発表（ワーク，ディスカッション）	小田
第８回	キャリア実践（ボランティア・アルバイト等）の紹介・注意点、キャリアデザインノートの確認	CSC
第９回	日本語能力：日常生活における会話力と聴解力をみがく（ワーク）	小田
第１０回	日本語能力：短文～長文の読み取りと問題理解	小田
第１１回	日本語能力：対人関係と会話力のチェック（ワーク）	小田
第１２回	自己理解力：自分の強みと弱みを知る、強みの活かし方	小田
第１３回	自己理解力：自分の興味（好きなもの）、いろいろな生き方	小田
第１４回	社会を知る：色々な働き方について（就職事情）	小田
第１５回	まとめ：キャリアデザインノートの作成、次年度の目標設定	小田
第１６回	レポート（キャリアデザインノートの提出）	小田

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	ストーリーと活動で自然に学ぶ日本語　いつかどこかで	参・出版社名１	(株)スリーエーネットワーク
参・著者名１	萩原一彦	参・ＩＳＢＮ１	9784883194629
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	キャリア開発Ⅱ 経社			担当者	大西　正泰		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護3年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学3年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業3年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化3年			ナンバリング	GE-CG-3-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も 
到達目標	【テーマ】自分に適した職業進路を具体的に選択し、就活のため、具体的能力を発揮できるようにする。 【到達目標】自分に適した職業進路を選択することができる．就職活動ができる能力を身につける。 選択した進路および社会が求める人間像について考え，身につけておくべき自主性や責任感、社会人としての一般常識や教養、 分別、協調性やコミュニケーション力を再確認し実質的なものにすることができる。
授業概要	合同授業日と各学科の授業日とで授業は構成されている。 14回の合同授業は、就職活動を行うために身につけておくべき内容から構成されている。 ＊この科目は、実務経験のある外部講師を招きキャリア形成に関する知識や能力を講義し、学生の理解を深める。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	合同授業、学科ごと授業中に求める課題（６０％）、ポートフォリオ作成（４０％）。 課題については採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	・感想レポートについては、Teamsで管理し、フィードバックする。 ・エントリーシート攻略テストの結果をもとに、フォロー講座を行う。
履修条件・注意事項	・初回の授業で授業計画を説明するので、休まないこと。 ・合同授業日と各学科授業日で教室が異なるので、教室を間違わないように留意すること。 ・授業態度及び毎回提出するレポートが評価の基準となるので、欠席しないこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、実務経験のある外部講師を招きキャリア形成に関する知識や能力を講義し、学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	・配布したキャリアハンドブックを読んでから授業に出席すること。 ・提出物は復習の上で、期日までに完成させ、必ず提出することが求められる。 ・予習および復習には各2時間程度を要する。 ・インターンシップ、合同説明会に参加し自分ノートに記載。5w1Hを実行する ・キャリアサポートセンタを活用し履歴書、エントリーシートの添削を受ける。
オフィスアワー	研究室（14621号室）にて、水曜日５時限に実施

授業計画		担当者
第１回	就職活動準備情報収集/登録	大西正泰・外部講師

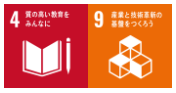
第２回	インターンシップの必要性・申し込み方	大西正泰・外部講師
第３回	自分の傾向を学ぶ	大西正泰・外部講師
第４回	自己分析・自己PR	大西正泰・外部講師
第５回	エントリーとは・エントリーシート攻略	大西正泰・外部講師
第６回	乗り遅れるなWEB就活	大西正泰・外部講師
第７回	業界・職種を理解する	大西正泰・外部講師
第８回	業界研究・職業教育	大西正泰・外部講師
第９回	SPI(筆記試験)対策	大西正泰・外部講師
第１０回	労働関係法規	大西正泰・外部講師
第１１回	社会人に必要なマナー	大西正泰・外部講師
第１２回	エントリーシート攻略フォロー・自分を振り返る	大西正泰・外部講師
第１３回	履歴書の書き方・応募書類の出し方	大西正泰・外部講師
第１４回	面接対策・GD/集団/個人/WEB	大西正泰・外部講師
第１５回	まとめ　内定お礼・内定辞退　お詫び	大西正泰・外部講師
第１６回	試験	大西正泰

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック	参・出版社名１	日本能率協会マネジメントセンター
参・著者名１	小野田博之	参・ＩＳＢＮ１	4-8207-4302-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理Ⅰ 経社A			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-IT-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう 
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30％の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30％、試験の成績を40％として最終的に総合評価が行われる。これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること（受講者数はパソコン教室の定員以内とする）。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。

オフィスアワー	月曜日3限		
授業計画			担当者
第１回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）		竹岡
第２回	パソコンのハードウェアと周辺機器		竹岡
第３回	デジタルデータのしくみ（ビット/バイト・標本化・コード）		竹岡
第４回	OSとアプリケーション		竹岡
第５回	ファイルシステム操作		竹岡
第６回	文書作成（ワープロソフト）操作		竹岡
第７回	文書作成（ワープロソフト）課題		竹岡
第８回	表計算ソフト操作		竹岡
第９回	表計算ソフト課題		竹岡
第１０回	プレゼンテーションソフト操作		竹岡
第１１回	プレゼンテーションソフト課題		竹岡
第１２回	ネットワークとインターネット		竹岡
第１３回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ		竹岡
第１４回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決		竹岡
第１５回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑		竹岡
第１６回	単位認定試験		竹岡
教科書			
教・書籍名１	情報リテラシー 入門編 Windows 11 / Office 2021対応（FPT2117）	教・出版社名１	FOM出版
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	978-4-938927-54-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理Ⅰ 経社C			担当者	大谷　卓史		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-IT-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30%、試験の成績を40%として最終的に総合評価が行われる。これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。
ルーブリック評価	ダミー /uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。

実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、前職で企業のIT部門（システム管理部門）に従事し、パソコンと汎用コンピュータと電話回線を組み合わせた比較的規模の大きい基幹システムから、パソコンによる段ボール箱設計と段ボール箱へのデザインを作るDTPシステムまでを開発運用した経験を持つ。その他データウェアハウスによるOLAPの運用経験を持つほか、労働省（当時）が全国

			で運営するコンピュータカレッジの中の一校においてCGコースを２年間担当した経験を持つ。
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。		
オフィスアワー	春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室） 秋学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室） 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。		

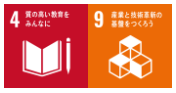
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）	大谷卓史
第２回	パソコンのハードウェアと周辺機器	大谷卓史
第３回	デジタルデータのしくみ（ビット/バイト・標本化・コード）	大谷卓史
第４回	OSとアプリケーション	大谷卓史
第５回	ファイルシステム操作	大谷卓史
第６回	文書作成（ワープロソフト）操作	大谷卓史
第７回	文書作成（ワープロソフト）課題	大谷卓史
第８回	表計算ソフト操作	大谷卓史
第９回	表計算ソフト課題	大谷卓史
第１０回	プレゼンテーションソフト操作	大谷卓史
第１１回	プレゼンテーションソフト課題	大谷卓史
第１２回	ネットワークとインターネット	大谷卓史
第１３回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ	大谷卓史
第１４回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決	大谷卓史
第１５回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑	大谷卓史
第１６回	単位認定試験	大谷卓史

教科書			
教・書籍名１	情報リテラシー　入門編＜改訂版＞FPT1716	教・出版社名１	FOM出版
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	978-4-86510-345-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理Ⅰ 経社B			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-IT-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう 
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30%、試験の成績を40%として最終的に総合評価が行われる。これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること（受講者数はパソコン教室の定員以内とする）。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：担当教員は、前職で企業のIT部門（システム管理部門）に従事し、パソコンと汎用コンピュータと電話回線を組み合わせた比較的規模の大きい基幹システムから、パソコンによる段ボール箱設計と段ボール箱へのデザインを作るDTPシステムまでを開発運用した経験を持つ。その他データウェアハウスによるOLAPの運用経験を持つほか、労働省（当時）が全国で運営するコンピュータカレッジの中の一校においてCGコースを２年間担当した経験を持つ。
事前学習・事後学習とそ	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で

の時間	講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。
オフィスアワー	春学期： 月曜日２時限目

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）	秀
第２回	パソコンのハードウェアと周辺機器	秀
第３回	デジタルデータのしくみ（ビット/バイト・標本化・コード）	秀
第４回	OSとアプリケーション	秀
第５回	ファイルシステム操作	秀
第６回	文書作成（ワープロソフト）操作	秀
第７回	文書作成（ワープロソフト）課題	秀
第８回	表計算ソフト操作	秀
第９回	表計算ソフト課題	秀
第１０回	プレゼンテーションソフト操作	秀
第１１回	プレゼンテーションソフト課題	秀
第１２回	ネットワークとインターネット	秀
第１３回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ	秀
第１４回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決	秀
第１５回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑	秀
第１６回	単位認定試験	秀

教科書			
教・書籍名１	情報リテラシー　入門編　Windows 11／Office 2021対応	教・出版社名１	FOM出版
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	978-4-938927-54-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理 II			担当者	佐藤　匡		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものである。 到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。 （数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム ～ データ思考の涵養～ 2020年４月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 2枚目）
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50%、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20%として最終的に総合評価が行われる。　これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	受講者数は、30人以内とする。そのため抽選となることがある。 抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第１回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。

実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員が理事を務めているNPO全国要約筆記問題研究会（会員数約1,300人）では、全国の自治体に対して要約筆記者養成の現状調査を行っている。また、パソコン要約筆記全体投影の読みやすさについて、首都圏の聴覚障がい者にアンケートや読みやすさの調査を行っている。その分析では本講義のデータサイエンスの知識が活用されている。
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。		
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日３時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日４時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日２時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日３時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	佐藤 匡
第２回	ビッグデータと社会の変化	佐藤 匡
第３回	社会で活用されているデータ	佐藤 匡
第４回	データ・AIの活用領域の広がり	佐藤 匡
第５回	データ・AIの技術	佐藤 匡
第６回	データサイエンス	佐藤 匡
第７回	データ・AIを活用するときの負の側面	佐藤 匡
第８回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（考え方）	佐藤 匡
第９回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（事例）	佐藤 匡
第１０回	AIとアルゴリズム	佐藤 匡
第１１回	データの構造とプログラミング	佐藤 匡
第１２回	データの利活用方法	佐藤 匡
第１３回	時系列データと文章データの分析例	佐藤 匡
第１４回	教師あり学習と教師なし学習	佐藤 匡
第１５回	データ・AI利活用における留意事項	佐藤 匡
第１６回	まとめと筆記試験・評価	佐藤 匡

教科書			
教・書籍名１	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名１	技術評論社
教・著者名１	岡嶋裕史、吉田雅裕 著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-297-12038-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理 II			担当者	大谷　卓史		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	仮想的な事例や現実の事例を通じて、情報セキュリティと情報倫理学の基本的な考え方を学ぶ。 到達目標は、学生が次の３つのことができるようになることである。 １．情報社会において、情報セキュリティにまつわる危険やリスクを理解し、トラブルを事前に回避できるようになる。 ２．万が一トラブルに巻き込まれた場合でも、人々の力を借りたとしても合理的な社会的・個人的コストで解決できるようになる。 ３．情報倫理学の基本的な思考を身につけることで、情報社会においてどのような倫理的問題が生じえるか理解できるようになる。 なお、本講義のラーニングアウトカムズは「情報リテラシー」と「問題解決能力」である。
授業概要	現代における情報セキュリティと情報倫理にかかわる諸問題について、仮想的事例や現実の事例から学ぶ。情報技術だけでなく、法律や経済・ビジネス、情報倫理などにかかわる知識や考え方を身につける。 主要なキーワードは次のとおりである。 電子掲示板やtwitterなどでのトラブル、フィッシング、ワンクリック詐欺、電子メールの成りすまし、プライバシー、匿名性、著作権、など。 講義の最終回に全体のまとめをおこなう。 毎回簡単な課題提出を求める。内容は自分の意見であれば自由で採点には関係がないが、授業内容を理解したうえでの意見であるかどうかなどを課題で確認する。課題に対しては、次回以降授業担当者から返答を行う。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義内における自主的な質問・発言やディスカッションへの積極的な参加態度、講義内容にかかわる教員からの質問への回答を30%の重みづけで評価する（受講態度）。また、課題等の提出物10%、試験の成績を60%として最終的に総合評価を行う。これらの３つの評価をバランスよく得ていることを単位認定（到達目標）の判断基準とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業課題に関しては、次回授業でコメントシート（シャトルカード）や、授業内での言及・コメントなどによって（原則課題回答者名は匿名）、フィードバックする。
履修条件・注意事項	授業に積極的に取り組む姿勢が単位取得には必要です。 講義形式ですが、授業中に受講者に対して質問をします。また、授業の最後には、授業内容に関連した課題を出しますので、解答してください。解答に対しては、次回以降の授業でコメントや解説をします。 原則として情報処理Iの単位を取得した学生を対象とします。 授業計画の内容は、理解度の状況に応じて変更になることがあります。
実務経験のある教員	該当しない　内容

事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対して、次のように予習・復習を十分におこなうこと。 予習：次回内容に対応する章の「重要ポイント」および「考えよう」を読み、本文を読んでくること。約2時間。 復習：授業内容に対応する章の「まとめ」をもとにノートを整理し、「練習問題」に取り組むこと。約2時間。
オフィスアワー	春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室） 秋学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室）

授業計画		担当者
第１回	イントロダクション	大谷
第２回	なぜ情報倫理が必要なのか	大谷
第３回	倫理とは何だろうか（１）倫理・法・慣習	大谷
第４回	倫理とは何だろうか（１）基本的な用語と枠組み	大谷
第５回	コンピューティングの歴史　コンピュータの誕生からパソコンの登場まで	大谷
第６回	コンピューティングの歴史　インターネット出現からIoT時代まで	大谷
第７回	身近な情報セキュリティ	大谷
第８回	メールやメッセージングアプリのセキュリティ	大谷
第９回	著作権の基礎	大谷
第１０回	レポート作成の倫理問題	大谷
第１１回	「漫画サイトが見られない」	大谷
第１２回	個人情報保護法の基礎知識	大谷
第１３回	ポイントカードと個人情報	大谷
第１４回	情報時代のプライバシー	大谷
第１５回	まとめ	大谷
第１６回	筆記試験（オンライン試験も検討中）	大谷

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	改訂新版　情報倫理入門	参・出版社名１	アイケイコーポレーション
参・著者名１	土屋俊監修、大谷卓史編著、江口聡、喜多千草、永崎研宣、村上祐子、坪井雅史、川口嘉奈子、吉永敦征、川口由起子著	参・ＩＳＢＮ１	4874923240
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	情報処理 II			担当者	今村　俊介		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	膨大なデータを適切に処理することが様々な分野で求められていることを理解し、基本的なデータに対する知識、および、データの扱い方を学習する。 ・なぜデータサイエンスを学ぶのか、社会でどのように活用されているのかを知る。 ・データの処理、集計、可視化、分析を行うためのデータサイエンスの基礎的事項を学習する。 ・社会における事象を適切に捉え、分析・説明できる力を修得する。 ・データが重要視されるようになった社会背景を理解する。 ・データとは何かを説明できる。 ・データの基本的な分析手法を理解する。 ・データサイエンティストに求められるスキルを理解する。
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。 この時代においては、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することがこれからをよりよく生きる上で求められている。 さらに、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見、および、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。 この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶことを目的とする。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。 後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」リテラシーレベルの導入・基礎・心得分野
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習・復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。 それに対する返答、 あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が「30%」の重みづけで評価される。 また、課題等の提出物「50%」、 データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を「20%」として最終的に総合評価が行われる。

	これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定(到達目標)の判断基準となる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	【受講者数】 ・学部で30人以内とする。そのため抽選となることがある。 ・抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 【持参物】 ・指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 ・ 第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト【これは、学科によって実施・非実施をきめられますか？】未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがある ので十分注意すること。 【授業計画】 進捗の状況に応じて変更することがある。

実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、情報系科目の講義担当経験、ならびに、研究活動への使用経験を有している。

事前学習・事後学習とその時間	【予習】 ・各回の講義に先立ち、予習として教科書の該当箇所を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。 【復習】 ・復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 【全体】 ・授業の進度と同程度の予習量・復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 ・予習・復習の確認については、課題やタスクにおいて知識・技術の使用が求められ、その達成度ならびに積極的な参加態度が成績評価として考慮される。
オフィスアワー	・講義終了時間の直後 ・事前に学生と教員で相談して決めた時間帯

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	今村
第２回	ビッグデータと社会の変化	今村
第３回	社会で活用されているデータ1	今村
第４回	社会で活用されているデータ2	今村
第５回	データ・AIの技術	今村
第６回	データサイエンス	今村
第７回	データ・AIを活用するときの負の側面	今村
第８回	データ・AIにまつわるセキュリティ1	今村
第９回	データ・AIにまつわるセキュリティ2	今村
第１０回	AIとアルゴリズム	今村
第１１回	データの構造とプログラミング	今村
第１２回	データの利活用方法	今村
第１３回	時系列データと文章データの分析例	今村
第１４回	教師あり学習と教師なし学習	今村
第１５回	データ・AI利活用における留意事項	今村
第１６回	まとめと試験・評価	今村

教科書			
教・書籍名１	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名１	技術評論社

教・著者名１	岡嶋裕史，吉田雅裕　著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-297-12038-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語Ⅰ 経社			担当者	嶋村　優枝		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えるようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の５０％で査定し評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて１６回行いますが、１５回目に試験を行い、最後の１６回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかり行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従って下さい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日１０分でもよいので次の週までに合計６０～９０分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないとのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日１０分でよいので毎日自分で声に出して英文を読む習慣をつけてください。
オフィスアワー	金曜日１限の授業前と授業後

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　春学期の授業に関しての大雑把な説明と２回目の授業のさわり	嶋村優枝
第２回	Profile　自分を知ろう　BE動詞	嶋村優枝
第３回	Sports　多彩だね、スポーツの世界　一般動詞：自動詞・他動詞	嶋村優枝
第４回	Special Occasions　特別な日は誰に何をしてあげる？　二重目的語、目的語をとる動詞	嶋村優枝
第５回	Families　家族を知ろう　人称代名詞	嶋村優枝
第６回	Japan Quiz　　日本クイズに挑戦　WH疑問文	嶋村優枝

第７回	Love and Marriage　恋愛はいつの時代も人々の関心事？　過去形	嶋村優枝
第８回	Life History　今までの自分を語ろう　現在完了形　継続	嶋村優枝
第９回	Leisure　自分の経験を語ろう　現在完了形　経験・完了	嶋村優枝
第１０回	College Life　学生生活を楽しもう　進行形	嶋村優枝
第１１回	On Vacation　休暇の計画をたてよう　未来表現	嶋村優枝
第１２回	Out and About　自分の気持ちを上手に伝えるには　助動詞　CAN,MAY	嶋村優枝
第１３回	春学期の総復習（１）　BE動詞　一般動詞　人称代名詞　疑問	嶋村優枝
第１４回	春学期の総復習（２）　現在完了形　進行形　助動詞	嶋村優枝
第１５回	春学期の試験	嶋村優枝
第１６回	春学期の総復習、フィードバック	嶋村優枝

教科書			
教・書籍名１	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー　Living Grammar	教・出版社名１	成美堂　SEIBIDO
教・著者名１	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語Ⅱ 経営社会			担当者	嶋村　優枝		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LE-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えるようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の５０％で査定し評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて１６回行いますが、１５回目に試験を行い、最後の１６回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかり行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従って下さい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日１０分でもよいので次の週までに合計６０～９０分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないとのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日１０分でよいので毎日自分で声に出して英文を読む習慣をつけてください。
オフィスアワー	金曜日２限の授業前と授業後

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　秋学期の授業に関しての大雑把な説明と２回目の授業のさわり	嶋村優枝
第２回	Rules　しきたりは難しい　助動詞 must should	嶋村優枝
第３回	Folk Tales　昔話に思わぬ教訓を発見　　接続詞　and but or so	嶋村優枝
第４回	News & Events　ニュースに敏感になろう　受動態	嶋村優枝
第５回	Amazing Animals 動物の世界は驚きでいっぱい　頻度を表す副詞	嶋村優枝
第６回	Feelings 人間は感情の生き物だね　　ing edで終わる形容詞	嶋村優枝

第７回	World Quiz 世界クイズに挑戦　　原級　比較級　最上級	嶋村優枝
第８回	Business この大企業の創始者は？　　基本的な前置詞 at on in	嶋村優枝
第９回	Environment 環境問題を解決するには？　接続詞(2) when because although if	嶋村優枝
第１０回	Old Sayings ことわざは面白い　　不定詞と動名詞	嶋村優枝
第１１回	Professions 将来の職業について考えよう　関係詞　who which where	嶋村優枝
第１２回	What If？ 仮定の話は途方もない　　仮定法	嶋村優枝
第１３回	秋学期の総復習（１）　接続詞　受動態　比較級　基本的な前置詞	嶋村優枝
第１４回	秋学期の総復習（２）　不定詞と動名詞　関係詞　仮定法	嶋村優枝
第１５回	秋学期の試験	嶋村優枝
第１６回	秋学期の総復習、フィードバック	嶋村優枝

教科書			
教・書籍名１	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー　Living Grammar	教・出版社名１	成美堂　SEIBIDO
教・著者名１	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語III			担当者	平見　勇雄		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LE-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	この授業はテキストの予習をしっかりやれば学生は高校以上の難易度の長い文章が読むことができるようになります。基本的な文法の復習や語彙に加えて読解力をつけることを目標にしています。また、全文のテキストのテープを聞く、訳を自分でしてもらうことで自分の実力を客観的に把握できるような授業を行います。教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力がつくよう各自の予習も必須です。英会話の中級に近い程度の会話ができるようになります。
授業概要	教材はビートルズの物語を扱います。メンバーの生い立ちからグループの解散まで、テンポよく流れていく物語を楽しみながら次の授業が楽しみになるよう、内容を取りながら進めていきます。物語はスターとしての側面よりは人間的な側面に焦点が当たっており、人生における挫折が多く書かれています。自分たちと変わらない年齢の若者が、国籍、時代を問わず、同じように経験する出来事を自らの人生と重ねながら読んでもらいたいと願っています。 　時々プリントに合わせて公式に発売されているメンバーの肉声のインタビューを聞きながら、物語に幅をもたせ、いろいろな角度からその人生を眺めます。なぜビートルズが時代を問わず愛されているのか、他のグループとは一線を画す存在なのかも考えていただきたいと思います。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業態度50%、授業での発表20%、そして試験30%を総合して評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	１６回目に筆記試験をやり、そのあと試験問題の解説をします。大切な文法事項、読解の難しいところなどが中心です。
履修条件・注意事項	必ず予習すること、その際に配布するプリントを丹念に辞書を引き、大意をつかんでから授業に臨んで下さい。わからない文法は授業の中で自分から説明を求めるくらいの積極的態度を希望します。参考書や辞書は必ず使って授業に臨んでもらうことを前提とします。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業前に必ず自分で訳をしてきて下さい。辞書を引いて文型を確認しながら前後の文章とのつながりも考えながら２時間程度の予習が理想です。復習としてはこれも２時間、実力に応じて授業で渡すCD-Rを使ってシャドウイングをしながら耳と会話を鍛えることをお勧めします。
オフィスアワー	水曜日の３限　研究室にて（２号館６F）

授業計画	担当者

第１回	リバプール	平見勇雄
第２回	メンバーの生い立ち　ジョンレノン	平見勇雄
第３回	ポールマッカートニーの生い立ち	平見勇雄
第４回	ジョージハリソンの生い立ちとメンバー加入	平見勇雄
第５回	メンバー交代　リンゴスター	平見勇雄
第６回	1960年デッカオーディション	平見勇雄
第７回	1962年ビートルズデビュー	平見勇雄
第８回	1964年ビートルマニア	平見勇雄
第９回	エドサリバンショー　アメリカ進出	平見勇雄
第１０回	オーストラリアや各国の状況	平見勇雄
第１１回	映画ア・ハード・ディズ・ナイト	平見勇雄
第１２回	映画とサントラ　ヘルプ	平見勇雄
第１３回	世界制覇	平見勇雄
第１４回	アルバム　ラバーソール	平見勇雄
第１５回	アルバム　リボルバー　日本公演	平見勇雄
第１６回	筆記試験	平見勇雄

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布いたします。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	英語Ⅳ			担当者	平見　勇雄		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LE-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	この授業ではしっかり予習と復習を行うことで学生は大学初級程度のテキストの長文が読めるようになります。文法の復習は英語ⅠとⅡで既に行っており、春期はそれを前提に内容把握に焦点を当てていましたが、秋期は読解のスピードが上がることを目標としています。教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力をつけてもらうことも一年を通して目標としていますが、後期はテープを聴いてもらい大意が把握できるような練習をすることで、より総合的に力をつけることを目標としています。
授業概要	教材はビートルズの物語です。秋期は中期と呼ばれている時期の傑作アルバムの創作からグループの解散までを取扱います。スターとしての側面よりは人間的な側面に焦点が当たっており、春期と違った人間関係における難しさが多く書かれています。成長していくことによってより個性が明確になり、環境の変化が人間関係を悪化させていく詳細を読み込んでいきます。英語の面ではテープを聞いていただきながら内容の把握をしてもらうことをやります。前期には行わなかった聴き取りをしてもらいますが、聴き取りに自信がない人はしっかりと事前に読み込んできてもらい、書いてもらっても構いません。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業態度50%、授業での発表20%、そして試験30%を総合して評価します。フィードバックは試験のあとに重要な要点をまとめたプリントを配布することで行いたいと思います。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	単位認定の筆記試験は１６回目に行い、その日の後半に試験の解説を行います。文法的な面と、読解で訳しにくい場所の解説を行います。
履修条件・注意事項	必ず予習すること、その際に配布するプリントを丹念に辞書を引き、大意をつかんでから授業に臨んで下さい。わからない文法は授業の中で自分から説明を求めるくらいの積極的態度を希望します。参考書や辞書は必ず使って授業に臨んでもらうことを前提とします。なお試験のあとに試験の解答を言います。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	基本的な文法事項は授業ではやらないので自分で弱いところは補っていくように参考書を使って勉強してください。毎回２～３ページ進む予定ですから訳を書いてくることが最低限の予習です（２時間程度の予習です）。授業を受けたあとは毎日授業で行ったところを声に出して読んで下さい。声に出すこと、毎日行うことが重要です。一日にたくさんやるのでは長続きしませんから一日１０～２０分程度で結構です。（したがって復習も時間としてはトータルとして２時間程度）
オフィスアワー	水曜日の３限、２号館６Fの研究室

授業計画	担当者

第１回	春学期の復習	平見勇雄
第２回	日本公演続き	平見勇雄
第３回	レコーディング革命	平見勇雄
第４回	アルバム　サージェントペパーズロンリーハーツクラブバンド	平見勇雄
第５回	世界同時衛星放送　「All you need is love」	平見勇雄
第６回	マネージャー　ブライアンエプスタインの死	平見勇雄
第７回	マジカルミステリーツアー	平見勇雄
第８回	インドでの生活　修行	平見勇雄
第９回	初の２枚組アルバム　通称ホワイトアルバム	平見勇雄
第１０回	ゲットバックプロジェクト	平見勇雄
第１１回	最後のレコーディング　アビーロード	平見勇雄
第１２回	映画とサントラ　レットイットビー	平見勇雄
第１３回	解散後の４人　ジョンレノン	平見勇雄
第１４回	解散後の４人　ポールマッカートニー	平見勇雄
第１５回	解散後の４人　ジョージハリソンとリンゴスター	平見勇雄
第１６回	筆記試験	平見勇雄

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布します。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	フランス語Ⅰ			担当者	加藤　健次		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LF-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、かんたんなフランス語を話す」 到達目標：学生はフランスの文化について教養として語れるようになる。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行したときなどに、あいさつやかんたんな会話ができるようになる。
授業概要	この講義は、一方向のレクチャーではなく、参加型双方向の授業で、フランス語のスキル習得のため、できるだけ大きな声を出して繰り返し発音することが求められる。フランス語の音節を正しく発音するための方法を知り、綴り字を正しく読むための理論と基礎文法を理解し、初歩的かつ日常的なフランス語会話に必要な語彙と例文を、フランスの歴史・地理・文化のなかから代表的なものを繰り返し発音して、暗唱できるようにする。初心者対象で、ABCと発音／つづり字の読み方から始められ、名詞・形容詞の性・数や冠詞などの基本文法が文化を学ぶなかで理解できるよう説明される。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることか ら、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（６０％）、単位認定試験（４０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各２時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各２時間の学修時間を目安とする。
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

授業計画		担当者
第１回	スポーツ①ツール・ド・フランス	加藤健次
第２回	映画①ヌーヴェル・ヴァーグから最強の二人まで	加藤健次

第３回	音楽①サガンとブラームスはお好き？	加藤健次
第４回	建築①ロマネスク様式	加藤健次
第５回	食①パン	加藤健次
第６回	旅①ブルターニュとモンサンミシェル	加藤健次
第７回	歴史①マリーアントワネット	加藤健次
第８回	スポーツ②その他の自転車ロードレースとル・マン24時間耐久レース	加藤健次
第９回	美術②ピカソ、マチス、キュビズムと現代アート	加藤健次
第１０回	音楽②ピアフとシャンソンの世界	加藤健次
第１１回	建築②ゴシック様式	加藤健次
第１２回	食②お菓子とショコラ	加藤健次
第１３回	旅②ロワール川と城	加藤健次
第１４回	文学①詩：ボードレールからコクトーまで	加藤健次
第１５回	旅③ブルゴーニュとヴェズレー教会	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	上垣 豊（編）	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4623087786 ISBN-13 ： 978-4623087785
参・書籍名２	ゼロからスタート　フランス語　会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ＩＳＢN2	ＩＳＢＮ１978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語Ⅱ			担当者	加藤　健次		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LF-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、日常的なフランス語を話すことができるようになる」 到達目標：学生はフランスの文化について理解する。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行した時などに、あいさつやその場に応じた会話ができるようになる。
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、フランス文化に関する練習問題をていねいに解いていく。フランス文化に関係した会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことでフランスに精通し、フランス語の語彙力や発話力を身につけよう。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることか ら、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（６０％）、単位認定試験（４０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各２時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各２時間の学修時間を目安とする。
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

授業計画		担当者
第１回	スポーツ③サッカー・リーグ・アン	加藤健次
第２回	美術③マグリットとシュールレアリスム	加藤健次
第３回	音楽③サティとミニマルミュージック	加藤健次

第４回	建築③ルネサンス・バロック様式	加藤健次
第５回	食③チーズ	加藤健次
第６回	旅④プロヴァンスとアルル	加藤健次
第７回	文学②文学②サンテグジュペリ『星の王子さま』	加藤健次
第８回	スポーツ④ペタンク	加藤健次
第９回	美術④スーラージュ、クラインに見る現代アート	加藤健次
第１０回	音楽④ジプシー音楽とジャズマヌーシュ	加藤健次
第１１回	食④ワイン	加藤健次
第１２回	旅⑤サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路	加藤健次
第１３回	哲学①デカルトと主体の哲学	加藤健次
第１４回	文学②文学③小説：ユゴーからル・クレジオまで	加藤健次
第１５回	食⑤Menuとコース料理	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	上垣 豊（編）	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4623087786 ISBN-13 ： 978-4623087785
参・書籍名２	ゼロからスタート　フランス語　会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ＩＳＢN2	ＩＳＢＮ１978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語III			担当者	加藤　健次		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LF-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランス語会話ができるようになる」 到達目標：学生はフランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を学ぶ。フランス語Ⅰ・Ⅱで練習した会話表現をさらに応用して、様々な日常的な場面で運用できるようになることを到達目標とする。
授業概要	1年で習った発音や綴り字の読み方の復習をしながら、語彙や表現を増やしていく。実際の場面を想像して、会話練習をする。文法的にもより踏み込んだ説明を読んでみる。教科書の練習問題をていねいに解いていく。教科書にある会話例文を正確に発音する。暗唱する。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その暗唱した例文を発表する。他の学生と会話する。これを繰り返すことでフランス語のコミュニケーション力を身につけることを目指す。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランス語会話ができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業での質問や発表等を通じて総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための試験を行って評価する。授業毎試験（30%）、授業への積極的な参加態度（20%）、単位認定試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	フランス語Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習復習には各2時間程度を要する。そのテーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。その成果は、各週の小テストと最終週の単位認定試験で問われる。
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

授業計画		担当者
第１回	あいさつ	加藤健次
第２回	発音	加藤健次
第３回	性と数	加藤健次
第４回	前置詞	加藤健次
第５回	規則動詞	加藤健次
第６回	形容詞	加藤健次

第７回	否定形	加藤健次
第８回	命令形	加藤健次
第９回	疑問形	加藤健次
第１０回	副詞	加藤健次
第１１回	疑問副詞	加藤健次
第１２回	疑問代名詞	加藤健次
第１３回	不規則動詞	加藤健次
第１４回	所有形容詞	加藤健次
第１５回	疑問形容詞	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１	新ゼロからスタートフランス語 文法編	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	島崎 貴則	教・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4901429620 ISBN-13 ： 978-4901429627
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	フランス語IV			担当者	加藤　健次		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LF-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランス語で会話を楽しむことができる」 到達目標：学生はフランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を学ぶ。フランス語技能検定5級に合格するレベルを到達目標とする。
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、検定問題も念頭に置いて教科書の練習問題をていねいに解いていく。教科書にある会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことで本気で語彙力や発話力を身につけ、検定試験に合格しよう
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランス語で会話を楽しむことができる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業での質問や発表等を通じて総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための試験を行って評価する。授業毎試験（30%）、授業への積極的な参加態度（20%）、単位認定試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していることが望ましい。毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習復習は各2時間程度行うこと。予習は、毎授業の終わりに「次週の暗唱例文」が課題として示されるので、これらがスムーズに発話できるようにしてくることである。復習は、そのテーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。復習の成果は、各週の小テストや最終週の単位認定試験で問われる
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

授業計画		担当者
第１回	動詞allerとvenirの活用	加藤健次
第２回	近接未来と近接過去	加藤健次
第３回	命令形、否定表現	加藤健次
第４回	疑問代名詞	加藤健次
第５回	疑問副詞	加藤健次
第６回	指示代名詞	加藤健次

第７回	関係代名詞	加藤健次
第８回	過去分詞	加藤健次
第９回	直説法複合過去	加藤健次
第１０回	補語人称代名詞の語順	加藤健次
第１１回	比較級と最上級	加藤健次
第１２回	非人称構文	加藤健次
第１３回	直説法半過去	加藤健次
第１４回	条件法現在	加藤健次
第１５回	関係副詞と文の構造	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１	新ゼロからスタートフランス語 文法編	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	島崎 貴則	教・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4901429620 ISBN-13 ： 978-4901429627
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ドイツ語Ⅰ			担当者	清水　光二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LG-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅰ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語を正しく発音するためのルールを知り、併せて動詞や名詞を中心とした基礎的な文法を段階的に習得することになる。
授業概要	この講義は、ドイツ語の初学者を対象にしている。春学期を通して学修する項目は、大体以下のような内容である。つづりと発音の関係、挨拶等の定型表現、自己紹介と他者紹介、辞書の案内と使い方、人称代名詞、規則動詞と不規則動詞の現在人称変化、名詞の性・数・格、前置詞、定冠詞、不定冠詞など。それに加え、定型的な日常口語表現を通して、コミュニケーションの初歩も学ぶ。なお、今回この授業で使うテキストはドイツ語の総合的な文法読本であり、ドイツの社会・文化・歴史などについても学ぶことができ、異質な文化や社会にたいする理解を深めることにもなる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえないことである。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　ドイツおよびドイツ語とは　アルファベット　ドイツ語の発音（母音）	清水光二
第２回	ドイツ語の発音（子音）　挨拶表現	清水光二
第３回	ドイツ語の発音（まとめ）　挨拶表現の復習	清水光二
第４回	Lektion 1　Was lernst du?　動詞の現在人称変化	清水光二

第５回	Lektion 1　Was lernst du?　定動詞第2位の原則　seinの現在人称変化	清水光二
第６回	Lektion 2　Hast du Geschwister?　名詞の性と格　定冠詞の格変化	清水光二
第７回	Lektion 2　Hast du Geschwister?　不定冠詞の格変化　habenの現在人称変化	清水光二
第８回	Lektion 3　Wann fährst du nach München?　不規則な現在人称変化	清水光二
第９回	Lektion 3　Wann fährst du nach München?　命令形	清水光二
第１０回	Lektion 4　Welche Uhr kaufst du?　定冠詞類	清水光二
第１１回	Lektion 4　Welche Uhr kaufst du?　不定冠詞類　所有冠詞	清水光二
第１２回	Lektion 5　Kaufst du diese Bücher?　複数形	清水光二
第１３回	Lektion 5　Kaufst du diese Bücher?　人称代名詞	清水光二
第１４回	Lektion 6　Was machst du an diesem Wochenende?　前置詞の格支配　2格支配／3格支配	清水光二
第１５回	Lektion 6　Was machst du an diesem Wochenende?　前置詞の格支配　4格支配／3・4格支配	清水光二
第１６回	筆記試験	清水光二

教科書			
教・書籍名１	パノラマ　初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	上野成利、本田雅也	教・ＩＳＢＮ１	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	文法からマスター!　はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10: 481635137X
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ドイツ語Ⅱ			担当者	清水　光二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LG-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、日常的な会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語の基礎的な文法を学びながら（英語との比較も行いつつ）、ドイツ語特有の語法を品詞別あるいは時制別に段階的に理解することになる。
授業概要	この講義は、「ドイツ語Ⅰ」を終了した学生を対象にしている。秋学期を通して学習する主な文法項目は、大体以下のようなものになっている。分離動詞・非分離動詞、接続詞、副文、再帰代名詞、再帰動詞、動詞の過去形と現在完了形、接続法など。文法事項については教師によって説明がなされるが、その後の練習問題や会話・読本部分については毎回学生の積極的な取り組みが求められる。そのためには、授業以外での予習や復習がどうしても必要となる。なお、今回この授業で使うテキストは総合的な文法読本であり、ドイツ語圏の習慣や日常といった文化一般、社会問題等にも触れながら楽しく初級ドイツ語を学べる内容となっている。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえないことである。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

授業計画		担当者
第１回	Lektion 7　Was liest du gren?　形容詞の格変化	清水光二
第２回	Lektion 8　Wohin willst du gehen?　話法の助動詞	清水光二
第３回	Lektion 8　Wohin willst du gehen?　未来形	清水光二
第４回	Lektion 9　Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt?　分離動詞	清水光二

第５回	Lektion 9　Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt?　接続詞と副文	清水光二
第６回	Lektion 10　Hast du vor, München zu besuchen?　zu不定詞	清水光二
第７回	Lektion 10　Hast du vor, München zu besuchen?　再帰代名詞	清水光二
第８回	Lektion 11　Als ich das Museum besuchte, …　動詞の３基本形	清水光二
第９回	Lektion 11　Als ich das Museum besuchte, …　過去形	清水光二
第１０回	Lektion 12　Hast du Weimar besucht?　現在完了形	清水光二
第１１回	Lektion 12　Hast du Weimar besucht?　非人称表現	清水光二
第１２回	Lektion 13　Es wird gesagt, dass …　受動態	清水光二
第１３回	Lektion 13　Es wird gesagt, dass …　比較表現	清水光二
第１４回	Lektion 14　Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast?　関係代名詞	清水光二
第１５回	Lektion 14　Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast?　不定関係代名詞	清水光二
第１６回	筆記試験	清水光二

教科書			
教・書籍名１	パノラマ　初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	上野成利、本田雅也	教・ＩＳＢＮ１	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	文法からマスター! はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	481635137X
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	ドイツ語III			担当者	清水　光二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LG-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、ドイツの歴史、文化、社会を多面的に学習することで、ドイツ語の背景にあるものについての理解を深めると同時に、初歩的レベルなら一人でも読み書きすることが出来るようになる。 個別目標としては、どのような場面でどのようなドイツ語表現が使われるかを一つひとつ理解し学修することで、実際に遭遇するであろう様々な場面に応用可能な表現や基本構文を身につける。
授業概要	ドイツ語Ⅰ・Ⅱで学んだ文法事項の確認を行いながら、ドイツ語の文章を読むことによって読解力や語彙力を着実に身につけることができる。 具体的には、ドイツ語圏の社会や文化の中から私たちの生活にも関係がありそうなトピックを話題にして、易しい文章から徐々にレベルアップしたものへと読み進めることにより、ドイツ語圏に関わる知識とドイツ語の理解力を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	この授業は、１年間で60時間のドイツ語学習を経験した者を対象としている。本校のカリキュラムで言えば、「ドイツ語Iとドイツ語IIを履修済みであること」（あるいは同等のレベル）が履修の前提となっている。 語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえない。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。 テキストの読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後における予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語の初学者には、教師が説明する文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業ではその準備の成果を発表することが個々に求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

授業計画		担当者
第１回	Lektion 0　自己紹介	清水光二
第２回	Lektion 0　挨拶　動詞の現在人称変化	清水光二

第３回	Lektion 1 地理と天候	清水光二
第４回	Lektion 1 冠詞（類）の格変化	清水光二
第５回	Lektion 2　食生活	清水光二
第６回	Lektion 2　前置詞の格変化	清水光二
第７回	Lektion 3 ドイツ語という言語	清水光二
第８回	Lektion 3 名詞の複数形	清水光二
第９回	Lektion 4　ドイツの大学	清水光二
第１０回	Lektion 4　話法の助動詞	清水光二
第１１回	Lektion 5　祝日と休暇	清水光二
第１２回	Lektion 5　形容詞の格変化	清水光二
第１３回	Lektion 6　ドイツの治安事情	清水光二
第１４回	Lektion 6　比較表現	清水光二
第１５回	Lektion 0 〜 Lektion 6 までの復習	清水光二
第１６回	筆記試験	清水光二

教科書			
教・書籍名１	知りたいドイツ語　〜読みながらステップアップ〜	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	Siegfried Kohlhammer、斎藤太郎	教・ＩＳＢＮ１	ISBL: 978-4-255-25403-6 C1084
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	文法からマスター!はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	481635137X
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ドイツ語IV			担当者	清水　光二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LG-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、ドイツの歴史、文化、社会を多面的に学習することで、ドイツ語の背景にあるものについての理解を深めると同時に、初歩的レベルなら一人でも読み書きすることが出来るようになる。 個別目標としては、どのような場面でどのようなドイツ語表現が使われるかを一つひとつ理解し学修することで、実際に遭遇するであろう様々な場面に応用可能な表現や基本構文を身につける。
授業概要	ドイツ語Ⅰ・Ⅱで学んだ文法事項の確認を行いながら、ドイツ語の文章を読むことによって読解力や語彙力を着実に身につけることができる。 具体的には、ドイツ語圏の社会や文化の中から私たちの生活にも関係がありそうなトピックを話題にして、易しい文章から徐々にレベルアップしたものへと読み進めることにより、ドイツ語圏に関わる知識とドイツ語の理解力を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	この授業は、１年間で60時間のドイツ語学習を経験した者を対象としている。本校のカリキュラムで言えば、「ドイツ語Iとドイツ語IIを履修済みであること」（あるいは同等のレベル）が履修の前提となっている。 語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえない。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。 テキストの読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後における予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語の初学者には、教師が説明する文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業ではその準備の成果を発表することが個々に求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

授業計画		担当者
第１回	Lektion 7　教育制度	清水光二
第２回	Lektion 7　分離動詞と非分離動詞	清水光二

第３回	Lektion 8　政治制度	清水光二
第４回	Lektion 8　受動態	清水光二
第５回	Lektion 9　ドイツの歴史概観	清水光二
第６回	Lektion 9　過去の表現	清水光二
第７回	Lektion 10　音楽の国ドイツ	清水光二
第８回	Lektion 10　副文の語順	清水光二
第９回	Lektion 11　ドイツの宗教事情	清水光二
第１０回	Lektion 11　関係代名詞	清水光二
第１１回	Lektion 12　二つのドイツ	清水光二
第１２回	Lektion 12　分詞の用法	清水光二
第１３回	Lektion 13　EUとドイツ	清水光二
第１４回	Lektion 13　接続法第2式	清水光二
第１５回	Lektion 14　EUとドイツ	清水光二
第１６回	筆記試験	清水光二

教科書			
教・書籍名１	知りたいドイツ語　～読みながらステップアップ～	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	Siegfried Kohlhammer、斎藤太郎	教・ＩＳＢＮ１	ISBL: 978-4-255-25403-6 C1084
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	文法からマスター!はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	978-4-560-06420-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語Ⅰ			担当者	孫　基然		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LC-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（入門編）。 到達目標： 学生は中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる。
授業概要	中国語での読む・書く・話す力を伸ばすためには、まず発音を完全にマスターする必要がある。中国語には日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヶ月近く徹底的に練習を繰り返す。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習することにより、前期終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	1、中国語の声調に関する解説及び発声リズムの練習 2、単母音の発声練習	孫基然
第２回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声練習	孫基然
第３回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声復習	孫基然

	4、鼻音の発声練習	
第４回	1、発音の復習 2、そり舌音の発声練習	孫基然
第５回	1、発音の復習 2、子音の発声練習	孫基然
第６回	1、発音総合復習 2、発音小テス 3、実施した小テストをフィードバックする。	孫基然
第７回	1、声調符号をつける位置 2、声調の変化 3、よく使うフレーズ	孫基然
第８回	1、人称代名詞 2、判断文 3、普通疑問文	孫基然
第９回	1、副詞「也」 2、副詞「的」 3、普通疑問文	孫基然
第１０回	1、「喜歓」の使い方 2、形容詞述語文	孫基然
第１１回	1、省略疑問文 2、年齢の聞き方と使い分け	孫基然
第１２回	1、所有を表す「有」 2、完了を表す「了」 3、推測表現	孫基然
第１３回	1、時刻の言い方 2、量詞の使い方	孫基然
第１４回	1、省略疑問文 2、進行表現	孫基然
第１５回	1、提案や勧誘の使い方 2、二重目的語を取る動詞	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	中国への旅	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	山下輝彦、黄漢青	教・ＩＳＢＮ１	978-4-255-45332-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語Ⅱ			担当者	孫　基然		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LC-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（基礎編）。 到達目標： 学生は前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準４級の獲得へつなげていくことができるようになる。
授業概要	中国語には、日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、２ヵ月近く徹底的に練習を繰り返す必要がある。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習し、Ⅱの終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。基礎的な文法事項、表現等を会話や筆記練習等で理解を深め、会話力、読解力、応用力を高める。担当教員は毎回必ず課題として出された単語や基本構文の暗唱をチェックする。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準４級の獲得へつなげていくことができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文	孫基然
第２回	1、助動詞「想」 2、反復疑問文	孫基然
第３回	1、経験表現	孫基然

	2、連動文	
第４回	1、時量補語 2、存在表現	孫基然
第５回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文 3、比較表現	孫基然
第６回	1、介詞「離」、「従」と「往」の使い方 2、動作の方式を表す「着」 3、比較表現	孫基然
第７回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方 3、結果補語	孫基然
第８回	中間テスト	孫基然
第９回	中間テストをフィードバックする。	孫基然
第１０回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方	孫基然
第１１回	1、未来を表す表現 2、方法や方式を訪ねる表現	孫基然
第１２回	1、介詞「給」 2、仮定表現	孫基然
第１３回	1、「太……了」の文型 2、人民元の数え方 3、割引の言い方	孫基然
第１４回	1、動詞の重ね型 2、「一辺」と「一点」	孫基然
第１５回	1、程度補語 2、介詞「為了」 3、方向補語と兼語文	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	中国への旅	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	山下輝彦、黄漢青	教・ＩＳＢＮ１	978-4-255-45332-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語III			担当者	孫　基然		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LC-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論（検定試験対応・前篇）を修得できるようになる。 到達目標： 学生は中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。
授業概要	１年次に習った単語、基礎的文法事項、表現等を生かしつつ、新しい文法や表現等を習得し,筆記や会話の練習を通して、中国語の読解能力と基礎的会話能力を高める。また、毎回少し時間を割いて中国に関することをも講義する。さらに助動詞、比較表現、使役表現、結果補語などを中心として関連文法を紹介する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）試験は必ず行うので、授業に出席していただけでは単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	１、前置詞「对」 ２、名詞前の「的」	孫基然
第２回	１、「有的……有的」の文型 ２、「既……又」の文型	孫基然
第３回	１、「每……都」の文型 ２、動詞、形容詞の前の「地」	孫基然

第４回	「除了……」の文型	孫基然
第５回	「即使……也」の文型	孫基然
第６回	持続を表す「着」	孫基然
第７回	結果補語	孫基然
第８回	中間テスト	孫基然
第９回	中間テストをフィードバックする	孫基然
第１０回	１、「因為……所以」の文型 ２、「一辺……一辺」の文型	孫基然
第１１回	「是……的」の文型	孫基然
第１２回	現存文	孫基然
第１３回	手段・状態を表す「着」	孫基然
第１４回	「一点也不」の文型	孫基然
第１５回	疑問詞の呼応表現	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	2冊目の中国語講読クラス	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	劉頴、柴森、小澤正人	教・ＩＳＢＮ１	978－4－560－06927－1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語IV			担当者	孫　基然		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LC-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論（検定試験対応・後篇）を修得できるようになる。 到達目標： 学生は中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。
授業概要	１年次に習った単語、基礎的文法事項、表現等を生かしつつ、新しい文法や表現等を習得し,筆記や会話の練習を通して、中国語の読解能力と基礎的会話能力を高める。また、毎回少し時間を割いて中国に関することをも講義する。さらに助動詞、比較表現、使役表現、結果補語などを中心として関連文法を紹介する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）試験は必ず行うので、授業に出席していただけでは単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	１、「是……的」の文型 ２、様態補語	孫基然
第２回	１、「不知道……才好」の文型 ２、「好像……一様」の文型	孫基然
第３回	疑問詞の不定用法	孫基然

第４回	可能補語「動詞+得了」	孫基然
第５回	1、「無論……都」の文型 2、「要是……就」の文型	孫基然
第６回	1、動詞後の「給」 2、受身表現	孫基然
第７回	中間テスト	孫基然
第８回	中間テストをフィードバックする。	孫基然
第９回	1、「不是……就是」の文型 2、「再也没……過」の文型	孫基然
第１０回	1、「雖然……但是」の文型 2、「不但……而且」の文型	孫基然
第１１回	1、動量補語 2、離合詞	孫基然
第１２回	1、「有」の謙語文 2、使役表現	孫基然
第１３回	1、副詞「就」 2、副詞「都」	孫基然
第１４回	1、「有」の連動文 2、「把」の文	孫基然
第１５回	1、「対……来説」の文献 2、「只有……才」の文型	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	2冊目の中国語講読クラス	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	劉頴、柴森、小澤正人	教・ＩＳＢＮ１	978－4－560－06927－1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ再履１クラス			担当者			日笠　恵美子	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			GE-LJ-1-001	
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	日笠

第２回	ユニット１	日笠
第３回	ユニット１	日笠
第４回	ユニット2	日笠
第５回	ユニット2	日笠
第６回	ユニット3	日笠
第７回	ユニット3	日笠
第８回	中間テスト	日笠
第９回	ユニット４	日笠
第１０回	ユニット４	日笠
第１１回	ユニット５	日笠
第１２回	ユニット５	日笠
第１３回	ユニット６	日笠
第１４回	ユニット６	日笠
第１５回	総復習	日笠
第１６回	単位認定試験	日笠

教科書			
教・書籍名１	レベルアップトレーニング文法Ｎ２	教・出版社名１	アルク
教・著者名１	坂本勝信	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2210-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語パワードリル N2 文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子（他）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ １クラス			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	まずは日本語能力試験Ｎ３レベルの日本語力を確実なものにするため、Ｎ３レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、Ｎ２のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にＮ２レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（文法）、応用日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（読解）、日本語研究ＩＡ/日本語ＩＡ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容

事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習	磯
第２回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習　場面6①	磯
第３回	文法テキスト学習　場面6②	磯
第４回	文法テキスト学習　場面7①	磯
第５回	文法テキスト学習　場面7②	磯
第６回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習①	磯
第７回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習②	磯
第８回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習③	磯
第９回	第１回～第８回授業　総まとめテスト	磯
第１０回	文法テキスト学習　場面8①	磯
第１１回	文法テキスト学習　場面8②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習④	磯
第１２回	文法テキスト学習　場面9①	磯
第１３回	文法テキスト学習　場面9②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑤	磯
第１４回	文法テキスト学習　敬語、副詞、接続詞等①	磯
第１５回	文法テキスト学習　敬語、副詞、接続詞等②	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　Ｎ３文法　スピードマスター	教・出版社名１	Ｊリサーチ出版
教・著者名１	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-036-1
教・書籍名２	ドリル＆ドリル日本語能力試験Ｎ２　文字語彙	教・出版社名2	ＵＮＩＣＯＭ
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-478-3
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ２クラス			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験Ｎ２の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ３レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋Aの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習

の時間	し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第25課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第３回	３．第25課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第４回	４．第28課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第５回	５．第28課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第６回	６．第31課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第７回	７．第31課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第８回	８．第34課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第９回	９．第34課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第１０回	１０．第37課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第１１回	１１．第37課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第１２回	１２．まとめ７　３３課～３７課の復習	井上光恵
第１３回	１３．第40課-１ 漢字・語彙　　文型１-導入・練習	井上光恵
第１４回	１４．第40課-２ 文型２-導入・練習　会話	井上光恵
第１５回	１５．まとめ８　３８課～４２課の復習	井上光恵
第１６回	単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語初級（2）大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-507-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子　辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-487-5
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ 再履２クラス			担当者				福本　苗
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング				GE-LJ-1-001
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ⅡＢを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	福本苗
第２回	時を表す表現	福本苗
第３回	「わけ・こと・もの・ところ」を使った表現	福本苗

第４回	助詞の働きをする言葉① （場面・時点・手段・原因を示す表現）		福本苗
第５回	助詞の働きをする言葉② （添加・判断・評価を示す表現）		福本苗
第６回	主に文末に使われる言葉		福本苗
第７回	文章の文法		福本苗
第８回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法		福本苗
第９回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法		福本苗
第１０回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法		福本苗
第１１回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法		福本苗
第１２回	基本文法の復習		福本苗
第１３回	接続の言葉		福本苗
第１４回	敬語・丁寧な言い方		福本苗
第１５回	総括		福本苗
第１６回	単位認定試験		福本苗
教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語日本語能力試験Ｎ２重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂　（他）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0 ☒
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策　N2文法　総まとめ	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	遠藤ゆう子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ 再履３クラス			担当者				福本　苗
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング				GE-LJ-1-001
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ＩＩを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・レベル確認テスト	福本苗
第２回	文末に使われる表現	福本苗

第３回	傾向や様子を表す表現	福本苗
第４回	例を挙げて示す表現	福本苗
第５回	原因・理由を表す表現	福本苗
第６回	「わけ・こと」を使った表現	福本苗
第７回	「もの」を使った表現	福本苗
第８回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第９回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１０回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１１回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１２回	「ない」を含んだ表現	福本苗
第１３回	付加を表す表現	福本苗
第１４回	基本文法の復習	福本苗
第１５回	総括	福本苗
第１６回	単位認定試験	福本苗

教科書			
教・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策　N2文法　総まとめ	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	遠藤ゆう子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ 再履クラス４			担当者				大下　朋子	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング				GE-LJ-1-001	
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義		
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限				
ディプロマポリシー対応項目									
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力			
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目			
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう 								
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。								
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。								
アクティブラーニングの内容									
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することはできない。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。								
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。各２時間の予習と復習に努めること。								
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。								

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大下(朋)
第２回	ます形・て形に接続する表現	大下(朋)
第３回	辞書形・た形に接続する表現	大下(朋)
第４回	ない形・意向形、名詞・形容詞に接続する表現	大下(朋)

第５回	いろいろなものと接続する表現	大下(朋)
第６回	評価・比較の表現①	大下(朋)
第７回	評価・比較の表現②／時間に関する表現	大下(朋)
第８回	状態・強調の表現／条件に関する表現①	大下(朋)
第９回	条件に関する表現②	大下(朋)
第１０回	判断に関する表現①	大下(朋)
第１１回	判断に関する表現②／敬語表現	大下(朋)
第１２回	縮約形／接続詞	大下(朋)
第１３回	動詞①	大下(朋)
第１４回	動詞②	大下(朋)
第１５回	名詞・助数詞	大下(朋)
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	大下(朋)

教科書			
教・書籍名１	28日間で基礎から応用まで完全マスター！日本語能力試験対策　Ｎ３文法・語彙・漢字　改訂版	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	山田光子	教・ＩＳＢＮ１	978-4384059502
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ（1クラス）			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	まずは日本語能力試験Ｎ３レベルの日本語力を確実なものにするため、Ｎ３レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、Ｎ２のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にＮ２レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に編成される。履修登録は教務課で一括登録する。 　登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（文法）、応用日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（読解）、日本語研究ＩＡ/日本語ＩＡ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習	磯
第２回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習　場面１①	磯
第３回	文法テキスト学習　場面１②	磯
第４回	文法テキスト学習　場面２①	磯
第５回	文法テキスト学習　場面２②	磯
第６回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習①	磯
第７回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習②	磯
第８回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習③	磯
第９回	第１回～第８回授業　総まとめテスト	磯
第１０回	文法テキスト学習　場面３①	磯
第１１回	文法テキスト学習　場面３②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習④	磯
第１２回	文法テキスト学習　場面４①	磯
第１３回	文法テキスト学習　場面４②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑤	磯
第１４回	文法テキスト学習　場面５①	磯
第１５回	文法テキスト学習　場面５②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑥	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　Ｎ３文法　スピードマスター	教・出版社名１	Ｊリサーチ出版
教・著者名１	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-036-1
教・書籍名２	ドリル＆ドリル日本語能力試験Ｎ２　文字語彙	教・出版社名2	ＵＮＩＣＯＭ
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-478-3

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ（２クラス）			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験Ｎ２の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ３レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋Aの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容		

事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第25課-１ 漢字・語彙　　文型１―導入・練習	井上光恵
第３回	３．第25課-２ 文型２―導入・練習　　会話	井上光恵
第４回	４．第28課-１ 漢字・語彙　　文型１―導入・練習	井上光恵
第５回	５．第28課-２ 文型２―導入・練習　　会話	井上光恵
第６回	６．第31課-１ 漢字・語彙　　文型１―導入・練習	井上光恵
第７回	７．第31課-２ 文型２―導入・練習　　会話	井上光恵
第８回	８．第34課-１ 漢字・語彙　　文型１―導入・練習	井上光恵
第９回	９．第34課-２ 文型２―導入・練習　　会話	井上光恵
第１０回	１０．第37課-１ 漢字・語彙　　文型１―導入・練習	井上光恵
第１１回	１１．第37課-２ 文型２―導入・練習　　会話	井上光恵
第１２回	１２．まとめ７　３３課～３７課の復習	井上光恵
第１３回	１３．第40課-１ 漢字・語彙　　文型１-導入・練習	井上光恵
第１４回	１４．第40課-２ 文型２-導入・練習　会話	井上光恵
第１５回	１５．まとめ８　３８課～４２課の復習	井上光恵
第１６回	単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語初級（2）大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-507-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子　辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-487-5
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ 再履クラス１			担当者	日笠　恵美子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画	担当者

第１回	オリエンテーション	日笠
第２回	ユニット１	日笠
第３回	ユニット１	日笠
第４回	ユニット2	日笠
第５回	ユニット2	日笠
第６回	ユニット3	日笠
第７回	ユニット3	日笠
第８回	中間テスト	日笠
第９回	ユニット４	日笠
第１０回	ユニット４	日笠
第１１回	ユニット５	日笠
第１２回	ユニット５	日笠
第１３回	ユニット６	日笠
第１４回	ユニット６	日笠
第１５回	総復習	日笠
第１６回	単位認定試験	日笠

教科書			
教・書籍名１	レベルアップトレーニング文法Ｎ２	教・出版社名１	アルク
教・著者名１	坂本勝信	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2210-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語パワードリル N2 文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子（他）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ再履クラス２			担当者	福本　苗		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ＩＩを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・レベル確認テスト	福本苗
第２回	いろいろな働きをする助詞	福本苗
第３回	「よう・う・まい・べき」を使った言葉	福本苗

第４回	複合語として使われる言葉	福本苗
第５回	文章の文法	福本苗
第６回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第７回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第８回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第９回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１０回	基本文法の復習	福本苗
第１１回	決まった使い方の副詞	福本苗
第１２回	仮定・逆説の表現	福本苗
第１３回	原因・理由を表す表現	福本苗
第１４回	話者の感覚・気持ち・推量を表す表現	福本苗
第１５回	総括	福本苗
第１６回	単位認定試験	福本苗

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語日本語能力試験Ｎ２重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂　（他）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策Ｎ2文法総まとめ	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	遠藤ゆう子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ 再履クラス３			担当者	福本　苗		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ＩＩを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・レベル確認テスト	福本苗
第２回	時を表す表現	福本苗
第３回	くり返しを表す表現	福本苗

第４回	進行状態を示す表現	福本苗
第５回	相関関係を示す表現	福本苗
第６回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第７回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第８回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第９回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１０回	比較を表す表現	福本苗
第１１回	対象を表す表現	福本苗
第１２回	仮定を表す表現	福本苗
第１３回	「から」が付く表現	福本苗
第１４回	評価・判断を示す表現	福本苗
第１５回	「ほど・くらい・こそ・さえ」を使った表現	福本苗
第１６回	単位認定試験	福本苗

教科書			
教・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策　N2文法　総まとめ	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	遠藤ゆう子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本語ＩＢ 再履クラス４			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＩを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。各２時間の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大下(朋)
第２回	ます形・て形に接続する表現	大下(朋)
第３回	辞書形・た形に接続する表現	大下(朋)

第４回	ない形・意向形、名詞・形容詞に接続する表現	大下(朋)
第５回	いろいろなものと接続する表現	大下(朋)
第６回	評価・比較の表現①	大下(朋)
第７回	評価・比較の表現②／時間に関する表現	大下(朋)
第８回	状態・強調の表現／条件に関する表現①	大下(朋)
第９回	条件に関する表現②	大下(朋)
第１０回	判断に関する表現①	大下(朋)
第１１回	判断に関する表現②／敬語表現	大下(朋)
第１２回	縮約形／接続詞	大下(朋)
第１３回	動詞①	大下(朋)
第１４回	動詞②	大下(朋)
第１５回	名詞・助数詞	大下(朋)
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	大下(朋)

教科書			
教・書籍名１	28日間で基礎から応用まで完全マスター！日本語能力試験対策　Ｎ３文法・語彙・漢字　改訂版	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	山田光子	教・ＩＳＢＮ１	978-4384059502
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ⅡＡ １・２クラス			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2018年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-003		
必修・選択	選択必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。
授業概要	この講義は、「文法」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な文法能力を理解しながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの文法問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、文法力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（50%）、中間テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）に基づく総合評価。成績評価の評価対象となるので、単位認定試験と併せて中間テストも必ず受験しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大下 朋子
第２回	１課 時間関係	大下 朋子
第３回	２課 範囲の始まり・限度	大下 朋子
第４回	３課 限定・非限定・付加	大下 朋子
第５回	４課 例示	大下 朋子
第６回	５課 関連・無関係	大下 朋子
第７回	６課 様子	大下 朋子
第８回	【中間テスト】１～６課／中間テストの解説	大下 朋子
第９回	７課 付随行動	大下 朋子
第１０回	８課 逆接	大下 朋子
第１１回	９課 条件	大下 朋子
第１２回	10課 逆接条件	大下 朋子
第１３回	11課 目的・手段	大下 朋子

第１４回	12課 原因・理由	大下 朋子
第１５回	13課　可能・不可能・禁止	大下 朋子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	大下 朋子

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター文法　日本語能力試験Ｎ１	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	友松悦子、福島佐知、中村かおり	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195640
教・書籍名２	日本語パワードリル N1 文字・語彙	教・出版社名2	アスク出版
教・著者名2	松浦 真理子、鈴木 健司	教・ＩＳＢＮ2	978-4872177671
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ⅡB			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／2018年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-004		
必修・選択	選択必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。
授業概要	この講義は、「文法」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な文法能力を理解しながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの文法問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、文法力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（50%）、中間テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）に基づく総合評価。成績評価の評価対象となるので、学期末の筆記試験と併せて中間テストも必ず受験しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大下 朋子
第２回	14課　話題・評価の基準	大下 朋子
第３回	15課　比較対照	大下 朋子
第４回	16課　結末・最終の状態	大下 朋子
第５回	17課　強調	大下 朋子
第６回	18課　主張・断定	大下 朋子
第７回	【中間テスト】14～18課／中間テストの解説	大下 朋子
第８回	19課　評価・感想	大下 朋子
第９回	20課　心情・強制的思い	大下 朋子
第１０回	A　動詞の意味に着目-1	大下 朋子
第１１回	B　動詞の意味に着目-2	大下 朋子
第１２回	C　古い言葉を使った言い方	大下 朋子
第１３回	D「もの・こと・ところ」を使った言い方	大下 朋子

第１４回	E　二つの言葉を組にする言い方	大下 朋子
第１５回	F　助詞・複合助詞	大下 朋子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	大下 朋子

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター文法　日本語能力試験Ｎ１	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	友松悦子、福島佐知、中村かおり	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195640
教・書籍名２	日本語パワードリル N1 文字・語彙	教・出版社名2	アスク出版
教・著者名2	松浦 真理子、鈴木 健司	教・ＩＳＢＮ2	978-4872177671
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩA 再履クラス１			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．６課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第３回	３．６課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第４回	４．７課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第５回	５．７課-２　内容理解（中文）	井上光恵
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光恵
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光恵
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光恵
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光恵
第１０回	１０．８課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１１回	１１．８課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１２回	１２．９課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１３回	１３．９課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１４回	１４．１０課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１５回	１５．１０課−２　内容理解（中ｚ文）	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル日本語能力試験N2文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子・辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＡ １クラス			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1~3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④２年次開講日本語関連科目ＩＩの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	

事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第５回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第６回	統合理解問題 情報理解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第７回	統合理解問題 情報理解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第８回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第９回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第１０回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第１１回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第１２回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第１５回	総括、確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書

教・書籍名１	ドリル＆ドリルＮ２文字・語彙	教・出版社名１	ユニコムUNICOM
教・著者名１	星野恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	日本語総まとめN3　読解	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-766-4
参・書籍名２	日本語総まとめN3　語彙	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ2	978-4-87217-731-2

授業科目名	応用日本語ＩＡ２クラス			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩA、応用日本語ＩA、日本語研究ＩA）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(20%)で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩA・応用日本語ＩA・日本語研究ＩAの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 ２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。

	予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. ２３課　文法１	久保田
第２回	２．２３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	３．２７課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	４．２７課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５．３０課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	６．３０課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７．３３課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	８．３３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９．３６課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	１０．３６課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	１１．３９課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	１２．３９課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	１３．４２課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	１４．４２課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	１５．　総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-507-7
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5
参考書			
参・書籍名１	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク　初級２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	中村　かおり他著	参・ＩＳＢＮ１	978-488-319-7828
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩA 再履２クラス			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修性は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＡを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～3ラスに編成される。履修登録は教務課で一括で登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩA・応用日本語ＩA・日本語研究ＩAの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
	内容理解問題：短文ー単問	

第２回	中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括、確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語　日本語能力試験N2重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N2 読解	参・出版社名１	Jリサーチ出版
参・著者名１	小林ひとみ・桑原里奈・木村理恵	参・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-058-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＡ再履クラス３			担当者				久保田　雅子	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング				GE-LJ-1-005	
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義		
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限				
ディプロマポリシー対応項目									
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎		
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目			
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう								
到達目標	テーマは第二言語としての日本語の「読解力の向上」である。Ｎ３～Ｎ２レベルの読解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることが目標である。								
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスでは主に「読解」中心に学ぶ。教科書で論理的な文章を読み、内容を理解する。プリントでＮ３～Ｎ２レベルの演習問題をやり、文章を通じて筆者の考えを理解したり、パンフレットや説明書等、さまざまな文書を読み、各文書から必要な情報を得る方法を理解する。 中級レベルの読解力が身につくことで事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることができる。								
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）								
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。								
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。								
実務経験のある教員	該当する	内容	留学生の日本語教育						
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題をだす。授業中にその発表を行い、みずから、自分自身の課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ず専用のノートを作成し、復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。予習と復習に２時間以上は必要である。								
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。								

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション （授業の進め方、予習、復習のやりかた　例：第１課）	久保田

第２回	第２課　語彙・本文１、プリント	久保田
第３回	第２課　本文２・文法、プリント	久保田
第４回	第４課　語彙・本文１、プリント	久保田
第５回	第４課　本文２・文法、プリント	久保田
第６回	第６課　語彙・本文１、プリント	久保田
第７回	第６課　本文２・文法、プリント	久保田
第８回	Ｎ２演習問題１	久保田
第９回	Ｎ２演習問題　２	久保田
第１０回	Ｎ２演習問題　３	久保田
第１１回	第８課　語彙・本文１	久保田
第１２回	第８課　本文2・文法	久保田
第１３回	第１０課　語彙・本文１	久保田
第１４回	第１０課　本文2・文法	久保田
第１５回	総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	留学生の日本語　読解編	教・出版社名１	株式会社アルク
教・著者名１	アカデミック・ジャパニーズ研究会	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2631-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	はじめての日本語能力試験Ｎ２ 合格模試	参・出版社名１	株式会社アスク出版
参・著者名１	アスク出版編集部	参・ＩＳＢＮ１	978-4-86639-315-5
参・書籍名２	新完全マスター　読解　N3	参・出版社名2	株式会社　スリーエーネットワーク
参・著者名2	田代　ひろみ・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-888319-671-5

授業科目名	応用日本語ＩA 再履クラス４			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．１課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第３回	３．１課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第４回	４．２課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第５回	５．２課-２　内容理解（中文）	井上光恵
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光恵
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光恵
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光恵
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光恵
第１０回	１０．３課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１１回	１１．３課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１２回	１２．４課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１３回	１３．４課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１４回	１４．５課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１５回	１５．５課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 日本語能力試験N2	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃・本田ゆかり・来栖里美・前坊香菜子・阿保きみ枝・宮田公治	参・ＩＳＢＮ１	9784883195749
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ（1クラス）			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1~3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④２年次開講日本語関連科目ＩＩの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、

の時間	授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括、確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	ドリル＆ドリルＮ２文字・語彙	教・出版社名１	ユニコムUNICOM
教・著者名１	星野恵子・辻　和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語総まとめN3　読解	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-766-4

参・書籍名２	日本語総まとめN3　語彙	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ2	978-4-87217-731-2

授業科目名	応用日本語ＩＢ（2クラス）			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩA、応用日本語ＩA、日本語研究ＩA）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２0%)で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩA・応用日本語ＩA・日本語研究ＩAの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当する　内容　日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 ２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノー

	トへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. ２３課　文法１	久保田
第２回	２．２３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	３．２７課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	４．２７課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５．３０課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	６．３０課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７．３３課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	８．３３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９．３６課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	１０．３６課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	１１．３９課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	１２．３９課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	１３．４２課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	１４．４２課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	１５．　総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-507-7
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク　初級２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	中村　かおり他著	参・ＩＳＢＮ１	978-488-319-7828
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ再履クラス１			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．６課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第３回	３．６課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第４回	４．７課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第５回	５．７課-２　内容理解（中文）	井上光恵
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光恵
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光恵
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光恵
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光恵
第１０回	１０．８課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１１回	１１．８課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１２回	１２．９課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１３回	１３．９課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１４回	１４．１０課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１５回	１５．１０課−２　内容理解（中ｚ文）	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル日本語能力試験N2文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子・辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ再履クラス２			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修性は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人と同様に外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、休憩時間、教室にて。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問	小西真弓

	文字・語彙：漢字読み、表記	
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括・確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語　日本語能力試験N2重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N2 読解	参・出版社名１	Jリサーチ出版
参・著者名１	小林ひとみ・桑原里奈・木村理恵	参・ＩＳＢＮ１	9784863920583
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ再履クラス３			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマは第二言語としての日本語の「読解力の向上」である。Ｎ３～Ｎ２レベルの読解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることが目標である。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスでは主に「読解」中心に学ぶ。教科書で論理的な文章を読み、内容を理解する。プリントでＮ３～Ｎ２レベルの演習問題をやり、文章を通じて筆者の考えを理解したり、パンフレットや説明書等、さまざまな文書を読み、各文書から必要な情報を得る方法を理解する。 中級レベルの読解力が身につくことで事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることができる。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：留学生の日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題をだす。授業中にその発表を行い、みずから、自分自身の課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ず専用のノートを作成し、復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。

授業計画		担当者
	オリエンテーション	

第１回	（授業の進め方、予習、復習のやりかた　例：第１課）	久保田
第２回	第1課　語彙・本文１-2、プリント	久保田
第３回	第3課　本文２・文法、プリント	久保田
第４回	第3課　語彙・本文１、プリント	久保田
第５回	第5課　本文２・文法、プリント	久保田
第６回	第5課　語彙・本文１、プリント	久保田
第７回	第7課　本文２・文法、プリント	久保田
第８回	第7課、Ｎ２演習問題１	久保田
第９回	Ｎ２演習問題　２	久保田
第１０回	Ｎ２演習問題　３	久保田
第１１回	第9課　語彙・本文１	久保田
第１２回	第9課　本文2・文法	久保田
第１３回	第11課　語彙・本文１	久保田
第１４回	第11課　本文2・文法	久保田
第１５回	第13課、総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	留学生の日本語　読解編	教・出版社名１	株式会社アルク
教・著者名１	アカデミック・ジャパニーズ研究会	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2631-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	はじめての日本語能力試験Ｎ２ 合格模試	参・出版社名１	株式会社アスク出版
参・著者名１	アスク出版編集部	参・ＩＳＢＮ１	978-4-86639-315-5
参・書籍名２	新完全マスター　読解　N3	参・出版社名2	株式会社　スリーエーネットワーク
参・著者名2	田代　ひろみ・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-888319-671-5

授業科目名	応用日本語ＩＢ 再履クラス４			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．１課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第３回	３．１課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第４回	４．２課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第５回	５．２課-２　内容理解（中文）	井上光恵
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光恵
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光恵
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光恵
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光恵
第１０回	１０．３課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１１回	１１．３課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１２回	１２．４課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１３回	１３．４課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１４回	１４．５課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１５回	１５．５課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 日本語能力試験N2	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃・本田ゆかり・来栖里美・前坊香菜子・阿保きみ枝・宮田公治	参・ＩＳＢＮ１	9784883195749
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ⅡA			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／2018年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-007		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。
授業概要	この講義は、「読解」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な読解力をつけしながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの読解問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、読解力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓

第６回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括・確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N1　読解	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	菊池富美子・黒石しづ可・日置陽子・竹田慎吾	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-075-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター単語Ｎ２重要２２００	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	小谷野美穂・森田亮子　他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
参・書籍名２	速攻トレーニング読解編	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	加藤早苗・沼田宏・他	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7574-1990-2

授業科目名	応用日本語ⅡB			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／2018年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-008		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする.。
授業概要	この講義は、「読解」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な読解力をつけながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの読解問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、読解力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓

第６回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括・確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N1　読解	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	菊池富美子・黒石しづ可・日置陽子・竹田慎吾	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-075-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター単語Ｎ２重要２２００	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
参・書籍名２	速攻トレーニング読解編	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	加藤早苗・沼田宏	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7574-1990-2

授業科目名	日本語研究ＩA 再履クラス１			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにし、そのうえで、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力を身につけていく。そのことが本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解を深め、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力獲得を目指している。日本語を聞いて理解するには、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。 ２年生以上の再履修生は、Ｎ２の合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で 　一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩA/日本語ＩA（文法）、応用日本語ＩA/日本語ＩA（読解）、日本語研究ＩA/日本語ＩA（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。

	授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、文法、文字・語彙確認演習	磯
第２回	聴解テキスト学習　課題理解①	磯
第３回	聴解テキスト学習　課題理解②　文字・語彙演習①	磯
第４回	聴解テキスト学習　ポイント理解①	磯
第５回	聴解テキスト学習　ポイント理解②　文字・語彙演習②	磯
第６回	聴解テキスト学習　概要理解①	磯
第７回	聴解テキスト学習　概要理解②　文字・語彙演習③	磯
第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯
第９回	第２回～第７回授業内容総括演習の解説、復習演習	磯
第１０回	聴解テキスト学習　即時応答①　文字・語彙演習④	磯
第１１回	聴解テキスト学習　即時応答②	磯
第１２回	聴解テキスト学習　即時応答③　文字・語彙演習⑤	磯
第１３回	聴解テキスト学習　概要理解①	磯
第１４回	聴解テキスト学習　概要理解②　文字・語彙演習⑥	磯
第１５回	聴解テキスト学習　第１回、第２回模擬試験問題	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　Ｎ２聴解　スピードマスター	教・出版社名１	Ｊリサーチ出版
教・著者名１	棚橋明美、杉山ますよ、野原ゆかり	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-057-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＡ ２クラス			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＢ、応用日本語ＩＢ、日本語研究ＩＢ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２０％)で評価する。この授業では、基礎の文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～3クラスに編成される。 ②日本語Ｉ・応用日本語Ｉ・日本語研究Ｉの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。(社会情勢に応じてＪＬＰＴの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。) ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することもできる。
実務経験のある教員	該当する　内容：日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間

授業計画	担当者

第１回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第２４課　文法１	久保田
第２回	2. 第２４課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	3. 第２７課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	4. 第２７課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５. 第30課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	6. 第30課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７. 第33課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	8. 第33課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９. 第３６課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	10. 第３６課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	10. 第３９課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	12. 第３９課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	13. 第41課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	14. 第41課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195077
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＡ １クラス			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目ⅡⅡを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目ⅡⅡを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目ⅡⅡの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光恵
第３回	３．第１章（準備）-２　会話表現	井上光恵
第４回	４．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光恵
第５回	５．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光恵
第６回	６．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光恵
第７回	７．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光恵
第８回	８．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光恵
第９回	９．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光恵
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光恵
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光恵
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光恵
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光恵
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光恵
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ2	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩA 再履クラス２			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目ⅡⅡを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光恵
第３回	３．第１章（準備）-２　会話表現	井上光恵
第４回	４．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光恵
第５回	５．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光恵
第６回	６．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光恵
第７回	７．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光恵
第８回	８．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光恵
第９回	９．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光恵
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光恵
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光恵
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光恵
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光恵
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光恵
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ2	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩA 再履クラス３			担当者				雲津　英子
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング				GE-LJ-1-009
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「聴解 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。聴解と併せて、言語知識（文字・語彙・文法など）も取り上げ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩA・応用日本語ＩA・日本語研究ＩAの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	雲津 英子
第２回	基礎編１～４	雲津 英子
第３回	基礎編５～７	雲津 英子
第４回	課題理解１～４	雲津 英子

第５回	Ｎ２対策問題（聴解）	雲津 英子
第６回	Ｎ２対策問題（聴解）の解説	雲津 英子
第７回	課題理解５～９	雲津 英子
第８回	課題理解10～13	雲津 英子
第９回	ポイント理解14～16	雲津 英子
第１０回	ポイント理解17～20	雲津 英子
第１１回	概要理解21～24	雲津 英子
第１２回	概要理解25～28	雲津 英子
第１３回	即時応答29～46	雲津 英子
第１４回	統合理解47～49	雲津 英子
第１５回	統合理解50～52	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（聴解・筆記試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験Ｎ２聴解 必修パターン	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	氏原 庸子　清島 千春　佐伯 玲子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-360-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策 日本語パワードリル N2文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子　鈴木 健司	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩA 再履クラス４			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスは主に「聴解」を学ぶ。Ｎ３～Ｎ２レベルの聴解問題の出題の傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら実践力を身につける。「聴解の教材」は生活の場面で、ひとりでも対応できる能力を身につけられるような内容を取り入れる。 第二、第三の言語としての日本語をより早く習得するために考察を自ら積極的に行い、他の学生と共有できるコミュニケーション能力を身につけられるよう参加型授業を行う。 また中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになることが目標である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＡを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩA・応用日本語ＩA・日本語研究ＩAの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑤聴解の教材では、参考図書及びプリントを利用する。プリントを配布するので、初回から専用のファイル、ノートは持参すること。副教材については、３人の先生と共有して進める。これについても毎回持ってくること。 ⑥理由なく欠席が続く場合や、指示した課題を提出しない場合は受講を認めない場合があるので注意してほしい。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。
実務経験のある教員	該当する　内容：留学生への日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	1) 語彙については毎回指定した範囲の小テストを行うので、その課の語彙を自主学習してくること。また定着できるような方法を考え、やってくること。授業でも取り上げるので、それぞれのアイデアを発表できるように準備して授業にのぞむこと。

	2) 聴解の学習方法については、授業でやり方を説明する。おもに発表する形で確認を行うが、短時間でも必ず練習してみること。 予習と復習におよそ２時間以上が望ましいが、時間が見つけて短時間でもやることが当面の目標である。授業前の時間など、活用できる時間を考えてみること。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. プリントの説明	久保田
第２回	1-1：イントネーションの違いを知る	久保田
第３回	1-2：はっきり言わない言い方	久保田
第４回	1-3：感謝・迷惑などの表現を知る	久保田
第５回	1-4：量や時間の印象を知る	久保田
第６回	1-5：予想・伝聞の表現を知る	久保田
第７回	1-6：意見を聞き取るときのキーワードを知る	久保田
第８回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ１	久保田
第９回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ２	久保田
第１０回	2-2: 次に何をするべきかを聴き取るコツ１	久保田
第１１回	2-２: 次に何をするべきかを聴き取るコツ２	久保田
第１２回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ１	久保田
第１３回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ２	久保田
第１４回	2-4：さまざまな情報を集めて理解するコツ１	久保田
第１５回	2-4 ：さまざまな情報を集めて理解するコツ2・総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	新完全マスター語彙N2	教・出版社名2	スリーエーネットワーク
教・著者名2	伊能 裕晃	教・ＩＳＢＮ2	978-4883195749
参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策　日本総まとめＮ２　聴解	参・出版社名１	978-4-87217-792-3
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	アスク出版
参・書籍名２	短期マスター聴解ドリル２	参・出版社名2	凡人社
参・著者名2	浅野陽子・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-89358-857-9

授業科目名	日本語研究ＩＢ（1クラス）			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目ⅡⅡを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目ⅡⅡを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目ⅡⅡの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光恵
第３回	３．第１章（準備）-２　会話表現	井上光恵
第４回	４．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光恵
第５回	５．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光恵
第６回	６．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光恵
第７回	７．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光恵
第８回	８．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光恵
第９回	９．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光恵
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光恵
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光恵
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光恵
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光恵
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光恵
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ（2クラス）			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＢ、応用日本語ＩＢ、日本語研究ＩＢ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２０％)で評価する。この授業では、基礎の文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～3クラスに編成される。 ②日本語Ｉ・応用日本語Ｉ・日本語研究Ｉの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。(社会情勢に応じてＪＬＰＴの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。) ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することもできる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第２４課　文法１	久保田
第２回	2. 第２４課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	3. 第２７課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	4. 第２７課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５. 第30課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	6. 第30課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７. 第33課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	8. 第33課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９. 第３６課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	10. 第３６課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	10. 第３９課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	12. 第３９課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	13. 第41課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	14. 第41課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195077
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ再履クラス１			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにし、そのうえで、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力を身につけていく。そのことが本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解を深め、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力獲得を目指している。日本語を聞いて理解するには、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。 ２年生以上の再履修生は、Ｎ２の合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で 　一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＢ/日本語ＩＢ（文法）、応用日本語ＩＢ/日本語ＩＢ（読解）、日本語研究ＩＢ/日本語ＩＢ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とそ	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整

の時間	理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、文法、文字・語彙確認演習	磯
第２回	文法確認演習、聴解テキスト学習　第１章１	磯
第３回	聴解テキスト学習　第１章２，３	磯
第４回	聴解テキスト学習　第１章４，５	磯
第５回	聴解テキスト学習　第２章１，２	磯
第６回	聴解テキスト学習　第２章３，４	磯
第７回	聴解テキスト学習　第２章５，６，７	磯
第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯
第９回	第２回～第７回授業内容総括演習の解説、復習演習	磯
第１０回	聴解テキスト学習　第３章１，２	磯
第１１回	聴解テキスト学習　第３章３，４	磯
第１２回	聴解テキスト学習　第３章５　第４章１	磯
第１３回	聴解テキスト学習　第４章２，３	磯
第１４回	聴解テキスト学習　第４章４，５	磯
第１５回	聴解テキスト学習　第５章	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験　日本語総まとめＮ２　聴解	教・出版社名１	アスク出版
教・著者名１	佐々木仁子、松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ再履クラス２			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目ＩＩを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目ＩＩの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光恵
第３回	３．第１章（準備）-２　会話表現	井上光恵
第４回	４．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光恵
第５回	５．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光恵
第６回	６．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光恵
第７回	７．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光恵
第８回	８．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光恵
第９回	９．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光恵
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光恵
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光恵
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光恵
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光恵
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光恵
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	

参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ再履クラス３			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「聴解 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。聴解と併せて、言語知識（文字・語彙・文法など）も取り上げ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	雲津 英子
第２回	基礎編１～４	雲津 英子
第３回	基礎編５～７	雲津 英子

第４回	課題理解１～４	雲津 英子
第５回	Ｎ２対策問題（聴解）	雲津 英子
第６回	Ｎ２対策問題（聴解）の解説	雲津 英子
第７回	課題理解５～９	雲津 英子
第８回	課題理解10～13	雲津 英子
第９回	ポイント理解14～16	雲津 英子
第１０回	ポイント理解17～20	雲津 英子
第１１回	概要理解21～24	雲津 英子
第１２回	概要理解25～28	雲津 英子
第１３回	即時応答29～46	雲津 英子
第１４回	統合理解47～49	雲津 英子
第１５回	統合理解50～52	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（聴解・筆記試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験Ｎ２聴解 必修パターン	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	氏原 庸子　清島 千春　佐伯 玲子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-360-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策 日本語パワードリル N2文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子　鈴木 健司	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ 再履クラス４			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスは主に「聴解」を学ぶ。Ｎ３～Ｎ２レベルの聴解問題の出題の傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら実践力を身につける。「聴解の教材」は生活の場面で、ひとりでも対応できる能力を身につけられるような内容を取り入れる。 第二、第三の言語としての日本語をより早く習得するために考察を自ら積極的に行い、他の学生と共有できるコミュニケーション能力を身につけられるよう参加型授業を行う。 また中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになることが目標である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑤聴解の教材では、参考図書及びプリントを利用する。プリントを配布するので、初回から専用のファイル、ノートは持参すること。副教材については、３人の先生と共有して進める。これについても毎回持ってくること。 ⑥理由なく欠席が続く場合や、指示した課題を提出しない場合は受講を認めない場合があるので注意してほしい。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：留学生への日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	1) 語彙については毎回指定した範囲の小テストを行うので、その課の語彙を自主学習してくること。また定着できるような方法を考え、やってくること。授業でも取り上げるので、それぞれのアイデアを発表できるように準備し

	て授業にのぞむこと。 2) 聴解の学習方法については、授業でやり方を説明する。おもに発表する形で確認を行うが、短時間でも必ず練習してみること。 予習と復習におよそ２時間以上が望ましいが、時間が見つけて短時間でもやることが当面の目標である。授業前の時間など、活用できる時間を考えてみること。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. プリントの説明	久保田
第２回	1-1：イントネーションの違いを知る	久保田
第３回	1-2：はっきり言わない言い方	久保田
第４回	1-3：感謝・迷惑などの表現を知る	久保田
第５回	1-4：量や時間の印象を知る	久保田
第６回	1-5：予想・伝聞の表現を知る	久保田
第７回	1-6：意見を聞き取るときのキーワードを知る	久保田
第８回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ１	久保田
第９回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ２	久保田
第１０回	2-2: 次に何をするべきかを聴き取るコツ１	久保田
第１１回	2-2 : 次に何をするべきかを聴き取るコツ２	久保田
第１２回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ１	久保田
第１３回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ２	久保田
第１４回	2-4：さまざまな情報を集めて理解するコツ１	久保田
第１５回	2-4 ：さまざまな情報を集めて理解するコツ2・総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	新完全マスター語彙N2	教・出版社名2	スリーエーネットワーク
教・著者名2	伊能 裕晃	教・ＩＳＢＮ2	978-4883195749
参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策　日本総まとめＮ２　聴解	参・出版社名１	978-4-87217-792-3
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	アスク出版
参・書籍名２	短期マスター聴解ドリル２	参・出版社名2	凡人社
参・著者名2	浅野陽子・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-89358-857-9

授業科目名	日本語研究ⅡＡ １・２クラス			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2018年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-011		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力を身につけていく。それにとどまらず、「読む」「書く」「話す」能力の向上もめざす。総合的な日本語力の向上は、本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解が深化し、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力獲得を目指している。そのためには日本語を反復して聞いて、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていき、充実した学生生活を送れるようにする。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	日本語能力試験Ｎ２合格が条件である。 Ｎ２を取得していない学生は履修することはできない。 Ｎ２レベルに満足するのでなく、さらにＮ１レベルを目指して意欲的に受講してもらいたい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	高いレベルの日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、Ｎ３、Ｎ２レベル文法、文字・語彙確認演習	磯
第２回	聴解テキスト学習　課題理解①　練習問題１～５	磯
第３回	聴解テキスト学習　課題理解②　練習問題６～12　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習①	磯
第４回	聴解テキスト学習　ポイント理解①　練習問題１～６	磯
第５回	聴解テキスト学習　ポイント理解②　練習問題７～14　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習②	磯
第６回	聴解テキスト学習　概要理解①　練習問題１～６	磯
第７回	聴解テキスト学習　概要理解②　練習問題７～12　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習③	磯

第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯
第９回	第２回～第７回授業内容総括演習解説、補充演習	磯
第１０回	聴解テキスト学習　即時応答①　敬語表現、文末否定、慣用表現	磯
第１１回	聴解テキスト学習　即時応答②　練習問題１～８　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習④	磯
第１２回	聴解テキスト学習　即時応答③　練習問題９～20　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑤	磯
第１３回	聴解テキスト学習　即時応答④　練習問題21～30　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑥	磯
第１４回	聴解テキスト学習　統合理解①　統合理解とは　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑦	磯
第１５回	聴解テキスト学習　統合理解②　練習問題１～６	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	絶対合格！日本語能力試験　徹底トレーニングＮ１　聴解	教・出版社名１	アスク出版
教・著者名１	松岡龍美	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-776-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ⅡB			担当者				磯　永二
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／2018年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング				GE-LJ-2-012
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習	
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力を身につけていく。それにとどまらず、「読む」「書く」「話す」能力の向上もめざす。総合的な日本語力の向上は、本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解が深化し、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力獲得を目指している。そのためには日本語を反復して聞いて、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていき、充実した学生生活を送れるようにする。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	日本語能力試験Ｎ２合格が条件である。 Ｎ２を取得していない学生は履修することはできない。 Ｎ２レベルに満足するのでなく、さらにＮ１レベルを目指して意欲的に受講してもらいたい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	高いレベルの日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習には２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、Ｎ３、Ｎ２レベル文法確認演習	磯
第２回	Ｎ３、Ｎ２レベル文字・語彙確認演習　　聴解テキスト学習①　第１章１	磯
第３回	聴解テキスト学習②　第１章２，３	磯
第４回	聴解テキスト学習③　第１章４，５　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習①	磯
第５回	聴解テキスト学習④　第２章１，２　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習②	磯
第６回	聴解テキスト学習⑤　第２章３，４　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習③	磯
第７回	聴解テキスト学習⑥　第２章5，６，７	磯

第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯
第９回	第２回～第７回授業内容総括演習解説、補充演習	磯
第１０回	聴解テキスト学習⑦　第３章１，２　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習④	磯
第１１回	聴解テキスト学習⑧　第３章３，４　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑤	磯
第１２回	聴解テキスト学習⑨　第３章５　第４章１　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑤	磯
第１３回	聴解テキスト学習⑩　第４章２，３　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑦	磯
第１４回	聴解テキスト学習⑪　第４章４，５　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑧	磯
第１５回	聴解テキスト学習⑫　第５章　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑨	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験対策　日本語総まとめＮ１　聴解	教・出版社名１	アスク出版
教・著者名１	佐々木仁子、松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-791-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	文章表現入門			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-CH-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。 大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受検に対しての指導も行う。
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の６つ領域で構成している。 学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一歩一歩着実に高めていくことができる。 毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、授業態度（15%）、小テスト・復習テスト（15%）によって総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のＮ２（２級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受検を目標にして学修に取り組むことが望ましい。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	「日本語検定３級」に挑戦	雲津 英子
第２回	はじめに	雲津 英子

第３回	敬語の種類と使い分け	雲津 英子
第４回	注意すべき敬語	雲津 英子
第５回	配慮を示す言葉	雲津 英子
第６回	品詞・活用の種類	雲津 英子
第７回	ら抜き言葉・さ入れ言葉	雲津 英子
第８回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文	雲津 英子
第９回	接続後・指示語と文章	雲津 英子
第１０回	類義語・対義語	雲津 英子
第１１回	動詞の自他・視点	雲津 英子
第１２回	文体、話し言葉・書き言葉	雲津 英子
第１３回	コロケーション	雲津 英子
第１４回	部首・音訓・熟語	雲津 英子
第１５回	仮名遣い・送り仮名	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	スキルアップ！ 日本語力ー大学生のための日本語練習帳ー	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	名古屋大学日本語研究会ＧＫ７	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-80364-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	文章表現入門			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-CH-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。 大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受検に対しての指導も行う。
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の６つ領域で構成している。 学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一歩一歩着実に高めていくことができる。 毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、授業態度（15%）、小テスト・復習テスト（15%）によって総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のＮ２（２級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受検を目標にして学修に取り組むことが望ましい。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	「日本語検定３級」に挑戦	雲津 英子
第２回	はじめに	雲津 英子

第３回	敬語の種類と使い分け	雲津 英子
第４回	注意すべき敬語	雲津 英子
第５回	配慮を示す言葉	雲津 英子
第６回	品詞・活用の種類	雲津 英子
第７回	ら抜き言葉・さ入れ言葉	雲津 英子
第８回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文	雲津 英子
第９回	接続後・指示語と文章	雲津 英子
第１０回	類義語・対義語	雲津 英子
第１１回	動詞の自他・視点	雲津 英子
第１２回	文体、話し言葉・書き言葉	雲津 英子
第１３回	コロケーション	雲津 英子
第１４回	部首・音訓・熟語	雲津 英子
第１５回	仮名遣い・送り仮名	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	スキルアップ！ 日本語力ー大学生のための日本語練習帳ー	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	名古屋大学日本語研究会ＧＫ７	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-80364-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	文学への招待			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-CH-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	本講義のテーマは、詩・俳句・短歌・小説等の文学作品を読み鑑賞することを通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、学生が自分自身の生き方を多様で豊かなものにしていくことである。 学生が、その過程において、文学に使われている語彙や巧みな言語表現、文学作品にみられる豊かな構想力を自己のものにし、自己の言語表現能力の向上をめざすとともに、文学作品の鑑賞を通して自分自身の生き方を豊かなものにしようとする態度を身につけることを到達目標とする。
授業概要	詩・俳句・短歌・小説等の文学作品について、それぞれの作者や作品を生み出した歴史的背景、あるいは文化的背景に触れ、文学の発達のあらましやそれぞれの時代における文学の特質を学ぶ。また、文学作品を読み、印象に残った作家や作品について調べ発表したり、討論を行う。このような学修活動を通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、自分自身の生き方を豊かなものにするとともに、文学作品を読み、鑑賞することの意義を理解する。さらに、学生の図書館活用能力の向上のため、図書館の活用方法についての学修を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	レポート試験・受講態度などによって総合的に評価する。 レポート試験（70%）、発表・討論への参加（15%）、受講態度（15%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題（提出物・レポート）は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、ファイルを用意すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，大学図書館職員としての実務経験を持つ教員が，その経験を活かし，図書館の利用方法など，学生の読書活動，論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	大学図書館・県立図書館・市立図書館などで本を借りて、自宅においても積極的に読書をし、講義に臨むこと。 復習を行い、講義内容を十分に理解した上で、次回の講義を受講すること。予習および復習は、各2時間程度行うこと。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	文学とはなにか	雲津 英子
第２回	図書館活用方法の理解	雲津 英子
第３回	図書館活用の実践	雲津 英子

第４回	日本文学史（１）-上代文学	雲津 英子
第５回	日本文学史（２）-中古文学	雲津 英子
第６回	日本文学史（３）-中世文学	雲津 英子
第７回	日本文学史（４）-近世文学	雲津 英子
第８回	日本文学史（５）-近代文学	雲津 英子
第９回	日本文学史（６）-現代文学	雲津 英子
第１０回	夏目漱石・森鴎外・泉鏡花の作品（討論）	雲津 英子
第１１回	芥川龍之介の作品（討論）	雲津 英子
第１２回	宮沢賢治の作品（討論）	雲津 英子
第１３回	小林多喜二・太宰治の作品	雲津 英子
第１４回	詩・俳句・短歌（討論）	雲津 英子
第１５回	まとめ	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（レポート試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	日本文学概論	参・出版社名１	財団法人　放送大学教育振興会
参・著者名１	島内裕子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-595-31342-4
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	美術の見方			担当者	前嶋　英輝		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-CH-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	学生は、「自分なりの美術の見方を確立する」ことをテーマとして、美術作品について広い知識を持ち、自分の言葉で語ることができる能力を身につける。美術作品の「見方」の２つの可能性を考えてみる。１つめは、美術作品について客観的に知識として学習する見方であり、２つ目は、主観的に興味を持ち疑問を投げかけてみるような見方である。前者にはある程度の答えがあり、後者には答えは無い。この授業では、２つの見方を組み合わせて対話型鑑賞を行う。学生は、美術の見方を考えることで、自分の美術の見方ができるようになることを到達目標とする。
授業概要	毎回映像資料による対話型鑑賞を行う。毎回、先行研究として示されている各時代の作品の属性や意味、時代背景などについて学問的な検討を行う。　鑑賞の仕方を学ぶことが目的であるから、とにかく多くの美術作品にふれ、授業で紹介される作品について、自分なりに調べてみることが大切である。自分で考えた疑問などについて、授業内の対話や毎回の小レポートの中で深める事が大切である。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	この科目では、芸術について理解し自分の視点で鑑賞できる能力を身につけることを目的としていることから、発言を含む毎回のレポート（６0点）、 到達目標達成度を見る期末試験（40%）の割合によって評価を行う。詳しい評価内容については、最初の授業で説明する。課題については、評価すると同時に、結果を伝えながら指導を行い、フィードバックして学習の積み重ねの資料とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の小レポートについては、代表的なものを次回取り挙げてコメントしディスカッションの題材とすることでフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	事前に次回の授業内容を指示するので、美術作品について興味を持ち検索などで予習を行うことが必要である。また積極的に討論に参加するためにノートなどをもとに復習を行うことが重要である。対話型鑑賞では、自分の視点で意見を述べることが重要である。できれば自主的に美術館を訪れることを薦める。期末試験では、到達目標の理解度を見るため十分な復習が必 要である。 初回の授業で芸術作品についての調べ方や授業の進め方について詳しく説明する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。 中学校・高等学校での美術科教員および短期大学での美術担当教員、全国公募展審査員、彫刻家
事前学習・事後学習とそ	美術に関する書籍やネットの情報を参照し、授業のテーマに沿った内容について予習復習をおこなう。美術館など

の時間	に鑑賞に出かけることも重要である。　1コマ毎の授業に予習 2 時間、復習 2 時間が必要である。
オフィスアワー	2 号館 6 階の前嶋研究室において、毎週月曜日 5 時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第 1 回	対話型鑑賞と美術の見方	前嶋英輝
第 2 回	世界の美術館散歩	前嶋英輝
第 3 回	美術教育と人間形成・現代美術	前嶋英輝
第 4 回	古代オリエント	前嶋英輝
第 5 回	ギリシャ・ローマ・中世	前嶋英輝
第 6 回	ルネサンス・バロック・ロココ	前嶋英輝
第 7 回	新古典主義・印象派	前嶋英輝
第 8 回	後期印象派以降・セザンヌとキュービズム	前嶋英輝
第 9 回	インド美術とイスラム美術・東南アジアの美術	前嶋英輝
第 1 0 回	仏教美術の誕生とシルクロードの美術	前嶋英輝
第 1 1 回	飛鳥～平安・韓国美術の影響	前嶋英輝
第 1 2 回	鎌倉～室町・仏教彫刻・絵巻物・水墨画	前嶋英輝
第 1 3 回	安土桃山・障屏画	前嶋英輝
第 1 4 回	江戸・浮世絵・町人の美術	前嶋英輝
第 1 5 回	明治以降の美術・西洋美術の影響	前嶋英輝
第 1 6 回	単位認定試験	前嶋英輝

教科書			
教・書籍名 1	適宜プリントなどを配布する。予習復習も配布プリントによって行う。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ＩＳＢＮ 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名 1	テキスト名：絵画をいかに味わうか	参・出版社名 1	平凡社
参・著者名 1	著者：ヴィクトル・I・ストイキツァ	参・ＩＳＢＮ 1	978-4582206371
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生涯スポーツ論 経社・心理・子ども・アニメ			担当者	羽野　真哉		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-CH-0-005		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：年齢に応じたスポーツとの関わり方について理解する。 到達目標：学生が年齢に応じた「スポーツ」に参加することの意味を理解し、グループワークやディスカッションすることによって自らの言葉で伝えられるようになる。
授業概要	少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味は多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。具体的には、①生涯スポーツの概念や歴史、現状についての基礎的理解、②幼少年のスポーツ、新しいスポーツ、地域総合型スポーツクラブの現状と課題、スポーツと環境問題、スポーツ少年団の将来像について取り上げる。 これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通したスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。 なお、本演習は学校教員（保健体育）の実務経験者が担当し、学校現場の実態などを踏まえた討議などを行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	定期試験とレポートおよび授業態度にて評価する。定期試験を５０％とし、レポートの記述内容30％、授業での積極的発言など授業態度を２０％とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内に行う課題については、授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	授業内で配布される資料は各自でファイルにまとめ予習復習を行うこと。 授業内容を自分なりの考察も含めノートにまとめること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、本学硬式野球部で監督経験を持つ教員が、その経験を活かし、指導現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように、テキストの指定されたページをまとめるなど予習してくること。また、配布した資料や、講義内容を踏まえて学期末の定期試験を出題するので、授業終了後にノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習復習についてはそれぞれ2時間程度行うこと。
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室において、毎週金曜日２時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	スポーツ本来の姿	羽野
第２回	スポーツ観の返還	羽野
第３回	スポーツする身体	羽野

第４回	運動・スポーツとメンタルヘルス		羽野
第５回	スポーツの技術		羽野
第６回	体力について		羽野
第７回	心とスポーツ		羽野
第８回	発育・発達とスポーツ		羽野
第９回	現代社会とスポーツ		羽野
第１０回	スポーツの上達法		羽野
第１１回	健康のためのスポーツ		羽野
第１２回	スポーツと教育		羽野
第１３回	スポーツと経済		羽野
第１４回	スポーツ動作の分析		羽野
第１５回	競技スポーツと生涯スポーツ		羽野
第１６回	試験		筆記試験
教科書			
教・書籍名１	生涯スポーツの理論と実際	教・出版社名１	大修館書店
教・著者名１	日下 裕弘（著), 加納 弘二（著）	教・ＩＳＢＮ１	978-4469266986
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	生涯スポーツ実践論	参・出版社名１	市村出版
参・著者名１	野川春夫 (著), 川西正志 (著)	参・ＩＳＢＮ１	978-4902109290
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	生涯スポーツ実習 （アニメ・心理・経社）			担当者	天岡　寛		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-CH-0-006		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	学生は実習通して、スポーツの楽しさを理解し、好きになってもらう。スポーツの楽しさである、人と関わる楽しさ、極める楽しさ、協力する楽しさ、創意工夫する楽しさ、考える楽しさ、勝敗の楽しさを理解することができる。 近年、社会環境の変化による、外遊びの減少、運動経験不足、基礎運動能力の低下が挙げられる。自分自身の体を自由自在に動かすことができるように、全身のコーディネーションと体幹の安定化を高める事ができる。全身持久力を高める事ができるようにボールを使った球技の中で、たくさんのボールにさわり、たくさんプレーすることによって高めることができる。 ☒
授業概要	球技（バスケットボール、フットサル、卓球、バトミントン）を通してルールを守り、仲間と助けあうことを体感する。 気軽にできる体幹トレーニングにより、基礎筋力、全身コーディネーションを高める。 ストレッチを学び、怪我予防を学ぶことができる。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	受講態度（50%）及び理解度（50%） 全力で取り組み、技術習得に努めてたか。 仲間と協力して、目的にむかってプレーしているか。 授業のマナー・ルールを守っているか。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために競技のルール等は、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	体育館シューズを準備。 運動できる服装の準備（ジーンズ等は認めない） 水分（水、スポーツ飲料、お茶）の準備 競技に関する競技規則等について、復習及び指示された予習を行うこと.
実務経験のある教員	該当する　内容：健康運動指導士
事前学習・事後学習とその時間	日ごろからスポーツや健康に興味関心を持つこと.
オフィスアワー	水曜日4時限目　9号館4階研究室

授業計画	担当者

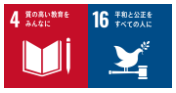
第１回	オリエンテーション	天岡
第２回	卓球	天岡
第３回	卓球	天岡
第４回	バスケットボール	天岡
第５回	バスケットボール	天岡
第６回	フットサル	天岡
第７回	フットサル	天岡
第８回	バトミントン	天岡
第９回	バトミントン	天岡
第１０回	器具を使用しての筋力トレーニング	天岡
第１１回	器具を使用しての筋力トレーニング　2	天岡
第１２回	自体重でできる筋力トレーニング	天岡
第１３回	自体重でできる筋力トレーニング　2	天岡
第１４回	フットサル　ゲーム１	天岡
第１５回	フットサル　ゲーム２	天岡
第１６回	単位認定試験	天岡

教科書			
教・書籍名１	実習科目につき教科書は使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	適宜指示する.	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	哲学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-GA-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。
オフィスアワー	月曜５限257研究室

授業計画		担当者
第１回	1.「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり	山本
第２回	初期の「哲学者」たち	山本
第３回	エレア派とその影響	山本
第４回	ソクラテスとその影響	山本
第５回	プラトン	山本
第６回	アリストテレスの哲学	山本
第７回	アリストテレスの第一哲学	山本
第８回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況	山本
第９回	西欧文明の成立	山本
	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革	

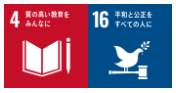
第１０回		山本
第１１回	ルネサンスと科学革命	山本
第１２回	科学革命と政治哲学	山本
第１３回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本
第１４回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名１	岩波新書
参・著者名１	熊野純彦	参・ＩＳＢＮ１	9784004310075
参・書籍名２	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	哲学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-GA-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。
オフィスアワー	月曜５限257研究室

授業計画		担当者
第１回	1.「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり	山本
第２回	初期の「哲学者」たち	山本
第３回	エレア派とその影響	山本
第４回	ソクラテスとその影響	山本
第５回	プラトン	山本
第６回	アリストテレスの哲学	山本
第７回	アリストテレスの第一哲学	山本
第８回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況	山本
第９回	西欧文明の成立	山本
	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革	

第１０回		山本
第１１回	ルネサンスと科学革命	山本
第１２回	科学革命と政治哲学	山本
第１３回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本
第１４回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名１	岩波新書
参・著者名１	熊野純彦	参・ＩＳＢＮ１	9784004310075
参・書籍名２	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	宗教学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-GA-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマは「世界宗教史」である。学生は講義を通じて、現生人類の誕生から新石器時代、文明の誕生を経て、ユーラシア西部や日本にどのような宗教が存在してきたか、そしてそれらが現代の我々にどのような影響を及ぼしているのかを知る。このことを通じ学生は、世界の多様な文化を理解することができる。これが到達目標である。
授業概要	後期旧石器時代・中石器時代・新石器時代・古代諸文明(メソポタミア、エジプト、カナアン、ギリシャなど)という段階を経て一神教(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)の成立までの流れを追い、そしてそれらの一神教の展開を概観する。これは主としてユーラシア大陸西半部の歴史上の諸宗教の紹介という形をとるが、文字資料のみならず画像などの視覚的情報を多用して、縁遠い時空に生きた人々の精神世界への理解を促したい。また、日本の宗教という話題にも、世界史的観点から言及する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	評価方法 小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	地理歴史の基礎知識。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。これを次回授業で確認する。
オフィスアワー	月曜5限257研究室

授業計画		担当者
第１回	人類史と宗教：旧石器時代から新石器時代へ	山本
第２回	日本の縄文時代、弥生時代、古墳時代の宗教	山本
第３回	文明誕生：メソポタミア	山本
第４回	エジプト文明	山本
第５回	古代ギリシャ文明	山本
第６回	ユダヤ教の成立	山本
第７回	ヘレニズム期の宗教	山本
第８回	キリスト教の成立と展開	山本
第９回	ローマカトリック	山本
第１０回	初期のイスラーム	山本

第１１回	宗教改革とその後	山本
第１２回	日本宗教史：古代・中世・近世	山本
第１３回	現代日本の宗教事情	山本
第１４回	現代世界の宗教事情	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１	配布資料	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	倫理学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-GA-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	主題は「暇と退屈」である。つまり、ヒトが暇であるという事態と退屈であるという事態である。我々にとって身近な「暇と退屈」を分析する。暇はあるが退屈はしないという、よき人生はどのようなものか考える。そして学生各位は暇を持て余すことのない、自分固有のよき人生への指針を獲得することができる。
授業概要	定住生活を開始して以来、人類とともにあり、個人や集団に破滅をもたらしたりすることもある「退屈」について、国分功一郎『暇と退屈の倫理学』を一緒に読みながら、注釈と批判を加え、ともに考えてゆく。その過程でパスカルやニーチェ、ラッセルやハイデッガー、ホッブズやルソー、マルクスやアーレントといった西欧思想の古典をこのテーマに関わる範囲で読むことになる。　また、定住革命論やユクスキュルの環世界論など、隣接するさまざまな領域の知見を学ぶ。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
履修条件・注意事項	「気分」のようなとらえにくいものについて、具体例に即して考える思考力、言語能力、忍耐力。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、教科書や配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。これを次回授業で確認する。
オフィスアワー	月曜5限257研究室

授業計画		担当者
第１回	「好きなこと」とは？	山本
第２回	パスカルとニーチェの退屈論	山本
第３回	暇と退屈の原理論	山本
第４回	定住革命について	山本
第５回	暇と退屈の系譜学	山本
第６回	暇と退屈の経済史	山本
第７回	ホッブズ、ルソー、マルクス	山本
第８回	暇と退屈の疎外論	山本
第９回	暇と退屈の哲学	山本
第１０回	環世界論	山本
第１１回	暇と退屈の人間学	山本
第１２回	ハイデッガー	山本

第１３回	暇と退屈の倫理学	山本
第１４回	スピノザ	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１	暇と退屈の倫理学	教・出版社名１	太田出版
教・著者名１	國分功一郎	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7783-1437-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	心理学 （経営・心理）	担当者	津川　秀夫、藤原　直子、土居　正人、橋本　翠、村上　勝典、若森　孝彰、森井　康幸、宇都宮　真輝
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-GA-0-004

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。学生は，人が生活している環境からいかに情報を取り入れ，蓄積し，利用するのか，あるいは，いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して，心理学のおもしろさに触れることができる。
授業概要	心理学は知覚、認知、発達、社会、パーソナリティーなどさまざまな領域において様々な研究が行われている。本講義では，いくつかの領域における研究対象，方法，得られた知見等の解説をオムニバス形式で行う。 ☒
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	小テスト(50%) と定期テスト(50%) の成績により評価する。 ただし、受講態度の悪い学生（私語、飲食、内職等・・・）については，この限りではない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストについては、授業中にフィードバックするので、定期試験に向けて、見直すこと。
履修条件・注意事項	テキストは使用しないので，集中して講義に参加すること。 授業担当者ごとに，2回に１回くらいの割合で小テストを行うので，特に復習には力を入れること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	基本的には、講義内で配布された資料をもとに復習すること。（2時間） テキストは使用しないが、一般的な心理学の本で該当箇所を対照させながら学ぶことが重要である（2時間）。体験的に学びを深めたい学生には、心理学実験への参加・協力をお願いする。
オフィスアワー	森井：月４　津川：月4　藤原：月2　橋本：月5　宇都宮：火4　土居：月2　村上：木3　　各教員研究室

授業計画		担当者
第１回	(1) オリエンテーション	全員
第２回	(2) 外界を探るこころの働き	橋本
第３回	(3) 感覚と知覚	橋本
第４回	(4) 記憶のふしぎ	森井
第５回	(5) 本能と学習	森井
第６回	(6) 性格とは	土居

第７回	(7) 心理検査について	土居
第８回	(8) 乳幼児期～青年期の発達	宇都宮
第９回	(9) 青年期の人間関係と心理	宇都宮
第１０回	(10) 対人認知	村上
第１１回	(11) 態度変容	村上
第１２回	(12) ストレス	藤原
第１３回	(13) ストレスと考え方	藤原
第１４回	(14) カウンセリング	津川
第１５回	(15) カウンセリングの実際	津川
第１６回	(16) 定期試験(筆記)	全員

教科書			
教・書籍名１	教科書は使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	心理学 (New Liberal Arts Selection)	参・出版社名１	有斐閣
参・著者名１	無藤・遠藤・玉瀬・森	参・ＩＳＢＮ１	978-4641053694
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	多文化理解			担当者				末吉　秀二	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			GE-GA-0-005	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義		
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限				

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味がもてるようになる。
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60%）、授業態度/積極性（20%）、課題レポート（20%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートの返却時に講評する。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	末吉秀二
第２回	古代オリエント	末吉秀二
第３回	アラブ・イスラーム世界の形成	末吉秀二
第４回	オスマン帝国とアラブ	末吉秀二
第５回	近・現代のアラブ社会	末吉秀二
第６回	アラビア語の基礎（文字と発音）	末吉秀二
第７回	アラビア語の基礎（文法）	末吉秀二
第８回	預言者ムハンマド	末吉秀二
第９回	コーラン	末吉秀二
第１０回	イスラーム法（シャリーア）	末吉秀二
第１１回	イスラーム文化（衣・食・住）	末吉秀二

第１２回	イスラーム文化（スーク/メディナ）	末吉秀二
第１３回	パレスチナ問題	末吉秀二
第１４回	事例研究（ヨルダン）	末吉秀二
第１５回	多文化理解（論文輪読）	末吉秀二
第１６回	単位認定試験	末吉秀二

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	イスラーム文化	参・出版社名１	岩波文庫
参・著者名１	井筒俊彦	参・ＩＳＢＮ１	4-00-331851-X
参・書籍名２	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2	中央公論社
参・著者名2	池内　恵	参・ＩＳＢN2	978-412-003990-4

授業科目名	多文化理解			担当者	末吉　秀二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-GA-0-005		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味がもてるようになる。
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60%）、授業態度/積極性（20%）、課題レポート（20%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートの返却時に講評する。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	末吉秀二
第２回	古代オリエント	末吉秀二
第３回	アラブ・イスラーム世界の形成	末吉秀二
第４回	オスマン帝国とアラブ	末吉秀二
第５回	近・現代のアラブ社会	末吉秀二
第６回	アラビア語の基礎（文字と発音）	末吉秀二
第７回	アラビア語の基礎（文法）	末吉秀二
第８回	預言者ムハンマド	末吉秀二
第９回	コーラン	末吉秀二
第１０回	イスラーム法（シャリーア）	末吉秀二
第１１回	イスラーム文化（衣・食・住）	末吉秀二

第１２回	イスラーム文化（スーク/メディナ）	末吉秀二
第１３回	パレスチナ問題	末吉秀二
第１４回	事例研究（ヨルダン）	末吉秀二
第１５回	多文化理解（論文輪読）	末吉秀二
第１６回	単位認定試験	末吉秀二

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	イスラーム文化	参・出版社名１	岩波文庫
参・著者名１	井筒俊彦	参・ＩＳＢＮ１	4-00-331851-X
参・書籍名２	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2	中央公論社
参・著者名2	池内　恵	参・ＩＳＢN2	978-412-003990-4

授業科目名	日本国憲法			担当者			入江　祥子	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			GE-SI-0-001	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限			
ディプロマポリシー対応項目								
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目		
ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に 							
到達目標	＜到達目標＞ 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 ＜テーマ＞ 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。							
授業概要	法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。 ＊実務経験のある教員による授業 　本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。							
アクティブラーニングの内容								
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢３０％、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価３０％、定期試験４０％の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。							
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。							

	原則として、配布物の再配布は行いません。		
実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。 本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させること。		
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。		

授業計画		担当者
第１回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江　祥子
第２回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江　祥子
第３回	法源とは何か、法の種類	入江　祥子
第４回	憲法とは何か、立憲主義	入江　祥子
第５回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江　祥子
第６回	国民主権の意味、その役割	入江　祥子
第７回	戦争の放棄、日本国憲法第９条	入江　祥子
第８回	人権とは何か、その役割	入江　祥子
第９回	人権の効果	入江　祥子
第１０回	人権の限界、公共の福祉	入江　祥子
第１１回	統治制度について、権力分立	入江　祥子
第１２回	立法権、国会の役割	入江　祥子
第１３回	行政権、内閣の役割	入江　祥子
第１４回	司法権、裁判所の役割	入江　祥子
第１５回	地方自治について	入江　祥子
第１６回	筆記試験	入江　祥子

教科書			
教・書籍名１	各回ごとに配布物を配り、それに従って授業を進める。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	六法	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本国憲法			担当者			入江　祥子	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			GE-SI-0-001	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜5限			
ディプロマポリシー対応項目								
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目		
ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に 							
到達目標	＜到達目標＞ 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 ＜テーマ＞ 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。							
授業概要	法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。 ＊実務経験のある教員による授業 　本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。							
アクティブラーニングの内容								
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢３０％、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価３０％、定期試験４０％の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。							
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。							

	原則として、配布物の再配布は行いません。		
実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。 本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させること。		
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。		

授業計画		担当者
第１回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江　祥子
第２回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江　祥子
第３回	法源とは何か、法の種類	入江　祥子
第４回	憲法とは何か、立憲主義	入江　祥子
第５回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江　祥子
第６回	国民主権の意味、その役割	入江　祥子
第７回	戦争の放棄、日本国憲法第９条	入江　祥子
第８回	人権とは何か、その役割	入江　祥子
第９回	人権の効果	入江　祥子
第１０回	人権の限界、公共の福祉	入江　祥子
第１１回	統治制度について、権力分立	入江　祥子
第１２回	立法権、国会の役割	入江　祥子
第１３回	行政権、内閣の役割	入江　祥子
第１４回	司法権、裁判所の役割	入江　祥子
第１５回	地方自治について	入江　祥子
第１６回	筆記試験	入江　祥子

教科書			
教・書籍名１	各回ごとに配布物を配り、それに従って授業を進める。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	六法	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	民法			担当者	生駒　正文		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SI-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	学生は日常生活の各場面で想定される法律の動きを知り、何がただしいのかという価値判断が求められる局面において、自ら考えて選ぶリーガル・マインドを獲得できる。 具体的には法の意義と、社会における法の役割を理解、実際の事件の中で、法がいかに問題解決のために機能しているか関心を持つこと、課題を法的な観点から検討できること、自分の考えを整理して、相手に論理的に説明する能力を身に着けることが個別目標です。
授業概要	我々の日常生活は、直接的・間接的に法律と関係しています。例えば、物の購入、家・金銭の貸し借り、結婚、親子関係、相続等、法律と無関係ではありません。我々の日常生活を規律する民法の基礎の基礎くらい知っておいた方が無難でしょう。 本講義では、日常生活の場面で想定される事態について、どのように民法がかかわるか考えます。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	試験７０％　授業態度・意欲・小テスト３０％の評価
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題、小テストは、後日添削し返却します。理解が不足の場合、再提出。
履修条件・注意事項	教科書持参、ノートをとること、考えることを原則に授業にのぞむこと
実務経験のある教員	該当する　内容：大阪簡易裁判所の民事調停委員として各案件の処理を行う（２０年）
事前学習・事後学習とその時間	授業計画ごとに教科書を復習・予習しておくこと（２時間）
オフィスアワー	１２：３０から１３：２０　１４号館６階（生駒研究室）

授業計画		担当者
第１回	（１）民法学の基礎知識（総則）　①民法とは何か、権利義務関係の基本となる能力	生駒正文
第２回	（２）民法学の基礎知識（総則）②制限行為能力者制度	生駒正文
第３回	（３）民法学の基礎知識（総則）③法人とは、物とは	生駒正文
第４回	（４）民法学の基礎知識（総則）④意思表示	生駒正文
第５回	（５）民法学の基礎知識（総則）⑤代理、時効	生駒正文
第６回	（６）民法学の基礎知識（財産法）⑥物権と債権、物権の種類、物権法定主義	生駒正文
第７回	（７）民法学の基礎知識　⑦物権の効力と物権変動（動産・不動産）	生駒正文
第８回	（８）民法学の基礎知識（財産法）　⑧即時取得、担保とは何か	生駒正文
第９回	（９）民法学の基礎知識（財産法）⑨一般的な不法行為	生駒正文

第１０回	（１０）民法学の基礎知識（財産法）　⑩特殊的な不法行為　賃貸借	生駒正文
第１１回	（１１）（３）家族法の基礎知識　⑪親族、婚姻、夫婦関係、離婚	生駒正文
第１２回	（１２）家族法の基礎知識　⑫親子関係、親権、相続	生駒正文
第１３回	（１３）家族法の基礎知識　⑬遺言	生駒正文
第１４回	（１４）家族法の基礎知識　⑭遺留分	生駒正文
第１５回	（１５）その他　⑮割賦販売、訪問販売	生駒正文
第１６回	（１６）定期試験	生駒正文

教科書			
教・書籍名１	ガイドブック法学	教・出版社名１	嵯峨野書院
教・著者名１	生駒正文・高田富男編著	教・ＩＳＢＮ１	９７８－４－７８２３－０５７０－６
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経済学			担当者	張　秉煥		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SI-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するのかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

授業計画		担当者
第１回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル	張秉煥
第２回	経済学の主要原理（１）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等	張秉煥
第３回	経済学の主要原理（２）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）	張秉煥
第４回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場	張秉煥
第５回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）	張秉煥
第６回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト１	張秉煥
第７回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用	張秉煥
第８回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用	張秉煥
第９回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例	張秉煥
第１０回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト２	張秉煥
第１１回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１２回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１３回	経済成長と公共政策、７２の法則とその応用、景気変動	張秉煥

第１４回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト３	張秉煥
第１５回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）	張秉煥
第１６回	定期筆記試験	張秉煥

教科書			
教・書籍名１	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	マンキュー入門経済学	参・出版社名１	東洋経済新報社
参・著者名１	N・グレゴリー・マンキュー	参・ＩＳＢＮ１	978-4492315217
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経済学			担当者	張　秉煥		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SI-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するのかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

授業計画		担当者
第１回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル	張秉煥
第２回	経済学の主要原理（１）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等	張秉煥
第３回	経済学の主要原理（２）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）	張秉煥
第４回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場	張秉煥
第５回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）	張秉煥
第６回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト１	張秉煥
第７回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用	張秉煥
第８回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用	張秉煥
第９回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例	張秉煥
第１０回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト２	張秉煥
第１１回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１２回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１３回	経済成長と公共政策、７２の法則とその応用、景気変動	張秉煥

第１４回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト３	張秉煥
第１５回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）	張秉煥
第１６回	定期筆記試験	張秉煥

教科書			
教・書籍名１	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	マンキュー入門経済学	参・出版社名１	東洋経済新報社
参・著者名１	N・グレゴリー・マンキュー	参・ＩＳＢＮ１	978-4492315217
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会学			担当者	黒宮　亜希子、稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SI-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	テーマ：基礎社会学を学ぶ（社会学とは何か？、労働・教育・地域・家族等の視点より） 到達目標：社会学の基本的な定義・考え方、具体的な社会問題、人口問題と環境、現代家族、教育、産業・労働の領域における現状と問題を理解し、その解決法を考えることとする。 受講生らが生きている現代社会の仕組みや出来事に関する理解を深める。 この講義を通じて、現代社会の様々な制度と問題を理解すること、また、自分の考えを文章で言語化し、記述する能力を向上することも併せて目標とする。
授業概要	この講義の目的は、社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、講義で学習した社会学的な見方、考え方を応用し、受講生の周囲で起こっている実際の出来事について考えることが出来るようにすることである。 具体的には、現代家族の変化、教育問題、非正規社員の増加と経済的格差、人口構造の変化などを取り上げる。 それによって学生たちは問題を理解し、社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中課題（40%）・定期試験（60%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題はコメントを入れ返却を行う。
履修条件・注意事項	・2名の教員がオムニバス形式で進行する。 ・毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。ファイル等で各自保管しておくこと。 ・日本語で自身の考えを記述する力が求められるため、日本語の力がまだ十分ではない留学生の受講に際してはやや注意を要する。 ・授業計画の内容は、進捗状況に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	黒宮：月曜4限（14625） 稲元：火曜3限（14611）

授業計画	担当者

第１回	授業オリエンテーション	黒宮・稲元
第２回	身近な社会学（1）地位と役割	黒宮
第３回	身近な社会学（2）ラベリング・スティグマ	黒宮
第４回	教育の社会学（1）学校とはなにか	稲元
第５回	教育の社会学（2）教育をめぐる諸問題	稲元
第６回	家族の社会学（1）家族とその変化	黒宮
第７回	家族の社会学（2）家族とジェンダー	黒宮
第８回	労働の社会学（1）学校から職場へ	稲元
第９回	労働の社会学（2）働くことの社会的な位置づけ	稲元
第１０回	地域の社会学（1）地域、コミュニティとは	黒宮
第１１回	地域の社会学（2）地域社会の今	黒宮
第１２回	自己と他者の社会学（1）他者のまなざし	稲元
第１３回	自己と他者の社会学（2）コミュニケーション	稲元
第１４回	社会問題を社会学する（講義、小括）	黒宮
第１５回	社会問題を社会学する（講義、小括）	稲元
第１６回	筆記試験	黒宮・稲元

教科書			
教・書籍名１	資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	授業内容に応じて適宜、文献を紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	社会学			担当者	赤坂　真人		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SI-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ 社会学入門（社会学とは何か・人口論・家族・教育・産業と労働） 到達目標 社会学の定義と考え方を学び、そのうえで現代社会の人口、現代家族、教育、産業と労働について述べる。次に、明確に意識されていない現代社会の様々な制度と問題を明確に認識させ、毎回実施する小テスト（記述式）で社会問題に対する自分自身の考えをまとめ、文章で記述・説明する能力を鍛える。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
授業概要	この講義の目的は社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、次に講義で学習した社会学的な見方、考え方を応用し、学生の周囲で起こっている日常の出来事について考えさせることである。具体的には人口減少に伴って起こる様々な問題、人口高齢化と年金・医療保険の問題、現代家族の変化、晩婚化・非婚化、教育の社会的意義、AI 化とこれからの教育、Society5.0における産業と労働、経済的格差、日本の経済不況と対策などを取り上げる。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中の小テスト（50%）・定期試験（50%）によって評価する。小テストは採点し、コメントつけて返却するので必ず復習すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義の最後20分間を使って、毎回論述式の小試験を行う。メールにより解答し教員の授業用メールボックスに返送する。教員は学生一人一人の論述に対し400～500字のコメントを書いて学生に返却する。教員からのコメントに対してさらに意見を述べた場合、それに対して再びコメント書いて返却する。
履修条件・注意事項	講義時間が減少するので学生の名前を読み上げて出席を取ることはしない。カードによる出席チェックの不正をしない。日本語が分からないと講義についてゆけないので留学生は履修の際、十分留意すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜4限（15：10～16：40）に、研究室（9309）にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	1.人間が社会を作るまで。2群れ（社会）で生きる人間。3.人間社会の大変動。	赤坂
第２回	1.社会学とは何か。2.社会のわかりにくさ。3.他の人間科学との相違。4.社会学の利用法。	赤坂
第３回	1.世界の人口動向。2.人口転換理論。3.日本の人口推移。4.少子高齢化。5.晩婚化と非婚化。	赤坂

第４回	1.生涯未婚率の推移。2.世界最速の高齢化。3.少子高齢化と経済の縮小・社会保障の危機。	赤坂
第５回	1.家族とは何か。2.家族の類型。３.世帯・親族・親戚。4.社会制度としての結婚。5.国家による管理	赤坂
第６回	1.結婚の社会的規制。2.非婚社会：日本。3.非婚の経済的原因。4.非婚の生物学的原因	赤坂
第７回	1.解体する家族。２.現代家族の問題。3.下流化する中高年。4.現代家族の病理と法的問題。	赤坂
第８回	1.液状化する社会。２.避けられぬ人口減少。3.男性未婚者。4.職業と未婚。5.世代間の不平等。	赤坂
第９回	1.教育の機能。2.メリトクラシーの崩壊と階層の固定化。3.学力低下論争。4.学力の二極化	赤坂
第１０回	1.教師の多忙化と燃え尽き。２.いじめ問題。3.校内暴力。4.不登校。5.学校は魅力をうしなったか	赤坂
第１１回	1.教育と職業。2.大学教育は仕事の役に立つか？3.中間集団としての学校。4.ニートの人々	赤坂
第１２回	1.産業の分類。2.賃金と労働。3.日本人の労働時間と失業率。4.日本的経営の終わり。5.日本経済の没落	赤坂
第１３回	1.日本経済の矛盾。2.生産性の低さ。3.日本経済没落の原因。4.経済再生の課題	赤坂
第１４回	1.職業とジェンダー。2.職業と階層。3.階層間格差。4.AI化と労働の未来	赤坂
第１５回	1.AI の進化と社会変動　2.インフォテック。3.フードテック。4.画像認識。5.拡張現実・その他	赤坂
第１６回	筆記試験	赤坂

教科書			
教・書籍名１	基礎社会学	教・出版社名１	ふくろう出版
教・著者名１	赤坂真人	教・ＩＳＢＮ１	978-4861864278
教・書籍名２	毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。	教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	講義中に役30冊の文献を紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	環境科学			担当者	秋山　純一		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。
授業概要	ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見的な問題意識を持ちどの様に対処すべきるかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。　試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習（1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。

授業計画			担当者
第１回	環境と人間のかかわりあい		秋山純一
第２回	環境における人類危機要因		秋山純一
第３回	生態系と人間		秋山純一
第４回	食物連鎖		秋山純一
第５回	物質循環		秋山純一
第６回	紫外線（作用と分類）		秋山純一
第７回	紫外線と皮膚（臨床）		秋山純一
第８回	紫外線と皮膚（防御）		秋山純一
第９回	オゾン層の破壊（原因）		秋山純一
第１０回	オゾン層の破壊（対策）		秋山純一
第１１回	環境ホルモン（作用）		秋山純一
第１２回	環境ホルモン（分類）		秋山純一
第１３回	環境ホルモン（影響）		秋山純一
第１４回	地球温暖化（原因）		秋山純一
第１５回	地球温暖化（対策）		秋山純一
第１６回	単位認定試験		秋山純一
教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	環境科学入門	参・出版社名１	化学同人
参・著者名１	川合　真一郎　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	環境科学			担当者	秋山　純一		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。
授業概要	ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見的な問題意識を持ちどの様に対処すべきるかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。　試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習（1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。

授業計画			担当者
第１回	環境と人間のかかわりあい		秋山純一
第２回	環境における人類危機要因		秋山純一
第３回	生態系と人間		秋山純一
第４回	食物連鎖		秋山純一
第５回	物質循環		秋山純一
第６回	紫外線（作用と分類）		秋山純一
第７回	紫外線と皮膚（臨床）		秋山純一
第８回	紫外線と皮膚（防御）		秋山純一
第９回	オゾン層の破壊（原因）		秋山純一
第１０回	オゾン層の破壊（対策）		秋山純一
第１１回	環境ホルモン（作用）		秋山純一
第１２回	環境ホルモン（分類）		秋山純一
第１３回	環境ホルモン（影響）		秋山純一
第１４回	地球温暖化（原因）		秋山純一
第１５回	地球温暖化（対策）		秋山純一
第１６回	単位認定試験		秋山純一
教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	環境科学入門	参・出版社名１	化学同人
参・著者名１	川合　真一郎　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	物理学			担当者	藤原　智子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	15回	授業形態	対面
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：物理学の１分野である天文学を中心に、簡単な実験やそれぞれテーマに沿った議論などを通じて、その歴史的背景や社会・生活で活用されている物理のエッセンスを体系的に学習する。 到達目標：「自然から学ぶ」や「論理的思考」とはどういうことかを理解する。
授業概要	太古の昔から、人類は頭上に広がる果てしない宇宙を見つめてきた。手の届かないところにある天体のふるまいを理解するには、まず身近な自然現象を観察し、そこにある物理法則に気付く必要がある。人々はどんな想いで宇宙を見つめてきたのか、宇宙を知るためにどんな挑戦をし、注意深く観察した星空から何を理解してきたのか。この授業では、太陽系天体、恒星や銀河など、宇宙に浮かぶ様々な天体の姿を紹介、そこで起こっている現象を身近な物理と結び付けて科学的に解説するだけではなく、星座や神話、人類の宇宙観など文化的内容、観測機器や宇宙開発(ロケットや人工衛星・探査機)等の技術的内容についても触れ、「宇宙」をテーマに幅広い内容を扱う。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	論述試験と出席で評価します。授業を受ける姿勢として、実験や議論に参加する積極性を重視します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や試験に対する質問は授業での回答の他、UNIPAやTeamsなどの機能を用いてフィードバックする。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画のテーマに関連するニュースやトピックスに注意を払い、事後学習として授業で学んだことに関して友人や家族と議論すること。 各１時間の学修が望ましい。
オフィスアワー	授業の前後に、教室において実施する。

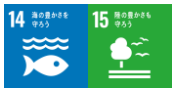
授業計画		担当者
第１回	ガイダンスー自然現象を理解するための物理学ー	藤原智子
第２回	宇宙観の変遷	藤原智子
第３回	星と文化①　星座と星物語	藤原智子
第４回	星と文化②　暦の成立	藤原智子
第５回	天体の記録と基礎データ①　天体の位置、明るさ、距離	藤原智子
第６回	天体の記録と基礎データ②　光のスペクトル	藤原智子
第７回	観測装置の発展①　光学・電波望遠鏡	藤原智子
第８回	観測装置の発展②　人工衛星・探査機	藤原智子
第９回	人工衛星・ロケットの仕組み	藤原智子

第１０回	宇宙の環境問題	藤原智子
第１１回	太陽系の素顔①　太陽系の天体	藤原智子
第１２回	太陽系の素顔②　太陽系を取り巻く環境・太陽系外惑星	藤原智子
第１３回	恒星の誕生と死	藤原智子
第１４回	私たちの起源と未来	藤原智子
第１５回	まとめ：宇宙と物理学のつながり	藤原智子
第１６回	レポート試験	藤原智子

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生物学			担当者	香田　康年		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

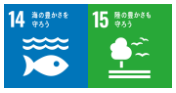
ＳＤＧｓ関連項目	１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう 
到達目標	【テーマ】 学生が、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なせそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。 【到達目標】 まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味がことなることを理解する。さらに生物のシンカがどのうような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。
授業概要	○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。 ○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容，範囲などは受講生の了解をとりながら適宜変更する。 ○ 受講生は，講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば，次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80%）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20%）で評価する。 ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。 各小テストは，論述記述式である。 講義の内容から，重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。 授業をとっていない友人に分かるような説明記述ができていることが，採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	過去の授業内容について度々Ｑ＆Ａを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。 複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験

	を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。
履修条件・注意事項	受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。 教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名されてから発言すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	【復習】 授業内容は常識と異なることが多く，授業は前回までの理解を前提に進めるので，毎回必ず復習し，理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。 復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように，充分理解し，ノート整理しておくこと。 【予習】 過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。

授業計画		担当者
第１回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？	香田康年
第２回	生物のシンカと一般用語としての「進化」	香田康年
第３回	生物のシンカの起こる仕組み	香田康年
第４回	なぜたくさんの生物がいるのか？　なぜ人間がいるのか？	香田康年
第５回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？	香田康年
第６回	科学とはどのような学問か？	香田康年
第７回	生物とは？	香田康年
第８回	どんな生物、どんな動物がいるのか？	香田康年
第９回	遺伝子と遺伝子の発現	香田康年
第１０回	本能と学習と理性の関係	香田康年
第１１回	利己的行動と利他的行動	香田康年
第１２回	非血縁者間の利他行動のシンカ	香田康年
第１３回	ゲーム理論とシンカ	香田康年
第１４回	様々な対人関係心理のシンカ	香田康年
第１５回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ	香田康年
第１６回	最終試験（記述式筆記試験）	香田康年

教科書			
教・書籍名１	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	「進化と人間行動」	参・出版社名１	東京大学出版会
参・著者名１	長谷川寿一、長谷川眞理子	参・ＩＳＢＮ１	4－13－012032－8
参・書籍名２	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ＩＳＢＮ2	978-4-569-76860-1

授業科目名	生物学			担当者			香田　康年	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			GE-NM-0-003	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限			
ディプロマポリシー対応項目								
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目		
ＳＤＧｓ関連項目	１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう 							
到達目標	【テーマ】 学生が、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なせそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。 【到達目標】 まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味がことなることを理解する。さらに生物のシンカがどのうような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。							
授業概要	○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。 ○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容，範囲などは受講生の了解をとりながら適宜変更する。 ○ 受講生は，講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば，次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。							
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク							
評価方法と割合	20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80%）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20%）で評価する。 ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。 各小テストは，論述記述式である。 講義の内容から，重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。 授業をとっていない友人に分かるような説明記述ができていることが，採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	過去の授業内容について度々Ｑ＆Ａを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。 複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験							

	を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。
履修条件・注意事項	受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。 教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名されてから発言すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	【復習】 授業内容は常識と異なることが多く，授業は前回までの理解を前提に進めるので，毎回必ず復習し，理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。 復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように，充分理解し，ノート整理しておくこと。 【予習】 過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。

授業計画		担当者
第１回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？	香田康年
第２回	生物のシンカと一般用語としての「進化」	香田康年
第３回	生物のシンカの起こる仕組み	香田康年
第４回	なぜたくさんの生物がいるのか？　なぜ人間がいるのか？	香田康年
第５回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？	香田康年
第６回	科学とはどのような学問か？	香田康年
第７回	生物とは？	香田康年
第８回	どんな生物、どんな動物がいるのか？	香田康年
第９回	遺伝子と遺伝子の発現	香田康年
第１０回	本能と学習と理性の関係	香田康年
第１１回	利己的行動と利他的行動	香田康年
第１２回	非血縁者間の利他行動のシンカ	香田康年
第１３回	ゲーム理論とシンカ	香田康年
第１４回	様々な対人関係心理のシンカ	香田康年
第１５回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ	香田康年
第１６回	最終試験（記述式筆記試験）	香田康年

教科書			
教・書籍名１	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	「進化と人間行動」	参・出版社名１	東京大学出版会
参・著者名１	長谷川寿一、長谷川眞理子	参・ＩＳＢＮ１	4－13－012032－8
参・書籍名２	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ＩＳＢＮ2	978-4-569-76860-1

授業科目名	化学			担当者	秋山　純一		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく，現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は，物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし，それらの性質，構造，反応性などを実証的に解き明かす。１８世紀後半から学問として体系付けられ，幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら，現代化学へと発展してきた。今日では，複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど，私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ，暮らしを豊かに，快適にしてくれている。一方，分子という考えの導入により，生命現象を化学的に解釈できるようになり，また生命現象を遺伝しのレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では，地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は香粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了毎および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。

授業計画	担当者

第１回	原子・分子の構造	秋山純一
第２回	化学結合	秋山純一
第３回	同位体と放射能	秋山純一
第４回	周期律表	秋山純一
第５回	化学反応、結合	秋山純一
第６回	酸化と還元（反応物質）	秋山純一
第７回	酸化と還元（燃料電池他）	秋山純一
第８回	物質の分類（金属、非金属）	秋山純一
第９回	水の化学（特性、硬度、pH）	秋山純一
第１０回	有機化合物の構造分類	秋山純一
第１１回	有機化合物の置換基分類	秋山純一
第１２回	有機合成の反応分類	秋山純一
第１３回	高分子化合物（天然）	秋山純一
第１４回	高分子化合物（合成）	秋山純一
第１５回	界面の化学（洗剤、乳化）	秋山純一
第１６回	単位認定試験	秋山純一

教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	教養の現代化学	参・出版社名１	三共出版
参・著者名１	多賀　光彦／共著　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	化学			担当者	秋山　純一		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく，現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は，物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし，それらの性質，構造，反応性などを実証的に解き明かす。１８世紀後半から学問として体系付けられ，幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら，現代化学へと発展してきた。今日では，複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど，私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ，暮らしを豊かに，快適にしてくれている。一方，分子という考えの導入により，生命現象を化学的に解釈できるようになり，また生命現象を遺伝しのレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では，地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は香粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了毎および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。

授業計画	担当者

第１回	原子・分子の構造	秋山純一
第２回	化学結合	秋山純一
第３回	同位体と放射能	秋山純一
第４回	周期律表	秋山純一
第５回	化学反応、結合	秋山純一
第６回	酸化と還元（反応物質）	秋山純一
第７回	酸化と還元（燃料電池他）	秋山純一
第８回	物質の分類（金属、非金属）	秋山純一
第９回	水の化学（特性、硬度、pH）	秋山純一
第１０回	有機化合物の構造分類	秋山純一
第１１回	有機化合物の置換基分類	秋山純一
第１２回	有機合成の反応分類	秋山純一
第１３回	高分子化合物（天然）	秋山純一
第１４回	高分子化合物（合成）	秋山純一
第１５回	界面の化学（洗剤、乳化）	秋山純一
第１６回	単位認定試験	秋山純一

教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	教養の現代化学	参・出版社名１	三共出版
参・著者名１	多賀　光彦／共著　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	人類生態学			担当者	末吉　秀二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-005		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	人類生態学の視点から、ヒトの環境への適応を理解することができるようになる。
授業概要	人類生態学は、個体群レベルで人間の生存をとらえ、その生業・食物・人口学的側面に関する包括的な研究から、ヒトの環境への適応を明らかにする学問分野と定義される。本講義は、①生態系のなかの人間、②人間の生存と健康、③人口からみた人間、④環境問題と人間の大テーマをブレークダウンして詳しく説明する。また、今日の環境問題や人口問題の本質について理解を深める。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（80%）、小テスト（10%）、受講態度（10%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、授業でフィードバックするので試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	指定した教科書は必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回講義で指定する章を通読し、不明な点を明確にすること（予習）、不明な点が理解できたかを確認すること（復習）。
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	末吉秀二
第２回	生態系と人類の特性	末吉秀二
第３回	人類の起源と進化	末吉秀二
第４回	生存様式の変化と多様性	末吉秀二
第５回	生業と社会	末吉秀二
第６回	身体とその機能	末吉秀二
第７回	行動の生態学	末吉秀二
第８回	栄養と健康	末吉秀二
第９回	病気の生態学	末吉秀二
第１０回	長期的な人口変化	末吉秀二
第１１回	人口指標と集団の適応	末吉秀二
第１２回	現代の人口問題	末吉秀二
第１３回	エネルギーと資源	末吉秀二
第１４回	ライフスタイルと環境	末吉秀二

第１５回	地球環境問題と人類	末吉秀二
第１６回	試験	末吉秀二

教科書			
教・書籍名１	人類生態学	教・出版社名１	東京大学出版会
教・著者名１	大塚柳太郎・河辺俊雄・高坂宏一ほか	教・ＩＳＢＮ１	4-13-052300-
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	数学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-007		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。
オフィスアワー	月曜5限

授業計画		担当者
第１回	数的推理：濃度	山本
第２回	数的推理：速さ・距離・時間	山本
第３回	数的推理：ものの値段と個数	山本
第４回	数的推理：定価・原価・利益	山本
第５回	数的推理：割合と値段	山本
第６回	数的推理：仕事算	山本
第７回	資料解釈：表の読み取り＆資料の読み取り	山本
第８回	数的推理：順列と組み合わせ	山本
第９回	数的推理：確率のとらえ方	山本

第１０回	判断推理：集合	山本
第１１回	判断推理：推論	山本
第１２回	判断推理：ものの流れと比率＆ブラックボックス	山本
第１３回	資料解釈：グラフの領域	山本
第１４回	判断推理：論証	山本
第１５回	空間把握：立体の展開図・断面	山本
第１６回	単位認定試験	山本

教科書			
教・書籍名１	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名１	永岡書店
教・著者名１	柳本新二	教・ＩＳＢＮ１	9784522460122
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	数学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-007		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。
オフィスアワー	月曜5限

授業計画		担当者
第１回	数的推理：濃度	山本
第２回	数的推理：速さ・距離・時間	山本
第３回	数的推理：ものの値段と個数	山本
第４回	数的推理：定価・原価・利益	山本
第５回	数的推理：割合と値段	山本
第６回	数的推理：仕事算	山本
第７回	資料解釈：表の読み取り＆資料の読み取り	山本
第８回	数的推理：順列と組み合わせ	山本
第９回	数的推理：確率のとらえ方	山本

第１０回	判断推理：集合	山本
第１１回	判断推理：推論	山本
第１２回	判断推理：ものの流れと比率＆ブラックボックス	山本
第１３回	資料解釈：グラフの領域	山本
第１４回	判断推理：論証	山本
第１５回	空間把握：立体の展開図・断面	山本
第１６回	単位認定試験	山本

教科書			
教・書籍名１	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名１	永岡書店
教・著者名１	柳本新二	教・ＩＳＢＮ１	9784522460122
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	発達心理学			担当者				宇都宮　真輝	
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2018年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2018年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2017年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング			PS-PS-1-307	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義		
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜2限				

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマは、様々な視点から人間の発達過程について理解することである。そのために、身体、脳、感情、認知、人間関係の発達など、様々な観点から人間の発達を分析し、理解するための知識を身に付けられるようになることを到達目標とする。
授業概要	胎児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期の各時期における発達の様相や発達課題について様々な観点から学習する。また、各発達段階における臨床的問題についても学習し、心理的援助についての考察も深める。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	評価は、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）、期末試験（60%）とし、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト、レポートは授業時間内に答え合わせやフィードバックを行う予定。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 事前に各回の内容について伝達するので、予習を行うこと。小テストなども行うので、自身の習熟度を確認し、復習を欠かさないこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：臨床心理士、公認心理師の資格を有しており、心理相談室、学生相談、スクールカウンセリングにおける実務経験あり。
事前学習・事後学習とその時間	予習として次回の内容について教科書を読んでくること。授業で学習し、ノートにまとめた内容について復習してくること。次回の授業時に口頭で質問したり、小テスト等で確認します。予習・復習には、1－2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室にて、火曜日4時限に実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	ライフサイクルについて	宇都宮
第３回	胎児期	宇都宮
第４回	新生児期	宇都宮
第５回	乳児期：愛着の形成	宇都宮
第６回	乳児期：言葉の発達	宇都宮
第７回	幼児期：表象の獲得	宇都宮
第８回	幼児期：社会性の発達	宇都宮
第９回	児童期：有能感と劣等感	宇都宮
第１０回	児童期：学校への適応・いじめ	宇都宮

第１１回	青年期前期		宇都宮
第１２回	青年期後期		宇都宮
第１３回	青年期の病理		宇都宮
第１４回	成人期		宇都宮
第１５回	まとめ		宇都宮
第１６回	期末試験（筆記試験）		宇都宮
教科書			
教・書籍名１	よくわかる発達心理学	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-05379-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	保育の心理学Ⅰ			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2017～ 2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～ 2018年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017～ 2018年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	PS-CE-2-213		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	発達は人と人の関わりのなかで生じていることを中心に、乳幼児の保育や幼児教育を行っていくうえで必須となる子どもの心身発達の基礎となる心理学的知見を学ぶことをテーマとする。 到達目標：子どもの生得的なすばらしい能力とその発達過程を理解し、子どもに対する興味・関心を高め、より多面的に理解できるようになる。
授業概要	保育実践における子どもの発達理解の意義について学ぶとともに、発達に関わる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。また、子どもの発達に関わる他者との関わり、社会的相互作用等についても理解する。さらに、生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育実践との関わりについて考察する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	ほぼ隔週で行う小テストまたはミニ・レポートの得点（３０％）と定期試験の得点（７０％）に、受講態度の評価点（０～１）を乗じたもので評価する。したがって、テストで満点であっても、受講態度の評価点が 0.5 の場合は100点×0.5で50点となるので注意すること。小テストは採点後、返却するので、定期試験に向けて、しっかり見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストの返却と、必要に応じて補足解説を行う。
履修条件・注意事項	上述のように、ほぼ隔週で小テストを行なうので、最低限、教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 小テストは前回の授業内容の復習テスト、あるいは当日の授業内容の理解テストを中心に行なう予定である。 保育士の資格取得には必須科目である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、あらかじめテキストに目を通しておくこと。（2時間） 復習は、配付資料とともに、再度テキストを読むこと。（2時間） 返却された小テストも確認しておくこと。
オフィスアワー	月曜4限　　教員研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	発達を考える（第1章）	森井
第３回	人との関わりの基盤	森井

第４回	子ども同士の関わりの進展	森井
第５回	身体的機能と運動機能の発達－個人差と環境－	森井
第６回	運動機能の発達と心理的発達との関連	森井
第７回	ピアジェ理論とその再検討	森井
第８回	世界づくりの開始―認知発達の基盤	森井
第９回	世界づくりの展開―身の回りの世界についての理解の構成	森井
第１０回	言語発達の基礎―人との関わりから育まれる言葉	森井
第１１回	言語を使った世界の広がり	森井
第１２回	乳幼児期の学びに関わる理論	森井
第１３回	乳幼児期の学びの過程と特性	森井
第１４回	乳幼児期の学びを支える保育	森井
第１５回	まとめ	森井
第１６回	定期試験	森井

教科書			
教・書籍名１	保育の心理学	教・出版社名１	北大路書房
教・著者名１	藤﨑 眞知代・無藤 隆	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7628-3152-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	エピソードで学ぶ　乳幼児の発達心理学	参・出版社名１	新曜社
参・著者名１	岡本依子・菅野幸恵・塚田-城みちる	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7885-0907-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	対人関係論			担当者				栗田　喜勝	
配当学科・研究科	2017～ 2018年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～ 2018年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年／2017～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017～ 2018年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			PS-CE-3-219	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義		
年次	1年 / 3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限				

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう
到達目標	「社会における人と人との相互作用」と「社会的適応」をテーマとして、人々の具体的な日常生活場面における対人行動の特徴を理解することにより、よりよい人間関係のあり方について考察を深めることができるようになる。
授業概要	心理学は一般的に「行動の科学」として認知されているが、その研究アプローチは多岐にわたる。中でも個人心理学は、環境との相互作用を行う個体（個人）に注目して知覚や感情、思考などについて科学的に究明してきたが、社会心理学は、個人と他者よの相互作用の観点から、社会の中の個人の行動を科学的に理解しようとする学問体系であるといえる。そこで本講では、個人、集団に影響を及ぼす種々の心理的要因について具体的に取り上げ考察する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度(質疑・意見表明等の有無）（４０%）・期末試験（６０%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中に呈示する自主学修課題については、学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	主体的、積極的に参加すること。 授業の中で使用する各種の資料や心理テスト類をファイルにより呈示するので受講の前にあらかじめよく目を通し（予習）、授業後は内容を確認し整理し（復習）、以後の学習に活用してほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前にファイル呈示する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 ３）単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。
オフィスアワー	個人研究室にて、基本的には木曜日4限、金曜日5限にPCオンライン・電話・メール等で実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。

授業計画		担当者
第１回	心理学と社会心理学	栗田喜勝
第２回	社会心理学の対象と研究方法について	栗田喜勝
第３回	社会的認知について	栗田喜勝
第４回	社会的相互作用について	栗田喜勝

第５回	社会的欲求と適応行動について	栗田喜勝
第６回	人間関係とストレス	栗田喜勝
第７回	人間関係とフラストレーション	栗田喜勝
第８回	人間関係と認知	栗田喜勝
第９回	印象形成について	栗田喜勝
第１０回	人間関係と感情	栗田喜勝
第１１回	社会的態度と行動について	栗田喜勝
第１２回	社会的態度（１）ステレオタイプ	栗田喜勝
第１３回	社会的態度（２）偏見	栗田喜勝
第１４回	態度変容について	栗田喜勝
第１５回	学修のまとめ	栗田喜勝
第１６回	期末試験	栗田喜勝

教科書			
教・書籍名１	初回講義時および毎講義時に授業用資料をファイルにより呈示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ワークショップ人間関係の心理学	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	藤本忠明他編著	参・ＩＳＢＮ１	4-88848-833-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	デジタルメディアと社会			担当者	大谷　卓史		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2019年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	AN-AN-1-108		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	映像をもとに、現代の情報技術とコミュニケーションをめぐる倫理的問題について学ぶ。 現代は、情報技術が広く社会に浸透し、人びとのコミュニケーションと行為を媒介する情報社会である。また、現代の情報技術はデジタルコンピューティングをベースとしているので、現代の社会はデジタル技術とデジタルメディアを行為とコミュニケーションの基盤とする社会と見ることができる。 本講義は、デジタルメディアを媒介とする行為・コミュニケーションの性質を理解し、これらの行為･コミュニケーションにおける規範がどのようなものであるべきか構想するために必要な情報倫理学の基本的な考え方を学ぶ。 到達目標は、学生が次の３つのことができるようになることである。 １．デジタルメディアが媒介する行為やコミュニケーションの性質を理解できるようになる。 ２．倫理学の基本的な考え方とその枠組みを理解できるようになる。 ３．デジタルメディアが媒介する行為やコミュニケーションにおいて、どのような法的・倫理的問題が生じる可能性があるか理解できるようになる。 ラーニングアウトカムは、「デジタルメディアと情報社会の理解」および「デジタル社会への参加態度」である。
授業概要	現代において、デジタルメディアが媒介する私たちの行為とコミュニケーションにかかわる諸問題について、仮想的事例や現実の事例から学ぶ。これらの諸問題に対する基本的なアプローチには、1980年代以降に発展してきた情報倫理学の考え方と枠組みを活用する。 具体的実例を通して、現代の生活や社会のさまざまな局面における情報技術の働きを知るとともに、情報技術が基盤となる現代社会における情報とコミュニケーションの倫理的問題について考察する。授業では適宜映像作品やドキュメンタリー、講演・シンポジウムの映像記録などを活用して、現代的問題を考察できるようにする。 講義の最終回に全体のまとめをおこなう。 毎回簡単な課題提出を求める。内容は自分の意見であれば自由で採点には関係がないが、授業内容を理解したうえでの意見であるかどうかなどを課題で確認する。課題に対しては、次回以降授業担当者から返答を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義内における自主的な質問・発言やディスカッションへの積極的な参加態度、講義内容にかかわる教員からの質問への回答を30%の重みづけで評価する（受講態度）。また、課題等の提出物10%、試験の成績を60%として最終的に総合評価を行う。これらの３つの評価をバランスよく得ていることを単位認定（到達目標）の判断基準とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィード	授業課題に関しては、次回授業でコメントシート（シャトルカード）や、授業内での言及・コメントなどによって

バック方法	（原則課題回答者名は匿名）、フィードバックする。
履修条件・注意事項	授業に積極的に取り組む姿勢が単位取得には必要です。 講義形式の場合も、授業中に受講者に対して質問をします。また、授業の最後には、授業内容に関連した課題を出しますので、解答してください。解答に対しては、次回以降の授業でコメントや解説をします。 授業計画の内容は、理解度の状況に応じて変更になることがあります。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対して、次のように予習・復習をおこなうこと。 予習：レジュメ等の資料を配布するので、指示に従って予習すること。約2時間。 復習：授業内容と資料を要約し、授業内で提示された課題について自分自身で考え回答する。約2時間。
オフィスアワー	春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室） 秋学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室）

授業計画		担当者
第１回	イントロダクション	大谷
第２回	なぜ情報倫理が必要なのか	大谷
第３回	倫理とは何だろうか（１）倫理学と倫理・倫理学で使われる言葉	大谷
第４回	倫理とは何だろうか（２）倫理学の基本的な立場	大谷
第５回	グーグル革命（ビデオ教材）視聴と解説	大谷
第６回	サーチエンジンの倫理	大谷
第７回	ソーシャルネットワーキングサービス	大谷
第８回	フェイクニュースと情報の信頼	大谷
第９回	プライバシーの基礎	大谷
第１０回	個人情報保護制度とその思想	大谷
第１１回	監視と見守り	大谷
第１２回	著作権の法・技術・ビジネス	大谷
第１３回	AI・ロボットの倫理	大谷
第１４回	バーチャルリアリティー	大谷
第１５回	まとめ	大谷
第１６回	筆記試験（オンライン試験機能利用も）	大谷

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	改訂新版　情報倫理入門	参・出版社名１	アイ・ケイコーポレーション
参・著者名１	土屋俊監修、大谷卓史編著、江口聡、喜多千草、永崎研宣、村上祐子、坪井雅史、川口嘉奈子、吉永敦征、川口由起子著	参・ＩＳＢＮ１	4874923240
参・書籍名２	AIの倫理学	参・出版社名2	丸善出版
参・著者名2	クーケルバーグ著、直江清隆訳者代表	参・ＩＳＢN2	978-4621305881

授業科目名	政治学			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-101		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	大学で政治の問題を学ぶ意義は、専門的な概念を用いた理論的観点を通じて学ぶことになる。しかし、政治に対する考え方は極めて多意であり、それらを説明する概念や接近の仕組みも学者によって異なる。そのために受講生は、様々な政治関連の問題について、自らの立場で自分の見解や判断力を持つことを期待する。 この講義を受講すれば、成熟した自由社会の民主政治における政治的な出来事の理解、すなわちその背景と要因、そして、こうした相互関連性について知ることができる。それは、現代社会の一市民としての教養と姿勢が修得できる。
授業概要	この講義では、様々な政治現象を分析し説明する。なお、複雑な政治現象の仕組みを理解するためには、政治学の基礎的な概念と考え方、そして理論についての説明は不可避である。講義の主な内容は、政治学の基礎知識を習得しながら、「先進民主主義国・日本の政治と社会」について、様々なトピックを取り上げて説明する。そのため、受講生は、日常の政治社会学的な出来事とその経済的関連について関心を持つことが大切である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	政治とは何か	李　分一
第３回	現代社会と政治	李　分一
第４回	政治の地位と役割	李　分一
第５回	国家論	李　分一
第６回	政治学の行動科学主義的方法	李　分一
第７回	政治学の歴史的接近方法	李　分一
第８回	政治と権力	李　分一
第９回	支配の正当性	李　分一
第１０回	権力の分立	李　分一
第１１回	政治的リーダーシップの意義	李　分一
第１２回	政治的リーダーと大衆	李　分一
第１３回	現代社会と政治的指導力	李　分一

第１４回	政治文化	李　分一
第１５回	政治参加	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	プリント使用	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	法学入門			担当者	生駒　正文		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2020年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	SS-BU-1-102		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	本講義（法律の基礎知識、憲法の構成と基本原理、民法学の基礎知識、家族法の基礎知識、契約一般の基礎知識、訪問販売・割賦販売等の基礎知識）を通して、生活上の諸問題や社会の動向に関して興味関心を持ち、何がただしいのかという価値判断が求められる局面において、自ら考えて選ぶリーガル・マインドを獲得することを到達目標とします。
授業概要	本講義では、個人の生活、企業のビジネスで体験する身近な法的問題を取り上げることによって法の生きた現実の機能を学ぶとともに、法的なものの考え方（リーガルマインド）を学習できるようになっています。講義中に配布する簡単なレジュメ・教科書をもとに授業します。 　各講義とも、それに関係する基礎的な知識習得として、「テーマ」を出しますので、各自意見を文章にしてもらいます。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	レポート及び平常点３０％、定期試験７０％として総合評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題・小テスト等は後日添削して返却
履修条件・注意事項	新聞記事を毎日読むこと、受講に際して、ノートを取ること、考えることを原則に講義に臨むこと
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は大阪簡易裁判所民事調停委員として各案件処理等経験を持つ教員が、その経験を活かし実践的に役立つ授業を実施します
事前学習・事後学習とその時間	授業計画ごとに教科書を復習・予習しておくこと（２時間）
オフィスアワー	12:00～13：２０　14号館6階（生駒研究室）

授業計画		担当者
第１回	1．法律の基礎知識	生駒正文
第２回	2．日本国憲法の構成と基本原理	生駒正文
第３回	3・平和主義・国民主権（三権分立）	生駒正文
第４回	4．基本的人権	生駒正文
第５回	5．基本的人権	生駒正文
第６回	６．基本的人権	生駒正文
第７回	7．家族法の基礎知識（婚姻、内縁）	生駒正文
第８回	８．家族法の基礎知識（親族）	生駒正文
第９回	9．家族法の基礎知識（相続）	生駒正文
第１０回	10．家族法の基礎知識（相続）	生駒正文
第１１回	11．契約一般の基礎知識（契約上の注意点、無効、取消）	生駒正文
第１２回	12．契約一般の基礎知識（代理、契約解除に必要な条件）	生駒正文
第１３回	13．訪問販売・割賦販売の基礎知識（消費者契約法、クレジット）	生駒正文
第１４回	14．訪問販売・割賦販売の基礎知（特定商取引法）	生駒正文
第１５回	15．電子取引上の契約とホームページ	生駒正文

第１６回	16. 定期試験		生駒正文
教科書			
教・書籍名１	ガイドブック法学	教・出版社名１	嵯峨野書院
教・著者名１	生駒正文・高田富男編著	教・ＩＳＢＮ１	９７８－４－７８３４－０５７０－６
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経営学総論			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2018～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	SS-BU-1-103		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「経営学の全体像の理解」がテーマである。到達目標は、この講義を通じて経営学の基礎知識、企業に関する基礎知識を習得し、それを活用して経営学の用語の説明、応用ができるようにすることが目標である。また、経営学の全体像を理解することを目標とする。さらに、次のような能力が養成されることを目標にする。教科書と資料を読み、調べることによって、読む力、調べられる力が養われる。企業経営の仕組みを調べて、それを整理し、まとめる力を涵養する。さらに、講義の内容について質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力が養われる。
授業概要	講義概要と目的は次のとおりである。経営学は社会科学の1分野であり、我々が生きていく上で関わりが深い重要な学問である。 　本講義では、経営学に関する基礎的な概念と理論を中心にとりあげ、わかりやすく解説し、それを理解することを狙いとする。講義内容は、株式会社の仕組み、日本の雇用制度、競争戦略のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ、組織構造のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄなどである。また、講義は教科書を中心に進行し、必要に応じて参考資料を配布する。皆様はこの講義を通して経営学の基礎的な知識を学び、それを活用することができる。ﾋﾞﾃﾞｵ教材も活用する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	授業態度・貢献度など(40%)、単位認定試験(60%)によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	教科書購入。積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、ﾒｰﾙ、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。教科書あるいは配布した資料を事前によく読むこと。また、毎回予習・復習をして、自分のものにしておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前には参考資料の予習(毎回2時間)と講義後には復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	姜
第２回	2.企業経営の全体像	姜
第３回	3.経営学の全体像	姜
第４回	4.株式会社の仕組み	姜
第５回	5.日本の雇用制度の仕組み	姜
第６回	6.ｹｰｽの研究	姜
第７回	7.競争戦略のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	姜
第８回	8.多角化戦略	姜
第９回	9.組織構造のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	姜
第１０回	10.組織構造のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	姜
第１１回	11.ｹｰｽの研究	姜

第１２回	12.ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ		姜
第１３回	13.情報ｼｽﾃﾑと事業の仕組み		姜
第１４回	14.経営学の広がり		姜
第１５回	15.全体のまとめ		姜
第１６回	16.単位認定試験		姜
教科書			
教・書籍名１	1からの経営学(第2版)	教・出版社名１	中央経済社
教・著者名１	加護野忠男・吉村典久 編著	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	英会話Ⅰ			担当者	ジョン・フォーセット		
配当学科・研究科	2017～2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-104		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	To work together to learn words that help us tell people about Japan, its culture, and its people and learn about other cultures. To go beyond 'delicious' and 'beautiful' and 'hot'. Above all to develop our ability to listen to and understand opinions expressed about Japan and other cultures.
授業概要	We will research different things about Japan and other countries. Listen to people speaking about the country and evaluate their opinions. We will learn words to talk about and respond to them. Also we will learn how to give people our original opinion.
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	Class 60%: participation 20%, effort 20%, product 20% Exam 40%
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	Most tasks will be verbal and so will feedback concerning mostly volume, enunciation, and pace.
履修条件・注意事項	There will be regular vocabulary and listening quizzes so be careful to practice daily. Sometimes there will be presentations again outside practice is necessary. The teacher will speak 100% native English!
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	Decide what you want to say and practice saying it. Exact vocabulary is vital; make your own study sets and system. Check with the teacher if your selection is good or not.
オフィスアワー	1700-1800 except Fridays

授業計画		担当者
第１回	Weather	Fawsitt
第２回	The land	Fawsitt
第３回	The sea	Fawsitt
第４回	Wildlife	Fawsitt
第５回	Jungle?	Fawsitt
第６回	Fruits and flowers	Fawsitt
第７回	People	Fawsitt
第８回	Houses	Fawsitt
第９回	Work	Fawsitt

第１０回	City life	Fawsitt
第１１回	Country life	Fawsitt
第１２回	Anime and cartoons	Fawsitt
第１３回	Religion	Fawsitt
第１４回	Fooood	Fawsitt
第１５回	In the world	Fawsitt
第１６回	Exam	Fawsitt

教科書			
教・書籍名１	We will research and create our own materials.	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	英会話 II			担当者	ジョン・フォーセット		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-105		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	To learn about different cultures and ways of life especially the links between cultures.
授業概要	In the first half of the class we will revise and practice useful vocabulary. In the second we will read about and discuss aspects of life and ideas characteristic of other societites.
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	定期試験の成績（40%）、予習・レポート・プレゼン・授業姿勢（60%
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	Class and one to one feedback and explanations will be during class and on submitted work. Students with questions can contact me via email for online or in-person appointments according to personal wishes and general circumstances.
履修条件・注意事項	積極参加を重視します。The teacher will speak 100% native English!
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	語彙練習をしっかり取り込むこと。
オフィスアワー	1700~1800~ generally evenings are best, except for Friday when I sometimes go home earlier.

授業計画		担当者
第１回	Course Introduction	Fawsitt
第２回	Modernity and Globalisation	Fawsitt
第３回	Tourism and Travel	Fawsitt
第４回	National Images and Stereotyping	Fawsitt
第５回	Japan as Seen from Outside	Fawsitt
第６回	"Western" Cultures	Fawsitt
第７回	Europe and the United States	Fawsitt
第８回	Asian Areas	Fawsitt
第９回	Japan as "In-Between"	Fawsitt
第１０回	Religions Now	Fawsitt
第１１回	Japanese Religions	Fawsitt
第１２回	Poverty and Wealth	Fawsitt
第１３回	The Environment and Culture	Fawsitt
第１４回	Local Cultures	Fawsitt
第１５回	The Future of Culture	Fawsitt
第１６回	定期試験	Fawsitt

教科書			
教・書籍名１	授業中に適宜資料を配付する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	韓国語Ⅰ			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2017～2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-106		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	この講義では、韓国語の文字構成（子音・母音）と音素、音節の構成原理（子音と母音の組み合わせ）を基礎から身に付け、読み書き能力を体系的に学修する。また、韓国語と関連する社会、文化、歴史、慣習などの背景をも学修する。最終的には、基礎文法や日常生活表現による自己紹介文の作成を目標とする。 この講義を受講すれば、日本に隣接する韓国の社会や文化が理解できる。また、コミュニケーション・スキルとともに、韓国の友達がつくられる。
授業概要	日本に近接する韓国を理解するために必要な言葉を身に付けることは、最も有効な方法の一つである。特に、言語学的に類似性を持つ日本語と韓国語は、韓国語を学習する日本人にとって有利な側面が多い。この講義では韓国の理解に必要な初級レベルの会話とその背景を学習する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	ハングルの子音と母音	李　分一
第３回	子音と母音（読み書き）	李　分一
第４回	子音と母音の組み合わせ	李　分一
第５回	子音と母音の発音	李　分一
第６回	私はチャンジウンと言います。	李　分一
第７回	練習問題（挨拶）	李　分一
第８回	私は韓国人ではありません。	李　分一
第９回	練習問題（職業の単語）	李　分一
第１０回	韓国語は面白いですか。	李　分一
第１１回	練習問題（趣味の言葉）	李　分一
第１２回	週末は何をしますか。	李　分一
第１３回	練習問題（食べ物の単語）	李　分一
第１４回	授業は何時からですか。	李　分一
第１５回	練習問題（花と木の単語）	李　分一

第１６回	定期試験		李　分一
教科書			
教・書籍名１	親しくなれる韓国語	教・出版社名１	白帝社
教・著者名１	崔瑞ヒョン	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86398-123-2 C3087
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	韓国語Ⅱ			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2017～2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-107		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	この講義では、韓国語Ⅰで学修したハングル（子音、母音）、基礎文法、日常生活会話を中心に、各テーマに対応できる実践会話の修得とともに、最終的には中級レベル会話習得を目標とする。 この講義を受講すれば、日本に隣接する韓国の社会と文化が理解できる。また、コミュニケーション・スキルとともに、韓国の友達がつくられ、しかも韓国への一人旅もできる。
授業概要	日本と韓国は、古来より密接な関係にあったと言われている。この授業の前半部では、韓国の社会、文化、歴史、慣習などの内容と関連する初級レベルの会話を中心に学習する。また、教科書に登場する各テーマに応じた背景知識について意見交換を行う。後半部では、韓国の時事的関心事について自分の意見を自ら提示できる中級レベル会話を習得するため、必要とされる多様な背景を提供して意見交換を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	このガバンはいくらですか。	李　分一
第３回	練習問題（世界の貨幣とお金の単語）	李　分一
第４回	運転できますか。	李　分一
第５回	練習問題（外国語表記）	李　分一
第６回	韓国の食べ物が好きですか。	李　分一
第７回	練習問題（体の単語）	李　分一
第８回	南大門市場まで遠いですか。	李　分一
第９回	練習問題（形容詞の反対語）	李　分一
第１０回	写真を撮って下さい。	李　分一
第１１回	練習問題（家族の呼称）	李　分一
第１２回	どちらのご出身ですか。	李　分一
第１３回	練習問題（場所の単語）	李　分一
第１４回	夏休みに韓国へ行きました。	李　分一
第１５回	練習問題（十二支と動物の単語）	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	親しくなれる韓国語	教・出版社名１	白帝社
教・著者名１	崔瑞ヒョン	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86398-123-2 C3087
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	韓国語III			担当者	崔　瑞玹		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-108		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「韓国と韓国語の理解」がテーマである。到達目標は真面目に学習すれば、日常会話、文章の書き、新聞やﾄﾞﾗﾏなどで使われる韓国語が聞き取れることができるようにすることである。また、韓国・韓国語の勉強が楽しめるようにすること。
授業概要	講義概要と目的は次の通りである。日本に近接する韓国を理解するために言語を身につけることは、最も有効な手段の1つである。 この講義では、中級ﾚﾍﾞﾙの会話とﾋﾞｼﾞﾈｽの言葉について学習する。講義の内容は、初級の学習内容を復習しながら、初級から中級へと無理なくｽﾃｯﾌﾟｱｯﾌﾟできるようにする。文字、基礎の文法の勉強と共に、状況や場面に応じた自己紹介や家族の紹介、出会い、食事、ﾋﾞｼﾞﾈｽの言葉、などの内容をわかりやすく説明する。また、講義では韓国の社会、文化、歴史、習慣などについても学習する。 この科目は外語学院などにおいて語学講師としての実務経験のある外部講師が担当しており、その経験を活かし、韓国語のより実践的な語学の勉強ができる授業を実施する。講義内容は変更も可能である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	授業態度・貢献度など(40%)、単位認定試験(60%)によって評価する。 なお、評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験まで見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間を利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	教科書購入。積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、ﾒｰﾙ、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。教科書あるいは配布した資料を事前によく読むこと。また、毎回予習(2時間)、復習(2時間)をして、自分のものにしておくこと。日頃から、韓国、韓国語に関心を持つこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前には参考資料の予習(毎回2時間)と講義後には復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	授業終了後に教室で実施。

授業計画		担当者
第１回	1.オリエンテーション	崔　瑞玹
第２回	2.名詞＋です	崔　瑞玹
第３回	3.名詞の否定文	崔　瑞玹
第４回	4.ます・です(丁寧表現①)	崔　瑞玹
第５回	5.ます・です(丁寧表現②)	崔　瑞玹
第６回	6.ます・です(丁寧表現③)	崔　瑞玹
第７回	7.数詞（漢字語数詞）	崔　瑞玹
第８回	8.数詞（固有語数詞）	崔　瑞玹
第９回	9.中間テスト	崔　瑞玹
第１０回	10.Ø体	崔　瑞玹
第１１回	11.Ø体（縮約形①）	崔　瑞玹
第１２回	12.Ø体（縮約形②）	崔　瑞玹
第１３回	13.過去形①	崔　瑞玹
第１４回	14.過去形②	崔　瑞玹

第１５回	15.全体のまとめ	崔　瑞玹	
第１６回	16.単位認定試験	崔　瑞玹	
教科書			
教・書籍名１	一人で学ぶ韓国語	教・出版社名１	白帝社
教・著者名１	崔ソヒョン	教・ＩＳＢＮ１	ISBN 978-4-86398-285-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ビジネス日本語Ⅰ			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2017～2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2020年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	SS-BU-1-110		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本講義は、日本のビジネスの現場で求められる日本語力の基礎を養うことをテーマとし、到達目標は次の３点とする。 （1）基本的なビジネスマナーについて理解することができる。 （2）ビジネスの様々な場面で、敬語を含む表現を適切に用いてコミュニケーションをとることができる。 （3）ビジネスメールの書き方を理解し、実際に書くことができる。
授業概要	基本的なビジネスマナーについて理解するとともに、ロールプレイングを行い、実践力を身につける。 敬語についての基本的な知識を確認し、ビジネスの場面における特徴的な敬語について学ぶとともに、ロールプレイングを通して、ビジネス場面でのコミュニケーション行動にともなうさまざまな表現の運用練習を行う。さらに、ビジネスメールの書き方の基本を理解し、実際に書く練習をする。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、課題文書の内容（15%）、ロールプレイング時の参加態度（15%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出された課題文書は授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	ロールプレイングには積極的に参加する必要がある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，ビジネス場面での日本語の運用に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 また、授業内で修得したビジネスマナーは、日々の生活の中で実践するよう努めること。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	雲津 英子
第２回	あいさつの基本	雲津 英子
第３回	敬語の使い方	雲津 英子
第４回	身だしなみのマナー／紹介する	雲津 英子
第５回	身だしなみのマナー／電話をかける・受ける	雲津 英子
第６回	入室・退室のマナー／注意をする・注意を受ける	雲津 英子
第７回	話し方のマナー／頼む・断る	雲津 英子
第８回	整理整頓のマナー／許可をもらう	雲津 英子
第９回	携帯電話のマナー／ビジネスメールの基本	雲津 英子
第１０回	社会人としてしてはいけないこと／ビジネスメールの作成（依頼）	雲津 英子
第１１回	社会人らしい行動と言葉遣い／ビジネスメールの作成（問い合わせ）	雲津 英子
第１２回	ビジネスメールの作成（社外・社内）	雲津 英子
第１３回	電話対応（アポイントをとる／問い合わせをする）	雲津 英子

第１４回	電話対応（相手を待たせているとき／怒っている相手に謝る）	雲津 英子
第１５回	まとめ	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	しごとの日本語（ビジネスマナー編）	参・出版社名１	アルク
参・著者名１	釜渕優子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-1467-9
参・書籍名２	しごとの日本語（メールの書き方編）	参・出版社名2	アルク
参・著者名2	奥村真希　釜渕優子	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7574-1368-9

授業科目名	ビジネス日本語Ⅱ			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2018～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-111		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本講義は、日本のビジネスの現場で求められる日本語の運用力を養うことをテーマとし、到達目標は次の3点とする。 （1）ビジネスマナーについて理解することができる。 （2）ビジネスの様々な場面で、敬語を含む表現を適切に用いてコミュニケーションをとることができる。 （3）ビジネスメール・ビジネス文書・履歴書・自己紹介文の書き方を理解し、実際に書くことができる。
授業概要	ビジネス日本語Ⅰに引き続き、ビジネスマナーについて理解するとともに、ロールプレイングを行い、実践力を身につける。 さらに、ビジネス場面で、敬語を含む表現を適切に用いてコミュニケーションをとることができるように、ビジネス場面でのコミュニケーション行動にともなうさまざまな表現の運用練習を行う。 ビジネスメール、ビジネス文書、履歴書、自己紹介文の書き方を理解し、実際に書く練習をする。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、課題文書の内容（15%）、ロールプレイング時の参加態度（15%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出された課題文書は授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	ロールプレイングには積極的に参加する必要がある。 ビジネス日本語Ⅰを履修していることが望ましい。
実務経験のある教員	該当する ／ 内容：この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，ビジネス場面での日本語の運用に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 また、授業内で修得したビジネスマナーは、日々の生活の中で実践するよう努めること。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

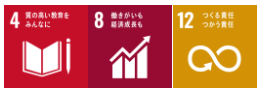
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	雲津 英子
第２回	ビジネスメールのマナー／ビジネスメールの作成（承諾）	雲津 英子
第３回	名刺交換のマナー／ビジネスメールの作成（お礼）	雲津 英子
第４回	接客・訪問のマナー／ビジネスメールの作成（お詫び）	雲津 英子
第５回	接待・会食のマナー／ビジネスメールの作成（断り）	雲津 英子
第６回	席次のマナー／ビジネス文書の作成（社内）	雲津 英子
第７回	指示を受けるときのマナー／ビジネス文書の作成（社外）	雲津 英子
第８回	電話対応のマナー／電話対応（担当者が電話中の時の対応）	雲津 英子
第９回	報告・連絡・相談のマナー／電話対応（担当者が離席中の時の対応）	雲津 英子
第１０回	社内でのコミュニケーション／電話対応（至急の時の対応）	雲津 英子
第１１回	日本人の仕事観／電話対応（よく聞き取れない時の対応）	雲津 英子

第１２回	自己分析／自己紹介文の書き方	雲津 英子
第１３回	履歴書の書き方	雲津 英子
第１４回	履歴書の修正	雲津 英子
第１５回	まとめ	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	しごとの日本語（ビジネスマナー編）	参・出版社名１	アルク
参・著者名１	釜渕優子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-1467-9
参・書籍名２	しごとの日本語（メールの書き方編）	参・出版社名2	アルク
参・著者名2	奥村真希　釜渕優子	参・ＩＳＢN2	978-4-7574-1368-9

授業科目名	インターンシップ			担当者	井勝　久喜、稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-112		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１２．つくる責任・つかう責任 
到達目標	「実社会を経験し、有意義な大学生活を送る」をテーマとして、企業における実習を経験し、社会人としての基礎知識を身につけるとともに、その後の大学生活を有意義に送るためにはどうすればよいか、自分で考え、自分で行動できる能力を身につけることを到達目標とする。
授業概要	就職した大学生のうち、30%が3年以内に会社を辞めるという事実。政府はフリーターを正しい職業に就かせるために、意識を変えるための措置を考えているがままならない。大学のうちに社会、民間企業とのコラボレーションをとりながら企業との接点を持ち、実社会への興味を喚起させるため、また若者の自由で、柔軟な発想で企業を活性化させる目的でインターンシップを行う。授業は、基礎知識やマナーを修得するための講義と、実際に企業に出向いて行う実習により構成されている。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	実習評価（40%）、実習報告書（30%）、インターンシップ報告会での報告（30%）を合わせて総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	インターンシップ受け入れ先企業の評価を各履修者に配布する。
履修条件・注意事項	初回から必ず参加のこと。講義の欠席者は補講を受けなければ実習に参加することができない。企業での実習を休んだ場合には、再実習を行わないと単位を認定しない。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	講義においては、毎回の指示に従って予習と復習を行うこと。インターンシップ実習では実習内容を予習してから実習に望むこと。また、毎日振り返りシートを記載するので、担当者から受けたコメントを復習すること。予習と復習には各2時間程度必要。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施

授業計画		担当者
第１回	インターンシップの説明	井勝久喜・稲元洋輔
第２回	インターンシップの手続き	井勝久喜・稲元洋輔
第３回	業界・企業研究	学部講師
第４回	志望動機の書き方	外部講師
第５回	ビジネスマナー	学部講師
第６回	インターンシップ実習（企業により内容が異なる）	各企業担当者
第７回	インターンシップ実習（企業により内容が異なる）	各企業担当者
第８回	インターンシップ実習（企業により内容が異なる）	各企業担当者
第９回	インターンシップ実習（企業により内容が異なる）	各企業担当者
第１０回	インターンシップ実習（企業により内容が異なる）	各企業担当者
第１１回	インターンシップ実習（企業により内容が異なる）	各企業担当者
第１２回	インターンシップ実習（企業により内容が異なる）	各企業担当者
第１３回	インターンシップ実習（企業により内容が異なる）	各企業担当者
第１４回	インターンシップ実習（企業により内容が異なる）	各企業担当者
第１５回	インターンシップ実習（企業により内容が異なる）	各企業担当者
第１６回	インターンシップ報告会	井勝久喜・稲元洋輔
第１７回		

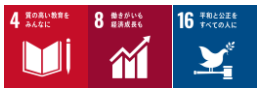
第１８回		
第１９回		
第２０回		
第２１回		
第２２回		
第２３回		
第２４回		
第２５回		
第２６回		
第２７回		
第２８回		
第２９回		
第３０回		
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	インターンシップの手引きを配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	インターンシップ	参・出版社名１	学文社
参・著者名１	古閑博美	参・ＩＳＢＮ１	ISBN：4-7620-1064-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	簿記Ⅰ			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2017～2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-201		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	「簿記の全体像の理解」がテーマである。企業の経営状態を把握するためには重要な情報源のひとつが会計情報である。会計情報は日々の取引の管理と決算時の会計処理によって構築されている。これら会計処理を行うために必要なのが簿記の知識である。この授業では，簿記，とくに複式簿記の基本的な構造，手続きについて学ぶ。 この授業では簿記について知識がまったくなくても初学者が学びやすいレベルの入門講義であり、簿記の専門用語と基本的な事項を理解することが目標である。
授業概要	この授業では、簿記の原理、貸借対照表、損益計算書、取引、仕訳、小切手、現金過不足、当座預金、当座借越、小口現金、返品、付随費用、前払金と前受金、商品券、有形固定資産の取得、減価償却、有形固定資産の売却、貸付金と借入金、未収入金と未払金、仮払金と仮受金、立替金と預り金などについて講義する。 簿記は技術であるので、単に教科書を読むだけでは不十分である。実際に手を動かして、電卓を活用して、体で覚えて初めて使いこなせるようになるので、配布する問題を自分で解くなど積極的な姿勢が求められる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度・貢献度：40%、単位認定試験：60%によって総合的に評価する。 テストは持ち込み不可。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義の中やオフィスアワーを利用して随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	簿記は通常使用している日本語とは異なる専門用語を多用します。日本語を母語とする者にも難しいものです。ある程度日本語能力を身に着けてから受講してください。 授業には積極的な姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、居眠り、ゲーム、飲食、無断退室の厳禁である。 出席も重要ですので休まないようにすること。 配布資料は事前によく読み、自分の考えを用意しておくこと、また毎回予習と復習を心かけること。 電卓持参。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習はYouTubeにあがっている簿記に関する動画を必ず見てくること（2時間）。 事後学習は教科書としてあげた教材を用いて復習すること（2時間）。
オフィスアワー	研究室、月曜日3限

授業計画		担当者
第１回	簿記とは	竹岡
第２回	商品売買、決算	竹岡
第３回	現金、預金	竹岡
第４回	売買、原価	竹岡
第５回	手形、貸付金・借入金	竹岡
第６回	固定資産、経費	竹岡
第７回	仮払金・借受金、純資産	竹岡
第８回	決算、決算整理仕訳①	竹岡
第９回	決算整理仕訳②	竹岡
第１０回	原価償却、貸倒引当金	竹岡

第１１回	在庫、消費税、法人税等		竹岡
第１２回	税金の復習		竹岡
第１３回	余剰金、帳簿		竹岡
第１４回	精算表		竹岡
第１５回	総復習		竹岡
第１６回	単位認定試験		竹岡
教科書			
教・書籍名１	スッキリわかる 日商簿記3級 第12版 [テキスト&問題集]	教・出版社名１	TAC出版
教・著者名１	滝澤 ななみ	教・ＩＳＢＮ１	978-4813296126
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	ホントにゼロからの簿記３級	参・出版社名１	Kindle電子書籍
参・著者名１	ふくしままさゆき	参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	簿記Ⅱ			担当者	崔　瑞玹		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-202		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「簿記の全体像の理解」がテーマである。簿記1で学んだ専門用語と基本的な事項を活かして実力アップ問題を解けることができるようにすることが目標である。また、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級の合格を目指すことができるように専門用語と基礎知識を身につけさせる。（簿記Ⅰを履修するのが望ましい。）
授業概要	この授業では、1学期で学んだ仕訳を使用して約束手形、手形の裏書、手形の割引、転記（補助簿）、（仕訳帳）、（総勘定元帳）、伝票会計､試算表など゛について講義する。 簿記は技術であるので、単に教科書を読むだけでは不十分である。実際に手を動かして、電卓を活用して、体で覚えて初めて使いこなせるようになるので、配布する問題を自分で解くなど積極的な姿勢が求められる。講義内容は変更も可能である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	単位認定試験(60%)、小テストと授業の取り組みなど(40%)による総合評価。 なお、評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験まで見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間を利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	授業には積極的な姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、居眠り、着帽、ﾒｰﾙ、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。出席も重要ですので休まないようにすること。配布資料は事前によく読み、自分の考えを用意しておくこと、また毎回予習と復習を心かけること。 （電卓持参）
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前後に予習（2時間）と復習（2時間）をするための課題を指示する。
オフィスアワー	授業終了後に教室で実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（１学期復習）	崔　瑞玹
第２回	取引・仕訳①	崔　瑞玹
第３回	取引・仕訳②、クレジット売掛金	崔　瑞玹
第４回	小切手・現金過不足	崔　瑞玹
第５回	当座預金・当座借越	崔　瑞玹
第６回	小口現金・付随費用・立替金	崔　瑞玹
第７回	前払金・前受金・受取商品券	崔　瑞玹
第８回	固定資産の売却	崔　瑞玹
第９回	有形固定資産の売却	崔　瑞玹
第１０回	小テスト	崔　瑞玹
第１１回	資本金・固定資産税・訂正仕訳	崔　瑞玹
第１２回	電子記録債権・債務、有価証券の購入・売却	崔　瑞玹
第１３回	仕訳帳・総勘定元帳・現金出納帳	崔　瑞玹
第１４回	決算まとめ	崔　瑞玹
第１５回	総合まとめ	崔　瑞玹

第１６回	単位認定試験		崔　瑞玹
教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	講義時に参考書・資料などを予習ができるように適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	はじめての人の簿記　入門熟	参・出版社名2	かんき出版
参・著者名2	浜田　勝義　著	参・ＩＳＢＮ2	ISBN978-4-7612-6290-7

授業科目名	環境経営概論			担当者	井勝　久喜		
配当学科・研究科	2019年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-204		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	「社会的責任経営の必要性と意義」をテーマとして、社会における諸課題と企業経営の関係性を学び、なぜ社会的責任経営が必要なのかということについて考える。社会課題と経済及び社会的責任経営の方法論を学ぶことにより、企業の社会的責任について考える。 到達目標は下記の通りです。 ・企業活動が社会に及ぼす影響を理解し、説明することができる ・環境問題と企業活動の関係を説明することができる ・社会的責任の国際規格（ISO26000）を説明できる ・企業経営における経営倫理の重要性を理解し、説明することができる ・社会的責任経営の方法を提案できる能力が身についている
授業概要	なぜ、企業は社会的責任経営に取り組まなければならないのか、持続可能な人類社会を築くために社会的責任経営が必要なことを、社会における諸課題の発生の原因と関連づけて理解する。さらに、持続可能な企業経営における、企業の社会的責任と経営戦略の概念と重要性について理解するとともに、社会的責任経営の具体的内容について概要を講義する。 講義、グループディスカッション、ケースメソッド、BRDなど参加型学習方法も取り入れて授業を行う。毎回、課題レポートを作成する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	試験（40%）、課題レポート（60%）で評価する。ただし、他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には、減点することもある。また、参加型学習法であることから、授業態度を重視する。詳しい評価方法は、初回の授業時に説明する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポート等は採点して授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	１）初回の講義には、必ず出席すること。 ２）評価方法でも示したとおり、出席と授業での学び重視しているので、授業を休まないようにすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）講義と参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。次の授業までに必要な予習の内容については授業時間中に指示する。 ２）指示に従って、必ずノートを作成し復習をすること。 ３）BRD（Brief Report of the Day：当日ブリーフレポート）学習法により授業を行う場合は前週に資料を配布するので、しっかり読み込んで、不明な点は調べてくること。 予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施

授業計画	担当者

第１回	ＣＳＲの定義と概要	井勝久喜
第２回	ＣＳＲ経営の概要	井勝久喜
第３回	地球環境と社会システムの現状	井勝久喜
第４回	経済理論とＣＳＲ	井勝久喜
第５回	ＣＳＲと豊かさの概念	井勝久喜
第６回	地球の限界とエコロジカル・フットプリント	井勝久喜
第７回	社会的責任の国際規格（ISO26000）	井勝久喜
第８回	ISO26000（社会的責任の原則）	井勝久喜
第９回	ISO26000（中核主題）	井勝久喜
第１０回	ＣＳＲと環境経営	井勝久喜
第１１回	ステークホルダー・エンゲージメント	井勝久喜
第１２回	経営倫理とＣＳＲ	井勝久喜
第１３回	ＣＳＲとグローバルコンパクト	井勝久喜
第１４回	ＣＳＲと社会的責任投資	井勝久喜
第１５回	ＣＳＲ実践の課題と戦略	井勝久喜
第１６回	試験	井勝久喜

教科書			
教・書籍名１	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ＣＳＲの基礎	参・出版社名１	中央経済社
参・著者名１	國部克彦	参・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4-5002-22541-3
参・書籍名２	ＣＳＲ経営要論	参・出版社名2	創成社
参・著者名2	佐久間信夫　他	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7944-2551-5

授業科目名	マーケティング入門			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2019年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2015年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	SS-BU-1-205		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１２．つくる責任・つかう責任／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	「企業におけるマーケティング重要性の理解」がテーマである。到達目標は、この講義を通じてマーケティングの基礎知識を習得し、それに基づいてﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞの基本概念を説明できるようにすること、マーケティングの全体像を理解することを目標とする。さらに、次のような能力が養成されることを目標とする。丁寧に講義のノートをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力を、教科書と資料を読み、調べることによって、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報処理力、計画力、分析力、判断力を、さらに講義の内容に質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とコミュニケーション能力を養うことも目標としている。
授業概要	講義の目的と概要は次のとおりである。マーケティングは広い意味での企業における経営活動の一部であるが、最も重要な部分でもある。なぜなら、企業は売ることの課題に取り組む必要性があり、企業の利益は、製品やサービスを消費者に売るところから生まれるからである。では企業活動の中でマーケティングとはどのように位置付けられ、どのような役割を担っているのだろうか。講義では、マーケティングの基本についての学習と問題意識を高めることを目的にする。講義では、従来のマーケティング分野に加えて近年注目されている行動経済学の諸研究も交えて、市場を作る側とそれを選択する側、両方の側面から学修していく。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度・貢献度：40%、単位認定試験：60%によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の中やオフィスアワーを利用して随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、ゲーム、飲食、無断退室は厳禁である。教科書あるいは配布した資料を事前によく読むこと。また、毎回復習をして、自分のものにしておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前に教科書を用いた予習(毎回2時間)と講義後にはノートに基づく復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室、火曜日4時限。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	竹岡
第２回	マーケティングとは	竹岡
第３回	マーケティングの基本	竹岡
第４回	製品のマネジメント	竹岡
第５回	価格のマネジメント	竹岡
第６回	広告のマネジメント	竹岡
第７回	チャネルのマネジメント	竹岡
第８回	市場の確認	竹岡
第９回	コンセプト開発	竹岡
第１０回	サプライチェーン	竹岡
第１１回	消費者の行動	竹岡
第１２回	顧客関係	竹岡

第１３回	ブランド		竹岡
第１４回	企業の社会的責任		竹岡
第１５回	全体のまとめ		竹岡
第１６回	単位認定試験		竹岡
教科書			
教・書籍名１	1からのマーケティング（第4版）	教・出版社名１	碩学舎
教・著者名１	石井淳蔵・廣田章光・清水信年（編著）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-502-32771-1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	リーダーシップと経営者			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2015年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-206		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	経営者のリーダーシップを理解するのがテーマである。この科目の到達目標は多様な仕事内容や経営者の実像を把握できるようにすると共に将来のリーダーとして、どのように自分を育成していくかを理解すること。また、地域に愛着心を持つと共に地域産業の実態を知ってもらうことを目標とする。
授業概要	この科目は高梁市商工会議所の協力により、実務経験を持つ企業の経営者などをを外部講師に招き、経営者としてのﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟのあり方や、事業や仕事に携わった経験を活かして、講義し、学生の理解を深める。講義は、毎回外部から講師を招聘して講義をする。外部の特別講師の場合は都合によっては変更可能である。高梁商工会議所の会員の外部講師による講演を通じて、実際のﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟの理解と共に地域企業の取り組み等を紹介する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	授業態度・貢献度・感想文(40%)、単位認定試験(60%)によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、ﾒｰﾙ、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。配布した資料を事前によく読むことと共に外部講師の話を静かに良く聞くこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前には参考資料の予習(毎回2時間)と講義後には復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	姜
第２回	2.人づくり、町づくり、仕事づくり	外部講師・姜
第３回	3.時代とともに変わるプロモーション戦略	外部講師・姜
第４回	4.洋菓子の経営と今後の展望	外部講師・姜
第５回	5.高梁市と中小企業の経営者	外部講師・姜
第６回	6.信用金庫の業務と備北信用金庫の経営方針	外部講師・姜
第７回	7.ﾒﾃﾞｨｱを通して地域を見る-そして本業	外部講師・姜
第８回	8.電力事業の状況と中国電力ネットワーク(株)の取り組みについて	外部講師・姜
第９回	9.100年企業として・・・地域で必要とされる存在であり続けるために	外部講師・姜
第１０回	10.リーダーシップと経営者	外部講師・姜
第１１回	11.リーダーシップと経営者	外部講師・姜
第１２回	12.好きなことをして生きる	外部講師・姜
第１３回	13.私が見てきた、経営者たち	外部講師・姜
第１４回	14.リーダーシップと経営者	外部講師・姜

第１５回	15.仕事と私	外部講師・姜
第１６回	16.単位認定試験	姜

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	予習ができるように講義時に参考書・資料などを事前に適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	経営管理論			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-207		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「企業経営において経営管理の全体像の理解」がテーマである。到達目標は、この講義を通じて経営管理論の基礎知識を習得、経営管理論の重要性を認識し、経営管理論の概念を説明、応用できる力を身につけるとともに、経営管理論の全体像を理解することを目標とする。また、次のような能力が養成されることを目標にする。丁寧に講義内容のﾉｰﾄをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力が養われる。また、教科書を読み、資料を読み、調べることによって、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報処理力、分析力、判断力が養われる。さらに、講義の内容について質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力が養われる。
授業概要	講義目的と概要は、以下の通りである。現代は経営管理の時代であり、組織の時代である。学生諸君の身近なところでは、学園祭にも、ｸﾞﾗﾌﾞやｻｰｸﾙにもﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄが存在する。受講者の皆様も就職して10,20年程度経つと管理者、経営者になる。 　講義では、科学的管理法、人間管理論、動機づけとﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ論などを講義する。また、企業経営問題のさまざまな側面について、具体的な事例を活用して経営に関する基礎的な理論をわかりやすく解説し、それを理解させる。ﾋﾞﾃﾞｵ教材も活用する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	授業態度・貢献度など(40%)、単位認定試験(60%)によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	教科書購入。積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、ﾒｰﾙ、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。教科書あるいは配布した資料を事前によく読むこと。また、毎回復習をして、自分のものにしておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前には参考資料の予習(毎回2時間)と講義後には復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	姜
第２回	2.経営管理論とはなにか	姜
第３回	3.科学的管理法	姜
第４回	4.科学的管理法の限界	姜
第５回	5.管理過程論と官僚理論	姜
第６回	6.人間関係論(1)	姜
第７回	7.人間関係論(2)	姜
第８回	8.動機づけ論	姜
第９回	9. ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ論	姜
第１０回	10.経営組織論	姜
第１１回	11. 組織構造と戦略	姜

第１２回	12. 新しい組織の流れ	姜
第１３回	13.ｹｰｽの研究(ﾄﾖﾀ)	姜
第１４回	14.ｹｰｽの研究(ﾄﾖﾀ)	姜
第１５回	15.全体のまとめ	姜
第１６回	16.単位認定試験	姜

教科書			
教・書籍名１	経営管理論の基礎	教・出版社名１	ふくろう出版
教・著者名１	姜　明求	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	国際マーケティング論			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-208		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「グローバル市場においてグローバル企業の全体像を理解」がテーマである。到達目標は、日本、米国、韓国の事情、企業の経営特徴に関する知識を習得し、それぞれの国の経営について説明と応用ができるようにすることである。また、グローバル戦略論の全体像を理解することを目標とする。さらに、次のような能力が養成されることを目標にする。丁寧に講義のﾉｰﾄをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力が養われる。また、教科書と資料を読み、調べることによって、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報力、計画力、分析力、判断力が養われる。さらに、講義の内容について質問をし、それに答える訓練を通じて考える力とｺﾐﾆﾆｹｰｼｮﾝ能力が養われる。
授業概要	講義の目的と概要は次のとおりである。世界的なﾚﾍﾞﾙで、企業や社会のｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化が急速に進展している。すなわち、ﾎﾞｰﾀﾞﾚｽ時代あるいはｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ時代といわれ、国境を超えた企業の活動が盛んになっている。ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化をしている企業がどのような仕組みで管理を行っているのか、またｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化した企業がどのような問題に直面し、どのように克服しようとしているのか、といったことを学習する。また、日本企業の重要な活動地域の東南ｱｼﾞｱ、中国、米国の地域事情をわかりやすく説明する。 　本講義では、多国籍企業の経営、定義、国際経営戦略、海外子会社の経営、組織戦略、外資系企業などの課題についてわかりやすく説明する。 　また、日本企業の具体的な事例に基づきながら、基礎的な知識の理解を深めるとともに、これらについての問題意識を高めることを目的に講義する。さらに、ﾋﾞﾃﾞｵ教材も活用する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	授業態度・貢献度など(40%)、単位認定試験(60%)によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	教科書の購入。積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、ﾒｰﾙ、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。日頃から、新聞、雑誌などを読んでｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化をしている日本企業に関心を持つこと。教科書あるいは事前に配布した資料を読むこと。また、毎回・復習をして自分のものにしておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前には参考資料の予習(毎回2時間)と講義後には復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	姜
第２回	2.多国籍企業の経営	姜
第３回	3.多国籍企業の経営の特徴	姜
第４回	4.東南ｱｼﾞｱ・中国と日本企業	姜
第５回	5.国際経営戦略	姜
第６回	6.国際ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞと地域(東南ｱｼﾞｱ、中国、米国)	姜
第７回	7.国際ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞと地域	姜

第８回	8.海外生産と技術移転(東南ｱｼﾞｱ、中国、米国)		姜
第９回	9.国際経営組織と所有政策		姜
第１０回	10.米国と日本企業		姜
第１１回	11.海外子会社の経営		姜
第１２回	12.外資系企業		姜
第１３回	13.ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ経営		姜
第１４回	14.ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ経営(2)		姜
第１５回	15.全体のまとめ		姜
第１６回	16.単位認定試験		姜
教科書			
教・書籍名１	国際経営(第4版)	教・出版社名１	有斐閣アルマ
教・著者名１	吉原　英樹	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本経済論			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2017～ 2019年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／ 2015年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-210		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	この講義は、日本経済に関する基礎的知識とその実体的事実関係を分析して理解することに重点を置く。そして、日本経済の特徴は、日本型対アメリカ型という単純な比較ではなく、日本経済の現状をさまざまな立場や観点から客観的かつ具体的に取り上げて、多面的に捉えてゆく。この講義内容のポイントは、日本経済の捉え方と日本経済の軌跡を分析し説明する。 この講義を受講すれば、日本経済の実体に関する基本的な見方や仕組み、そして日本経済の軌跡などが理解でき、また様々な経済現象をめぐる論理的思考・理解の能力と問題の発見力、そしてその問題の解決力が修得できる。
授業概要	これまでの日本経済は、規制や協調と競争の絶妙のバランスの上で成り立って成果を上げてきたが、21世紀前後のIT革命の進歩や経済のグローバル化の進展、そして人口の少子高齢化などにより、日本型経済構造の変革を余儀なくされてきた。一方、小さいな政府や自由競争を基盤とするアメリカ型資本主義にも大きな修正が加えられた。本講義では、日本型対アメリカ型といった単純な対比で捉えずに分析し説明する。 この講義の前半部は、日本経済の捉え方をはじめ、日本経済の仕組みや日本経済の現状と課題などを取り上げて説明する。そして後半部の現実経済の分野では、日本経済の復興期、高度成長期、低成長期、バブル経済期、長期不況と日本再生への模索期、そして東日本震災とアベノミクス期などに分けて説明する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

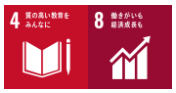
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	現代経済の仕組み	李　分一
第３回	日本経済の捉え方	李　分一
第４回	日本経済の姿	李　分一
第５回	日本経済の課題	李　分一
第６回	日本経済の歩み	李　分一

第７回	経済復興期（1945－54）	李　分一
第８回	高度成長期（1955－70）	李　分一
第９回	低成長期（1971－85）	李　分一
第１０回	資産価格の高騰	李　分一
第１１回	バブルの崩壊	李　分一
第１２回	不良債権と金融システム	李　分一
第１３回	構造改革と日本経済の再生	李　分一
第１４回	東日本大震災	李　分一
第１５回	アベノミクス	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	プリント使用	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	人的資源管理論			担当者	稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2019年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／ 2015年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-211		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も 
到達目標	テーマ：企業経営における人的資源とそのマネジメントについて理解する。 到達目標：人的資源管理の基礎概念を習得し、労働の立場から組織や社会を理解できるようになる。
授業概要	本講義は、人的資源管理の基本的な考え方を学ぶことによって、組織を活かし個人も活きるための知的・実践的スキルを身につけることを目指す。また、労働社会学の観点も取り入れ、人の働き方や仕事に対する意識の側面についてもあわせて理解する。 まず企業における「ヒト」の管理の問題について、歴史的な視点から基本的知識や理論、事例について解説する。 そして、働き方の多様化が進む現代の日本企業についても、事例を用いながら多角的に捉えていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	授業内での課題やレポート等の提出物（30%）と定期試験（70%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題やレポートについては授業内で解説をおこなう。
履修条件・注意事項	授業計画の内容は、進捗状況に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	配布資料や参考書などを読み、予習・復習（各2時間程度）をする。
オフィスアワー	火曜日3時限に研究室（14611）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	稲元洋輔
第２回	企業経営と人的資源管理	稲元洋輔
第３回	人的資源管理の機能	稲元洋輔
第４回	人間と労働	稲元洋輔
第５回	モチベーション	稲元洋輔
第６回	リーダーシップ	稲元洋輔
第７回	組織構造	稲元洋輔
第８回	分業と調整	稲元洋輔
第９回	雇用システム	稲元洋輔
第１０回	人的資源管理の制度(1) キャリア開発	稲元洋輔
第１１回	人的資源管理の制度(2) 賃金制度	稲元洋輔
第１２回	職場・労働環境	稲元洋輔
第１３回	非正規雇用労働者	稲元洋輔
第１４回	女性労働者	稲元洋輔
第１５回	まとめ	稲元洋輔
第１６回	定期試験	稲元洋輔

教科書			
教・書籍名１	資料を配布する。	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	経験から学ぶ人的資源管理	参・出版社名１	有斐閣ブックス
参・著者名１	上林憲雄・厨子直之・森田雅也	参・ＩＳＢＮ１	978-4641184398
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ベンチャービジネスと経済			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2019年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2015年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2020年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-212		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「経済とベンチャービジネスの全体像の理解」がテーマである。到達目標は、この講義を通じてﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の重要性をI理解するとともに、ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の概念の説明ができ、ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の創業と経営ができる知識の習得を高めることにある。また、ベンチャー企業の全体像を理解することを目標とする。さらに、次のような能力が養成されることを目標にする。丁寧に講義内容のﾉｰﾄをとることにより、聴く力、書く力、まとめる力がつく。また、教科書と資料を読み調べることによって、読む力、調べる力、考える力が身につけられるとともに、分析力、判断力を高める。さらに、講義の内容について質問をし、それに答える訓練を通じてｺﾐｭﾆｰｹｰｼｮﾝ能力を高める。
授業概要	講義の目的と概要は次のとおりである。いま世界は新産業の創出への挑戦が不可避であり、起業家活動の重要性が一段と増している。ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の創業は経済発展のｴﾝｼﾞﾝの役割もしている。しかし、日本のﾍﾞﾝﾁｬｰ企業は、その質と量において、米国に比べて劣っている。そこで、日本のﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の実態を米国との比較を通じて、詳しく分析することが目的である。 　本講義では、まずﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の発展を必要とする産業、ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の経済的意義、これまでのﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の歴史、ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の起業戦略はどうあるべきか、成長への戦略をいかに立てていくのか、などの課題についてわかりやすく説明する。ﾋﾞﾃﾞｵ教材も活用し、松下幸之助、本田宗一郎などの経営者たちを取り上げたい。また、講義は、担当教員のみによる講義ではなく、外部から講師も招聘して講義をする。外部の特別講師の場合は都合によっては変更可能である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	授業態度・貢献度など(40%)、単位認定試験(60%)によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、ﾒｰﾙ、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。教科書あるいは配布した資料を事前によく読むこと。また、毎回・復習をして、自分のものにしておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前には参考資料の予習(毎回2時間)と講義後には復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	姜
第２回	2.ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業とはなにか	姜
第３回	3.日本のﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の歴史	姜
第４回	4.ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の現状と経営者	姜
第５回	5.ﾍﾞﾝﾁｬｰﾋﾞｼﾞﾈｽと経済成長の役割	姜
第６回	6.ｹｰｽの研究	姜

第７回	7.ｹｰｽの研究	姜
第８回	8.ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾝの重要性	姜
第９回	9.ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の起業戦略	姜
第１０回	10.ｱﾒﾘｶのﾍﾞﾝﾁｬｰ企業の実態	姜
第１１回	11.ｹｰｽの研究	姜
第１２回	12.ｹｰｽの研究	姜
第１３回	13.ﾍﾞﾝﾁｬｰ･ﾋﾞｼﾞﾈｽ論の課題	姜
第１４回	14.ﾍﾞﾝﾁｬｰ・ﾋﾞｼﾞﾈｽの成功と未来	姜
第１５回	15.全体のまとめ	姜
第１６回	16.単位認定試験	姜

教科書			
教・書籍名１	特定の教科書は使用しない。また、資料は必要に応じて講義の中て配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	予習ができるように講義時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	ﾍﾞﾝﾁｬｰ企業論	参・出版社名2	放送大学教育振興会
参・著者名2	森谷　正規・藤川影一	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	知的財産経営概論			担当者	生駒　正文		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-213		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	「知的財産」は売上の増加に、知的財産を守るツールである「知的財産権」は利益の確保に貢献するもので、各分野の企業経営において、知的財産戦略・戦術の重要性は論をまたないところとなっています。そこで、知的財産権と知的財産経営の基礎を学ぶ上で、自社の売りや強みを見つけ、法律や制度を使って上手にアピールすることで、競合他社の侵害から守ることができ、さらに自社のブランディングや販促に活用することができ、少しでもかかる多くの気づき、考える起点を身につけてほしいと思います。
授業概要	知的財産経営に関する講義は、知的財産の創造（技術・産品）、保護（法律）、活用（経営・経済等）の３領域を動かす原動力となる「知的財産を使った経営戦略」を基礎的に学習します。企業を劇的に変革させるヒントが、この講義に詰まっています。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	試験７０％、授業態度・意欲・小テスト（３０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート・課題は、後日添削して返却します。
履修条件・注意事項	教科書持参、またプリント配布するのでファイルも用意すること
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は大阪・藤田特許事務所顧問としてIPコンサルティングの実務経験を持つ教員が、その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する
事前学習・事後学習とその時間	授業計画ごとに教科書を予習・復習すること（２時間）
オフィスアワー	１２：００から１３：２０　１４号館６階（生駒研究室）

授業計画		担当者
第１回	1.会社と知的資産（会社の種類について、知的資産（経営）について）	生駒正文
第２回	2.知的財産と知的財産権（知的財産、知的財産権の必要性）	生駒正文
第３回	3.知的財産保護制度のあらまし（知的財産の創造・保護・活用）	生駒正文
第４回	4.知的財産保護制度のあらまし（特許とは）	生駒正文
第５回	5.知的財産保護制度のあらまし（実用新案とは）	生駒正文
第６回	6.知的財産保護制度のあらまし（意匠とは）	生駒正文
第７回	７，知的財産保護制度のあらまし（商標とは）	生駒正文
第８回	8.知的財産保護制度のあらまし（著作権と不正競争防止法の仕組み）	生駒正文
第９回	9.特許実務　特許明細書の基本的書き方、秘密保持契約書	生駒正文
第１０回	10.営業秘密管理規定、就業規則、労基法との関係、知的財産権等の評価	生駒正文
第１１回	11.ライセンス契約等	生駒正文
第１２回	12．外国での知的財産権取得（特許・商標・意匠）	生駒正文
第１３回	13．知財経営（知財を使った戦略を立て、マーケティングツールとして使う）	生駒正文
第１４回	14．知財経営（知財でイノベーションを起こす）	生駒正文
第１５回	15．知財経営（知財を活用したブランディング・販促）	生駒正文
第１６回	１６．定期試験	生駒正文

教科書			
教・書籍名１	知的資産経営入門講座	教・出版社名１	マスターリンク

教・著者名１	知的資産経営教育協議会（編集代表生駒正文）	教・ＩＳＢＮ１	９７８－４－９０５４４３－１８－６
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経営心理学			担当者	崔　瑞玹		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-214		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう
到達目標	人々が雇用者として、あるいは被雇用者として職に就き、その組織において利潤を追求する目的で仕事に取り組む際に直面する多様な問題を心理学的立場から実証的に捉え、検討し、解決に役立てるための基本的知識を習得するのがテーマである。到達目標は上記内容を理解できるようにすることである。
授業概要	職業集団や組織における個人の心理過程を、経営・組織の意思決定、人事マネジメント、組織内人間関係とコミュニケーション、人材育成と職業的アイデンティティ、ストレスと健康などの観点から、今日的な経済・経営趨勢の中で捉え直すことによって、組織の生産性の向上と個人の職業的充実感に折り合いをつけて、いわゆる「役立つ」人材とは何であるのか、抉っていきたい。講義内容は変更も可能である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	単位認定試験(60%)、小テストと授業の取り組みなど(40%)による総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間を利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	授業への出席は、教材理解の前提である。私語厳禁。スマホ・携帯電話などの電源は切っておくこと。講義中の飲食はもちろんのこと、机の上の飲食物が目についた場合は、予習・復習点はあたえず、さらに減点する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などから毎回、ポイントを適宜指示する。
オフィスアワー	授業終了後に教室で実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	崔　瑞玹
第２回	リーダーシップ	崔　瑞玹
第３回	フォロワーシップ	崔　瑞玹
第４回	組織コミットメント	崔　瑞玹
第５回	ストレスとメンタルヘルス	崔　瑞玹
第６回	心の健康	崔　瑞玹
第７回	経営・組織の意思決定	崔　瑞玹
第８回	人間関係とコミュニケーション	崔　瑞玹
第９回	人材教育とキャリア	崔　瑞玹
第１０回	人事マネジメント	崔　瑞玹
第１１回	消費者行動の心理学	崔　瑞玹
第１２回	広告の心理学	崔　瑞玹
第１３回	ファッションの心理学	崔　瑞玹
第１４回	分化・環境・経営	崔　瑞玹
第１５回	組織神経科学	崔　瑞玹
第１６回	定期試験	崔　瑞玹

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	経営・ビジネス心理学	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	松田幸弘（編）	参・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7795-1263-6 C3011
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本企業の経営			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-215		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１２．つくる責任・つかう責任／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	「日本企業の経営の特徴の理解」がテーマである。到達目標は、日本企業の経営特徴に関する知識を習得し、説明と応用ができるようにすることである。さらに、次のような能力が養成されることも目標とする。丁寧に講義のノートをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力、教科書や資料を読み、調べることによって、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報処理力、計画力、分析力、判断力、さらに講義の内容に質問をし、それに答える訓練を通じて得られる考える力とコミュニケーション能力。
授業概要	経営学では企業の日常的な意思決定過程などに必要な知識を学修していくが、これまで学校世界が中心となる生活をしてきた学生には想像の付きにくいものである。そこで、本講義では様々なビデオを見る名で企業の日常的な行動や意思決定過程を追いかけ、それらに関係する経営学理論を学ぶことで、体験に基づいた腑に落ちる学習をしてもらうことを目的としている。そのため、本講義ではビデオの視聴とそれに基づいた経営学理論の説明が中心となっている。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度・貢献度30%、学期末レポート70%によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義の中やオフィスアワーを利用して随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、ゲーム、飲食、無断退室は厳禁である。 日頃から、新聞、雑誌などを読んで日本企業・韓国企業・米国企業などの動向に関心を持つこと。 また、毎回復習をして自分のものにしておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習としては常に企業動向に関する新聞やネット記事に触れておくこと。この中で触れた事例の数が学習の深さに比例することになる。(毎日30分) 事後学習としては、当日学んだ事例と理論を他の事例に当てはめたときにどのようになるかに関する考察を行う。(2時間)
オフィスアワー	月曜日3限

授業計画		担当者
第１回	イノベーション	竹岡
第２回	オークション	竹岡
第３回	アパレルとサプライチェーン	竹岡
第４回	ニッチ戦略	竹岡
第５回	価格提案	竹岡
第６回	相関	竹岡
第７回	資源ベースの理論	竹岡
第８回	価格と相対性	竹岡
第９回	アクターネットワーク理論	竹岡
第１０回	意味の変化	竹岡
第１１回	イノベーションの普及	竹岡
第１２回	組織と配置	竹岡
第１３回	参入障壁	竹岡

第１４回	リードユーザー法	竹岡	
第１５回	企業と経営者	竹岡	
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	特定の教科書は使用しない。多数の参考文献を用いる。また、資料は必要に応じて予習ができるように講義の中で配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	1からの戦略論<第2版>	参・出版社名１	碩学社
参・著者名１	嶋口充輝他	参・ＩＳＢＮ１	978-4502167416
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	広告原理			担当者	伊藤　博則		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-216		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ：広告＝マーケティング・コミュニケーション、さらにその上位の経営戦略・マーケティング戦略に関する基本的で実践的な知識を身につける。 到達目標：学生は、マーケティング戦略を理解することで、各種広告＝マーケティング・コミュニケーションの企画立案が出来る。
授業概要	広告＝マーケティング・コミュニケーションは、経済活動の潤滑油です。各企業・団体の活動において欠かせない事業活動です。しかし、広告＝マーケティング・コミュニケーション活動は、メディア環境や経済環境、消費者意識の変遷により、日々変化してきています。 また、広告＝マーケティング・コミュニケーションには、経済的な側面だけではなく、エンターテイメントとしての文化的側面、さらにはその影響力の大きさから社会的側面も有しています。 この講義では、広告＝マーケティング・コミュニケーションの変遷を振り返るとともに、経営戦略（事業戦略）・マーケティング戦略のあり方と、それに基づく広告＝マーケティング・コミュニケーションの企画制作の実作業について、事例を用いながら解説いたします。 毎回実際のテレビコマーシャルや各種広告、動画コミュニケーションの実例を用いながら解説し、その理解を深めていきます。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	メディアの位置づけを理解した上で、マーケティング戦略からコミュニケーション計画、表現制作に至るプロセスの習得度・理解度・発想力を評価する最終レポートウェイト50%、毎回授業の理解度と授業レポートにより評価する提出物ウェイト40%、授業態度ウェイト１０％
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎授業の課題レポートについては、質問欄を設け、次回授業にて質問への回答を行うとともに、レポート内容についてもコメントを行う。
履修条件・注意事項	日常的にインターネット広告・動画広告・テレビコマーシャルや新聞・雑誌広告に意識して接し授業に臨む。毎回授業レポートに各自で学んだポイントとそこから気づいたことをまとめ、質問事項等を記載の上提出する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この授業は広告会社、出版会社、さらには企業の広告広報セクションにて、広告・出版実務を経験さらには現在実践している教員が実例に基づき実践的な授業を実施するものです。
事前学習・事後学習とその時間	１）毎回次回までの課題を出し、予習復習については各2時間程度行うこと。 ２）毎回授業で学んだこと気づいたこと、授業内容への質問を作成する。 ３）全般知識確認のための筆記試験 を行う。
オフィスアワー	授業終了後に、教室にて行う。

授業計画		担当者
第１回	ガイダンス～広告とは何か	伊藤
第２回	日本の広告の歴史（江戸時代～戦前）	伊藤
第３回	日本 の広告の歴史（戦後～昭和40年代）	伊藤
第４回	日本の広告の歴史（昭和50年代 ～現在）	伊藤
第５回	広告と広報	伊藤

第６回	広告とマーケ ティングの関係（マーケティング戦略）	伊藤
第７回	ブランディングとは（企業ブランディングと商品ブランディング）	伊藤
第８回	広告メディア-マス・メ ディアの特性	伊藤
第９回	新たなメディア-ITメディアの台頭	伊藤
第１０回	広告ビジネスに関わる会社と仕事	伊藤
第１１回	実践に学ぶ広告計画の立案	伊藤
第１２回	実践に学ぶ広告制作の流れ	伊藤
第１３回	広告効果測定と広告に関する規制	伊藤
第１４回	広告の周辺業務-プロモーション・商品開発など	伊藤
第１５回	これからの広告（デザイン思考の重要性）	伊藤
第１６回	最終レポート提出	伊藤

教科書			
教・書籍名１	毎回授業資料をアップ	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	この1冊ですべてわかる 新版 広告の基本	参・出版社名１	日本実業出版社
参・著者名１	波田浩之	参・ＩＳＢＮ１	978-4534055804
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	経営倫理			担当者	井勝　久喜		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-217		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１２．つくる責任・つかう責任／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	「企業経営における経営倫理の位置づけの理解」をテーマとし、経営倫理の観点から企業の存在意義と企業経営のあり方を学んでいく。倫理的価値観を持つ経営理念の必要性、従業員や消費者などのステークホルターに対する企業側の倫理的な責任、企業の持続性に対する責任などを問う経営倫理を、企業の社会的責任と関連づけながら学んでいく。持続可能な社会の構築における企業の役割を理解し、実践できる能力を身につけることを到達目標とする。
授業概要	企業は何のために存在しているのかという問いに対して、経営倫理の観点から企業の存在意義を考えていく。企業が持続可能であるためには人間社会と自然環境が持続可能でなければならない。また、存在意義を経営ビジョンとして示し社会的責任を果たしていく必要がある。本講では、倫理学と企業経営の関係、経営倫理の基本的考え方などを学んだ後、企業不祥事、過労死、内部告発、各種ハラスメントなどの事例を題材としてケースメソッドによる学習を行い、経営倫理が企業経営にどのように関係しているのか企業の社会的責任と関連づけながら学んでいく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	前半の講義については試験により学びを確認する（50%）。後半はケースメソッドによる参加型学習を行うので、発言などの授業態度と授業活動レポートで評価する（50%）。ただし、他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には、減点することもある。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業活動レポートについては採点した後、次回の授業時に返却する。
履修条件・注意事項	１）初回の講義には、必ず出席すること。２）ケースメソッドでは出席が必須となるので、授業を休まないこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）配付資料を事前に読んできておくこと。２）後半はケースメソッドの研究と話し合いにより授業を行うので、予習が必須である。２）指示に従って、必ずノートを作成し復習をすること。予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施

授業計画		担当者
第１回	地球の有限性	井勝久喜
第２回	哲学・倫理学と経済の関係	井勝久喜
第３回	経営倫理と教育	井勝久喜
第４回	企業活動と社会	井勝久喜
第５回	経営倫理の必要性	井勝久喜
第６回	企業不祥事と企業倫理	井勝久喜
第７回	社会的責任経営	井勝久喜
第８回	経営理念と企業経営	井勝久喜
第９回	経営倫理教育	井勝久喜
第１０回	ケースメソッド導入講義 と体験	井勝久喜
第１１回	ケースメソッド１（コンプライアンス）	井勝久喜
第１２回	ケースメソッド２（組織風土改革）	井勝久喜
第１３回	ケースメソッド３（ヒューマンリレーションズ）	井勝久喜

第１４回	ケースメソッド４（経営倫理）	井勝久喜
第１５回	第15回 ケースメソッド５（組織行動）	井勝久喜
第１６回	試験	井勝久喜

教科書			
教・書籍名１	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	企業倫理を考える	参・出版社名１	八千代出版
参・著者名１	萩原道雄	参・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4-8429-1588-3
参・書籍名２	企業倫理を歩む道	参・出版社名2	那須照純
参・著者名2	晃洋書房	参・ＩＳＢＮ2	ISBN978-4-7710-2128-0

授業科目名	ブランド戦略と知的財産 （集中）			担当者	隅蔵　康一		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-218		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	知的財産に関する基礎から最近のトピックまでを学ぶ。学生は、企業や大学等の知的財産戦略について、必要事項の概要を把握し、理解を深めることができる。
授業概要	主に、知的財産の基本（知的財産と知的財産権の使い分け、知的財産の具現化の方法、営業秘密の保護、知的財産権の保護、発明は誰のものか、大学と産業との関係、知的財産政策など）、知的財産をめぐる法律（特許法、商標法、著作権法、意匠法など）、デジタルコンテンツと著作権（デジタルライツ・マネジメント、著作権保護のためのテクノロジー、P2Pの課題、など）、先端科学技術と知的財産（ソフトウェアの保護、オープンソース、標準化、パテント・プール、医薬品アクセス、生物の特許可能性、生物多様性条約、リサーチツール特許、など）、知的財産権の国際的イシュー（米国、中国、欧州など）、企業経営における知的財産戦略（知的財産部門の役割、企業のブランド戦略、など）、知的財産戦略と会計（無形資産のオンバランス化、知的財産の評価、など）、知的財産戦略と契約（ライセンス契約、特許訴訟、知財紛争、など）、知的財産に関する職業（弁理士、産学技術移転に関する職業、地方自治体における知的財産関連職種、など）、について講義を行う。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション
評価方法と割合	授業への出席と、授業における真摯な受講態度を前提としたうえで、 授業の中で行う小テストの点数やプレゼンテーションにより、評価を行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プレゼンテーションについては、各自に対して、講評を行う。 小テストの解答は後日配布する。
履修条件・注意事項	予習・復習を各自で行うこと。復習により授業内容を理解したかどうかを確かめるための小テストを、授業の中で行う。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	講義内容を復習し、理解を深めること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

授業計画		担当者
第１回	知的財産制度の全体像	隅蔵康一
第２回	ブランドとは	隅蔵康一
第３回	商標法の概要	隅蔵康一
第４回	地域団体商標と地域ブランド	隅蔵康一
第５回	デザインと意匠法	隅蔵康一
第６回	イノベーションと特許法	隅蔵康一
第７回	不正競争防止法と営業秘密	隅蔵康一
第８回	デジタルコンテンツと著作権	隅蔵康一
第９回	種苗法とブランド戦略	隅蔵康一
第１０回	独占禁止法	隅蔵康一
第１１回	米国における特許の裁判例	隅蔵康一
第１２回	米国における著作権の裁判例	隅蔵康一
第１３回	WTOとTRIPS協定	隅蔵康一
第１４回	プレゼンテーション	隅蔵康一
第１５回	プレゼンテーション	隅蔵康一

第１６回	試験		隅藏康一
教科書			
教・書籍名１	適宜、資料配布	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	アジアビジネス戦略 （集中）			担当者				崔　瑞玹	
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング				SS-BU-3-219	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義		
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義				
ディプロマポリシー対応項目									
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力			
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目			
ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう 								
到達目標	アジア市場とアジアビジネス戦略の理解がテーマである。受講生は、本講義を通じて、主に東アジア(韓国、中国)、東南アジア(タイ、インドネシア、ベトナムなど)、インドなど当該地域の主要な国が21世紀のグローバルビジネスの中心舞台として発展している姿を経済、社会制度などの多角的観点から理解することを目標とする。また、今後のアジア経済の発展を展望し、どのようなビジネスチャンスが生まれるか説得力のある議論ができるよう基礎的な知見を見につける。								
授業概要	現在、日本企業は企業を取り巻く環境の変化に対応してアジアビジネスを拡大している。国内の人口減少と少子高齢化などによって市場が縮小・低迷する一方で、中国をはじめアジア諸国の経済が世界的にも高成長を継続し、消費需要が拡大している。日本企業は成長するアジアを中心に海外投資や事業展開に成長機会を求めている。日本企業にとって成長性が高く、規模の大きいアジアビジネスの展開が必須になっている。いまでは日本企業にとってアジア市場で事業展開することは珍しくない。また、これからアジアでの事業展開を検討しようという企業の動きもある。 本講義は、異なる文化をもつ韓国、中国、タイ、ベトナムなどの国々に焦点を当て、日本企業のアジア進出、企業経営と市場特性などの詳細な解説によりアジア市場の知識を深める。講義内容は変更も可能である。								
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート								
評価方法と割合	単位認定試験(60%)、小テストと授業の取り組みなど(40%)による総合評価。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	課題、小テスト、試験は授業時間を利用してフィードバックを行う。								
履修条件・注意事項	授業には積極的な姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、居眠り、着帽、ﾒｰﾙ、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。出席も重要ですので休まないようにすること。配布資料などは事前によく読み、自分の考えを用意しておくこと。								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	予習(2時間)と復習(2時間)をすること。								
オフィスアワー	授業終了後に教室で実施。								

授業計画		担当者
第１回	1.オリエンテーション	崔　瑞玹
第２回	2.アジアにおけるビジネスモデル	崔　瑞玹
第３回	3.ASEANの市場統合と企業成長	崔　瑞玹
第４回	4.韓国市場と企業経営(1)	崔　瑞玹
第５回	5.韓国市場と日本企業(2)	崔　瑞玹
第６回	6.中国市場と日本企業(1)	崔　瑞玹
第７回	6.中国市場と日本企業(2)	崔　瑞玹
第８回	7.台湾市場と日本企業	崔　瑞玹
第９回	8.タイ市場と日本企業	崔　瑞玹
第１０回	9.インドネシア市場と日本企業	崔　瑞玹
第１１回	10.ベトナム市場と日本企業	崔　瑞玹

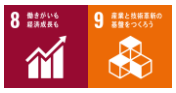
第１２回	11.インド市場と日本企業	崔　瑞玹
第１３回	12.シンガポールと香港の市場と日本企業	崔　瑞玹
第１４回	13.東アジア企業のマーケティング戦略	崔　瑞玹
第１５回	総合復習	崔　瑞玹
第１６回	単位認定試験	崔　瑞玹

教科書			
教・書籍名１	教科書はなし。文献および資料は随時示す。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経営戦略論			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2015年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業3年／2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年／2019年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	SS-BU-3-220		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	8．働きがいも経済成長も／9．産業と技術革新の基盤をつくろう 
到達目標	「日本企業の戦略と経営戦略論の全体像の理解」がテーマである。到達目標は、この講義を通じて経営戦略論の基礎知識を習得し、それに基づいて経営戦略論の概念を説明できるようにすること、経営戦略論の全体像を理解することである。さらに、次のような能力が養成されることも目標とする。丁寧に講義のノートをとることにより、聴く力、書く力、整理・まとめる力、教科書や資料を読み、調べることによって、読む力、調べる力が身につけられるとともに、情報処理力、計画力、分析力、判断力、さらに講義の内容に質問をし、それに答える訓練を通じて得られる考える力とコミュニケーション能力。
授業概要	講義の目的と概要は次のとおりである。最近、企業を取り巻いている外部環境は予測できないほど急激に変化をしている。そのような激変の中で、企業は変化する環境の中で国際競争力を維持し存続・成長していくために、環境に適応する努力をしている。講義では、経営戦略、事業領域の定義、戦略の策定、競争の戦略などを講義する。また、企業経営のさまざまな側面について、具体的な事例も活用して、経営戦略に関する基礎的な理論をわかりやすく解説し、それを理解して活用することを狙いとする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業内での発表や貢献度30%、期末試験の結果70%で評価を行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義の中や、オフィスアワーを利用して随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	積極的に学ぶ姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、ゲーム、飲食、無断退室の厳禁である。教科書あるいは配布した資料を事前によく読むこと。また、毎回復習をして、自分のものにしておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前に教科書を用いた予習(毎回2時間)と講義後にはノートに基づく復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室、月曜3限

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	竹岡
第２回	経営戦略とは	竹岡
第３回	競争戦略	竹岡
第４回	環境分析	竹岡
第５回	基本戦略	竹岡
第６回	製品ライフサイクル	竹岡
第７回	市場地位別戦略	竹岡
第８回	資源ベースの理論	竹岡
第９回	事業システム	竹岡
第１０回	ドメインの設定	竹岡
第１１回	成長戦略	竹岡
第１２回	国際戦略	竹岡
第１３回	企業の社会的責任	竹岡
第１４回	組織構造	竹岡
第１５回	組織の文化と変革	竹岡

第１６回	単位認定試験		竹岡
教科書			
教・書籍名１	1からの戦略論（第2版）	教・出版社名１	碩学舎
教・著者名１	嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎（編著）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-502-16741-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	人事管理論			担当者	崔　瑞玹		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-221		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「人事管理の全体像の理解」がテーマである。講義の到達目標は日本企業の人事管理に関する基礎知識と基礎理論を習得し、人事管理の仕組み、人事戦略と人事制度の基礎的な概念を正しく理解でき、説明できるようにする。また、実際に企業が導入している制度について理解する共に応用する力を養成することを目標にする。さらに、人事管理に関して問題意識を持つと共に人事管理の諸問題への解決能力を高めることを目標にする。最後に、人事管理の全体像を理解することを目標とする。
授業概要	講義の目的と概要は次の通りである。企業組合は、ﾋﾄ、ﾓﾉ、ｶﾈ、情報の経営資源によって成り立っている。企業が継続していくための鍵として「ﾋﾄ」は重要な経営の資源という言葉が示すように、全ての経営資源を管理する主体はﾋﾄであり、人事はその主体であるﾋﾄのﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄである。 一方、そのﾋﾄを採用から配置、異動、評価、育成などにおいて人事管理を行い、この講義全体を通じて、日本企業の人事管理に関する基礎知識や具体的な事例を活用して、人事管理に関する基礎的な理論をわかりやすく解説する。また、新聞・雑誌記事があれば積極的に活用し、受講生に最新の情報を伝えるようにする。講義内容は、経営・戦略・人事、組織文化と組織開発、人事管理のとらえ方、組織と人事管理、採用管理、配置と異動の管理、人事考課、昇進昇格制度、報酬制度、国際人事管理などである。ｹｰｽを活用して、企業が導入している人事管理の実態を把握する。 この科目は企業の実務経験のある外部講師が担当しており、その経験を活かし、企業現場において実践的に役立つ授業を実施し、学生の理解を深める。講義内容は変更も可能である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	単位認定試験(60%)、小テストと授業の取り組みなど(40%)による総合評価。 なお、評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックするので、試験まで見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間を利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	授業には積極的な姿勢と問題意識を持って取り組むこと。私語、居眠り、着帽、ﾒｰﾙ、飲食、携帯電話、無断退室の厳禁である。出席も重要ですので休まないようにすること。配布資料などは事前によく読み、自分の考えを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回予習(2時間)と復習(2時間)を心かけること。
オフィスアワー	授業終了後に教室で実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	崔　瑞玹
第２回	人材ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの目的と仕組み	崔　瑞玹
第３回	日本的人事管理	崔　瑞玹
第４回	人事部門の役割	崔　瑞玹
第５回	雇用管理と採用・退職	崔　瑞玹
第６回	配置・異動と労働時間管理	崔　瑞玹
第７回	日本企業のｹｰｽ研究	崔　瑞玹
第８回	評価制度と賃金管理	崔　瑞玹

第９回	組織とｼﾞｪﾝﾀﾞｰ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	崔　瑞玹
第１０回	働きやすい職場と福利厚生	崔　瑞玹
第１１回	安全健康管理とﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽ	崔　瑞玹
第１２回	人材開発と学習組織づくり	崔　瑞玹
第１３回	ｷｬﾘｱ･ﾃﾞｻﾞｲﾝとｷｬﾘｱ・ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ	崔　瑞玹
第１４回	労使関係と労働組合・労使関係の新しい課題	崔　瑞玹
第１５回	全体のまとめ	崔　瑞玹
第１６回	単位認定試験	崔　瑞玹

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	講義時に参考書・資料などを予習ができるように適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	LECTURE　人事労務管理(増補改訂版)	参・出版社名2	かんき出版
参・著者名2	森　五郎　監修	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	アジア企業論			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学3年／2015年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業3年／2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-222		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	この講義のテーマは、「アジア企業」の研究である。現代アジアの企業と財閥は欧米、日本の企業を傘下に収めるまでに成長している。そして、企業同士の合併・提携をも活発に行っている。こうしたアジアのダイナミックな企業の姿を解明する。具体的にはアジア企業における経営者や組織のあり方、企業を取り囲む市場構造、そして市場に適応する組織の進化などの問題について多角的な視点から捉えてゆく。 この講義は、アジア企業の理想と現実的な姿および、その変容過程について、数多くの具体的な企業事例を取り上げる（「ケースメソッド学習法」）。そのために、この講義を受講すれば、アジア企業に関する単なる知識や情報だけではなく、様々なビジネス現場の課題を解決するための実践的な力を身に付けることができる。そして、様々な経済社会・政治的な環境と条件の下で、ダイナミックな物事を如何に決定するかという、いわば人間行動に必要な判断力・決断力を養うことが出来る。
授業概要	グローバル化の進む世界の産業界では、以前から多くの欧米と日本の企業がそれぞれ事業の国際展開を図り、互いに厳しく競争してきた。しかし、今日では多くのアジア企業がそこに参入し、世界の有力企業と争い合うようになっている。 この講義の前半部では、理論と実証（ケース）の両面からアジア企業論を考察してゆく。その上、日本企業のアジア進出、韓国財閥企業の成長と変革、中国の市場変化と企業成長、ASEANの市場統合と企業成長などのトピックを取り上げる。各国とその企業のケースでは、それぞれの企業が取り巻く状況を具体的に指し示し、その中で何が重要な問題かを分析することから始まり、本質的な問題を見極める訓練を積むことができる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5 時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	アジアの産業発展と企業成長	李　分一
第３回	戦後日本企業のアジア進出	李　分一

第４回	日本企業のアジア戦略	李　分一
第５回	日本企業のアジア新展開	李　分一
第６回	韓国の財閥企業	李　分一
第７回	韓国の財閥企業の成長戦略	李　分一
第８回	韓国企業の海外進出戦略	李　分一
第９回	中国政府の産業政策	李　分一
第１０回	中国市場環境の変遷	李　分一
第１１回	中国企業の海外進出	李　分一
第１２回	ASEANの経済成長	李　分一
第１３回	ASEAN諸国の企業構成と特徴	李　分一
第１４回	華人系企業と経営戦略	李　分一
第１５回	アジアの産業と企業の未来	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	プリント使用	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	国際経済論			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学3年／2015年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業3年／2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-223		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	経済学的に見れば、グローバリゼーションは市場メカニズムの国際的な浸透・拡散プロセスである。この講義では、国際経済の基本的な知識を本格的に身に付けさせることを目指す。 この講義を受講すれば、国際経済（とアジア経済）の基本的な考え方とその仕組みが理解でき、その応用力が向上する。そして、論理的思考能力と問題発見力、そして問題解決力が修得できる。
授業概要	経済学は「富の科学」である。国際経済論も同じである。そもそも国際経済は、国家と国家の境界領域、相互作用の領域で行われるものであり、国内経済領域とは異なる独自の問題（貿易・為替・マクロ経済・環境・国際紛争など）を抱えている。 この講義では、アジアの経済復興、アジアの経済成長、アジアの貿易拡大、アジア諸国の産業政策、アジア新興国の市場変化などの問題を取り上げる。その内容の中には、アジアにおける市場拡大、技術進歩、市場統合、市場環境、市場の変化とその開拓戦略などの問題を扱う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	国際経済とは何か	李　分一
第３回	国際経済とアジア経済	李　分一
第４回	アジア経済の復興	李　分一
第５回	世界の工場から世界の市場へ	李　分一
第６回	日本の最大の貿易相手のアジア	李　分一
第７回	アジア経済高成長の要因	李　分一
第８回	アジア産業転換と技術移転	李　分一
第９回	世界工場の資源浪費と環境汚染	李　分一
第１０回	中国の台頭とアジア経済	李　分一
第１１回	アジアの市場統合	李　分一

第１２回	市場経済の導入と政府の役割	李　分一
第１３回	アジア諸国の産業政策	李　分一
第１４回	アジア新興国市場の変化	李　分一
第１５回	アジア新興国市場での開拓戦略	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	プリント使用	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	環境ビジネス論			担当者	小田　淳子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学3年／2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-224		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を
到達目標	「環境ビジネスの方向性と施策，多様な環境ビジネスのあり方を考察する」をテーマに，環境ビジネスの現況について知識と理解の習熟を図り，環境分野への就業・起業を行うための基礎的な能力と意欲を身につける。 環境ビジネスの業態と関連する企業の事例を具体的に挙げて行く。 地球環境問題の解決に向けて環境ビジネスの役割を考え，経営戦略に環境負荷低減をどのように結びつけているか，ビジネス戦略のポイントはどこにあるか等を学ぶことにより，企業のビジネス力を評価できるようになることが到達目標である。
授業概要	環境問題の解決と持続可能な社会の構築に向けた環境ビジネスの方向性と環境施策について概説したうえで，環境に取り組んでいる種々の産業界を取り上げて，企業経営における環境戦略が具体的にどのように進められているかを学ぶ。さらに，テキストや企業webサイトから選択した実践的環境ビジネスの事例を取り上げて，成功要因とビジネスの特性について解説する。地域や企業が取り組んでいる環境ビジネスについて，テーマ毎の事例について調査し，レポート作成と課題発表を行う。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション
評価方法と割合	「経営戦略と環境負荷低減が結びついた企業ビジネス力を評価する」ことを到達目標とすることから，理解度の確認のための自主学習の成果，レポート課題とその発表の取り組み，定期試験を総合的に評価する。具体的には，課題プリントの作成（20%），企業調べと発表（40%），定期試験（40%）の総合評価とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は授業でフィードバックを行うので、定期試験までに見直すこと。試験は，講義資料と講義で既出した企業事例の内容について，対象範囲とし，問題用紙にて実施する。
履修条件・注意事項	教科書は講義内で扱う企業事例を掲載している。必ず購入して毎回携行し，予習および配布プリントの復習に活用すること。 大幅な遅刻や無断欠席は講義の進行や評価に影響するので，注意すること。やむを得ない場合，必ず事前連絡すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：環境分野の行政および調査研究部門にて21年間の実務経験を有し，環境ビジネスの関連企業とつながりを有した。
事前学習・事後学習とその時間	予習：各回のテーマを初回に説明するので，事前学習を行って臨むこと。 テキストを活用した予習により，企業事例の内容を把握すること。 復習：テキストを理解するために毎回プリントを配布して講義ノートを作成するので，復習で必ず完結すること。 予習、復習には各2時間程度が必要である。
オフィスアワー	講義後の時間に適宜，受付ける。

授業計画		担当者
第１回	1．環境ビジネスとはなにか	小田
第２回	2．　地球環境問題と企業活動・社会的責任	小田
第３回	3．グリーン政策と環境ビジネス	小田
第４回	4．環境配慮型製品とビジネス	小田
第５回	5．電機業界の製品開発と対策	小田

第６回	6. 自動車産業界の環境戦略	小田
第７回	7. 事例調査のまとめ・発表（前半）	小田
第８回	8. エネルギー産業とビジネス	小田
第９回	9. バイオマス産業とビジネス	小田
第１０回	10. リサイクル産業とビジネス	小田
第１１回	11. 金属資源リサイクルとビジネス	小田
第１２回	12. ソフト・サービス系環境ビジネス	小田
第１３回	13. 環境ビジネス業界のまとめ	小田
第１４回	14. 企業の事例調査調べ・PPT作成（後半）	小田
第１５回	15. 企業の事例調査・PPT発表（後半）	小田
第１６回	6. 定期試験	小田

教科書			
教・書籍名１	環境ビジネスと政策	教・出版社名１	昭和堂
教・著者名１	馬奈木俊介・豊澄智己	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8122-1167-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	次世代環境ビジネス	参・出版社名１	日本経済新聞出版社
参・著者名１	尾崎弘之	参・ＩＳＢＮ１	978-4-532-31431-6 C3034
参・書籍名２	環境ビジネス最前線―リーディングカンパニーに学ぶ10のイノベーション	参・出版社名2	カナリア書房
参・著者名2	スマートエナジー	参・ＩＳＢＮ2	978-4778202064

授業科目名	ジャーナリズム論			担当者	竹内　健		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-225		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	メディア環境が急速に多様化する中、主に新聞を中心とする伝統的ジャーナリズムの役割について基礎的な理解を深める。達意の文章と言われる新聞記事の特徴を知り、文章を書くこつを学ぶ。就職活動のエントリーシートづくりや、社会人になって企画書を担当する際にも役立てられるようにする。
授業概要	新型コロナウイルス感染拡大や、京都アニメーション事件を巡る報道など、今日的なジャーナリズムの話題を提供するが、できるだけ肩の凝らない授業にしたい。自分自身がジャーナリストになったと仮定し、報道の現場でどのような行動を取るかを話し合う。作家らの文章、詩を読んで感想文を書き、文章力を磨く。授業担当者は大学でジャーナリズムを専攻した。山陽新聞社に勤務し、30年以上、取材・執筆をしてきた。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	授業に対する態度が積極的かどうか（30%）、レポートの取り組みはどうか（40%）、他人に迷惑を掛けずに受講しているかどうか（30%）ーなどで評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業で課したレポートの結果は、後日の授業で示す。
履修条件・注意事項	新聞に関わらずインターネット、テレビ、ラジオ、映画、アニメ、雑誌、音楽などメディア全般に興味関心のある人を対象とする。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	SNS以外のツール（例えば新聞を読む）からも、情報を得る習慣を付けてみて下さい。大学の図書館などを利用して新聞を読み、テレビなどのニュース番組にも接して下さい。予習・復習には各2時間程度を当てて下さい。
オフィスアワー	授業終了後に教室にて。

授業計画		担当者
第１回	ジャーナリズムの定義について。鶴見俊輔の「ジャーナリズムの思想」を参考に。	竹内
第２回	文章の書き方。新聞記事の特徴。社会人になって企画書を書くときに新聞記事を利用する。	竹内
第３回	地方紙について、その１。東日本大震災と岩手県・大槌新聞の取り組み。	竹内
第４回	地方紙について、その２。秋田魁新報社のスクープ。	竹内
第５回	地方紙について、その３。沖縄県の新聞記者たち。	竹内
第６回	京都アニメーション事件を巡る報道について、その１。	竹内
第７回	京都アニメーション事件を巡る報道について、その２。	竹内
第８回	津波を撮ったカメラマンについて。	竹内
第９回	ユージン・スミスとＭＩＮＡＭＡＴＡ、その１。	竹内
第１０回	ユージン・スミスとＭＩＮＡＭＡＴＡ、その２。	竹内
第１１回	中村哲とアフガニスタン、その１。	竹内
第１２回	中村哲とアフガニスタン、その２。	竹内
第１３回	中村哲とアフガニスタン、その３。	竹内
第１４回	オバマ氏の広島訪問。	竹内
第１５回	近藤宏一と青い鳥楽団の活動。	竹内
第１６回	レポート試験。	竹内

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じてプリントを配布します）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	メディア用語基本事典	参・出版社名１	世界思想社
参・著者名１	渡辺武達・金山勉・野原仁	参・ＩＳＢＮ１	9784790717324
参・書籍名２	天、共に在り　アフガニスタン三十年の闘い	参・出版社名2	ＮＨＫ出版
参・著者名2	中村哲	参・ＩＳＢＮ2	9784140816158

授業科目名	コミュニケーション論			担当者	赤坂　真人		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-302		
必修・選択	選択科目	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：コミュニケーションを科学する コミュニケーション力は現代社会で求められる最も重要な能力のひとつである。この講義ではコミュニケーションの主体・客体・過程・メディアを理解することにより、学生一人一人のコミュニケーション能力を向上させる。 到達目標 この講義を受講することによって、学生は人間関係や文化が言語的コミュニケーションによって構築されていることを理解し、コミュニケーションにおける適切な言葉の選択、論理的思考の重要性を理解する。それは学習にとって、また社会生活においてもきわめて重要な資質となる。
授業概要	人間のコミュニケーション、とりわけ言語的コミュニケーションに焦点を定め、その構成要素と機能について講義する。前半はコミュニケーションの定義とそのバリエーションについて解説する。それが終わった後、コミュニケーションのメディアである記号（シグナルとシンボル）について説明する。その後、言語記号について説明した後（意味論・統語論・実用論）、最後に文化記号論、情報化する社会について講義する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義時間における小テスト（50%）と定期試験（50%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回、講義時間の最後20分間を使って小テストを実施する。学生は解答をメールで教員の専用ボックスへ送る。教員は解答を正誤をチェックし、採点した後、コメントを書いて学生に返却する。
履修条件・注意事項	言語記号について説明する際、日本語と英語を対比させながら論じるので、英語やドイツ語の知識があることが望ましい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。配布されたハンドアウトは必ず復習し、定期試験までなくさないようにすること。
オフィスアワー	火曜日　15：10～16：40.に研究室で実施。

授業計画		担当者
第１回	1.講義の目的。2.講義の概要。3.評価について。4.コミュニケーションが社会を構築する。	赤坂
第２回	1.人間コミュニケーションの不合理。2.ウソ・間違い・データメ。3.複雑な人間関係と脳の発達。	赤坂
第３回	1.コミュニケーションの定義。2.概念の拡張。3.伝達と解釈。4.非言語的コミュニケーション。	赤坂
第４回	1.動物のコミュニケーション。2.触覚。3.視覚と聴覚。4.動物と文言のコミュニケーション。	赤坂
第５回	1.記号。2.信号と象徴。3.ソシュール：シニフィアンとシニフィエ。4.明示的意味と暗示的意味。	赤坂
第６回	1.記号の機能　2.記号の恣意性。3.記号の差異。4.コード。5.有契性と無契性。6.対立と中和。	赤坂
第７回	1.言語。2.準言語。3.言語の機能。4.新しい言語観。5.衣服とコミュニケーション。	赤坂
第８回	1.意味の曖昧さ。2.レトリック。3.コンテキスト。4.二項対立。5.文の意味と発話の意味。	赤坂
第９回	1.非言語的コミュニケーションとは。2.身体動作学。3.近接空間学。4.パラランゲッジ。	赤坂
第１０回	1.近接学。2.外観によるコミュニケーション：髪型・入れ墨・服装・化粧・ポーズ。	赤坂

第１１回	1.レトリック。2.直喩と隠喩。3.換喩。4.提喩。5.芸術とレトリック。	赤坂
第１２回	1.コミュニケーションと理解　2.わかるとは。2.行為の理解　3.ディスコミュニケーション。	赤坂
第１３回	1.ジョハリの窓と自己の理解。2.社会的被存在拘束性：社会階層・容姿と認識の歪み。	赤坂
第１４回	1.情報の定義　2.情報の分類　3.通信の歴史　4.インターネットとプライバシー。	赤坂
第１５回	言語の変化　1）尊敬語　2）方言　3）口語体と文語体　4）男言葉・女言葉　5）流行語	赤坂
第１６回	定期試験	赤坂

教科書			
教・書籍名１	コミュニケーション論序説	教・出版社名１	日本放送出版会
教・著者名１	大橋理恵　根橋玲子	教・ＩＳＢＮ１	978-4595307102
教・書籍名２	言葉とは何か	教・出版社名2	ちくま学芸文庫
教・著者名2	丸山圭三郎	教・ＩＳＢＮ2	978-4480009008

参考書			
参・書籍名１	コミュニケーション学への招待	参・出版社名１	大修館書店
参・著者名１	橋本良明	参・ＩＳＢＮ１	978-4469212143
参・書籍名２	記号論への招待	参・出版社名2	岩波書店
参・著者名2	池上嘉彦	参・ＩＳＢＮ2	978-4004202582

授業科目名	国際関係論			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2018～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-304		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	この講義は、国際関係という学問の基礎的知識を理解することに重点を置く。国際関係論という学問の発展過程に始まり、隣接分野との関連や、既存理論とその限界などを、最近の変動の事例に念頭を置きながら説明する。 この講義を受講すれば、国際関係論（と東アジア地域）という学問の基礎知識を習得することによって、国際社会仕組みの理解とグローバル社会の中で必要な様々な価値観および生き方が模索できる。特に、多文化・異文化の理解と総括・発表力が修得できる。
授業概要	この講義では、国際関係論に関する基礎知識を踏まえて、グローバリゼーション進展下の東アジア各国の変化とその問題点、そして現実に生じているトピックを取り上げ、それらの出来事や問題を整理する。今年は、ことに国際関係論・国際比較論的な視点から、東アジアの「国家」「開発」「安全保障」などの問題について説明する。なお、この科目を学ぶことにより、地理的な見方・認識の手法を学び取り、異文化理解や国際理解を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	国際関係論の学び方	李　分一
第３回	国際関係、地域研究、国際比較	李　分一
第４回	冷戦後の東アジア地図	李　分一
第５回	東アジア国際関係の変容	李　分一
第６回	東アジアのグローバル化	李　分一
第７回	東アジアの安全保障	李　分一
第８回	東アジアの安全保障ネットワーク	李　分一
第９回	開発と地域発展	李　分一
第１０回	地球化、地域化、民族主義化	李　分一
第１１回	相互依存関係の拡大と深化	李　分一
第１２回	世界化と市場経済	李　分一

第１３回	リージョナリゼーション	李　分一
第１４回	地球主義	李　分一
第１５回	ナショナリズム	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	プリント使用	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	韓国地域社会	担当者	李　分一
配当学科・研究科	2017～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年	ナンバリング	SS-BU-2-305

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	地域研究を学ぶ理由は、地域の安定（平和）と繁栄にある。分裂国家・韓国は、北朝鮮と並んで、日本の隣国である。そして日本は、隣国として朝鮮半島との平和的な共存・共生の関係を保つ必要がある。すなわち、様々なグローバルな課題と地域問題が交差する今日のグローバル社会では、特に日本と朝鮮半島との良好な関係を必要とするのである。この講義を受講すれば、韓国と周辺隣国に関する客観的・総合的な知識の習得とともに、国際地域問題に関する総括力・発表力が身に付けられる。
授業概要	世界の地理上には、大小の様々な国家や地域が共存・共生している。それらは自然的、人文社会的な特徴を持ちながら、歴史的な経験を経て現在の国家・地域を形成している。韓国も例外ではない。地域の自然環境や社会環境における様々な地理的事情を有機的に結合して考察することにより、その地域の特色・性格を明らかにする。また、この講義では、戦後韓国社会における産業化や民主化過程を具体的な事例を取り上げて説明する。この科目を受講することにより、地理的な見方・認識の手法を学び取り、韓国などの異文化社会の理解や国際理解を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	韓国という国	李　分一

第３回	韓国の歴史（民族と国家）	李　分一
第４回	韓国民主主義の位相と行方	李　分一
第５回	韓国民主主義の制約	李　分一
第６回	解放前の要因	李　分一
第７回	解放後の要因	李　分一
第８回	韓国の権威主義体制	李　分一
第９回	民主化・人権擁護運動	李　分一
第１０回	1980年代の韓国	李　分一
第１１回	1980年代の政治体制	李　分一
第１２回	190年代の民主化運動	李　分一
第１３回	1990年代の民主化運動	李　分一
第１４回	韓国政治社会の新潮流	李　分一
第１５回	韓国の民主主義と市民社会	李　分一
第１６回	単位認定試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	プリント使用	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	地域づくり論			担当者	大西　正泰		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-306		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ；生物学視点から、地域づくりのルーツを「巣づくり」とみなし、先史からいままでの地域づくりの歴史をテーマとする。 到達目標；地域づくりの歴史から地域形成過程を学び、地域の文化や歴史などからみた地域づくりに必要な知識やスキルを身につけることができることを目標とする。
授業概要	この講義は、3部構成になっており、地域づくりについて、生物・経済・空間づくりそれぞれの視点で地域づくりを再定義し、次の地域づくりを考えます。 ・前半では、家や地域を「巣」として考えて、人類史を振り返って分析します。 ・中盤では、空間経済学の知見である産業クラスターやクリエイティブクラス論（リチャード・フロリダ）を用いて議論をします。 また最近注目されているプレイスメイキングの考えを用いて、実際の場づくりを体感したりします。 ・後半では、次の地域づくりのヒントを世界各国の事例（日本、アメリカ、イスラエルなど）から学んでいきます。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	評価方法は、 ①毎回の感想レポート（40%）、②レポート試験（60%）で評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	１）感想レポートについては、ユニバーサルパスポートで管理し、フィードバックする。 ２）レポート試験については、Teamsで管理し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	１）毎回の授業時に配付する資料がテキストになります。 ２）大幅な遅刻や無断欠席はグループワークや評価に影響するので，ご注意ください。 やむを得ない場合，必ずメールなどで連絡してください（できるだけ事前にお願いします）。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、地域づくりに携わってきた実務経験のある教員が授業を行います。 実務経験としては、 ①2006~2010年　香川県高松市丸亀町商店街での地域スポーツ支援 ②2009年　讃岐パスタ発案者（企画・開発・商品化） ③2011~2018年　徳島県上勝町における空き家再生/起業家育成など
事前学習・事後学習とその時間	・各ケース、討論テーマについては、テレビや新聞報道による地域事例に目を配り，予習復習（各２時間）を行ってください。 ・グループ活動では，積極的な問題提起や発言ができるようにしてください。 （地域との関わりにおいては、コミュニケーションがもっとも大事なスキルとなります） ・参考文献に載せている本は、各テーマごとの背景になる考え方を指し示しているもので、読みやすいものを選んでいます。
オフィスアワー	月曜日（２、３限）　火曜日（２、３限）場所は14621研究室（14号館6階）になります。

	＊他の曜日についてはメールにて、随時受付します。m-onishi@kiui.ac.jp

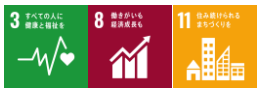
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大西正泰
第２回	＜問い１＞生物視点で地域づくりを考えてみたら？	大西正泰
第３回	＜問い２＞地域づくりとは何か？①	大西正泰
第４回	＜問い２＞地域づくりとは何か？②	大西正泰
第５回	＜目線を変える＞地域の進化論①産業集積	大西正泰
第６回	＜目線を変える＞地域の進化論②クリエイティブクラス	大西正泰
第７回	＜目線を変える＞地域の進化論③「地域づくりの原理/資本主義」	大西正泰
第８回	＜目線を変える＞地域の進化論④「地域づくりの原理/資本主義」	大西正泰
第９回	＜目線を変える＞地域の進化論⑤進化の先の生きづらさ	大西正泰
第１０回	地域づくりの基礎基本①サードプレイスと対話	大西正泰
第１１回	地域づくりの基礎基本②自己紹介ワークショップとインタビュー	大西正泰
第１２回	地域づくりの基礎基本③ワールドカフェ	大西正泰
第１３回	次の地域づくりのヒントは何か？①～理想共同体の歴史～	大西正泰
第１４回	次の地域づくりのヒントは何か？②～理想共同体の歴史～	大西正泰
第１５回	次の地域づくりのヒントは何か？～企業がつくる時代へ～	大西正泰
第１６回	レポート試験	大西正泰

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	サピエンス全史(上・下)	参・出版社名１	河出書房新社（２０１６）
参・著者名１	ユヴァル・ノア・ハラリ	参・ＩＳＢＮ１	上巻978-4309226712 下巻978-4309226729
参・書籍名２	マイパブリックとグランドレベル ―今日からはじめるまちづくり	参・出版社名2	晶文社 (2017)
参・著者名2	田中元子	参・ＩＳＢN2	104794969821

授業科目名	社会変動論			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-307		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを 
到達目標	テーマ：地域分析の基礎的知識および、データを活用した分析力を習得する。 到達目標（４つ）： ①社会学的な地域・コミュニティの見方や考え方を理解する。 ②地域の現状ならびに生活課題について各種事例から学ぶ。 ③オープンデータを活用した地域分析の基礎的手法を習得する。 ④複数の地域分析ツール（RESAS、統合型GIS、ｊSTAT MAP、ほかWeb-GIS等）を活用し、①②③を統合した学習課題に取り組み、その成果をまとめる。
授業概要	本講義は、地域社会についてデータを活用しながら地域を分析する視点を身に付ける授業である。 授業は講義と演習で構成される。 特に、演習の際には、各自がパソコンを持参することが求められる。 既存のデータを扱うのみならず、社会調査の視点から、各自が必要なデータを収集する（質的・量的）に行うことも想定している。 受講生自らも、高梁市や、出身地域など、身近な地域を事例として検討を行うため、地域・社会課題に対する解決能力を身に付けることが出来る。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中提出課題と発表60%、最終試験40%
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中の提出課題は添削の上、返却を行う（フィードバック）。
履修条件・注意事項	・各自パソコンの持参が必要な授業回が多くある。 ・グループワークにおいてディスカッション力が求められる。留学生のうち会話能力が十分ではない受講生については注意が必要である。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：研究者として各種の地域分析を行う教員が担当する（専門社会調査士）。
事前学習・事後学習とその時間	・予習・復習にそれぞれ2時間を要する（発表機会が多くある）。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	授業オリエンテーション	黒宮
第２回	地域を理解することとは	黒宮
第３回	地域を知るために必要な情報収集（基礎）	黒宮
第４回	地域を知るために必要な情報収集（実践）	黒宮
第５回	RESASで知る地域（導入）	黒宮
第６回	RESASで知る地域（グループ活動）	黒宮
第７回	RESASで知る地域（まとめ・発表）	黒宮
第８回	統合型GISで学ぶ地域（導入）	黒宮
第９回	統合型GISで学ぶ地域（グループ活動）	黒宮
第１０回	統合型GISで学ぶ地域（まとめ・発表）	黒宮
第１１回	jSTAT MAPで学ぶ地域（導入）	黒宮

第１２回	jSTAT MAPで学ぶ地域（グループ活動）	黒宮
第１３回	jSTAT MAPで学ぶ地域（まとめ・発表）	黒宮
第１４回	その他、地域分析に応用可能な手法	黒宮
第１５回	学習成果の総括（振り返り）	黒宮
第１６回	最終試験（筆記）	黒宮

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	RESASの教科書 リーサス・ガイドブック	参・出版社名１	日経ＢＰ社
参・著者名１	日経ビッグデータ（編集）	参・ＩＳＢＮ１	978-4822236601
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本社会論			担当者	赤坂　真人		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2019年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2015年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-308		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ 現代日本社会のさまざまな問題、具体的には、女性差別、女性と労働、男女共同参画社会、LGBTQ、逸脱と犯罪、都市と農村、過疎と過密、疲弊する農村、宗教と社会、死生観等に関する現状と問題を理解させ、その解決法を考える。 到達目標 多くの学生たちは、自分たちが生きている社会の仕組みや出来事について明確に理解していない。講義においては、まず現代日本社会が直面している様々な日常的な問題と制度上の矛盾に関する問題点を理解させる。次に、毎回講義のテーマに関する小テスト（記述式）を実施し、社会問題に関する見解と問題の解決法を考えさせ、それらを適切な文章で表現する能力を鍛える。
授業概要	講義で学んだ社会学的な見方、考え方を応用し、学生の周囲で起こっている現代日本および世界の社会問題を認識、分析し、解決策を考えさせる。具体的には、日本社会における男女差別、性別役割問題、LGBTQ、逸脱と犯罪、監視と個人情報、社会統制、都市と農村、過疎と過密、疲弊する農村、日本人と宗教、世界の宗教、死生観をテーマとして講義を行う。講義の終了前20分で、講義のテーマに関する記述式小テストを実施し、メールで教員のメールボックスに解答を送る。教員は解答を採点し、400字程度のコメントを書いてフィードバックする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	講義内小テスト（50%）と定期試験（50%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義時間の終盤20分間を使って毎回、論述式の小テストを行う。小テストはメールで教員専用のメールボックスに送り、教員はそれを採点後400～500字のコメントを書いて学生に返送する。もし学生がコメントに対してさらなる意見を表明しメールを送ってきた場合、教員はそれに対して再びコメントを書き返送する。
履修条件・注意事項	記録上は出席になっていても小テストの解答がない場合、欠席とする。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜４限（15：10～16：40）に研究室で実施

授業計画		担当者
第１回	1.講義内容と評価。2.社会生活をする人間。3.人類の変化と社会変動。4.BCI・ゲノム編集・人工生命。	赤坂
第２回	1.多様性容認の時代へ。2.ジェンダーとセックス。3.フェミニズム。4.ジェンダー研究の歴史。	赤坂
第３回	1.ジェンダーと労働　2.男女の職業格差。3.男女平等のデメリット。4.進化理論から逸脱した人間。	赤坂
第４回	1.逸脱とは何か。2.逸脱論の創始者E.デュルケーム。3.自殺論。4.逸脱に関する3つの理論。	赤坂
第５回	1.逸脱の7つの理論。2.ルールの法制化。3.高度産業社会における逸脱。4.社会統制と道徳。5.日	赤坂

	本の現状。	
第６回	1.都市に集住する人々。2.都市とは何か。3.無縁化社会。4.孤独な群衆。5.過疎と過密。	赤坂
第７回	1.都市への集中と地方の消滅。2.コンパクトシティ。3.地方生活の諸問題。4.過疎を止められるか。	赤坂
第８回	1.過密。2.都市的ライフスタイル。3.地域社会の崩壊。4.未来の都市。5.地方の取り組み。	赤坂
第９回	1.消えてゆく町と村。2.地方財政の圧迫：インフラ。3.地方都市の未来。4.都市の経営戦略。	赤坂
第１０回	1.日本人と宗教。2.日本人の宗教の源流。3.宗教とは何か。4.科学・イデオロギー・哲学・宗教。	赤坂
第１１回	1.宗教と連帯。2.宗教と生きる意味。3.宗教の世俗化。4.人口知能は神になるか。	赤坂
第１２回	1.宗教の復権。2.日本仏教の衰退。3.ゾロアスター教。4.ユダヤ教。5.宗教生活の原初形態。	赤坂
第１３回	1.ヒンディー教。2.バラモン教と仏教。3.仏教の変容。4.キリスト教。5.イスラム教。	赤坂
第１４回	1.死生学とは何か。2.生きる苦しみ。3.セネカ・トルストイ・ソロー。4.日本人と死。5.安楽死の是非。	赤坂
第１５回	1.科学技術の発展と社会変動。2.自動化。3.ロボット。4.AR（拡張現実）。5.技術への期待と不安。	赤坂
第１６回	定期試験	赤坂

教科書			
教・書籍名１	基礎社会学	教・出版社名１	ふくろう出版
教・著者名１	赤坂真人	教・ＩＳＢＮ１	978-4861864278
教・書籍名２	毎回ハンドアウトを配布	教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	講義の中で20～30冊の文献を紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	グローバリゼーションの社会学			担当者	高橋　正巳		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-311		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：地球を基盤として社会経済を見る 到達目標：「グローバリゼーション」とは何か、それにより「地球の危機」がなぜ起こっているのかを理解する 「グローバリゼーション」(「グローバル化」)という言葉は、世界中で頻繁に使われるけれど、意外にその意味は曖昧である。「国際化」や「国際関係」とほぼ同じ意味で使われ、ほとんど区別がつけられない使われ方が多いからである。この講義では「グローブ」は「地球」が語源であることに従って「グローバル化」が概念化されたところへ立ち戻り、しかもそれはコンピュータの浸透と並行して世界的に新しい経済社会を登場させたが、なぜ『地球の危機』と結びつくのかを話しする予定である。
授業概要	種々の社会問題が自然発生的であるか、その根底に近代の科学技術の影響が潜んでいるかどうかに関わらず、われわれの社会経済はいつも変化してきた。この変化の中で道具を使ったり火で煮焼きすることも、人間にとってはそれまでの生活の大変革であった。農業を始めたこともそうだったろうし、太陽や月の動きに合わせてお祭りをやったり、自分たちの幸せを願ったりしたこともそうであった。ただ、そうした大変革の歴史の中で、西洋世界に近代の科学技術が登場してから、現在のＩＯＴやＡＩ異常、とりわけこの大変革が次々とグローバルなレベルで起こっている。それをここでは、西洋が「近代」と呼んだ以降の歴史、いわば民主化や工業化、西欧化、科学化がそうであるように、それらがグローバル化した地球上に浸透する流れを学生と一緒に追い掛けて話し合い考える予定である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	自学自修による「持ち帰り試験」(50点)、プレゼンテーションなどアクティブラーニング(２０点)、定期末試験(２０点)、講義中での積極的な参加(１０点)とで総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	「持ち帰り試験」と「定期末試験」は日時を指定して本人に返却する
履修条件・注意事項	「経済」に関心がある学生が望ましい。もちろん「政治」や「国際関係」だけでなく福祉や社会保障などにも関心を持っていて欲しい。テレビや新聞のニュースにおける社会経済に関する記事をチェックする。また日本語で専門分野の文章を書くことを習慣づけるころ。これらを学生は主体的に実施する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：昭和５１年大学経済学部卒、昭和５７年大学院社会学研究科修士課程修了、昭和６０年大学院社会学研究科博士課程満期修了退学。本校の外国学科で「経済学」や『日本の経済』を担当しており、社会経済システムの研究者である。
事前学習・事後学習とその時間	各講義時間の項目に関して９０分間、事前学習に理解するために専門的な語彙をまとめる。さらに、講義を受けた後復習に９０分間使い理解して修得するための活動を自らが行う。その活動でよく判らなかった語彙や疑問を抜き出して、次の講義のとき質問する。
オフィスアワー	毎週火曜日に個人研究室で昼休みと１５：１０～１６：３０まで

授業計画	担当者

第１回	オリエンテーション	高橋
第２回	グローバリゼーションと国際化(インターナリゼーション	高橋
第３回	なぜ今「地球の危機」なのか？	高橋
第４回	近代化と工業経済	高橋
第５回	市場経済と貨幣経済のグローバル化	高橋
第６回	市場経済と非市場経済	高橋
第７回	市場経済における効率性の追求の意味	高橋
第８回	グローバル化は国家(「国民国家」)を超越するのか？	高橋
第９回	非市場経済の問題の責任は国家にあるのか？	高橋
第１０回	SDGｓは今やビジネス活動の責任となる	高橋
第１１回	経済のグローバル化と倫理道徳思想	高橋
第１２回	グローバル化は人間の「欲望」を抑えることができるのか	高橋
第１３回	グローバルに対応する「地域」の文化価値	高橋
第１４回	倫理道徳思想の源泉は｢地球－地域－衆生｣の繋がり	高橋
第１５回	アジアの時代とは東アジアの文化価値を取り戻す時代	高橋
第１６回	期末単位認定試験	高橋

教科書			
教・書籍名１	高橋	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	『グローバリズム以降 ーアメリカ帝国の失墜と日本の運命』	参・出版社名１	朝日新書
参・著者名１	エマニュエル・トッド	参・ＩＳＢＮ１	ISBN978ー4ー02－273689－5
参・書籍名２	スマート･ジャパンへの提言 ー日本は限界費用ゼロ社会へ備えよ	参・出版社名2	ＮＨＫ出版
参・著者名2	ジェレミー・レフキン	参・ＩＳＢN2	ISBN978－4－14－081739－1

授業科目名	地域づくりワークショップデザイン			担当者	井勝　久喜		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-313		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	「種々のワークショップ方法を活用した地域づくりの方法の理解」をテーマとし、地域づくりに必要なワークショップ技能を学んでいく。 地域課題を解決し地域活性化を行うためには、対話の場や計画づくりの場が必要である。そのための手法として参加型の話し合いの場（ワークショップ）がある。様々なワークショップの手法を学び、地域づくりに関与できるようになることを到達目標とする。
授業概要	地域課題解の解決、地域づくりの方法はそこに住んでいる人々が、主体的に考えなければならない。住民が自らの手で課題を解決し、地域活性化を行うためには、対話の場や計画づくりの場が必要である。本講では、まず、ワークショップの進行に必要なファシリテーション技能、アイスブレイク技能について講義と実践により身につける。続いて、ワークショップの基本的な考え方、プログラムの作り方について学ぶ。その後、各種ワークショップ技法を実践しながら学んでいき、最後にワークショップの実践を行い、ワークショップを企画運営できる能力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	講義と参加型学習を組み合わせて授業を行う。毎回授業レポートを提出してもらい、レポートを評価する（70%）。最後に、試験を行い評価（30%）する。ただし、他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には、減点することもある。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回提出するレポートは採点して次回授業で返却する。
履修条件・注意事項	１）初回の講義には、必ず出席すること。２）ファシリテーション入門を履修していることが望ましい。２）毎回の授業での活動が評価の対象となるので、授業を休まないこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）配布したプリントに従って、予習しておくことが必須である。 ２）返却されたレポートに記載されている指示に従って学習し直すこと。 ３）予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施

授業計画		担当者
第１回	ワークショップの３要素	井勝久喜
第２回	ワークショップをデザインする	井勝久喜
第３回	ファシリテーションスキル	井勝久喜
第４回	ファシリテーターの心構え	井勝久喜
第５回	心をほぐすアイスブレイク	井勝久喜
第６回	身体をほぐすアイスブレイク	井勝久喜
第７回	プログラムの基本形	井勝久喜
第８回	プログラムのデザイン	井勝久喜
第９回	シナリオシートの作成	井勝久喜
第１０回	考えを深め合うワークショップ技法	井勝久喜
第１１回	多様な視点で考えるワークショップ技法	井勝久喜

第１２回	話し合いをまとめるワークショップ技法	井勝久喜
第１３回	行動計画をつくるワークショップ技法	井勝久喜
第１４回	住民合意形成ワークショップの実践	井勝久喜
第１５回	地域づくりワークショップの実践	井勝久喜
第１６回	試験	井勝久喜

教科書			
教・書籍名１	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	使用しない（プリントを配布する）	教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ワークショップ・デザイン	参・出版社名１	日本経済新聞出版社
参・著者名１	堀公俊、加藤彰	参・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4-532-31403-3
参・書籍名２	参加型ワークショップ入門	参・出版社名2	明石書店
参・著者名2	ロバート・チェンバース	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7503-1911-7

授業科目名	現代社会の思想			担当者	赤坂　真人		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年／ 2021～ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	SS-BU-3-314		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ この講義では社会契約思想と近代啓蒙思想を中心に、社会思想の歴史と概要を講義する。具体的にはイギリスの自由主義・功利主義、フランス啓蒙思想、マルクスの社会主義思想、完全自由主義、本質直観主義について理解する。 到達目標 単なる社会思想の知識にとどまらずその応用に重点を置く。講義と論述式の小テストの繰り返しにより、学生たちが日常的な出来事を客観的かつ合理的に考え、かつ「正義とは何か」について、さまざまな価値観（思想）を踏まえたうえで適切な道徳的判断できるようにする。
授業概要	まずイギリスの自由主義社会理論としてT.ホッブズ、J.ロックを論じ、その後、社会契約説を体系化したモンテスキュー、ルソーについて講義する。次に、イギリスで展開された功利主義・自由主義とI・カントの道徳至上主義を対比させ正義論の基礎を解説する。最後に社会学思想に焦点を移し、フランス革命を契機として登場したA.コント、サン＝シモンの産業主義、資本主義批判を行ったK.マルクス、資本主義の起源について考察したM.ウェーバー、近代化に伴う社会変動を考察したE.デュルケーム、マルクスとウェーバーを継承して知識社会学を確立したカール・マンハイムについて講義する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	講義内小テスト（50%）と定期試験(50%)によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回、講義時間の最後20分間を使って論述式の小テストを実施する。小テストに対する解答はメールで教員の専用ボックスに送る。教員は学生の解答を読んで400～500字のコメントを書き、採点したうえで返送する。教員のコメントに対し反論がある場合、教員は学生の反論に対してもコメントを返送する。
履修条件・注意事項	講義はやや抽象的かつ難解であるため、抽象的思考ができる学生が望ましい。しかしながら毎回実施する小テストの設問は、社会生活の具体的問題をとりあげて解答させる。その場合、論理的思考能力だけでなく事象への共感能力も必要となる。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回配布されたプリントを復習すること。学期中、毎回2時間の予習と2時間の復習をすること。
オフィスアワー	火曜４限（15：10～16：40）に、研究室（9309）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	1.物的世界は物理法則で、人間社会はルールで動く。2.規範と価値。3.あなたの価値観。4.価値観の分析	赤坂
第２回	1.トマス・ホッブズ。2.リヴァイアサン。3.自然法。4.動物の互恵的行動。5.社会の起源	赤坂
第３回	1.ジョン・ロック。2.経験論哲学。3.自然状態と自然法。4.国民主権・議会制民主主義・抵抗権	赤坂
第４回	1.ロックの「所有権」。2.所有権の保護者：国家。3.所有権の放棄と同意。4.基本的人権	赤坂
第５回	1.C.L.モンテスキュー。2.法の精神。3.自然法と自然状態。4.社会契約。5.三権分立。	赤坂
第６回	1.J.J.ルソー。2.ルソーの自然状態と自然法。3.一般意思と直接民主制。4.ヴァージニア権利章典	赤坂

第７回	1.サン＝シモンとコント。2.産業社会。3.都市と工業の時代。4.社会学の誕生	赤坂
第８回	1.K.マルクス。2.資本主義。3.唯物論と観念論。4.労働者の疎外と貧窮化。5.ウェーバと資本主義	赤坂
第９回	1.ジェレミー・ベンサム。2.功利主義。3.最大多数の最大幸福。4.J.S.ミルによる「幸福の計算」	赤坂
第１０回	1.急進的功利主義。2.父権主義的功利主義。3.自由か平等か？4.功利主義と自由主義の対立	赤坂
第１１回	1.選好功利主義。2.アマルティア・セン。３.脳が満足すれば幸福か。4.仮想現実での幸福の是非	赤坂
第１２回	1.弱い自由主義。２強い自由主義（完全自由主義）。３.J.ロールズ。4.完全自由主義の陥穽	赤坂
第１３回	1.カント：本質直観主義　2.思い込みか実在か。3.善と悪の基準。4.ミクロレベルの善悪判断	赤坂
第１４回	1.ハンナ・アーレント。2.エルサレムのアイヒマン。3.悪の凡庸さ。4.考えないことが悪である。	赤坂
第１５回	1.カール・マンハイム。2.知識社会学。3.原爆投下の真実。4.相対主義から社会構築主義へ	赤坂
第１６回	定期試験	赤坂

教科書			
教・書籍名１	社会学の歴史	教・出版社名１	東京大学出版会
教・著者名１	奥井智弘	教・ＩＳＢＮ１	978-4130520232
教・書籍名２	これから「正義」の話をしよう	教・出版社名2	早川書房
教・著者名2	Ｍ・Ｊ・サンデル	教・ＩＳＢＮ2	978-4152091314
参考書			
参・書籍名１	正義の教室	参・出版社名１	ダイヤモンド社
参・著者名１	飲茶	参・ＩＳＢＮ１	978-4478102572
参・書籍名２	メタ倫理学入門	参・出版社名2	勁草書房
参・著者名2	佐藤岳詩	参・ＩＳＢＮ2	978-4326102624

授業科目名	地域マネジメント			担当者	大西　正泰		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-315		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１１．住み続けられるまちづくりを／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ；人口減少・少子高齢化に伴う諸問題に取り組む地域事例を、地域マネジメントに取り組む「現場の声」から学ぶことをテーマとする。 到達目標；学生が ①地域をめぐる諸問題を解決してきた先進事例をとりあげて分析を行うことができる。 ②分析を通じて、地域マネジメントの知識や考えをも身につける。 ＊DPで重要視している◎について DP5「グローバルな視野と地域活動」・・ケースには、SDGｓ未来都市として選ばれた地域（上勝町など）をケーススタディとする。 また、全国各地の課題解決に成功した方法を紹介することで、地域活動への知識、関心が増す。 DP６「課題解決力」・・多くの地域づくり先進地域の解決方法を解決の糸口に、学生の多くが住む高梁市の解決策を考えることで、課題解決力が育つ。
授業概要	１）地方をめぐる諸問題を多角的（特にマネジメントに注目し）に取り上げ、問題点の把握と現状分析を行う。 本授業では、全国の事例をもとにしたケーススタディを行い、現状の洗い出しと課題の認識を共有しながら、どのように課題解決を提案していけばいいのかを身につけます。 ２）ケースとして取り扱う主な地域は以下のとおりです。 ①ＳＤＧｓ未来都市に選ばれた3地域（北海道下川町、岡山県西粟倉村、徳島県上勝町） ②”ひと”を資産にした離島地域（島根県海士町） ③災害復興から立ち上がった海岸地域（宮城県女川町） ④アイデアでよみがえった他地域 （徳島県神山町/サテライトオフィス、宮崎県新富町/ふるさと納税、香川県高松市/商店街再生）
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク／フィールドワーク
評価方法と割合	評価方法は、①毎回の感想レポート（40%）、②レポート試験（60%）で評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	１）感想レポートについては、ユニバーサルパスポートで管理し、フィードバックする。 ２）レポート試験については、Teamsで管理し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	１）指定された教科書はありません。ケースごとに資料をデータでお渡しします。 ２）大幅な遅刻や無断欠席はグループワークや評価に影響するので，ご注意ください。 やむを得ない場合，必ずメールなどで連絡してください。

実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、徳島県上勝町ほか、全国各地の地域と実際に連携して携わってきた実務経験のある教員が担当します。 また、ケースに指定されている地域で地域マネジメントを行っている方を外部講師としてお招きする予定です。 実務経験としては、 ①2006~2010年　香川県高松市丸亀町商店街での地域スポーツ支援 ②2009年　讃岐パスタ発案者（企画・開発・商品化）

			③2011~2018年　徳島県上勝町における空き家再生/起業家育成など
事前学習・事後学習とその時間	1）各ケースについては、web記事や動画をもとに事前学習（２時間程度）を必ず行ってください。 2）毎回提出する感想レポートに書いた問題意識を大事にし、テレビや新聞報道による地域事例に目を配り、復習に努めましょう。 3）グループ活動では，積極的な問題提起や発言ができるようにしてください。		
オフィスアワー	・月曜日（２、３限）　火曜日（２、３限）場所は14621研究室（14号館6階）になります。 ＊他の曜日についてはメールにて、随時受付します。m-onishi@kiui.ac.jp		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション～地域マネジメントとは？～	大西正泰
第２回	＜問い１＞中山間地域で林業がだめになったときどうするか？①～徳島県上勝町/葉っぱビジネスとZW～	大西正泰
第３回	＜問い１＞中山間地域で林業がだめになったときどうするか？②～徳島県上勝町/葉っぱビジネスとZW～	大西正泰
第４回	＜問い１＞中山間地域で林業がだめになったときどうするか？③～岡山県西粟倉村/林業クラスター～	大西正泰
第５回	＜問い１＞中山間地域で林業がだめになったときどうするか？④～北海道下川町/林業クラスター～	大西正泰
第６回	中山間地域の課題を考える	大西正泰・外部講師
第７回	＜問い２＞離島は何に挑戦すればいいのか？①～島根県海士町/人の資産化～	大西正泰
第８回	＜問い２＞離島は何に挑戦すればいいのか？②～島根県海士町/人の資産化～	大西正泰・外部講師
第９回	＜問い３＞災害のあと、どう挑戦すればいいのか？～宮城県女川町/1から街を作る～	大西正泰
第１０回	＜問い４＞「なんにもない」から抜けだすためには？①～徳島県神山町/アート＋α～	大西正泰
第１１回	＜問い４＞「なんにもない」から抜けだすためには？②～宮崎県新富町/ふるさと納税とベンチャー～	大西正泰
第１２回	＜問い５＞「あるもの」でこしらえるためには？～丸亀町/沼垂商店街の再生劇～	大西正泰
第１３回	＜問い６＞みんなが一つになるためには何をすればいいのか？～まちに中心は必要か？～	大西正泰
第１４回	＜問い６＞高梁に賑わいを作るとすればどこにする？①～中心と点を結ぶために～	大西正泰・外部講師
第１５回	＜問い６＞高梁に賑わいを作るとすればどこにする？②～中心と点を結ぶために～	大西正泰・外部講師
第１６回	レポート試験	大西正泰

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	持続可能なまちは小さく、美しい 上勝町の挑戦	参・出版社名１	学芸出版社 (2008/6/10)
参・著者名１	笠松 和市, 佐藤由美	参・ＩＳＢＮ１	978-4761512453
参・書籍名２	ローカルベンチャー 地域にはビジネスの可能性があふれている	参・出版社名2	木楽舎 (2018/7/2)
参・著者名2	牧大介	参・ＩＳＢＮ2	978-4863241244

授業科目名	地域課題解決法			担当者	大西　正泰		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学3年／2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-316		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ；地域や社会の課題を事業化することで解決する「社会起業アプローチ」をベースに、 地域課題の解決策を出し、プロジェクト化することで地域づくりの基礎的な能力を学ぶ。 到達目標； ・社会起業の考え方やケースを身につけている。 ・地域課題についての解決策を出し、プロジェクトの作り方を身につけている。 ・地域課題を改善するために多様な見方ができるようになる。
授業概要	人口減少、少子高齢化などが進行する地域では，後継者不足の農業や伝統産業、空き家問題、商店街の空洞化，公立学校の廃校，公共交通システムの問題等が起きている。 これらのケースに対して、高梁市での取り組み（吹屋地区）、岡山県西粟倉村を事例にし、解決に至る道筋や解決法をもとに、地域づくりの基礎的な能力を養う。 ＜本授業の進め方＞ １）ケースを多角的な視点から取り上げて問題点の把握と現状分析を行う。 ２）地域社会構成員である行政・企業や団体・コミュニティ・個人の相互の役割と関係性について考察する。 ３）社会課題解決のためのアイデア、プロジェクト化を通じて、より深く学ぶ。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習／フィールドワーク
評価方法と割合	評価方法は、 ①毎回の感想レポート・GW（グループワーク）（50%）、②レポート試験（50%）で評価します。 GWでは、①積極的な姿勢と発言、②GWでのマネジメント、③GW後の感想レポートから評価していきます。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	１）感想レポートについては、ユニバーサルパスポートで管理し、フィードバックする。 ２）レポート試験については、Teamsで管理し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	１）「地域づくり論」「地域マネジメント」のどちらかを受講し、地域づくりの基礎的な知識をもっていること。 ２）フィールドワークや実習は、土日に実施する場合がある。 ３）フィールドワークや実習のため、留学生についてはN2以上であることが望ましい。 を履修条件とする。 ・大幅な遅刻や無断欠席はグループワークや評価に影響するので，ご注意ください。 やむを得ない場合，必ずメールなどで連絡してください（できるだけ事前にお願いします）。

実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、地域づくりに携わってきた実務経験のある教員が授業を行います。 また、授業で紹介する地域づくりに関わっている外部講師を呼ぶ予定です。 実務経験としては、 ①2006~2010年　香川県高松市丸亀町商店街での地域スポーツ支援 ②2009年　讃岐パスタ発案者（企画・開発・商品化） ③2011~2018年　徳島県上勝町における空き家再生/起業家育成など

事前学習・事後学習とその時間	・協働する対象地域の取組みを事前に説明するので，自己学習を行い、実践活動に臨むこと。 ・地域協働の作業後は、毎回成果と課題をまとめた実践ノートを作成し，復習で必ず完結させること。 ・地域活動に参加しただけでは単位は取れないので，各2時間程度の予習、復習の整理が必要である。		
オフィスアワー	月曜日（２限）火曜日（２限）　場所は14621研究室（14号館6階）になります。 ＊他の曜日についてはメールにて、随時受付します。m-onishi@kiui.ac.jp		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション～地域課題解決法としての「ローカルベンチャー」～	大西正泰
第２回	＜ローカルベンチャーの問いかけ＞ テキスト『９割の社会問題はビジネスで解決できる』を読む①	大西正泰
第３回	テキスト『９割の社会問題はビジネスで解決できる』を読む② ～基本形「エフェクチュエーション」～	大西正泰
第４回	＜問い＞わたしたちの住む高梁市の社会課題はなに？～観光を切り口に～	大西正泰
第５回	＜いってみる①＞高梁市の観光課題「吹屋地区」	大西正泰・外部講師
第６回	＜いってみる②＞高梁市の観光課題「吹屋地区」	大西正泰・外部講師
第７回	＜問い２＞なぜ吹屋は若者に知られていないのか？（互いをインタビューしてみる）	大西正泰
第８回	＜問い３＞吹屋の仕掛け人はどう考えているのか？（インタビュー）	大西正泰・外部講師
第９回	＜プロジェクト１＞吹屋地区の課題を解決するアイデアを考える	大西正泰
第１０回	＜プロジェクト２＞吹屋地区の課題を解決するアイデアを発表し、練り直す（ジグソー学習）	大西正泰
第１１回	＜プロジェクト３＞アイデアを言葉と図に落とし込む（リーンキャンバス）	大西正泰
第１２回	＜プロジェクト４＞リーンキャンバスを深める	大西正泰
第１３回	＜プロジェクト５＞発表し、広げ深める①	大西正泰・外部講師
第１４回	＜プロジェクト６＞発表し、広げ深める②	大西正泰・外部講師
第１５回	まとめ「やるかやらないかの境界線～当事者意識という課題～」	大西正泰
第１６回	レポート試験	大西正泰

教科書			
教・書籍名１	９割の社会問題はビジネスで解決できる	教・出版社名１	PHP研究所
教・著者名１	田口一成	教・ＩＳＢＮ１	978-4-569-84913-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	現代社会の理論			担当者	稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-317		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	テーマ：社会を構成する原理・概念について理解する。 到達目標：人間関係や社会現象・問題を解読する「社会学的想像力」を身につける。
授業概要	本講義は、人間の社会的行為や社会集団の構造や機能について学び、社会を読み解く力を身に付けることを目指す。 まず身近な例をあげながら、社会学の基礎的な概念と社会学的なものの見方について解説する。それらを通して、人が他者から影響をうけ、また他者に対しても影響を与える存在であることを理解するとともに、社会全体の仕組みについて学ぶ。講義では個別テーマを取り上げ、現代社会の動向を社会学的にとらえていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	授業内での課題やレポート等の提出物（30%）と定期試験（70%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題やレポートについては授業内で解説をおこなう。
履修条件・注意事項	授業計画の内容は、進捗状況に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	配布資料や参考書などを読み、予習・復習（各2時間程度）をする。
オフィスアワー	火曜日3時限に研究室（14611）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	稲元洋輔
第２回	社会学と理論	稲元洋輔
第３回	社会的行為	稲元洋輔
第４回	欲求	稲元洋輔
第５回	準拠集団	稲元洋輔
第６回	規範	稲元洋輔
第７回	自我	稲元洋輔
第８回	アノミー	稲元洋輔
第９回	役割と地位	稲元洋輔
第１０回	役割演技	稲元洋輔
第１１回	社会集団と組織	稲元洋輔
第１２回	官僚制組織	稲元洋輔
第１３回	構造と機能	稲元洋輔
第１４回	階級と階層	稲元洋輔
第１５回	まとめ	稲元洋輔
第１６回	定期試験	稲元洋輔

教科書			
教・書籍名１	資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	社会学の理論	参・出版社名１	有斐閣ブックス
参・著者名１	碓井タカシ・大野道邦・丸山哲央・橋本和幸編	参・ＩＳＢＮ１	978-4641086494
参・書籍名２	クロニクル社会学	参・出版社名2	有斐閣アルマ
参・著者名2	那須壽	参・ＩＳＢＮ2	978-4641120419

授業科目名	社会調査法Ⅰ			担当者	坂口　恵莉		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-401		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する科目である。具体的に、社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、社会調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査等の公的統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的事項を学び、基本用語を使えるようになることが到達目標である。「社会調査士」資格取得を希望する学生が最初に受講するべき初歩的な科目である。資格取得に必要な標準カリキュラムのA科目にあたる。資格取得を目指していない学生も歓迎する。
授業概要	社会調査の意義やその方法に関する基本的な概念を学習することを通して、「社会を読む」ために必要な想像力と論理力を身につける。官庁統計から地域調査まで、さまざまなタイプの社会調査を取り上げ、それぞれの意義と方法について解説する。数学や統計的知識は必要ない。単なる調査技術の理解にとどまらず、社会学的思考とは何かについて、考えるきっかけとなってほしい。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	この科目の到達目標は、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的事項を学び、基本用語を使えるようになることである。そして、学生には、社会調査の意義やその方法に関する基本的な概念を学習することを通して、「社会を読む」ために必要な想像力と論理力を身につけることが求められる。したがって、この科目では、基礎的事項の理解や、論理力を確認するための小テスト（50%）と、期末試験（５０％）で評価する。詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。なお、評価のために実施する小テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、次の授業でフィードバック・解説を行う。
履修条件・注意事項	本科目は社会調査士資格科目である。日本語学習者においては、一定以上の日本語運用能力が求められる。 対面授業では、毎回授業プリントを配るので、ファイルを用意することが望ましい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	学生は、単位認定試験に向けて、基礎的事項の理解を積み上げていくことが重要である。講義資料と参考文献を用いた予習および復習には、各２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎授業後（ランチタイムに該当）に、講義を行う教室にて実施。

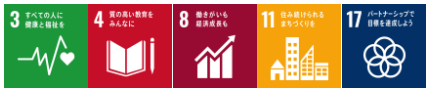
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	坂口
第２回	社会調査史	坂口
第３回	社会調査の目的と意義	坂口
第４回	社会調査の方法と選択：量的調査と質的調査	坂口
第５回	調査倫理	坂口
第６回	量的調査（１）：種類と実例	坂口
第７回	量的調査（２）：データ収集の方法	坂口
第８回	量的調査（３）：データ分析の方法	坂口
第９回	社会調査のデータと情報	坂口
第１０回	質的調査（１）：実際の質的記述の例	坂口
第１１回	質的調査（２）：データ収集の方法①	坂口
第１２回	質的調査（３）：データ収集の方法②	坂口

第１３回	質的調査（４）：データ分析の方法	坂口
第１４回	社会調査の今日的課題	坂口
第１５回	調査報告書のまとめ方	坂口
第１６回	試験	坂口

教科書			
教・書籍名１	なし	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	『社会調査の方法論』	参・出版社名１	丸善出版
参・著者名１	松本渉, 2021,	参・ＩＳＢＮ１	4621306316
参・書籍名２	『はじめて学ぶ社会調査：リサーチ・マインドを磨く８つのレクチャー』	参・出版社名2	慶應義塾大学出版会
参・著者名2	儘田徹, 2012,	参・ＩＳＢＮ2	4766419790

授業科目名	社会調査法Ⅱ			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2019年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年			ナンバリング	SS-BU-1-402		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを／１７．パートナーシップで目標を達成しよう 
到達目標	テーマ：社会調査の結果を分析できるようになるための基本的な方法を習得する。 到達目標（４つ） ①公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を身につける。 ②単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データや、グラフの読み方が身につく。 ③さまざまな質的データの読み方、基本的なまとめ方を身につける。 ④相関係数など基礎的統計概念、因果関係と相関関係の区別、擬似相関の概念が理解できるようになる。
授業概要	新聞や雑誌には多くの社会調査の情報があふれているが、その「読み方」までは教えてはくれない。この授業では、実際の社会調査に基づくデータや報告書の実例を出しながら、その意味を読み解くうえでの基本的な考え方について講義する。 社会調査法Ⅰで学んだ入門的知識を踏まえ、常識や思い込みにとらわれず、調査データに基づいて思考する能力を身につける。 社会調査分析に必要となる変数と尺度化、単純集計、クロス分析、因果関係と相関関係の区分、擬似相関、検定等の概念の理解を通し、単なる調査技術の理解にとどまらず、社会学的思考力を高めることが目的である。 本科目は、社会調査士の資格取得に必要な標準カリキュラム「C科目」にあたる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中課題提出（50%）＋定期試験（50%）で評価を行う。 なお、評価のために実施した課題は総括としてフィードバックを行うため、試験までに復習を行うこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中の提出課題については添削の上、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	・授業は配布するハンドアウトに沿って進める。ファイルを準備し保管のこと。 ・原則として、「社会調査法Ⅰ」を履修済みであることを条件とする。 ・資格取得に関わる科目のため、留学生の受講に際しては、N2合格水準レベルの日本語力が求められる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、研究者として社会調査を実践する担当教員（専門社会調査士）によるものである。社会調査の手法を具体的に学びながら学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	・毎回の授業時に、授業内容の理解度をはかる課題が出る。 ・十分な予習と復習（毎回約2時間）を必要とする。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	黒宮
第２回	社会調査における分析	黒宮
第３回	社会調査における変数・尺度	黒宮
第４回	記述統計データ ①単純集計	黒宮
第５回	記述統計データ ②度数分布	黒宮

第６回	記述統計データ ③様々な代表値	黒宮
第７回	記述統計データ ④分散	黒宮
第８回	記述統計データ ⑤因果関係と相関関係	黒宮
第９回	記述統計データ ⑥クロス集計	黒宮
第１０回	記述統計データ ⑦相関係数と疑似相関	黒宮
第１１回	様々な統計資料を読む ①各白書	黒宮
第１２回	様々な統計資料を読む ②国際比較調査	黒宮
第１３回	質的データの読み方 ①インタビュー	黒宮
第１４回	質的データの読み方 ②観察法	黒宮
第１５回	質的データの読み方 ③映像・ドキュメント分析	黒宮
第１６回	単位認定試験（筆記）	黒宮

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	社会調査の基礎―社会調査士A・B・C・D科目対応	参・出版社名１	弘文堂
参・著者名１	篠原 清夫ほか（編）	参・ＩＳＢＮ１	978-4335551338
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	社会調査法Ⅲ			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-403		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	テーマ：社会調査における調査の設計および実施方法の基礎を習得する。 到達目標（4つ）： ①社会調査におけるサンプリングの方法を理解する ②調査票（質問紙）の設計および質問項目の作り方について学ぶ ③調査の方法（実査の方法、調査票の配布と回収法等）を理解する ④調査データの整理（コーディング・データクリーニング等）が出来るようになる なお、この科目は、社会調査士資格取得に必要な標準カリキュラムのB科目に該当する。
授業概要	社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する。 サンプリング、調査票・質問文の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法等）、調査データの整理（コーディング、データクリーニング等）の理解を通して調査設計と実施方法の基礎を習得する。 授業全体を通して課題を中心としたペアワーク、グループワークを行うため、受講生のコミュニケーション能力の向上にも繋がる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	最終試験(50%)と、授業中課題(50%)により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題は授業中にフィードバックを行う。単位認定試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	・毎週授業で配布する「配付資料（書き込み式のハンドアウト）」をもとに授業を進める。配布資料は各自ファイルに保管しておくこと。 ・授業の進行に合わせて、毎回、授業途中および授業の最後に「課題提出」を求める。 ・「社会調査法Ⅰ」、「社会調査法Ⅱ」を既習であることが望ましい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、研究者として社会調査を実践する担当教員（専門社会調査士）によるものである。社会調査の手法を具体的に学びながら学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	配布資料をもとに、授業内で解いた演習問題を次回授業までに復習のこと。 予習および復習には、各２時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	授業内容全体の概略（オリエンテーション）	黒宮
第２回	調査目的と調査方法	黒宮
第３回	調査方法の決め方	黒宮
第４回	調査企画と設計(1)調査企画	黒宮
第５回	調査企画と設計(2)調査設計	黒宮
第６回	質問項目の作成方法（ワーディング等）	黒宮
第７回	調査票の基本的な構成	黒宮
第８回	仮説構成	黒宮

第９回	全数調査と標本調査	黒宮
第１０回	無作為抽出	黒宮
第１１回	標本数と誤差	黒宮
第１２回	サンプリングの諸方法	黒宮
第１３回	調査の実施方法（調査票の配布・回収法等）	黒宮
第１４回	調査データの整理(1)コーディング	黒宮
第１５回	調査データの整理(2)データクリーニング	黒宮
第１６回	単位認定試験（筆記）	黒宮

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	社会調査法入門	参・出版社名１	有斐閣
参・著者名１	盛山和夫	参・ＩＳＢＮ１	4-641-18305-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会調査統計学Ⅰ			担当者	稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2017～2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-404		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	テーマ：社会調査に必要な推測統計を学ぶ 到達目標：推測統計の原理を理解し、自ら分析や検定・推定ができるようになる。 本講義は、社会調査士資格取得のための標準カリキュラムＤ科目に該当する。したがって、最終的な目標は社会調査士資格の取得である。
授業概要	本講義は、社会調査における計量的分析に必要となる統計学の知識・スキルの習得を目指す。 まず全数調査を基本とする記述統計（基本統計量や相関、標準偏差、正規分布等）について理解を深める。次に標本調査をもとに推測統計の基礎的部分について学ぶ。推測統計については、確率論の基礎、確率分布、推定・検定（平均の差の検定、関連性の検定、相関係数の検定を含む）などである。 講義内容に対応し適宜演習を行う。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	演習問題や課題等の提出物（30%）と定期試験（70%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	演習問題や課題については授業内で解説をおこなう。
履修条件・注意事項	本講義は、社会調査士資格取得のための標準カリキュラムＤ科目に該当するため、厳格な講義運営を行う。また、「社会調査法Ⅰ」「社会調査法Ⅱ」を既習であることが望ましい。 授業計画の内容は、進捗状況に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、研究者として社会調査を実践する担当教員（専門社会調査士）によるものである。
事前学習・事後学習とその時間	配布資料や参考書などを読み、予習・復習（各2時間程度）をする。
オフィスアワー	火曜日3時限に研究室（14611）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	稲元洋輔
第２回	基本統計量	稲元洋輔
第３回	度数分布とヒストグラム	稲元洋輔
第４回	代表値と分散・標準偏差	稲元洋輔
第５回	相関係数・回帰直線	稲元洋輔
第６回	確率変数・確率分布	稲元洋輔
第７回	母集団と標本	稲元洋輔
第８回	離散型確率変数	稲元洋輔
第９回	連続型確率変数	稲元洋輔
第１０回	正規分布に関わる定理	稲元洋輔
第１１回	統計的仮説検定の原理	稲元洋輔
第１２回	母平均・母比率に関する検定	稲元洋輔
第１３回	統計的推定の基礎	稲元洋輔
第１４回	様々な母数の区間推定	稲元洋輔
第１５回	まとめ	稲元洋輔

第１６回	定期試験		稲元洋輔
教科書			
教・書籍名１	資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	統計学の図鑑	参・出版社名１	技術評論社
参・著者名１	涌井良幸・涌井貞美	参・ＩＳＢＮ１	978-4774173313
参・書籍名２	心理統計学の基礎	参・出版社名2	有斐閣アルマ
参・著者名2	南風原朝和	参・ＩＳＢＮ2	978-4641121607

授業科目名	社会調査統計学Ⅱ			担当者	稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2017～2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-405		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	△

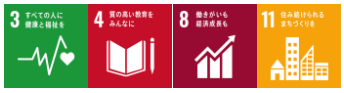
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	テーマ：社会調査における量的データの分析方法を学ぶ。 到達目標：多変量解析法について、基本的な考え方と分析方法について理解する。 本講義は、社会調査士資格取得のための標準カリキュラムE科目に該当する。
授業概要	本講義は、量的データの分析で用いられる多変量解析の手法について、知識・スキルの習得を目指す。 まず種々の解析法に関してその基本的な考え方と主要な分析手法について学ぶ。分散分析や重回帰分析を基本としながら、他の計量モデルとして主成分分析、判別分析、因子分析などをとりあげる。これらの理解と実践を通してデータ解析の方法を身に付ける。 講義内容に対応しパソコンを使用して演習を行う。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	演習問題や課題等の提出物（30%）と定期試験（70%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	演習問題や課題については授業内で解説をおこなう。
履修条件・注意事項	本講義は、社会調査士資格取得のための標準カリキュラムＥ科目に該当するため、厳格な講義運営を行う。また、社会調査士関連科目のA・B・C・D科目（本学設置科目名「社会調査法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「社会調査統計学Ⅰ」）について、すべて既習であることを履修条件とする。 授業計画の内容は、進捗状況に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、研究者として社会調査を実践する担当教員（専門社会調査士）によるものである。
事前学習・事後学習とその時間	配布資料や参考書などを読み、予習・復習（各2時間程度）をする。
オフィスアワー	火曜日3時限に研究室（14611）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	稲元洋輔
第２回	基礎知識の復習：記述統計量	稲元洋輔
第３回	基礎知識の復習：仮説検定	稲元洋輔
第４回	疑似相関	稲元洋輔
第５回	多重クロス表，偏相関分析	稲元洋輔
第６回	分散分析	稲元洋輔
第７回	交互作用効果	稲元洋輔
第８回	単回帰分析	稲元洋輔
第９回	重回帰分析の基礎	稲元洋輔
第１０回	ダミー変数・多重共線性	稲元洋輔
第１１回	重回帰分析の応用	稲元洋輔
第１２回	主成分分析	稲元洋輔
第１３回	因子分析	稲元洋輔
第１４回	クラスター分析	稲元洋輔
第１５回	まとめ	稲元洋輔

第１６回	定期試験		稲元洋輔
教科書			
教・書籍名１	資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理統計学の基礎	参・出版社名１	有斐閣アルマ
参・著者名１	南風原朝和	参・ＩＳＢＮ１	978-4641121607
参・書籍名２	多変量解析入門―線形から非線形へ	参・出版社名2	岩波書店
参・著者名2	小西貞則	参・ＩＳＢＮ2	978-4000056533

授業科目名	地域社会分析			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年			ナンバリング	SS-BU-2-406		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを 
到達目標	テーマ：社会調査の手法における、質的データの収集や分析方法を習得する。 目標（3つ） ①質的調査に関する基礎的理解を深め、調査技術を習得する。 ②インタビュー法、フィールドワーク、参与観察法等を経験する。また、ライフヒストリー分析や会話分析などの分析方法を学ぶことを通じ、質的調査の技術の習得を目指す。 ③複数の質的調査を用いた研究例の紹介や解説により、多様な質的調査の研究法について理解を深める。 ④インタビュー法のトレーニングを通じ、受講生のコミュニケーション力（言語・非言語）が高まる。 なお、この科目は、社会調査士資格取得に必要な標準カリキュラムの「F科目」に該当する。
授業概要	インタビュー、参与観察法、フィールドワークなどの手法を、講義と演習形式を組みあわせた授業をもとに学ぶ。 データ分析の方法についても、コーディング作業などを実際に行いながら習得を行う。 受講生は単に質的調査法の技法を学ぶだけでなく、社会学の視点や社会調査とは何かについても併せて理解を深める。 この講義を通して学ぶ社会調査の思想や技法は、受講生がレポートや卒業論文作成等を行う際にも役立つものとなる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	毎回の提出課題(50%)、定期試験(50%)で評価を行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した提出課題（小レポート）は、授業中にフィードバックを行う（単位認定試験までに復習しておくこと）。
履修条件・注意事項	・原則として、社会調査法Ⅰ、社会調査法Ⅱ、社会調査法Ⅲを既習であること。 ・授業は毎回配布する資料をもとに、演習を基礎とした課題を行う。 ・配付資料はファイル等を作成し、必ず全て保管しておくこと。 ・留学生については、質的調査の遂行には高い日本語力が求められるため、日本語能力試験（JLPT）N2に合格していることを履修条件とする。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、研究者として社会調査を実践する担当教員（専門社会調査士）によるものである。社会調査の手法を具体的に学びながら学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	配布資料をもとに必ず復習を行うこと。 授業の予習・復習には、各２時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	授業オリエンテーション	黒宮
第２回	社会調査の目的と意義	黒宮
第３回	質的調査の考え方（質的調査研究例の紹介・解説1）	黒宮
第４回	質的調査で扱うデータの種類とその理解（質的調査研究例の紹介・解説2）	黒宮
第５回	インタビュー　基礎	黒宮
第６回	インタビュー　実践	黒宮

第７回	インタビュー　言語データの扱い方	黒宮
第８回	インタビュー　分析（コーディング）	黒宮
第９回	フィールドワーク　基礎	黒宮
第１０回	フィールドワーク　応用	黒宮
第１１回	参与観察法　基礎	黒宮
第１２回	参与観察法　応用	黒宮
第１３回	ワークショップ	黒宮
第１４回	ライフヒストリー分析	黒宮
第１５回	会話分析	黒宮
第１６回	定期試験（筆記式）	黒宮

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	よくわかる質的調査法　技法編	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	谷富雄・芦田徹郎　編著	参・ＩＳＢＮ１	978-4623052738
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会調査実習			担当者	稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-407		
必修・選択	選択	単位数	4単位	時間数	120時間	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限 木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	テーマ：社会調査の課題を設定し、調査を企画・実践する。 到達目標：社会調査の実践能力を高め、報告書を作成する。 この科目は、社会調査士資格取得のための標準カリキュラムG科目に該当する。
授業概要	本実習は、社会調査に関する基礎的な知識を習得したことを前提とし、実際に調査の企画から報告書の作成までの社会調査の全過程について経験する。データを用いた論文・書籍を理解するための知識とともに、調査の実施と分析を行うスキルを身につけることを目指す。 方法としては、各自の関心をもとに仮説をたて、その仮説にしたがって調査票を作成し質問紙調査を実施する。そこから得られたデータについて集計・統計分析を行い、結果を報告書にまとめる。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	課題等の提出物や実習への貢献度（20%）と報告書の作成（80%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については授業内で解説をおこなう。
履修条件・注意事項	本実習は、社会調査士資格の取得を目指す学生を対象とする。したがって、他の社会調査士関連科目はすべて既習であることを履修条件とする。（F科目は選択だが既習の方が望ましい。） 加えて日本語学習者においては、N2を合格していることも履修の必須要件とする。（報告書を執筆するため日本語の文章能力が求められる。） 授業計画の内容は、進捗状況に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、研究者として社会調査を実践する担当教員（専門社会調査士）によるものである。
事前学習・事後学習とその時間	配布資料や参考書・研究論文などを読み、予習・復習・課題（4時間程度）をする。
オフィスアワー	火曜日3時限に研究室（14611）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	稲元洋輔
第２回	社会調査の流れ	稲元洋輔
第３回	調査企画	稲元洋輔
第４回	概念・仮説・調査枠組	稲元洋輔
第５回	仮説構成	稲元洋輔
第６回	調査テーマの報告(1)	稲元洋輔
第７回	調査テーマの報告(2)	稲元洋輔
第８回	調査設計：項目設定(1)	稲元洋輔
第９回	調査設計：項目設定(2)	稲元洋輔
第１０回	調査票作成(1)	稲元洋輔
第１１回	調査票作成(2)	稲元洋輔
第１２回	調査設計：対象者選定	稲元洋輔
第１３回	調査設計：サンプリング	稲元洋輔
第１４回	調査準備	稲元洋輔

第１５回	実査	稲元洋輔
第１６回	データ整理：集計	稲元洋輔
第１７回	データ整理：コーディング	稲元洋輔
第１８回	SPSSの操作：記述統計量	稲元洋輔
第１９回	SPSSの操作：2変数の関連	稲元洋輔
第２０回	データ分析(1)	稲元洋輔
第２１回	データ分析(2)	稲元洋輔
第２２回	分析結果の報告(1)	稲元洋輔
第２３回	SPSSの操作：多変量解析	稲元洋輔
第２４回	データ分析(3)	稲元洋輔
第２５回	分析結果の報告(2)	稲元洋輔
第２６回	報告書の執筆(1)	稲元洋輔
第２７回	報告書の執筆(2)	稲元洋輔
第２８回	報告書の執筆(3)	稲元洋輔
第２９回	最終報告(1)	稲元洋輔
第３０回	最終報告(2)	稲元洋輔
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	計量社会学入門―社会をデータでよむ	参・出版社名１	世界思想社
参・著者名１	筒井淳也・神林博史・長松奈美江・渡邉大輔・藤原翔	参・ＩＳＢＮ１	978-4790716716
参・書籍名２	SPSSによる多変量解析	参・出版社名2	オーム社
参・著者名2	村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士	参・ＩＳＢＮ2	978-4274066269

授業科目名	基礎演習Ⅰ　（コラボ形式）			担当者	井勝　久喜、雲津　英子、黒宮　亜希子、秀　真一郎、大西　正泰、竹岡　志朗、稲元　洋輔、李　分一、姜　明求、栗田　喜勝、赤坂　真人、中野　明子		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	SS-BU-1-501		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】 大学で学ぶ上で必要な基礎的な知識、学習スキルを習得する。 学科内での人間関係形成を通じ、コミュニケーション力を養う。 【到達目標（主に３つ）】 ①新入生がスムーズに大学生活を送ることが出来るよう、大学で学ぶための基礎的な知識を身につける。 ②大学生・社会人として必要な社会的マナーを身につける。 ③演習における少人数のグループ活動を通じて、自己理解や自己表現、コミュニケーションスキルの向上を目指す。
授業概要	１年生全体での合同授業では、大学生活や経営社会学科で学ぶために重要なガイダンス（コース・資格の説明）、さらには、学科全体でのレクリエーション活動を実施する。 各チューター別の演習授業時には、指定されたテキストを基に、大学での基本的な学び方、コミュニケーション（話し方・聴き方）、マナー（電話やメールの作法など）に関して、毎回一つずつトピックを取り上げながら演習形式で学習を進める。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	ルーブリック評価表（100%）に基づき評価を行う。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	・提出課題については各チューターから添削の上、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	①経営社会学科（１年次）の卒業必修科目である。 ②テキストを配布する。書き込み式テキストのため、忘れないように毎回持参のこと。 ③授業中または授業後に、課題・ミニレポート等の提出が求められる。提出物を基にフィードバックを行う。 ④合同（１年生全員）で実施する回と、各チューター単位で活動する回に分かれている。予定に注意すること。
実務経験のある教員	該当する　内容：企業等における勤務経験を有する教員が授業を行う。
事前学習・事後学習とその時間	・演習形式の授業であるため、積極的な参加が重要である。 ・テキストを基に、事前・事後の学修に各2時間を要する。
オフィスアワー	チューター教員ごとにオフィスアワーが異なる。授業時にオフィスアワーに関しては説明がある。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション ①授業予定、コース・資格等、研究倫理教育	全教員
第２回	オリエンテーション ②マイステップを用いた学習計画の記入について	全教員
第３回	学生交流活動①	全教員
第４回	学生交流活動②	全教員
第５回	大学で学ぶということ ①自主性を発揮して大学生活を楽しもう	全教員
第６回	大学で学ぶということ ②大学での学びとは	全教員

第７回	コミュニケーションとマナー①コミュニケーションの重要性	全教員
第８回	コミュニケーションとマナー②話を聴く	全教員
第９回	コミュニケーションとマナー③わかりやく話す	全教員
第１０回	学外交流活動 ①	全教員
第１１回	学外交流活動 ②	全教員
第１２回	コミュニケーションとマナー④マナーの本質と重要性	全教員
第１３回	コミュニケーションとマナー⑤人に依頼するときのマナー	全教員
第１４回	コミュニケーションとマナー⑥電話・メールの作法	全教員
第１５回	春学期まとめ（振り返りレポート）	全教員
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	マイキャリアノートⅠ Basic (基礎演習Ⅰ授業時に配布する)	教・出版社名１	ベネッセ i-キャリア
教・著者名１	ベネッセ i-キャリア	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ （コラボ形式）			担当者	井勝　久喜、雲津　英子、黒宮　亜希子、秀　真一郎、大西　正泰、竹岡　志朗、稲元　洋輔、李　分一、姜　明求、栗田　喜勝、赤坂　真人、中野　明子		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2019～ 2020年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	SS-BU-1-502		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】 大学で学ぶ上で必要な基礎的な知識、学習スキルを習得する。 学科内での人間関係形成を通じ、コミュニケーション力を養う。 【到達目標（主に３つ）】 ①新入生がスムーズに大学生活を送ることが出来るよう、大学で学ぶための基礎的な知識を身につける。 ②大学生・社会人として必要な社会的マナーを身につける。 ③演習における少人数のグループ活動を通じて、自己理解や自己表現、コミュニケーションスキルの向上を目指す。
授業概要	１年生全体での合同授業では、大学生活や経営社会学科で学ぶために重要なガイダンス（コース・資格の説明）等を実施する。 各チューター別の演習授業時には、指定されたテキストを基に、大学での基本的な学び方（レポートの書き方、図書館利用の仕方、発表の仕方）など、毎回一つずつトピックを取り上げながら演習形式で学習を進める。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	ルーブリック評価表（100%）に基づいて授業評価を行う。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	・提出課題はチェックし、チューターより返却を行う。
履修条件・注意事項	①経営社会学科（１年次）の卒業必修科目である。 ②テキストを配布する。書き込み式テキストのため、忘れないように毎回持参のこと。 ③授業中または授業後に、課題・ミニレポート等の提出が求められる。提出物を基にフィードバックを行う。 ④合同（１年生全員）で実施する回と、各チューター単位で活動する回に分かれている。予定に注意すること。
実務経験のある教員	該当する　内容：企業等において勤務経験を有する教員が担当する。
事前学習・事後学習とその時間	・演習形式の授業であるため、積極的な参加が重要である。 ・テキストを基に、事前・事後の学修に各2時間を要する。
オフィスアワー	チューター教員ごとにオフィスアワーが異なる。 授業時にオフィスアワーに関しては説明がある。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション ①授業予定説明・履修指導、研究倫理教育	全教員
第２回	オリエンテーション ②マイステップの記入、履修確認など	全教員
第３回	キャリアデザインとは	全教員
第４回	自分について考える	全教員
第５回	大学で伸ばしたい力＆将来について考える	全教員

第６回	社会で求められる力	全教員
第７回	学びと社会のつながりを知る	全教員
第８回	目標と行動計画を立ててみよう	全教員
第９回	授業の受け方、タイムマネジメントの仕方	全教員
第１０回	図書館の使い方	全教員
第１１回	レポート・論文の書き方	全教員
第１２回	コース選択説明会	全教員
第１３回	ディスカッション・ディベートの仕方	全教員
第１４回	発表・プレゼンテーションの仕方	全教員
第１５回	秋学期まとめ（振り返りレポート）	全教員
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	マイキャリアノートⅠ Basic (基礎演習Ⅰ授業時に配布する)	教・出版社名１	ベネッセ i-キャリア
教・著者名１	ベネッセ i-キャリア	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅰ（ゼミ形式）			担当者	赤坂　真人		
配当学科・研究科	2017～2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-503		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ リベラルアーツ。自然科学・社会科学・人文学に関する書籍で、評価の高いものからそれぞれ3冊を選び、発表者を割り当てパワーポイントでプレゼンを行う。当日の討論を終えた後、3回に１回のペースで論述試験を行う。また文章を要約する練習、文章に見出し・タイトルをつける練習なども行う。 到達目標 幅広く且つ早く読むことで読書力を鍛える。議論することによって知識を定着させ、自分の意見を述べる練習を行う。小論文を書くことで文章能力を高める。文章の要約により文章のポイントを把握する力をつける。
授業概要	読書予定文献は次のようなテーマに関連する。 社会科学：（日本経済・政治哲学）自然科学：（人工知能・進化生物学） 人文学 ：（哲学・社会学） 授業の開始前に学生に書籍またはハンドアウトを渡すので、次週のゼミ開始までに読んでおく。毎回、学生に課題テキストを割り当て、テキストの要旨を報告させる（レジュメまたはパワーポイント使用）。その後全員で討論し、教員が指示したテーマに関する小論文を執筆する。小論文は教員が添削しコメントをつけて返却する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	評価は①ルーブリック評価票による評価（50%）、②ゼミでの小試験・定期試験（50%）で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	論述式の小テスト・定期試験は教員が採点し、コメントをつけて返却する。
履修条件・注意事項	『社会学』『社会調査法』『社会統計学』を履修しておくことが望ましい。また日々のニュースによって社会に関する理解を深めておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	学期中、毎週、予習と復習に各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜4限（15：10～16：40）に、研究室（9309）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・研究倫理：研究の倫理に基づく責任ある研究活動	赤坂
第２回	ソクラテス：無知の知　　パルメニデス：不変の存在	赤坂
第３回	デカルト：心身二元論　エピクロス：世界初の無神論者。	赤坂
第４回	ヒューム：懐疑論　デモクリトス：原子論	赤坂
第５回	カント：本質直観主義　認識のコペルニクス的転換	赤坂
第６回	ヘーゲル：弁証法　ニュートン：普遍的法則	赤坂
第７回	サルトル：実存主義　バークリー：実在論	赤坂
第８回	レヴィ＝ストロース：構造主義	赤坂
第９回	デューイ：実用主義　ベンサム：功利主義	赤坂
第１０回	デリダ：脱構築　ソシュール：言語的構築	赤坂
第１１回	レヴィナス：他者論（虚無主義）	赤坂
第１２回	フッサール：現象学　シュッツ：現象学的社会学	赤坂
第１３回	ニーチェ：人間を超えて　M.ガブリエル：新実在主義	赤坂
第１４回	ハイデガー：存在論　　仏教：縁起と空の思想	赤坂

第１５回	プロタゴラス：相対主義　ヘラクレイトス：万物の変化	赤坂
第１６回	定期試験	赤坂

教科書			
教・書籍名１	史上最強の哲学入門	教・出版社名１	河出書房新社
教・著者名１	飲茶	教・ＩＳＢＮ１	978-4309414133
教・書籍名２	社会学	教・出版社名2	岩波書店
教・著者名2	筒井淳也	教・ＩＳＢＮ2	978-400026997

参考書			
参・書籍名１	進化心理学入門	参・出版社名１	PanRolling
参・著者名１	アラン・S・ミラー　/　サトシ・カナザワ	参・ＩＳＢＮ１	978-4775942055
参・書籍名２	38億年の生命史に学ぶ生存戦略	参・出版社名2	PHP出版
参・著者名2	稲垣栄洋	参・ＩＳＢＮ2	978-4569845753

授業科目名	演習Ⅰ（ゼミ形式）			担当者	井勝　久喜		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-503		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「課題探究能力・主体的判断能力の育成」をテーマとして、自主的学習のための基礎知識を身につけ、自らが課題を見つけ出す能力を身につけることを到達目標とする。
授業概要	専門分野における総合的な課題探究能力・主体的判断能力の育成を目指して、一般基礎教育・教養教育と専門教育の有機的連関を考察する。指導者から与えられる専門情報に関して、受容から獲得へ、学習から研究へと、理解様式を深めていく。専門的知識を演習グループの共通認識へ高める。 この科目は、一部の授業時間において企業経験のある外部講師を招いて講義をしていただき、学生の理解を深める。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	ルーブリック評価シートで評価（50%）。演習での活動評価（50%）。ただし、他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には、減点することもある。詳しい評価方法は、最初の演習の時に説明する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートは採点をして授業でフィードバックするので見なおしておくこと。
履修条件・注意事項	欠席、遅刻する場合は、必ず、前もって連絡すること。自分から進んで演習に参加するという態度で臨むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）参加型演習のために、演習生は事前に課題を調べた上で参加する。演習は、この課題をめぐって討論形式で行う。 ２）演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 ３）レポートの返却後に指示にしたがって復習を行うこと。 予習および復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施

授業計画		担当者
第１回	演習Ⅰオリエンテーションと研究倫理教育	井勝久喜
第２回	読解力演習	井勝久喜
第３回	プレゼンテーション演習	井勝久喜
第４回	グループディスカッション演習	井勝久喜
第５回	コミュニケーション演習	井勝久喜
第６回	外部講師ワークショップ	外部講師、井勝久喜
第７回	外部講師ワークショップ	外部講師、井勝久喜
第８回	人生グラフ	井勝久喜
第９回	NIE演習	井勝久喜
第１０回	ファシリテーションの基礎	井勝久喜
第１１回	ファシリテーショングラフィック	井勝久喜
第１２回	ファシリテーション演習	井勝久喜
第１３回	フリップボード・ディスカッション演習	井勝久喜
第１４回	フィッシュボール演習	井勝久喜

第１５回	リフレクション・ワークショップ		井勝久喜
第１６回	授業の振り返りとレポート作成		井勝久喜
教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	ファシリテーション入門	参・出版社名１	日本経済新聞社
参・著者名１	堀公俊	参・ＩＳＢＮ１	978-4-532-11398-8
参・書籍名２	ファシリテーター入門	参・出版社名2	つげ書房新社
参・著者名2	エコ・コミュニケーションセンター	参・ＩＳＢN2	4-8064-0471-1

授業科目名	演習Ⅰ（ゼミ形式）			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2017～2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-503		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「経営学の専門知識の吸収と文献調査の理解」がテーマである。到達目標は、経営学の専門知識の習得と共に、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力を高める。また、文献を読む能力、考える能力、書く能力、まとめる能力の向上。ﾁｰﾑﾜｰｸとﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟの向上。自己管理力と問題解決能力の向上。
授業概要	ｾﾞﾐの目的と概要は次のとおりである。本ｾﾞﾐでは、経営学・国際経営などの基本的な専門知識を身につけることにする。企業経営の仕組み、戦略、組織などについて学習することが目的である。ﾃｷｽﾄは変更可能である。 　また、ｾﾞﾐ参加者が興味あるﾃｰﾏを選択し、卒業論文に向けての報告も行ってもらう。発表に基づいて議論をする。その際に、論文の書き方も指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	(1)ルーブリック評価票による評価　→50% (2)期間中に提示した課題の到達度　→50% 　等による総合評価
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	経営学に関する文献を読むこと。問題意識と積極性を持つこと。無断の欠席は認めない。やむを得ない時は必ず連絡を入れること。必ず事前に配布した資料を読むと共に、復習をすること。休んだ場合には、配布した資料を読むなどとして各自で補う努力をすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回授業の前には参考資料の予習(毎回2時間)と講義後には復習(毎日2時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ・自己紹介・研究倫理の指導	姜
第２回	2.経営学とｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化に関連する文献の紹介と文章のまとめ方	姜
第３回	3.会社の経営はどんなことか	姜
第４回	4.会社はどのようにして社会に役立っているのか	姜
第５回	5.会社は誰が動かしているのか	姜
第６回	6.会社はどのような方針で動いているのか	姜
第７回	7.個人面談と個人指導	姜
第８回	8.会社はどんな仕組みで動いているのか(組織形態)	姜
第９回	9.ｸﾞﾙｰﾌﾟ経営の考え方	姜
第１０回	10.会社はどのように協力しているのか	姜
第１１回	11.戦略的提携	姜
第１２回	12.会社はどのようにしてﾓﾉを造るのか	姜
第１３回	13.QCｻｰｸﾙ	姜
第１４回	14.社員は仕事をどのように分担しているのか	姜
第１５回	15.全体のまとめ	姜

第１６回	16.全体のまとめと試験		姜
教科書			
教・書籍名１	経験から学ぶ経営学入門	教・出版社名１	有斐閣ﾌﾞｯｸｽ
教・著者名１	上林憲雄・奥林康司・団　泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林明	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	演習時に参考書・資料などを予習ができるように適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅰ（ゼミ形式）			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-503		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本演習では、東アジア諸国の民主化政治とその社会的・経済的基盤を学習する。特に、日本と韓国の経験を中心に、東アジア地域について幅広く研究して行く。 この演習では、東アジア地域についての関心を高め、その仕組みの理解を課題とする。なお、この演習に参加すれば、東アジア地域の抱える様々な問題の発見力とその総合力、そして総括力と発表力が身に付けられる。
授業概要	今年のテーマは、東アジア諸国の民主化政治とその社会経済的基盤の研究である。まず、演習生に対して、関連資料を読みこなせ、まとめる能力（読み方・書き方・話し方など）の演習を行う。なお、資料の選択については、演習参加者の関心事に対応する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	(1)ルーブリック評価票による評価（50%） (2)期間中に提示した課題の到達度（ 50%） による総合評価
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型演習であるために、演習生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。演習は、この課題をめぐって行う。 （２）演習生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（研究倫理教育）	李　分一
第２回	東アジアの政治	李　分一
第３回	日中韓三国の政治	李　分一
第４回	東アジアの経済	李　分一
第５回	日中韓三国の経済	李　分一
第６回	東アジアの社会	李　分一
第７回	日中韓三国の社会	李　分一
第８回	東アジアの文化	李　分一
第９回	日中韓三国の文化	李　分一
第１０回	東南アジアの政治	李　分一
第１１回	ASEAN政治の特徴	李　分一
第１２回	東南アジアの経済	李　分一
第１３回	ASEAN経済の特徴	李　分一
第１４回	東南アジアの社会	李　分一

第１５回	東南アジアの文化	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	演習中に紹介する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅰ（ゼミ形式）			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-503		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	テーマ：大学生・社会人として必要な学びのスキル習得 到達目標：①読解力（新聞・書籍・論文）、②文章力（レジュメ、レポート作成）、③発表力、④情報資料の収集力、の基礎を養う。 取り上げる題材はいずれも身近なテーマであるため、社会問題、生活問題に対する分析力を養う（問題発見力・論理的思考力）。 ①～④の課題作業（共同作業）を通じ、受講生の自己理解力、コミュニケショーン力向上までを目標とする。
授業概要	演習とは「ゼミ」のことであり、卒業論文の執筆に向けた準備、さらに社会人基礎力行う重要な場である。 ２年次は大学４年間を通じて必要な、①基礎的なリーディング、②ライティング技術（レジュメ作成）、③発表（プレゼンテーション）、④情報・資料収集力、を中心に身につけていく（日本人学生・留学生ともに）。 ゼミのプロジェクト・各自の課題についても発表・議論の機会を度々設けるため、積極的な姿勢が望まれる。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	①「ルーブリック評価表」による評価（50%） （※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示す通りである） ②「担当教員による評価」（50%） 最終レポート（50%）
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	提出課題に対してはそれぞれ添削の上、返却を行う（フィードバック）。
履修条件・注意事項	ゼミは参加型学習形態の授業のため、授業への出席と予習復習が必要不可欠である。 受講生の学習習熟度や、語学力（特に留学生について）により授業計画は多少変更することがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	課題の予習復習に毎回２時間が必要である。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、研究倫理教育	黒宮
第２回	リーディング(1) 文章の読み方（基礎）	黒宮
第３回	リーディング(2) 文章の読み方（応用）	黒宮
第４回	リーディング(3) 個人発表	黒宮
第５回	リーディング(4) 各自の問題関心に沿った読み物（基礎）	黒宮
第６回	リーディング(5) 各自の問題関心に沿った読み物（応用）	黒宮
第７回	リーディング(6) 発表・振り返り	黒宮
第８回	レポート・レジュメ作成 (1) 基礎	黒宮
第９回	レポート・レジュメ作成 (2)様々な文章の書き方について	黒宮
第１０回	レポート・レジュメ作成 (3)レジュメの基礎	黒宮
第１１回	レポート・レジュメ作成 (4)レポートの基礎	黒宮

第１２回	レポート・レジュメ作成 (5)課題文章に取り組む	黒宮
第１３回	レポート・レジュメ作成 (6)課題文章の発表	黒宮
第１４回	レポート・レジュメ作成 (7)課題文章の修正作業	黒宮
第１５回	授業振り返り	黒宮
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	石井 一成	参・ＩＳＢＮ１	978-4816350573
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅰ（ゼミ形式）			担当者	大西　正泰		
配当学科・研究科	2017～2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-503		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「課題探究能力・主体的判断能力の育成」をテーマとする。 演習Ⅰでは、 ①自分とゼミで組まれるプロジェクトチームの特性を知る。 ②チーム運営の試行錯誤を通じて、自分の役割を活かす。 ができることを目標とする。
授業概要	演習Ⅰでは、 ①自分の特性を知る ・心理テストを用いて、自分自身の特性やチームづくりに役立てるよう、ゼミ運営をケースに考えてみる。 ・インタビュー・ワークショップなどを通じて、お互いの特徴や良さを活かしあえるようにする。 ②自分とチームの特性を知り、試行錯誤を通じて、自分の役割とチームの運営を学ぶための基礎を養う。 ・ゼミ生を２－３程度のグループに分け、グループリーダーとなるゼミ長を中心に組織運営をやってみる。ゼミ長は、適宜交代していく。 ・チーム運営では、ボードゲームなどのワークショップを行う。 ・チーム運営の手法の１つとして、コーチングメソッドを学ぶ。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	・50% 「①ルーブリック評価表（学科共通）」＋50%「②担当教員による評価」＝ 100% ①「ルーブリック評価表」による評価（50%） 学科共通のルーブリックを参考にすること。/uprx/keiei.pdf ②「担当教員による評価」（50%） 50%の内訳は、授業中ミニレポート、プレゼンなど（20%）とプロジェクトへの取り組み（30%）である。
ルーブリック評価	学科共通のルーブリック評価表のリンク先　/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	・毎回のゼミで、進捗プレゼンテーションをする。 ・ゼミで運営するオンラインチャットを通じて、お互いの情報をシェアし、助け合う。
履修条件・注意事項	・欠席、遅刻する場合は、必ず、前もって連絡すること。 ・自分から進んで演習に参加するという態度で臨むこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、地域づくりに携わってきた実務経験のある教員が授業を行います。 実務経験としては、 ①2006~2010年　香川県高松市丸亀町商店街での地域スポーツ支援 ②2009年　讃岐パスタ発案者（企画・開発・商品化） ③2011~2018年　徳島県上勝町における空き家再生/起業家育成など
事前学習・事後学習とその時間	１）参加型演習のために、演習生は事前に課題を調べた上で参加する。 ２）演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出する。 ３）レポートの返却後に指示にしたがって復習を行うこと。予習および復習には各2時間程度を要する。

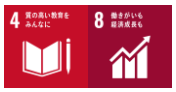
オフィスアワー	水曜日（２限）場所は14621研究室（14号館6階）になります。 ＊他の曜日についてはメールにて、随時受付します。m-onishi@kiui.ac.jp

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（ゼミの方針とルール、SNSなどの活用）	大西正泰
第２回	自分を知る（自分とチームの特性診断）	大西正泰
第３回	自分を知る（インタビューワークショップ）	大西正泰
第４回	チームによる課題解決（１）ボードゲーム	大西正泰
第５回	チームによる課題解決（２）ボードゲーム	大西正泰
第６回	図書館見学とABD読書法	大西正泰
第７回	ABD読書法（１）要約力（言葉と図表）	大西正泰
第８回	ABD読書法（２）要約力（実践編）	大西正泰
第９回	ABD読書法（３）コーチング	大西正泰
第１０回	コーチング（１）傾聴とインタビューグループワーク	大西正泰
第１１回	コーチング（２）質問グループワーク	大西正泰
第１２回	コーチング（３）承認グループワーク	大西正泰
第１３回	コーチング（４）GLOWモデル	大西正泰
第１４回	コーチング（５）第１回ケーススタディ	大西正泰
第１５回	コーチング（６）第２回ケーススタディ	大西正泰
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	コーチング入門＜第２版＞	参・出版社名１	日本経済新聞出版社
参・著者名１	本間正人・松瀬理保	参・ＩＳＢＮ１	978-4-532-11340-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅰ（ゼミ形式）			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-503		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も 
到達目標	テーマ 読書に関する基礎能力とプログラミングに必要な考え方修得 到達目標 ①書籍や論文を読み、それを理解したうえで他者に伝達する力を養う ②プログラミング言語を覚えるための基礎力を養う
授業概要	卒業論文を執筆する際には、過去の研究から学び、新しい知見を得るために、論文を読解し、さらにコンピューターを用いて、自身でデータを集め、それを分析することが求められる。2年次は、そのような能力を養うための基礎的な学修を進める。 2年次は、研究におけるデータの役割を理解しやすい書籍や論文を輪読し、それをプレゼンテーションする形で発表力を養っていく。 また、プログラミング言語を理解し、自身の興味関心に沿って使いこなすためには、プログラミングというものがどのようなものであるのかを理解しなければならない。そのため、GUIベースのプログラミング言語から、キーボードマクロまでを使えるようにする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	①ルーブリック評価表による評価50% ②プログラミング到達度30% ③期間中に提示した課題の到達度20%
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	演習時間を含めて随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	遅刻や無断欠席は全体の進行に影響するので、基本的に認めない。やむを得ない場合，必ず事前連絡すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	2週間に一度は輪読が回ってくるので、自身の関心がある本を数冊選んで、あらかじめ読んでおくこと。 プログラミングは基本的に写経と書き換えでしか覚えることができないので、演習の中で用いた書籍から学んだ項目の説明を、他の書籍を参照しながら自身の中で再度確認する。少なくとも予習に2時間復習に2時間は要する。
オフィスアワー	月曜日3限

授業計画		担当者
第１回	研究倫理に基づく責任ある研究活動	竹岡
第２回	輪読とコンピューターの説明	竹岡
第３回	輪読とセットアップ	竹岡
第４回	輪読とGUIプログラミング	竹岡
第５回	輪読とGUIプログラミング	竹岡
第６回	輪読とGUIプログラミング	竹岡
第７回	輪読とGUIプログラミング	竹岡
第８回	輪読とGUIプログラミング	竹岡
第９回	輪読とGUIプログラミング	竹岡
第１０回	輪読とRPAプログラミング	竹岡
第１１回	輪読とRPAプログラミング	竹岡

第１２回	輪読とRPAプログラミング	竹岡
第１３回	輪読とRPAプログラミング	竹岡
第１４回	輪読とRPAプログラミング	竹岡
第１５回	輪読とRPAプログラミング	竹岡
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	進行の中で随時指定	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅰ（ゼミ形式）			担当者	稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-503		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	テーマ：教養・社会学的想像力を養う。 到達目標：①学問の作法を身につける。②社会学の基礎を学び、人間や社会への理解を深める。
授業概要	演習科目の最終的な目標は卒業論文の執筆である。したがって、3年間の演習を通じて必要なスキルの習得を目指す。 2年次は、学問の作法を身につけること、社会学の文献等を読み内容についてしっかりと理解することを中心に進める。 授業方法は主にテキスト等の読解を行う。学生はテキストの担当部分についてレジュメを作成し報告をする。そして、その報告に対して質疑応答を行うとともに、報告者を含め全体で内容を発展させるための議論を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	ルーブリック評価表（50%）と、最終レポート（50%）によって評価する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については授業内で解説をおこなう。
履修条件・注意事項	出席と予習復習は必要不可欠である。 授業計画の内容は、受講者の理解度に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜日3時限に研究室（14611）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・研究倫理教育	稲元洋輔
第２回	論文・テキストの読み方(1)	稲元洋輔
第３回	論文・テキストの読み方(2)	稲元洋輔
第４回	論文・テキストの読み方(3)	稲元洋輔
第５回	論文・テキストの読み方(4)	稲元洋輔
第６回	レジュメ・レポートの書き方(1)	稲元洋輔
第７回	レジュメ・レポートの書き方(2)	稲元洋輔
第８回	レジュメ・レポートの書き方(3)	稲元洋輔
第９回	レジュメ・レポートの書き方(4)	稲元洋輔
第１０回	情報・資料収集の方法(1)	稲元洋輔
第１１回	情報・資料収集の方法(2)	稲元洋輔
第１２回	情報・資料収集の方法(3)	稲元洋輔
第１３回	プレゼンテーションの方法(1)	稲元洋輔
第１４回	プレゼンテーションの方法(2)	稲元洋輔
第１５回	まとめ	稲元洋輔
第１６回		

教科書

教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	授業の進行に応じて適宜紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅱ （ゼミ形式）			担当者	赤坂　真人		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-504		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ リベラル・アーツ。自然科学・社会科学・人文学に関する書籍で、評価の高いものからそれぞれ3冊を選び、発表者を割り当てパワーポイントでプレゼンを行う。当日の討論を終えた後、3回に１回のペースで論述試験を行う。また文章を要約する練習、文章に見出し・タイトルをつける練習なども行う。 到達目標 幅広く且つ早く読むことで読書力を鍛える。議論することによって知識を定着させ、自分の意見を述べる練習を行う。小論文を書くことで文章能力を高める。文章の要約により文章のポイントを把握する力をつける。
授業概要	読書予定文献は次のようなテーマに関連する。 社会科学：（世界経済・政治哲学）自然科学：（人工知能・脳科学・生物学）人文学：（古典文学・哲学） 授業の開始前に学生に書籍を渡し、次週のゼミ開始までに読んでおく。演習では各学生に読むべきテキストを指定し、要旨をレジュメまたはパワーポイントで報告させる。そのあと全員で討論し、教員が指示したテーマに関する小論文を執筆する。小論文は教員が添削し、コメントをつけて返却する。
アクティブラーニングの内容	ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	評価は①ルーブリック評価票による評価（50%）、②ゼミでの小試験・定期試験（50%）で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	小試験や定期試験について教員は採点し、コメントをつけて返却する。
履修条件・注意事項	幅広い知識を得るため読書習慣を身につけよう。無断欠席は許されない。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	学期中、毎週、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜４限（15：10～16：40）に、研究室（9309）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・研究倫理：研究の倫理に基づく責任ある研究活動	赤坂
第２回	近代とは何か	赤坂
第３回	近代の成熟	赤坂
第４回	近代の終焉　近代が終わった日本のこれから	赤坂
第５回	世界経済の現状：成長の終わったヨーロッパと日本	赤坂
第６回	世界経済の現状：成長が続く中国・インド・東南アジア・アフリカ	赤坂
第７回	世界の政治状況：アメリカと中国の時代	赤坂
第８回	世界の政治状況：政治大国ロシア	赤坂
第９回	日本経済と政治のジレンマ	赤坂
第１０回	AIの進化と社会変動	赤坂
第１１回	技術発展と世界の変化：人工生命・ゲノム編集（トランスヒューマニズム）	赤坂
第１２回	正義とは何か？	赤坂
第１３回	功利主義における正義	赤坂
第１４回	自由主義における正義	赤坂
第１５回	本質直観主義と正義	赤坂

第１６回	定期試験		赤坂
教科書			
教・書籍名１	日本ってどんな国？	教・出版社名１	ちくまプリマー新書
教・著者名１	本田由紀	教・ＩＳＢＮ１	978-4780684127
教・書籍名２	リベラリズムと正義の限界	教・出版社名2	勁草書房
教・著者名2	Ｍ．Ｊ．サンデル	教・ＩＳＢＮ2	978-4326101887
参考書			
参・書籍名１	史上最強の哲学入門	参・出版社名１	河出書房新社
参・著者名１	飲茶	参・ＩＳＢＮ１	978-4065178898
参・書籍名２	脳の中の天使	参・出版社名2	角川書店
参・著者名2	ラマチャンドラン	参・ＩＳＢＮ2	978-4041101049

授業科目名	演習Ⅱ （ゼミ形式）			担当者	井勝　久喜		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-504		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「知識に対する自己自身の姿勢を社会との関連の中で理解する」をテーマとして、討論やグループワークを中心とした演習を行い、学科の専門を理解する能力を身につけることを到達目標とする。
授業概要	資料や文献を検索し、体験と連動させて、情報の専門的解釈および記録の方法を学習する。学習内容を、グループ研究の形で共同研究発表や討議などを通して演習グループの共有財産に高める。知識に対する自己自身の姿勢を社会との関連の中で理解し、将来的自己の専門家としての主体性（モチベーションとアイデンティティ）と活動内容を考察する。 この科目は、一部の授業時間において企業経験のある外部講師を招いて講義をしていただき、学生の理解を深める。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	ルーブリック評価シートで評価（50%）。演習での活動評価（50%）。ただし、他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には、減点することもある。詳しい評価方法は、最初の演習の時に説明する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポートは採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	欠席、遅刻する場合は、必ず、前もって連絡すること。自分から進んで演習に参加するという態度で臨むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）参加型演習のために、演習生は事前に課題を調べた上で参加する。演習は、この課題をめぐって討論形式で行う。 ２）演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 ３）レポートの返却後に指示にしたがって復習を行うこと。 予習及び復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施

授業計画		担当者
第１回	演習Ⅱオリエンテーションと研究倫理教育	井勝久喜
第２回	アドラー心理学1（目的論）	井勝久喜
第３回	アドラー心理学2（共同体）	井勝久喜
第４回	フランクル心理学１（生きる意味）	井勝久喜
第５回	フランクル心理学２（生き方）	井勝久喜
第６回	外部講師講演会（2時間連続）	井勝久喜・外部講師
第７回	外部講師講演会（2時間連続）	井勝久喜・外部講師
第８回	ポジティブ心理学	井勝久喜
第９回	コーチング1（傾聴）	井勝久喜
第１０回	コーチング2（質問）	井勝久喜
第１１回	コーチング3（信頼）	井勝久喜
第１２回	コーチング4（リフレクション）	井勝久喜
第１３回	コーチング演習	井勝久喜

第１４回	NLP演習	井勝久喜
第１５回	振り返りワークショップ	井勝久喜
第１６回	振り返りレポート作成	井勝久喜

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	嫌われる勇気	参・出版社名１	ダイヤモンド社
参・著者名１	岸見一郎	参・ＩＳＢＮ１	978-4-478-02581-9
参・書籍名２	コーチングの基本	参・出版社名2	日本実業出版社
参・著者名2	鈴木義幸	参・ＩＳＢＮ2	978-4-534-04583-6

授業科目名	演習Ⅱ （ゼミ形式）			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-504		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「経営学の専門知識の吸収と文献調査の理解」がテーマである。到達目標は、経営学の専門知識の習得と共に、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力を高める。また、文献を読む能力、考える能力、書く能力、まとめる能力の向上。ﾁｰﾑﾜｰｸとﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟの向上。自己管理力と問題解決能力の向上。
授業概要	ｾﾞﾐの目的と概要は次のとおりである。本ｾﾞﾐでは、経営学・国際経営などの基本的な専門知識を身につけることにする。企業経営の仕組み、戦略、組織などについて学習することが目的である。ﾃｷｽﾄは変更可能である。 　また、ｾﾞﾐ参加者が興味あるﾃｰﾏを選択し、卒業論文に向けての報告も行ってもらう。発表に基づいて議論をする。その際に、論文の書き方も指導する。書く能力、まとめる能力の向上。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	(1)ルーブリック評価票による評価　→50% (2)期間中に提示した課題の到達度　→50% 　等による総合評価
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	経営学に関する文献を読むこと。問題意識と積極性を持つこと。無断の欠席は認めない。やむを得ない時は必ず連絡を入れること。必ず事前に配布した資料を読むと共に、復習をすること。休んだ場合には、配布した資料を読むなどとして各自で補う努力をすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回討論に参加するために配布資料の予習の徹底(毎回２時間)と演習後には復習(毎回２時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ・研究倫理の指導	姜
第２回	2.社員はなぜ働くのか	姜
第３回	3.人はどのように動機づけられて働く	姜
第４回	4.人を動かすﾘｰﾀﾞｰの役割	姜
第５回	5.社員はなぜ組織にとどまろうとする	姜
第６回	6.終身雇用と日本的経営	姜
第７回	7.多様化する雇用形態	姜
第８回	8.個人面談と個人指導	姜
第９回	9.社員はどのような報酬を求めるのか	姜
第１０回	10.仕事に対する報酬	姜
第１１回	11.成果主義	姜
第１２回	12.社員はどのようにして育てられるの	姜
第１３回	13.人材育成の基本的枠組み	姜
第１４回	14.会社はどのようにしてﾓﾉを売る	姜
第１５回	15.全体のまとめ	姜

第１６回	16.総合復習		姜
教科書			
教・書籍名１	経験から学ぶ経営学入門	教・出版社名１	有斐閣ﾌﾞｯｸｽ
教・著者名１	上林憲雄・奥林康司・団　泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林明	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	演習時に参考書・資料などを適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ （ゼミ形式）			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-504		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	この演習では、東アジア諸国の民主化政治とその社会的・経済的基盤を学習する。特に、日本と韓国の経験を中心に、東アジア地域について幅広く研究して行く。ちなみに、この演習は、春学期内容の繋がりであり、その内容を深めることになる。 この演習に参加すれば、東アジア地域の抱える様々な問題の発見力とその総合力、そして総括力と発表力が身に付けられる。
授業概要	今年のテーマは、東アジア諸国の民主化政治とその社会経済的基盤の研究である。まず、演習生に対して、関連資料を読みこなせ、まとめる能力（読み方・書き方・話し方など）の演習を行う。なお、資料の選択については、演習参加者の関心事に対応する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	(1)ルーブリック評価票による評価（50%） (2)期間中に提示した課題の到達度（50%） による総合評価
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型演習であるために、演習生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。演習は、この課題をめぐって行う。 （２）演習生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（研究倫理教育）	李　分一
第２回	東アジア政治	李　分一
第３回	日本の政治	李　分一
第４回	中国の政治	李　分一
第５回	韓国の政治	李　分一
第６回	東アジア経済	李　分一
第７回	日本の経済	李　分一
第８回	中国の経済	李　分一
第９回	韓国の経済	李　分一
第１０回	東アジア社会	李　分一
第１１回	日本社会	李　分一
第１２回	中国社会	李　分一
第１３回	韓国社会	李　分一
第１４回	東アジア文化	李　分一

第１５回	日中韓三国の文化	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	演習中に紹介する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅱ （ゼミ形式）			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-504		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	テーマ：大学生・社会人として必要な学びのスキル習得 到達目標：①読解力（新聞・書籍・論文）、②文章力（レジュメ、レポート作成）、③発表力、④情報資料の収集力、の基礎を養う。 取り上げる題材はいずれも身近なテーマであるため、社会問題、生活問題に対する分析力を養う（問題発見力・論理的思考力）。 ①～④の課題作業（共同作業）を通じ、受講生の自己理解力、コミュニケショーン力向上までを目標とする。
授業概要	演習とは「ゼミ」のことであり、卒業論文の執筆に向けた準備、さらに社会人基礎力行う重要な場である。 ２年次は大学４年間を通じて必要な、①基礎的なリーディング、②ライティング技術（レジュメ作成）、③発表（プレゼンテーション）、④情報・資料収集力、を中心に身につけていく（日本人学生・留学生ともに）。 ゼミのプロジェクト・各自の課題についても発表・議論の機会を度々設けるため、積極的な姿勢が望まれる。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	①「ルーブリック評価表」による評価（50%） （※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである） ②「担当教員による評価」（50%） 最終レポート（50%）
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	提出課題に対してはそれぞれ添削の上、返却を行う（フィードバック）。
履修条件・注意事項	ゼミは参加型学習形態の授業のため、授業への出席と予習復習が必要不可欠である。 受講生の学習習熟度や、語学力（特に留学生について）により授業計画は多少変更することがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	課題の予習復習に毎回２時間が必要である。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、研究倫理教育	黒宮
第２回	文献調査の方法（1） 図書館の活用（レファレンス）	黒宮
第３回	文献調査の方法（2）情報収集、ノートの作り方	黒宮
第４回	文献調査の方法（3）様々なデータベースの使い方	黒宮
第５回	発表資料の作成（1）テーマを決定する	黒宮
第６回	発表資料の作成（2）アウトライン作成	黒宮
第７回	発表資料の作成（3）アウトライン決定	黒宮
第８回	発表資料の作成（4）パワーポイント作成　基礎	黒宮
第９回	発表資料の作成（5）パワーポイント作成　応用	黒宮
第１０回	発表資料の作成（6）パワーポイント作成　完成	黒宮
第１１回	プレゼンテーション技術（1）発表原稿の作成	黒宮

第１２回	プレゼンテーション技術（2）発表原稿の修正	黒宮
第１３回	プレゼンテーション技術（3）模擬発表	黒宮
第１４回	プレゼンテーション技術（4）模擬発表振り返り	黒宮
第１５回	授業振り返り	黒宮
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	石井 一成	参・ＩＳＢＮ１	978-4816350573
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅱ （ゼミ形式）			担当者	大西　正泰		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-504		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

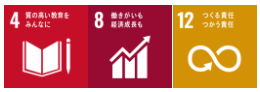
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「課題探究能力・主体的判断能力の育成」をテーマとする。 演習IIでは、 ①（課題を探求するため）読書法を習得する（読書法の運営は、グループごとに行う）。 ②（主体的判断力を身につけるため）組織運営のためのワークショップを１つ以上できるようになる。 ③上記①②をもとに、自分自身の個人プロジェクトと、ゼミのメンバーで行う共通プロジェクトを行い、実践できるようになる。 ④上記①～③で生まれた課題意識や好奇心で本を選び、毎週発表し、シェアする読書会でプレゼンテーションができるようになる。 ことを目標とする。
授業概要	演習IIでは、主として、ワークショップをメインに行う。 １つは、組織マネジメントの基本となる対話、プレゼンテーションのためのトレーニングをつむ。手法としては、傾聴を鍛えるための１on１ミーティングなどのワークである。 2つ目に、組織マネジメントの手法によって輪読を行うABD読書法（アクティブ・ブック・ダイアローグ）を学ぶこととする。 3つ目に、プロジェクトを設定し、実際にやってみること。 ＊個人プロジェクトの例；①YouTubeデビュー、②学外インターンシップの参加など　＊共通プロジェクト例；①ゼミTシャツ作成、②スキーツアーなどである。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	・50% 「①ルーブリック評価表（学科共通）」＋50%「②担当教員による評価」＝ 100% ①「ルーブリック評価表」による評価（50%） 学科共通のルーブリックを参考にすること。/uprx/keiei.pdf ②「担当教員による評価」（50%） 50%の内訳は、授業中ミニレポート、プレゼンなど（20%）とプロジェクトへの取り組み（30%）である。
ルーブリック評価	学科共通のルーブリック評価表のリンク先　/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	・毎回のゼミで、進捗についてのプレゼンテーションを行う。 ・ゼミで運営するオンラインチャットを通じ、お互いの情報をシェアし、助け合う。
履修条件・注意事項	・欠席、遅刻する場合は、必ず、前もって連絡すること。 ・自分から進んで演習に参加するという態度で臨むこと。

実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、ビジネスの実務経験がある教員が授業を行います。 実務経験 １）管理職経験（私立中学校4年） ２）経営者経験（14年）
事前学習・事後学習とその時間	１）参加型演習のために、演習生は事前に課題を調べた上で参加する。 ２）演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出する。 ３）レポートの返却後に指示にしたがって復習を行うこと。予習および復習には各2時間程度を要する。		
オフィスアワー	水曜日（２限）場所は14621研究室（14号館6階）になります。 ＊他の曜日についてはメールにて、随時受付します。m-onishi@kiui.ac.jp		

授業計画			担当者
第１回	ワークショップ①/1on1ミーティング		大西正泰
第２回	ワークショップ②/ワールドカフェ		大西正泰
第３回	ABD読書法①ビジネス編		大西正泰
第４回	ABD読書法②ビジネス編		大西正泰
第５回	ワークショップ③司会・パネラー編		大西正泰
第６回	ワークショップ④司会・パネラー編		大西正泰
第７回	プロジェクト①個人プロジェクトを作る		大西正泰
第８回	プロジェクト②個人プロジェクトをプレゼンテーションする		大西正泰
第９回	プロジェクト③共通プロジェクトを作る		大西正泰
第１０回	プロジェクト④共通プロジェクトをプレゼンテーションする		大西正泰
第１１回	プロジェクト⑤個人・共通プロジェクトの進捗と修正		大西正泰
第１２回	プロジェクト⑤個人・共通プロジェクト報告会		大西正泰
第１３回	読書プレゼンテーション①好きな本を紹介する		大西正泰
第１４回	読書プレゼンテーション②好きな本を紹介する		大西正泰
第１５回	読書プレゼンテーション③おすすめの本を紹介する		大西正泰
第１６回	実技試験（プレゼンテーション）		大西正泰
教科書			
教・書籍名１	適宜資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	ソーシャル・ファシリテーション	参・出版社名１	北樹出版
参・著者名１	徳田太郎・鈴木まり子	参・ＩＳＢＮ１	９７８-４-７７９３-０６５２-５
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ （ゼミ形式）			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-504		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１２．つくる責任・つかう責任 
到達目標	テーマ 読書に関する基礎能力とプログラミングに必要な考え方修得 到達目標 ①書籍や論文を読み、それを理解したうえで他者に伝達する力を養う ②プログラミング言語を覚えるための基礎力を養う
授業概要	卒業論文を執筆する際には、過去の研究から学び、新しい知見を得るために、論文を読解し、さらにコンピューターを用いて、自身でデータを集め、それを分析することが求められる。2年次は、そのような能力を養うための基礎的な学修を進める。 2年次は、研究におけるデータの役割を理解しやすい書籍や論文を輪読し、それをプレゼンテーションする形で発表力を養っていく。 また、プログラミング言語を理解し、自身の興味関心に沿って使いこなすためには、プログラミングというものがどのようなものであるのかを理解しなければならない。そのため、GUIベースのプログラミング言語から、キーボードマクロまでを使えるようにする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	①ルーブリック評価表による評価50% ②プログラミング到達度30% ③期間中に提示した課題の到達度20%
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf/
課題や試験のフィードバック方法	演習時間を含めて随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	遅刻や無断欠席は全体の進行に影響するので、基本的に認めない。やむを得ない場合，必ず事前連絡すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	2週間に一度は輪読が回ってくるので、自身の関心がある本を数冊選んで、あらかじめ読んでおくこと。 プログラミングは基本的に写経と書き換えでしか覚えることができないので、演習の中で用いた書籍から学んだ項目の説明を、他の書籍を参照しながら自身の中で再度確認する。少なくとも予習に2時間、復習に2時間を要する。
オフィスアワー	月曜日3限

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	竹岡
第２回	輪読と支援環境の構築	竹岡
第３回	輪読と支援環境を用いた開発	竹岡
第４回	輪読と支援環境を用いた開発	竹岡
第５回	輪読と支援環境を用いた開発	竹岡
第６回	輪読と支援環境を用いた開発	竹岡
第７回	輪読と支援環境を用いた開発	竹岡
第８回	輪読と支援環境を用いた開発	竹岡
第９回	輪読と支援環境を用いた開発	竹岡
第１０回	輪読と支援環境を用いた開発	竹岡

第１１回	輪読と支援環境を用いた開発	竹岡
第１２回	輪読と支援環境を用いた開発	竹岡
第１３回	輪読と支援環境を用いた開発	竹岡
第１４回	輪読と支援環境を用いた開発	竹岡
第１５回	輪読と支援環境を用いた開発	竹岡
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	進行の中で随時指定	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ （ゼミ形式）			担当者	稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-504		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	テーマ：教養・社会学的想像力を養う。 到達目標：①学問の作法を身につける。②社会学の基礎を学び、人間や社会への理解を深める。
授業概要	演習科目の最終的な目標は卒業論文の執筆である。したがって、3年間の演習を通じて必要なスキルの習得を目指す。 2年次は、学問の作法を身につけること、社会学の文献等を読み内容についてしっかりと理解することを中心に進める。 授業方法は主にテキスト等の読解を行う。学生はテキストの担当部分についてレジュメを作成し報告をする。そして、その報告に対して質疑応答を行うとともに、報告者を含め全体で内容を発展させるための議論を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	ルーブリック評価表（50%）と、最終レポート（50%）によって評価する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については授業内で解説をおこなう。
履修条件・注意事項	出席と予習復習は必要不可欠である。 授業計画の内容は、受講者の理解度に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜日3時限に研究室（14611）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・研究倫理教育	稲元洋輔
第２回	社会学的発想(1)	稲元洋輔
第３回	社会学的発想(2)	稲元洋輔
第４回	社会学的発想(3)	稲元洋輔
第５回	社会学の基礎理論(1)	稲元洋輔
第６回	社会学の基礎理論(2)	稲元洋輔
第７回	社会学の基礎理論(3)	稲元洋輔
第８回	社会学の基礎理論(4)	稲元洋輔
第９回	文献講読(1)	稲元洋輔
第１０回	文献講読(2)	稲元洋輔
第１１回	文献講読(3)	稲元洋輔
第１２回	文献講読(4)	稲元洋輔
第１３回	文献講読(5)	稲元洋輔
第１４回	文献講読(6)	稲元洋輔
第１５回	まとめ	稲元洋輔
第１６回		

教科書

教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	授業の進行に応じて適宜紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅲ （ゼミ形式）			担当者	赤坂　真人		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-505		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ リベラルアーツ。自然科学・社会科学・人文学に関する書籍の中から評価の高い書籍を選び、輪読しつつ内容について討論する。本年度は「進化心理学」「社会学的進化論」を主要テーマとする。２年時同様、学期中５回の小試験を行い、文章要約の練習もする。 到達目標 幅広く且つ早く読むことで読書力を鍛える。討論によって知識を定着させ、考えをまとめる訓練をする。いかに素早く情報を収集し、適切に解釈しアウトプットする力をつける。
授業概要	偉大な古典を読むと、著者たちが社会科学のみならず人文科学、哲学、自然科学にも習熟していたことが分かる。ビジネスの分野においても成功のカギを握るのは教養教育によって鍛えられた思考力、コミュニケーション能力である。本年度の演習では進化心理学・社会進化論についての考察を焦点とし、論理的思考、批判的思考、分析的思考、創造的思考を鍛える。演習では各学生に読むべきテキストを指定し、要旨をレジュメまたはパワーポイントで報告させる。そのあと全員で討論し、教員が指示したテーマに関する小論文を執筆する。小論文は教員が添削し、コメントをつけて返却する。
アクティブラーニングの内容	ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期評価は①ルーブリック評価票による評価（50%）、②ゼミでの小試験・定期試験（50%）で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	演習で行った小テストや定期試験に対しては、毎回コメントをつけて返却する。
履修条件・注意事項	無断で演習を欠席する学生が目立つ。欠席した学生に対してはオンラインで補講を実施する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	学期中、毎週、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜４限（15：10～16：40）に、研究室（9309）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・研究倫理：研究の倫理に基づく責任ある研究活動	赤坂
第２回	進化の基本命題	赤坂
第３回	心と社会を進化論からとらえる	赤坂
第４回	社会進化論（H.スペンサー）	赤坂
第５回	社会進化論（T.パーソンズ）	赤坂
第６回	生物学的社会学(Biosociology)とは何か？	赤坂
第７回	生物学的社会学(Biosociology)の動向	赤坂
第８回	認知と発達を進化から考える。	赤坂
第９回	組織を進化から考える。（互恵的行動）	赤坂
第１０回	組織を進化から考える。（集団で生きることのメリット）	赤坂
第１１回	組織を進化から考える。（AI や技術の発展によって人間は集団生活をやめるか？）	赤坂
第１２回	文化と知性を進化から考える。（言語能力）	赤坂
第１３回	文化と知性を進化から考える。（16世紀以来の第2の情報爆発の時代）	赤坂
第１４回	進化心理学の可能性	赤坂

第１５回	まとめ	赤坂
第１６回	定期試験	赤坂

教科書			
教・書籍名１	進化心理学から考えるホモ・サピエンス	教・出版社名１	パン・ローリング
教・著者名１	アラン・S/ミラー／サトシ・カナザワ	教・ＩＳＢＮ１	978-4775942055
教・書籍名２	38億年の生命史に学ぶ生存戦略	教・出版社名2	PHP 出版
教・著者名2	稲垣栄洋	教・ＩＳＢＮ2	978-4569845753
参考書			
参・書籍名１	教養主義の没落	参・出版社名１	中公新書
参・著者名１	竹内　洋	参・ＩＳＢＮ１	978-4121017048
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ （ゼミ形式）			担当者	井勝　久喜		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-505		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「研究の基礎」をテーマとして、研究に必要な基礎的知識を学び、専門の内容が理解でき、利用できるようになることを到達目標とする。
授業概要	独自の課題を探究するか、グループ研究の中から自分の関心に合った課題を絞り込むかして、各受講生は単独研究の課題設定につとめる。設定の過程で独自の課題に応じた資料・文献を精読し、研究に必要な基礎概念、基礎理論、専門用語を理解する。同時に必要な情報を収集して専門の技術と知識を深め、専門職としてのアイデンティティ形成に自覚的に取り組む。また、年間４回程度フォーラム（エデュカーレinたかはし）を開催して企画実践力を身につける。 この科目は、一部の授業時間において企業経験のある外部講師を招いて講義をしていただき、学生の理解を深める。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	ルーブリック評価シートで評価（50%）。演習での活動評価（50%）。ただし、他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には、減点することもある。詳しい評価方法は、最初の演習の時に説明する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートは採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	欠席、遅刻する場合は、必ず、前もって連絡すること。自分から進んで演習に参加するという態度で臨むこと。毎回の指示に従って予習と復習を行うこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）参加型演習のために、演習生は事前に課題を調べた上で参加する。演習は、この課題をめぐって討論形式で行う。 ２）演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 ３）レポートの返却後に指示にしたがって復習を行うこと。 予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーションと研究倫理教育	井勝久喜
第２回	マインドセット	井勝久喜
第３回	マンダラート	井勝久喜
第４回	マインドマップ	井勝久喜
第５回	質問作成ワークショップ	井勝久喜
第６回	ワークショップデザイン	井勝久喜
第７回	ワークショップ演習	井勝久喜
第８回	外部講師講演会（2時間連続）	井勝久喜・外部講師
第９回	外部講師講演会（2時間連続）	井勝久喜・外部講師
第１０回	フューチャーセッション	井勝久喜
第１１回	ディベート	井勝久喜

第１２回	ダイアログ	井勝久喜
第１３回	７つの習慣	井勝久喜
第１４回	課題解決演習	井勝久喜
第１５回	振り返りワークショップ	井勝久喜
第１６回	振り返りとレポート作成	井勝久喜

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ワークショップ入門	参・出版社名１	明石書店
参・著者名１	ロバート・チェンバース著　野田直人監訳	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7503-1911-7
参・書籍名２	第8の習慣	参・出版社名2	キングベアー出版
参・著者名2	スティーブン・Ｒ・コヴィー	参・ＩＳＢＮ2	4-906638-32-5

授業科目名	演習Ⅲ （ゼミ形式）			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-505		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「経営学の専門知識の吸収と文献調査の理解」がテーマである。到達目標は、経営学の専門知識の習得と共に、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力を高める。また、文献を読む能力、考える能力、書く能力、まとめる能力の向上。ﾁｰﾑﾜｰｸとﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟの向上。自己管理力と問題解決能力の向上。
授業概要	ｾﾞﾐの目的と概要は次のとおりである。本ｾﾞﾐでは、経営学・国際経営などの基本的な専門知識を身につけることにする。企業経営の仕組み、戦略、組織などについて学習することが目的である。ﾃｷｽﾄは変更可能である。 　また、ｾﾞﾐ参加者が興味あるﾃｰﾏを選択し、卒業論文に向けての報告も行ってもらう。発表に基づいて議論をする。その際に、論文の書き方も指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	(1)ルーブリック評価票による評価　→50% (2)期間中に提示した課題の到達度　→50% 　等による総合評価
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	経営学に関する文献を読むこと。問題意識と積極性を持つこと。無断の欠席は認めない。やむを得ない時は必ず連絡を入れること。必ず事前に配布した資料を読むと共に、復習をすること。休んだ場合には、配布した資料を読むなどとして各自で補う努力をすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回討論に参加するために配布資料の予習の徹底(毎回２時間)と演習後には復習(毎回２時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ・研究倫理の指導	姜
第２回	2.会社は海外でどのように経営しているのか	姜
第３回	3.海外日系企業の日本的経営	姜
第４回	4.会社の利益はどのようにして測定するのか	姜
第５回	5.企業を起こす	姜
第６回	6.大学発ﾍﾞﾝﾁｬｰのﾋﾞｼﾞﾈｽ･ﾓﾃﾞﾙ	姜
第７回	7.企業形態を変える	姜
第８回	8.ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｽの株式上場	姜
第９回	9.現代企業の発生	姜
第１０回	10.ﾛｯｸﾌｪﾗｰとｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ・ｵｲﾙ	姜
第１１回	11.環境・戦略・組織	姜
第１２回	12.ﾌｫｰﾄﾞとGM	姜
第１３回	13.新しい事業の創造	姜
第１４回	14.全体のまとめ	姜
第１５回	15.全体のまとめ	姜

第１６回	16.総合学習		姜
教科書			
教・書籍名１	ｹｰｽに学ぶ経営学(新版)	教・出版社名１	有斐閣ﾌﾞｯｸｽ
教・著者名１	東北大学経営学ｸﾞﾙｰﾌﾟ	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	演習時に参考書・資料などを予習ができるように適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅲ （ゼミ形式）			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-505		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	現代日本と韓国の関係とその変化過程、そして政治社会学的問題の比較について、東アジア諸国の中で位置づけながら研究を行う。日韓関係の過去と現在、そして未来について比較論的な視点から研究してゆく。 この演習に参加すれば、日本と韓国、そして北朝鮮関係の抱える様々な問題の発見力と総合力、そして総括力と発表力が身に付けられる。
授業概要	演習生に対して、関連資料を読みこなせ、まとめる能力（読み方・書き方・話し方）などを身に付けさせる。関連資料・テキストを読みながら、ともに討論し合い、また参加者全員の発表を行う。関連資料については、演習参加者の関心事に対応する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	(1)ルーブリック評価票による評価（ 50%） (2)期間中に提示した課題の到達度（50%） による総合評価
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型演習であるために、演習生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。演習は、この課題をめぐって行う。 （２）演習生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

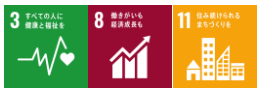
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（研究倫理教育）	李　分一
第２回	指定資料・テキスト輪読	李　分一
第３回	日本の政治	李　分一
第４回	日本の経済	李　分一
第５回	日本の社会	李　分一
第６回	日本の文化	李　分一
第７回	日本の国際関係	李　分一
第８回	日韓両国の関係	李　分一
第９回	韓国の政治	李　分一
第１０回	韓国の経済	李　分一
第１１回	韓国の社会	李　分一
第１２回	韓国の文化	李　分一
第１３回	韓国の国際関係	李　分一
第１４回	日韓両国の比較	李　分一

第１５回	まとめ	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	演習中に紹介する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅲ （ゼミ形式）			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-505		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを 
到達目標	テーマ： 各自の調査研究プロジェクトを行い、卒業論文執筆のための準備を行う。 到達目標（以下３つ）： ①各自の調査研究プロジェクトテーマの決定 ②研究に必要な先行研究レビュー実施 ③研究方法の決定とそれに必要な技術の習得
授業概要	社会問題や地域の福祉問題をテーマとした調査研究（リサーチ）を実践した上で、その成果を報告書としてまとめることまでを目標とする。 テーマ設定や、先行研究レビュー、研究方法の設定などを段階的に進めていくため、講義で学んだ知識や、社会調査の技術を応用することが可能である。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	①「ルーブリック評価表」による評価（50%） （※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである） ②「担当教員による評価」（50%） 最終レポート（50%）
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	提出課題にはそれぞれ添削の上、返却を行う（フィードバック）。
履修条件・注意事項	ゼミは参加型学習形態の授業のため、授業への出席と予習復習が必要不可欠である。 受講生の学習習熟度や、語学力（特に留学生について）により授業計画は多少変更することがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	・参加型学習により授業を行うため、予習が必須である。 ・予習および復習には、各２時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	ガイダンス、研究倫理教育	黒宮
第２回	研究テーマの設定作業：グループ	黒宮
第３回	研究テーマの設定作業：個人	黒宮
第４回	先行研究1の収集	黒宮
第５回	先行研究1の発表	黒宮
第６回	先行研究2の収集	黒宮
第７回	先行研究2の発表	黒宮
第８回	先行研究まとめ	黒宮
第９回	第1回テーマ発表	黒宮
第１０回	第1回テーマ発表振り返りと修正作業	黒宮
第１１回	第2回テーマ発表	黒宮
第１２回	第2回テーマ発表振り返りと修正作業	黒宮

第１３回	第3回テーマ発表	黒宮
第１４回	第3回テーマ発表振り返りと修正作業	黒宮
第１５回	全体振り返りと総括	黒宮
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	石井 一成	参・ＩＳＢＮ１	978-4816350573
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅲ （ゼミ形式）			担当者	大西　正泰		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-505		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「研究の基礎」をテーマとして、研究に必要な基礎的知識を学び、専門の内容が理解でき、利用できるようになることを到達目標とする。
授業概要	各受講生は、各自の研究（卒業論文）分野を決定し、独自の課題に応じた資料・文献を精読し、研究に必要な基礎概念、基礎理論、専門用語を理解する。 到達目標 ①卒業論文分野の決定 ②先行研究の理解 ③研究方法を決定とそれに必要な技術を習得すること 各受講生を以下の３つのグループにわけ、それぞれのグループごとに輪読する。 ①地域づくり分野を研究課題にするものは、研究対象とする地域を選び、選択地域にまつわる資料、文献を読み解く。 　地域づくり分野においては、いわゆる分析フレームワークが各分野からの援用が多いため、経済的アプローチなどの諸分野を学ぶことになる。 ②起業分野を研究課題にするものは、研究対象とするスタートアップや企業を選び、それにまつわる資料、文献を読み解く。起業分野においては、経営学の分析フレームワークを主として学ぶこととする。 ③その他
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	・50% 「①ルーブリック評価表（学科共通）」＋50%「②担当教員による評価」＝ 100% ①「ルーブリック評価表」による評価（50%） 学科共通のルーブリックを参考にすること。/uprx/keiei.pdf ②「担当教員による評価」（50%） 演習に取り組む姿勢と貢献度（10%）、課題提出物・報告資料（40%）により評価します。
ルーブリック評価	学科共通のルーブリック評価表のリンク先　/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	・毎回のゼミで、進捗についてのプレゼンテーションを行い、フィードバックする。 ・ゼミで運営するオンラインチャットを通じ、お互いの情報をシェアし、フィードバックする。
履修条件・注意事項	・指定された教科書はありません。 グループごとに先行研究を選び、授業前に予習（2時間程度）をしておきます。 演習での内容については、毎回の復習（2時間程度）を欠かさず行うように してください。 ・大幅な遅刻や無断欠席はグループワークや評価に影響するので，ご注意ください。 やむを得ない場合，必ずメールなどで連絡してください。
実務経験のある教員	該当する / 内容：この科目は、ビジネスの実務経験がある教員が授業を行います。 実務経験 １）管理職経験（私立中学校4年） ２）経営者経験（14年）
事前学習・事後学習とその時間	各ケースについては、事前学習を必ず行ってください。 ・テレビや新聞報道による地域事例に目を配り，自己学習に努めましょう。

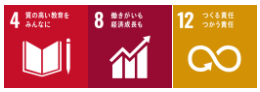
	・グループ活動では，積極的な問題提起や発言ができるようにしてください。
オフィスアワー	木曜日（3限）場所は14621研究室（14号館6階）になります。 ＊他の曜日についてはメールにて、随時受付します。m-onishi@kiui.ac.jp

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大西正泰
第２回	研究テーマの分野設定	大西正泰
第３回	先行研究①の収集	大西正泰
第４回	先行研究①の発表	大西正泰
第５回	先行研究②の収集	大西正泰
第６回	先行研究②の発表	大西正泰
第７回	先行研究のまとめ	大西正泰
第８回	先行研究③の収集	大西正泰
第９回	先行研究③の発表	大西正泰
第１０回	先行研究④の収集	大西正泰
第１１回	先行研究④の発表	大西正泰
第１２回	先行研究⑤の収集	大西正泰
第１３回	先行研究⑤の発表	大西正泰
第１４回	先行研究まとめ	大西正泰
第１５回	研究テーマの見直し	大西正泰
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	各受講生ごとに指定します。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習III （ゼミ形式）			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-505		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１２．つくる責任・つかう責任 
到達目標	テーマ 読書に関する基礎能力とプログラミング言語を修得 到達目標 ①書籍や論文を読み、それを理解したうえで他者に伝達する力を養う ②プログラミング言語を覚える
授業概要	卒業論文を執筆する際には、過去の研究から学び、新しい知見を得るために、論文を読解し、さらにコンピューターを用いて、自身でデータを集め、それを分析することが求められる。3年次は、そのような能力を養うための学修を進める。 3年次は、定性的な研究で必要とされる能力を養うために、それらに適した書籍を選択し、輪読していく。 また、データ収集や機械学習などで用いられるプログラミング言語pythonを修得し、これを用いたデータ分析技法やデータ収集を実践する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	①ルーブリック評価表による評価50% ②プログラミング到達度30% ③期間中に提示した課題の到達度20%
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	演習時間を含めて随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	遅刻や無断欠席は全体の進行に影響するので、基本的に認めない。やむを得ない場合，必ず事前連絡すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	2週間に一度は輪読が回ってくるので、自身の関心がある本を数冊選んで、あらかじめ読んでおくこと。 プログラミングは基本的に写経と書き換えでしか覚えることができないので、演習の中で用いた書籍から学んだ項目の説明を、他の書籍を参照しながら自身の中で再度確認する。少なくとも予習に2時間、復習に2時間を要する。
オフィスアワー	月曜日3限

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	竹岡
第２回	輪読と環境のセットアップ	竹岡
第３回	輪読と変数	竹岡
第４回	輪読と組み込み型	竹岡
第５回	輪読とデータ構造	竹岡
第６回	輪読と条件分岐と繰り返し	竹岡
第７回	輪読と関数	竹岡
第８回	輪読とファイル操作	竹岡
第９回	輪読と例外処理	竹岡
第１０回	輪読とクラスとメソッド	竹岡
第１１回	輪読とオブジェクト指向	竹岡
第１２回	輪読とモジュール	竹岡

第１３回	輪読とアプリケーション構築	竹岡
第１４回	輪読とアプリケーション構築	竹岡
第１５回	輪読とアプリケーション構築	竹岡
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	進行の中で随時指定	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習III （ゼミ形式）			担当者	稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-505		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	テーマ：社会調査の手法を学ぶ 到達目標：量的調査・質的調査ともに基礎知識とその方法を習得し、自らの力で分析出来るようになる。
授業概要	演習科目の最終的な目標は卒業論文の執筆である。したがって、3年間の演習を通じて必要なスキルの習得を目指す。 3年次は、社会調査のさまざまな手法について基礎を学ぶ。さらにはその手法を用いた論文を読み解く力や、自らの関心で問題提起できる力を養う。 授業方法は主にテキスト等の読解を行う。学生はテキストの担当部分についてレジュメを作成し報告をする。そして、その報告に対して質疑応答を行うとともに、報告者を含め全体で内容を発展させるための議論を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	ルーブリック評価表（50%）と、最終レポート（50%）によって評価する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については授業内で解説をおこなう。
履修条件・注意事項	出席と予習復習は必要不可欠である。 授業計画の内容は、受講者の理解度に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜日3時限に研究室（14611）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・研究倫理教育	稲元洋輔
第２回	社会調査の基礎	稲元洋輔
第３回	社会調査の方法(1)	稲元洋輔
第４回	社会調査の方法(2)	稲元洋輔
第５回	統計学の基礎	稲元洋輔
第６回	量的調査を用いた文献講読(1)	稲元洋輔
第７回	量的調査を用いた文献講読(2)	稲元洋輔
第８回	量的調査を用いた文献講読(3)	稲元洋輔
第９回	量的調査を用いた文献講読(4)	稲元洋輔
第１０回	統計学の応用(1)	稲元洋輔
第１１回	統計学の応用(2)	稲元洋輔
第１２回	量的調査を用いた文献講読(5)	稲元洋輔
第１３回	量的調査を用いた文献講読(6)	稲元洋輔
第１４回	量的調査を用いた文献講読(7)	稲元洋輔
第１５回	まとめ	稲元洋輔
第１６回		

教科書

教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	授業の進行に応じて適宜紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅳ （ゼミ形式）			担当者	赤坂　真人		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-506		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ 本年度の演習ⅠⅤはテーマを「論文の書き方」と「データ解釈学」とする。論文には一定の形式があり、それを満たさないものは論文とはいえない。また論文に必須のデータ解釈の方法を学ぶ。 到達目標 学生の卒業論文を読むと、多くの場合、論文ではなく、作文、読書ノート、調査報告に終わっている。演習Ⅳでは論文の構造を徹底して理解する。また論文で扱うデータの分析法について、その考え方を学ぶ。それによって通常の議論における「主張と論証」の能力とデータの収集法・分析の仕方がわかるようになる。
授業概要	論文は大きく分ければ「問い・主張・論証」の３つ、細分化すれば「アブストラクト・問い・主張・論証・結論」の５つで構成されている。演習では「問題の立て方」「個人の主張」「論証の方法」を中心に学ぶ。それに合わせて6000字程度の論文を書く。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	評価は①ルーブリック評価票による評価（50%）、②ゼミでの小試験・定期試験（50%）で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	演習の中で行った小テストや定期試験については、教員がこれを採点しコメントをつけて返却する。
履修条件・注意事項	無断欠席をしない。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	学期中、毎週、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜４限（15：10～16：40）に研究室（9309）にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・研究倫理：研究の倫理に基づく責任ある研究活動	赤坂
第２回	論文の書き方：問題・主張・論証・結論	赤坂
第３回	論文執筆計画を立てる	赤坂
第４回	課題をよく理解する	赤坂
第５回	関連する資料を読む	赤坂
第６回	資本資料の収集	赤坂
第７回	問題の定式化・研究方法	赤坂
第８回	論文の構成要素・アブストラクト・主張・論証・結論	赤坂
第９回	アブストラクトとは何か？書き方	赤坂
第１０回	論文は構造化された文章である。	赤坂
第１１回	構造を支えるアウトライン	赤坂
第１２回	アウトラインの作り方	赤坂
第１３回	良い論証と悪い論証	赤坂
第１４回	パラグラフ・ライティング	赤坂
第１５回	わかりやすい文章で書く	赤坂
第１６回	定期試験	赤坂

教科書			
教・書籍名１	戸田山和久	教・出版社名１	ＮＨＫブックス

教・著者名１	論文の教室	教・ＩＳＢＮ１	978-4140019542
教・書籍名２	データ解釈学	教・出版社名2	ソシム
教・著者名2	江崎貴裕	教・ＩＳＢＮ2	978-4802612906
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ （ゼミ形式）			担当者	井勝　久喜		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-506		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「実践力」をテーマとして、グループでのフィールドワークやワークショップの手法を利用して、自分で研究が遂行できる能力を身につけること到達目標とする。
授業概要	資料・文献の精読と同時に、自分の課題に適合した研究方法を学習する。一般的な方法論（調査・集計・分析・解釈）に関しては、グループでのフィールドワークやワークショップの手法を利用して実践的な知見を得る。その知見に基づいて、最終的に自分の卒業研究へつながる特化された研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。専門職の業種・職種の絞り込みと現場理解につとめる。また、年間４回程度フォーラム（エデュカーレinたかはし）を開催して企画実践力を身につける。 この科目は、一部の授業時間において企業経験のある外部講師を招いて講義をしていただき、学生の理解を深める。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	ルーブリック評価シートで評価（50%）。演習での活動評価（50%）。ただし、他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には、減点することもある。詳しい評価方法は、最初の演習の時に説明する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポートは採点して授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	欠席、遅刻する場合は、必ず、前もって連絡すること。自分から進んで演習に参加するという態度で臨むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）参加型演習のために、演習生は事前に課題を調べた上で参加する。演習は、この課題をめぐって討論形式で行う。 ２）演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 ３）レポートの返却後に指示にしたがって復習を行うこと。 予習及び復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施

授業計画		担当者
第１回	演習Ⅳオリエンテーションと研究倫理教育	井勝久喜
第２回	組織マネジメント演習	井勝久喜
第３回	ティール組織（ABD法）	井勝久喜
第４回	ティール組織（ワークショップ）	井勝久喜
第５回	ティール組織（ホールシステムアプローチ）	井勝久喜
第６回	ホラクラシー組織演習	井勝久喜
第７回	U理論	井勝久喜
第８回	外部講師講演会（2時間連続）	井勝久喜・外部講師
第９回	外部講師講演会（2時間連続）	井勝久喜・外部講師
第１０回	オープンスペーステクノロジー	井勝久喜
第１１回	アプリシエイティブ・インクワイアリー	井勝久喜
第１２回	フューチャーサーチ	井勝久喜

第１３回	対話型組織開発	井勝久喜
第１４回	組織開発演習	井勝久喜
第１５回	振り返りワークショップ	井勝久喜
第１６回	振り返りとレポート作成	井勝久喜

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	ティール組織	参・出版社名１	英治出版
参・著者名１	フレデリック・ラルー	参・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4－86276－226－9
参・書籍名２	人と組織の問題を劇的に解決するＵ理論入門	参・出版社名2	ＰＨＰ
参・著者名2	中土井僚	参・ＩＳＢＮ2	978-4-569-81461-2

授業科目名	演習Ⅳ （ゼミ形式）			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-506		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「経営学の専門知識の吸収と文献調査の理解」がテーマである。到達目標は、経営学の専門知識の習得と共に、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力を高める。また、文献を読む能力、考える能力、書く能力、まとめる能力の向上。　ﾁｰﾑﾜｰｸとﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟの向上。自己管理力と問題解決能力の向上。
授業概要	ｾﾞﾐの目的と概要は次のとおりである。本ｾﾞﾐでは、経営学・国際経営などの基本的な専門知識を身につけることにする。企業経営の仕組み、戦略、組織などについて学習することが目的である。ﾃｷｽﾄは変更可能である。 　また、ｾﾞﾐ参加者が興味あるﾃｰﾏを選択し、卒業論文に向けての報告も行ってもらう。発表に基づいて議論をする。その際に、論文の書き方も指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	(1)ルーブリック評価票による評価　→50% (2)期間中に提示した課題の到達度　→50% 　等による総合評価
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	経営学に関する文献を読むこと。問題意識と積極性を持つこと。無断の欠席は認めない。やむを得ない時は必ず連絡を入れること。必ず事前に配布した資料を読むと共に、復習をすること。休んだ場合には、配布した資料を読むなどとして各自で補う努力をすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回討論に参加するために配布資料の予習の徹底(毎回２時間)と演習後には復習(毎回２時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ・研究倫理の指導	姜
第２回	2.いかに競争するか	姜
第３回	3.ﾏｸﾄﾞﾅﾙﾄﾞとﾓｽﾊﾞｰｶﾞｰ	姜
第４回	4.事業のﾘｽﾄﾗｸﾁｬﾘﾝｸﾞと組織改革	姜
第５回	5.GEの企業革新	姜
第６回	6.M&Aと外部資源の利用	姜
第７回	7.ｿﾆｰのｺﾛﾝﾋﾞｱ映画会社買収	姜
第８回	8.破壊的技術への対応とﾄﾞﾒｲﾝの再定義	姜
第９回	9.ﾃﾞｼﾞﾀﾙ化への富士写真ﾌｨﾙﾑの対応	姜
第１０回	10.いかに国際化するか	姜
第１１回	11.ﾉｷｱの国際戦略	姜
第１２回	12.日本の生産ｼｽﾃﾑ	姜
第１３回	13.ﾄﾖﾀの生産方式	姜
第１４回	14.松下電器産業の組織改革	姜

第１５回	15.全体のまとめ		姜
第１６回	16.総合復習		姜
教科書			
教・書籍名１	ｹｰｽに学ぶ経営学「新版」	教・出版社名１	有斐閣ﾌﾞｯｸｽ
教・著者名１	東北大学経営学ｸﾞﾙｰﾌﾟ	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	演習時に参考書・資料などを予習ができるように適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ （ゼミ形式）			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-506		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	現代日本と韓国の関係とその変化過程、そして政治社会学的問題の比較について、東アジア諸国の中で位置づけながら研究を行う。日韓関係の過去と現在、そして未来について比較論的な視点から研究してゆく。この演習は、演習Ⅲの延長である。 この演習に参加すれば、日本と韓国、そして北朝鮮関係の抱える様々な問題の発見力と総合力、そして総括力と発表力が身に付けられる。
授業概要	演習生に対して、関連資料を読みこなせ、まとめる能力（読み方・書き方・話し方）などを身に付けさせる。関連資料・テキストを読みながら、ともに討論し合い、また参加者全員の発表を行う。関連資料については、演習参加者の関心事に対応する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	(1)ルーブリック評価票による評価（50%） (2)期間中に提示した課題の到達度（50%） による総合評価
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型演習であるために、演習生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。演習は、この課題をめぐって行う。 （２）演習生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

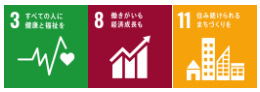
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（研究倫理教育）	李　分一
第２回	指定資料・テキスト輪読	李　分一
第３回	日本の政治	李　分一
第４回	日本の経済	李　分一
第５回	日本の社会	李　分一
第６回	日本の文化	李　分一
第７回	日本の国際関係	李　分一
第８回	日韓両国の関係	李　分一
第９回	韓国の政治	李　分一
第１０回	韓国の経済	李　分一
第１１回	韓国の社会	李　分一
第１２回	韓国の文化	李　分一
第１３回	韓国の国際関係	李　分一
第１４回	日韓両国の比較	李　分一

第１５回	まとめ	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	演習中に紹介する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅳ （ゼミ形式）			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-506		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを 
到達目標	テーマ： 各自の調査研究プロジェクトを発展させながら、卒業論文執筆のための準備を行う。 到達目標（以下３つ）： ①各自の卒業論文テーマの決定 ②研究に必要なレビュー論文の実施 ③研究方法の決定とそれに必要な技術の習得
授業概要	社会問題や地域の福祉問題をテーマとした調査研究（リサーチ）を実践した上で、その成果を報告書としてまとめることまでを目標とする。 テーマ設定や、レビュー、方法の設定などを段階的に進めていくため、講義で学んだ知識や、社会調査の技術を応用することが可能である。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	①「ルーブリック評価表」による評価（50%） （※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである） ②「担当教員による評価」（50%） 最終レポート（50%）
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	提出課題にはそれぞれ添削の上、返却を行う（フィードバック）。
履修条件・注意事項	ゼミは参加型学習形態の授業のため、授業への出席と予習復習が必要不可欠である。 受講生の学習習熟度や、語学力（特に留学生について）により授業計画は多少変更することがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	・参加型学習により授業を行うため、予習が必須である。 ・予習および復習には、各２時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	ガイダンス、研究倫理教育	黒宮
第２回	方法（1）質的（基礎）	黒宮
第３回	方法（2）質的（応用）	黒宮
第４回	方法（3）質的（成果発表）	黒宮
第５回	方法（1）量的（基礎）	黒宮
第６回	方法（2）量的（応用）	黒宮
第７回	方法（3）量的（成果発表）	黒宮
第８回	各自のプロジェクト報告（グループ1）	黒宮
第９回	各自のプロジェクト報告（グループ1振り返り）	黒宮
第１０回	各自のプロジェクト報告（グループ2）	黒宮
第１１回	各自のプロジェクト報告（グループ2振り返り）	黒宮

第１２回	各自のプロジェクト報告（グループ3）	黒宮
第１３回	各自のプロジェクト報告（グループ3振り返り）	黒宮
第１４回	全体ディスカッション	黒宮
第１５回	全体振り返りと総括	黒宮
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	石井 一成	参・ＩＳＢＮ１	978-4816350573
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅳ （ゼミ形式）			担当者	大西　正泰		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-506		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「研究の基礎」をテーマとして、研究に必要な基礎的知識を学び、専門の内容が理解でき、利用できるようになることを到達目標とする。
授業概要	各受講生は、各自の研究（卒業論文）テーマを決定し、独自の課題に応じた資料・文献を精読し、研究に必要な基礎概念、基礎理論、専門用語を理解する。 到達目標 ①卒業論文テーマの決定 ②先行研究の理解 ③研究方法を決定とそれに必要な技術を習得すること
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	・50% 「①ルーブリック評価表（学科共通）」＋50%「②担当教員による評価」＝ 100% ①「ルーブリック評価表」による評価（50%） 学科共通のルーブリックを参考にすること。/uprx/keiei.pdf ②「担当教員による評価」（50%） 演習に取り組む姿勢と貢献度（10%）、課題提出物・報告資料（40%）により評価します。
ルーブリック評価	学科共通のルーブリック評価表のリンク先　/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	・毎回のゼミで、進捗についてのプレゼンテーションを行い、フィードバックする。 ・ゼミで運営するオンラインチャットを通じ、お互いの情報をシェアし、フィードバックする。
履修条件・注意事項	・指定された教科書はありません。 ・大幅な遅刻や無断欠席はグループワークや評価に影響するので，ご注意ください。 やむを得ない場合，必ずメールなどで連絡してください。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、ビジネスの実務経験がある教員が授業を行います。 実務経験 １）管理職経験（私立中学校4年） ２）経営者経験（14年）
事前学習・事後学習とその時間	それぞれ選んだ各ケースについては、先行研究などの事前学習、演習後の復習と各2時間を目安に必ず行ってください。 ・テレビや新聞報道による地域事例に目を配り，自己学習に努めましょう。 ・グループ活動では，積極的な問題提起や発言ができるようにしてください。
オフィスアワー	木曜日（3限）場所は14621研究室（14号館6階）になります。 ＊他の曜日についてはメールにて、随時受付します。m-onishi@kiui.ac.jp

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大西正泰
第２回	研究テーマ設定	大西正泰
第３回	先行研究6の収集	大西正泰
第４回	先行研究6の発表	大西正泰

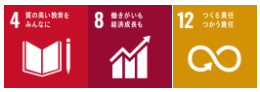
第５回	先行研究7の収集	大西正泰
第６回	先行研究7の発表	大西正泰
第７回	先行研究のまとめ	大西正泰
第８回	先行研究8の収集	大西正泰
第９回	先行研究8の発表	大西正泰
第１０回	先行研究9の収集	大西正泰
第１１回	先行研究9の発表	大西正泰
第１２回	先行研究10の収集	大西正泰
第１３回	先行研究10の発表	大西正泰
第１４回	先行研究まとめ	大西正泰
第１５回	研究テーマや方法についての見直し	大西正泰
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	適宜資料を配布します。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ （ゼミ形式）			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-506		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１２．つくる責任・つかう責任 
到達目標	テーマ 読書に関する基礎能力とプログラミング言語を修得 到達目標 ①書籍や論文を読み、それを理解したうえで他者に伝達する力を養う ②プログラミング言語を覚える
授業概要	卒業論文を執筆する際には、過去の研究から学び、新しい知見を得るために、論文を読解し、さらにコンピューターを用いて、自身でデータを集め、それを分析することが求められる。3年次は、そのような能力を養うための学修を進める。 3年次は、定性的な研究で必要とされる能力を養うために、それらに適した書籍を選択し、輪読していく。 また、データ収集や機械学習などで用いられるプログラミング言語pythonを修得し、これを用いたデータ分析技法やデータ収集を実践する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	①ルーブリック評価表による評価50% ②プログラミング到達度30% ③期間中に提示した課題の到達度20%する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	演習時間を含めて随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	遅刻や無断欠席は全体の進行に影響するので、基本的に認めない。やむを得ない場合，必ず事前連絡すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	2週間に一度は輪読が回ってくるので、自身の関心がある本を数冊選んで、あらかじめ読んでおくこと。 プログラミングは基本的に写経と書き換えでしか覚えることができないので、演習の中で用いた書籍から学んだ項目の説明を、他の書籍を参照しながら自身の中で再度確認する。少なくとも予習に2時間、復習に2時間を要する。
オフィスアワー	月曜日3限

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	竹岡
第２回	輪読と環境のセットアップ	竹岡
第３回	輪読とクローリング	竹岡
第４回	輪読とスクレイピング	竹岡
第５回	輪読とクローラーの構築	竹岡
第６回	輪読とAPIとクローリング	竹岡
第７回	輪読とsqlデータベース①	竹岡
第８回	輪読とsqlデータベース②	竹岡
第９回	輪読とsqlデータベース③	竹岡
第１０回	輪読と統計処理	竹岡
第１１回	輪読と機械学習①	竹岡
第１２回	輪読と機械学習②	竹岡

第１３回	輪読と機械学習③	竹岡
第１４回	輪読と機械学習④	竹岡
第１５回	輪読と機械学習⑤	竹岡
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	進行の中で随時指定	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅳ （ゼミ形式）			担当者	稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年			ナンバリング	SS-BU-3-506		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	テーマ：社会調査の手法を学ぶ 到達目標：量的調査・質的調査ともに基礎知識とその方法を習得し、自らの力で分析出来るようになる。
授業概要	演習科目の最終的な目標は卒業論文の執筆である。したがって、3年間の演習を通じて必要なスキルの習得を目指す。 3年次は、社会調査のさまざまな手法について基礎を学ぶ。さらにはその手法を用いた論文を読み解く力や、自らの関心で問題提起できる力を養う。 授業方法は主にテキスト等の読解を行う。学生はテキストの担当部分についてレジュメを作成し報告をする。そして、その報告に対して質疑応答を行うとともに、報告者を含め全体で内容を発展させるための議論を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	ルーブリック評価表（50%）と、最終レポート（50%）によって評価する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については授業内で解説をおこなう。
履修条件・注意事項	出席と予習復習は必要不可欠である。 授業計画の内容は、受講者の理解度に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜日3時限に研究室（14611）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・研究倫理教育	稲元洋輔
第２回	社会調査の方法(3)	稲元洋輔
第３回	社会調査の方法(4)	稲元洋輔
第４回	質的調査を用いた文献講読(1)	稲元洋輔
第５回	質的調査を用いた文献講読(2)	稲元洋輔
第６回	質的調査を用いた文献講読(3)	稲元洋輔
第７回	質的調査を用いた文献講読(4)	稲元洋輔
第８回	質的調査を用いた文献講読(5)	稲元洋輔
第９回	論文の書き方(1)	稲元洋輔
第１０回	論文の書き方(2)	稲元洋輔
第１１回	論文の書き方(3)	稲元洋輔
第１２回	研究関心の発表(1)	稲元洋輔
第１３回	研究関心の発表(2)	稲元洋輔
第１４回	研究関心の発表(3)	稲元洋輔
第１５回	まとめ	稲元洋輔
第１６回		

教科書

教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	授業の進行に応じて適宜紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ｖ （ゼミ形式）			担当者	赤坂　真人		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-507		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ 演習Ｖでは卒業論文に関する文献の購読・分析方法の理解をテーマとする。卒業論文を完成するために、学生は自分の卒論のテーマに関する著書や論文を読み、データを収集し、分析しなければならない。 到達目標 ゼミ学生は自分が研究するテーマの参考文献一覧を作成し、その中で特に重要な文献を読んでいく。社会調査に基づく卒業論文を目指す学生には社会調査法と統計分析の基礎、言語テキストの計量分析の仕方を教える。（できれば社会調査法・社会統計学で学修しておくこと）。
授業概要	演習では毎回発表者が交代しながら、自分の研究―テーマに関する基本文献・参考文献の梗概を作成し、それを発表する。ゼミ発表の進め方は、前週に発表者と討論者と司会を決めておき、報告者のゼミ発表が終わると討論者が、これに対するコメントを加える。その後自由討論となり、最後に指導教授がコメントを加え、研究のヒントを提示する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	評価は①ルーブリック評価票による評価（50%）、②ゼミでの小試験・定期試験（50%）で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	演習で行った小テストや定期試験に対しては、教員が採点したのちコメントをつけて返却する。
履修条件・注意事項	会社訪問・面接などを除いては欠席を認めない。欠席する場合は事前に教員に連絡すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回2時間の発表準備時間が必要。
オフィスアワー	火曜4限（15：10～16：40）に研究室で実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・研究倫理：研究の倫理に基づく責任ある研究活動	赤坂
第２回	学生の情報収集リスト報告	赤坂
第３回	収集した情報の質と分析方針の指示	赤坂
第４回	どのようなデータを収集するのか。データ収集の仕方。	赤坂
第５回	データ：測定・誤差・バイアス	赤坂
第６回	サンプリング	赤坂
第７回	仮説検定とは何か？	赤坂
第８回	相関分析の意味とやり方	赤坂
第９回	質的調査とは何か。	赤坂
第１０回	言語テキストの分析	赤坂
第１１回	ＫＨコーダーの使い方。	赤坂
第１２回	KHコーダーの分析結果と解釈の仕方	赤坂
第１３回	統計分析入門。単純集計とクロス集計	赤坂
第１４回	統計分析入門：f検定・χ二乗検定・相関分析・順位相関分析	赤坂
第１５回	まとめ	赤坂
第１６回	定期試験	赤坂

教科書

教・書籍名１	論文の書き方	教・出版社名１	NHK出版
教・著者名１	戸山田　和久	教・ＩＳＢＮ１	978-4140911945
教・書籍名２	社会調査のための計量テキスト分析	教・出版社名2	ナカニシヤ出版
教・著者名2	樋口耕一	教・ＩＳＢＮ2	978-4779508035
参考書			
参・書籍名１	各学生の論文テーマに沿った文献を指示	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ｖ （ゼミ形式）			担当者	井勝　久喜		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-507		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「研究の基礎」をテーマとして、研究に必要な基礎的知識を学び、専門の内容が理解でき、利用できるようになることを到達目標とする。
授業概要	独自の課題を探究するか、グループ研究の中から自分の関心に合った課題を絞り込むかして、各受講生は単独研究の課題設定につとめる。設定の過程で独自の課題に応じた資料・文献を精読し、研究に必要な基礎概念、基礎理論、専門用語を理解する。同時に必要な情報を収集して専門の技術と知識を深め、専門職としてのアイデンティティ形成に自覚的に取り組む。 この科目は、一部の授業時間において企業経験のある外部講師を招いて講義をしていただき、学生の理解を深める。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	ルーブリック評価シートで評価（50%）。演習での活動評価（50%）。ただし、他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には、減点することもある。詳しい評価方法は、最初の演習の時に説明する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートは採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	欠席、遅刻する場合は、必ず、前もって連絡すること。自分から進んで演習に参加するという態度で臨むこと。毎回の指示に従って予習と復習を行うこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）参加型演習のために、演習生は事前に課題を調べた上で参加する。演習は、この課題をめぐって討論形式で行う。 ２）演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 ３）レポートの返却後に指示にしたがって復習を行うこと。 予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施

授業計画		担当者
第１回	演習Ｖオリエンテーションと研究倫理教育	井勝久喜
第２回	研究に必要な能力	井勝久喜
第３回	研究遂行方法	井勝久喜
第４回	資料収集方法	井勝久喜
第５回	文献の読み方	井勝久喜
第６回	文献紹介の方法	井勝久喜
第７回	文献紹介	井勝久喜
第８回	研究仮説の立て方	井勝久喜
第９回	研究仮説の立証方法	井勝久喜
第１０回	外部講師講演会（2時間連続）	井勝久喜・外部講師
第１１回	外部講師講演会（2時間連続）	井勝久喜・外部講師
第１２回	データの統計処理	井勝久喜

第１３回	文献抄読会	井勝久喜
第１４回	論文作成の方法	井勝久喜
第１５回	振り返りワークショップ	井勝久喜
第１６回	振り返りとレポート作成	井勝久喜

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	論文・レポートの基本	参・出版社名１	日本実業出版社
参・著者名１	石黒　圭	参・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4-534-04927-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅴ （ゼミ形式）			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-507		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「経営学の専門知識の吸収と文献調査の理解」がテーマである。到達目標は、経営学の専門知識の習得と共に、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力を高める。また、文献を読む能力、考える能力、書く能力、まとめる能力の向上。ﾁｰﾑﾜｰｸとﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟの向上。自己管理力と問題解決能力の向上。
授業概要	ｾﾞﾐの目的と概要は次のとおりである。本ｾﾞﾐでは、経営学・国際経営などの基本的な専門知識を身につけることにする。企業経営の仕組み、戦略、組織などについて学習することが目的である。ﾃｷｽﾄは変更可能である。 　また、ｾﾞﾐ参加者が興味あるﾃｰﾏを選択し、卒業論文に向けての報告も行ってもらう。発表に基づいて議論をする。その際に、論文の書き方も指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	(1)ルーブリック評価票による評価　→50% (2)期間中に提示した課題の到達度　→50% 　等による総合評価
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	問題意識と積極性を持つこと。無断の欠席は認めない。就職活動でやむを得ない時は必ず連絡を入れること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回討論に参加するために配布資料の予習の徹底(毎回２時間)と演習後には復習(毎回２時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ・研究倫理の指導	姜
第２回	2.企業の知識体系	姜
第３回	3.ｼｬｰﾌﾟの製品開発ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	姜
第４回	4.日本的経営と人事管理制度	姜
第５回	5.ﾌﾟﾗｻﾞｰ工業の進化と見えざる資産	姜
第６回	6.消費者変化に対応する事業ｼｽﾃﾑ	姜
第７回	7.ｾﾌﾞﾝｲﾚﾌﾞﾝ・ｼﾞｬﾊﾟﾝの単品処理	姜
第８回	8.ﾆｰｽﾞの絞り込みによる市場創造	姜
第９回	9.ﾗｲｵﾝ屋干しﾄｯﾌﾟのﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ	姜
第１０回	10.会社は誰のものか	姜
第１１回	11.ｶｺﾞﾒのﾌｧﾝ株主拡大戦略	姜
第１２回	12.ﾋﾞｼﾞﾈｽの倫理	姜
第１３回	13.三菱ふそうのﾊﾌﾞ欠陥事件	姜
第１４回	14.個人面談と個人指導	姜
第１５回	15.個人面談と個人指導	姜
第１６回	16.全体のまとめ	姜

教科書

教・書籍名１	ｹｰｽに学ぶ経営学	教・出版社名１	有斐閣ﾌﾞｯｸｽ
教・著者名１	東北大学経営学ｸﾞﾙｰﾌﾟ　著	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	演習時に参考書・資料などを予習ができるように適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ｖ （ゼミ形式）			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-507		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	この演習のテーマは、日本人の人事・労働経済に関する研究である。ことに、仕事を中心に捉え、仕事の仕方、仕事能力の形成に焦点を当てることになる。仕事は人生の一部に過ぎないが、これは非常に重要な一部であり、人生に及ぼす影響は極めて深いものである。この演習の最終的な到達目標は、演習生たちの就職に役に立つための実用的な学びを身に付けるものになる。
授業概要	この演習は、「仕事の経済学」に関する参加型演習である。演習の主な内容は、日本の人事・労働経済に関するものであるが、必要に応じて外国事例との比較をも行う。この研究の方法論は、「個別から一般へ」というやり方を取り入れる。すなわち、できるだけ数多くの個別事例を調べて、そこから一般化を引き出すことになる。これに基づき一般的な理論をも構想してゆく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	(1)ルーブリック評価票による評価（50%） (2)期間中に提示した課題の到達度（50%） による総合評価
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型演習であるために、演習生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。演習は、この課題をめぐって行う。 （２）演習生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（研究倫理教育）	李　分一
第２回	様々な労働者グループ	李　分一
第３回	知的熟練	李　分一
第４回	大手企業労働者のキャリア	李　分一
第５回	アメリカ企業労働者のキャリア	李　分一
第６回	大手ワイトカラーの人材開発	李　分一
第７回	韓国ホワイトカラーの人材開発	李　分一
第８回	報酬・Pay－年功賃金	李　分一
第９回	長期雇用と解雇	李　分一
第１０回	中小企業の労働者	李　分一
第１１回	女性労働者	李　分一
第１２回	高年労働者とフリーター	李　分一

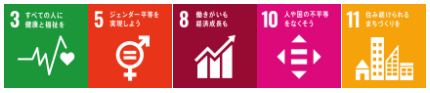
第１３回	海外の日本企業	李　分一
第１４回	働く場での労働組合	李　分一
第１５回	マクロ労働経済	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	演習中に紹介する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅴ （ゼミ形式）			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-507		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを 
到達目標	テーマ：卒業論文のための社会調査の実施および卒業論文の執筆を行う。 到達目標（大きく２つ） ①３年次から準備してきた各自の研究テーマをもとに調査プロジェクトを進め、最終的な「卒業論文」を執筆する。 ②完成した卒業論文のプレゼンテーション（発表）を行い、的確な発表及び受け答えを行う。
授業概要	各自が社会調査を実践した上で、その成果を１つの学術論文としてまとめる。 その進捗状況をクラス全体で確認するため、毎回受講生が発表する機会がある。 発表準備のためには、授業への積極的な参画が求められる。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	①「ルーブリック評価表」による評価（50%） （※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである） ②「担当教員による評価」（50%） 　最終レポート（50%）
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	提出課題にはそれぞれ添削の上、返却を行う（フィードバック）。
履修条件・注意事項	各自の研究内容を考慮し、テキストを随時指示する。 卒業論文は、社会調査を各自（グループのケース有）で実施するものとする。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	・参加型学習により授業を行うため、予習が必須である。 ・指示に従って必ず卒論用ノートを作成し復習をすること。 ・予習および復習には、各２時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	ガイダンス、研究倫理教育	黒宮
第２回	卒業論文執筆の基礎	黒宮
第３回	卒業論文執筆（詳細説明）	黒宮
第４回	卒論構想発表準備作業	黒宮
第５回	卒論構想発表レジュメ作成	黒宮
第６回	卒論構想発表 グループ1	黒宮
第７回	卒論構想発表 グループ2	黒宮
第８回	卒論構想発表振り返り	黒宮
第９回	初校の執筆作業	黒宮

第１０回	初校の執筆作業（発表）		黒宮
第１１回	初校の執筆作業（発表）		黒宮
第１２回	初校の執筆作業（個別指導）		黒宮
第１３回	初校の執筆作業（個別指導）		黒宮
第１４回	全体ディスカッション		黒宮
第１５回	全体振り返りと総括		黒宮
第１６回			
教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	よくわかる卒論の書き方	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	白井利明・高橋一郎	参・ＩＳＢＮ１	978-4623065721
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅴ （ゼミ形式）			担当者	大西　正泰		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-507		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「卒業研究の推進」をテーマとして、研究を遂行するとともに、卒業論文を書き上げるだけの基礎能力を身につけることを到達目標とする。
授業概要	・研究テーマの対象となる問題の背景・現状の考察、資料・文献の収集とその解読、事例の検討、関連論文の精読、中間レポートの作成と発表、グループ討議など、卒業研究（卒業課題、卒業論文、事例研究など）の完成に向けて本格的に歩み始める。 ・就職情報の収集など専門職の現場に関する知見を深めつつ、就職活動にも取り組む。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	・50% 「①ルーブリック評価表（学科共通）」＋50%「②担当教員による評価」＝ 100% ①「ルーブリック評価表」による評価（50%） 学科共通のルーブリックを参考にすること。/uprx/keiei.pdf ②「担当教員による評価」（50%） 演習に取り組む姿勢と貢献度（10%）、課題提出物・報告資料（40%）により評価します。
ルーブリック評価	学科共通のルーブリック評価表のリンク先　/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	・毎回のゼミで、進捗についてのプレゼンテーションを行い、フィードバックする。 ・ゼミで運営するオンラインチャットを通じ、お互いの情報をシェアし、フィードバックする。
履修条件・注意事項	・欠席、遅刻する場合は、必ず、前もって連絡すること。 ・自分から進んで演習に参加するという態度で臨むこと。 ・毎回の指示に従って予習と復習を行うこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、ビジネスの実務経験がある教員が授業を行います。 実務経験 １）管理職経験（私立中学校4年） ２）経営者経験（14年）
事前学習・事後学習とその時間	１）参加型演習のために、演習生は事前に課題を調べた上で参加する。演習は、この課題をめぐって討論形式で行う。 ２）演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 ３）レポートの返却後に指示にしたがって復習を行うこと。予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	木曜日（4限）場所は14621研究室（14号館6階）になります。 ＊他の曜日についてはメールにて、随時受付します。m-onishi@kiui.ac.jp

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション～研究における倫理～	大西正泰
第２回	論文作成の方法	大西正泰
第３回	研究遂行方法	大西正泰
第４回	資料収集方法	大西正泰
第５回	文献の読み方	大西正泰

第６回	文献紹介の方法	大西正泰
第７回	文献紹介	大西正泰
第８回	研究仮説の立て方	大西正泰
第９回	研究仮説の立証方法	大西正泰
第１０回	データの統計処理	大西正泰
第１１回	文献抄読会①	大西正泰
第１２回	文献抄読会②	大西正泰
第１３回	文献抄読会③	大西正泰
第１４回	文献抄読会④	大西正泰
第１５回	ふりかえりワークショップ	大西正泰
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	毎回資料を配布します。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ｖ （ゼミ形式）			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-507		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	テーマ 卒業論文の執筆 到達目標 卒業論文を完成させるために必要な能力を養う。
授業概要	各自、卒業論文のテーマを決定し、それの完成に向けて論文の収集、データの収集、分析を行う。 2週間に一度、自身の研究の進行状況を発表する。 輪読は、各自の関心のある論文を自身で見つけ、それを読み、発表する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	①ルーブリック評価表による評価50% ②プログラミング到達度30% ③期間中に提示した課題の到達度20%
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	演習時間を含めて随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	遅刻や無断欠席は全体の進行に影響するので、基本的に認めない。やむを得ない場合，必ず事前連絡すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	2週間に一度は輪読が回ってくるので、自身の関心がある本を数冊選んで、あらかじめ読んでおくこと。 データ分析に用いる統計学的手法や機械学習技術、さらには深層学習には数学的な理解が必要である。自身がそれらの手法を用いる際には、その背景にある考え方まで理解する。少なくとも予習に2時間、復習に2時間を要する。
オフィスアワー	月曜3限

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	竹岡
第２回	研究の進め方	竹岡
第３回	調査の方法	竹岡
第４回	研究計画の策定	竹岡
第５回	研究計画の再検討	竹岡
第６回	先行研究の収集	竹岡
第７回	先行研究の収集	竹岡
第８回	予備的調査	竹岡
第９回	調査結果の検討	竹岡
第１０回	調査方法の再検討	竹岡
第１１回	本調査	竹岡
第１２回	調査結果の分析	竹岡
第１３回	モデルの検討	竹岡
第１４回	モデルの構築	竹岡
第１５回	モデルの構築	竹岡
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	進行の中で随時指定	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	統計学が最強の学問である［数学編］	参・出版社名１	ダイヤモンド社
参・著者名１	西内啓	参・ＩＳＢＮ１	4478104514
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅴ （ゼミ形式）			担当者	稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-507		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	テーマ：卒業論文の執筆 到達目標：知識に基づき論理的な思考ができる。事象について多面的に理解し、豊かな発想ができる。
授業概要	演習科目の最終的な目標は卒業論文の執筆である。したがって、3年間の演習を通じて必要なスキルの習得を目指す。 4年次は、卒業論文の執筆と修正に徹する。正確な文章が書けるようになる。データの収集や分析を行い、自身の研究を進める。さらには、日常的な問題について社会学の知識を用いた解釈ができるようになる。 授業方法は、卒業論文の進捗についてレジュメを作成し報告をする。そして、その報告に対して質疑応答を行うとともに、報告者を含め全体で内容を発展させるための議論を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	ルーブリック評価表（50%）と、最終レポート（50%）によって評価する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については授業内で解説をおこなう。
履修条件・注意事項	出席と予習復習は必要不可欠である。 授業計画の内容は、受講者の理解度に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜日3時限に研究室（14611）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・研究倫理教育	稲元洋輔
第２回	論文テーマの発表(1)	稲元洋輔
第３回	論文テーマの発表(2)	稲元洋輔
第４回	論文テーマの発表(3)	稲元洋輔
第５回	参考文献の整理(1)	稲元洋輔
第６回	参考文献の整理(2)	稲元洋輔
第７回	参考文献の整理(3)	稲元洋輔
第８回	研究計画の報告(1)	稲元洋輔
第９回	研究計画の報告(2)	稲元洋輔
第１０回	研究計画の報告(3)	稲元洋輔
第１１回	研究の進捗報告(1)	稲元洋輔
第１２回	研究の進捗報告(2)	稲元洋輔
第１３回	研究の進捗報告(3)	稲元洋輔
第１４回	卒業論文中間報告(1)	稲元洋輔
第１５回	卒業論文中間報告(2)	稲元洋輔
第１６回		

教科書

教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	授業の進行に応じて適宜紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習VI （ゼミ形式）			担当者	赤坂　真人		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-508		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ：卒業論文の執筆 演習VIでは卒業論文の執筆と修正に徹する。演習Ｖの最後に提出したレポートを基礎にして、それを発展させ、卒業論文の完成を目指す。 達成目標 文章は読むことよりも書くことのほうが難しい。翻訳でも同じだが、論文の執筆を経験すると「言葉の使い方」に敏感になる。さまざまな資料とデータからひとつの結論を導く経験はこれからの人生において貴重な経験となる。
授業概要	演習では毎回発表者が交代しながら、自分の研究テーマに関する研究内容・進捗状況を発表する。ゼミ発表の進め方は、前の週に発表者と討論者と司会を決めておき、報告者のゼミ発表が終わると討論者が、発表に対するコメントを加える。その後自由討論を行い、最後に指導教授がコメントを加え、研究のヒントを提示する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	評価は①ルーブリック評価票による評価（50%）、②ゼミでの小試験・定期試験（50%）で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	演習中に実施した小テストや、その他試験は教員が採点後詳細なコメントをつけて返却する。もしコメントに反論があるときは、速やかに反論を提示すること。
履修条件・注意事項	論文執筆をさぼり11月ごろになって急に焦り始め、締切直前に書き上げる学生が多い。またインターネットなどからのダウンロード・剽窃は絶対行ってはならない。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	学期中、毎週、最低でも予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜４限（15：10～16：40）に、研究室（9309）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	論オリエンテーション・研究倫理：研究の倫理に基づく責任ある研究活動	赤坂
第２回	論文執筆のデモンストレーション	赤坂
第３回	論文執筆進捗状況報告（2名）	赤坂
第４回	論文執筆進捗状況報告（2名）	赤坂
第５回	論文執筆進捗状況報告（2名）	赤坂
第６回	論文執筆進捗状況報告（2名）	赤坂
第７回	論文執筆進捗状況報告（2名）	赤坂
第８回	中間報告	赤坂
第９回	教員が書いた論文のPPを使ったプレゼン：人文社会系の学問は科学であるか？	赤坂
第１０回	教員が書いた論文のPPを使ったプレゼン：中国人看護師の労働形態に関する調査報告	赤坂
第１１回	論文執筆進捗状況報告（2名）	赤坂
第１２回	論文執筆進捗状況報告（2名）	赤坂
第１３回	論文執筆進捗状況報告（2名）	赤坂
第１４回	卒業論文の書式・形式チェック	赤坂
第１５回	報告会・口頭試問	赤坂
第１６回	定期試験	赤坂

教科書

教・書籍名１	論文の教室	教・出版社名１	NHK出版
教・著者名１	戸田山　和久	教・ＩＳＢＮ１	978-4140911945
教・書籍名２	教員執筆の論文	教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	学生の論文テーマに合わせて適宜指示する	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	データ解釈学	参・出版社名2	ソシム
参・著者名2	江崎貴裕	参・ＩＳＢN2	978-4802612906

授業科目名	演習VI （ゼミ形式）			担当者	井勝　久喜		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-508		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「実践力」をテーマとして、グループでのフィールドワークやワークショップの手法を利用して、自分で研究が遂行できる能力を身につけること到達目標とする。
授業概要	資料・文献の精読と同時に、自分の課題に適合した研究方法を学習する。一般的な方法論（調査・集計・分析・解釈）に関しては、グループでのフィールドワークやワークショップの手法を利用して実践的な知見を得る。その知見に基づいて、最終的に自分の卒業研究へつながる特化された研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。専門職の業種・職種の絞り込みと現場理解につとめる。 この科目は、一部の授業時間において企業経験のある外部講師を招いて講義をしていただき、学生の理解を深める。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	ルーブリック評価シートで評価（50%）。演習での活動評価（50%）。ただし、他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には、減点することもある。詳しい評価方法は、最初の演習の時に説明する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポートは採点して授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	欠席、遅刻する場合は、必ず、前もって連絡すること。自分から進んで演習に参加するという態度で臨むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）参加型演習のために、演習生は事前に課題を調べた上で参加する。演習は、この課題をめぐって討論形式で行う。 ２）演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 ３）レポートの返却後に指示にしたがって復習を行うこと。 予習及び復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施

授業計画		担当者
第１回	演習VIオリエンテーションと研究倫理教育	井勝久喜
第２回	文献紹介	井勝久喜
第３回	文献抄読会	井勝久喜
第４回	資料・文献の収集	井勝久喜
第５回	資料・文献の整理	井勝久喜
第６回	研究対象事例の収集	井勝久喜
第７回	研究対象事例の整理	井勝久喜
第８回	中間発表	井勝久喜
第９回	中間発表の振り返り	井勝久喜
第１０回	外部講師講演会（2時間連続）	井勝久喜・外部講師
第１１回	外部講師講演会（2時間連続）	井勝久喜・外部講師
第１２回	研究調査	井勝久喜
第１３回	調査結果のまとめ	井勝久喜

第１４回	最終発表準備	井勝久喜
第１５回	最終発表	井勝久喜
第１６回	振り返りとレポート作成	井勝久喜

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	論文・レポートの基本	参・出版社名１	日本実業出版社
参・著者名１	石黒　圭	参・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4-534-04927-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅵ （ゼミ形式）			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-508		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「経営学の専門知識の吸収と文献調査の理解」がテーマである。到達目標は、経営学の専門知識の習得と共に、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力を高める。また、文献を読む能力、考える能力、書く能力、まとめる能力の向上。ﾁｰﾑﾜｰｸとﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟの向上。自己管理力と問題解決能力の向上。
授業概要	ｾﾞﾐの目的と概要は次のとおりである。本ｾﾞﾐでは、経営学・国際経営などの基本的な専門知識を身につけることにする。企業経営の仕組み、戦略、組織などについて学習することが目的である。ﾃｷｽﾄは変更可能である。 　また、ｾﾞﾐ参加者が興味あるﾃｰﾏを選択し、卒業論文に向けての報告も行ってもらう。発表に基づいて議論をする。その際に、論文の書き方も指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	(1)ルーブリック評価票による評価　→50% (2)期間中に提示した課題の到達度　→50% 　等による総合評価
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	経営学に文献をよろこと。問題意識と積極性を持つこと。無断の欠席は認めない。就職活動でやむを得ない時は必ず連絡を入れること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回討論に参加するために配布資料の予習の徹底(毎回２時間)と演習後には復習(毎回２時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ・研究倫理の指導	姜
第２回	2.経営集中化とｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化	姜
第３回	3.食品・ｱﾐﾉ酸の世界企業をめざす	姜
第４回	4.ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ首位企業の栄光と苦難	姜
第５回	5.生産ｼｽﾃﾑの対米移転	姜
第６回	6.ﾀｲにおける販売革新	姜
第７回	7.SPAと中国調達	姜
第８回	8.中国での事業展開	姜
第９回	9.欧州地域統括会社	姜
第１０回	10.ｱﾒﾘｶにみるﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ型	姜
第１１回	11.ﾃﾚﾋﾞｹﾞｰﾑ企業の国際戦略	姜
第１２回	12.国境を越える広告活動	姜
第１３回	13.盛田昭夫VS　H.ｼｬｲﾝ	姜
第１４回	14.ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ経営(ｷｬﾉﾝ)	姜
第１５回	15.全体のまとめ	姜
第１６回	16.総合学習	姜

教科書			
教・書籍名１	ケースブツク国際経営	教・出版社名１	有斐閣ブックス
教・著者名１	吉原　英樹　編著	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	演習時に参考書・資料などを予習ができるように適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅵ （ゼミ形式）			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-508		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	現代日本と韓国の関係とその変化過程、そして政治社会学的問題の比較について、東アジア諸国の中で位置づけながら研究を行う。日韓関係の過去と現在、そして未来について比較論的な視点から研究してゆく。この演習は、演習Ⅲの延長である。 この演習に参加すれば、日本と韓国、そして北朝鮮関係の抱える様々な問題の発見力と総合力、そして総括力と発表力が身に付けられる。
授業概要	演習生に対して、関連資料を読みこなせ、まとめる能力（読み方・書き方・話し方）などを身に付けさせる。関連資料・テキストを読みながら、ともに討論し合い、また参加者全員の発表を行う。関連資料については、演習参加者の関心事に対応する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	(1)ルーブリック評価票による評価（50%） (2)期間中に提示した課題の到達度（50%） による総合評価
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型演習であるために、演習生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。演習は、この課題をめぐって行う。 （２）演習生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

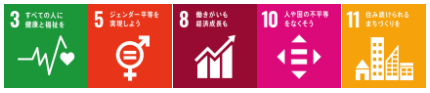
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（研究倫理教育）	李　分一
第２回	指定資料・テキスト輪読	李　分一
第３回	日本の政治	李　分一
第４回	日本の経済	李　分一
第５回	日本の社会	李　分一
第６回	日本の文化	李　分一
第７回	日本の国際関係	李　分一
第８回	日韓両国の関係	李　分一
第９回	韓国の政治	李　分一
第１０回	韓国の経済	李　分一
第１１回	韓国の社会	李　分一
第１２回	韓国の文化	李　分一
第１３回	韓国の国際関係	李　分一
第１４回	日韓両国の比較	李　分一

第１５回	まとめ	李　分一
第１６回	定期試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	演習中に紹介する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅵ （ゼミ形式）			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-508		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを 
到達目標	テーマ：卒業論文のための社会調査の実施および卒業論文の執筆を行う。 到達目標（大きく以下２つ） ①３年次から準備してきた各自の研究テーマを元に調査プロジェクトを進め、最終的な「卒業論文」を執筆する。 ②完成した卒業論文のプレゼンテーション（発表）を行い、的確な発表及び受け答えを行う。
授業概要	各自が社会調査を実践した上で、その成果を１つの学術論文としてまとめる。 その進捗状況をクラス全体で確認するため、毎回受講生が発表する機会がある。 発表準備のためには、授業への積極的な参画が求められる。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	①「ルーブリック評価表」による評価（50%） （※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである） ②「担当教員による評価」（50%） 最終レポート提出（50%）
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	提出課題にはそれぞれ添削の上、返却を行う（フィードバック）。
履修条件・注意事項	各自の研究内容を考慮し、テキストを随時指示する。 卒業論文は、社会調査を各自実施するものとする。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	・参加型学習により授業を行うため、予習が必須である。 ・指示に従って必ず卒論用ノートを作成し復習をすること。 ・予習および復習には、各２時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	ガイダンス、研究倫理教育	黒宮
第２回	初校提出作業	黒宮
第３回	初校修正作業	黒宮
第４回	執筆スケジュール確認・計画	黒宮
第５回	第2校執筆作業（発表）	黒宮
第６回	第2校執筆作業（全体ディスカッション）	黒宮
第７回	第2校執筆作業（個別指導）	黒宮
第８回	第2校執筆作業（個別指導）	黒宮
第９回	最終稿執筆作業（発表）	黒宮
第１０回	最終稿執筆作業（全体ディスカッション）	黒宮
第１１回	最終稿執筆作業（個別指導）	黒宮

第１２回	最終稿執筆作業（個別指導）	黒宮
第１３回	卒論報告会準備	黒宮
第１４回	卒論報告会準備	黒宮
第１５回	卒論報告会	黒宮
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	よくわかる卒論の書き方	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	白井利明・高橋一郎	参・ＩＳＢＮ１	978-4623065721
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅵ （ゼミ形式）			担当者	大西　正泰		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-508		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「卒業論文の作成」をテーマとして、自分自身で考え、研究を遂行し、卒業論文をまとめ上げることを到達目標とする。
授業概要	・添削指導や中間発表会など、個別指導や報告会、グループ討議を重ねて、卒業研究（卒業課題、卒業論文、事例研究など）を完成させる。 ・完成させた各研究内容は、発表会と冊子の形で当該演習の受講生全員に公表し、相互評価を行う。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	・50% 「①ルーブリック評価表（学科共通）」 ＋50%「②担当教員による評価」 ＝ 100% ①「ルーブリック評価表」による評価（50%） 学科共通のルーブリックを参考にすること。/uprx/keiei.pdf ②「担当教員による評価」（50%） 演習に取り組む姿勢と貢献度（10%）、課題提出物・報告資料（40%）により評価します。
ルーブリック評価	学科共通のルーブリック評価表のリンク先　/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	・毎回のゼミで、進捗についてのプレゼンテーションを行い、フィードバックする。 ・ゼミで運営するオンラインチャットを通じ、お互いの情報をシェアし、フィードバックする。
履修条件・注意事項	・欠席、遅刻する場合は、必ず、前もって連絡すること。 ・自分から進んで演習に参加するという態度で臨むこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、ビジネスの実務経験がある教員が授業を行います。 実務経験 １）管理職経験（私立中学校4年） ２）経営者経験（14年）
事前学習・事後学習とその時間	１）参加型演習のために、演習生は事前に課題を調べた上で参加する。演習は、この課題をめぐって討論形式で行う。 ２）演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 ３）レポートの返却後に指示にしたがって復習を行うこと。予習および復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14621号室）にて水曜日５時限に実施

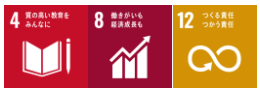
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大西正泰
第２回	文献紹介	大西正泰
第３回	文献抄読会	大西正泰
第４回	資料・文献の収集	大西正泰
第５回	資料・文献の整理	大西正泰
第６回	研究対象事例の収集	大西正泰
第７回	研究対象事例の整理	大西正泰
第８回	中間発表	大西正泰
第９回	中間発表のふりかえり	大西正泰
第１０回	研究調査①	大西正泰
第１１回	研究調査②	大西正泰

第１２回	調査結果のまとめ	大西正泰
第１３回	最終発表準備①	大西正泰
第１４回	最終発表準備②	大西正泰
第１５回	最終発表	大西正泰
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習VI （ゼミ形式）			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-508		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１２．つくる責任・つかう責任 
到達目標	テーマ 卒業論文の執筆 到達目標 卒業論文を完成させるために必要な能力を養う。
授業概要	各自、卒業論文のテーマを決定し、それの完成に向けて論文の収集、データの収集、分析を行う。 2週間に一度、自身の研究の進行状況を発表する。 輪読は、各自の関心のある論文を自身で見つけ、それを読み、発表する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	①ルーブリック評価表による評価50% ②プログラミング到達度30% ③期間中に提示した課題の到達度20%
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	演習時間を含めて随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	遅刻や無断欠席は全体の進行に影響するので、基本的に認めない。やむを得ない場合，必ず事前連絡すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	2週間に一度は輪読が回ってくるので、自身の関心がある本を数冊選んで、あらかじめ読んでおくこと。 データ分析に用いる統計学的手法や機械学習技術、さらには深層学習には数学的な理解が必要である。自身がそれらの手法を用いる際には、その背景にある考え方まで理解する。少なくとも予習に2時間、復習に2時間を要する。
オフィスアワー	月曜3限

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	竹岡
第２回	論文執筆について	竹岡
第３回	執筆検討会：序論	竹岡
第４回	執筆検討会：背景	竹岡
第５回	執筆検討会：先行研究	竹岡
第６回	執筆検討会：仮説の検討	竹岡
第７回	執筆検討会：研究の方法	竹岡
第８回	執筆検討会：データの提示	竹岡
第９回	執筆検討会：データの解釈	竹岡
第１０回	執筆検討会：結果の考察	竹岡
第１１回	第1次発表①：討論会	竹岡
第１２回	第1次発表②：討論会	竹岡
第１３回	執筆検討会：再構成	竹岡
第１４回	最終発表会①	竹岡
第１５回	最終発表会②	竹岡
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	進行の中で随時指定	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	統計学が最強の学問である［数学編］	参・出版社名１	ダイヤモンド社
参・著者名１	西内啓	参・ＩＳＢＮ１	978-4478104514
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習VI （ゼミ形式）			担当者	稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-508		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	テーマ：卒業論文の執筆 到達目標：知識に基づき論理的な思考ができる。事象について多面的に理解し、豊かな発想ができる。
授業概要	演習科目の最終的な目標は卒業論文の執筆である。したがって、3年間の演習を通じて必要なスキルの習得を目指す。 4年次は、卒業論文の執筆と修正に徹する。正確な文章が書けるようになる。データの収集や分析を行い、自身の研究を進める。さらには、日常的な問題について社会学の知識を用いた解釈ができるようになる。 授業方法は、卒業論文の進捗についてレジュメを作成し報告をする。そして、その報告に対して質疑応答を行うとともに、報告者を含め全体で内容を発展させるための議論を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	ルーブリック評価表（50%）と、最終レポート（50%）によって評価する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については授業内で解説をおこなう。
履修条件・注意事項	出席と予習復習は必要不可欠である。 授業計画の内容は、受講者の理解度に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜日3時限に研究室（14611）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・研究倫理教育	稲元洋輔
第２回	研究計画の再検討(1)	稲元洋輔
第３回	研究計画の再検討(2)	稲元洋輔
第４回	研究計画の再検討(3)	稲元洋輔
第５回	論文の構成(1)	稲元洋輔
第６回	論文の構成(2)	稲元洋輔
第７回	論文の構成(3)	稲元洋輔
第８回	研究の進捗報告(4)	稲元洋輔
第９回	研究の進捗報告(5)	稲元洋輔
第１０回	研究の進捗報告(6)	稲元洋輔
第１１回	論文の推敲(1)	稲元洋輔
第１２回	論文の推敲(2)	稲元洋輔
第１３回	論文の推敲(3)	稲元洋輔
第１４回	卒業論文発表(1)	稲元洋輔
第１５回	卒業論文発表(2)	稲元洋輔
第１６回		

教科書

教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	授業の進行に応じて適宜紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	卒業論文 （ゼミ形式）			担当者	赤坂　真人		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-509		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ テーマは昨年度末、ゼミで報告されたものについて研究を続け、卒業論文として仕上げるものとする。論文の合否に関しては従来通り、ゼミ担当教員が要求する水準を超えていなければならない。脚注の付け方や参考文献の並べ方等については、何度でも指導する。 到達目標 できるだけ引用の少ない「自分の言葉で書いた」論文の執筆。
授業概要	卒業論文の指導については、指導教授が大学院で実施している方式を採用する。すなわち毎週ゼミ学生が卒業論文に関連する文章を書いてきて読み上げる。そしてそれを教員が指導、修正する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	評価は①ルーブリック評価票による評価（50%）、②卒論（50%）で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	毎回、学生が卒業論文の部分を発表するたびに、教員が内容をチェックし、コメントや修正指示を加える。
履修条件・注意事項	剽窃だけは絶対しないこと。引用部分には必ず脚注を付けること。外国語文献を翻訳して、そのまま論文にしないこと。インターネットからの無断借用は絶対許さない。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	学期中、毎週、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜４限（15：10～16：40）に、研究室（9309）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・研究倫理：研究の倫理に基づく責任ある研究活動	赤坂
第２回	論文の構成要素	赤坂
第３回	論文の構造	赤坂
第４回	初めに・問題の所在・本稿の目的	赤坂
第５回	方法と技法	赤坂
第６回	データの収集	赤坂
第７回	データの処理と加工	赤坂
第８回	結果	赤坂
第９回	考察	赤坂
第１０回	論証	赤坂
第１１回	アブストラクト	赤坂
第１２回	資料の収集と分析	赤坂
第１３回	論文の形式	赤坂
第１４回	脚注と引用文献	赤坂
第１５回	推敲作業	赤坂
第１６回	口頭試問	赤坂
第１７回	論文の書き方の説明	赤坂
第１８回	論文テーマの確認	赤坂
第１９回	論文の構造チェック	赤坂

第２０回	論文執筆検討会：はじめに	赤坂
第２１回	論文執筆検討会：背景	赤坂
第２２回	論文執筆検討会：命題	赤坂
第２３回	論文執筆検討会：方法	赤坂
第２４回	論文執筆検討会：結果	赤坂
第２５回	論文執筆検討会：考察	赤坂
第２６回	中間発表会	赤坂
第２７回	論文執筆検討会：論旨	赤坂
第２８回	論文執筆検討会：命題と結果	赤坂
第２９回	脚注・引用文献チェック	赤坂
第３０回	アブストラクト執筆	赤坂
第３１回	推敲作業	赤坂
第３２回	口頭試問	赤坂

教科書			
教・書籍名１	論文の教室	教・出版社名１	NHK 出版
教・著者名１	戸田山　和久	教・ＩＳＢＮ１	978-4140911945
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	各学生の卒業論文のテーマにあった論文・著書を紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	データ解釈学	参・出版社名2	ソシム
参・著者名2	江崎貴裕	参・ＩＳＢＮ2	978-4802612906

授業科目名	卒業論文 （ゼミ形式）			担当者	井勝　久喜		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-509		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60時間	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「卒業論文の完成と発表」をテーマとして、演習等で得た能力と、知識を活用して、卒業論文を完成させ、発表会においてプレゼンテーションを行うことによって、本学科卒業生としての能力を身につけることを到達目標とする。
授業概要	演習V，演習VIと関連させながら、これまで学習してきた研究方法を活かして、卒業論文の作成を行う。指導教員は、学生の卒業研究のテーマに応じて、事例の検討や関連論文の精読、グループ討議、個別指導などを行い、卒業論文作成の指導にあたる。
アクティブラーニングの内容	PBL／プレゼンテーション
評価方法と割合	ルーブリック評価シートで評価（50%）。卒業論文作成時における実績評価（50%）。及び学修活動への取り組みの評価（50%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題・議論・発表などへの取り組みについては採点をして授業でフィードバックする。
履修条件・注意事項	欠席、遅刻する場合は、必ず、前もって連絡すること。毎回の指示に従って予習と復習を行うこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）毎週発表をしてもらうことから、事前に文献を熟読した上で参加すること。 ２）毎週指示を出すので、指示に従って復習すること。 予習および復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施 論文指導は随時行うので、教員在室時はいつ訪ねても良い。

授業計画		担当者
第１回	卒業論文に関するオリエンテーションと研究倫理教育	井勝久喜
第２回	研究倫理に基づく責任ある研究活動	井勝久喜
第３回	研究計画の作成	井勝久喜
第４回	文献調査及びフィールド調査	井勝久喜
第５回	研究状況報告及び文献紹介	井勝久喜
第６回	文献調査及びフィールド調査	井勝久喜
第７回	研究状況報告及び文献紹介	井勝久喜
第８回	研究に関する討論	井勝久喜
第９回	文献調査及びフィールド調査	井勝久喜
第１０回	研究状況報告及び文献紹介	井勝久喜
第１１回	文献調査及びフィールド調査	井勝久喜
第１２回	研究状況報告及び文献紹介	井勝久喜
第１３回	卒業論文中間まとめの作成	井勝久喜
第１４回	中間まとめの見直し	井勝久喜
第１５回	卒業論文中間発表会	井勝久喜
第１６回	卒業論文中間発表会の振り返りと評価	井勝久喜

第１７回	後期研究計画の作成	井勝久喜
第１８回	文献調査及びフィールド調査	井勝久喜
第１９回	研究状況報告及び文献紹介	井勝久喜
第２０回	文献調査及びフィールド調査	井勝久喜
第２１回	研究状況報告及び文献紹介	井勝久喜
第２２回	文献調査及びフィールド調査	井勝久喜
第２３回	研究状況報告及び文献紹介	井勝久喜
第２４回	研究に関する討論	井勝久喜
第２５回	文献調査及びフィールド調査	井勝久喜
第２６回	研究状況報告及び文献紹介	井勝久喜
第２７回	文献調査及びフィールド調査	井勝久喜
第２８回	研究状況報告及び文献紹介	井勝久喜
第２９回	卒業論文の作成	井勝久喜
第３０回	卒業論文の見直し	井勝久喜
第３１回	卒業論文発表の準備	井勝久喜
第３２回	卒業論文発表会	井勝久喜

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	論文・レポートの基本	参・出版社名１	日本実業出版社
参・著者名１	石黒　圭	参・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4-534-04927-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	卒業論文 （ゼミ形式）			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-509		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「卒業論文の完成と論文の書き方の理解」がテーマである。到達目標は、褒めてもらえることができる質が高い卒業論文の完成である。また、論文の作成を通じて、情報の収集や分析の方法、文章のまとめ方、発表のﾉｳｰﾊｳ、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力などの養成を目標にする。
授業概要	本人の興味・関心に基づいて経営学のさまざまな領域から研究ﾃｰﾏを選ぶ。各自の卒業論文のﾃｰﾏに従って実証的研究か、文献研究を行う。ﾃｰﾏの決定に当たっては、適切なｱﾄﾞﾊﾞｲｽを行う。研究ﾃｰﾏの決定、執筆中はもちろん、論文の仕上げまでｱﾄﾞﾊﾞｲｽはするが、論文を完成させるのは本人である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	(1)ルーブリック評価票による評価　→50% (2)期間中に提示した課題の到達度　→50% 　等による総合評価
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	就職活動と卒業論文の作成のﾊﾞﾗﾝｽをうまくとること。無断欠席は認めない。就職活動でやむを得ない時は、必ず連絡を入れること。自ら問題意識を持って授業へ出席し、積極的に取り組む姿勢が必要。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回討論に参加するために配布資料の予習の徹底(毎回２時間)と演習後には復習(毎回２時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ・研究倫理の指導	姜
第２回	2.各自の選んだ研究ﾃｰﾏについての報告・討論(各人)	姜
第３回	3.各自の選んだ研究ﾃｰﾏについての報告・討論(各人)	姜
第４回	4.各自の選んだ研究ﾃｰﾏについての報告・討論(各人)	姜
第５回	5.各自の選んだ研究ﾃｰﾏについての報告・討論(各人)	姜
第６回	6.資料の収集と整理方法の指導	姜
第７回	7.資料の収集と整理方法の指導	姜
第８回	8.資料の収集と整理方法の指導	姜
第９回	9.資料の収集と整理方法の指導	姜
第１０回	10.資料の収集と整理方法の指導	姜
第１１回	11.資料の収集と整理方法の指導	姜
第１２回	12.資料の収集と整理方法の指導	姜
第１３回	13.各自の研究ﾃｰﾏと内容の報告(各人)	姜
第１４回	14.各自の研究ﾃｰﾏと内容の報告(各人)	姜
第１５回	15.総合復習	姜
第１６回	16.総合復習	姜
第１７回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	姜
第１８回	2.各自の研究ﾃｰﾏの順次報告(各人)	姜

第１９回	2.各自の研究ﾃｰﾏの順次報告(各人)	姜
第２０回	2.各自の研究ﾃｰﾏの順次報告(各人)	姜
第２１回	2.各自の研究ﾃｰﾏの順次報告(各人)	姜
第２２回	テーマと目次の決定(各自)	姜
第２３回	論文の中間発表(各人)	姜
第２４回	論文の中間発表(各人)	姜
第２５回	論文の中間確認と文章指導	姜
第２６回	論文の中間確認と文章指導	姜
第２７回	論文の中間確認と文章指導	姜
第２８回	論文の中間確認と文章指導	姜
第２９回	論文の最終確認と編集(各人)	姜
第３０回	論文の完成と成果発表・校正	姜
第３１回	論文の完成と成果発表・校正	姜
第３２回	論文の審査会	姜

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	演習時に参考書・資料などを予習ができるように適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	評価される博士・修士卒業論文の書き方、考え方	参・出版社名2	同文館
参・著者名2	新堀　　聰	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文 （ゼミ形式）			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-509		
必修・選択	必須	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	卒業論文は、大学4年間の学びの集大成であり、卒論が認定されるための重要な取組みである。卒論の作成では、専門の学びを通して「問い」を立てて、自ら発し、その「答え」を自分で見つける過程となる。また、実際に専門知識を使ってみることにより、大学で学んだ専門知識を体系化し、問題解決の方法論として身に付けるためのものである。そのことで、社会に出たとき、専門性を発揮して、実際に責任を持った仕事ができる。いずれにせよ、自分の知りたいことに対して、自分の頭で一生懸命に考え続けることが大切であり、そうすることで何かが見えてくるのである。
授業概要	演習生が自ら卒業論文に取り込むことは、①自分の頭で考える批判的な精神の養成、②理屈の立て方を身に付ける合理的な思考の養成、③専門性を確かなものにする問題解決能力の養成、④自分の世界を立ち上げる生き方の養成などに役に立つものになる。演習生の多様・多元的なテーマや問題意識、そして卒論の内容について柔軟的な対応と指導を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	①ルーブリック評価表による評価（50%） ②期間中に提示した課題の到達度（50%） による総合評価
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）各自のテーマに真面目に、丁寧に、しっかり取り込んでいくことが最も大切である。 （２）演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （3）口頭試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）この演習は、討論式学習であるために、事前課題を調べた上で、参加しなければならない。演習は、この課題をめぐって行う。 （２）演習生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（研究倫理教育）	李　分一
第２回	卒業論文とは何か	李　分一
第３回	論文の決まり	李　分一
第４回	引用の示し方	李　分一
第５回	引用文献の書き方	李　分一
第６回	特集な引用	李　分一
第７回	引用文献の並び方	李　分一
第８回	専門用語の定義の仕方	李　分一
第９回	事実と意見の分け方	李　分一
第１０回	論理的な書き方	李　分一

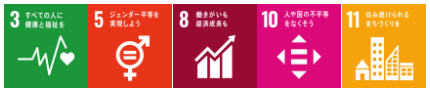
第１１回	読みやすい展開の方法	李　分一
第１２回	注と見出しの付け方	李　分一
第１３回	文章の点検と仕方	李　分一
第１４回	先行研究の読み方	李　分一
第１５回	テーマの深め方	李　分一
第１６回	まとめ	李　分一
第１７回	オリエンテーション	李　分一
第１８回	書き始める時期	李　分一
第１９回	論文構成の仕方	李　分一
第２０回	序論の書き方	李　分一
第２１回	問題意識の提示方	李　分一
第２２回	卒論目的の書き方	李　分一
第２３回	卒論展開の仕方	李　分一
第２４回	図表の作り方	李　分一
第２５回	結果の仕方	李　分一
第２６回	考察の書き方	李　分一
第２７回	結論の書き方	李　分一
第２８回	題目・要約の付け方	李　分一
第２９回	付録の付け方	李　分一
第３０回	卒論発表の仕方	李　分一
第３１回	質疑反応の仕方	李　分一
第３２回	口頭試問	李　分一

教科書			
教・書籍名１	よくわかる卒論の書き方	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	白井利用・高橋一郎	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-05111-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文 （ゼミ形式）			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-509		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを 
到達目標	テーマ：卒業論文のための社会調査の実施および卒業論文の執筆を行う。 到達目標（大きく２つ） ①３年次から準備してきた各自の研究テーマを元に調査プロジェクトを進め、最終的な「卒業論文」を執筆する。 ②完成した卒業論文のプレゼンテーション（発表）を行い、的確な発表及び受け答えを行う。
授業概要	各自が社会調査を実践した上で、その成果を１つの学術論文としてまとめる。 データの可視化ならびに、得られたデータの考察力・分析力が身につく。 論文執筆の経験を通じて、正確な文章を書く技術が身につく。 卒論の進捗状況を毎回受講生が発表する機会があるため、プレゼンテーション力の向上にも繋がる。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	①「ルーブリック評価表」による評価（50%） （※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである） ②「担当教員による評価」（50%） 最終レポート（50%）
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	提出課題にはそれぞれ添削の上、返却を行う（フィードバック）。
履修条件・注意事項	各自の研究内容を考慮し、テキストを随時指示する。 卒業論文は、社会調査を各自（グループのケース有）で実施するものとする。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	・参加型学習法により授業を行うため、予習が必須である。 ・指示に従って必ず卒論用ノートを作成し復習をすること。 ・予習および復習には、各２時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	ガイダンス、研究倫理教育	黒宮
第２回	卒業論文執筆の基礎	黒宮
第３回	卒業論文執筆（詳細説明）	黒宮
第４回	卒論構想発表準備作業	黒宮
第５回	卒論構想発表レジュメ作成	黒宮
第６回	卒論構想発表 グループ1	黒宮
第７回	卒論構想発表 グループ2	黒宮
第８回	卒論構想発表振り返り	黒宮
第９回	初校の執筆作業	黒宮
第１０回	初校の執筆作業（発表）	黒宮

第１１回	初校の執筆作業（発表）	黒宮
第１２回	初校の執筆作業（個別指導）	黒宮
第１３回	初校の執筆作業（個別指導）	黒宮
第１４回	全体ディスカッション	黒宮
第１５回	全体振り返りと総括	黒宮
第１６回	ガイダンス、研究倫理教育	黒宮
第１７回	初稿提出作業	黒宮
第１８回	初校修正作業	黒宮
第１９回	執筆スケジュール確認・計画	黒宮
第２０回	第2校執筆作業（発表）	黒宮
第２１回	第2校執筆作業（全体ディスカッション）	黒宮
第２２回	第2校執筆作業（個別指導）	黒宮
第２３回	第2校執筆作業（個別指導）	黒宮
第２４回	最終稿執筆作業（発表）	黒宮
第２５回	最終稿執筆作業（全体ディスカッション）	黒宮
第２６回	最終稿執筆作業（個別指導）	黒宮
第２７回	最終稿執筆作業（個別指導）	黒宮
第２８回	卒論報告会準備	黒宮
第２９回	卒論報告会準備	黒宮
第３０回	卒論報告会	黒宮
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	よくわかる卒論の書き方	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	白井利明・高橋一郎	参・ＩＳＢＮ１	978-4623065721
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文 （ゼミ形式）			担当者	大西　正泰		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-509		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「卒業論文の完成と発表」をテーマとして、演習等で得た能力と、知識を活用して、卒業論文を完成させ、発表会においてプレゼンテーションを行うことによって、本学科卒業生としての能力を身につけることを到達目標とする。
授業概要	演習V，演習VIと関連させながら、これまで学習してきた研究方法を活かして、卒業論文の作成を行う。指導教員は、学生の卒業研究のテーマに応じて、事例の検討や関連論文の精読、グループ討議、個別指導などを行い、卒業論文作成の指導にあたる。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	・50% 「①ルーブリック評価表（学科共通）」 +50%「②担当教員による評価」 = 100% ①「ルーブリック評価表」による評価（50%） 学科共通のルーブリックを参考にすること。/uprx/keiei.pdf ②「担当教員による評価」（50%） 卒業論文に取り組む姿勢と、卒業論文の内容により評価します。
ルーブリック評価	学科共通のルーブリック評価表のリンク先　/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	・毎回のゼミで、進捗についてのプレゼンテーションを行い、フィードバックする。 ・ゼミで運営するオンラインチャットを通じ、お互いの情報をシェアし、フィードバックする。
履修条件・注意事項	・欠席、遅刻する場合は、必ず、前もって連絡すること。 ・毎回の指示に従って予習と復習を行うこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、ビジネスの実務経験がある教員が授業を行います。 実務経験 １）管理職経験（私立中学校4年） ２）経営者経験（14年）
事前学習・事後学習とその時間	１）毎週発表をしてもらうことから、事前に文献を熟読した上で参加すること。 ２）毎週指示を出すので、指示に従って復習すること。 ３）予習および復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	秋学期は水曜５時限、春学期は木曜５時限に研究室（14621号室）で実施する。

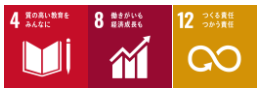
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大西正泰
第２回	卒業論文テーマ設定	大西正泰
第３回	研究計画の作成	大西正泰
第４回	文献・フィールド調査	大西正泰
第５回	研究状況報告及び文献紹介	大西正泰
第６回	文献・フィールド調査	大西正泰
第７回	研究状況報告及び文献紹介	大西正泰
第８回	研究に関する討論	大西正泰
第９回	文献・フィールド調査	大西正泰
第１０回	研究状況報告及び文献紹介	大西正泰

第１１回	文献・フィールド調査	大西正泰
第１２回	研究状況報告及び文献紹介	大西正泰
第１３回	卒業論文中間まとめの作成	大西正泰
第１４回	中間まとめの見直し	大西正泰
第１５回	卒業論文中間発表会	大西正泰
第１６回	後期研究計画の作成	大西正泰
第１７回	文献調査及びフィールド調査	大西正泰
第１８回	研究状況報告及び文献紹介	大西正泰
第１９回	文献調査及びフィールド調査	大西正泰
第２０回	研究状況報告及び文献紹介	大西正泰
第２１回	文献調査及びフィールド調査	大西正泰
第２２回	研究状況報告及び文献紹介	大西正泰
第２３回	研究に関する討論	大西正泰
第２４回	文献調査及びフィールド調査	大西正泰
第２５回	研究状況報告及び文献紹介	大西正泰
第２６回	文献調査及びフィールド調査	大西正泰
第２７回	研究状況報告及び文献紹介	大西正泰
第２８回	卒業論文の作成	大西正泰
第２９回	卒業論文の見直し	大西正泰
第３０回	卒業論文発表会	大西正泰
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文 （ゼミ形式）			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-509		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１２．つくる責任・つかう責任 
到達目標	研究活動に主体的に取り組み、4年間の学びの集大成として卒業論文を完成させることを目的とする。
授業概要	各自、卒業論文のテーマを決定し、それの完成に向けて論文の収集、データの収集、分析を行う。 2週間に一度、自身の研究の進行状況を発表する。 輪読は、各自の関心のある論文を自身で見つけ、それを読み、発表する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	①ルーブリック評価表による評価50% ②研究に取り組む姿勢50%
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	演習時間を含めて随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	遅刻や無断欠席は全体の進行に影響するので、基本的に認めない。やむを得ない場合，必ず事前連絡すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	2週間に一度は輪読が回ってくるので、自身の関心がある本を数冊選んで、あらかじめ読んでおくこと。 データ分析に用いる統計学的手法や機械学習技術、さらには深層学習には数学的な理解が必要である。自身がそれらの手法を用いる際には、その背景にある考え方まで理解する。毎回の報告の準備と、報告結果の再検討に、毎回2時間を要する。
オフィスアワー	月曜3限

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	竹岡
第２回	研究対象の検討、討論	竹岡
第３回	研究対象の検討、討論	竹岡
第４回	研究対象の検討、討論	竹岡
第５回	研究対象の検討、討論	竹岡
第６回	先行研究の収集とレビュー	竹岡
第７回	先行研究の収集とレビュー	竹岡
第８回	先行研究の収集とレビュー	竹岡
第９回	先行研究の収集とレビュー	竹岡
第１０回	先行研究の収集とレビュー	竹岡
第１１回	データ収集方法の検討と討論	竹岡
第１２回	データ収集方法の検討と討論	竹岡
第１３回	データ収集方法の検討と討論	竹岡
第１４回	データ収集方法の検討と討論	竹岡
第１５回	データ収集方法の検討と討論	竹岡
第１６回	オリエンテーション	竹岡
第１７回	データの収集	竹岡
第１８回	データの収集	竹岡
第１９回	竹岡	データの収集
第２０回	データの分析	竹岡

第２１回	データの分析	竹岡
第２２回	データの分析	竹岡
第２３回	分析結果の報告	竹岡
第２４回	分析結果の報告	竹岡
第２５回	分析結果の報告	竹岡
第２６回	第1次発表と討論	竹岡
第２７回	第1次発表と討論	竹岡
第２８回	論文の再構成	竹岡
第２９回	最終発表	竹岡
第３０回	最終発表	竹岡
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	進行の中で随時指定	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文 （ゼミ形式）			担当者	稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-509		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60時間	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	テーマ：卒業論文の執筆 到達目標：知識に基づき論理的な思考ができる。事象について多面的に理解し、豊かな発想ができる。
授業概要	卒業論文の執筆と修正に徹する。 正確な文章が書けるようになる。データの収集や分析を行い、自身の研究を進める。さらには、日常的な問題について社会学の知識を用いた解釈ができるようになる。 授業方法は、卒業論文の進捗についてレジュメを作成し報告をする。そして、その報告に対して質疑応答を行うとともに、報告者を含め全体で内容を発展させるための議論を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	ルーブリック評価表（50%）と、卒業論文（50%）によって評価する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については授業内で解説をおこなう。
履修条件・注意事項	出席と予習復習は必要不可欠である。 授業計画の内容は、受講者の理解度に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜日3時限に研究室（14611）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・研究倫理教育	稲元洋輔
第２回	論文テーマの発表(1)	稲元洋輔
第３回	論文テーマの発表(2)	稲元洋輔
第４回	論文テーマの発表(3)	稲元洋輔
第５回	参考文献の整理(1)	稲元洋輔
第６回	参考文献の整理(2)	稲元洋輔
第７回	参考文献の整理(3)	稲元洋輔
第８回	研究計画の報告(1)	稲元洋輔
第９回	研究計画の報告(2)	稲元洋輔
第１０回	研究計画の報告(3)	稲元洋輔
第１１回	研究の進捗報告(1)	稲元洋輔
第１２回	研究の進捗報告(2)	稲元洋輔
第１３回	研究の進捗報告(3)	稲元洋輔
第１４回	卒業論文中間報告(1)	稲元洋輔
第１５回	卒業論文中間報告(2)	稲元洋輔
第１６回	オリエンテーション・研究倫理教育	稲元洋輔
第１７回	研究計画の再検討(1)	稲元洋輔
第１８回	研究計画の再検討(2)	稲元洋輔

第１９回	研究計画の再検討(3)	稲元洋輔
第２０回	論文の構成(1)	稲元洋輔
第２１回	論文の構成(2)	稲元洋輔
第２２回	論文の構成(3)	稲元洋輔
第２３回	研究の進捗報告(4)	稲元洋輔
第２４回	研究の進捗報告(5)	稲元洋輔
第２５回	研究の進捗報告(6)	稲元洋輔
第２６回	論文の推敲(1)	稲元洋輔
第２７回	論文の推敲(2)	稲元洋輔
第２８回	論文の推敲(3)	稲元洋輔
第２９回	卒業論文発表(1)	稲元洋輔
第３０回	卒業論文発表(2)	稲元洋輔
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	授業の進行に応じて適宜紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文 （ゼミ形式）秋学期入学生			担当者	赤坂　真人		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-509		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ テーマは昨年度末、ゼミで報告されたものについて研究を続け、卒業論文として仕上げるものとする。論文の合否に関しては従来通り、ゼミ担当教員が要求する水準を超えていなければならない。脚注の付け方や参考文献の並べ方等については、何度でも指導する。 到達目標 できるだけ引用の少ない「自分の言葉で書いた」論文の執筆。
授業概要	卒業論文の指導については、指導教授が大学院で実施している方式を採用する。すなわちゼミ学生が毎週少しでも卒業論文に関連する文章を書いてきて読み上げ、教員がそれをがコメントおよび修正する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	評価は①ルーブリック評価票による評価（50%）、②卒論（50%）で評価する。
ルーブリック評価	/URL/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	毎回、ゼミ学生が書いてきた卒論原稿について、教員と読み合わせをしながらコメントし、修正を指示する。
履修条件・注意事項	剽窃だけは絶対しないこと。引用部分には必ず脚注を付けること。外国語文献を翻訳して、そのまま論文にしないこと。インターネットからの無断借用は絶対許さない。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	学期中、毎週、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜４限（15：10～16：40）に、研究室（9309）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・研究倫理：研究の倫理に基づく責任ある研究活動	赤坂
第２回	卒論テーマ確認	赤坂
第３回	卒論の構成のチェック	赤坂
第４回	論文執筆検討会：はじめに	赤坂
第５回	論文執筆検討会：背景	赤坂
第６回	論文執筆検討会：論証命題	赤坂
第７回	論文執筆検討会：方法	赤坂
第８回	論文執筆検討会：結果	赤坂
第９回	論文執筆検討会：考察	赤坂
第１０回	論文中間報告会	赤坂
第１１回	論文執筆検討会：論旨	赤坂
第１２回	論文執筆検討会：命題と結果の照合	赤坂
第１３回	脚注と引用文献のチェック	赤坂
第１４回	アブストラクト執筆	赤坂
第１５回	推敲作業	赤坂
第１６回	口頭試問	赤坂
第１７回	論文とエッセイの違い	赤坂
第１８回	論文の構成要素	赤坂
第１９回	論文の構造（マクロの整合性）	赤坂

第２０回	初めに・問題ン所在・本稿の目的	赤坂
第２１回	方法と技法	赤坂
第２２回	データの収集	赤坂
第２３回	データの処理・加工	赤坂
第２４回	結果	赤坂
第２５回	考察	赤坂
第２６回	検証	赤坂
第２７回	アブストラクト	赤坂
第２８回	資料の収集と分析	赤坂
第２９回	論文の形成	赤坂
第３０回	脚注と引用文献	赤坂
第３１回	推敲作業	赤坂
第３２回	口頭試問	赤坂

教科書			
教・書籍名１	論文の教室	教・出版社名１	NHK 出版
教・著者名１	戸田山　和久	教・ＩＳＢＮ１	978-4140911945
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	各学生の卒業論文のテーマにあった論文・著書を紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	データ解釈学	参・出版社名2	ソシム
参・著者名2	江崎貴裕	参・ＩＳＢＮ2	978-4802612906

授業科目名	卒業論文 （ゼミ形式）秋学期入学生			担当者	井勝　久喜		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-509		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60時間	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「卒業論文の完成と発表」をテーマとして、演習等で得た能力と、知識を活用して、卒業論文を完成させ、発表会においてプレゼンテーションを行うことによって、本学科卒業生としての能力を身につけることを到達目標とする。
授業概要	演習V，演習VIと関連させながら、これまで学習してきた研究方法を活かして、卒業論文の作成を行う。指導教員は、学生の卒業研究のテーマに応じて、事例の検討や関連論文の精読、グループ討議、個別指導などを行い、卒業論文作成の指導にあたる。
アクティブラーニングの内容	PBL／プレゼンテーション
評価方法と割合	ルーブリック評価表による評価（50%）及び学修活動への取り組みの評価（50%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題・議論・発表などへの取り組みについては採点をして授業でフィードバックする。
履修条件・注意事項	欠席、遅刻する場合は、必ず、前もって連絡すること。毎回の指示に従って予習と復習を行うこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）毎週発表をしてもらうことから、事前に文献を熟読した上で参加すること。 ２）毎週指示を出すので、指示に従って復習すること。 予習および復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室（14601号室）にて木曜日５時限に実施 論文指導は随時行うので、教員在室時はいつ訪ねても良い。

授業計画		担当者
第１回	卒業論文に関するオリエンテーションと研究倫理教育	井勝久喜
第２回	研究倫理に基づく責任ある研究活動	井勝久喜
第３回	研究計画の作成	井勝久喜
第４回	文献調査及びフィールド調査	井勝久喜
第５回	研究状況報告及び文献紹介	井勝久喜
第６回	文献調査及びフィールド調査	井勝久喜
第７回	研究状況報告及び文献紹介	井勝久喜
第８回	研究に関する討論	井勝久喜
第９回	文献調査及びフィールド調査	井勝久喜
第１０回	研究状況報告及び文献紹介	井勝久喜
第１１回	文献調査及びフィールド調査	井勝久喜
第１２回	研究状況報告及び文献紹介	井勝久喜
第１３回	卒業論文中間まとめの作成	井勝久喜
第１４回	中間まとめの見直し	井勝久喜
第１５回	卒業論文中間発表会	井勝久喜
第１６回	卒業論文中間発表会の振り返りと評価	井勝久喜
第１７回	後期研究計画の作成	井勝久喜

第１８回	文献調査及びフィールド調査	井勝久喜
第１９回	研究状況報告及び文献紹介	井勝久喜
第２０回	文献調査及びフィールド調査	井勝久喜
第２１回	研究状況報告及び文献紹介	井勝久喜
第２２回	文献調査及びフィールド調査	井勝久喜
第２３回	研究状況報告及び文献紹介	井勝久喜
第２４回	研究に関する討論	井勝久喜
第２５回	文献調査及びフィールド調査	井勝久喜
第２６回	研究状況報告及び文献紹介	井勝久喜
第２７回	文献調査及びフィールド調査	井勝久喜
第２８回	研究状況報告及び文献紹介	井勝久喜
第２９回	卒業論文の作成	井勝久喜
第３０回	卒業論文の見直し	井勝久喜
第３１回	卒業論文発表の準備	井勝久喜
第３２回	卒業論文発表会	井勝久喜

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	論文・レポートの基本	参・出版社名１	石黒　圭
参・著者名１	日本実業出版社	参・ＩＳＢＮ１	ISBN：978-4-534-04927-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文 （ゼミ形式）秋学期入学生			担当者	姜　明求		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-509		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「卒業論文の完成と論文の書き方の理解」がテーマである。到達目標は、褒めてもらえることができる質が高い卒業論文の完成である。また、論文の作成を通じて、情報の収集や分析の方法、文章のまとめ方、発表のﾉｳｰﾊｳ、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力などの養成を目標にする。
授業概要	本人の興味・関心に基づいて経営学のさまざまな領域から研究ﾃｰﾏを選ぶ。各自の卒業論文のﾃｰﾏに従って実証的研究か、文献研究を行う。ﾃｰﾏの決定に当たっては、適切なｱﾄﾞﾊﾞｲｽを行う。研究ﾃｰﾏの決定、執筆中はもちろん、論文の仕上げまでｱﾄﾞﾊﾞｲｽはするが、論文を完成させるのは本人である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	(1)ルーブリック評価票による評価　→50% (2)期間中に提示した課題の到達度　→50% 　等による総合評価
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	授業時間とオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	就職活動と卒業論文の作成のﾊﾞﾗﾝｽをうまくとること。無断欠席は認めない。就職活動でやむを得ない時は、必ず連絡を入れること。自ら問題意識を持って授業へ出席し、積極的に取り組む姿勢が必要。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回討論に参加するために配布資料の予習の徹底(毎回２時間)と演習後には復習(毎回２時間)をすること。
オフィスアワー	研究室(9号館、9412)、春は月曜日3時限(13:30-15:00)、秋は月曜日2時限(11:10-12:40)。

授業計画		担当者
第１回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ・研究倫理の指導	姜
第２回	2.各自の選んだ研究ﾃｰﾏについての報告・討論(各人)	姜
第３回	3.各自の選んだ研究ﾃｰﾏについての報告・討論(各人)	姜
第４回	4.各自の選んだ研究ﾃｰﾏについての報告・討論(各人)	姜
第５回	5.各自の選んだ研究ﾃｰﾏについての報告・討論(各人)	姜
第６回	6.資料の収集と整理方法の指導	姜
第７回	7.資料の収集と整理方法の指導	姜
第８回	8.資料の収集と整理方法の指導	姜
第９回	9.資料の収集と整理方法の指導	姜
第１０回	10.資料の収集と整理方法の指導	姜
第１１回	11.資料の収集と整理方法の指導	姜
第１２回	12.資料の収集と整理方法の指導	姜
第１３回	13.各自の研究ﾃｰﾏと内容の報告(各人)	姜
第１４回	14.各自の研究ﾃｰﾏと内容の報告(各人)	姜
第１５回	15.総合復習	姜
第１６回	16.総合復習	姜
第１７回	1.ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	姜
第１８回	2.各自の研究テーマの順次報告(各人)	姜

第１９回	3.各自の研究テーマの順次報告(各人)	姜
第２０回	4.各自の研究テーマの順次報告(各人)	姜
第２１回	5.各自の研究テーマの順次報告(各人)	姜
第２２回	6.テーマと目次の決定	姜
第２３回	7.論文の中間発表(各人)	姜
第２４回	8.論文の中間発表(各人)	姜
第２５回	9.論文の中間確認と文章指導(各人)	姜
第２６回	10.論文の中間確認と文章指導	姜
第２７回	11.論文の中間確認と文章指導	姜
第２８回	12.論文の中間確認と文章指導	姜
第２９回	13.論文の最終確認と編集(各人)	姜
第３０回	14.論文の完成と成果発表・校正	姜
第３１回	15.論文の完成と成果発表・校正	姜
第３２回	16.論文の審査会	姜

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	演習時に参考書・資料などを予習ができるように適宜紹介・配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	評価される博士・修士卒業論文の書き方、考え方	参・出版社名2	同文館
参・著者名2	新堀　　聰	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文 （ゼミ形式）秋学期入学生			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-509		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	卒業論文は、大学4年間の学びの集大成であり、卒論が認定されるための重要な取組みである。卒論の作成では、専門の学びを通して「問い」を立てて、自ら発し、その「答え」を自分で見つける過程となる。また、実際に専門知識を使ってみることにより、大学で学んだ専門知識を体系化し、問題解決の方法論として身に付けるためのものである。そのことで、社会に出たとき、専門性を発揮して、実際に責任を持った仕事ができる。いずれにせよ、自分の知りたいことに対して、自分の頭で一生懸命に考え続けることが大切であり、そうすることで何かが見えてくるのである。
授業概要	演習生が自ら卒業論文に取り込むことは、①自分の頭で考える批判的な精神の養成、②理屈の立て方を身に付ける合理的な思考の養成、③専門性を確かなものにする問題解決能力の養成、④自分の世界を立ち上げる生き方の養成などに役に立つものになる。演習生の多様・多元的なテーマや問題意識、そして卒論の内容について柔軟的な対応と指導を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	(1)ルーブリック評価票による評価（50%） (2)期間中に提示した課題の到達度（50%） による総合評価
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	演習時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）各自のテーマに真面目に、丁寧に、しっかり取り込んでいくことが最も大切である。 （２）演習後には、演習内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （３）口頭試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）この演習は、討論式学習であるために、事前課題を調べた上で、参加しなければならない。演習は、この課題をめぐって行う。 （２）演習生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（研究倫理教育）	李　分一
第２回	書き始める時期	李　分一
第３回	卒論構成の仕方	李　分一
第４回	序論の書き方	李　分一
第５回	問題意識の提示方	李　分一
第６回	卒論目的の書き方	李　分一
第７回	卒論展開の仕方	李　分一
第８回	図表の作り方	李　分一
第９回	結果の仕方	李　分一
第１０回	考察の書き方	李　分一
第１１回	結論の書き方	李　分一

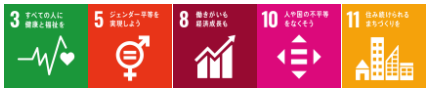
第１２回	題目・要約の付け方	李　分一
第１３回	付録の付け方	李　分一
第１４回	卒論発表の仕方	李　分一
第１５回	質疑反応の仕方	李　分一
第１６回	口頭試問	李　分一
第１７回	オリエンテーション	李　分一
第１８回	卒業論文とは何か	李　分一
第１９回	論文の決まり	李　分一
第２０回	引用の示し方	李　分一
第２１回	引用文献の書き方	李　分一
第２２回	特集な引用	李　分一
第２３回	引用文献の並べ方	李　分一
第２４回	専門用語の定義の仕方	李　分一
第２５回	事実と意見の分け方	李　分一
第２６回	論理的な書き方	李　分一
第２７回	読みやすい展開の方法	李　分一
第２８回	注と見出しの付け方	李　分一
第２９回	文章の点検と仕方	李　分一
第３０回	先行研究の読み方	李　分一
第３１回	テーマの深め方	李　分一
第３２回	まとめ	李　分一

教科書			
教・書籍名１	よくわかる卒論の書き方	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	白井利用・高橋一郎	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-05111-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文 （ゼミ形式）秋学期入学生			担当者	黒宮　亜希子		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-509		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを 
到達目標	テーマ：卒業論文のための社会調査の実施および卒業論文の執筆を行う。 到達目標（大きく２つ） ①３年次から準備してきた各自の研究テーマを元に調査プロジェクトを進め、最終的な「卒業論文」を執筆する。 ②完成した卒業論文のプレゼンテーション（発表）を行い、的確な発表及び受け答えを行う。
授業概要	各自が社会調査を実践した上で、その成果を１つの学術論文としてまとめる。 データの可視化ならびに、得られたデータの考察力・分析力が身につく。 論文執筆の経験を通じて、正確な文章を書く技術が身につく。 卒論の進捗状況を毎回受講生が発表する機会があるため、プレゼンテーション力の向上にも繋がる。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	①「ルーブリック評価表」による評価（50%） （※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである） ②「担当教員による評価」（50%） 最終レポート（50%）
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	提出課題にはそれぞれ添削の上、返却を行う（フィードバック）。
履修条件・注意事項	各自の研究内容を考慮し、テキストを随時指示する。 卒業論文は、社会調査を各自（グループのケース有）で実施するものとする。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	・参加型学習法により授業を行うため、予習が必須である。 ・指示に従って必ず卒論用ノートを作成し復習をすること。 ・予習および復習には、各２時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜4限（14615研究室）

授業計画		担当者
第１回	ガイダンス、研究倫理教育	黒宮
第２回	卒業論文執筆の基礎	黒宮
第３回	卒業論文執筆（詳細説明）	黒宮
第４回	卒論構想発表準備作業	黒宮
第５回	卒論構想発表レジュメ作成	黒宮
第６回	卒論構想発表 グループ1	黒宮
第７回	卒論構想発表 グループ2	黒宮
第８回	卒論構想発表振り返り	黒宮
第９回	初校の執筆作業	黒宮
第１０回	初校の執筆作業（発表）	黒宮

第１１回	初校の執筆作業（発表）	黒宮
第１２回	初校の執筆作業（個別指導）	黒宮
第１３回	初校の執筆作業（個別指導）	黒宮
第１４回	全体ディスカッション	黒宮
第１５回	全体振り返りと総括	黒宮
第１６回	ガイダンス、研究倫理教育	黒宮
第１７回	初稿提出作業	黒宮
第１８回	初校修正作業	黒宮
第１９回	執筆スケジュール確認・計画	黒宮
第２０回	第2校執筆作業（発表）	黒宮
第２１回	第2校執筆作業（全体ディスカッション）	黒宮
第２２回	第2校執筆作業（個別指導）	黒宮
第２３回	第2校執筆作業（個別指導）	黒宮
第２４回	最終稿執筆作業（発表）	黒宮
第２５回	最終稿執筆作業（全体ディスカッション）	黒宮
第２６回	最終稿執筆作業（個別指導）	黒宮
第２７回	最終稿執筆作業（個別指導）	黒宮
第２８回	卒論報告会準備	黒宮
第２９回	卒論報告会準備	黒宮
第３０回	卒論報告会	黒宮
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	よくわかる卒論の書き方	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	白井利明・高橋一郎	参・ＩＳＢＮ１	978-4623065721
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文 （ゼミ形式）秋学期入学生			担当者	大西　正泰		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-509		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「卒業論文の完成と発表」をテーマとして、演習等で得た能力と、知識を活用して、卒業論文を完成させ、発表会においてプレゼンテーションを行うことによって、本学科卒業生としての能力を身につけることを到達目標とする。
授業概要	・演習V，演習VIと関連させながら、これまで学習してきた研究方法を活かして、卒業論文の作成を行う。 ・指導教員は、学生の卒業研究のテーマに応じて、事例の検討や関連論文の精読、グループ討議、個別指導などを行い、卒業論文作成の指導にあたる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	・50% 「①ルーブリック評価表（学科共通）」 +50%「②担当教員による評価」 = 100% ①「ルーブリック評価表」による評価（50%） 学科共通のルーブリックを参考にすること。/uprx/keiei.pdf ②「担当教員による評価」（50%） 卒業論文作成に取り組む姿勢や卒業論文の内容により評価します。
ルーブリック評価	学科共通のルーブリック評価表のリンク先　/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	・毎回のゼミで、進捗についてのプレゼンテーションを行い、フィードバックする。 ・ゼミで運営するオンラインチャットを通じ、お互いの情報をシェアし、フィードバックする。
履修条件・注意事項	・欠席、遅刻する場合は、必ず、前もって連絡すること。 ・毎回の指示に従って予習と復習を行うこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、ビジネスの実務経験がある教員が授業を行います。 実務経験 １）管理職経験（私立中学校4年） ２）経営者経験（14年）
事前学習・事後学習とその時間	１）毎週発表をしてもらうことから、事前に文献を熟読した上で参加すること。 ２）毎週指示を出すので、指示に従って復習すること。予習および復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	秋学期は水曜５時限、春学期は木曜５時限に研究室（14621号室）で実施する。

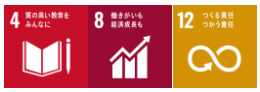
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大西正泰
第２回	卒業論文テーマ設定	大西正泰
第３回	研究計画の作成	大西正泰
第４回	文献・フィールド調査	大西正泰
第５回	研究状況報告及び文献紹介	大西正泰
第６回	文献・フィールド調査	大西正泰
第７回	研究状況報告及び文献紹介	大西正泰
第８回	研究に関する討論	大西正泰
第９回	文献・フィールド調査	大西正泰
第１０回	研究状況報告及び文献紹介	大西正泰

第１１回	文献・フィールド調査	大西正泰
第１２回	研究状況報告及び文献紹介	大西正泰
第１３回	卒業論文中間まとめの作成	大西正泰
第１４回	中間まとめの見直し	大西正泰
第１５回	卒業論文中間発表会	大西正泰
第１６回	後期研究計画の作成	大西正泰
第１７回	文献調査及びフィールド調査	大西正泰
第１８回	研究状況報告及び文献紹介	大西正泰
第１９回	文献調査及びフィールド調査	大西正泰
第２０回	研究状況報告及び文献紹介	大西正泰
第２１回	文献調査及びフィールド調査	大西正泰
第２２回	研究状況報告及び文献紹介	大西正泰
第２３回	研究に関する討論	大西正泰
第２４回	文献調査及びフィールド調査	大西正泰
第２５回	研究状況報告及び文献紹介	大西正泰
第２６回	文献調査及びフィールド調査	大西正泰
第２７回	研究状況報告及び文献紹介	大西正泰
第２８回	卒業論文の作成	大西正泰
第２９回	卒業論文の見直し	大西正泰
第３０回	卒業論文発表会	大西正泰
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文 （ゼミ形式）秋学期入学生			担当者	竹岡　志朗		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-509		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１２．つくる責任・つかう責任 
到達目標	研究活動に主体的に取り組み、4年間の学びの集大成として卒業論文を完成させることを目的とする。
授業概要	各自、卒業論文のテーマを決定し、それの完成に向けて論文の収集、データの収集、分析を行う。 2週間に一度、自身の研究の進行状況を発表する。 輪読は、各自の関心のある論文を自身で見つけ、それを読み、発表する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	①ルーブリック評価表による評価50% ②研究に取り組む姿勢50%
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	演習時間を含めて随時フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	遅刻や無断欠席は全体の進行に影響するので、基本的に認めない。やむを得ない場合，必ず事前連絡すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	2週間に一度は輪読が回ってくるので、自身の関心がある本を数冊選んで、あらかじめ読んでおくこと。 データ分析に用いる統計学的手法や機械学習技術、さらには深層学習には数学的な理解が必要である。自身がそれらの手法を用いる際には、その背景にある考え方まで理解する。毎回の報告の準備と、報告結果の再検討に、毎回2時間を要する。
オフィスアワー	月曜3限

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	竹岡
第２回	研究対象の検討、討論	竹岡
第３回	研究対象の検討、討論	竹岡
第４回	研究対象の検討、討論	竹岡
第５回	研究対象の検討、討論	竹岡
第６回	先行研究の収集とレビュー	竹岡
第７回	先行研究の収集とレビュー	竹岡
第８回	先行研究の収集とレビュー	竹岡
第９回	先行研究の収集とレビュー	竹岡
第１０回	先行研究の収集とレビュー	竹岡
第１１回	データ収集方法の検討と討論	竹岡
第１２回	データ収集方法の検討と討論	竹岡
第１３回	データ収集方法の検討と討論	竹岡
第１４回	データ収集方法の検討と討論	竹岡
第１５回	データ収集方法の検討と討論	竹岡
第１６回	オリエンテーション	竹岡
第１７回	データの収集	竹岡
第１８回	データの収集	竹岡
第１９回	竹岡	データの収集
第２０回	データの分析	竹岡

第２１回	データの分析	竹岡
第２２回	データの分析	竹岡
第２３回	分析結果の報告	竹岡
第２４回	分析結果の報告	竹岡
第２５回	分析結果の報告	竹岡
第２６回	第1次発表と討論	竹岡
第２７回	第1次発表と討論	竹岡
第２８回	論文の再構成	竹岡
第２９回	最終発表	竹岡
第３０回	最終発表	竹岡
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	進行の中で随時指定	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文 （ゼミ形式）秋学期入学生			担当者	稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年			ナンバリング	SS-BU-4-509		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60時間	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	テーマ：卒業論文の執筆 到達目標：知識に基づき論理的な思考ができる。事象について多面的に理解し、豊かな発想ができる。
授業概要	卒業論文の執筆と修正に徹する。 正確な文章が書けるようになる。データの収集や分析を行い、自身の研究を進める。さらには、日常的な問題について社会学の知識を用いた解釈ができるようになる。 授業方法は、卒業論文の進捗についてレジュメを作成し報告をする。そして、その報告に対して質疑応答を行うとともに、報告者を含め全体で内容を発展させるための議論を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	ルーブリック評価表（50%）と、卒業論文（50%）によって評価する。
ルーブリック評価	/uprx/keiei.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題については授業内で解説をおこなう。
履修条件・注意事項	出席と予習復習は必要不可欠である。 授業計画の内容は、受講者の理解度に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜日3時限に研究室（14611）にて実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・研究倫理教育	稲元洋輔
第２回	論文テーマの発表(1)	稲元洋輔
第３回	論文テーマの発表(2)	稲元洋輔
第４回	論文テーマの発表(3)	稲元洋輔
第５回	参考文献の整理(1)	稲元洋輔
第６回	参考文献の整理(2)	稲元洋輔
第７回	参考文献の整理(3)	稲元洋輔
第８回	研究計画の報告(1)	稲元洋輔
第９回	研究計画の報告(2)	稲元洋輔
第１０回	研究計画の報告(3)	稲元洋輔
第１１回	研究の進捗報告(1)	稲元洋輔
第１２回	研究の進捗報告(2)	稲元洋輔
第１３回	研究の進捗報告(3)	稲元洋輔
第１４回	卒業論文中間報告(1)	稲元洋輔
第１５回	卒業論文中間報告(2)	稲元洋輔
第１６回	オリエンテーション・研究倫理教育	稲元洋輔
第１７回	研究計画の再検討(1)	稲元洋輔
第１８回	研究計画の再検討(2)	稲元洋輔

第１９回	研究計画の再検討(3)	稲元洋輔
第２０回	論文の構成(1)	稲元洋輔
第２１回	論文の構成(2)	稲元洋輔
第２２回	論文の構成(3)	稲元洋輔
第２３回	研究の進捗報告(4)	稲元洋輔
第２４回	研究の進捗報告(5)	稲元洋輔
第２５回	研究の進捗報告(6)	稲元洋輔
第２６回	論文の推敲(1)	稲元洋輔
第２７回	論文の推敲(2)	稲元洋輔
第２８回	論文の推敲(3)	稲元洋輔
第２９回	卒業論文発表(1)	稲元洋輔
第３０回	卒業論文発表(2)	稲元洋輔
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	授業の進行に応じて適宜紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語教材の研究 （春学期入学生）			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-601		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義では、日本語教授のためにどのような教材・教具があり、それをどのように授業に活用するかを理解し、修得する。主に、授業レベルに合った教材や教具を的確に選び、これらを活用し、授業計画を立てたり、授業資料を作成したりしながら日本語教授の実践力を身につける。受講生同士が互いに評価しあうことで、自らの可能性を高めていくことができる。また、日本語教育を必要とする人々へのまなざしと行動力を養う。
授業概要	本講義は、第二言語として日本語を学ぶ留学生を対象とする。主体的に教材・教具の検討を行う。学習者に正確な発音と文型を習得させるための文型練習のための教材・教具とはどのようなものか、また、流暢な日本語の会話力や説明力の習得のための教材やテキストとはどのようなものかについて考えよう。その教材をもとに各人が授業計画を立て教案を作成し、模擬授業も行う予定である。模擬授業を通して気づいた問題点や改善点について議論し、日本語教授の技術と能力を鍛える。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	本講義内で作成した教案や教材を用いて模擬授業を行い評価する。模擬授業の成果を40%、準備段階として教案、教材・プリントの作成に積極的に取り組んだかを40%、授業の反省点や改善点、感想を含めたレポートを20%とし、これらを総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	模擬授業やレポート提出によって単位認定を行うが、それだけでは評価しない。一つの授業を組み立てるまでの教材研究に取り組む姿勢・態度、努力や工夫も考慮する。教材研究や模擬授業をよりよいものにするためには、授業以外での予習・復習に心がけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	自己学修として、日本語教育実習（４年次開講）に向け、講義内容や配布資料をもとに教案を作成したり、模擬授業のための教材研究を行ったりすること。毎週の講義内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	日本語教材の研究の概括	大下 朋子
第２回	教材・教具の種類（１）	大下 朋子
第３回	教材・教具の種類（２）	大下 朋子
第４回	教材の作成・導入（１）	大下 朋子
第５回	教材の作成・導入（２）	大下 朋子
第６回	教案作成Ⅰ	大下 朋子
第７回	模擬授業（１）	大下 朋子
第８回	模擬授業（２）	大下 朋子
第９回	教材・教具の見直し（１）	大下 朋子
第１０回	教材・教具の見直し（２）	大下 朋子
第１１回	教案作成Ⅱ	大下 朋子
第１２回	模擬授業（３）	大下 朋子

第１３回	模擬授業（４）	大下 朋子
第１４回	模擬授業（５）	大下 朋子
第１５回	授業のまとめ	大下 朋子
第１６回	単位認定試験（実技試験）	大下 朋子

教科書			
教・書籍名１	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本語教材の研究 （秋学期入学生）			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年			ナンバリング	SS-SM-3-601		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義では、日本語教授のためにどのような教材・教具があり、それをどのように授業に活用するかを理解し、修得する。主に、授業レベルに合った教材や教具を的確に選び、これらを活用し、授業計画を立てたり、授業資料を作成したりしながら日本語教授の実践力を身につける。受講生同士が互いに評価しあうことで、自らの可能性を高めていくことができる。また、日本語教育を必要とする人々へのまなざしと行動力を養う。
授業概要	本講義は、第二言語として日本語を学ぶ留学生を対象とする。主体的に教材・教具の検討を行う。学習者に正確な発音と文型を習得させるための文型練習のための教材・教具とはどのようなものか、また、流暢な日本語の会話力や説明力の習得のための教材やテキストとはどのようなものかについて考えよう。その教材をもとに各人が授業計画を立て教案を作成し、模擬授業も行う予定である。模擬授業を通して気づいた問題点や改善点について議論し、日本語教授の技術と能力を鍛える。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	本講義内で作成した教案や教材を用いて模擬授業を行い評価する。模擬授業の成果を40%、準備段階として教案、教材・プリントの作成に積極的に取り組んだかを40%、授業の反省点や改善点、感想を含めたレポートを20%とし、これらを総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	模擬授業やレポート提出によって単位認定を行うが、それだけでは評価しない。一つの授業を組み立てるまでの教材研究に取り組む姿勢・態度、努力や工夫も考慮する。教材研究や模擬授業をよりよいものにするためには、授業以外での予習・復習に心がけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	自己学修として、日本語教育実習（４年次開講）に向け、講義内容や配布資料をもとに教案を作成したり、模擬授業のための教材研究を行ったりすること。毎週の講義内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	日本語教材の研究の概括	大下 朋子
第２回	教材・教具の種類（１）	大下 朋子
第３回	教材・教具の種類（２）	大下 朋子
第４回	教材の作成・導入（１）	大下 朋子
第５回	教材の作成・導入（２）	大下 朋子
第６回	教案作成Ⅰ	大下 朋子
第７回	模擬授業（１）	大下 朋子
第８回	模擬授業（２）	大下 朋子
第９回	教材・教具の見直し（１）	大下 朋子
第１０回	教材・教具の見直し（２）	大下 朋子
第１１回	教案作成Ⅱ	大下 朋子
第１２回	模擬授業（３）	大下 朋子

第１３回	模擬授業（４）	大下 朋子
第１４回	模擬授業（５）	大下 朋子
第１５回	授業のまとめ	大下 朋子
第１６回	単位認定試験（実技試験）	大下 朋子

教科書			
教・書籍名１	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本語教育実習 （春学期入学生）			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SC-SM-4-602		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	実習		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語教員養成コース修了のための必修科目であり、学生は外国人に対して日本語を教授する実践力を修得する。具体的には、教材の捉え方、授業の流れ、教科書や教具の活用について考慮しながら、学生に合った授業の教材や教具を準備し、教壇実習を行う実践力を養う。
授業概要	本講義は、第二言語として日本語を学ぶ留学生を対象とする。本実習では、現場での日本語教授の体験を通して、日本語教員養成コースで学んできた教材の活用、知識や技術を実際に授業で実践し、日本語教授の能力を修得する。半期30時間の教育実習を行う。学生の日本語レベルに合った教材や教具を的確に決定する判断力を養い、学習者が積極的に学習できるよう工夫し、応用する能力を身に付ける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	実習の受け入れ機関からの実習評価を60点、実習記録・最終レポート30点、その他の学習態度10点で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、実習に向けた準備（教材、教具の選定、教案・教材の作成、板書計画、授業運営など）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	３年次開講科目「日本語教材の研究」の他、本学が定める日本語教員養成に関する科目の単位を取得した学生のみ履修することができる。また、日本語教育実習を行うために、原則として３年修了時までに、留学生の場合、日本語能力試験N1に合格しておかなければならない。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、日本語教師としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	実習準備には多くの時間を要する。教育実習の内容を充実させるため、予習と復習を各２時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に準備し、理解できない点などは担当教員に質問すること。復習として、実習の準備や教壇実習のふり返りを主体的に行うこと。
オフィスアワー	授業後の休憩時間

授業計画		担当者
第１回	半期30時間の教育実習を実施する。	実習校の担当者（大下(朋)）
第２回		
第３回		
第４回		
第５回		
第６回		
第７回		
第８回		
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		

第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	実習準備に合わせて資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本語教育実習 （秋学期入学生）			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会4年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SC-SM-4-602		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	実習		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語教員養成コース修了のための必修科目であり、学生は外国人に対して日本語を教授する実践力を修得する。具体的には、教材の捉え方、授業の流れ、教科書や教具の活用について考慮しながら、学生に合った授業の教材や教具を準備し、教壇実習を行う実践力を養う。
授業概要	本講義は、第二言語として日本語を学ぶ留学生を対象とする。本実習では、現場での日本語教授の体験を通して、日本語教員養成コースで学んできた教材の活用、知識や技術を実際に授業で実践し、日本語教授の能力を修得する。半期30時間の教育実習を行う。学生の日本語レベルに合った教材や教具を的確に決定する判断力を養い、学習者が積極的に学習できるよう工夫し、応用する能力を身に付ける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習
評価方法と割合	実習の受け入れ機関からの実習評価を60点、実習記録・最終レポート30点、その他の学習態度10点で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、実習に向けた準備（教材、教具の選定、教案・教材の作成、板書計画、授業運営など）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	３年次開講科目「日本語教材の研究」の他、本学が定める日本語教員養成に関する科目の単位を取得した学生のみ履修することができる。また、日本語教育実習を行うために、原則として３年修了時までに、留学生の場合、日本語能力試験N1に合格しておかなければならない。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、日本語教師としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	実習準備には多くの時間を要する。教育実習の内容を充実させるため、予習と復習を各２時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に準備し、理解できない点などは担当教員に質問すること。復習として、実習の準備や教壇実習のふり返りを主体的に行うこと。
オフィスアワー	授業後の休憩時間

授業計画		担当者
第１回	半期30時間の教育実習を実施する。	実習校の担当者（大下(朋)）
第２回		
第３回		
第４回		
第５回		
第６回		
第７回		
第８回		
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		

第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	実習準備に合わせて資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	